立花寺Ｂ遺跡　２

－都市高速道路５号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第702集

２００２

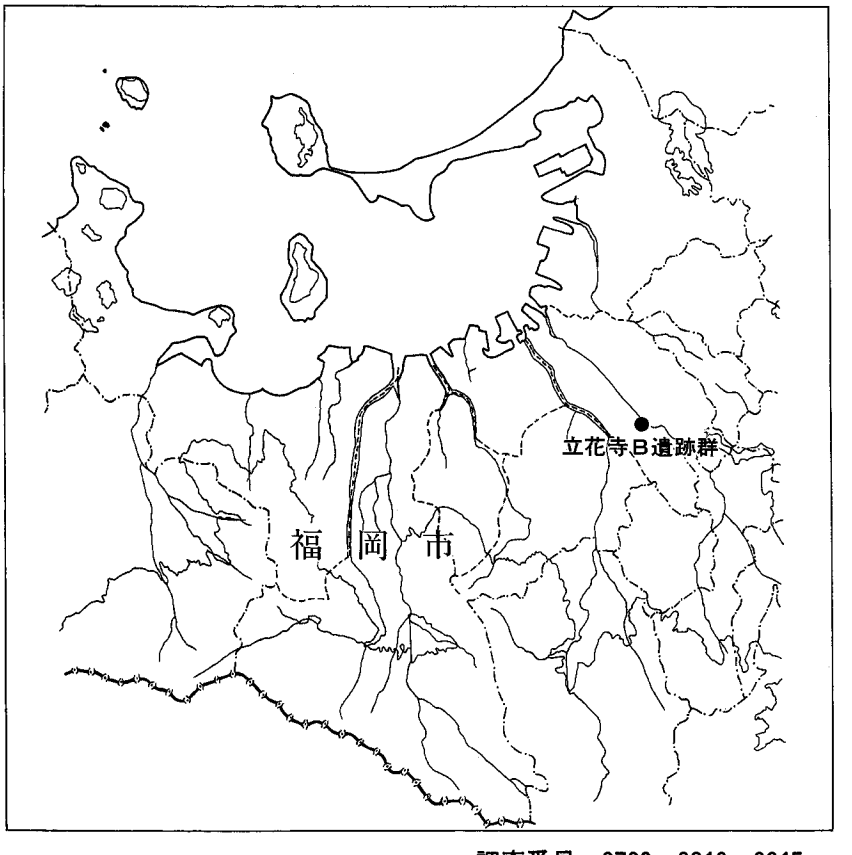
福岡市教育委員会

りゅうげじ

立花寺B遺跡 2

－都市高速道路５号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第702集



調査番号　9730・9810・9915
遺跡略称　RGB－４・５・６

2002
福岡市教育委員会

序

古くから大陸文化を受け入れる窓口として栄えてきた福岡市には、数多くの文化財が存在しています。福岡市教育委員会では、開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録による保存に努めているところです。

本書で報告いたします立花寺B遺跡群は、平成4年に発見された遺跡で、平成6年から8年に都市高速道路2号線建設に伴い初めて本格的に調査されました。その結果、東側の丘陵に位置する立花寺遺跡とともに古代の官衙的性格をもった重要な遺跡であることがわかりました。

今回の調査は都市高速道路5号線建設に伴うもので、これまでの成果を裏付けるとともに、福岡市内では数少ない古墳時代の5世紀後半から6世紀はじめにかけての集落が発見されました。当時の生活用具である土師器の壺、甕、椀、高坏や、このころ生産が始まった須恵器が多量に出土しました。それとともに当時の祭祀具であった子持勾玉が5点出土し、当時の人々の精神生活を示す貴重な発見となりました。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財に対するご理解を深める一助となりますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査にご協力をいただきました福岡北九州高速道路公社と国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所をはじめとする関係各位の方々には、心から謝意を表します。

平成14年3月5日

福岡市教育委員会

教育長　生　田　征　生

例　言

1．本書は、福岡市博多区西月隈４丁目地内における都市高速道路５号線月隈JCT建設に伴い、福岡市教育委員会が1997（平成９）年から2000（平成12）年にかけて発掘調査を実施した立花寺（りゅうげじ）B遺跡群第４次～６次調査の報告書である。

2．遺構の呼称は記号化し、柵→SA、掘立柱建物→SB、竪穴住居→SC、溝・河川→SD、井戸→SE、土坑→SK、その他→SX、ピット→SPとした。遺構番号は各調査次ごとに一括して通し番号を付した。６次調査についてはピット以外を種類に関係なく連番とした。

3．本書に使用した遺構実測図は井上繭子（４次調査）、瀧本正志（５次調査）、井上里織、坂口剛毅、坂本幸子、佐藤信、高木誠、羽方誠、春田城二、藤野雅基、田上勇一郎（６次調査）が作成した。遺物実測図は井上繭子（４次調査）、中村智子（５次調査）、田中壽夫、井上里織、上方高弘、田中克子、西山めぐみ、藤野雅基、田上勇一郎（６次調査）が作成した。また、製図には井上繭子（４次調査）、中村智子（５次調査）、田中克子、西山めぐみ、丸井節子、田上勇一郎（６次調査）があたった。

4．本書に使用した写真は井上繭子（４次調査）、瀧本正志（５次調査）、上方高弘、田上勇一郎（６次調査）が撮影した。また、６次調査の空中写真を株式会社ダイワと写測エンジニアリング株式会社に委託した。

5．本書に使用した標高は海抜高である。

6．本書に使用した方位は磁北である。本地域では真北に対し６°18′西偏する。

7．出土した須恵器の編年は中村浩氏の「和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年」（芙蓉書房出版2001）による。陶磁器の分類は「博多出土貿易陶磁分類表」（福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告Ⅳ－博多－福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集別冊　福岡市教育委員会1984）による。

8．本書の執筆はⅡを井上繭子、Ⅲを瀧本正志が行い中間千衣子の協力を得た。Ⅳ－５(1)～(4)の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託し、Ⅳ－５(5)の須恵器の産地推定は三辻利一氏に玉稿をいただいた。その他の執筆と編集は田中克子と西山めぐみの協力を得て田上勇一郎が行なった。

9．本調査にかかわるすべての遺物・記録類は、福岡市埋蔵文化財センターにおいて、収蔵・公開される予定である。

調査番号	遺跡略号	開発面積	対象面積	調査面積	調 査 期 間
9730	ＲＧＢ－４	144㎡	144㎡	198㎡	1997年７月14日～1997年８月２日
9810	ＲＧＢ－５	150㎡	150㎡	150㎡	1998年５月７日～1998年５月12日
9915	ＲＧＢ－６	21,700㎡	11,200㎡	8,074㎡	1999年４月21日～2000年３月24日

目　次

Ⅰ　はじめに……1
1．調査にいたる経緯……1
2．調査の組織……2
3．調査地点の立地と環境……4

Ⅱ　4次調査の記録……7
1．調査の経過……7
2．遺構と遺物……8
(1)　遺構……8
(2)　遺物……8
3．小結……9

Ⅲ　5次調査の記録……14
1．調査概要……14
2．遺構……14
3．遺物……16
4．小結……16

Ⅳ　6次調査の記録……17
1．調査の経過……17
2．調査の概要……18
3．調査地点の層序……19
4．発見された遺構と遺物……21
(1)　A－1区1面・2面……21
(2)　A－1区3面……29
(3)　A－2区……134
(4)　B区1面……147
(5)　B区2面……150
(6)　C区1面……158
(7)　C区2面……162
(8)　C区3面……174
5．自然科学分析……183
(1)　立花寺B遺跡6次調査試料のプラント・オパール……183
(2)　立花寺B遺跡の花粉化石……186
(3)　堆積物中の珪藻化石群集……195
(4)　立花寺B遺跡6次調査の竪穴住居出土炭化材の樹種同定……204
(5)　立花寺B遺跡出土初期須恵器の蛍光X線分析……209

Ⅴ　まとめ……215

挿図目次

Fig. 1　立花寺Ｂ遺跡群の位置……1
Fig. 2　立花寺Ｂ遺跡群と周辺の遺跡……4
Fig. 3　立花寺Ｂ遺跡群調査地点位置図……5
Fig. 4　調査区位置図……6
Fig. 5　第４次調査地点位置図……7
Fig. 6　調査区遺構分布図……9
Fig. 7　調査区南西壁土層図……9
Fig. 8　SD06西側断面土層図……9
Fig. 9　SD06杭列実測図……10
Fig.10　出土遺物実測図　1……11
Fig.11　出土遺物実測図　2……12
Fig.12　第１調査区遺構分布図……15
Fig.13　第２調査区遺構分布図……15
Fig.14　SK01実測図……15
Fig.15　出土遺物実測図……16
Fig.16　土層トレンチ配置図……19
Fig.17　トレンチ土層図　1……20
Fig.18　トレンチ土層図　2……折り込み
Fig.19　トレンチ土層図　3……折り込み
Fig.20　トレンチ土層図　4……折り込み
Fig.21　トレンチ土層図　5……折り込み
Fig.22　Ａ－１区１面全体図……22
Fig.23　Ａ－１区２面全体図……折り込み
Fig.24　SE02実測図……23
Fig.25　SE07・09実測図……24
Fig.26　SE02・09出土遺物実測図……25
Fig.27　SK04実測図……25
Fig.28　SK04出土遺物実測図……26
Fig.29　SD03・05・08・10・11・13
出土遺物実測図……27
Fig.30　SX12出土遺物実測図……27
Fig.31　２面土器集中出土遺物実測図……28
Fig.32　Ａ－１区３面全体図……折り込み
Fig.33　SB51・54・55実測図……33
Fig.34　SC16実測図……34
Fig.35　SC16出土遺物実測図……34
Fig.36　SC17実測図……35
Fig.37　SC17出土遺物実測図……36
Fig.38　SC18実測図……36
Fig.39　SC19実測図……37
Fig.40　SC19出土遺物実測図……37
Fig.41　SC20実測図……38
Fig.42　SC20出土遺物実測図……39
Fig.43　SC21実測図……39
Fig.44　SC21出土遺物実測図……40
Fig.45　SC22実測図……40
Fig.46　SC22出土遺物実測図……41
Fig.47　SC24実測図……42
Fig.48　SC24出土遺物実測図……43
Fig.49　SC25実測図……44
Fig.50　SC25出土遺物実測図……45
Fig.51　SC26実測図……46
Fig.52　SC26出土遺物実測図……47
Fig.53　SC27実測図……48
Fig.54　SC27出土遺物実測図……48
Fig.55　SC28実測図……49
Fig.56　SC28出土遺物実測図……49
Fig.57　SC30実測図……51
Fig.58　SC30出土遺物実測図　1……52
Fig.59　SC30出土遺物実測図　2……53
Fig.60　SC31実測図……54
Fig.61　SC31出土遺物実測図……54
Fig.62　SC32実測図……55
Fig.63　SC32出土遺物実測図……56
Fig.64　SC33・34実測図……57
Fig.65　SC33・34出土遺物実測図……59
Fig.66　SC36実測図……60
Fig.67　SC36出土遺物実測図……61
Fig.68　SC37実測図……62
Fig.69　SC37出土遺物実測図……63
Fig.70　SC38実測図……64
Fig.71　SC38出土遺物実測図……64
Fig.72　SC39実測図……65
Fig.73　SC39出土遺物実測図……66
Fig.74　SC40実測図……67
Fig.75　SC40出土遺物実測図……67
Fig.76　SC41実測図……68
Fig.77　SC41出土遺物実測図……70
Fig.78　SC42実測図……72
Fig.79　SC42出土遺物実測図……73
Fig.80　SC43実測図……75
Fig.81　SC43出土遺物実測図……75
Fig.82　SC44実測図……76
Fig.83　SC44出土遺物実測図……77
Fig.84　SC45実測図……78
Fig.85　SC45出土遺物実測図……79
Fig.86　SC46実測図……79
Fig.87　SC46出土遺物実測図……80
Fig.88　SC49実測図……80
Fig.89　SC49出土遺物実測図……81
Fig.90　SC50実測図……82
Fig.91　SC50出土遺物実測図……82
Fig.92　SD14実測図　1……折り込み
Fig.93　SD14実測図　2……折り込み
Fig.94　SD14土層図……折り込み
Fig.95　SD14出土遺物実測図　1……88
Fig.96　SD14出土遺物実測図　2……90
Fig.97　SD14出土遺物実測図　3……91
Fig.98　SD14出土遺物実測図　4……92
Fig.99　SD14出土遺物実測図　5……93
Fig.100　SD14出土遺物実測図　6……95
Fig.101　SD14出土遺物実測図　7……96
Fig.102　SD14出土遺物実測図　8……97
Fig.103　SD14出土遺物実測図　9……99
Fig.104　SD14出土遺物実測図　10……100
Fig.105　SD14出土遺物実測図　11……101

Fig.106 SD14出土遺物実測図 12……103
Fig.107 SD14出土遺物実測図 13……104
Fig.108 SD14出土遺物実測図 14……105
Fig.109 SD14出土遺物実測図 15……106
Fig.110 SD14出土遺物実測図 16……107
Fig.111 SD14出土遺物実測図 17……108
Fig.112 SD14出土遺物実測図 18……109
Fig.113 SD14出土遺物実測図 19……111
Fig.114 SD14出土遺物実測図 20……112
Fig.115 SD14出土遺物実測図 21……113
Fig.116 SD14出土遺物実測図 22……114
Fig.117 SD29・47・48・52土層図……115
Fig.118 SD29・52出土遺物実測図……115
Fig.119 SK23実測図 ……115
Fig.120 SK23出土遺物実測図 ……115
Fig.121 SX15実測図 1 ……折り込み
Fig.122 SX15土層図・実測図 2 ……折り込み
Fig.123 SX15出土遺物実測図 1 ……117
Fig.124 SX15出土遺物実測図 2 ……119
Fig.125 SX15出土遺物実測図 3 ……121
Fig.126 SX15出土遺物実測図 4 ……122
Fig.127 SX15出土遺物実測図 5 ……123
Fig.128 SX15出土遺物実測図 6 ……124
Fig.129 SX15出土遺物実測図 7 ……125
Fig.130 SX53出土遺物実測図 ……126
Fig.131 SX53実測図 ……127
Fig.132 ミニチュア土器・土製小玉実測図 ……128
Fig.133 滑石製品遺物実測図 ……129
Fig.134 木製品遺物実測図 ……131
Fig.135 A－1区遺構外出土遺物実測図 1 ……132
Fig.136 A－1区遺構外出土遺物実測図 2 ……133
Fig.137 A－2区全体図 ……折り込み
Fig.138 SB101出土遺物実測図 ……135
Fig.139 SB101・125実測図 ……136
Fig.140 SB126実測図 ……137
Fig.141 SD115土層図・実測図 ……138
Fig.142 SD115出土遺物実測図 1 ……139
Fig.143 SD115出土遺物実測図 2 ……140
Fig.144 SD115出土遺物実測図 3 ……141
Fig.145 SD115出土遺物実測図 4 ……142
Fig.146 SD104・108・109・113・114
出土遺物実測図 ……145
Fig.147 SK110・118・119出土遺物実測図……145
Fig.148 A－ 2区その他の遺構・
遺構外出土遺物実測図……146
Fig.149 B区1面全体図……148
Fig.150 SD203・205・208・209
出土遺物実測図 ……149
Fig.151 SK201出土遺物実測図 ……149
Fig.152 B区2面全体図……151
Fig.153 SB245実測図 ……152
Fig.154 SE211実測図 ……152
Fig.155 SE231・232・233・244実測図 ……153
Fig.156 SE244出土遺物実測図 ……154
Fig.157 SK239出土遺物実測図 ……155
Fig.158 SD212・236出土遺物実測図 ……156
Fig.159 SK225・229・230・234・235
出土遺物実測図 ……157
Fig.160 B区遺構外出土遺物実測図 ……157
Fig.161 C区1面全体図……159
Fig.162 SD303・327・304・333土層図 ……160
Fig.163 SD303・304・305出土遺物実測図……160
Fig.164 SK307出土遺物実測図 ……161
Fig.165 C区2面全体図 ……折り込み
Fig.166 SD321土層図 ……163
Fig.167 SD321出土遺物実測図 ……163
Fig.168 SD327出土遺物実測図 ……164
Fig.169 SE308実測図 ……165
Fig.170 SE308出土遺物実測図 ……166
Fig.171 SK309実測図 ……166
Fig.172 SK309出土遺物実測図 ……167
Fig.173 SK323土層図・実測図 ……168
Fig.174 SK323出土遺物実測図 1 ……169
Fig.175 SK323出土遺物実測図 2 ……170
Fig.176 SD310・311・313・318・320
出土遺物実測図 ……173
Fig.177 SK315・322出土遺物実測図 ……173
Fig.178 C区3面全体図……175
Fig.179 SB334・335・337・338実測図 ……177
Fig.180 SB341実測図 ……178
Fig.181 SD340土層図 ……179
Fig.182 SD340出土遺物実測図 ……180
Fig.183 SD333・343出土遺物実測図 ……181
Fig.184 SX342出土遺物実測図 ……182
Fig.185 C区その他の遺構・遺構外
出土遺物実測図 ……182
Fig.186 Cトレンチの
プラント・オパール分布図 ……184
Fig.187 Cトレンチ試料の
主要花粉化石分布図 ……190
Fig.188 Lトレンチ試料の
主要花粉化石分布図 ……191
Fig.189 Pトレンチ試料の
主要花粉化石分布図 ……191
Fig.190 SD14試料の主要花粉化石分布図 ……192
Fig.191 SD52試料の主要花粉化石分布図 ……192
Fig.192 SD304・333試料の
主要花粉化石分布図 ……193
Fig.193 SD340試料の主要花粉化石分布図……193
Fig.194 SD14堆積物中の珪藻化石分布図 ……200
Fig.195 SD52堆積物中の珪藻化石分布図 ……200
Fig.196 SD304・333堆積物中の
珪藻化石分布図……201
Fig.197 SD340堆積物中の珪藻化石分布図……201
Fig.198 立花寺B遺跡出土初期須恵器の
両分布図 ……212
Fig.199 立花寺B遺跡出土初期須恵器の
クラスター分析 ……213
Fig.200 立花寺B遺跡出土初期須恵器の
産地推定 ……213
Fig.201 分析須恵器実測図 ……214

写真目次

Ph. 1　調査区全景……13
Ph. 2　SD06……13
Ph. 3　調査区南西壁土層……13
Ph. 4　第１調査区全景……15
Ph. 5　第２調査区全景……15
Ph. 6　SK01……15
Ph. 7　Ａ－１区２面全景……21
Ph. 8　Ａ－１区２面全景……21
Ph. 9　Ａ－１区２面南側……21
Ph.10　SE02……23
Ph.11　SE02……23
Ph.12　SE07……24
Ph.13　SE09……24
Ph.14　SK04……26
Ph.15　Ａ－２区３面全景……29
Ph.16　Ａ－２区３面全景……30
Ph.17　Ａ－２区３面南側……31
Ph.18　Ａ－２区３面南側……31
Ph.19　SB51……32
Ph.20　SC16……34
Ph.21　SC17……35
Ph.22　SC17遺物出土状況……36
Ph.23　SC18……36
Ph.24　SC19……37
Ph.25　SC20……38
Ph.26　SC21……40
Ph.27　SC22……41
Ph.28　SC24……41
Ph.29　SC24カマド……41
Ph.30　SC25……45
Ph.31　SC25遺物出土状況……45
Ph.32　SC25遺物出土状況……45
Ph.33　SP265遺物出土状況……46
Ph.34　SC26……47
Ph.35　SC27……48
Ph.36　SC28……49
Ph.37　SC28遺物出土状況……49
Ph.38　SC30……50
Ph.39　SC30遺物出土状況……50
Ph.40　SC30カマド……50
Ph.41　SC31……54
Ph.42　SC32遺物出土状況……55
Ph.43　SC32……55
Ph.44　SC33・34……58
Ph.45　SC33……58
Ph.46　SC33遺物出土状況……58
Ph.47　SC34遺物出土状況……58
Ph.48　SC34遺物出土状況……58
Ph.49　SC36……61
Ph.50　SC36遺物出土状況……61
Ph.51　SC36遺物出土状況……61
Ph.52　SC37……62
Ph.53　SC38……64
Ph.54　SC39……65
Ph.55　SC40……66
Ph.56　SC41……69
Ph.57　SC41遺物出土状況……69
Ph.58　SC41遺物出土状況……69
Ph.59　SC41遺物出土状況……69
Ph.60　SC42……71
Ph.61　SC42遺物出土状況……71
Ph.62　SC42遺物出土状況……71
Ph.63　SC43……74
Ph.64　SC43遺物出土状況……74
Ph.65　SC44……77
Ph.66　SC44遺物出土状況……77
Ph.67　SC45……78
Ph.68　SC46……80
Ph.69　SC49……81
Ph.70　SC49遺物出土状況……81
Ph.71　SC50……82
Ph.72　SD14調査状況……83
Ph.73　SD14遺物出土状況①……84
Ph.74　SD14遺物出土状況②……84
Ph.75～82　SD14遺物出土状況③～⑩……85
Ph.83～90　SD14遺物出土状況⑪～⑱……86
Ph.91～98　SD14遺物出土状況⑲～㉖……87
Ph.99～102　SX15遺物出土状況①～④……116
Ph.103　SX53……126
Ph.104　SX53遺物出土状況……126
Ph.105　Ａ－２区全景……134
Ph.106　SB101……135
Ph.107　SB125……135
Ph.108　SB126……135
Ph.109　SD115……137
Ph.110　SD115Ⅳ区遺物出土状況……137
Ph.111　B区１面全景……147
Ph.112　B区１面全景……147
Ph.113　B区１面全景……147
Ph.114　B区２面全景……150
Ph.115　SE211……152
Ph.116　SE232・233……152
Ph.117　SE233……152
Ph.118　SE231・244……154
Ph.119　SE244井筒……154
Ph.120　SK239……154
Ph.121　C区１面全景……158
Ph.122　SD304……158
Ph.123　C区２面全景……162
Ph.124　SD327……164
Ph.125　SE308……164
Ph.126　SK309……166
Ph.127　SK323……167
Ph.128　SK323遺物出土状況……167
Ph.129　C区３面全景……174
Ph.130　建物群……176
Ph.131　SB334……176
Ph.132　SB335……176
Ph.133　SB337……176
Ph.134　SB338……176
Ph.135　SB341……176
Ph.136　SD340……180
Ph.137　立花寺B遺跡のプラント・オパール……185
Ph.138　立花寺B遺跡の花粉化石……194
Ph.139　堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真……202
Ph.140　立花寺B遺跡６次調査竪穴住居跡出土炭化材樹種……205
Ph.141　立花寺B遺跡６次調査竪穴住居跡出土炭化材樹種……206

Ⅰ はじめに

1．調査にいたる経緯

1989（平成元）年から1991（平成３）年にかけて建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所より一般国道202号福岡外環状道路線内の埋蔵文化財事前審査願が福岡市教育委員会埋蔵文化財課（以下、埋文課とする）に提出された。外環状線は福岡市西南部地域の慢性的な交通渋滞緩和のため、博多区立花寺から西区拾六町までの総延長16.2kmで計画されていた。埋文課では用地買収が終了した部分から随時試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された地点については記録保存のための発掘調査を行ってきた。

外環状道路の始点である博多区大字立花寺では、都市高速道路２号線建設に伴い1992（平成４）年に試掘調査がおこなわれており、立花寺B遺跡が新たに発見されていた。今回の計画道路用地内が立花寺B遺跡群の範囲にかかるため、埋文課では、1995（平成７）年１月17・18日に試掘調査を実施した。その結果２～４mの客土があり、下層の観察が難しいところもあったが、都市高速 2号線寄りの部分にピットや溝、土坑を検出した。また、御笠川寄りの部分では水田面かと思われる面とその下層に包含層が存在することが判明した。

その後、1997（平成９）年３月26日、福岡北九州高速道路公社より埋文課に対して、外環状線と同一地である博多区大字上月隈・立花寺（現西月隈４丁目）地内における都市高速道路ジャンクション建設に伴う埋蔵文化財事前調査願が提出された。外環状線の上を高架で通る都市高速５号線計画のためである。先の試掘成果を受けて福岡北九州高速道路公社と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議

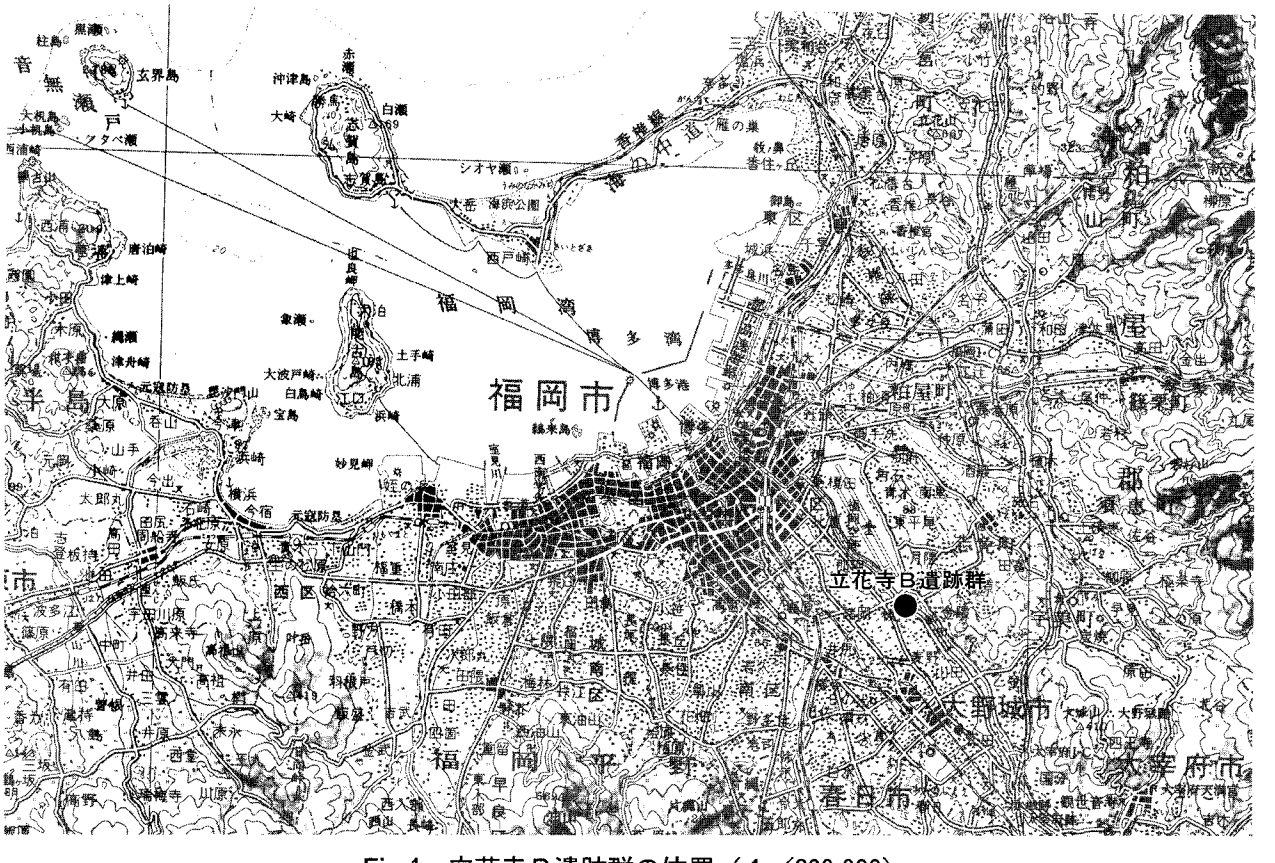


Fig.1　立花寺Ｂ遺跡群の位置（１／200,000）

をもち、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

調査はジャンクション建設に伴い移転するポンプ場について1997（平成９）年７月14日より８月２日まで（４次調査）と1998（平成10）年５月７日より５月21日まで（５次調査）おこなった。続いてジャンクション建設地に対して、1999（平成11）年４月21日より2000（平成12）年３月24日まで（６次調査）実施した。また、整理作業と報告書の刊行は2000年度から2001年度（平成12年度から13年度）におこなった。

２．調査の組織

発掘の調査・整理にあたっての組織は以下の通りである。

調査委託	福岡北九州高速道路公社		
	建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所（～平成13年度）		
	国土交通省九州地方整備局福岡国道工事事務所（平成13年度）		
調査主体	福岡市教育委員会	教育長	町田英俊（～平成10年度）
			西憲一郎（平成11年度）
			生田征生（平成12年度～）
調査総括	埋蔵文化財課	課長	荒巻輝勝（～平成９年度）
			柳田純孝（平成10年度）
			山崎純男（平成11年度～）
		第２係長	山口譲治（～平成10年度）
			力武卓治（平成11年度～）
調査庶務	埋蔵文化財課第１係		小森彰（平成９年度）
	文化財整備課		岩屋（河野）淳美（平成10年度～12年度）
			中岳圭（平成13年度）
試掘調査	埋蔵文化財課第２係		山崎龍雄（平成７年度）
	埋蔵文化財課第１係		井澤洋一（平成８年度）

４次調査

調査担当　埋蔵文化財課第２係　井上繭子

調査作業　秋山温　伊藤美伸　高着一夫　志堂寺堂　柴田博　林厚子　吹春憲治　藤原直子　前山政義　森本良樹　萬スミヨ

整理作業　穴井加菜子　大賀順子　坂井かおり　佐々木涼子　藤信子　山口とし子

５次調査

調査担当　埋蔵文化財課第２係　瀧本正志

調査作業　甲斐康完　河野一一　酒井次憲　真田弘二　世利陽子　豊丸秀仁　別府俊美　吉田博昭　渡辺淑子

整理作業　上野裕子　末次由紀恵　長浦芙美子　中間千衣子　中村智子　持原良子　山野祥子

6次調査

調査担当　埋蔵文化財課調査第2係　　田上勇一郎

調査補助　井上里織　坂本幸子　佐藤信　高木誠　羽方誠　春田城二　藤野雅基

調査作業　青木史彦　浅井伸一　阿部幸子　荒牧幸子　荒牧テルオ　有田恵子　安藤峰正　池田省三
石井雅之　石川洋子　石丸大輔　泉本たみこ　井上利弘　井上直幸　井上英子　井料国彦
岩崎良隆　上野龍夫　植松雅子　浦伸英　江嶋光子　大浦成子　大賀一　大塩皓
大嶋健司　大橋由美子　岡部静江　小川秀雄　荻野雅徳　荻原陽太　奥田弘子　小野千佳
甲斐正耕　金子健太郎　金子二三枝　上方高弘　川上藤幸　河野一一　川村昭二
唐島栄子　北川貴洋　北原由紀子　木村文子　草場恵子　倉掛正一　黒瀬千鶴　幸田信乃
香田信子　古賀典子　古賀義博　小島キサエ　後藤源助　後藤タミ子　米田理恵子
斉藤博文　酒井次憲　坂口剛毅　坂下達男　佐藤アイ子　真田弘二　篠崎伝三郎
嶋ヒサ子　世利陽子　副田澄子　園田豊　薗部保寿　大長正弘　高崎秀巳　高手よし子
高野瑛子　田崎アヤ子　武田潤子　立山清二　田中茂孝　田中トミ子　田中フキ子
谷英二　谷正則　田上智雄　塚本よし子　堤正子　寺園恵美子　藤重治　徳永栄彦
徳永静雄　徳守広宣　豊田厚子　豊丸秀仁　中尾良蔵　永田八重子　永田律子　中野裕子
中野雄策　中村桂子　中村尚美　夏秋弘子　鍋山治子　西田文子　二宮白人　布江孝子
野口リュウ子　野口りん平　野村道夫　平野美紀　廣田安平　吹春哲男　福嶋大
福田吉伸　福場真由美　別府俊美　北条こず江　前田勉　前山政義　松井一美
宮川ヤエ子　宮崎雅秀　宗像正勝　村井藤衣　室英二　持丸玲子　森田祐子　森本勇夫
森山恭助　森山タツ江　安田光代　安高精一　山下智子　山田政治　吉住政光　吉田一寛
吉田恭子　吉田博昭　吉田浩之　吉田米男　吉村智子　渡辺淑子

整理補助　井上里織　上方高弘　田中克子　西山めぐみ　藤野雅基

整理作業　尾崎君枝　加集和子　木村良子　清永啓子　丸井節子　山本良子

その他、発掘調査にいたるまでの様々な条件整備、調査中の調整などについて福岡北九州高速道路公社、建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所（現国土交通省九州地方整備局福岡国道工事事務所）、施工の鹿島・太平建設工事共同企業体都市高速月隈JCT下部工工事事務所をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し、無事終了することができた。また、資料整理については中村勝氏にご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。

3．調査地点の立地と環境

牛頸・四王寺山地に端を発する御笠川は福岡平野の東部を北流して博多湾に流れていく。立花寺Ｂ遺跡群はこの御笠川により形成された沖積地の東岸に立地している。東側には三郡山地より派生する月隈丘陵が北西方向に伸びており、福岡平野を画している。

立花寺Ｂ遺跡群は御笠川東岸沿いの北西－南東方向に細長い範囲を占め、長軸800m、短軸300mを測る。北北西に流れる御笠川の流路が西に折れ曲がっており、この部分が微高地であることを物語っている。周辺では月隈丘陵上の遺跡は古くから知られていたが、沖積平野部の遺跡はほとんど知られていなかった。しかし、近年、福岡空港とその周辺の整備が進められ、雀居遺跡や下月隈Ｃ遺跡など、これまで知られていなかった遺跡が存在することが明らかになった。立花寺Ｂ遺跡も都市高速道路２号線建設に先立つ試掘調査によって1992年に発見された遺跡である。

まず、周辺の遺跡を平野部からみていく。立花寺Ｂ遺跡の北側に接して下月隈Ｃ遺跡が存在する。近年の調査で弥生時代前期・後期の集落が微高地上に広がることがわかってきた。旧河川から弥生時

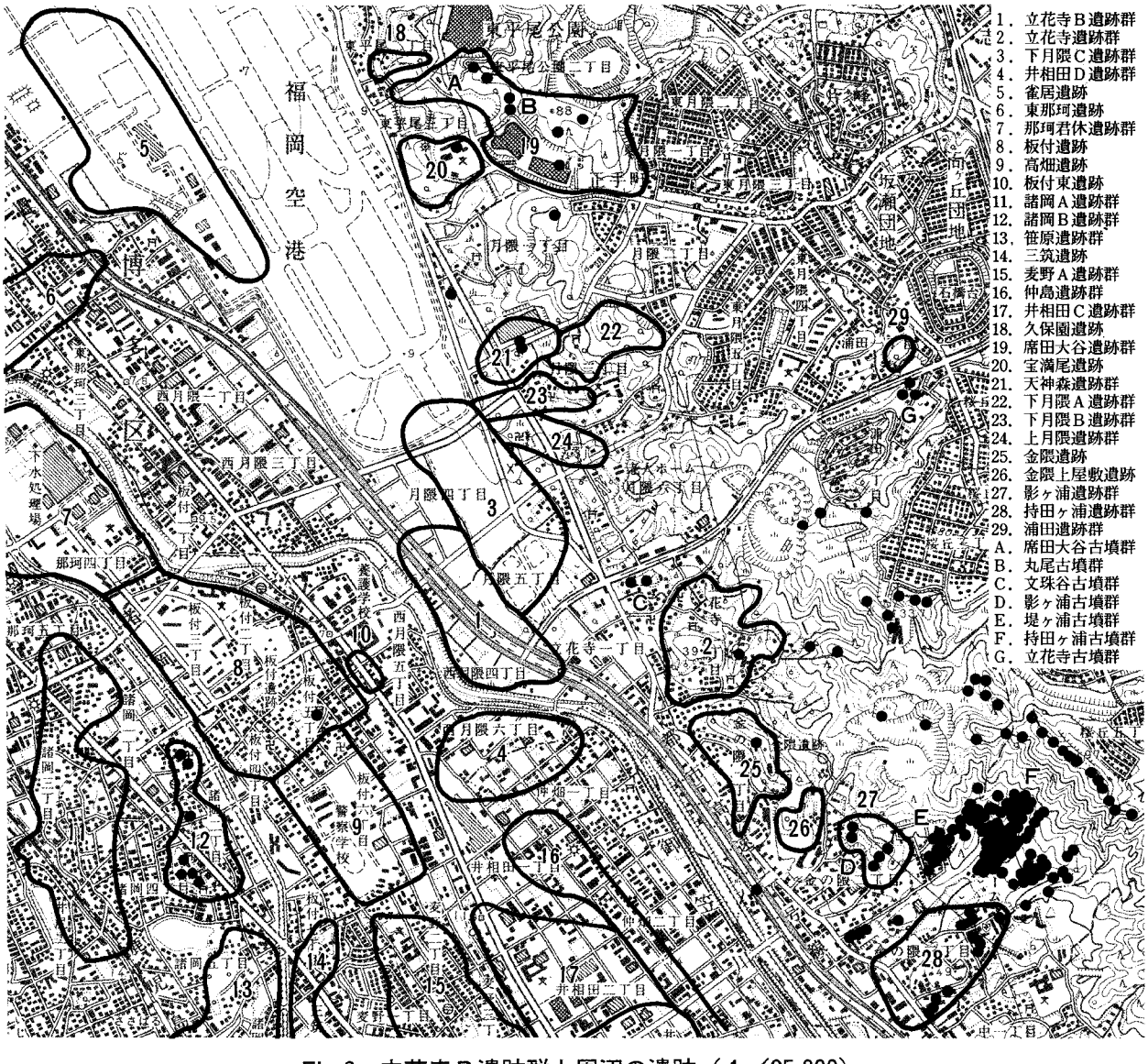


Fig.2　立花寺Ｂ遺跡群と周辺の遺跡（１／25,000）

代後期の建築部材が多数出土している。古墳時代以降はおもに水田として利用されていた。古代の水田は条里の方向とほぼ一致している。北方２kmには**雀居遺跡**がある。弥生時代前期、中期～後期、古墳時代前期、古代の集落と古代の水田が調査された。弥生時代後期の集落は環濠を持っており、環濠からは多量の土器とともに木製の短甲、楯、沓、組み合わせ式の机などが出土している。古代の遺構からは木簡や墨書土器が出土している。御笠川の対岸には**井相田Ｄ遺跡**がある。古代から中世の水田が調査された。また、縄文時代と考えられる埋没林が発見されている。

続いて月隈丘陵上の遺跡に目を転じると、立花寺Ｂ遺跡東方800mには**立花寺遺跡**がある。奈良時代から平安時代前期の掘立柱建物群が大規模な造成地の上につくられている。越州窯系青磁や邢窯系白磁、緑釉陶器、瓦などが出土しており、官衙的施設の存在が考えられている。古代の「筵田駅」に関連する施設ではないかと想定されている。その南には弥生時代甕棺墓地として著名な**金隈遺跡**がある。更に南東の丘陵中には**影ヶ浦古墳群**、**堤ヶ浦古墳群**、**持田ヶ浦古墳群**といった古墳時代後期の群集墳が存在する。

古墳時代中期の古墳は立花寺Ｂ遺跡より北東から東の丘陵上にある。**貝花尾１、２号墳**、**天神森１**、

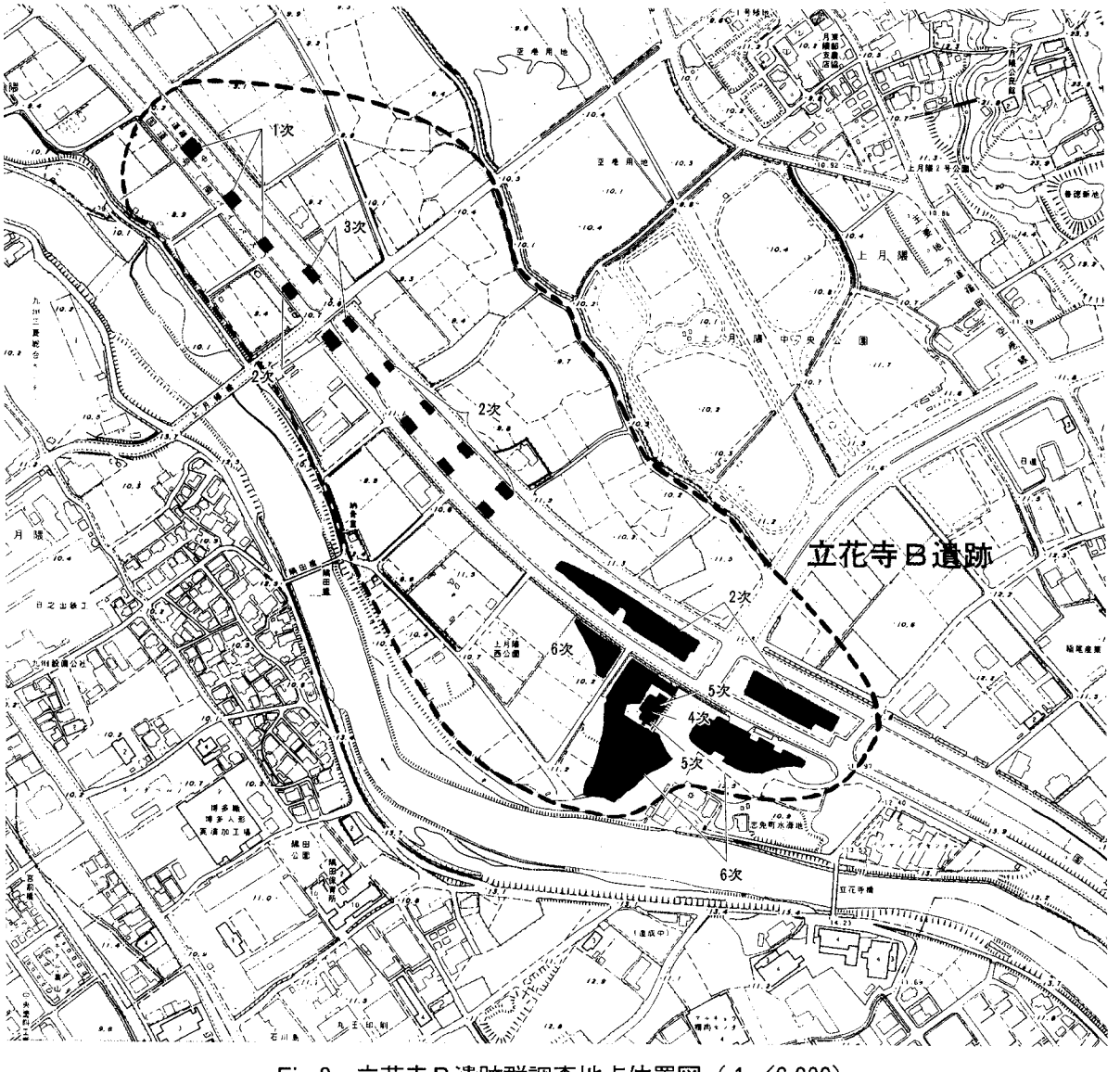


Fig.3　立花寺Ｂ遺跡群調査地点位置図（１／6,000）

2号墳、立花寺1号墳などがあるが後期古墳と違い群集していない。この周囲の丘陵は弥生時代の墳墓が多く検出されている。上月隈遺跡や下月隈B遺跡、宝満尾遺跡で甕棺墓、天神森遺跡で木棺墓が調査された。上月隈遺跡では中細形銅剣、宝満尾遺跡では異体字銘帯鏡といった青銅器の副葬がみられる。墳墓以外では久保園遺跡で弥生時代中期後半の大形掘立柱建物、席田大谷遺跡（赤穂浦遺跡）で銅鐸鋳型などが発見されている。

さて、立花寺B遺跡ではこれまで都市高速道路2号線建設に伴う調査が3次にわたって調査されている。ちょうど遺跡の中央を縦断する形で調査が行われたが、北西部については高速道路の橋脚部分しか調査が行われていない。調査の結果、古代から中世にかけて建物、井戸、土坑、土壙墓、溝などが検出され、多数の土器、陶磁器が出土した。越州窯系青磁や白磁、緑釉陶器などがまとまった量出土し、何らかの官衙的施設の存在が想定された。同時期の官衙的性格の立花寺遺跡との関係も指摘されている。また、9世紀後半～10世紀の遺構群が遺跡の中央部、12～14世紀の遺構群が遺跡の南半部に集中することが判明している。

今回の調査地点は立花寺B遺跡群の最南部にあたり、御笠川に接する部分から200m程離れた部分にかけてである。近年盛り土がなされており、調査前の標高は11～12.5mである。盛り土がなされる以前の標高は10～10.5mであった。

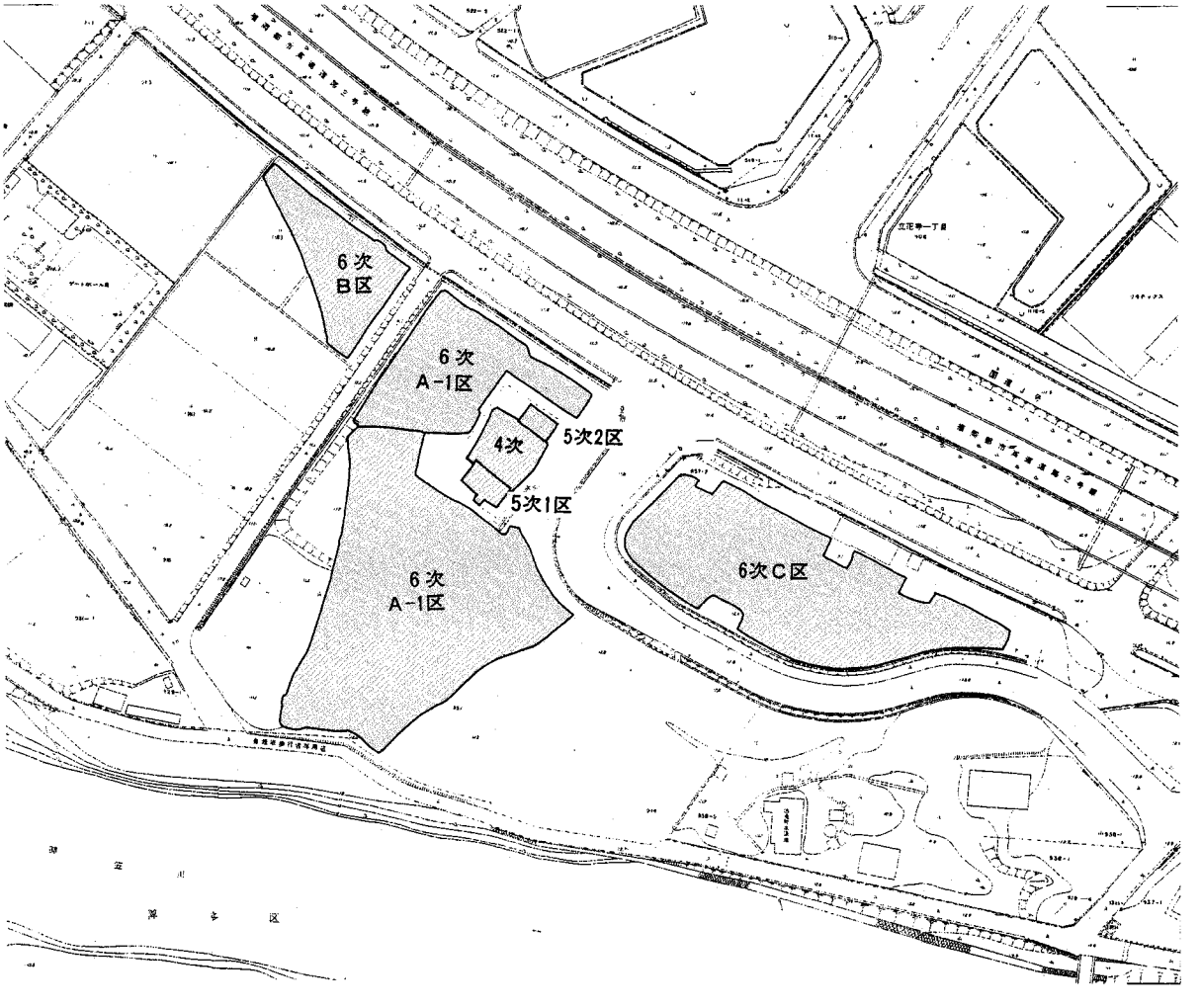


Fig.4　調査区位置図（1／2,000）

Ⅱ　4次調査の記録

1．調査の経過

4次調査の調査区は、立花寺B遺跡群の南西、御笠川が西に屈曲する地点の東側に立地する。都市高速道路月隈ジャンクション建設に伴い移転するポンプ場建設のための事前調査である。現標高は盛土がなされ、11.7m程を測る。調査対象面積は144㎡であるが、遺構面まで深く、法をつけて掘削したため、掘削上面での面積は198㎡となった。

遺構面は、旧耕作土から約70cm下、標高約9.6mの赤みを帯びた灰褐色粘質土層である。上面に弥生時代～中世の遺物を含む包含層が堆積していた。

調査は、1997年7月14日、バックホーによる表土剥ぎから開始した。盛土の下は現代の耕作土層、赤みを帯びた灰褐色砂質土層が堆積しており、これを除去すると弥生時代～中世の遺物を含む砂粒、小石混じりの暗赤褐色土層となる。この包含層の上面で止め、人力により包含層を除去した。包含層の下面は赤みを帯びた灰褐色粘質土層で、遺構が検出された。後に埋め戻しの際重機によりトレンチを入れたところ、約1m下で灰褐色砂質土層となり水が湧いてきた。遺構は少ない。遺構検出・掘削の後に写真撮影、遺構実測を行い、1997年8月1日に撤収し、2日に埋め戻しをおこない、調査を終了した。

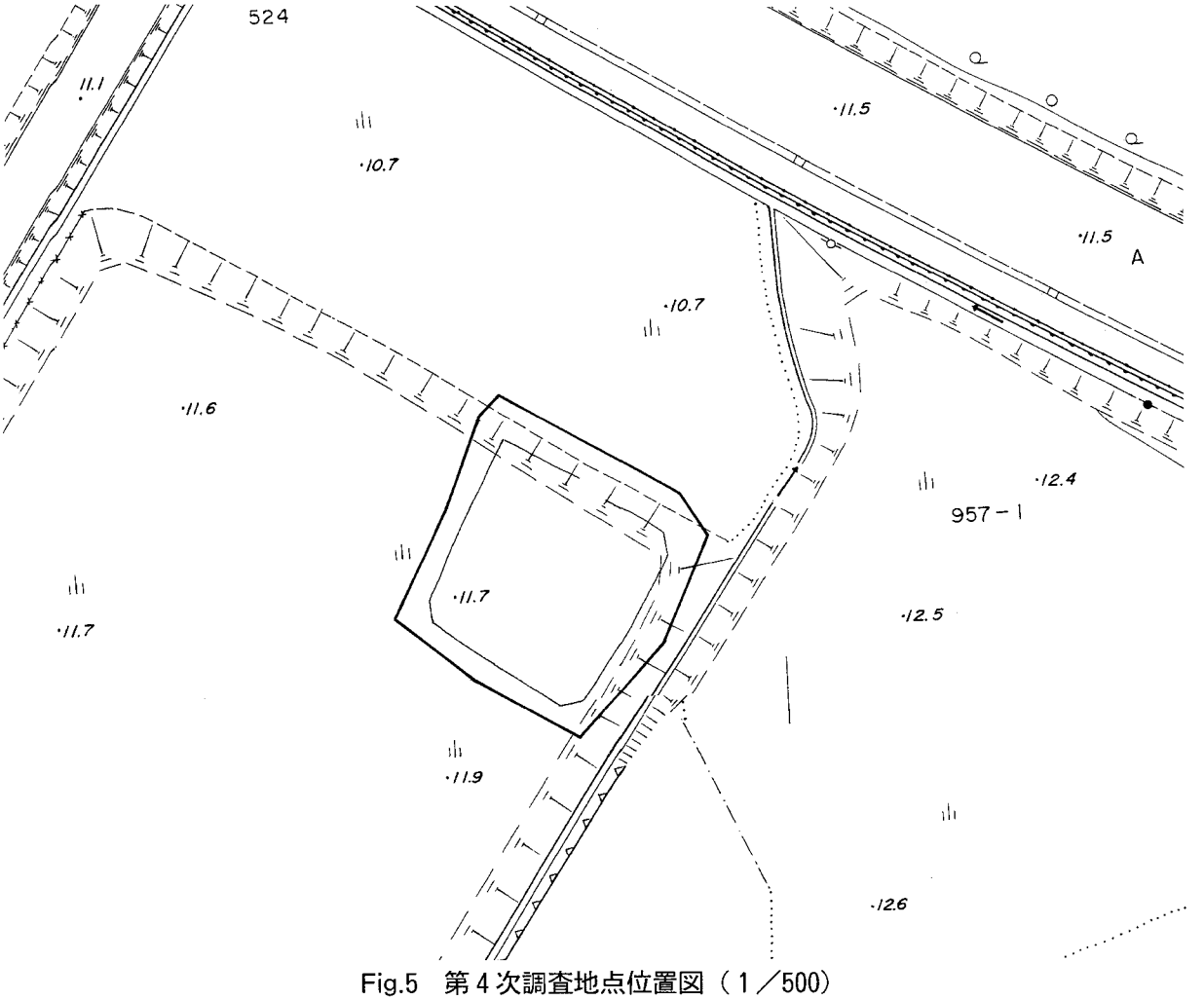


Fig.5　第4次調査地点位置図（1／500）

2．遺構と遺物

遺構は少なく、ピットと河川が一条検出された。遺物は河川や、遺構面上層の包含層から出土している。

(1) 遺構

SD06（Fig．6・9・Ph．2）

調査区北西壁付近に位置し、壁に切られる。ほぼ西－東方向で走る。河川の南側の肩のみが検出されたが、東側はどう伸びるか不明であった。河川の流れに平行するように杭列が並んでいた。杭はある程度規則的に打ち込まれていたがその機能やSD06との関係は不明である。

(2) 遺物

①SD06出土遺物（Fig.10）

1～7は須恵器である。1、2は蓋である。1は口縁端部をやや丸く仕上げる。復元口径は14.0cmを測り、青灰色を呈する。2は口縁部にかえりのついた器形で、復元口径は13.0cmを測り、回転ナデと回転ヘラケズリで仕上げられ、やや青みを帯びた灰褐色を呈する。7世紀後半頃か。3は小型長頸壷の底部付近であろう。底径は7.3cm、底面はヘラ切りで内外面はナデで仕上げられる。胎土には金雲母を含み、外面に自然釉がかかり、淡青灰色を呈する。9世紀頃であろうか。4～7は甕の胴部であろう。4、5は内面に青海波の当て具痕、6、7は条痕が、5、6は外面に布目状のタタキ痕、4は平行条痕、7は格子目状のタタキ痕が、それぞれ残る。4は胎土に金雲母を含み、暗青灰色を呈する。5は胎土に金雲母を含み、暗青灰色～灰褐色を呈する。6は灰褐色～黄褐色を呈する。7は胎土に金雲母を含み黄褐色を呈する。

8、9は黒色土器の碗である。8は両黒土器で、口縁部のみの残存である。復元口径16.0cmを測り、内外面にミガキが施される。9は内黒土器で、底部のみの残存である。底径7.3cmを測り、高台はやや高めで胴部と底部の境目に外反してつく。外面は淡黄褐色を呈する。いずれも10世紀代であろう。10、11は土師器である。10は甕の口縁部である。口縁部内面にはヨコハケが施され、胎土には金雲母を含む。11は土師皿で底径は7.0cmを測り、胎土には金雲母を含む。底面は回転ヘラケズリのあと板状圧痕がつき、黄褐色～赤褐色を呈する。12は白磁の碗である。復元口径は14.0cmを測り、口縁端部はややくぼませて仕上げ、口縁部はほぼまっすぐに開く。淡灰白色を呈する。12世紀頃であろうか。13は滑石製石鍋の口縁部である。内面は刃渡りの広いのみで成形され、外面は刃渡りの狭いのみで削り出し、成形される。復元口径は25cmを測る。15、16は平瓦である。15はナデ調整で、内面に格子目状のタタキ痕が残る。16はナデ調整で、外面に格子目状のタタキ痕らしきものが残る。

②包含層出土遺物（Fig.11）

16～25は須恵器である。16～18は坏の底部である。16は断面逆台形の高台が胴部と底部の境目にやや開き気味につく。復元底径は10.0cmで、外面はにぶい赤褐色、内面は灰褐色を呈する。17は胴部と底部の境目にやや開き気味に高台がつく。復元底径は10.0cmで、淡灰褐色を呈する。18は断面逆台形の高台が底部のやや内側につく。器壁は開き気味に立ち上がる。復元底径は8.0cmで、外面灰褐色、内面赤褐色を呈する。19は蓋の一部である。かえりがつく。灰褐色～暗灰褐色を呈する。以上はいずれも8世紀初頭頃であろう。20～25は甕の胴部であろう。20～22、24は内面に青海波の当て具痕、外面には縄目状ないし網目状のタタキ痕がつく。23は内外面ともに条痕、25は内面に条痕、外面に網状痕が残る。20は頸部付近で、外面青灰色、内面黄褐色を、21は青灰色を、22は外面灰赤褐色、内面黄褐色を、23は青灰色、24は外面淡赤褐色、内面黄褐色、25は灰褐色～青灰色を呈する。

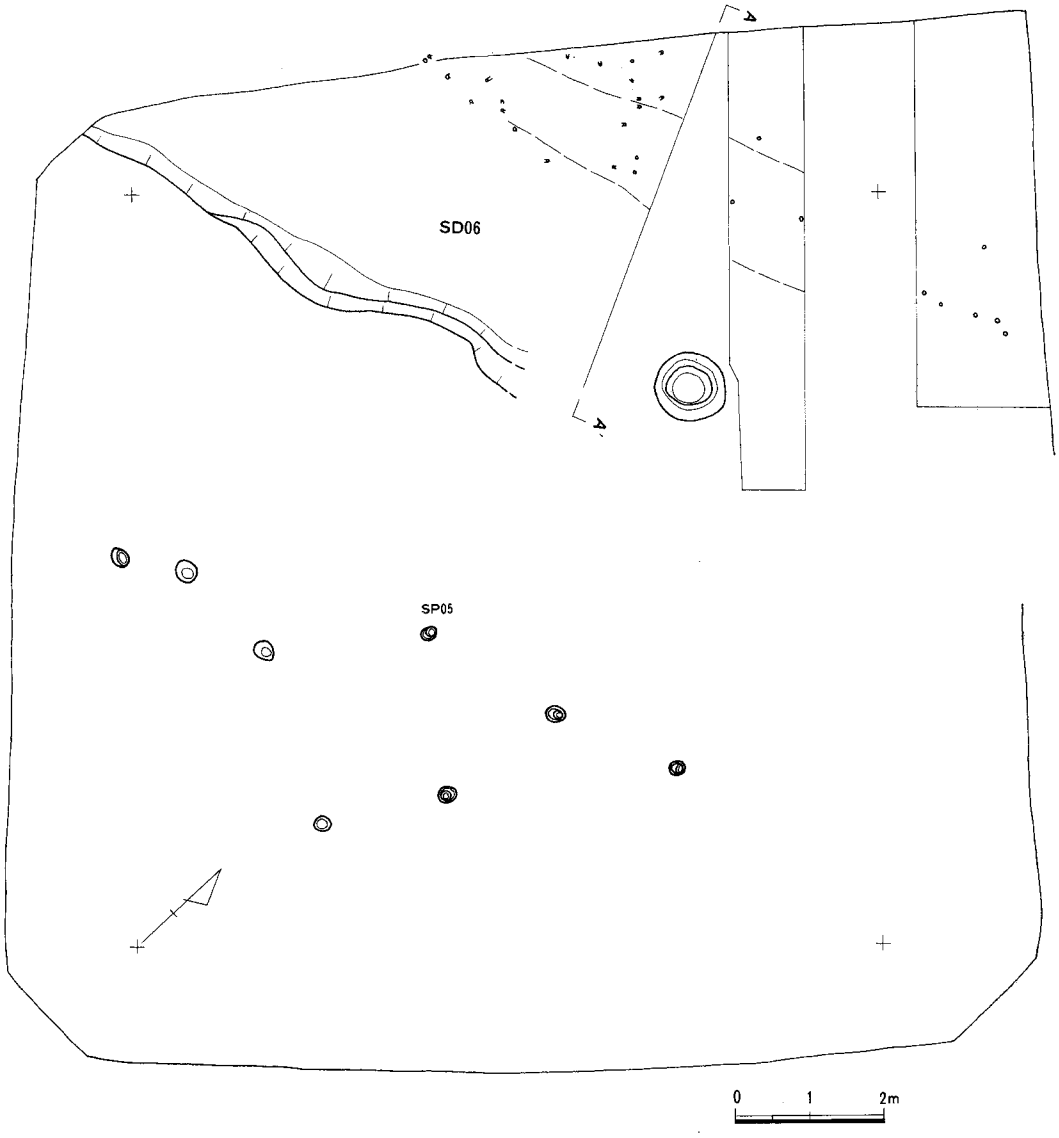


Fig.6　調査区遺構分布図（1／100）

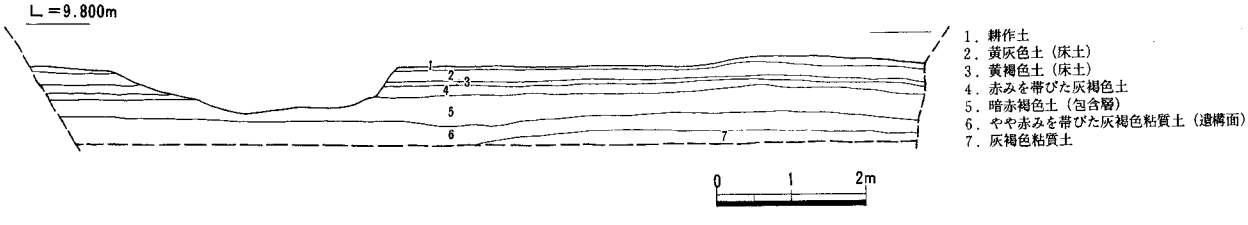


Fig.7　調査区南西壁土層図（1／100）

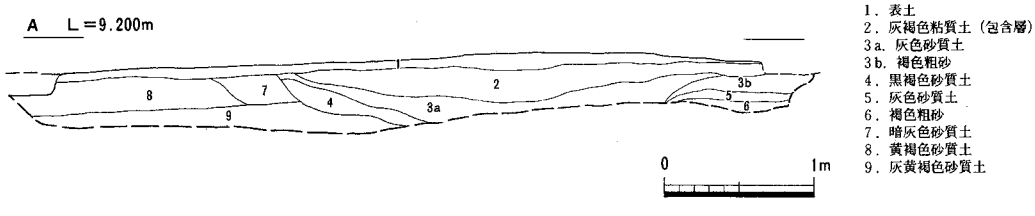


Fig.8　ＳＤ06西側断面土層図（1／50）

26～28は白磁碗である。26、27は断面三角形の口縁部を呈し、各々淡灰白色、淡灰褐色を呈する。26は復元口径18.0cm、27は14.0cm を測る。28は底部である。底面が幅広の低めの高台がつき、底面は露胎となり、内面には施釉される。復元底径6.0cm を測る。29～33は青磁である。29は碗の口縁部である。口縁端部は薄く仕上げ、やや凹凸を作る。内面には片切彫りや櫛描による施文がなされ、オリーブ色の釉がかかる。同安窯系であろう。30～32は碗の底部である。30は、底部に上底の高台がつき、内面に灰緑色の釉が施される。残存部分の外面は露胎となる。復元底径5.4cm を測る。31は平底の高台がつき、底面はカキ取りによる露胎となる。内外面には淡緑色の釉が施される。復元底径4.7cm を測る。32は断面三角形の高台がつき、内面にのみオリーブ色の釉が施される。復元底径は7.0cm を測る。33は平底皿である。復元口径は12.0cm で、内外面ともにオリーブ色の釉が施される。片切彫りによる文様が一部見られる。おそらく龍泉窯系と思われる。34は甑の把手である。残存部分は9.0cm で、断面の長径は3.2cm である。35は平瓦である。内面に布目状タタキ痕が見られる。

3.小　結

本調査区の北側には第2次調査地点AⅡ区が位置する。この地点では、9世紀後半～10世紀前半、12～14世紀の遺構が多く検出され、当該期の集落が形成されていたとしている。本調査区ではわずかなピットと河川のみの検出であったが、出土遺物を見てみると、ほぼこれらの時期に対応するようである。河川出土の遺物では、須恵器で若干古墳時代にさかのぼるものがみられるものの、9世紀代と思われる須恵器の長頸壷や10世紀代と思われる黒色土器、12世紀頃の白磁碗や石鍋などが検出された。また、遺構面上層の包含層からは、8世紀頃の須恵器の蓋坏や、12世紀代の白磁や青磁などが出土している。このことから、本調査区は、第2次調査地点AⅡ区で検出された集落の一端ではあるものの、旧河川により近く、氾濫源となっていた地点であったと推定される。

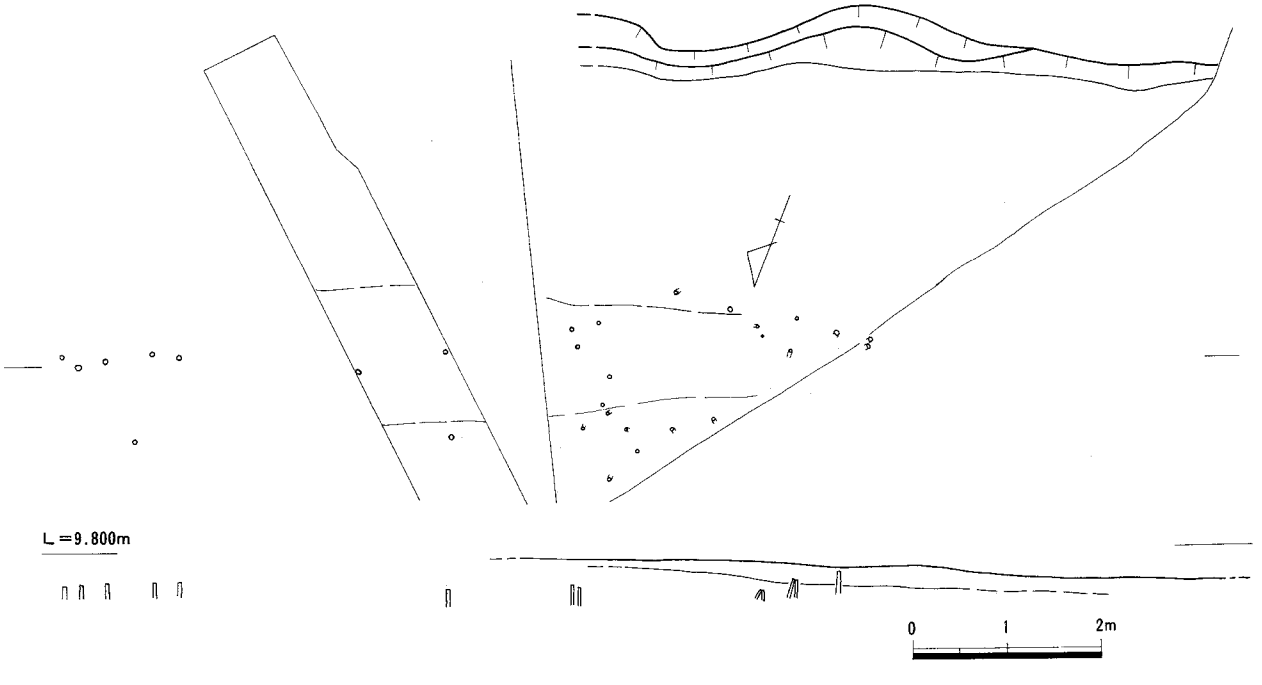


Fig.9　ＳＤ06杭列実測図（1／80）

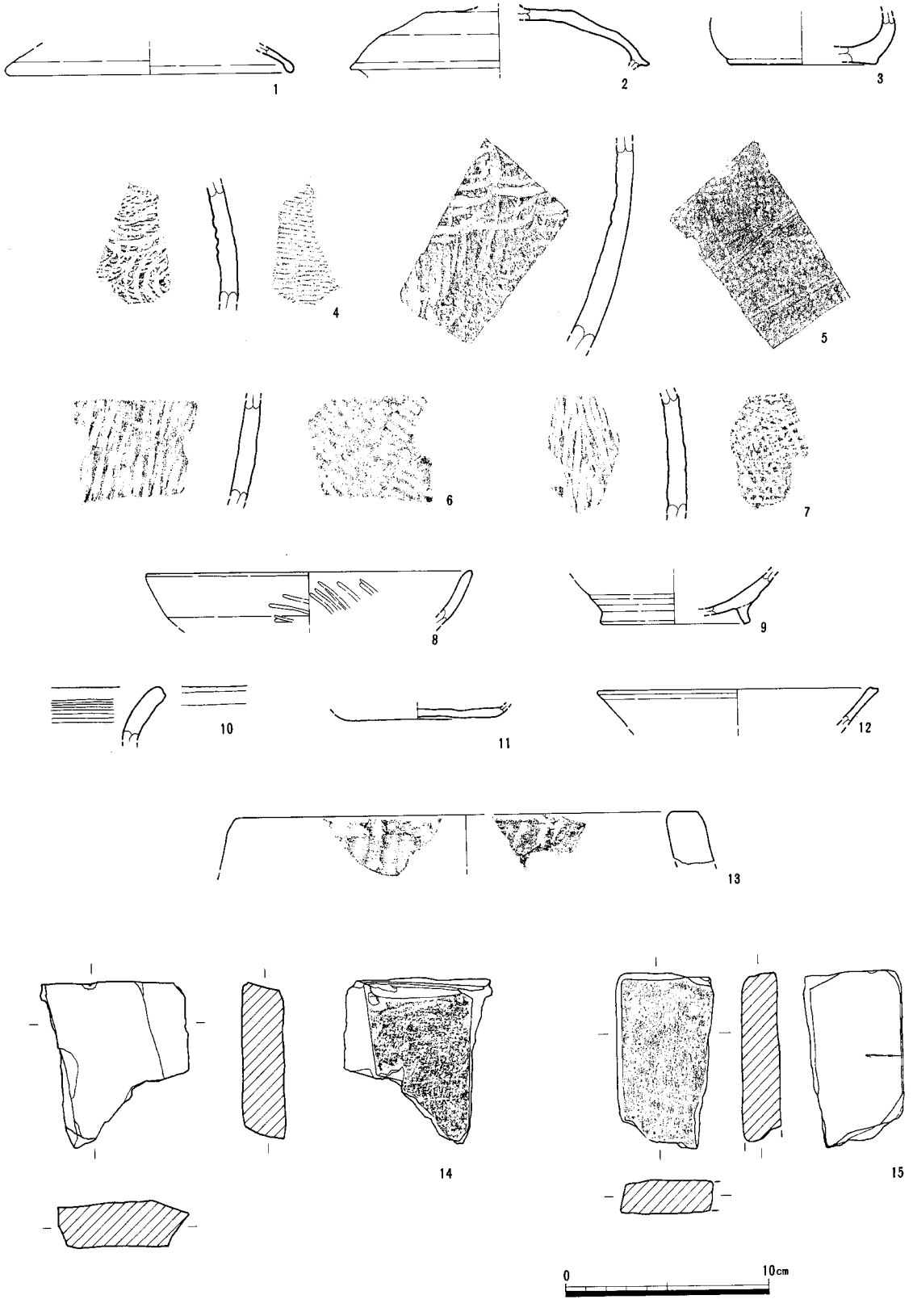


Fig.10　出土遺物実測図　1（1／3）

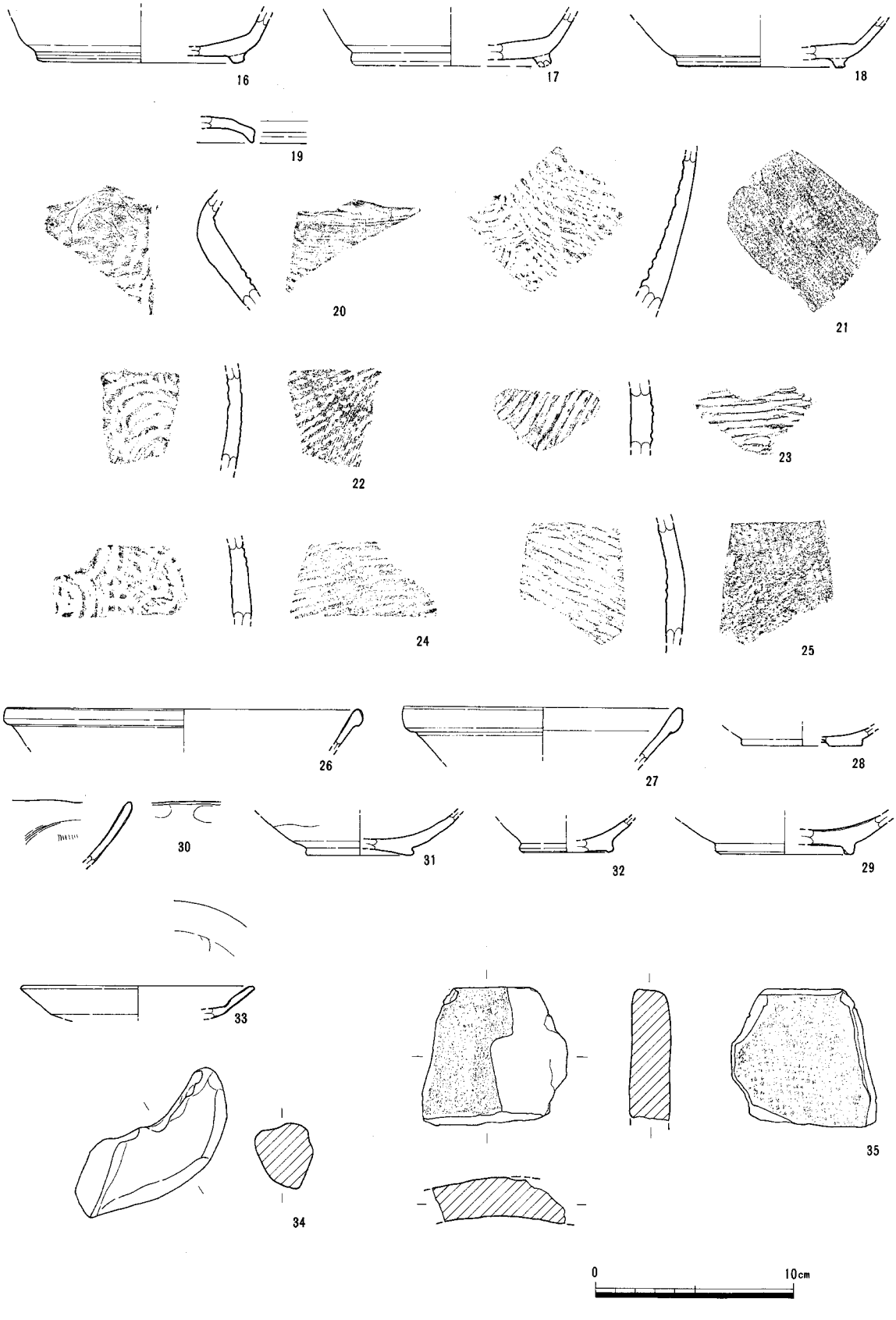
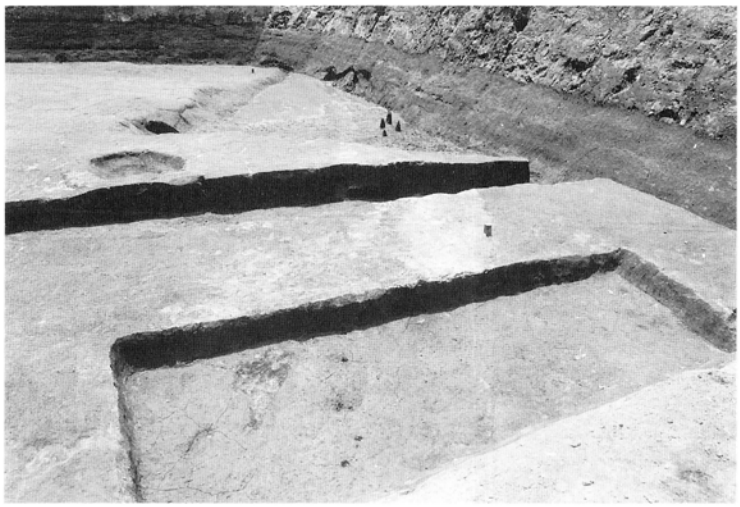
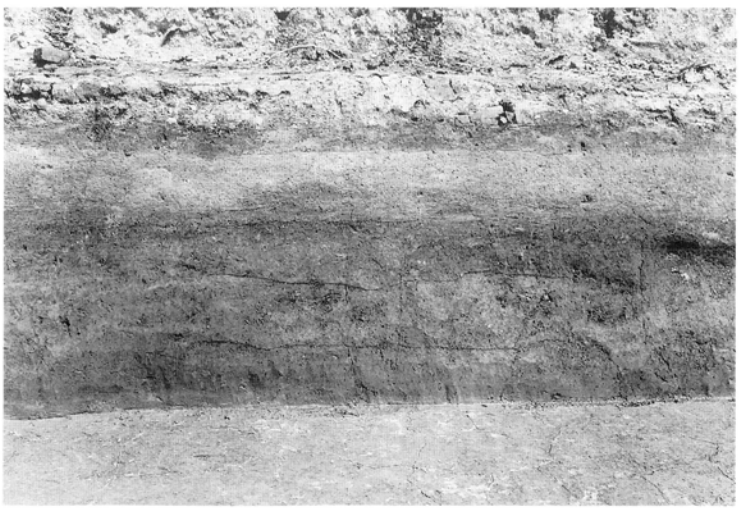


Fig.11　出土遺物実測図　2（1／3）

Ph.1　調査区全景（南西から）



Ph.2　ＳＤ06
（北東から）



Ph.3　調査区南西壁土層
（北東から）

Ⅲ　5次調査の記録

1．調査概要

第5次調査地は、工事の関係からFig.4に示すように第4次調査地の西辺に接する第1調査区と東辺に接する第2調査区の2か所からなる。調査は平成10年5月7日に着手し、同月12日に終了した。

調査地における土層の基本的層序は、地表からマサ土の盛り土、旧耕作土、旧床土、暗青灰色～暗灰色砂質土、暗茶灰色粘性砂質土、茶灰色粘質土である。各土層がほぼ水平に堆積し、その性質がシルト質であることから、調査地を含む周辺地域は御笠川の氾濫により地形形成されたと理解するのが妥当であろう。

遺構検出面は地表下1.8mに位置し、標高9.5mを測る茶灰色粘質土層面である。検出した遺構は、杭列と土壙状遺構である。本調査地に挟まれる第4次調査においても顕著な遺構は認められてはいないことから、本調査においても遺構の希薄度はある程度は予想されていた。

出土遺物の大半は、遺構検出面である茶灰色粘質土層の直上層である暗茶灰色粘性砂質土層から出土している。遺物の年代は、古代から中世に比定されるものである。この遺物包含層である暗茶灰色粘性砂質土層は、第2調査区では認められず、第1調査区においてもその場所によって層厚に差がある。このことから、調査地および周辺地においては、中世以降に削平がおこなわれていることを知る。

2．遺　構

(1)　第1調査区

第1調査区で検出した遺構は、土壙状遺構SK01と杭列SX02である。

土壙状遺構SK01は調査区の南辺中央部に位置する。調査当初には遺構の一部だけが認められたため、調査区を拡張して全体を検出した。平面形は長径1.5m、短径1.1mを測る楕円形を呈し、残存する深さは0.9mを測る。断面形は裾広がりの逆釣り鐘形を呈し、底面は狭い丸底である。壁面は下半部が垂直的に立ち上がるのに対して、上半部はやや外反しながら直線的に立ち上がる。遺構の覆土には、中央部と底面近くで黒色灰層が認められる。この灰層は植物の灰である。同様な事例は、本調査地の北50mで実施された立花寺B遺跡第2次調査のA－Ⅱ調査区においても数例が認められた。灰を覆土の一部とする土壙状遺構の規模および灰の堆積状況も極めて似ている。

覆土からは黒色土器椀、土師器椀・坏の破片が10数点出土している。

杭列SX02は、径10cm前後を測る二列の杭跡で、調査区中央部を北東方向から南西方向に直線的に縦断するようにある。杭列の幅は30cm前後、杭間の距離は30cm～50cmを測る。杭の方向は真北に対して西に約79°偏するが、この値は調査地近くの下月隈C遺跡第4、5次調査で検出された古代水田の畦畔方向が真北に対して西に約35°偏する値と大きく異なる。下月隈C遺跡第4、5次調査で検出された水田の畦畔が古代条理に結びつくと考えられていることから、今回検出した杭列の年代は、中世以降もしくは極めて新しい時期が想定される。

(2)　第2調査区

第2調査区での土層状況は、砂質土を中心とした土砂が水平堆積するものの、第1調査区とは異なり、暗茶灰色粘性砂質土層は認められない。調査地の大半は攪乱を受けており、遺構は認められない。攪乱の全てが現代期のものであることを投棄されていたタイヤなどから知る。遺物は、攪乱の土壙などから青磁碗、白磁碗、陶器壷、土師器甕、平瓦の破片が出土している。

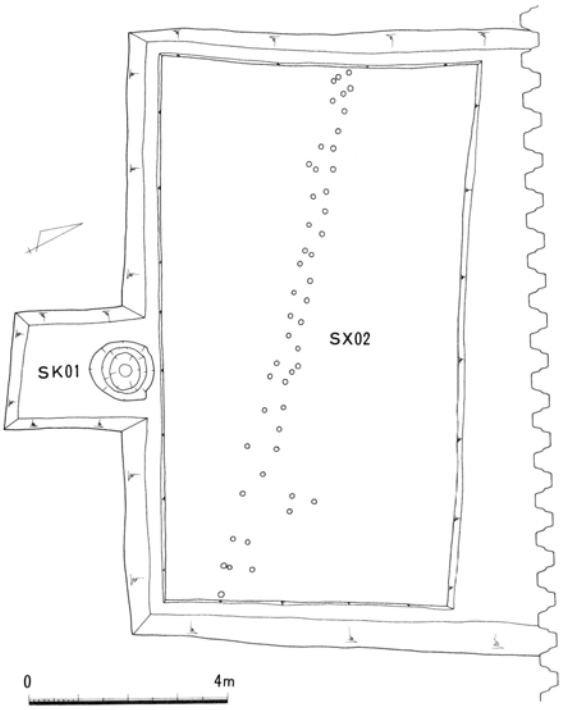


Fig.12　第１調査区遺構分布図（１／150）

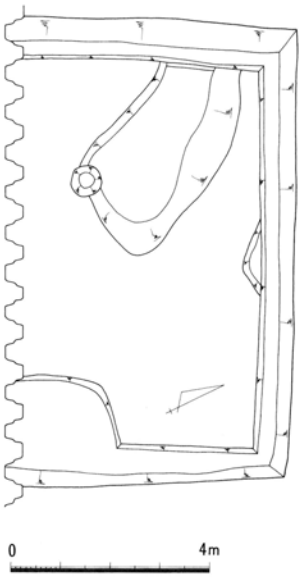


Fig.13　第２調査区遺構分布図（１／150）

Ph.4　第１調査区全景（西から）

Ph.5　第２調査区全景（西から）

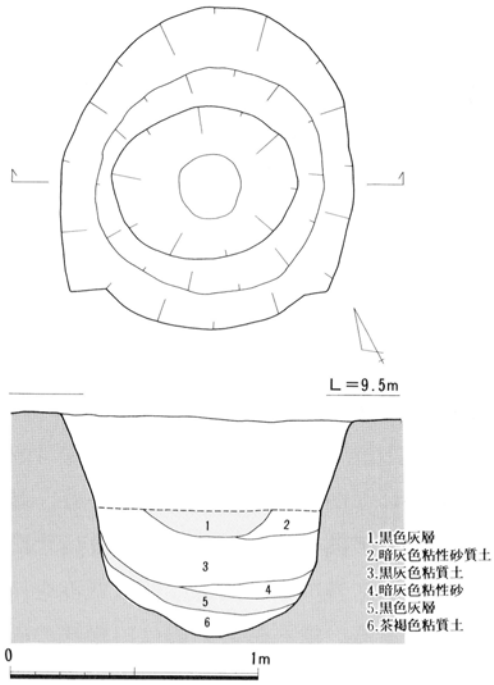


Fig.14　SK01実測図（１／30）

Ph.6　SK01（南から）

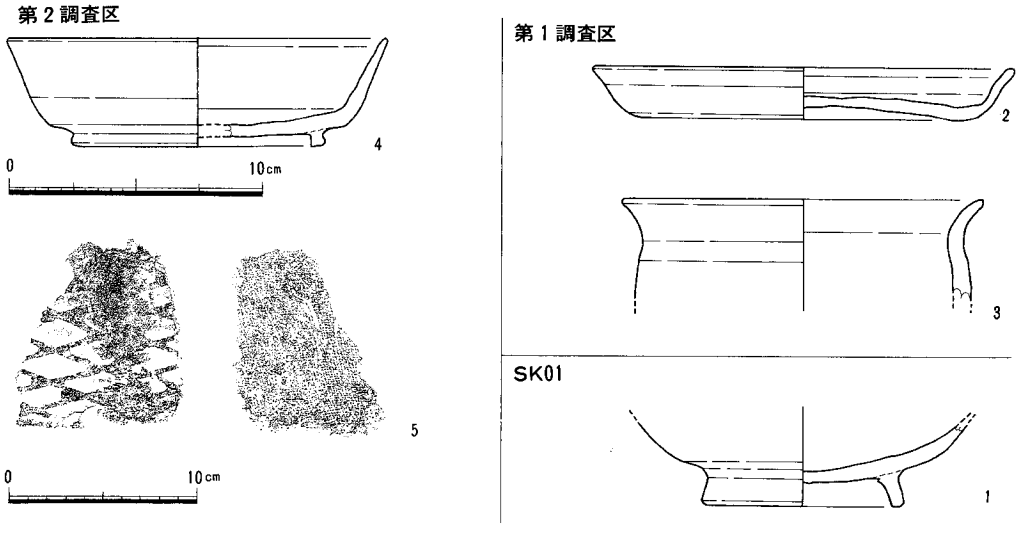


Fig.15　出土遺物実測図（１／３・１／４）

３．遺　物

遺物は、出土総量がコンテナ箱に半分弱と少なく、大半が遺構検出面の直上層である暗茶灰色砂質土層から出土している。また、２か所の調査区別の出土比較では、第１調査区からの出土量が大半を占める。内容的には須恵器坏・蓋・皿・甕、土師器椀・小皿・甕、黒色土器椀、青磁碗、白磁碗、滑石製石鍋、平瓦である。

第１調査区からは、須恵器坏・蓋・皿・甕、土師器椀・小皿・甕、黒色土器椀、青磁碗、滑石製石鍋等が遺物包含層と土壙状遺構SK01から出土している。１はSK01出土の黒色土器の椀である。口縁部を欠失するが、高台径８cmを測る。胎土は灰白色を呈し緻密である。内面には密にヘラ磨きが施され、見込み部分には「×」がヘラ磨き後に線刻されている。２は須恵器の坏で、口径16.4cm、底径13.5cm、器高2.1cmを測る。胎土は、僅かに１mmほどの砂粒を含むものの緻密で、暗青灰色を呈する。口縁は外反しながら直線的に立ち上がり、端部は横ナデ調整により丸みを持つ。底部外面はヘラ切り離しの後にナデ調整を施している。３は土師器の甕で、口径14cmを測るが胴部と底部とを欠く。口縁は「く」の字に外反し、口縁端部は丸みを持つ。胎土は僅かに１mmほどの砂粒を含むものの緻密で、暗褐色を呈する。滑石製の石鍋は口縁部の破片である。

第２調査区からは青磁碗、白磁碗、陶器壷、土師器甕、平瓦が出土している。４は須恵器の坏で、口径15cm、高台径10cm、器高4.3cmを測る。胎土は緻密で暗青灰色を呈する。口縁は外反しながら直線的に立ち上がり、端部は横ナデ調整により丸みを持つ。高台は付け高台。５は平瓦で凸面に斜格子叩き目を凹面には布目をそれぞれ残す。

４．小　結

今回の調査では古代から中世における遺物と中世の遺構を検出した。調査地周辺におけるこれまでの調査成果から、中世の集落が調査地まで展開していたと考えられる。しかしながら、その存続期間は短いことが出土遺物から知ることができる。しかしながら、集落の規模や性格は不明であることから、今後の周辺地における調査成果を待って検討したい。

Ⅳ　6次調査の記録

1．調査の経過

6次調査の対象地は都市高速道路5号線から2号線へ接続するジャンクション部分で、対象地は約10,000㎡であるが、間に既存の道路を挟むため、3区に分割して調査を行うこととなった。5号線へ向かう部分をA区、5号線から2号線の上り方面へ分岐する方をB区、下り方面へ分岐する方をC区とした。そのうちA区はポンプ場からのパイプが西へ伸びているため、更に2分割して南側をA－1区、北側をA－2区として調査した。調査は4月から10月までの7ヶ月で、A－1区を6月半ばまでに、A－2区を6月半ばから7月に、B区を8月、C区を9月から10月に調査する予定を立てた。調査区にはこれまで産業廃棄物が埋め込まれていたので事前に汚染土壌の持ち出しと処理を施工業者が行うことになった。

調査はA－1区から着手した。厚さ2m程の汚染土壌を取り除くと旧水田面が現れる。この作業がある程度進行した1999年4月21日バックホーによる遺構面までの掘削を開始した。施工業者が掘削した法面下端から更に1m程の引きをとって掘削を行った。南側から、試掘で水田と想定された面を広げ始めたが、北側で、これより上の面で溝と杭列を検出したので、残っていた半分ほどはこの上の面で掘削をやめ、第1面の調査を行うことにした。5月10日より作業員が入り本格的に調査が開始された。まず第1面の遺構検出を試みたが、最初に発見された溝1条と杭列以外発見されなかったため、再びバックホーにより、水田面まで下げ、第2面として調査を行った。第2面水田面の残りは悪く、明瞭な水田遺構は検出できなかったが、この面で、井戸、溝、土坑を検出することができた。

A－1区は遺構が予想以上に少なく、時間がかかりそうにないと予想されたため、A－1区と並行して5月17日には予定を変更してB区の表土除去を開始した。B区は産業廃棄物がなく、遺構面まで浅かった。表土は産業廃棄物除去後のA－2区へ置いた。B区も遺構が少なく、続いてA－2区を東側より遺構面の検出に入った。A－1区の調査終了後にA－2区とB区の廃土をA－1区へ移動させる予定であった。ここまでは予想以上に順調に作業が進んでいた。

しかし、B区では、2ヶ所の試掘トレンチで検出していた遺構面が同一ではなく、更に下層に遺構があることがわかった。そのころA－1区でも、旧河川を一部深掘りした部分から土器が多量に出土し始めていた。このためA－1区の調査終了は6月半ばとしていたが、7月末までの延長を5月27日に了承してもらった。B区第1面は5月26日に全景写真を撮影し、第2面の調査へすすんだ。同時並行のA－1区も6月1日には全景写真を撮り、とりあえず第2面の調査を終了させた。6月4日よりB区とA－2区の廃土をA－1区へ移動を開始した。しかしA－1区で下層から土器が出土するため、並行して土層確認のトレンチを西壁際に4ヶ所設けた。その内の1ヶ所のBトレンチから土器が多量に出土することがわかり、A－1区では旧河川と性格不明の土器だまりがあり、更にもう少しの調査が必要であることがわかった。廃土をA－1区の北側に集め、A－2区とB区第2面とA－1区第3面の3ヶ所を同時に調査することになってしまった。

再びA－1区にバックホーを入れ、Bトレンチ周囲を掘り始めると、土器だまりの南側から竪穴住居が検出され始めた。更に広げていくと全域に竪穴住居が広がり、河川から大量の土器が出土することがわかった。調査面積が一番広がっていたこの時期の6月29日に福岡市を集中豪雨が襲い、すべての調査区が冠水してしまった。御笠川のすぐ脇で、深く掘削していたため、川が決壊するのではないかと心配した。30m上流では土手を越えて水があふれていたが大事には至らなかった。排水を続け、一

週間後に水が引いたが、この後９月まで雨が多く、作業の進行に影響を与えた。結局この雨以降、Ａ－１区は幾度か復旧を試みたが、９月まで調査ができなかった。予想外の遺構の検出と天候の不順により８月６日には更なる延期の願いを了承していただいた。

７月から10月にかけては幾度か調査事務所の鍵が壊され、食料が盗まれていたが、８月４日にはカメラとレベルが盗まれてしまった。幸い犯人は逮捕され11月にはカメラとレベルが戻ってきた。

７月はＡ－２区とB区２面を集中的に調査し、８月11日には２ヶ所同時に空撮を行った。Ａ－２区終了後、９月６日にはバックホーによりＡ－１区北側の廃土をＡ－２区に戻し、Ａ－１区第３面を全面に広げ、Ａ－１区の本格的な調査を再開した。多数の竪穴住居と多量の出土遺物を検出して11月５日に空撮を行い、11月半ばにようやくＡ－１区の調査を終えた。

Ａ－１区に集中していたため、手つかずで残っていたB区２面の井戸の調査と土層確認のトレンチ調査は、12月半ばに終了させた。

最後のC区は廃土を場内反転させて２区に分けて調査する予定であったが、施工業者のご協力により産業廃棄物と汚染土壌の処理の後、廃土をＡ－１区へ移動していただき、１回で調査を済ませることができた。12月15日より作業員が入り調査を開始したが、東側と西側でまたも調査面の食い違いがみられ、東側の一部を第１面としてまず調査を行った。2000年１月11日には第１面を終了し、西側の調査面に合わせ第２面の調査を行った。第２面は２月10日に空撮を行った。東側では更に下層に遺構面がみられたため、第３面の調査を行なった。３月22日にすべての調査を終了し、24日に撤収した。

２．調査の概要

調査区毎に検出された遺構とその時期を示す。

Ａ－１区は今回の調査区の中で最も御笠川寄りに位置し、調査面積も最大である。調査面積は3,533㎡である。遺構面は３面あり、１面は中世と思われる時期の溝１条と杭列を検出した。２面は古墳時代後期から中世初頭の溝６条、河川１条、井戸３基、土坑１基を検出した。３面は古墳時代中期末から後期初頭の掘立柱建物３棟、竪穴住居30軒、溝４条、河川１条、谷頭２ヶ所を検出した。

Ａ－２区は調査面積1,163㎡を測り、古代から中世の掘立柱建物３棟、溝12条、土坑11基を検出した。

B区は調査面積822㎡で、２枚の遺構面を調査し、上面は溝８条、土坑２基を調査した。中世前半の遺構群である。下面では柵２条、掘立柱建物１棟、溝16条、井戸５基、土坑11基を検出した。おもに古代の遺構群である。

C区は調査面積2,556㎡を測る。３面の調査をおこなった。１面は中世前半の溝３条、土坑５基と杭列を検出した。２面は溝15条、井戸１基、土坑６基を調査した。古代から中世前期の遺構群である。３面は古墳時代中期末から後期初頭の掘立柱建物５棟、溝・河川５条、性格不明遺構１基を調査した。

以上の調査成果は21ページからの発見された遺構と遺物の項で詳しく触れるが、ページ数の関係ですべてを説明することができなかった。遺構については、本文で触れることができなかったものは表に概要を記した。また、遺物についてはほとんど本文で説明できなかったため、観察表を作成した。法量の数字に（　）がついているものは復元値、［　］がついているものは現存値を示す。遺物については写真も掲載することができなかった。福岡市埋蔵文化財センターに収蔵されるので活用されたい。

3．調査地点の層序

立花寺B遺跡は沖積地に位置するため、複雑な土層堆積を見せる。遺構検出面も一様でない。土層堆積状況を確認するためにトレンチを設定した。トレンチはFig.16に示すとおり、A－1区に5ヶ所（A～D・Lトレンチ）、A－2区に4ヶ所（E～Hトレンチ）、B区に3ヶ所（I～Kトレンチ）、C区に4ヶ所（M～Pトレンチ）設定した。その結果、土層の堆積が大まかに5分類できることがわかった。

①はA－1区の南側と東側、C区の東側に分布する。締まりのあるシルト層の下に黒色～暗灰色の粘土があり、涌水点では粗砂になる。Lトレンチの黒色粘土中から縄文時代後晩期頃とみられる黒曜石製の石鏃が出土した。

②はA－1区中央部に分布する締まりのないシルト～細砂層である。涌水点では粗砂層となる。南側と西側は①を削っており、河川が次第に埋まり、最終的に西寄りで河川（SD14）として残り、古墳時代後期のはじめ頃埋没していった状況である。南側の小河川と思われる、覆土がシルト層の溝（SD52）より古墳時代前期の土器が出土している。

③はA－2区北側とB区、C区中央から北寄りに広がる砂層である。下層まで粒子の異なる砂が幾層にもなって堆積している。A－2区、B区の遺構検出面では粗砂がかたく締まっている。Oトレンチから7世紀代の須恵器が出土している。

④はA－1区北側とA－2区南側、B区南側に分布するシルト層で、涌水点では粗砂になる。Eトレンチから③を削った後に堆積していることがわかる。調査時、A－1区では河川SD14として掘削してしまった。

⑤はA－1区南東の発掘区壁際とC区南西部に分布する粗砂層である。これは河川（SD13）が一気に埋まった状況を示し、涌水点まで締まりのない単一の粗砂が続いている。この粗砂をもって立花寺B遺跡の南端とすることができる。産業廃棄物で埋められる前の昭和60年頃まで、この流れに沿って堤防が残っていた。また、この部分の小字名は汐井川という。

②にあたるCトレンチと①にあたるLトレンチ西側、Pトレンチで花粉分析を依頼したが、花粉の残りが悪く、ほとんど検出されなかった。

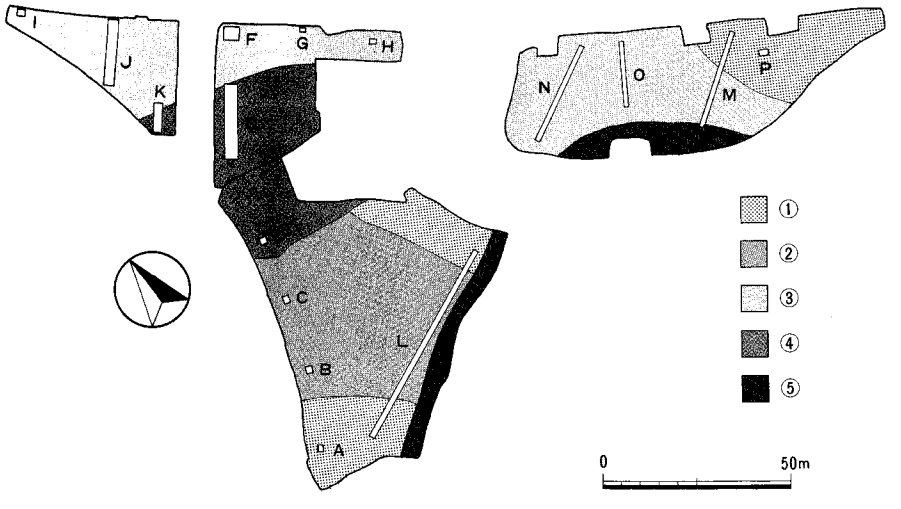
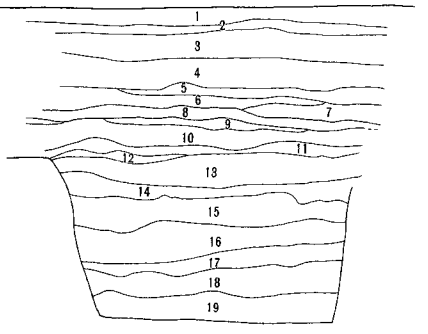


Fig.16　土層トレンチ配置図（1／2,000）

Aトレンチ北西壁

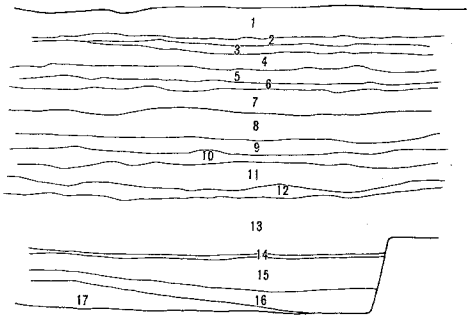
10.2m



1．緑灰色混土砂
2．茶褐色砂質土　鉄分含む。水田面？
3．暗灰褐色混土砂
4．灰褐色シルト
5．暗灰褐色混土砂
6．暗灰褐色砂～細砂　鉄分含む。
7．暗灰褐色砂粗砂
8．灰褐色細砂　鉄分含む。
9．灰褐色細砂
10．灰褐色混砂土　鉄分含む。
11．暗灰褐色砂　鉄分含む。
12．灰白色細砂
13．青灰色粘土　砂粒・鉄分含む。（2面）
14．灰褐色粘土　鉄分で茶色っぽい。砂粒含む。（3面）
15．黒褐色粘土　黒色強い。
16．黒褐色粘土　　} 漸移的
17．黒褐色粘土　灰色味強い。
18．青灰色混土砂　砂粒粗い。
19．黄褐色粗砂

Bトレンチ西壁

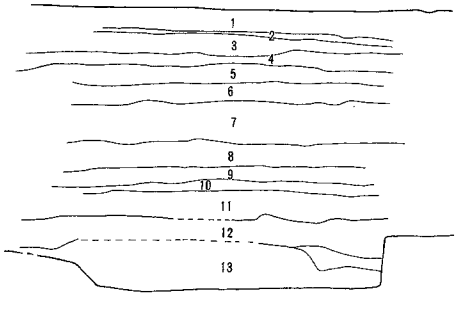
10.2m



1．緑灰色混土砂
2．茶褐色砂質土　鉄分含む。水田面？
3．灰褐色混砂土
4．灰褐色混土砂
5．暗灰褐色シルト
6．暗灰褐色混砂シルト
7．暗灰褐色シルト　鉄分含む。
8．暗灰褐色シルト　7より暗い。砂粒・鉄分含む。
9．暗灰褐色混砂シルト　鉄分含む。
10．暗灰褐色混土砂　鉄分少量含む。
11．暗灰褐色混砂シルト　鉄分含む。
12．灰褐色粘質土　鉄分粒子赤みがかる。水田面（2面）
13．青灰色粘質土　上部に鉄分含む。
14．緑色粘土
15．黒褐色土　遺物包含（SX15）
16．青灰色シルト
17．青灰白色細砂

Cトレンチ西壁

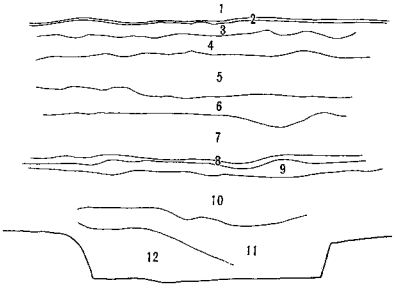
10.2m



1．緑灰色混砂土
2．茶褐色砂質土
3．灰褐色混土砂
4．灰褐色混砂土
5．暗灰褐色シルト　砂粒・鉄分含む。
6．暗灰褐色シルト　灰色味強い。鉄分含む。
7．灰褐色混砂シルト　鉄分含む。
8．灰褐色シルト　鉄分多い。
9．灰褐色シルト～細砂　鉄分含む。
10．灰褐色シルト　鉄分粒子赤みがかる。水田面（2面）
11．青灰色粘質土　上方に鉄分含む。
12．青灰色シルト
13．青灰白色細砂

Dトレンチ西壁

10.2m

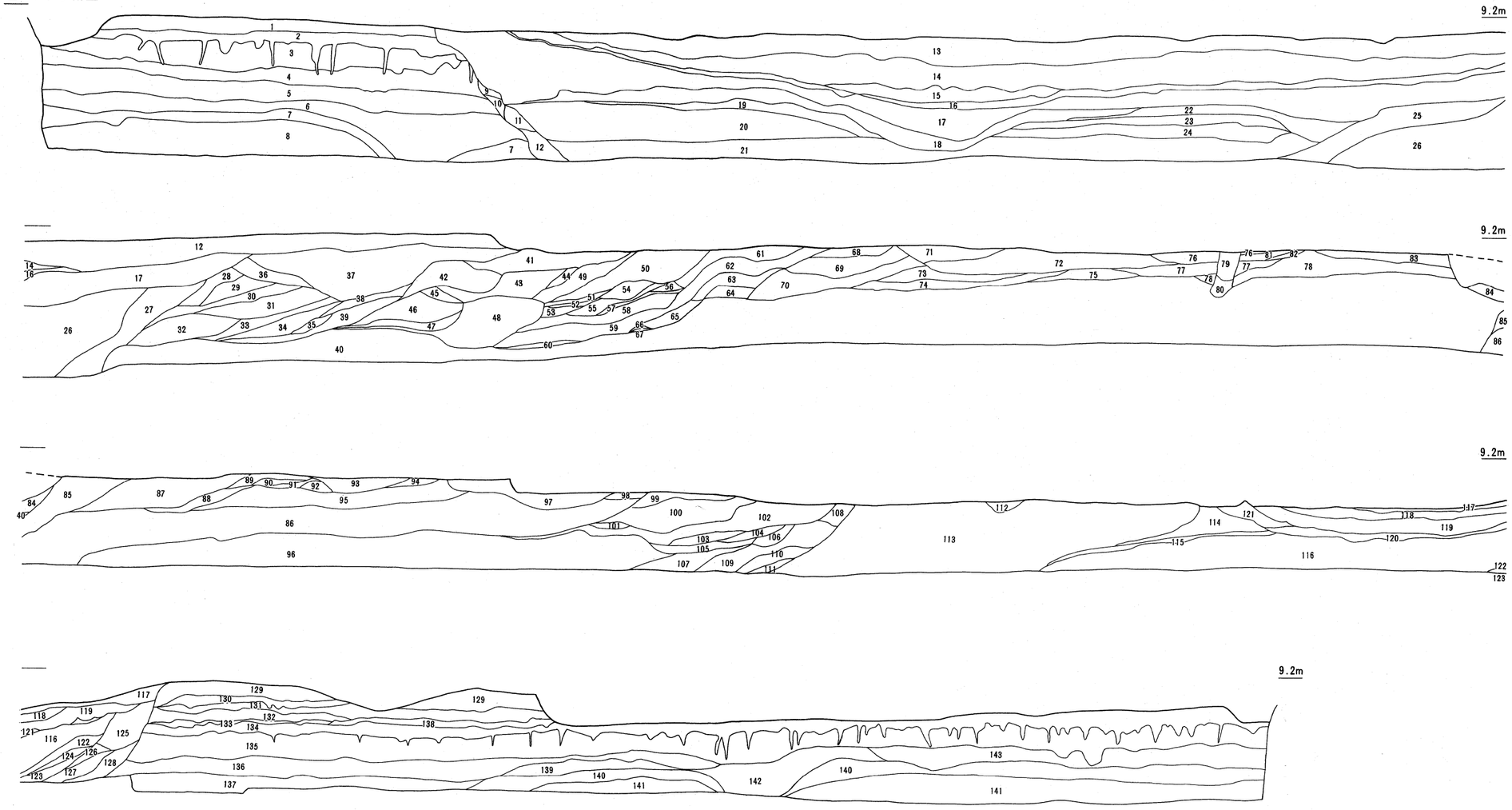


1．緑灰色混砂土
2．茶褐色砂質土　鉄分含む。水田面？
3．暗灰褐色シルト
4．暗灰褐色混土砂
5．暗灰褐色シルト　鉄分粒子含む。水田面？
6．灰褐色シルト　鉄分粒子含む。
7．灰褐色シルト　鉄分で赤みがかる。上部に鉄分多い。（1面）
8．黄褐色細砂
9．灰褐色シルト　鉄分で赤みがかる。水田面（2面）
10．青灰色粘質土　上部に鉄分粒子含む。
11．青灰色シルト　　} 漸移的
12．青灰白色細砂

0　　2m

Fig.17　トレンチ土層図　1（1／50）

Lトレンチ南壁

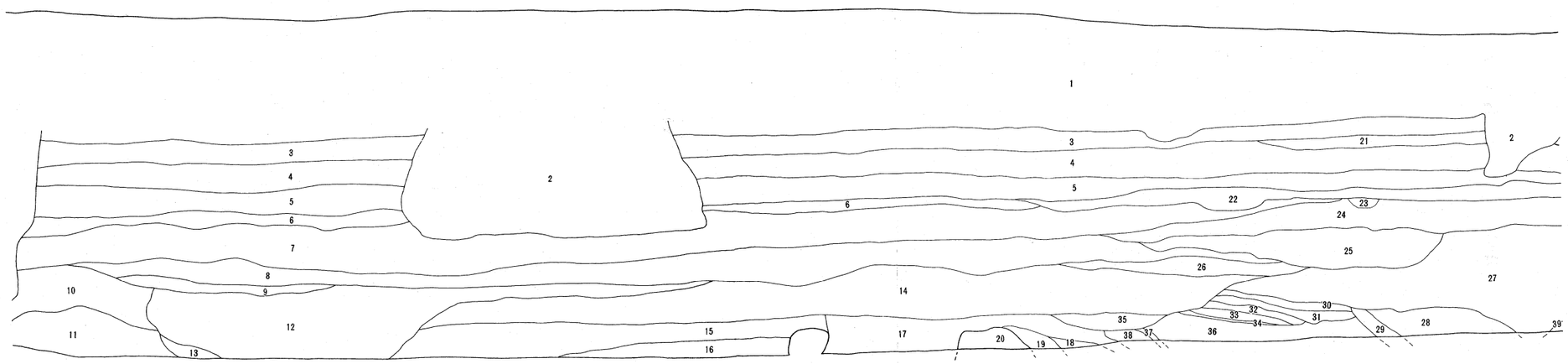


1．暗青灰色シルト　鉄分含む。
2．青緑色シルト　鉄分含む。
3．灰黒色粘土　鉄分でオレンジ色。
4．黒色粘土
5．暗灰色粘土　砂粒含む。
6．青白色粘土
7．青白色粗砂　青白色粘土を含む。
8．暗灰色粗砂
9．暗灰色粘土
10．灰黒色粘土　黒色粘土含む。
11．暗灰色粗砂
12．灰色粗砂
13．灰褐色シルト　炭化物、鉄分含む。
14．灰色粘土　炭化物、鉄分含む。
15．暗灰色粘土　炭化物多く含む。
16．暗灰色粘土　炭化物、緑色粘土含む。
17．暗灰色粘土　炭化物含む。
18．暗灰色粘土　砂粒含む。
19．暗茶褐色粗砂
20．暗茶褐色～灰白色粗砂
21．灰白色粗砂
22．灰色細砂
23．暗茶褐色粗砂
24．黄灰白色粗砂
25．青灰白色細砂　灰色味強い。
26．青灰白色細砂　白っぽい。
27．灰色シルト　炭化物含む。
28．暗赤褐色細砂
29．暗黄褐色砂
30．青灰色細砂
31．黄白色砂
32．灰白色粗砂
33．青灰色細砂
34．暗灰白色粗砂
35．灰白色細砂
36．暗赤褐色細砂
37．青灰白色細砂
38．青灰白色細砂
39．灰色細砂
40．灰白色粗砂～黄白色砂
41．青灰白色細砂
42．暗黄褐色細砂　灰色細砂含む。
43．灰色シルト
44．灰色細砂
45．青灰白色細砂
46．灰白色砂
47．青白色細砂
48．青灰白色細砂
49．灰白色粗砂～黄褐色砂
50．灰色細砂
51．白色砂
52．灰色シルト
53．灰白色砂
54．暗黄褐色砂　灰色細砂多く含む。
55．灰白色砂
56．黄褐色砂　灰色シルト多く含む。
57．灰色シルト
58．灰白色細砂
59．灰白色砂
60．青白色細砂
61．灰色シルト　灰色細砂含む。
62．灰色シルト
63．黄褐色砂　灰色シルトブロック多く含む。
64．黄白色砂　灰色シルト含む。
65．灰色シルト
66．灰白色砂
67．灰色細砂
68．灰色細砂
69．暗灰色粗砂
70．黄白色細砂
71．暗灰色砂～粗砂
72．暗灰色砂
73．黄褐色砂
74．灰白色細砂
75．灰白色細砂　暗黄褐色砂含む。
76．灰色シルト　灰色細砂含む。
77．灰色シルト
78．灰色砂
79．灰色シルト　灰色細砂～砂含む。
80．暗黄褐色砂　灰色シルトブロック含む。
81．灰色シルト　灰色砂含む。
82．暗灰色粗砂
83．灰色砂　灰色シルト含む。
84．暗黄褐色砂～灰色砂
85．灰色シルト
86．
87．暗灰色粗砂
88．暗黄褐色砂　灰色砂含む。
89．灰色細砂
90．灰色粗砂
91．灰色細砂
92．灰色砂
93．灰色シルト　灰色砂含む。
94．灰色粗砂
95．白色～灰色粗砂　灰色細砂含む。
96．灰白色粗砂
97．灰色シルト　灰色砂含む。
98．灰褐色細砂
99．暗黄褐色砂　灰色シルト～細砂を多く含む。
100．暗黄褐色砂　灰色細砂含む。
101．灰色細砂　黄褐色砂多く含む。
102．灰色粗砂～シルト
103．灰色シルト
104．黄褐色砂
105．灰色シルト
106．暗赤褐色粗砂
107．暗赤褐色粗砂
108．灰色細砂　暗黄褐色細砂多く含む。
109．灰色細砂　暗黄褐色細砂含む。
110．白色砂～黄褐色砂
111．暗灰色シルト～灰色粗砂
112．灰色砂質土　灰色粗砂含む。
113．粗砂　上部暗赤褐色　下部黄褐色
114．灰白色砂
115．灰色シルト
116．暗黄褐色砂　灰色細砂層状に入る。
117．灰色細砂
118．灰色シルト　灰色細砂含む。
119．灰色シルト
120．灰色シルト　灰色細砂多量に含む。
121．灰色シルト　少し暗い。
122．灰色シルト
123．灰色シルト
124．灰白色細砂
125．灰色細砂
126．灰白色細砂
127．灰色シルト
128．灰色細砂　灰色粘土含む。
129．灰色シルト
130．暗灰色粗砂
131．緑灰色シルト
132．灰色粘土　砂粒、緑灰色シルト含む。
133．暗灰色砂
134．灰色粘土　鉄分でオレンジ色。
135．黒色粘土
136．暗灰褐色粘土　砂粒含む。
137．青白色粘土
138．灰色粘土　鉄分でオレンジ色。
139．記載漏れ
140．灰色粗砂　灰色粘土混じり。
141．暗灰褐色粗砂
142．暗灰色粘土　粗砂含む。
143．暗灰色粘土　粗砂多く含む。

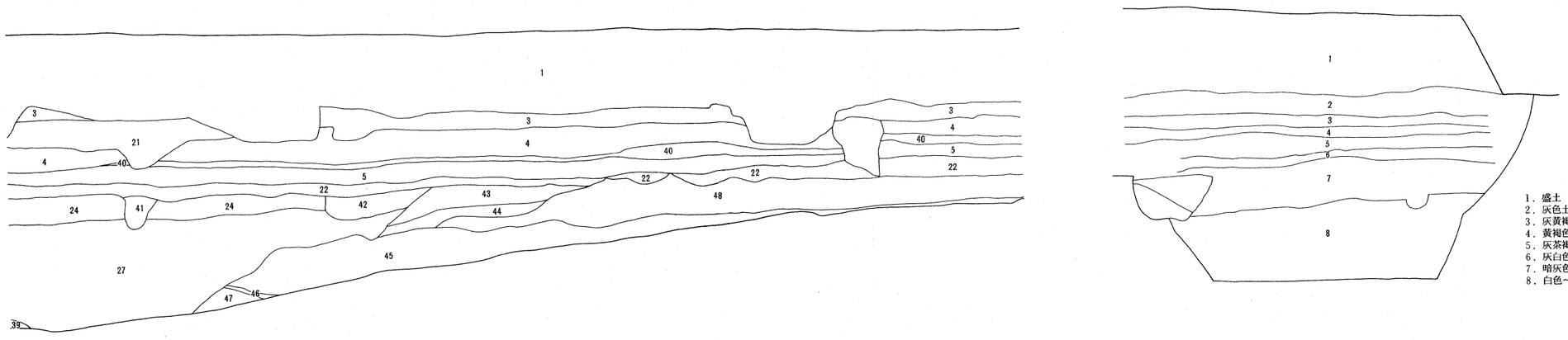
0　2m

Fig.18　トレンチ土層図　2（1／50）

Eトレンチ北西壁



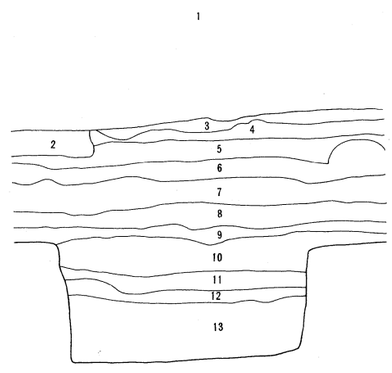
Fトレンチ北西壁



1．盛土
2．灰色土　砂粒含む。
3．灰黄褐色土　鉄分多く含む。砂粒含む。
4．黄褐色土　鉄分多く含む。
5．灰茶褐色土　鉄分、マンガン粒、砂粒含む。
6．灰白色シルト　炭化物、鉄分、砂粒含む。
7．暗灰色粗砂
8．白色～黄褐色砂

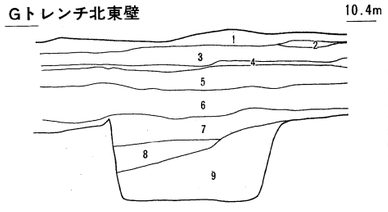
1．盛土
2．攪乱
3．灰色土　砂粒含む。
4．灰黄褐色土　鉄分多く含む。砂粒含む。
5．灰茶褐色土　鉄分、マンガン粒、砂粒含む。
6．暗灰褐色土　炭化物含む。
7．灰茶褐色土　鉄分で赤っぽい。
8．灰茶褐色土　鉄分含む。
9．灰色シルト　鉄分含む。
10．灰色混砂シルト
11．暗灰色混砂シルト
12．灰色～暗灰色シルト　下層粘土質。
13．暗灰色粘土
14．暗灰色シルト
15．暗灰色粘土
16．青灰色細砂
17．灰色シルト　細砂含む。
18．灰白色粗砂
19．灰色シルト
20．灰白色粗砂
21．暗灰色粗砂
22．暗灰褐色土　鉄分多く含む。砂粒含む。
23．暗灰色土　炭化物、鉄分を含む。
24．青灰色シルト　鉄分含む。
25．茶褐色粗砂
26．灰色粘質土
27．灰色シルト
28．灰白色粗砂
29．灰色粘土　灰白色砂含む。
30．灰白色砂　灰色シルト含む。
31．灰色シルト
32．灰色シルト　灰白色砂含む。
33．黄褐色土粗砂
34．灰色シルト
35．灰白色シルト　灰色粘土含む。
36．黄褐色土粗砂
37．灰色粘土
38．黄褐色砂
39．黄褐色粗砂
40．黄褐色土　鉄分多く含む。
41．暗灰色土　炭化物、鉄分を含む。
42．暗灰色土　炭化物、鉄分を含む。
43．灰白色シルト　炭化物、砂粒、鉄分含む。
44．暗灰色粗砂　暗灰色土含む。
45．白色～黄褐色砂
46．灰色シルト
47．黄褐色粗砂
48．暗灰色粗砂

Hトレンチ北東壁



1．盛土
2．暗灰色土
3．暗茶褐色土
4．黄褐色土　砂粒、炭化物含む。
5．灰色土　砂粒含む。
6．灰黄褐色土　鉄分多く含む。砂粒含む。
7．灰茶褐色土　鉄分含む。
8．暗灰茶褐色土　鉄分多く含む。砂粒含む。
9．暗灰茶褐色土　砂粒含む。
10．灰色土　砂粒多く含む。
11．青灰色シルト　砂粒含む。
12．暗灰色砂
13．黒色粗砂　油による汚染。

Gトレンチ北東壁

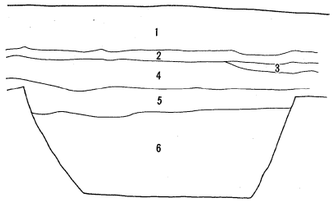


1．灰色土　砂粒含む。
2．暗灰色土
3．灰黄褐色土．鉄分多く含む。砂粒含む。
4．黄褐色土　鉄分多く含む。
5．灰茶褐色土　鉄分含む。
6．暗灰茶褐色土　鉄分、マンガン粒、粗砂多く含む。
7．暗灰色粗砂
8．白色～黄褐色砂
9．黒色粗砂　油による汚染。

0　2m

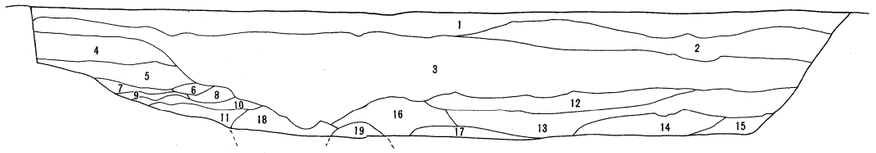
Fig.19　トレンチ土層図　3（1／50）

Ｉトレンチ北東壁



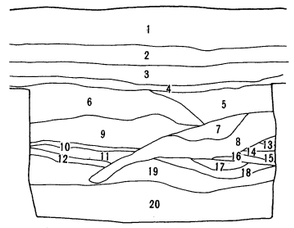
1．灰色土　砂粒含む。
2．黄褐色土　鉄分で黄色っぽい。砂粒含む。
3．茶褐色土　マンガンで茶色っぽい。砂粒含む。
4．暗灰褐色土　マンガン多量に含む。鉄分粒含む。
5．暗茶褐色粗砂　土混じりでかたく締まる。
6．灰白色砂　粗砂～細砂が層状に堆積する。

Ｋトレンチ南東壁



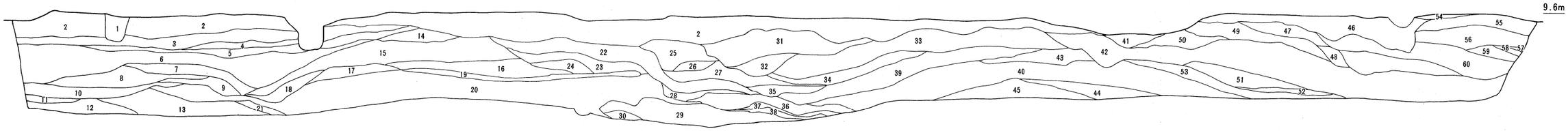
1．灰白色シルト　鉄分で茶色っぽい。砂粒含む。
2．灰白色シルト　鉄分で茶色っぽい。１より粒子粗い。砂粒含む。１より鉄分少ない。
3．灰白色シルト～細砂
4．暗茶褐色砂
5．暗黄白色～茶褐色砂
6．灰色細砂
7．黄白色砂
8．暗茶～茶褐～灰白色砂
9．青白色細砂
10．灰色細砂
11．黄褐色細砂
12．灰色シルト　白色細砂含む。
13．青灰色シルト
14．灰色シルト、白色細砂、暗茶褐色砂の互層
15．暗灰色シルト
16．白色細砂、灰色シルトの互層
17．黄色粗砂
18．暗灰色シルト
19．灰白色粗砂

Ｊトレンチ北東壁



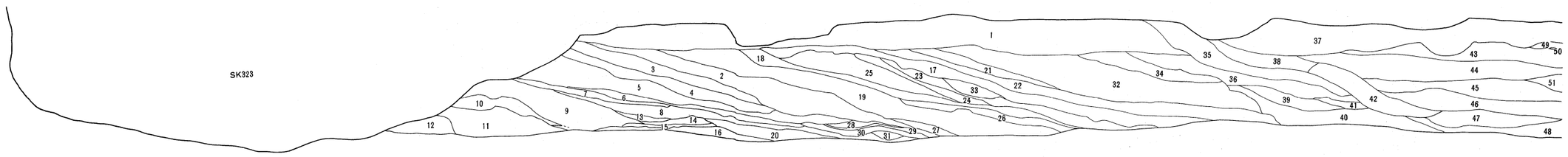
1．灰色土　砂粒含む。
2．黄褐色土　鉄分で黄色っぽい。砂粒含む。
3．茶褐色土・マンガンで茶色っぽい。砂粒含む。
4．暗灰褐色土　マンガン多量に含む。鉄分粒含む。
5．灰褐色砂質土・灰色シルトブロック状に含む。
6．暗茶褐色混土砂　鉄分粒含む。
7．灰色砂
8．灰褐色シルト　一部白色砂。鉄分粒含む。
9．灰白色砂
10．灰褐色細砂
11．黄褐色粗砂
12．灰褐色細砂
13．灰白色砂
14．灰褐色細砂
15．灰白色粗砂
16．灰褐色細砂
17．灰白色粗砂
18．灰色細砂
19．灰白色砂
20．黄褐色～灰白色粗砂層状に堆積。

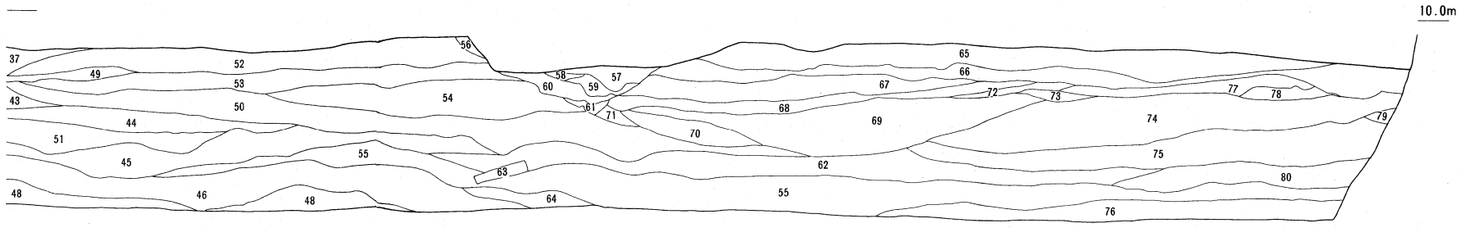
Ｊトレンチ北西壁



1．記載漏れ
2．灰茶褐色シルト
3．灰白色砂
4．黄褐色細砂
5．灰褐色細砂
6．灰白色砂
7．灰褐色細砂
8．灰白色粗砂
9．灰褐色細砂
10．灰褐色細砂
11．灰白色砂
12．灰白色砂
13．灰白色砂
14．灰白色砂
15．灰白色砂～細砂
16．灰白色砂
17．灰白色粗砂
18．灰白色細砂
19．灰褐色細砂
20．灰白色砂～粗砂の互層
21．灰白色細砂
22．灰白色細砂～砂
23．灰白色細砂
24．灰白色砂
25．灰白色シルト
26．灰白色粗砂
27．灰色～青白色砂
28．灰白色細砂～砂
29．暗褐色粘土　砂粒、流木含む。
30．灰褐色細砂
31．灰白色粗砂
32．灰白色砂
33．灰白色砂
34．灰白色細砂
35．灰白色細砂
36．暗灰色粘質土
37．黄褐色砂
38．暗灰色粘土
39．灰白色砂
40．灰白色粗砂
41．暗黄褐色粗砂
42．灰白色砂
43．灰白色砂
44．灰白色細砂
45．灰白色砂
46．灰茶褐色シルト
47．灰白色砂
48．灰白色シルト
49．灰白色粗砂
50．灰白色砂
51．灰白色粗砂
52．暗灰色シルト　炭化物含む。
53．灰白色砂
54．灰白色細砂
55．茶褐色混土砂　鉄分含む。
56．灰白色砂
57．灰褐色細砂
58．黄褐色粗砂
59．灰褐色細砂
60．灰白色砂
61．黄褐色～灰白色粗砂

Ｎトレンチ





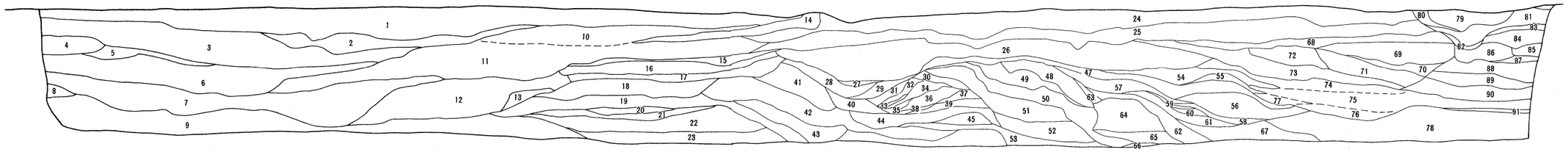
1．灰褐色粗砂
2．暗灰色細砂
3．暗灰色細砂　粗砂含む。
4．暗灰褐色細砂
5．灰褐色細砂と灰褐色砂の混合
6．灰褐色細砂
7．灰褐色細砂
8．暗灰褐色シルト　砂粒含む。
9．灰褐色粗砂
10．暗灰色シルトと暗褐色シルトの互層
11．赤みがかった白色細砂と粗砂の互層
12．暗灰色シルト
13．暗灰褐色シルト
14．白色細砂
15．暗灰褐色シルト
16．黄褐色細砂
17．暗灰褐色シルト　下部に粗砂層
18．灰褐色細砂
19．灰褐色粗砂
20．灰褐色細砂と粗砂の混合
21．灰褐色粗砂
22．灰褐色細砂　粗砂含む。
23．白色粗砂　赤っぽい。
24．灰褐色粗砂
25．灰褐色細砂と粗砂の混合
26．暗灰褐色細砂と粗砂の混合
27．暗灰褐色細砂と粗砂の混合
28．明灰褐色粗砂
29．暗灰褐色粗砂
30．明灰褐色粗砂
31．灰色細砂と暗灰褐色シルトの混合
32．灰白色粗砂　茶色っぽい。
33．灰褐色粗砂
34．灰褐色細砂
35．灰褐色シルト　砂粒含む。
36．灰褐色粗砂
37．灰褐色粗砂と茶褐色粗砂の場合。
38．灰褐色細砂
39．灰褐色細砂と粗砂の混合
40．灰褐色粗砂
41．灰褐色粗砂　40より茶色っぽい。
42．灰褐色シルト～灰白色細砂
43．灰褐色粗砂
44．灰褐色粗砂　43より茶色っぽく、粒子粗い。
45．灰褐色粗砂　44より粒子粗い。
46．灰褐色細砂と粗砂の混合
47．明灰色粗砂
48．白色粗砂
49．暗灰褐色細砂
50．白色粗砂
51．白色粗砂
52．白色細砂
53．灰色細砂　茶色っぽい。
54．暗白色粗砂
55．暗白色細砂　粗砂含む。
56．灰褐色シルト　鉄分含む。
57．灰褐色シルト
58．灰褐色シルト　57より明るい。
59．灰褐色シルト　上部に粗砂含む。
60．灰茶褐色シルト
61．黄灰褐色細砂
62．白色粗砂
63．暗灰色シルトブロック
64．白色細砂　粗砂含む。
65．白色細砂　粗砂含む。
66．白色細砂
67．白色細砂　粗砂含む。
68．暗灰色シルト～細砂
69．白色細砂　粗砂含む。
70．灰白色細砂
71．白色細砂
72．白色細砂
73．灰色細砂
74．白色粗砂　粒子粗い。
75．白色細砂　粗砂含む。
76．白色細砂
77．白色細砂
78．白色粗砂
79．灰褐色粘質土　粗砂含む。
80．白色細砂

0　2m

Fig.20　トレンチ土層図　4（1／50）

Oトレンチ北西壁

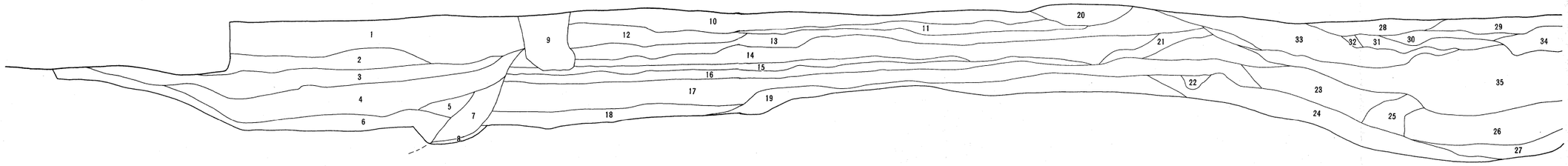
10.0m



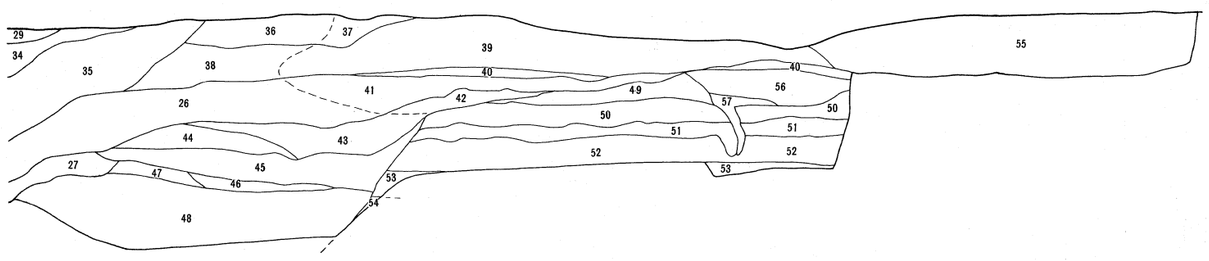
1．灰色シルト
2．暗灰色粗砂
3．黄灰褐色粗砂と灰褐色粗砂の互層
4．明灰褐色粗砂
5．明茶褐色粗砂
6．明灰褐色粗砂　粒子粗い。
7．黄灰褐色細砂と粗砂の互層
8．茶褐色粗砂
9．灰色粗砂　粒子粗い。
10．灰白色粗砂
11．灰白色粗砂
12．黄灰褐色細砂と灰褐色粗砂の互層
13．灰色シルトと灰褐色粗砂の互層
14．灰白色粗砂　灰色シルト含む。
15．灰褐色シルト　上部に鉄分の沈着。
16．黄灰褐色粗砂と暗灰褐色シルトの互層
17．暗灰色シルト
18．明灰色粗砂と黄灰褐色細砂の互層
19．黄灰褐色細砂と明灰褐色砂の互層
20．黄灰白色粗砂　暗灰色シルト含む。
21．黄灰褐色細砂
22．暗灰色シルト　茶褐色細砂含む。
23．明灰色細砂　灰色シルト含む。
24．灰白色粗砂　鉄分、灰色シルト含む。
25．灰白色細砂　鉄分で茶色っぽい。白色粗砂、灰白色シルト含む。
26．暗灰色シルト～粘土
27．灰色粘土　青白色粘土含む。
28．灰色粘土
29．灰色シルト
30．黄褐色細砂　灰白色細砂含む。
31．暗灰色シルト　黄褐色細砂　灰白色細砂含む。
32．灰色細砂　黄褐色細砂含む。
33．暗灰色シルト　黄褐色細砂　灰白色細砂含む。
34．灰色細砂　黄褐色細砂含む。
35．暗灰色シルト　黄褐色細砂　灰白色細砂含む。
36．白色細砂　灰色細砂含む。
37．白色細砂
38．灰色細砂　黄褐色細砂含む。
39．灰褐色粗砂～灰色細砂
40．灰黒色シルト
41．黄灰色細砂　灰白色シルト含む。
42．灰褐色細砂と暗灰色細砂の互層
43．黄灰褐色細砂と暗灰色シルトの互層
44．灰黒色シルト　灰白色細砂含む。
45．灰白色細砂
46．黄褐色砂
47．暗灰色シルト
48．暗灰色シルト　灰白色細砂含む。
49．黄褐色細砂　灰白色細砂含む。
50．灰色シルト　灰白色細砂含む。
51．黄褐色細砂　灰色シルト、灰白色細砂含む。
52．黄褐色細砂と白色細砂の互層
53．暗灰色細砂
54．灰色シルト
55．灰色シルト　灰白色細砂含む。
56．白色粗砂
57．暗灰色シルト
58．白色細砂　暗灰色シルト含む。
59．暗灰色シルト
60．白色細砂
61．暗灰色シルト　暗灰色細砂含む。
62．暗灰色シルトと明灰色細砂の互層
63．暗灰色シルト
64．白色細砂
65．灰白色細砂
66．黄褐色砂
67．灰褐色細砂　灰色シルト含む。
68．灰色シルト～粘土
69．灰白色シルト～細砂　鉄分で茶色っぽい。
70．茶褐色シルト
71．灰色シルトと白色細砂の互層
72．灰白色細砂
73．暗灰色シルト
74．白色細砂と白色粗砂の互層
75．白色細砂と白色粗砂の互層
76．白色細砂と白色粗砂の互層
77．白色細砂と白色粗砂の互層
78．白色粗砂
79．白色粗砂
80．灰色細砂　粗砂含む。
81．灰褐色シルト　鉄分、粗砂含む。
82．茶褐色細砂
83．白色粗砂　鉄分、灰褐色シルト含む。
84．灰色シルト～粘土　鉄分含む。
85．暗灰色シルト
86．灰色シルト　茶褐色細砂含む。
87．白色細砂
88．白色細砂　鉄分含む。
89．白色細砂
90．白色細砂　粗砂含む。
91．灰褐色細砂

Mトレンチ北壁

10.4m



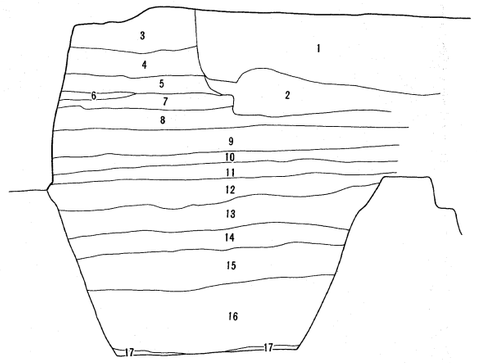
10.4m



1．緑灰色シルト
2．灰茶褐色シルト　鉄分含む。
3．灰茶褐色シルト　粗砂多く含む。　鉄分含む。
4．暗灰色シルト　植物の根が入る。　鉄分含む。
5．暗灰白色細砂
6．白色粗砂
7．青灰色シルト　鉄分含む。
8．暗赤褐色粗砂
9．撹乱
10．緑灰色シルト
11．灰茶褐色粗砂
12．暗緑灰色粘土
13．緑灰色粘土　鉄分含む。
14．灰茶褐色シルト　鉄分で茶色っぽい。
15．灰色細砂　鉄分含む。
16．灰褐色粘土　鉄分含む。
17．灰色シルト～粘土　鉄分含む。
18．暗茶褐色粗砂　灰色シルト含む。
19．灰色粗砂
20．緑灰色シルト　白色粗砂含む。
21．灰茶褐色シルト～灰色シルト　鉄分含む。
22．灰色細砂
23．灰色シルト～粘土　木の枝含む。
24．白色砂
25．黄褐色砂のブロック　灰色シルト含む。
26．暗灰色シルト　植物遺体、炭化物含む。41の変色。
27．灰色シルトと白色粗砂の混合
28．灰色粗砂　緑灰色シルト含む。
29．緑灰色シルト　粗砂多く含む。　SD304
30．灰色細砂　灰色粘土含む。
31．灰黒色粘土
32．灰色粗砂
33．白色砂～粗砂　SD304
34．灰白色砂
35．暗灰色粘土　植物遺体多く含む。
36．青灰色シルト　炭化物、木含む。
37．灰白色シルト　炭化物含む。36の変色。
38．青灰色細砂　39の変色。
39．灰白色細砂　マンガンで暗茶褐色。
40．黄灰色細砂　鉄分で黄色っぽい。
41．灰色シルト　鉄分含む。
42．緑灰色細砂
43．灰色細砂　42の変色。　SD333
44．灰白色粗砂
45．暗灰色シルト
46．灰色細砂
47．白色砂　SD333
48．白色砂
49．青灰色細砂
50．暗灰色粘土
51．黒褐色粘土
52．茶褐色粘土　鉄分含む。
53．青灰色粘土　上部鉄分で黄色っぽい。
54．青灰色、黄灰褐色、茶褐色粗砂　締まりある。
55．灰色シルトと灰白色細砂の互層
56．青灰色シルト　炭化物含む。（SD327）
57．青灰色シルト　暗灰色粘土含む。

Pトレンチ北東壁

10.6m



1．試掘トレンチの埋め戻し
2．試掘トレンチの埋め戻し
3．灰色粗砂層
4．緑灰色砂質土
5．緑灰色シルトと黄灰色細砂の混合
6．緑灰色シルト
7．灰色砂質土　鉄分含む。
8．灰茶褐色シルト　鉄分の沈着あり。
9．灰褐色シルト　鉄分の沈着あり。
10．灰色粘土　砂粒少量含む。
11．黒褐色粘土
12．茶褐色粘土
13．黄灰褐色シルト　粘質。
14．青灰色シルト　鉄分沈着。
15．青灰色シルト　鉄分沈着多い。
16．青灰色シルト
17．黄褐色粗砂

0　2m

Fig.21　トレンチ土層図　5（1／50）

4．発見された遺構と遺物

(1)　A－1区1面・2面

A－1区1面では溝1条と杭列を検出した。1面での遺構存在を気づいたのが遅く、南側と東側はすでに2面まで下げてしまっていたのでこのほかにも遺構が存在した可能性がある。しかし、溝を検出した以降、調査区西側で遺構検出に努めたが、その他には発見できなかった。溝の時期は出土遺物がなく不明であるが、中世であろう。

2面は試掘結果から水田面の存在が想定されていたので、薄く粗砂をかぶった直下のシルト層で調査をおこなった。調査面積は遺構検出面で2,580㎡である。畦かと思われる部分、部分的に足跡かと思える窪みや稲株痕かと思える窪みがあったが、明瞭な水田遺構はみられなかった。水田の存在はプラントオパール分析で確認することにした。

この面では溝6条、河川1条、井戸3基、土坑1基を調査した。古墳時代の後期から中世初頭の遺構群である。南側に遺構が集中するが、かなり希薄な遺構分布である。

Ph.7　A－1区2面全景（南東から）

Ph.8　A－1区2面全景（南西から）

Ph.9　A－1区2面南側（東から）

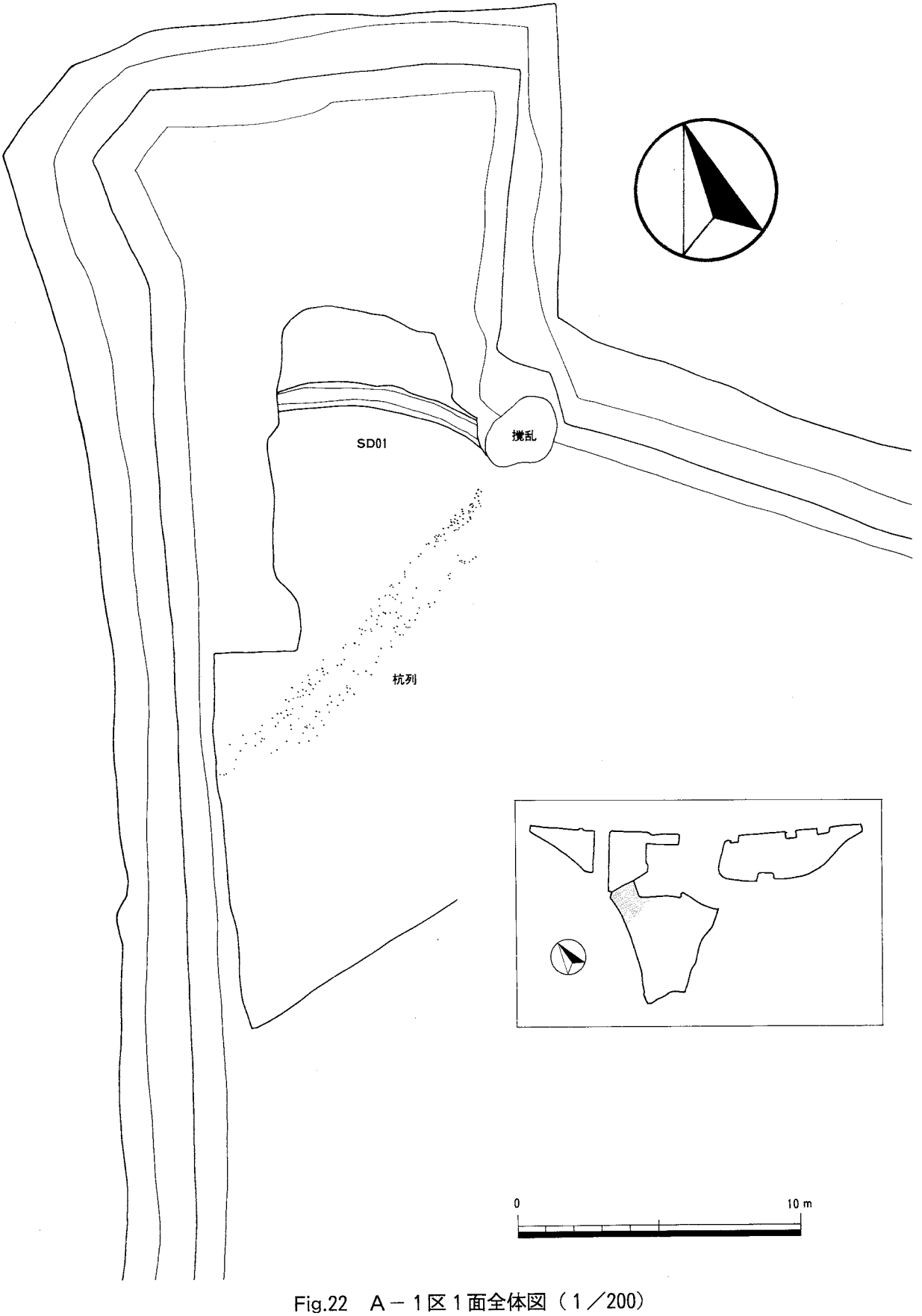


Fig.22　A－1区1面全体図（1／200）

SE02（Fig.23、Ph.10・11・25、Tab.1）

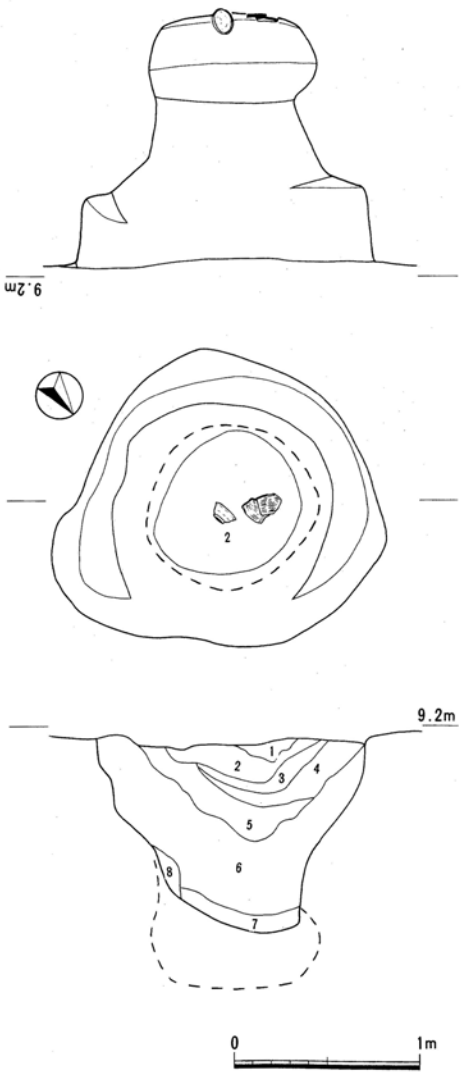
調査区南西寄りで検出した円形素掘井戸である。確認面での上端は径1.6m程度であるが、北側がやや広い。40cm程掘り込んだところで一段テラスをつける。深さは1.3m。暗灰褐色粗砂層に達している。底面の径は80cmであるが、涌水で粗砂層がえぐれている。

出土遺物をFig.25とTab.1に示す。黒色土器A 2は井戸の底から完形で出土した。

10世紀中頃から11世紀初頭の井戸である。

SE07（Fig.24、Ph.12）

調査区南寄りで検出した円形素掘井戸である。SD08を切っている。確認面での上端は径14mである。50cm程掘り込んだところで一段テラスをつける。深さは1.0m。暗灰褐色粗砂層に達している。底面の



1．青色褐色土　砂粒含む。
2．黒褐色シルト
3．青灰褐色土　砂粒含む。
4．5．黒褐色と灰褐色のシルトの互層。
　　更に細かく分類できる。
6．青灰褐色土　砂粒含む。
7．青灰褐色粘土
8．暗灰褐色土

Fig.24　ＳＥ02実測図（１／40）

Ph.10　SE02（北から）

Ph.11　SE02（東から）

径は70cmである。

図示できる出土遺物はない。他の井戸と同様古代の井戸と考えられる。

SE09（Fig.24・25、Ph.13、Tab.1）

調査区南寄りで検出した円形素掘井戸である。東側の上部を攪乱されている。確認面での上端は径2.6mである。北側と南側は40cm程掘り込んだところで、西側は100cm程掘り込んだところで一段テ

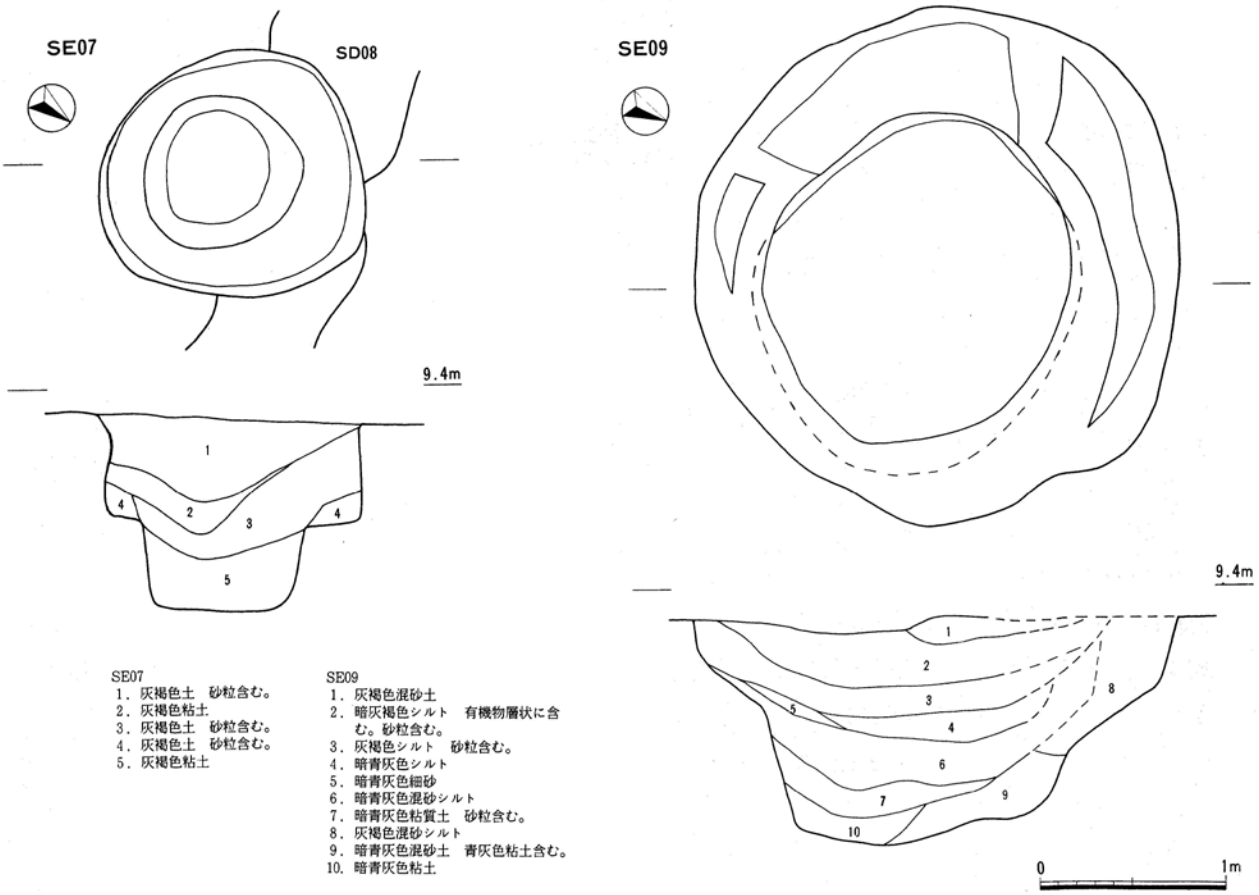
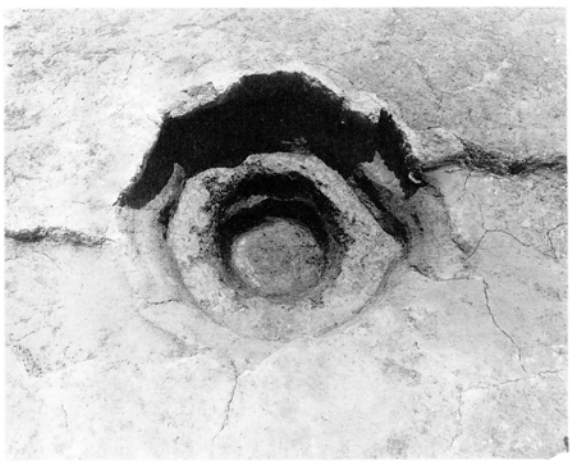


Fig.25　SE07・09実測図（1／40）



Ph.12　ＳＥ07（北西から）

Ph.13　ＳＥ09（北東から）

ラスをつける。深さは1.2m。暗灰褐色粗砂層に達している。底面の径は1.3m程度であったが、涌水で粗砂層がえぐれて1.8m程に拡大してしまった。

出土遺物をFig.25とTab.1に示す。

出土遺物より古代の井戸と考えられるが遺物が少なく細かな時期は不明。

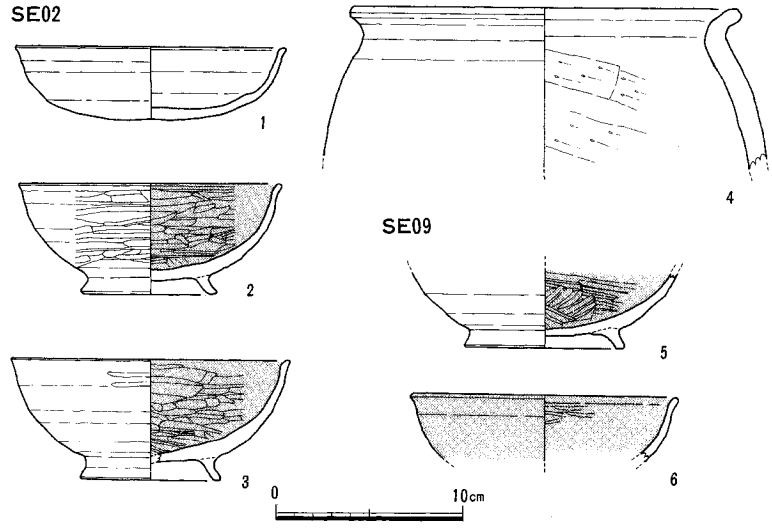


Fig.26　SE02・09出土遺物実測図（1／4）

Tab. 1　SE02・09出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1	土師器・坏	SE02	(14.4)	－	(11.0)	3.9	回転ナデ／回転ナデ	灰褐／黄灰	良好	ヘラ切り、板状痕
2	黒色土器A・椀	SE02	13.9	－	7.2	6.0	ミガキ／ミガキ	黒／褐	良好	
3	黒色土器A・椀	SE02	(14.8)	－	(7.7)	6.4	ミガキ／粗ミガキ	黒／淡褐	良好	
4	土師器・甕	SE02	(20.7)	－	－	[8.6]	ケズリ／回転ナデ	灰褐／灰褐	良好	
5	黒色土器A・椀	SE09	－	－	(8.5)	[4.0]	ミガキ／回転ナデ	暗黒灰／灰褐	良好	
6	黒色土器B・椀	SE09	(14.2)	－	－	[3.5]	ミガキ／回転ナデ	暗黒褐	良好	

SK04（Fig.27・28、Ph.14、Tab.2）

調査区南西寄りで検出した隅丸長方形土坑である。長軸2.5m、短軸1.3m、深さ50cmである。底面は平坦。南隅にほぼ完形の土師器の椀7が据えてあった。土壙墓であろうか。6世紀代の遺構。

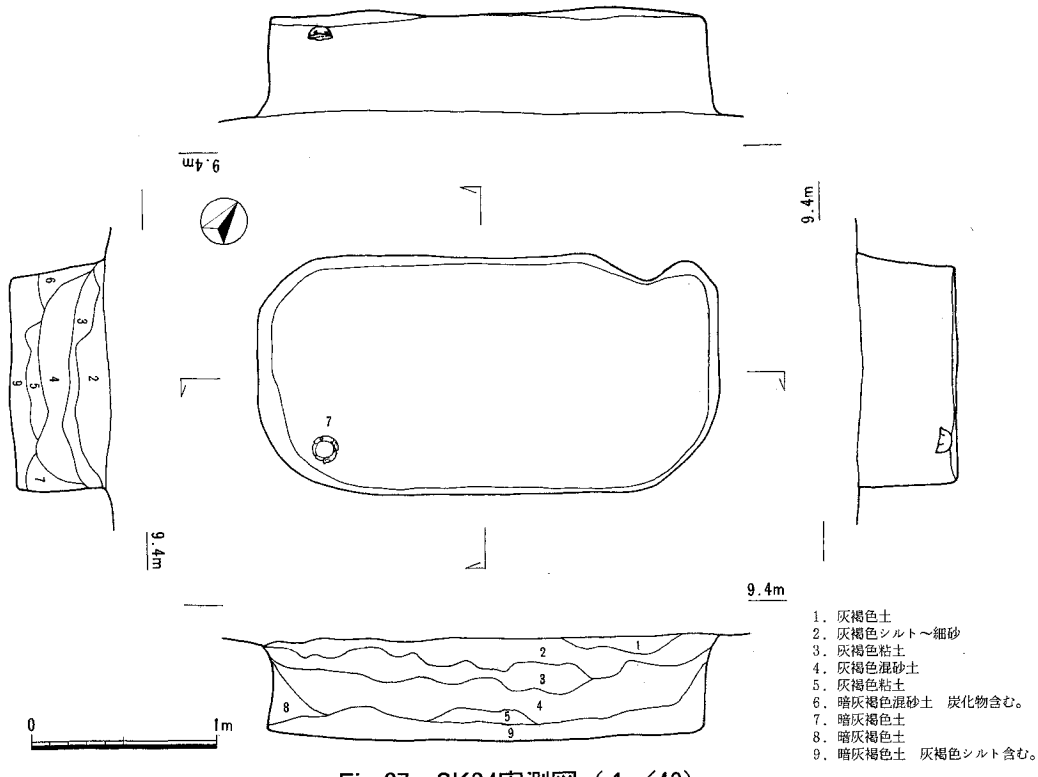


Fig.27　SK04実測図（1／40）

Ph.14　SK04（北西から）

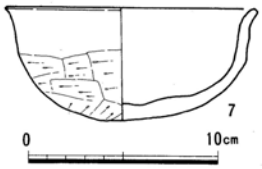


Fig.28　SK04出土遺物
実測図（1／4）

Tab. 2　SK04出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
7	土師器・椀	SK04	14.2	－	－	6.0	摩滅／ケズリ	淡赤褐	不良	

その他の遺構（Fig .30・31、Tab . 3・4）

A－1区1面・2面のその他の遺構の概要をTab . 3に示し、出土遺物をFig .29・30・31とTab . 4に示す。

溝は出土遺物が少なく、また、一部掘りすぎてしまったため、下層の土器の混入もあり、時期決定が難しいが、南寄りに位置する溝群は古墳時代後期の遺構群であると考えられる。SD10は10世紀中頃～11世紀初頭、SD11は11世紀後半～12世紀初頭と考えられる。河川SD13は古墳時代の遺物を多く含むが、黒色土器A27より、古代以降に埋没した河川と考えられる。

SX12は周囲と土が違ったため掘り下げていったものである。土器が出土するので遺構かと思ったが、結局明瞭な壁と床面を確認することができなかった。弥生時代終末～古墳時代前期の遺物が混じっている。

2面土器集中は2面から3面へ重機で掘り下げたときに土師器の集中を調査区東寄りで検出したものである。

Tab. 3　その他のA－1区1・2面の遺構

遺構番号	種　類	遺構の概要	時　期
SD01	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.7～0.9m、深さ10～15cm。8m分確認した。ゆるく湾曲する。	中世？
SD03	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.4～1.3m、深さ10～15cm。7m分確認した。南側は調査区外に伸びる。	
SD05	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.4～1.4m、深さ10～20cm。13m分確認した。南側は調査区外に伸びる。SD06に切られる。	古墳時代後期
SD06	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.2～0.6m、深さ5～20cm、長さ6m。SD05を切る。	
SD08	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.5～0.8m、深さ15～30cm、長さ12m。北側は湾曲する。SE07に切られる。	
SD10	区画溝？	調査区中央部に位置する。幅0.6～1.7m、深さ20～50cm。50m分確認した。直角に屈曲する。SD13に切られる。	10C中頃～11C初
SD11	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.9～1.1m、深さ10～20cm、長さ6m。	11C後半～12C初
SX12	地層の乱れ？	調査区中央部西寄りに位置する。長軸10m以上、短軸5.5m。SD10に切られる。	
SD13	河川	調査区南東部に位置する。北岸を確認。杭が打ち込まれている。粗砂で埋まっている。	古代以降

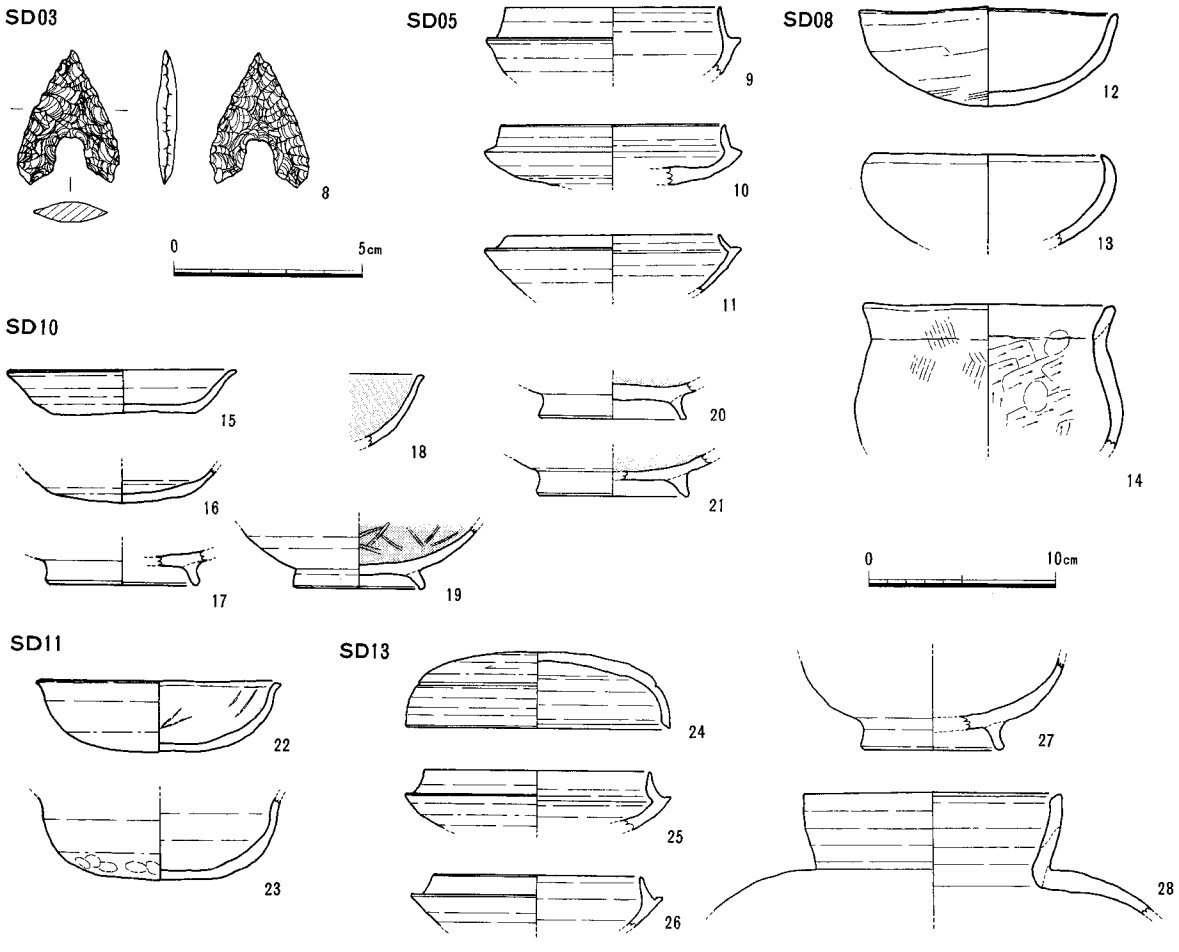


Fig.29　SD03・05・08・10・11・13出土遺物実測図（1／2・ 1／4）

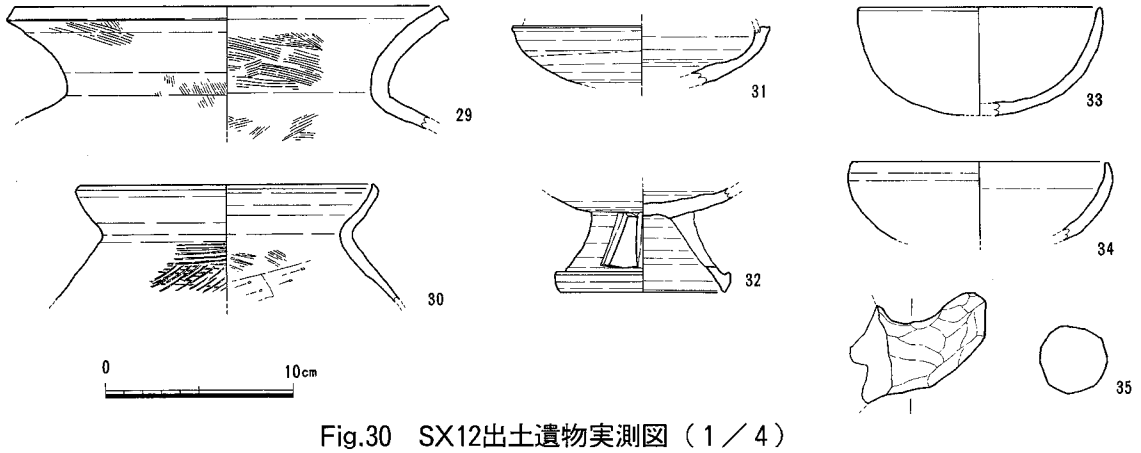


Fig.30　SX12出土遺物実測図（1／4）

Tab. 4　その他のA－1・2面出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備　考
8	石鏃	SD03	3.6	2.6	0.5	3.2	黒曜石、凹基式

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備　考
9	須恵器・坏身	SD05	(11.4)	—	—	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅱ－2
10	須恵器・坏身	SD05	(12.0)	—	—	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ、ヘラ切り未調整	橙灰／灰～橙灰	良好	Ⅱ－2～Ⅱ－3
11	須恵器・坏身	SD05	(11.4)	—	—	[3.1]	回転ナデ／回転ナデ、ヘラ切り未調整	青灰	良好	Ⅱ－3～Ⅱ－4
12	土師器・椀	SD08	13.7	—	—	5.3	ナデ？／ハケ？	浅黄橙～橙	やや良好	
13	土師器・椀	SD08	(12.3)	—	—	[4.8]	摩滅／摩滅	橙	やや良好	
14	土師器・甕	SD08	(13.4)	(14.3)	—	[7.6]	ケズリ、指押え／ハケ	橙～灰黄褐／橙	やや良好	

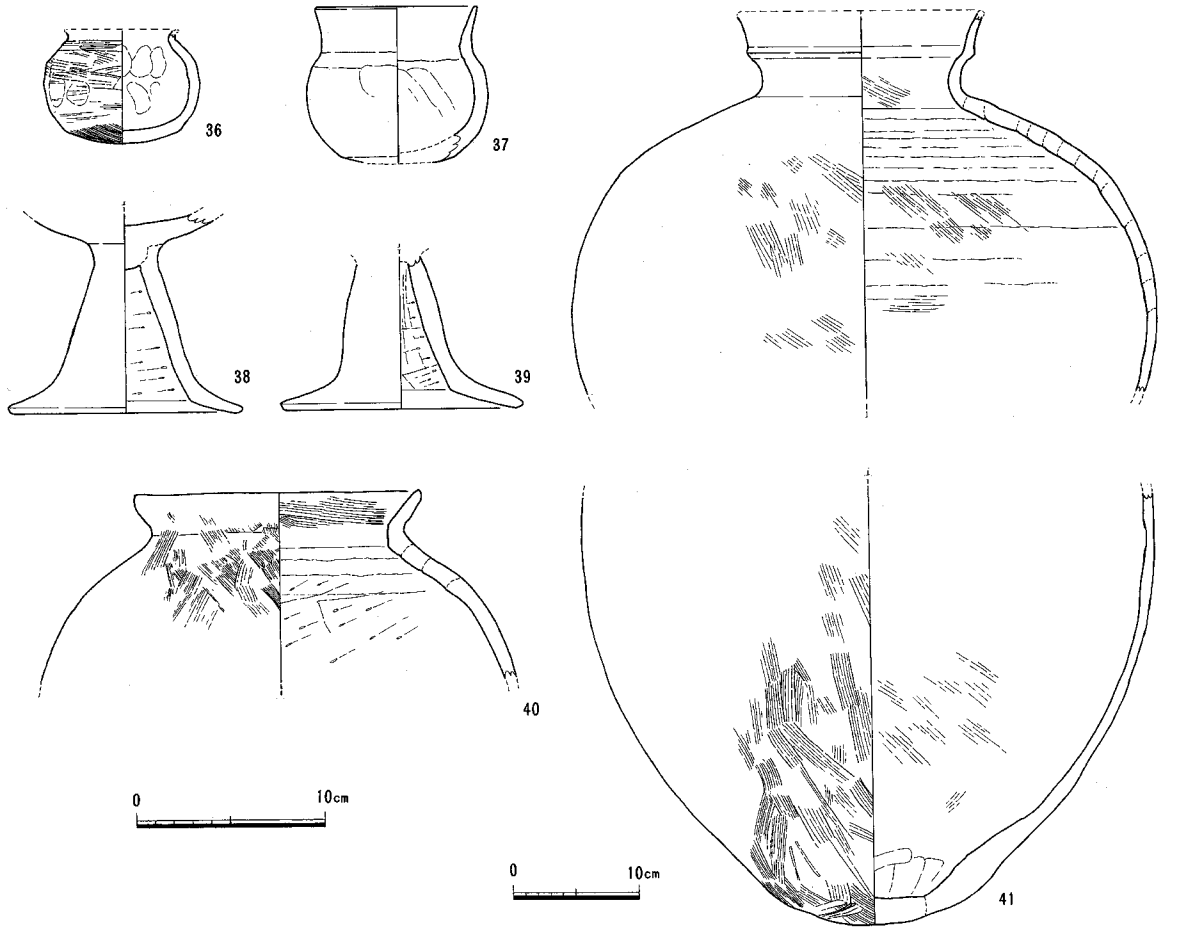


Fig.31　2面土器集中出土遺物実測図（1／4・1／6）

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
15	土師器・坏	SD10	(12.0)	－	(7.6)	2.3	回転ナデ、ナデ／回転ナデ	灰褐	良好	ヘラ切り、板状痕
16	土師器・坏	SD10	－	－	7.2	[1.9]	回転ナデ／回転ナデ	浅灰褐／浅黄褐	良好	ヘラ切り
17	土師器・椀	SD10	－	－	(8.2)	[1.9]	－	浅灰橙	良好	ヘラ切り
18	黒色土器A・椀	SD10	－	－		[3.8]	ミガキ／回転ナデ	黒褐／黒灰～灰褐	良好	
19	黒色土器A・椀	SD10	－	－	7.0	[3.4]	ミガキ／回転ナデ	黒／灰褐	やや不良	
20	黒色土器A・椀	SD10	－	－	7.8	[2.1]	ミガキ／回転ナデ	黒灰／浅橙灰	やや不良	
21	黒色土器A・椀	SD10	－	－	(8.0)	[2.3]	ミガキ／回転ナデ	黒灰／浅橙灰	良好	
22	土師器・丸坏	SD11	(12.9)	－	－	3.8	ミガキ／回転ナデ	黄橙～黄灰	良好	ヘラ切り
23	土師器・丸坏	SD11	－	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ	黄灰～褐灰	良好	ヘラ切り、押し出し、板状痕
24	須恵器・坏蓋	SD13	(14.0)	－	－	4.1	回転ナデ、ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰／明灰	良好	Ⅱ－2～Ⅱ－3
25	須恵器・坏身	SD13	(12.0)	－	－	[3.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	Ⅱ－2～Ⅱ－3
26	須恵器・坏身	SD13	(11.1)	－	－	[2.7]	回転ナデ／回転ナデ	茶灰／灰	良好	Ⅱ－2～Ⅱ－3
27	黒色土器A・椀	SD13	－	－	(7.7)	[5.0]	ミガキ／回転ナデ	暗黒灰／淡灰褐	良好	
28	土師器・壺	SD13	(13.9)	－	－	[6.5]	ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	
29	弥生土器・壺	SX12	(23.5)	－	－	[6.5]	ハケ、ナデ／ハケ、ナデ	黄灰～灰褐	良好	弥生後期後半
30	土師器・甕	SX12	(16.1)	－	－	[6.2]	頸部ナデ、胴部ケズリ／タタキ	黄灰／黄灰～黒褐	良好	庄内式土器
31	須恵器・高坏	SX12	－	－	－	[3.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰	良好	
32	須恵器・高坏	SX12	－	－	(9.3)	[5.5]	坏底部・脚部回転ナデ／坏底部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ	灰／明青灰	良好	Ⅰ－5、3方透かし
33	土師器・椀	SX12	(13.0)	－	－	5.7	ナデ／ナデ	明橙灰	良好	
34	土師器・椀	SX12	(13.6)	－	－	[4.1]	ナデ／ナデ	明橙灰	やや不良	
35	土師器・甑把手	SX12	－	－	－	－	ナデ、指押え	橙灰	良好	
36	土師器・小壺	土器集中	(6.0)	－	－	[6.0]	ナデ、指押え／ハケ、指押え	淡褐	良好	
37	土師器・小壺	土器集中	(8.6)	－	(6.0)	8.3	ナデ／摩滅	淡褐	良好	
38	土師器・高坏	土器集中	－	－	(13.4)	－	脚部ヘラケズリ／摩滅	淡赤褐	良好	
39	土師器・高坏	土器集中	－	－	(12.8)	[8.0]	脚部ヘラケズリ／摩滅	明橙	不良	
40	土師器・甕	土器集中	(15.2)	－	－	[10.0]	口縁部ハケ、胴部ケズリ／ハケ	淡褐	良好	
41	土師器・甕	土器集中	(19.8)	－	－	－	ハケ、ナデ、底部指押え／ハケ、ナデ	淡褐～赤褐	良好	

(2)　A－1区3面

2面調査終了後、土層の確認のため設定したトレンチの1つから土器が多量に出土し、また、調査区東側にある自然河川と思われる部分からも土器が多量に出土することから3面目の調査面を設定した。最初は土器が出る部分のみを対象にするつもりであったが、広げていくうちに竪穴住居が多数検出され、最終的には全面を調査することになった。調査面積は遺構検出面で2,540㎡である。当初想定していなかった面の調査であったが、この部分が今回の調査の中心となった。河川からの涌水は激しく、ポンプの調子が悪いとすぐ水没してしまい調査を困難にした。

遺構検出面は標高9.0m前後である。しかし遺構面がやわらかいシルト～細砂であった中央付近は若干下げすぎてしまった。この部分の遺構はプランが見分けにくく調査が難しかった。その他の南西部と東部は比較的安定した緑灰色の締まりのあるシルトが遺構検出面である。

検出した遺構は掘立柱建物3棟、竪穴住居30軒、溝4条、河川1条、谷頭2ヶ所である。溝1条を除いて古墳時代中期の終りから後期の初めにかけて（5世紀後半～6世紀初頭）の遺構群である。この時期の集落が発見されるのは福岡市内ではきわめて珍しい。

遺物は河川SD14、谷頭SX15を中心に須恵器・土師器・石製品などが多量に出土した。特に第1型式後半の定型化した初期の須恵器の出土は貴重である。また、滑石製子持勾玉5点や我が国最古級の木製鞍など重要な出土品がみられた。

Ph.15　A－2区3面全景（南西から）

Ph.16　A－2区3面全景（上が北東）

Ph.17　A－2区3面南側（西から）

Ph.18　A－2区3面南側（南東から）

SB51（Fig .33　Ph .19）

調査区北寄りに位置する２間×２間の総柱の掘立柱建物である。粗砂層を掘り込んでいる。建物規模は１辺4.0mである。柱穴堀方は径30～40cmの円形である。南北の中央の柱筋には中間に補助の柱穴と思われる小ピットがある。

SB54（Fig .33）

調査区中央西寄りで検出された掘立柱建物である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。南北は東側で２間分、東西は南側で１間分確認された。西側は発掘区外に伸びると考えられる。SC45と重複している。SC45に切られていると思われる。東西方向中央の柱筋が歪んでいる。建物規模は南北4.0m、東西は１間分で0.9mである。SB51とほぼ同規模である。柱穴の堀方は径40～60cmの円形である。SP18は柱材が残存していた。

SB55（Fig .33）

調査区南西寄りで検出された掘立柱建物である。灰黒色粘土層を掘り込んでいる。２間の東側の柱筋を確認しただけである。西側は発掘区外に伸びると考えられる。SX15と重複している。SX15調査後に検出したが、SX15を切っているかもしれない。建物規模は南北3.4mで他の２棟より小規模である。柱穴の堀方は20～40cmの円形である。SP21とSP22には柱材が残存していた。

SC16（Fig .34・35、Ph .20、Tab . 5）

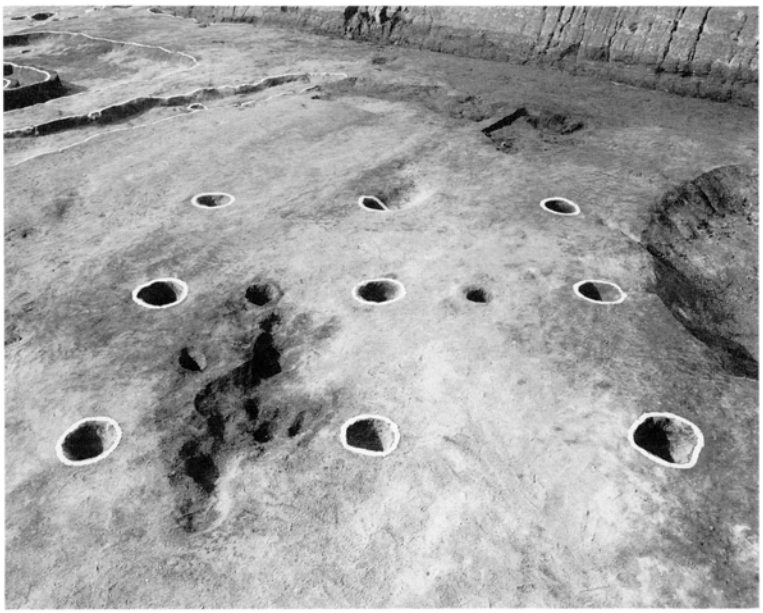
調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は調査区外に伸びる。東西5.6m、南北は調査区内の東辺で4.7m確認できた。残存壁高は25cmである。西側はSC17を切っている。また、２面検出の遺構SE02に切られる。柱穴は北側２穴を検出した（SP 161・162)。４本柱の住居であると考えられる。そのほか住居に付随するものか不明であるが、４基のピットを床面上で確認した。

出土遺物をFig .35とTab . 5 に示す。このほかミニチュア土器872が出土している。

SC17（Fig .36・37、Ph .21・22、Tab . 6）

調査区南西寄りに位置する方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は調査区外に伸びる。東側はSC16に切られている。西側はSC18を切る。東西は北辺で3.4m、南北は西辺で3.2m確認できる。南辺が東側で大きく南へ開いており、プランの確認ミスか、SC16もしくは別の遺構の切り合いがあったかもしれない。ただし北辺も柱筋に比べて若干東側が開いており、元々いびつであった可能性もある。残存壁高は10cmである。柱穴は４ヶ所確認できた（SP 171・172・173・174)。柱穴の位置から東西規模は3.7m程度と想定される。また、北辺東寄りに土師器甕49が落ち込んでいた浅いピット（SP175）を１基検出した。

出土遺物をFig .37とTab . 6 に示す。



Ph.19　SB51（北東から）

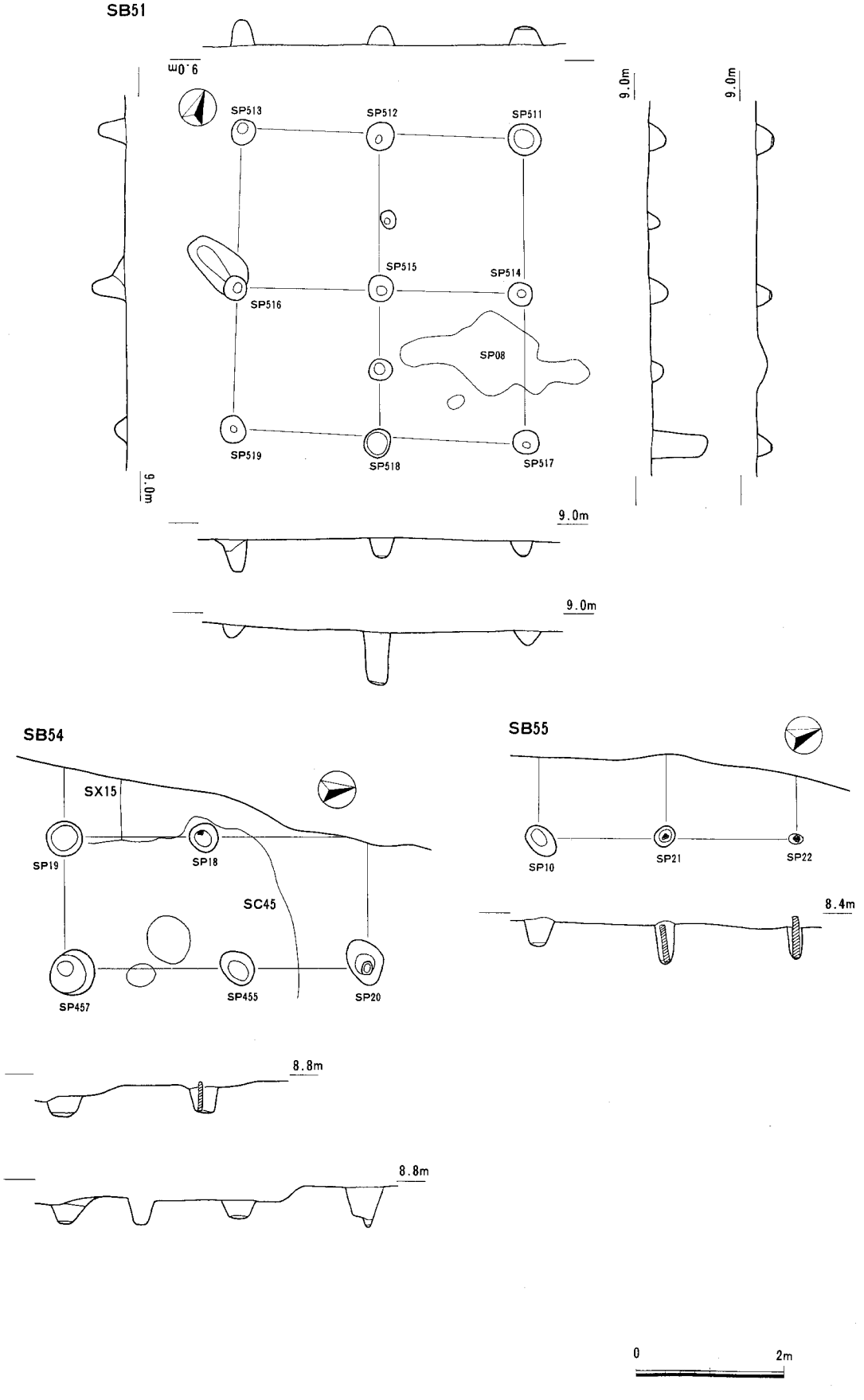


Fig.33　SB51・54・55実測図（1／80）

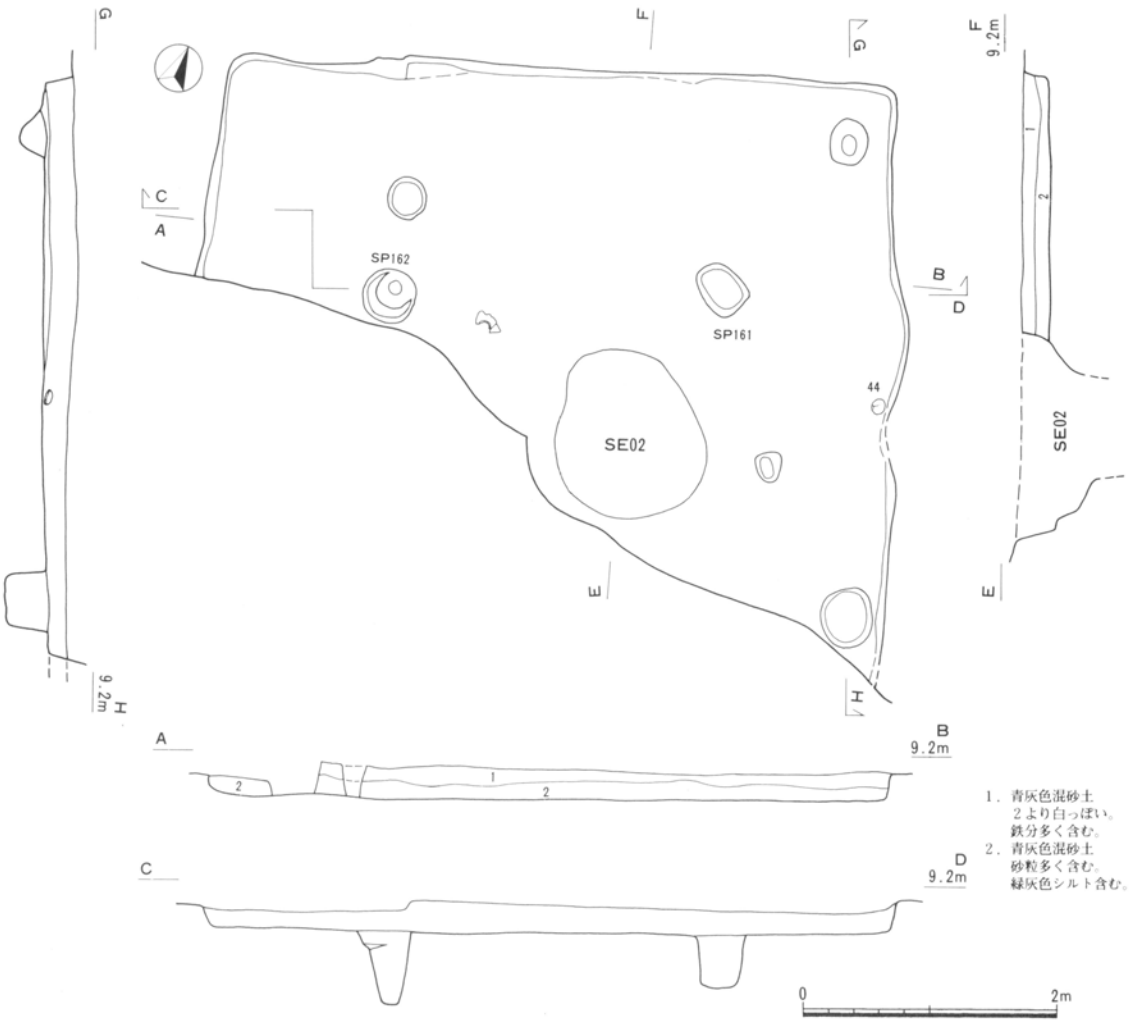


Fig.34　SC16実測図（1／60）

Ph.20　SC16（北西から）

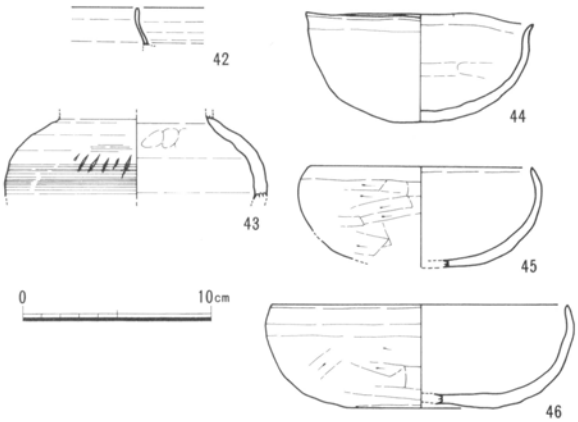


Fig.35　SC16出土遺物実測図（1／4）

Tab. 5　SC16出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
42	須恵器・坏身	SC16	－	－	－	－	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	Ⅱ－1～
43	須恵器・甕	SC16	－	(13.9)	－	[4.4]	頸部ナデ・指押え、体部回転ナデ／回転ナデ、刺突文、カキ目	灰	良好	
44	土師器・椀	SC16	11.5～12.0	－	－	5.8	ナデ／摩滅	褐～赤褐	やや不良	
45	土師器・椀	SC16	11.6	－	－	[5.3]	摩滅／ケズリ	茶褐	良好	
46	土師器・椀	SC16	(15.6)	－	－	5.5	ナデ？／ケズリ	淡褐～暗褐	やや不良	

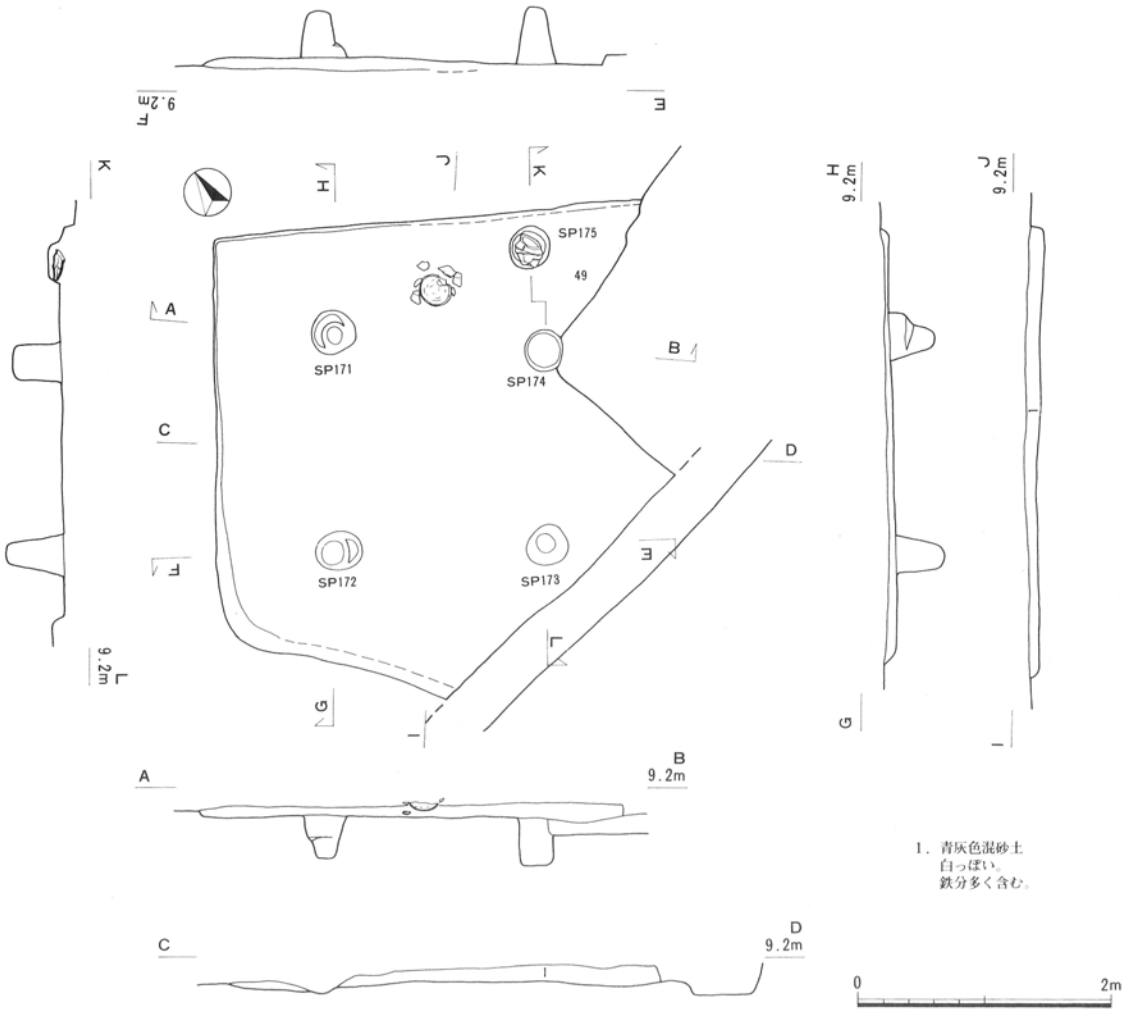


Fig.36　SC17実測図（1／60）

Ph.21　SC17（北から）

Ph.22　SC17遺物出土状況（西から）

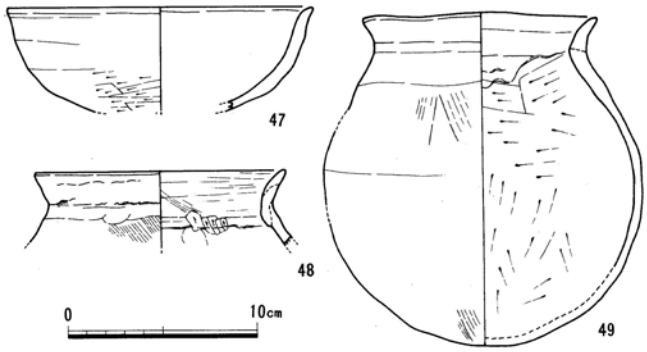


Fig.37　SC17出土遺物実測図（1／4）

Tab. 6　SC17出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
47	土師器・椀	SC17	(16.1)	－	－	[5.5]	ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	灰黄～橙	やや良好	
48	土師器・甕	SC17	(13.2)	－	－	[4.1]	ナデ／ハケ、ナデ	橙～灰褐／浅橙	やや良好	
49	土師器・甕	SC17	12.3	16.8	－	17.7	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	黄橙～黒褐／橙～褐灰	やや良好	

SC18（Fig .38、Ph .23）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。大半が調査区外に伸びる。東側はSC17に切られる。発掘区内では東西は北辺で4.0m、南北は東辺で1.2mが確認できた。残存壁高は10cm。西側は削平が著しく、壁が残っていない。柱穴は１ヶ所しか確認できなかった。北西の柱穴が調査区内で確認できていないので東西の規模は4.4m以上ある。

図示できる遺物は出土しなかった。

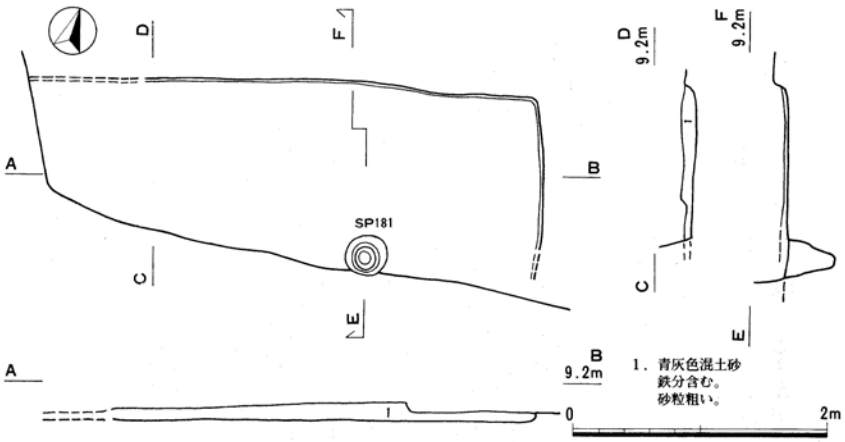
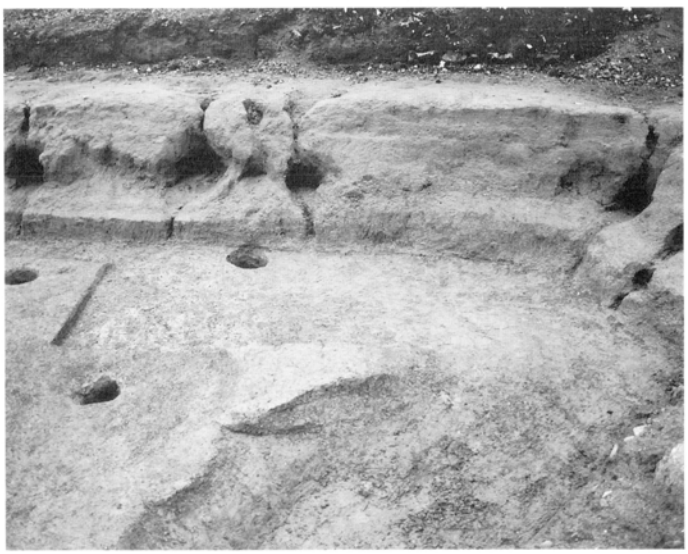


Fig.38　SC18実測図（1／60）



Ph.23　SC18（北西から）

SC19（Fig.39・40、Ph.24、Tab.7）

調査区南西寄りに位置する方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は調査区外に伸びる。SC20・SC21を切る。東西4.0m、南北は東辺で3.0m確認できる。残存壁高は25cmである。柱穴は北側2ヶ所を確認した。北西の柱穴（SP191）は浅く、掘り足りなかったかもしれない。南東の発掘区際でピットの一部を確認しており、柱穴の可能性が高い。そうすると南北の規模は3.6mと想定される。東壁際に楕円形の深さ7cmの浅い土坑を検出した。

出土遺物をFig.40とTab.7に示す。

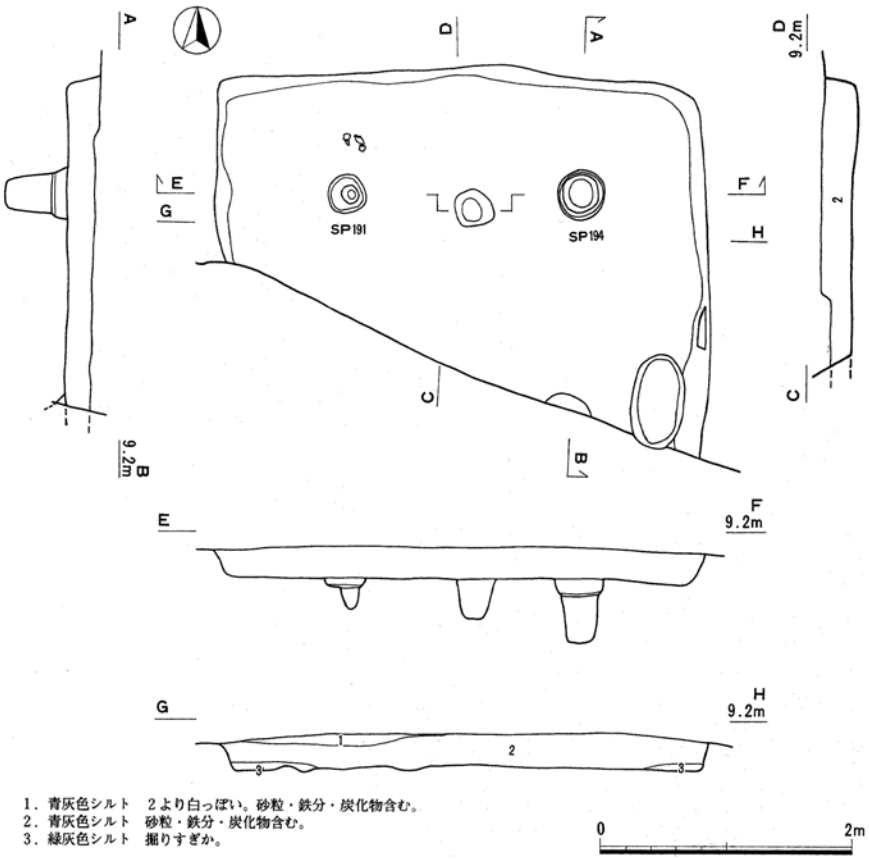


Fig.39　SC19実測図（1／60）

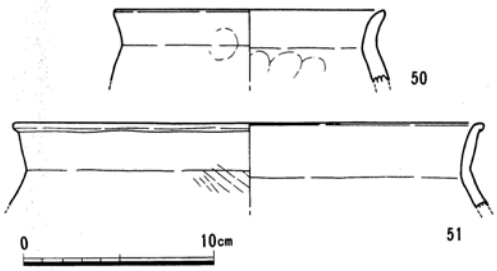
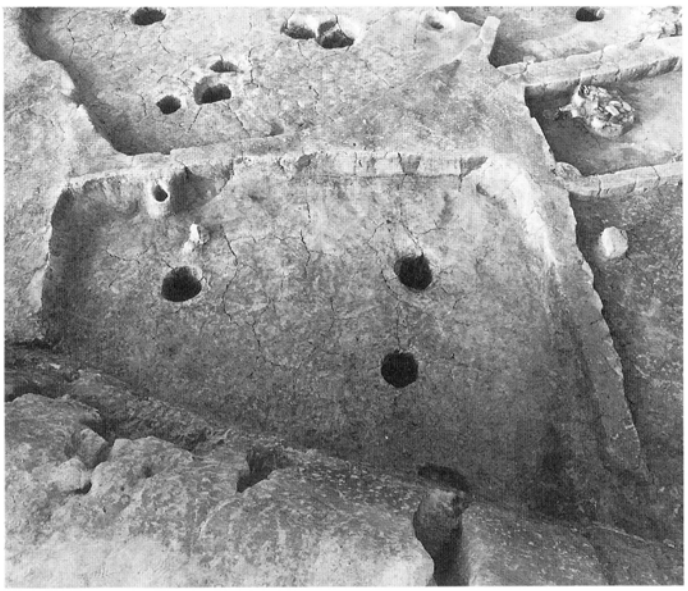


Fig.40　SC19出土遺物実測図（1／4）



Ph.24　SC19（南から）

Tab.7　SC19出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
50	土師器・甕	SC19	(14.4)	－	－	[3.7]	ナデ？、指押え／頸部指押え？	黄橙／浅黄橙～橙	やや良好	
51	土師器・甕	SC19	(24.9)	－	－	[4.5]	ケズリ？／ハケ	黄橙～灰白／橙～浅黄橙	やや良好	

SC20（Fig.41・42、Ph.25、Tab.8）

調査区南西寄りで確認した隅丸方形の竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。東側は2面の遺構SK04、南側はSC19に切られ、北側はSK23、西側はSC26を切る。規模は北西－南東4.1m、北東－南西4.0mである。残存壁高は30cmである。柱穴は6ヶ所で確認した。東側と南側の柱穴が2ヶ所あり、建て替えがあったものと思われる。そのほかにもピットがみられるが、

Ph.25　SC20（北東から）

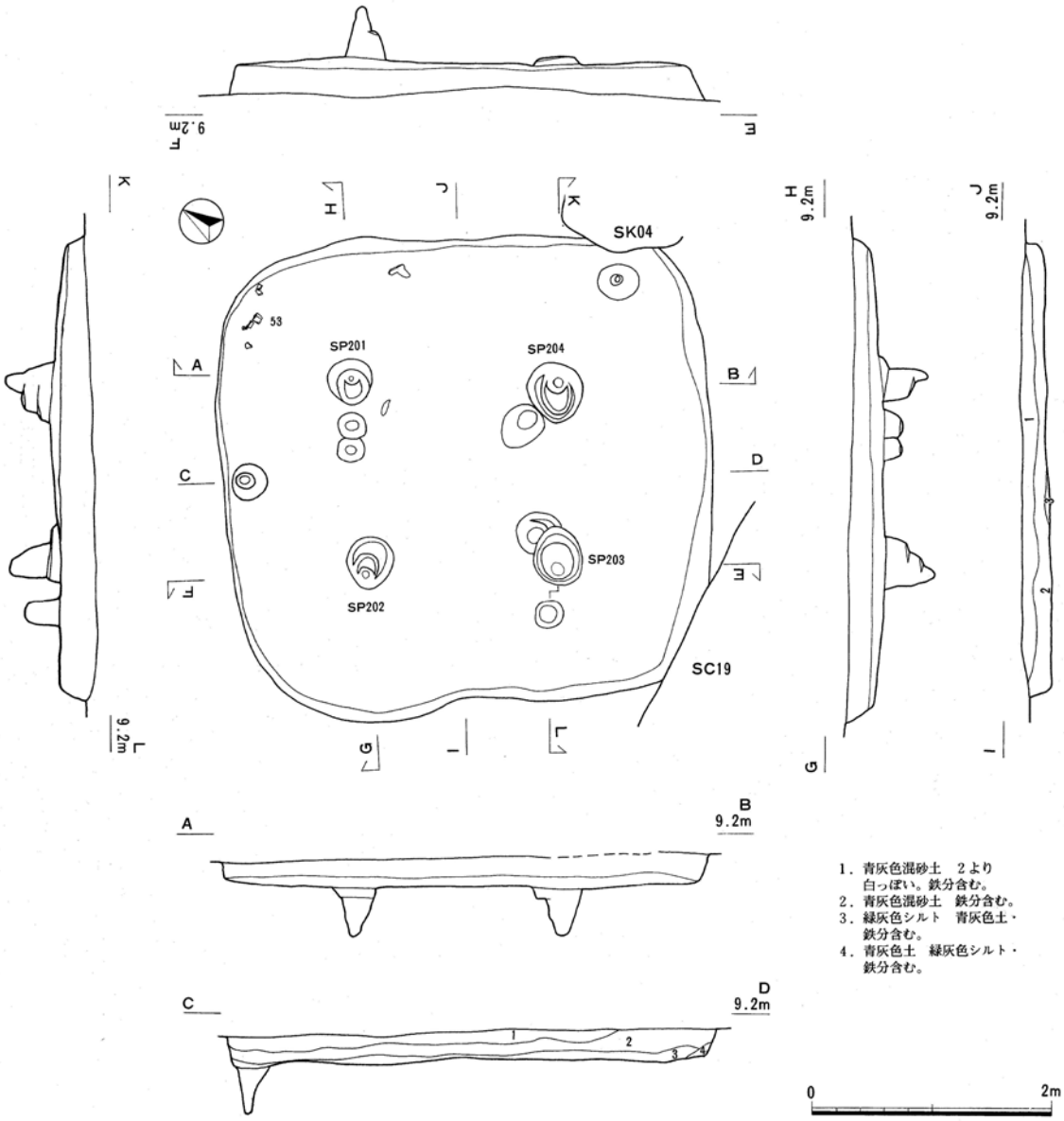


Fig.41　SC20実測図（1／60）

SC20に付随するものか不明である。北西壁際中央のピットはSC26の柱穴（SP267）と同位置であり、SC26の柱穴の一部を掘ったのかもしれない。

出土遺物をFig.42とTab.8に示す。このほか滑石製臼玉901が出土している。

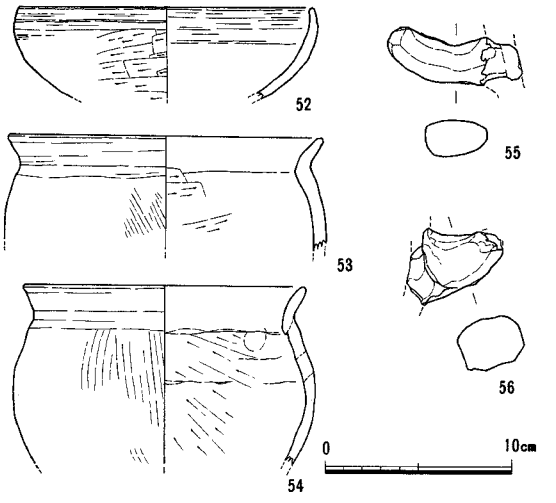


Fig.42　SC20出土遺物実測図（1／4）

Tab.8　SC20出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
52	土師器・椀	SC20	(15.7)	－	－	[4.9]	ナデ／ケズリ	黄橙～橙／橙	良好	
53	土師器・甕	SC20	(16.7)	－	－	[6.0]	ケズリ／ハケ	灰黄橙～橙	やや良好	
54	土師器・甕	SC20	(15.0)	(16.0)	－	[9.5]	ケズリ／ハケ	灰黄褐／橙	やや良好	
55	土師器・甑把手	SC20	－	－	－	－	ナデ	浅黄橙／灰白	やや良好	
56	土師器・甑把手	SC20	－	－	－	－	ナデ	橙	やや良好	

SC21（Fig.43・44、Ph.26、Tab.9）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は発掘区外に伸びる。SC19に切られ、SC22・30を切っている。確認された規模は北辺2.1m、東辺4.4mである。残存壁高は15cmである。柱穴は北側2ヶ所が確認された（SP211・212）。北西柱穴SP212はSC19の床面で確認した。柱穴の位置関係から東西の規模は4.6mと想定される。また、南東の柱穴が調査区内で見つかっていないことから南北規模は5.0m以上と想定される。東壁際に深さ10cmの浅い土坑を確認した。

出土遺物をFig.44とTab.9に示す。

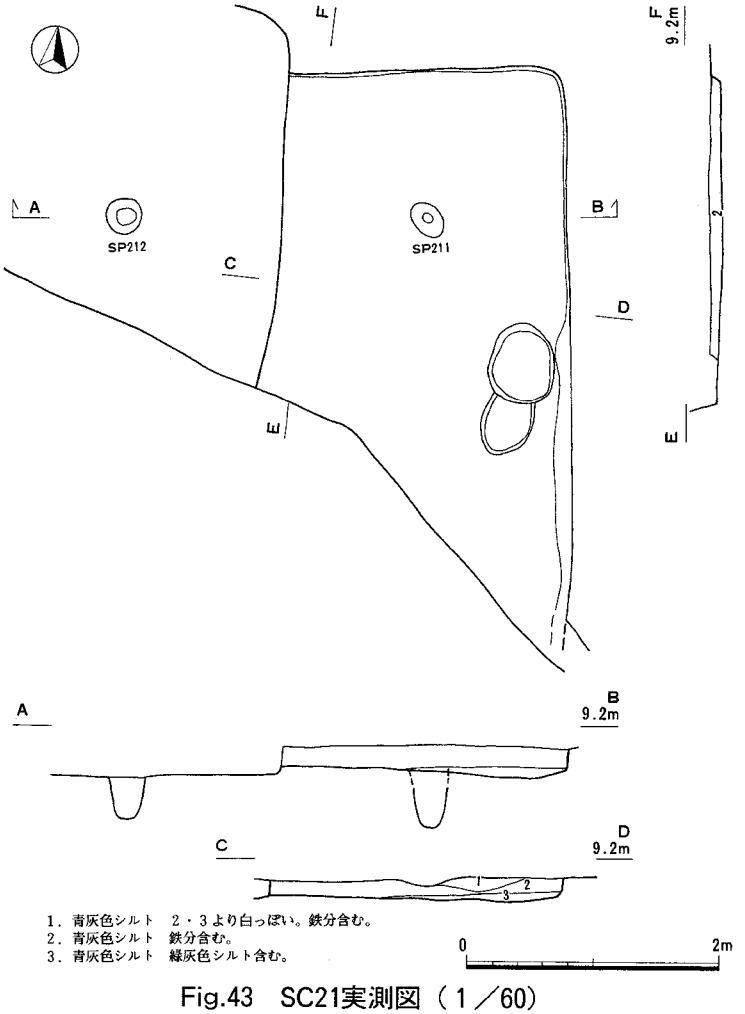


Fig.43　SC21実測図（1／60）

Ph.26　SC21（北東から）

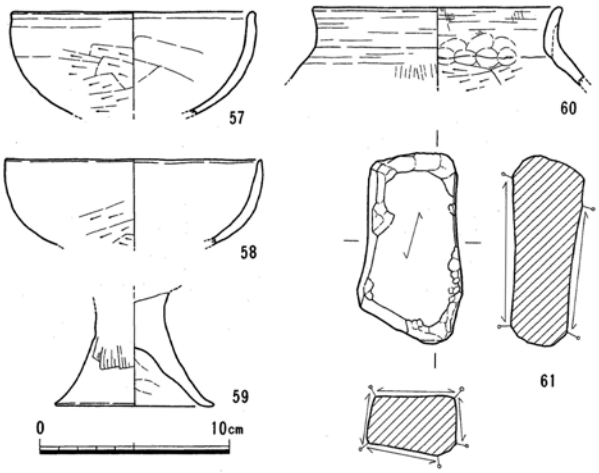


Fig.44　SC21出土遺物実測図（1／4）

Tab. 9　SC21 出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
57	土師器・椀	SC21	(13.9)	－	－	[5.5]	ナデ／ケズリ	灰黄～黄橙	良好	
58	土師器・椀	SC21	(13.6)	－	－	[4.6]	ナデ？／ケズリ	黄橙／橙	やや良好	
59	土師器・高坏	SC21	－	－	(8.5)	[6.0]	ナデ／板ナデ	褐	やや不良	
60	土師器・甕	SC21	(13.1)	－	－	[4.2]	頸部指押え、胴部ケズリ／ハケ	黄橙～灰黄褐／橙	やや良好	

番号	種　類	出土位置	法量（cm・g） 長さ	幅	厚さ	重量	備考
61	砥石	SC21	10.1	5.5	3.8	283	砂岩、5面使用

SC22（Fig .45・46、Ph .27、Tab .10）

調査区南寄りで確認された遺構で、方形の竪穴住居であると思われる。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は発掘区外へ伸びる。西側はSC21に、南側は2面で確認した河川SD13に切られる。SD29を切る。北東部のコーナーはプランが確認できなかった。確認された規模は北辺で東西4.2m、東辺で南北2.1mである。残存壁高は10cmである。柱穴は確認できなかった。

出土遺物をFig .46とTab .10に示す。

SC24（Fig .47・48、Ph .28・29、Tab .11）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層とその下層である暗褐色粘質土を掘り込んでいる。規模は東西4.8m、南北6.0mの長方形を呈する。残存壁高は20cmである。SK23に切られ、SC25を切る。柱穴は4ヶ所確認した。すべて2段掘りになっている。東側の柱穴間の中央に小ピットが確認された。西壁際の中央に白色粘土を確認した。カマドの構築材かと考えられる。この付近に遺物の集中

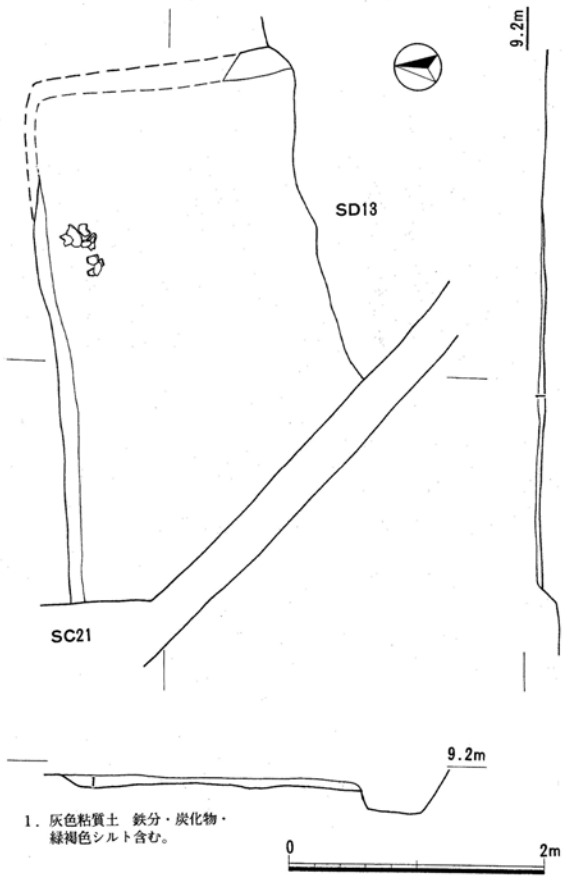


Fig.45　SC22実測図（1／60）

Ph.27　SC22（北東から）

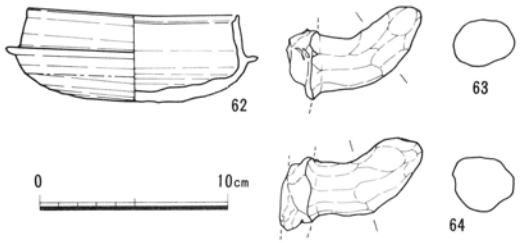


Fig.46　SC22出土遺物実測図（1／4）

Tab.10　SC22 出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
62	須恵器・坏身	SC22	(11.3)	－	－	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰色	良好	Ⅰ－5～（Ⅱ－1）
63	土師器・甑把手	SC22	－	－	－	－	ナデ	灰白～黄橙	やや良好	
64	土師器・甑把手	SC22	－	－	－	－	ナデ	灰白～黄橙	やや良好	

Ph.28　SC24（北東から）

もみられた。

出土遺物をFig .48とTab .11に示す。

須恵器坏身66はSC40出土須恵器と接合した。

Ph.29　SC24カマド（東から）

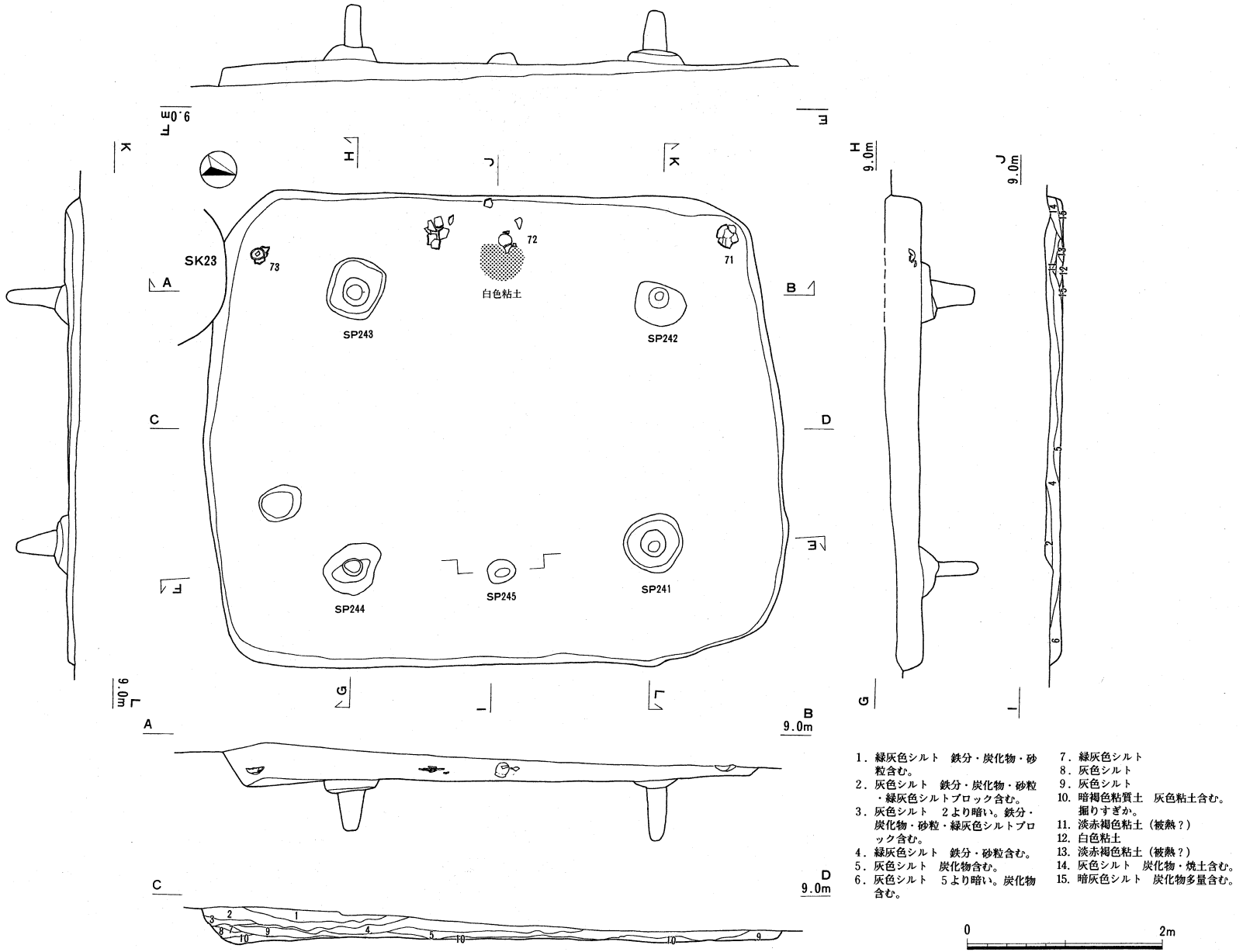


Fig.47　SC24実測図（1／60）

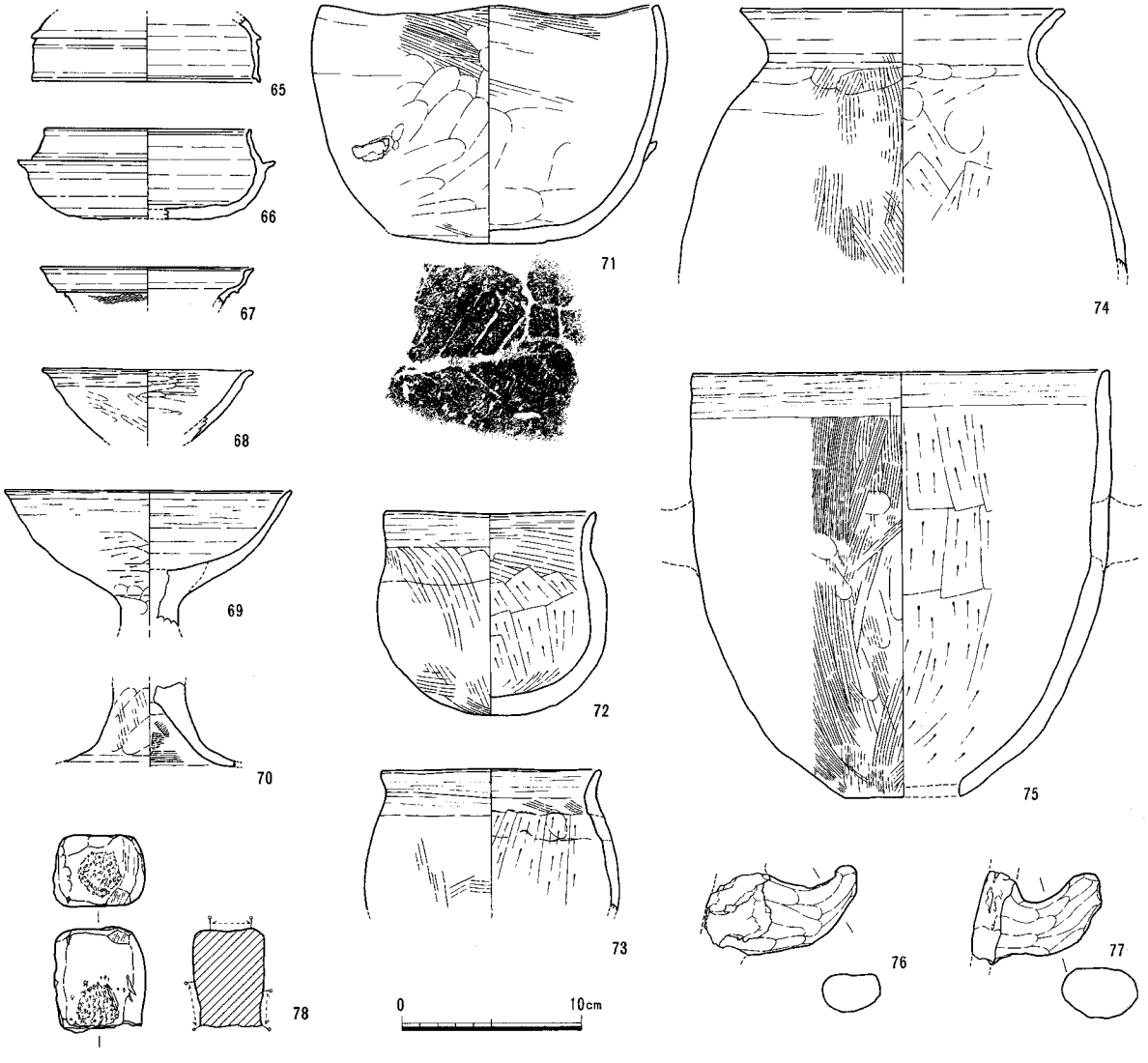


Fig.48　SC24出土遺物実測図（1／4）

Tab.11　SC24 出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
65	須恵器・坏蓋	SC24	(12.6)	—	—	[3.7]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	Ⅰ－3
66	須恵器・坏身	SC24	(11.5)	—	—	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰褐	良好	Ⅰ－5 SC40と接合
67	須恵器・甕	SC24	(11.8)	—	—	[2.1]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰～灰白	良好	
68	土師器・高坏	SC24	(11.7)	—	—	[4.0]	ミガキ／ミガキ	橙	良好	
69	土師器・高坏	SC24	(17.8)	—	—	[7.5]	板ナデ／ケズリ、頸部ナデ	浅黄橙～橙／浅橙～淡赤橙	良好	
70	土師器・高坏	SC24	—	—	—	[4.7]	板ナデ／ハケ、ナデ	橙～浅黄橙	良好	
71	土師器・鉢	SC24	(18.7)	—	—	13.2	ハケ、ナデ／ハケ、ナデ	灰白～浅黄橙／橙～赤褐	やや良好	外底木葉圧痕
72	土師器・鉢	SC24	11.8	—	—	11.3	頸部ハケ、胴部板ナデ？／ハケ	橙	やや良好	
73	土師器・鉢	SC24	12.3	—	—	[7.8]	頸部ハケ、胴部ケズリ／ハケ	褐灰～灰黄褐／橙～黄褐	やや良好	
74	土師器・甕	SC24	(18.1)	—	—	[25.0]	頸部ナデ、胴部ケズリ／頸部ナデ、胴部ハケ	黄橙～灰黄／黄橙～橙	やや良好	
75	土師器・甑	SC24	(23.3)	—	—	[23.5]	頸部ナデ、胴部ケズリ／頸部ナデ、胴部ハケ	黄橙～灰白／灰白～褐灰	やや良好	単孔
76	土師器・甑把手	SC24	—	—	—	—	ナデ	黄灰～黄橙	良好	
77	土師器・甑把手	SC24	—	—	—	—	ナデ	灰白～褐灰	良好	

番号	種　類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
78	凹石	SC24	[5.8]	5.1	[4.0]	190	花崗岩、3面使用

SC25（Fig.49・50、Ph.30～32、Tab.12）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層とその下層である黒褐色粘土層を掘り込んでいる。北西隅が発掘区外に伸びる。東壁はSC24に切られる。規模は東西が北辺付近で4.7m、南辺付近で5.1m以上、南北が5.4mである。残存壁高は残りのよい南西隅で20cmである。柱穴は6ヶ所確認した（SP251～256）。住居は 4本柱と思われ、東側に拡張がおこなわれたと考えられる（SP255→SP251・SP256→SP254）。西壁際中央部に遺物の集中がみられ、土層も炭化物や焼土を含んでいる。カマドの痕跡と考えられる。

出土遺物をFig.50とTab.12に示す。

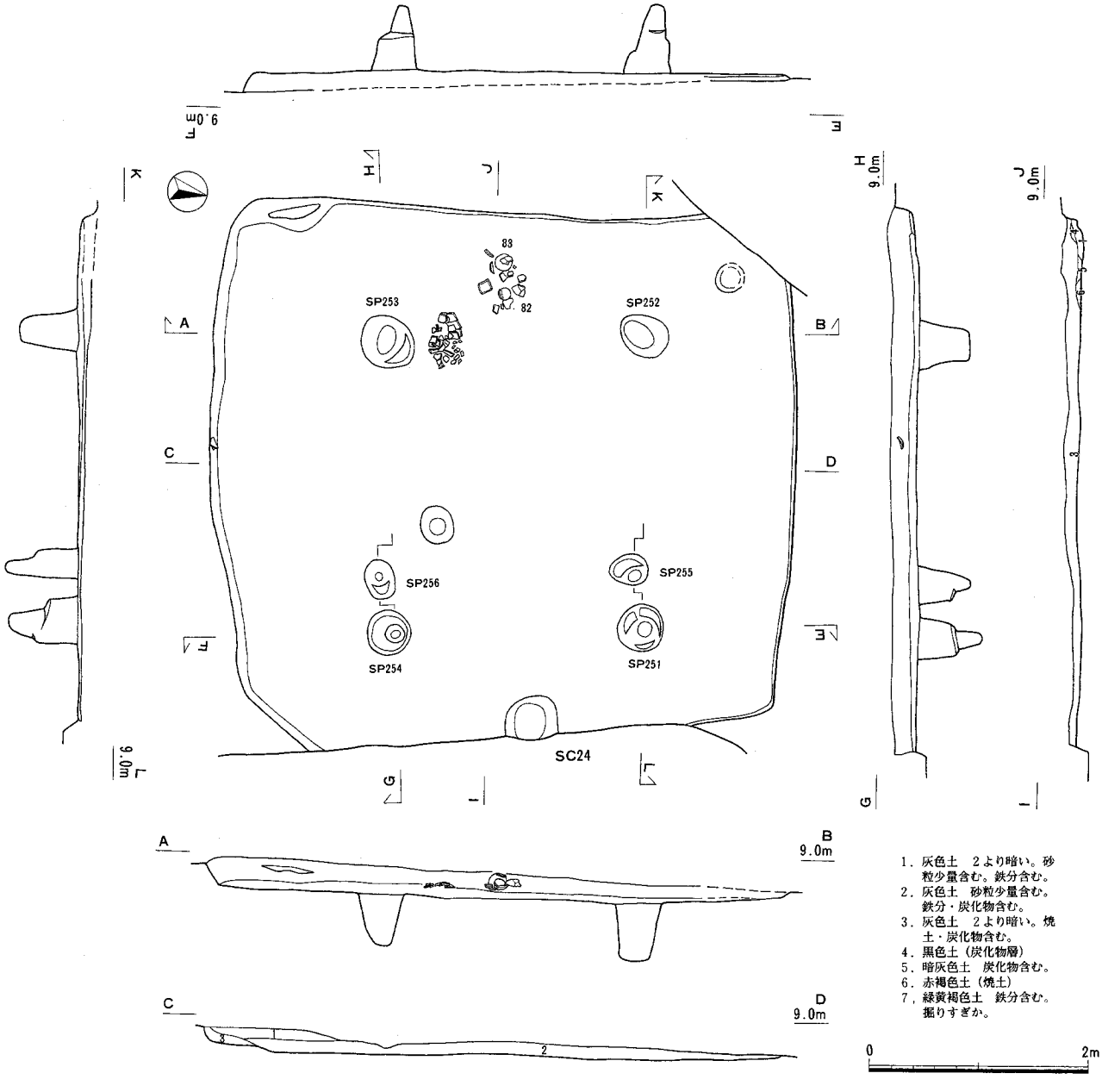
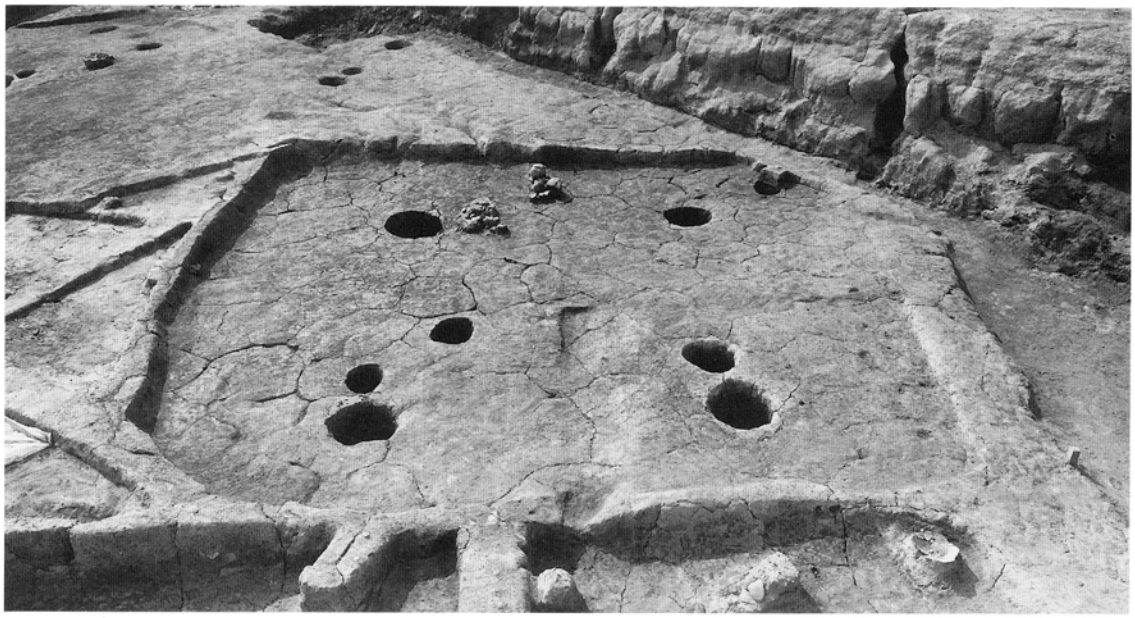
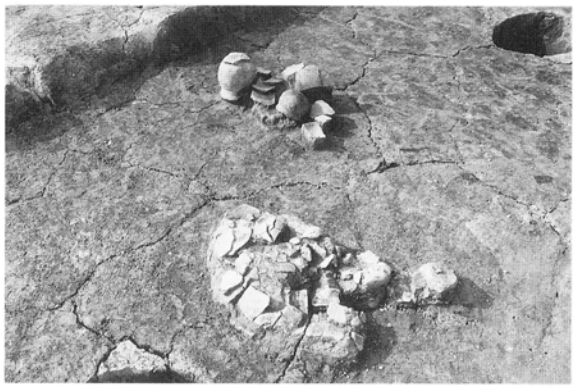


Fig.49　SC25実測図（1／60）



Ph.30　SC25（北東から）



Ph.31　SC25遺物出土状況（南東から）

Ph.32　SC25遺物出土状況（北西から）

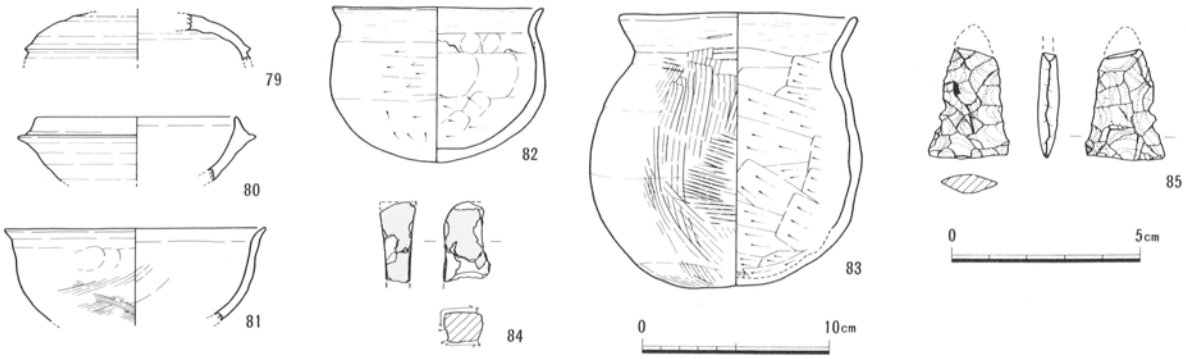


Fig.50　SC25出土遺物実測図（1／2・1／4）

Tab.12　SC25出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm）口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
79	須恵器・坏蓋	SC25	－	－	－	－	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰白	良好	
80	土師器・坏身	SC25	(10.7)	－	－	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ	浅橙	やや良好	
81	土師器・椀	SC25	(13.9)	－	－	[6.0]	ハケ？、ナデ／ハケ、ナデ	橙／浅橙～浅黄橙	良好	
82	土師器・鉢	SC25	(11.1)	－	－	8.3	指押え、板ナデ／ケズリ、ナデ	橙～褐灰	やや良好	
83	土師器・甕	SC25	(12.8)	14. 5	－	14.7	ケズリ、ナデ／タタキ、ハケ	灰白	やや良好	

番号	種類	出土位置	法量（cm・g）長さ	幅	厚さ	重量	備考
84	砥石	SC25	[4.3]	2.4	1.9	21	砂岩、3面使用
85	石鏃	SC25	[3.0]	2.2	0.5	2.6	黒曜岩？平基式

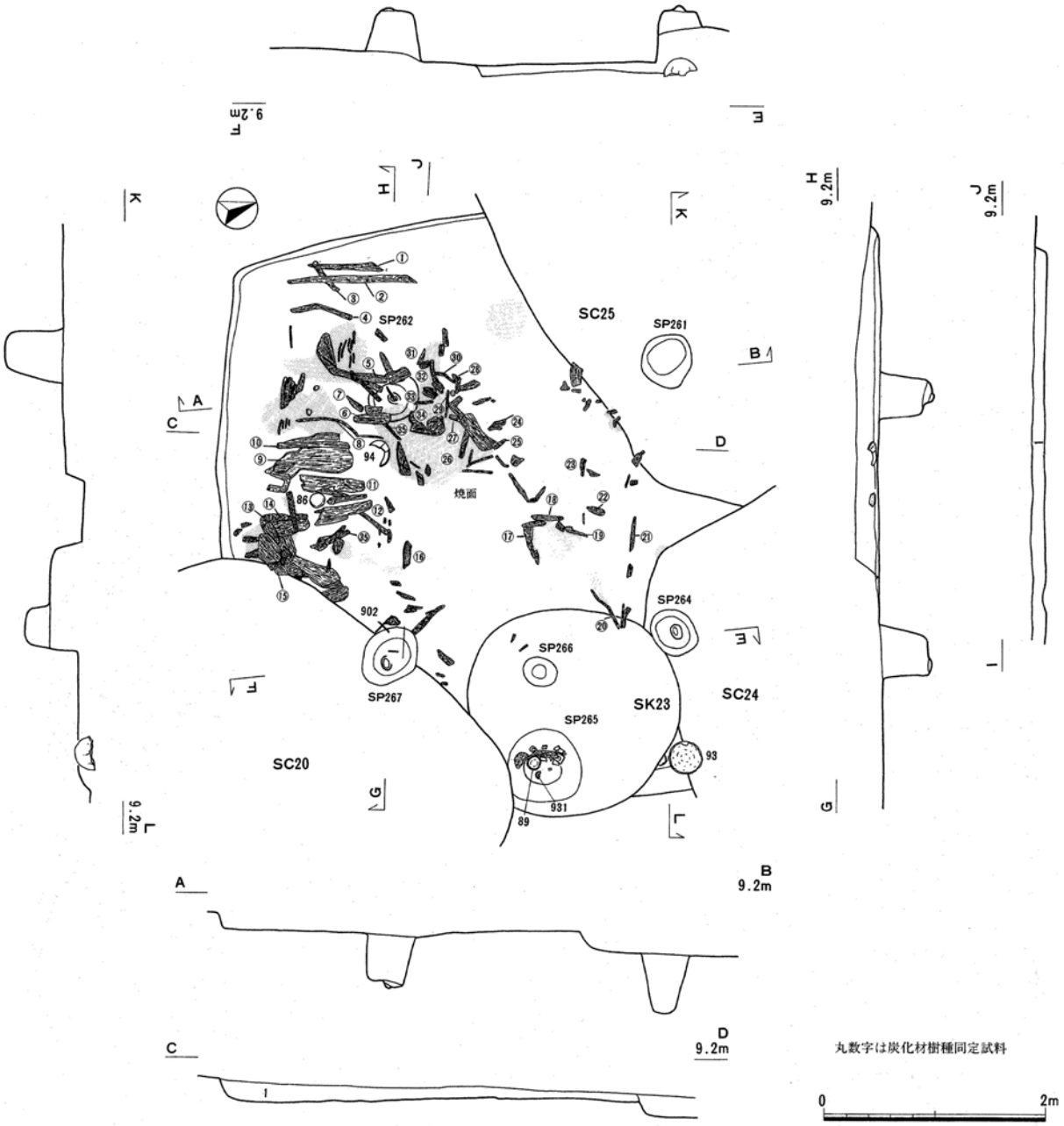


Fig.51　SC26実測図（1／60）

SC26（Fig.51・52、Ph.33・34、Tab.13）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。SC20・24・25・SK23に切られる。規模は東西5.5m、南北は西辺の残存長が2.4mである。残存壁高は南壁で20cmである。柱穴は4ヶ所確認された（SP261・262・264・267）。北東SP264はSC24、北西SP261はSC25、南東SP267はSC20の床面で確認された。住居のコーナーは南西部1ヶ所で確認されたが、直角ではない。柱筋も直角になっておらず、歪んでいたと思われる。柱位置から規模を想定すると南辺5.5m、西辺5.7mの平行四辺形が想定される。東側の柱穴の中間に深さ25cmの

Ph.33　SP265遺物出土状況（東から）

ピット（SP266）がある。また、東壁際中央に浅いピット（SP265）が検出された。床面上に炭化材が散乱しており、焼失家屋であると思われる。炭化材を35点採取し、樹種同定を依頼した（204ページ参照）。床面から滑石製臼玉902がSP265から滑石製紡錘車931が出土している。

出土遺物をFig.52とTab.13に示す。このほかミニチュア土器2点873・874が出土している。

Ph.34　SC26（東から）

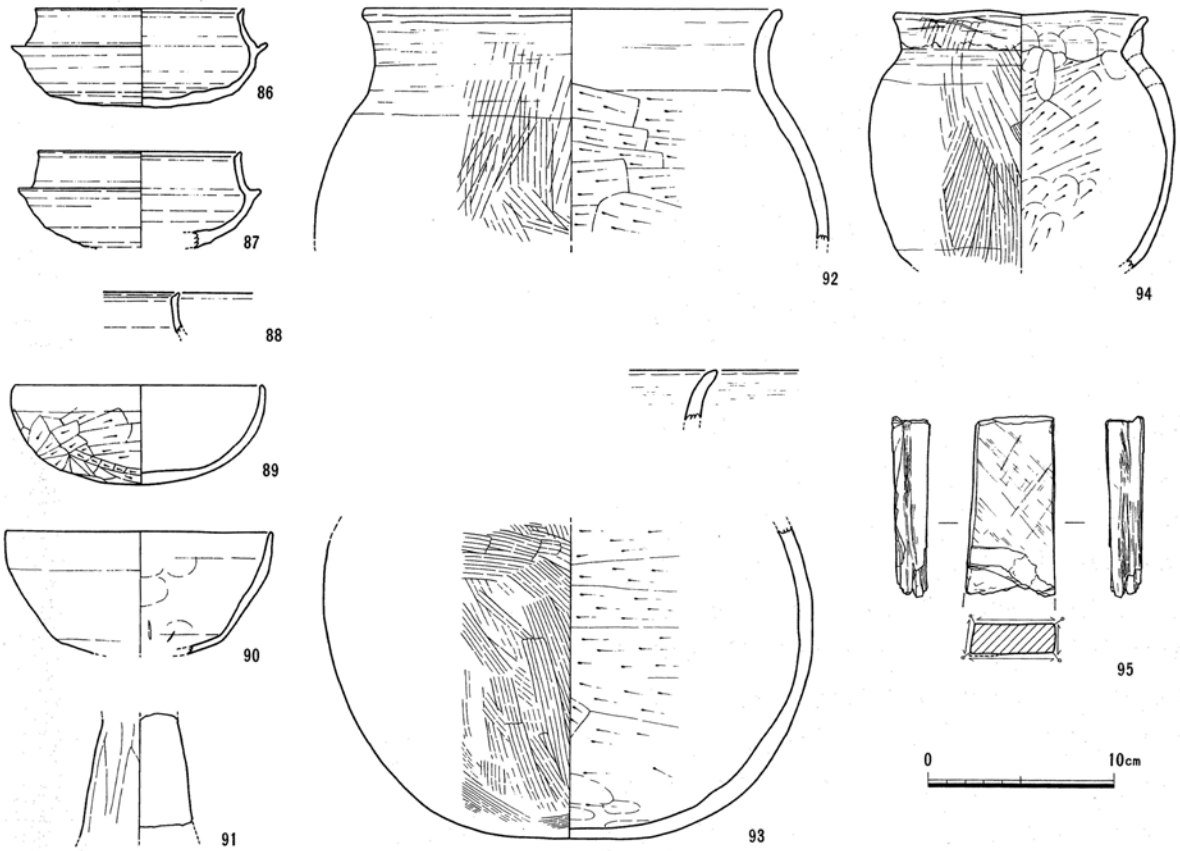


Fig.52　SC26出土遺物実測図（1／4）

Tab.13　SC26出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
86	須恵器・坏身	SC26	11.1	－	－	5.3	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰～褐灰	良好	朝倉、(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
87	須恵器・坏身	SC26	10.8	－	－	[5.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	褐灰～暗灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
88	須恵器・坏身	SC26	－	－	－	－	回転ナデ／回転ナデ	灰～褐灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
89	土師器・椀	SC26	13.1	－	－	5.4	回転ナデ／ケズリ	淡赤褐	やや良好	
90	土師器・椀	SC26	(14.2)	－	－	[6.5]	ナデ、板ナデ／ケズリ?、ナデ?	黄橙～橙	やや良好	
91	土師器・高坏	SC26	－	－	－	[6.7]	ケズリ	黄橙～橙	やや良好	
92	土師器・甕	SC26	(22.4)	－	－	[12.4]	ケズリ／ハケ	灰白～黄橙／橙～褐	やや良好	
93	土師器・甕	SC26	－	－	－	[16.7]	胴部ケズリ、底部ナデ・指押え／ハケ	黄橙／黄橙～橙	やや良好	
94	土師器・甕	SC26	12.1～13.7	(16.3)	－	[13.7]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	橙～褐灰／灰黄褐～褐灰	やや良好	

番号	種　類	出土位置	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
95	砥石	SC26	[9.7]	4.8	1.9	159	粘板岩、5面使用、刃ならし痕

SC27（Fig.53・54、Ph.35、Tab.14）

調査区南寄りで検出した長方形の竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。東西3.1m、南北4.0mと小形の住居である。残存壁高は15cmである。2面の遺構であるSE07・09に切られている。2本柱になると思われる北側の柱穴（SP271）を確認した。その他にピットを南西隅（SP276）と東壁際中央（SP275）に確認した。

出土遺物をFig.54とTab.14に示す。このほかミニチュア土器875が出土している。

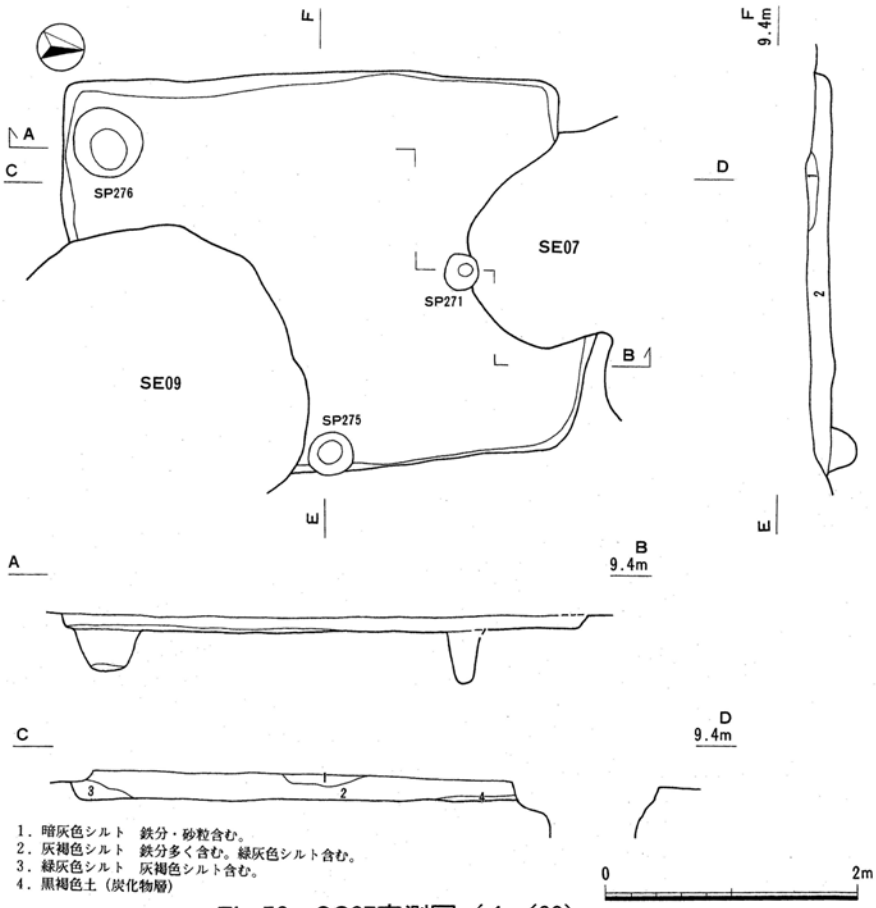


Fig.53　SC27実測図（1／60）

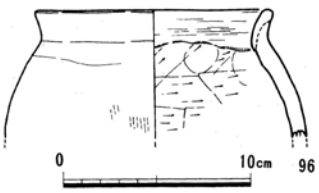


Fig.54　SC27出土遺物実測図（1／4）

Ph.35　SC27（西から）

Tab.14　SC27 出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
96	土師器・甕	SC27	(12.6)	－	－	[6.8]	ナデ、ケズリ／ハケ	黒褐～橙／橙～灰白	やや良好	

SC28（Fig.55・56、Ph.36・37、Tab.15）

調査区南寄りで確認した方形竪穴である。柔らかい細砂～シルト層を切り込んでいる。東壁は確認面を下げすぎたので検出できなかった。東西は南辺で2.8m残存する。南北は3.4mである。残存壁高は西側で15cmである。２面の遺構SD08に切られている。SC50・SD52を切る。柱穴は確認できなかった。

出土遺物をFig.56とTab.15に示す。

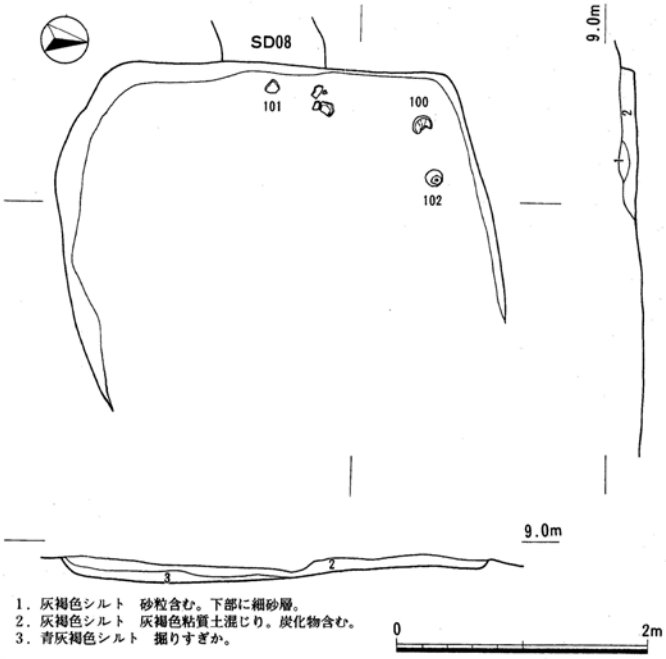
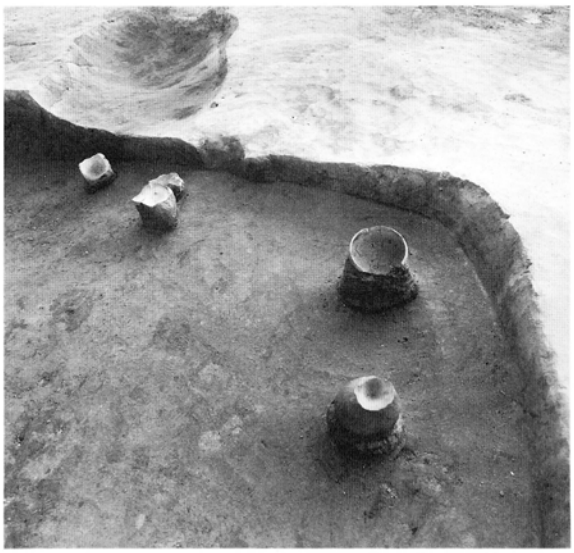


Fig.55　SC28実測図（１／60）

Ph.36　SC28（東から）



Ph.37　SC28遺物出土状況（東から）

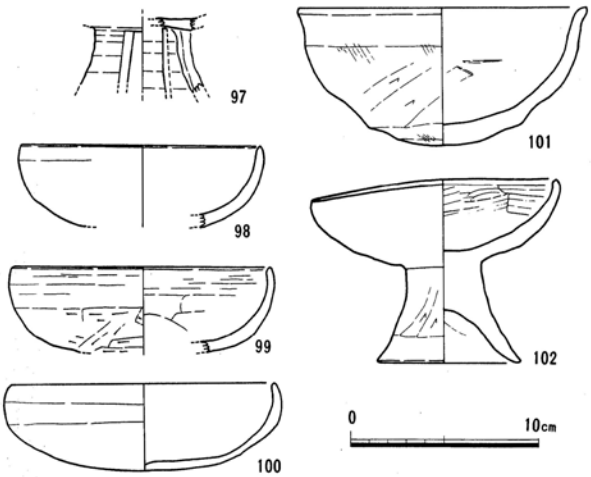


Fig.56　SC28出土遺物実測図（１／４）

Tab.15　SC28出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
97	須恵器・高坏	SC28	－	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	3方透かし
98	土師器・椀	SC28	(12.8)		－	[4.4]	ナデ？／ケズリ？	黄橙／黄橙～橙	良好	
99	土師器・椀	SC28	(13.7)	－	－	[4.6]	ナデ、板ナデ／ケズリ	黒褐／橙	やや不良	
100	土師器・椀	SC28	13.8	－	－	4.6	摩滅／ケズリ	褐	やや不良	
101	土師器・鉢	SC28	(15.3)	－	－	7.3	板ナデ／板ナデ	淡赤褐	良好	
102	土師器・高坏	SC28	12.4～13.2	－	7.8	9.8	坏部ミガキ、脚部ナデ／坏部摩滅、脚部ケズリ	淡褐～暗褐	良好	

SC30（Fig.57～59、Ph.38～40、Tab.16）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。規模は東西6.2m、南北5.5mであり長方形を呈する。残存壁高は30cmである。北西部は2面の遺構SK04とSC20に、南西はSC21に切られている。北東はSC31に重複しており、SC31に切られていると判断したが、覆土が似ており確信が持てない。南西のSC21に切られている部分は方形の浅い掘り込み（SP306）があり、この住居の南西隅の形状をかすかに残している。柱穴は4ヶ所確認された（SP301～304）。その他床面にいくつかピットがみられるがこの住居に伴うものか判断がつかない。遺物が集中する西壁寄り中央に土製支脚122が立ったまま出土し、周辺に床面の焼け込みがみられた。この位置にカマドが存在したものと思われる。

出土遺物をFig.58・59とTab.16に示す。このほかミニチュア土器876と土製小玉877と滑石製紡錘車932が出土している。

Ph.38　SC30（東から）

Ph.39　SC30遺物出土状況（北から）

Ph.40　SC30カマド（北東から）

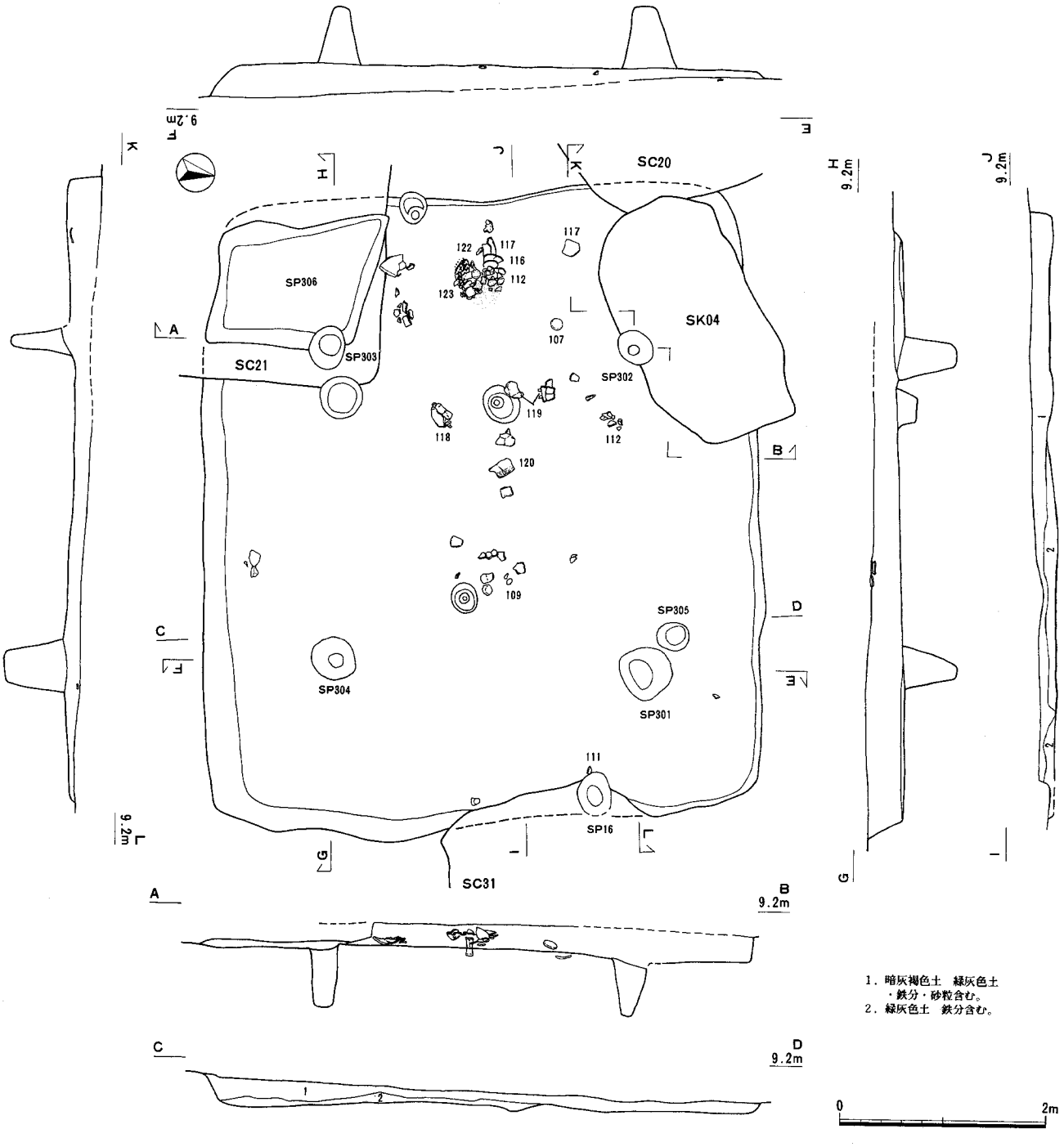


Fig.57　SC30実測図（1／60）

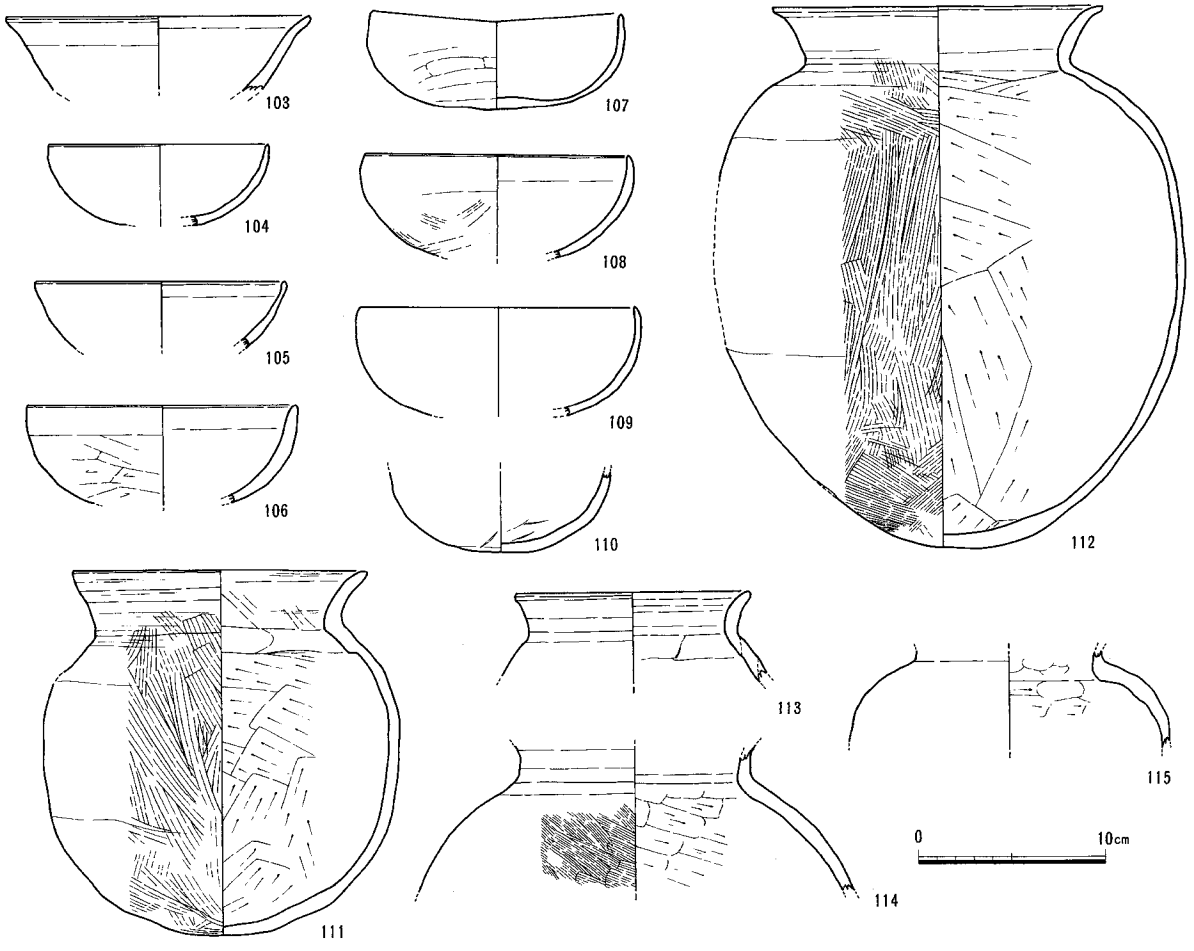


Fig.58　SC30出土遺物実測図　1（1／4）

Tab.16　SC30 出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
103	土師器・高坏	SC30	(16.2)	—	—	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
104	土師器・椀	SC30	(11.7)	—	—	[4.3]	ナデ／ケズリ	淡橙灰	不良	
105	土師器・椀	SC30	(13.6)	—	—	[3.6]	ナデ／ナデ	褐灰～灰／橙灰	やや不良	
106	土師器・椀	SC30	(14.3)	—	—	[5.3]	ナデ／ケズリ	淡黄灰／灰褐	不良	
107	土師器・椀	SC30	13.4～14.4	—	—	5.2	摩滅／ケズリ	淡橙灰～橙灰	やや不良	
108	土師器・椀	SC30	(14.2)	—	—	[5.5]	ナデ／ハケ	淡橙灰～橙灰	やや不良	
109	土師器・椀	SC30	(15.1)	—	—	[5.9]	摩滅／摩滅	淡黄灰／灰褐	やや不良	
110	土師器・椀	SC30	—	—	—	[4.3]	ナデ、板ナデ／ナデ、板ナデ	橙灰／淡橙灰	やや不良	
111	土師器・甕	SC30	(15.6)	(18.9)	—	19.6	口縁部ハケ、頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	黄橙／橙～淡赤橙	やや良好	
112	土師器・甕	SC30	(17.6)	(24.7)	—	29.0	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	灰白～黄橙	やや良好	
113	土師器・甕	SC30	(12.6)	—	—	[4.9]	ナデ／ナデ	褐灰／橙灰	やや不良	
114	土師器・甕	SC30	—	—	—	[7.7]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	灰褐～黒灰／淡橙灰～茶褐	良好	
115	土師器・壺	SC30	—	—	—	[5.2]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ナデ	淡橙灰～茶褐／褐灰～茶褐	不良	
116	土師器・甑	SC30	28.6	—	(8.4)	28.4	上部板ナデ、下部ケズリ・ナデ／ハケ	淡橙灰～橙灰	良好	多孔
117	土師器・甑	SC30	25.6	—	—	27.0	胴部ケズリ、底部ナデ／ハケ	淡橙灰～灰褐	不良	多孔
118	土師器・甑	SC30	—	—	(10.0)	[17.1]	ナデ、指押え／ハケ	灰白～黄橙	やや良好	2孔
119	土師器・甑	SC30	18.3	—	—	13.7	ケズリ、ナデ／ハケ・ナデ、底部指押え	橙～赤橙	やや良好	
120	土師器・甑	SC30	(19.4)	—	(6.0)	16.7	上部ナデ、下部ケズリ・ナデ／ハケ？、ナデ	浅黄橙～橙	やや良好	
121	土師器・甑把手	SC30	—	—	—	—	ナデ、指押え	橙灰	不良	
122	土製支脚	SC30		7.4		[15.4]	ナデ	褐	不良	

番号	種類	出土位置	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
123	砥石	SC30	[12.0]	[8.0]	3.7	560	粘板岩、5面使用、刃ならし痕

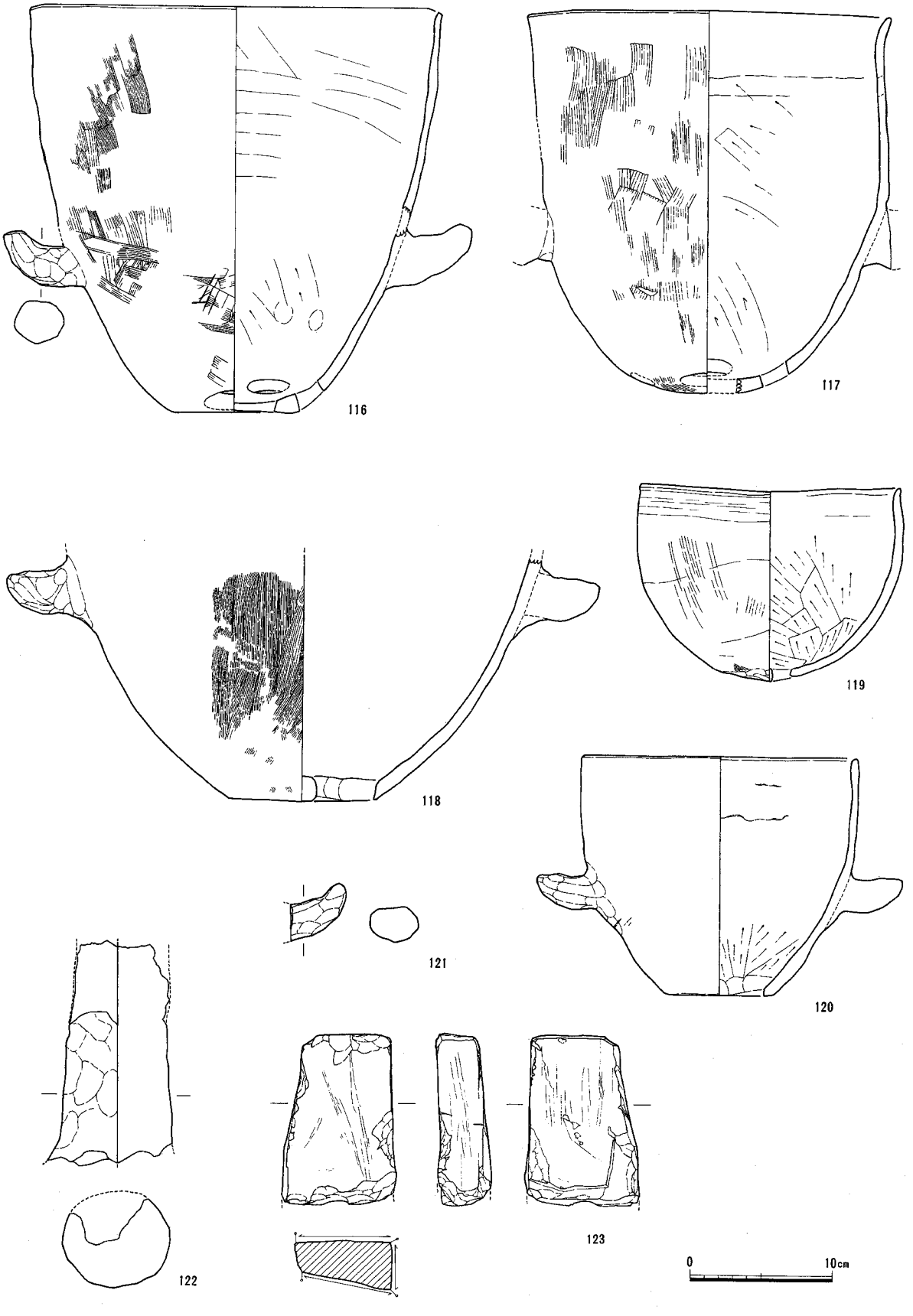


Fig.59　SC30出土遺物実測図　2（1／4）

SC31（Fig.60・61、Ph.41、Tab.17）

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。南西側は締まりのあるシルト層、北東側は柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。北側は確認面を下げすぎたため検出できなかった。東西4.5mの規模で南側の残存壁高は10cmである。北側はSD52を切る。西側はSC30を切っていると思われるがはっきりしなかった。床面上にいくつかピットがみられるがどれが住居の柱穴かは判断がつかない。

出土遺物をFig.61とTab.17に示す。

Ph.41　SC31（東から）

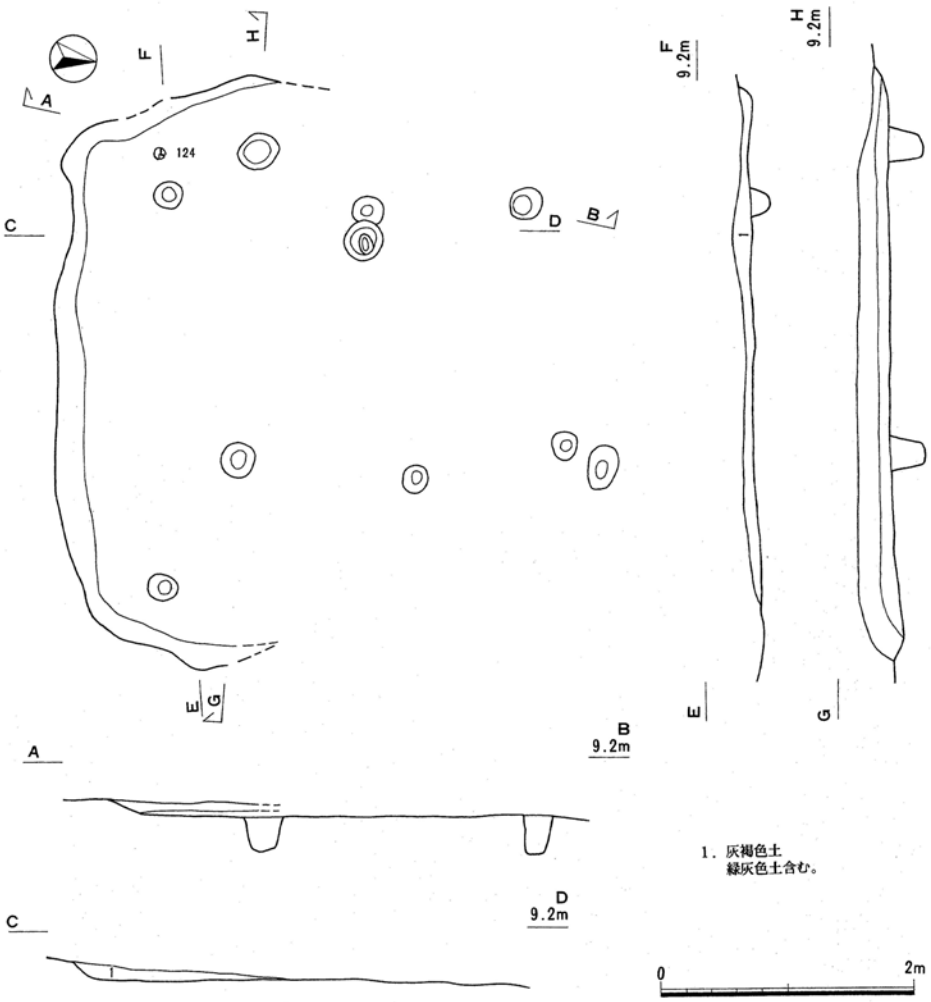


Fig.60　SC31実測図（1／60）

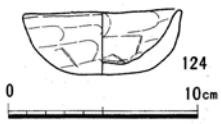


Fig.61　SC31出土遺物実測図（1／4）

Tab.17　SC31出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
124	土師器・小椀	SC31	8.4	－	－	3.5	ナデ、板ナデ、指押え／ナデ、板ナデ	橙	やや良好	

SC32（Fig.62・63、Ph.42・43、Tab.18）

調査区南東寄りに位置する。柔らかい細砂～シルト層に掘り込んでいる。北側は地層の乱れ（SX12）があり、検出できなかった。東西3.8m、南北は東辺で2.8m確認できる。残存壁高は15cmである。柱穴は南側で２ヶ所確認した（SP323・324）。

出土遺物をFig.63とTab.18に示す。

Ph.42　SC32遺物出土状況（南西から）

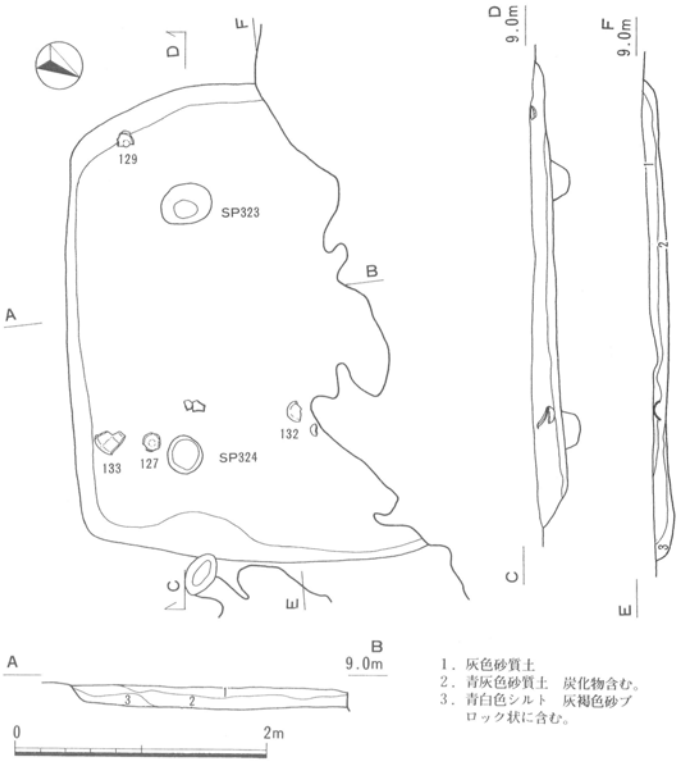
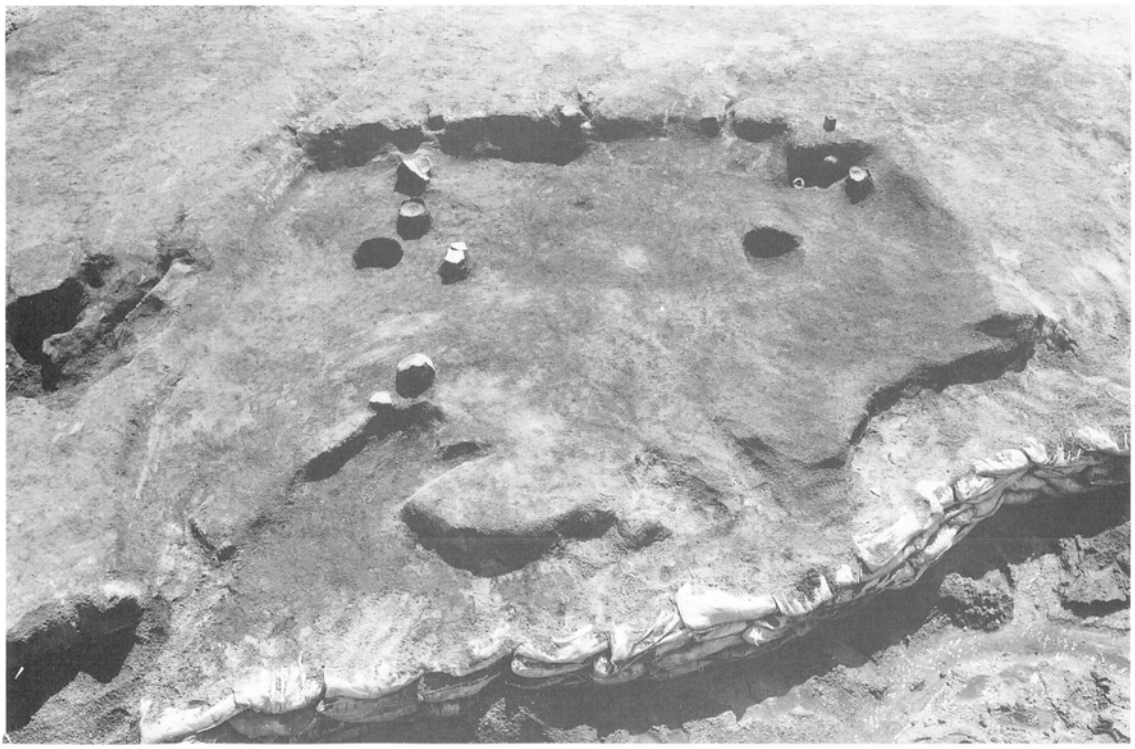


Fig.62　SC32実測図（１／60）



Ph.43　SC32（北西から）

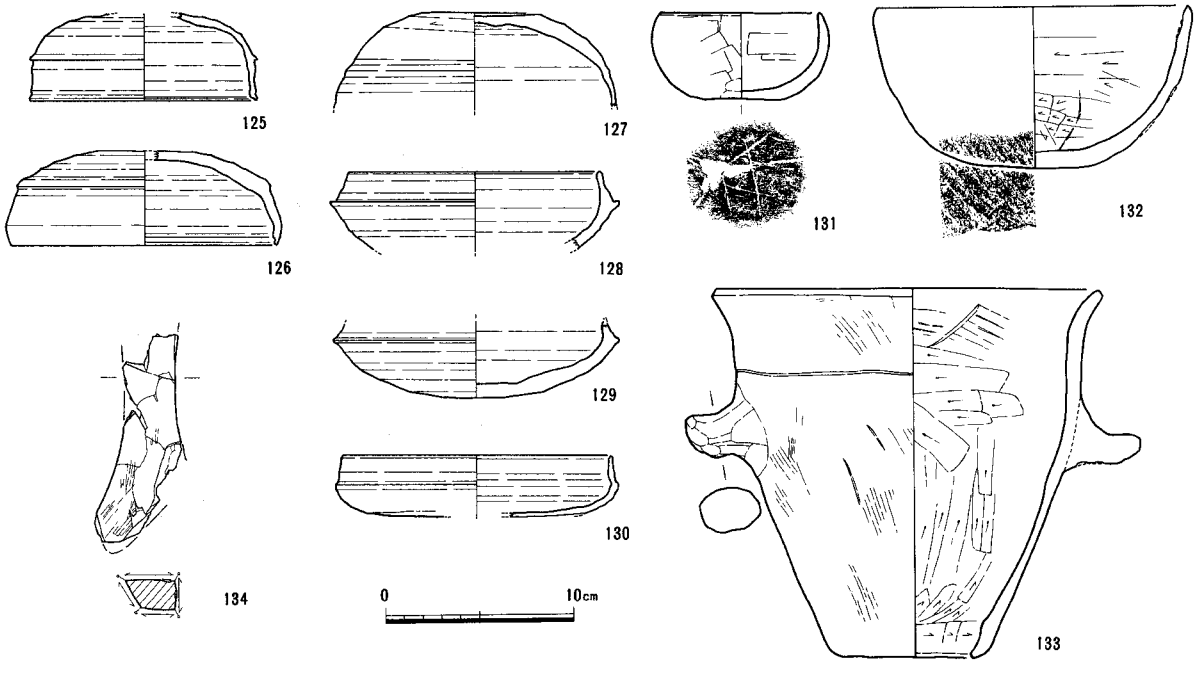


Fig.63　SC32出土遺物実測図（1／4）

Tab.18　SC32出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
125	須恵器・坏蓋	SC32	(12.0)	－	－	[4.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰～暗灰	良好	Ⅰ－4～（Ⅰ－5）
126	須恵器・坏蓋	SC32	(14.0)	－	－	5.0	タタキ、回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰～暗灰	良好	産地不明、Ⅱ－1
127	須恵器・坏蓋	SC32		－	－	[5.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	褐	良好	
128	土師器・坏身	SC32	(13.5)	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡橙灰～黒褐	やや不良	
129	土師器・坏身	SC32	－	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	橙灰／暗茶褐	やや不良	
130	土師器・坏身	SC32	(14.4)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	橙灰～褐灰／灰褐	良好	
131	土師器・小椀	SC32	(8.2)	－	－	4.6	ナデ、ハケ／ナデ、ハケ	灰～暗灰	やや不良	外底ヘラ記号
132	土師器・鉢	SC32	(16.4)	－	－	8.6	ケズリ、ナデ／タタキ？	褐～暗褐	不良	外面タタキ痕
133	土師器・甕	SC32	(20.2～20.6)	－	6.6	19.6	口縁部ハケ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	褐	良好	単孔

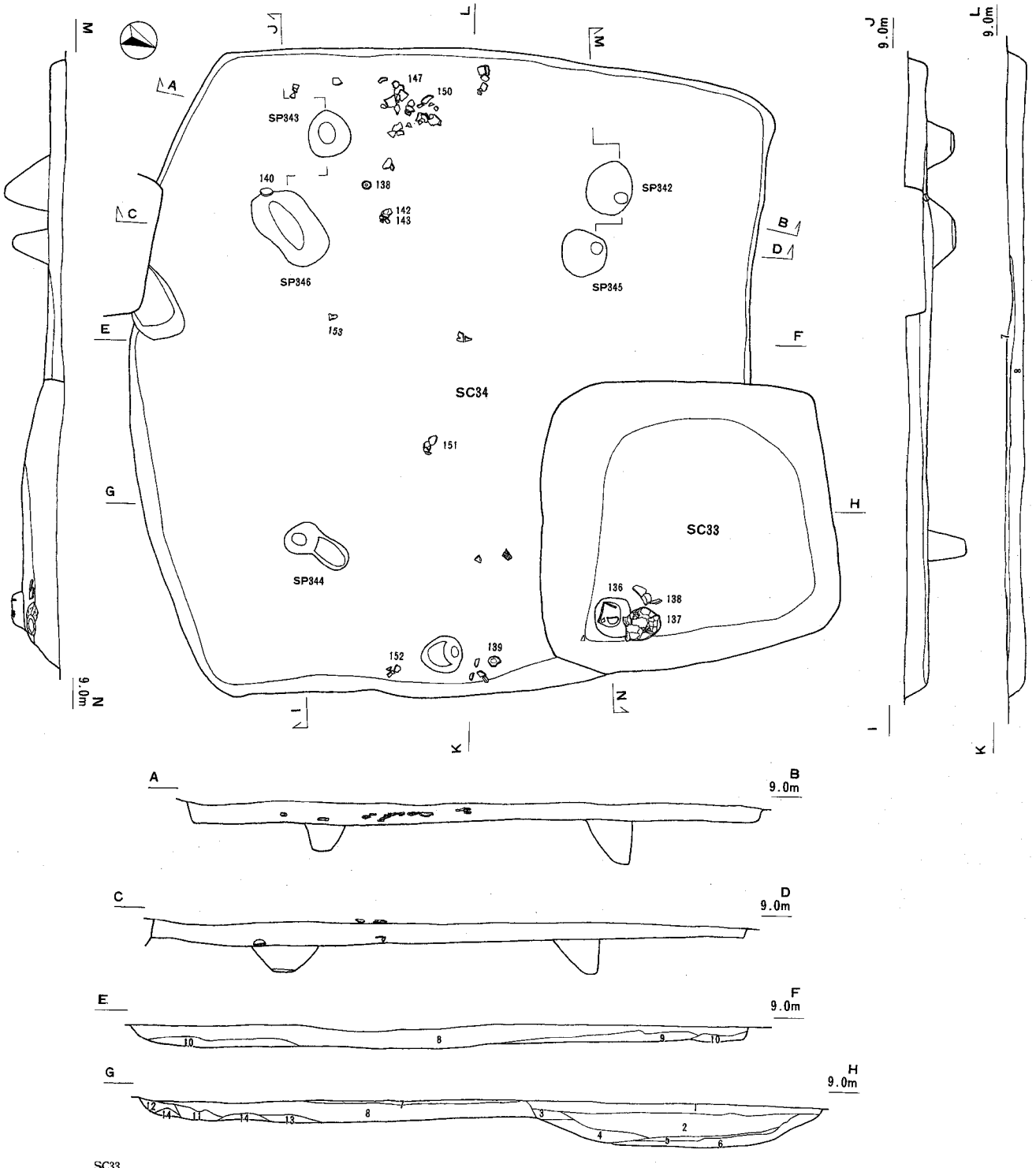
番号	種類	出土位置	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
134	砥石	SC32	[11.1]	3.1	2.1	69	粘板岩、6面使用

SC33・34（Fig.64・65、Ph.44～48、Tab.19）

調査区南東寄りに位置する。柔らかい砂層～シルト層を掘り込んでいる。大形の方形竪穴住居SC34をSC33が切っている。SC33は一辺2.9mのほぼ正方形をなし、床面はレンズ状になっており、一番深い中央部では確認面から45cmである。南東隅に小ピットがあり、方形の木枠を据えていたようで、西側と南側の2辺で木材が残っていた。脇から甕137が1個体出土した。柱穴は確認されなかった。

SC34は東西6.5m、南北6.3mの大形の竪穴住居で残存壁高は20cmである。南辺が膨らんでいる。柱穴は北東部をSC33との重複で欠く。北西、南西の柱穴は 2ヶ所ずつあり（SP342とSP345、SP343とSP346）、住居の拡張が西側へなされたと考えられる。

出土遺物をFig.65とTab.19に示す。このほかにSC33から大形器台771の破片が出土している。



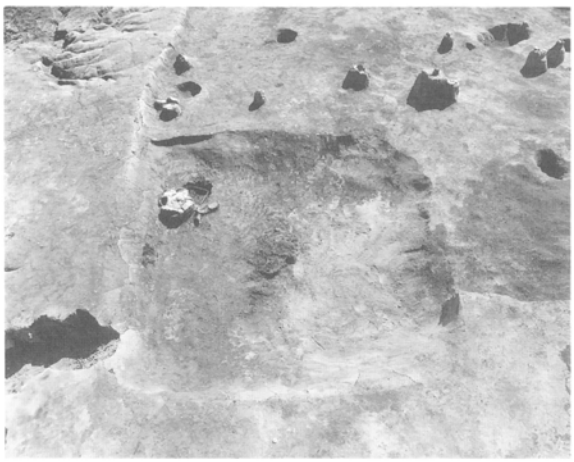
SC33
1．灰色シルト　鉄分で茶色っぽい。砂粒含む。
2．暗灰色シルト　砂粒・炭化物含む。
3．暗灰色シルト　4より砂粒少ない。
4．暗灰色シルト　2より暗い。2より砂粒少ない。
5．記載漏れ
6．記載漏れ

SC34
7．灰色シルト　鉄分で茶色っぽい。砂粒含む。
8．灰色シルト　鉄分・炭化物・砂粒含む。
9．灰色シルト
10．灰色シルト　茶褐色粗砂多く含む。
11．灰色シルト　砂粒含む。
12．灰色シルト　鉄分・炭化物含む。
13．灰色細砂
14．灰白色細砂

0　2m

Fig.64　SC33・34実測図（1／60）

Ph.44　SC33・34（北西から）



Ph.45　SC33（北西から）

Ph.46　SC33遺物出土状況（東から）

Ph.47　SC34遺物出土状況（東から）

Ph.48　SC34遺物出土状況（西から）

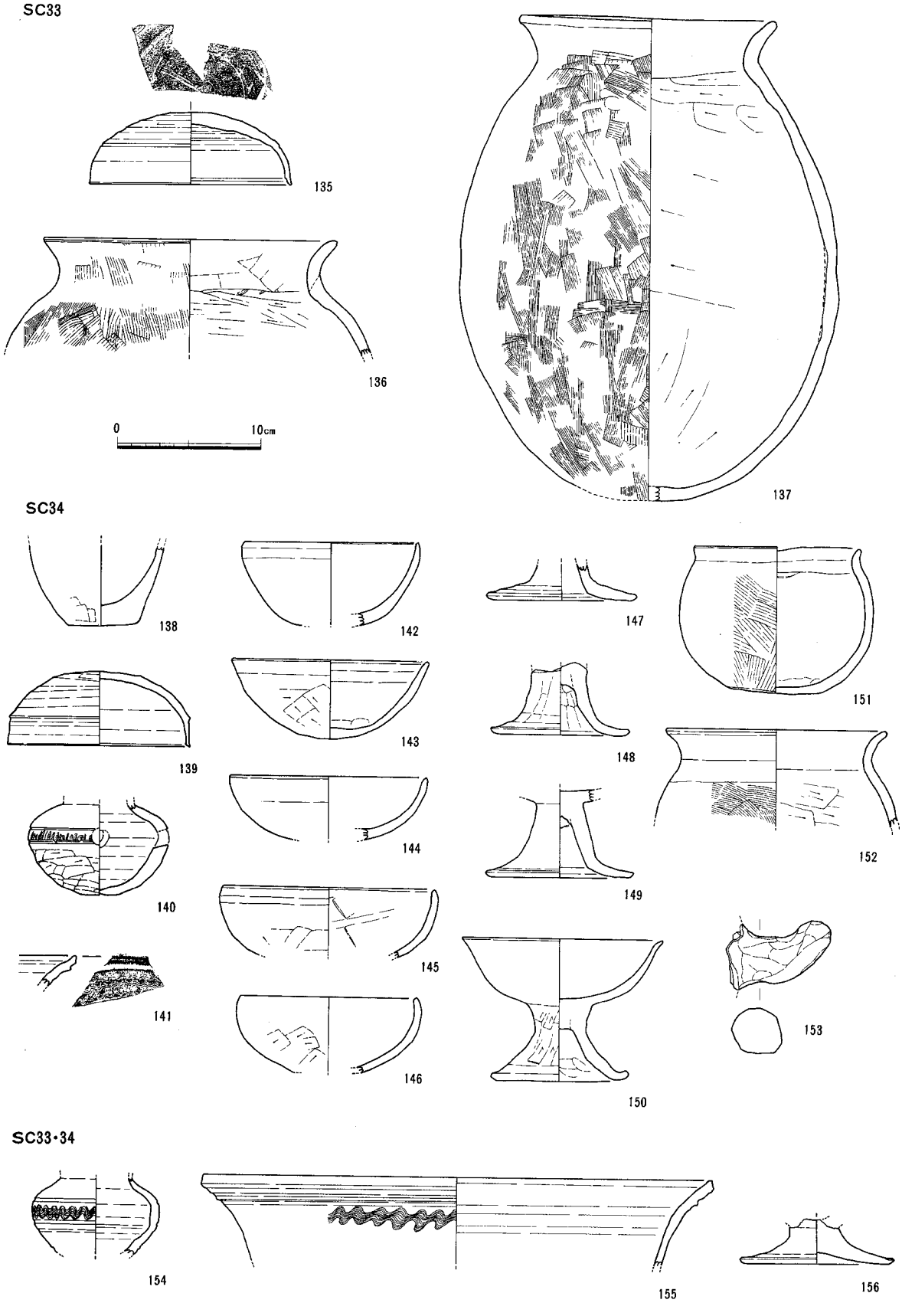


Fig.65　SC33・34出土遺物実測図（1／4）

Tab.19　SC33・34出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
135	須恵器・坏蓋	SC33	(14.0)	－	－	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗赤褐／青灰～黒灰	良好	ヘラ記号、新貝、Ⅱ－2～Ⅱ－3
136	土師器・甕	SC33	(20.4)	－	－	[7.9]	口縁部板ナデ、胴部ケズリ／ハケ	橙灰～褐灰／灰褐	良好	
137	土師器・甕	SC33	17.4～18.0	26.6	－	33.6	ケズリ／ハケ	灰褐～暗茶褐／橙灰	良好	
138	弥生土器・甕	SC34	－	－	5.0	－	ナデ？／ハケ、ナデ	褐	良好	
139	須恵器・坏蓋	SC34	12.6	－	－	5.2	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰／灰	良好	陶邑、Ⅰ－5
140	須恵器・甑	SC34	－	－10	－	[6.3]	回転ナデ／回転ナデ、手持ちヘラケズリ、刺突文	淡灰	良好	朝倉、Ⅰ－5
141	須恵器・甕	SC34	－	－	－	－	回転ナデ／波状文	灰白	良好	
142	土師器・椀	SC34	(12.2)	－	－	[5.8]	ナデ／ケズリ？	淡橙灰／橙灰	やや不良	
143	土師器・椀	SC34	(13.7)	－	－	[5.5]	ナデ、底部指押え／ケズリ	灰褐～暗茶褐／橙灰	良好	
144	土師器・椀	SC34	(13.8)	－	－	[4.4]	ナデ／ケズリ	淡橙灰	やや不良	
145	土師器・椀	SC34	(14.9)	－	－	[4.8]	板ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	淡橙灰～灰褐	良好	
146	土師器・椀	SC34	(12.2)	－	－	[5.3]	磨滅／ケズリ？	淡橙灰	やや不良	
147	土師器・高坏	SC34	－	－	(10.5)	[2.6]	ケズリ／ナデ	明橙灰～茶褐	良好	
148	土師器・高坏	SC34	－	－	9.7	[5.0]	ケズリ／ケズリ	橙灰	やや不良	
149	土師器・高坏	SC34	－	－	10.3	[6.1]	ケズリ／ナデ	明黄橙灰	やや不良	
150	土師器・高坏	SC34	(14.0)	－	9.6	9.9	坏部磨滅、脚部ナデ・指押え／坏部ケズリ？、脚部ハケ	明橙灰～茶褐	良好	
151	土師器・鉢	SC34	(11.6)	－	－	10.2	ナデ、底部ナデ・指押え／ハケ	橙灰／淡黄灰～橙灰	良好	
152	土師器・甕	SC34	(15.4)	－	－	[6.6]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	暗茶褐／褐灰～茶褐	良好	
153	土師器・甑把手	SC34	－	－	－	－	ナデ	灰褐	良好	
154	須恵器・甑	SC33・34	－	(9.0)	－	[5.4]	回転ナデ／上部ナデ、波状文、下部タタキ	淡灰白	良好	Ⅰ－3
155	須恵器・甕	SC33・34	(35.2)	－	－	[6.0]	ナデ／ナデ、波状文	淡赤灰	やや不良	
156	土師器・高坏	SC33・34	－	－	(10.7)	[3.2]	ナデ／ナデ	明橙灰	良好	

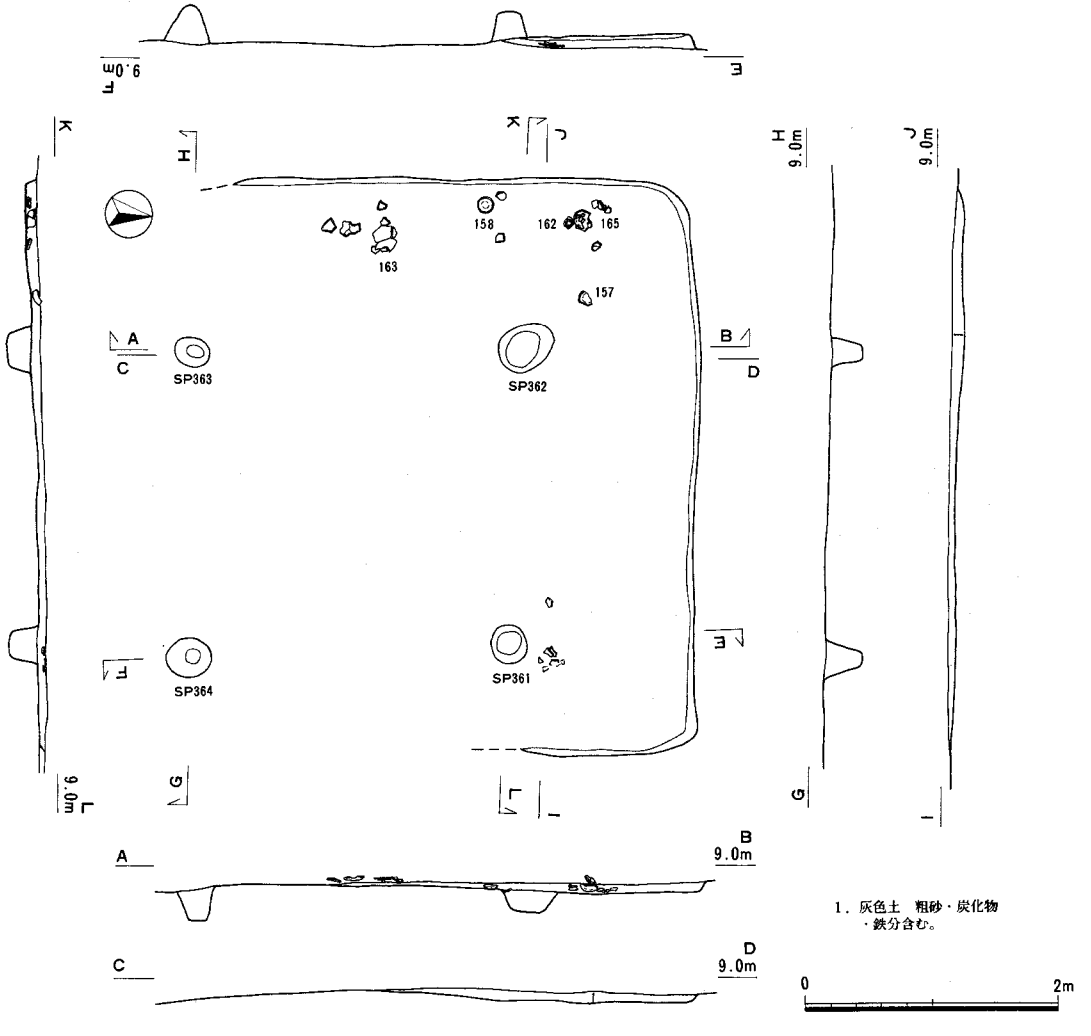


Fig.66　SC36実測図（1／60）

SC36（Fig.66・67、Ph.49～51、Tab.20）

調査区南寄りに位置する方形竪穴住居である。粗砂を含んだ締まった層を掘り込む。東西4.6m、南北は西辺で3.7mを確認できる。北側の残存壁高は10cmで残存状況は非常に悪い。柱穴は4ヶ所確認できた（SP361～364）。柱穴位置から南北規模は5.4mと想定される。

出土遺物をFig.67とTab.20に示す。

Ph.49　SC36（南から）

Ph.50　SC36遺物出土状況（東から）

Ph.51　SC36遺物出土状況（東から）

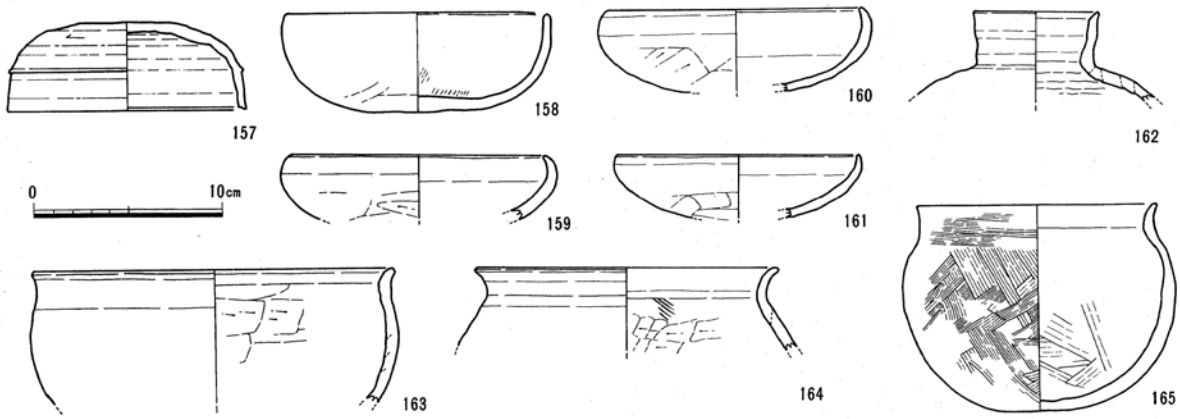


Fig.67　SC36出土遺物実測図（1／4）

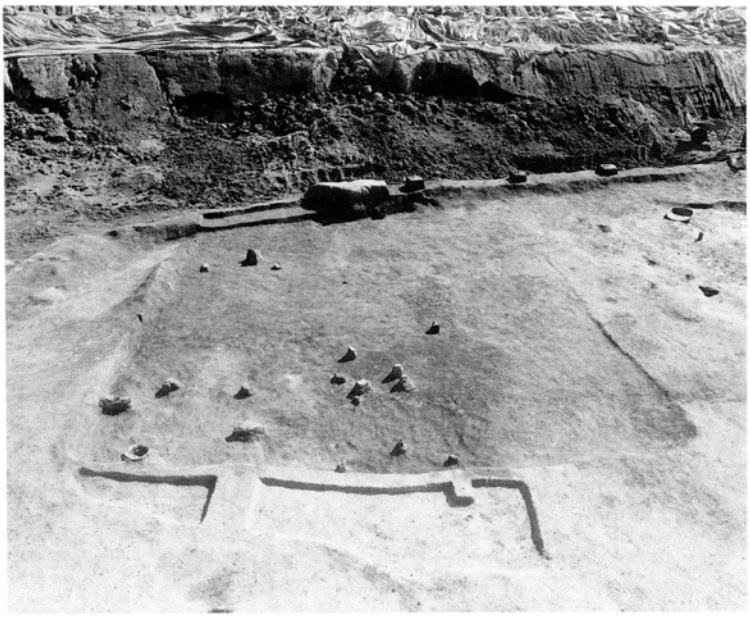
Tab.20　SC36出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
157	須恵器・坏蓋	SC36	(12.7)	－	－	4.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	新貝、Ⅰ－3～Ⅰ－4
158	土師器・椀	SC36	13.5～14.2	－	－	5.3	摩滅／摩滅	茶褐／橙灰	良好	
159	土師器・椀	SC36	13.5	－	－	[3.5]	ナデ／ケズリ	橙灰／橙灰～灰	良好	
160	土師器・椀	SC36	13.7	－	－	[4.4]	ナデ／ケズリ	明橙灰	やや不良	
161	土師器・椀	SC36	(15.0)	－	－	[3.4]	ナデ／ケズリ	橙灰～黒褐／橙灰	良好	
162	土師器・壺	SC36	(6.8)	－	－	[4.8]	ケズリ／ナデ	橙灰	やや不良	
163	土師器・鉢	SC36	(19.2)	－	－	[7.2]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ナデ	灰褐／橙灰～褐灰	良好	
164	土師器・甕	SC36	(16.1)	－	－	[4.5]	頸部ハケ・ナデ、胴部ケズリ／ナデ	茶褐／橙灰	やや不良	
165	土師器・鉢	SC36	12.8	－	－	11.1	ハケ、指押え／ハケ	褐～暗褐	良好	

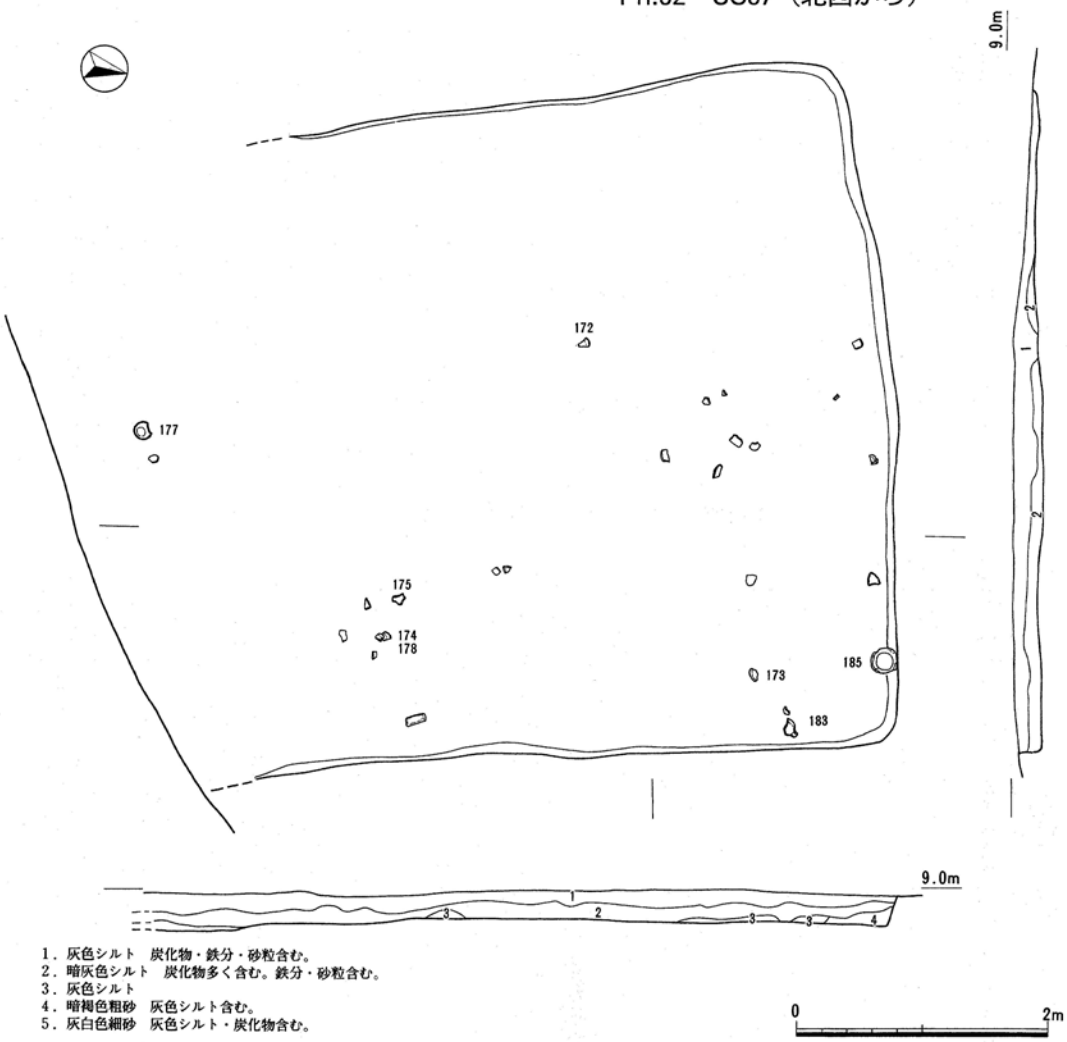
SC37（Fig.68・69、Ph.52、Tab.21）

調査区南寄りに位置する方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。東西は北辺で5.5m、南北は東辺で5.1mを確認した。遺物が出土したので南側はさらに伸びるかと思われる。残存壁高は25cmである。南西部の遺存状況は非常に悪い。柱穴は確認できなかった。

出土遺物をFig.69とTab.21に示す。このほかミニチュア土器878が出土している。



Ph.52　SC37（北西から）



1．灰色シルト　炭化物・鉄分・砂粒含む。
2．暗灰色シルト　炭化物多く含む。鉄分・砂粒含む。
3．灰色シルト
4．暗褐色粗砂　灰色シルト含む。
5．灰白色細砂　灰色シルト・炭化物含む。

Fig.68　SC37実測図（1／60）

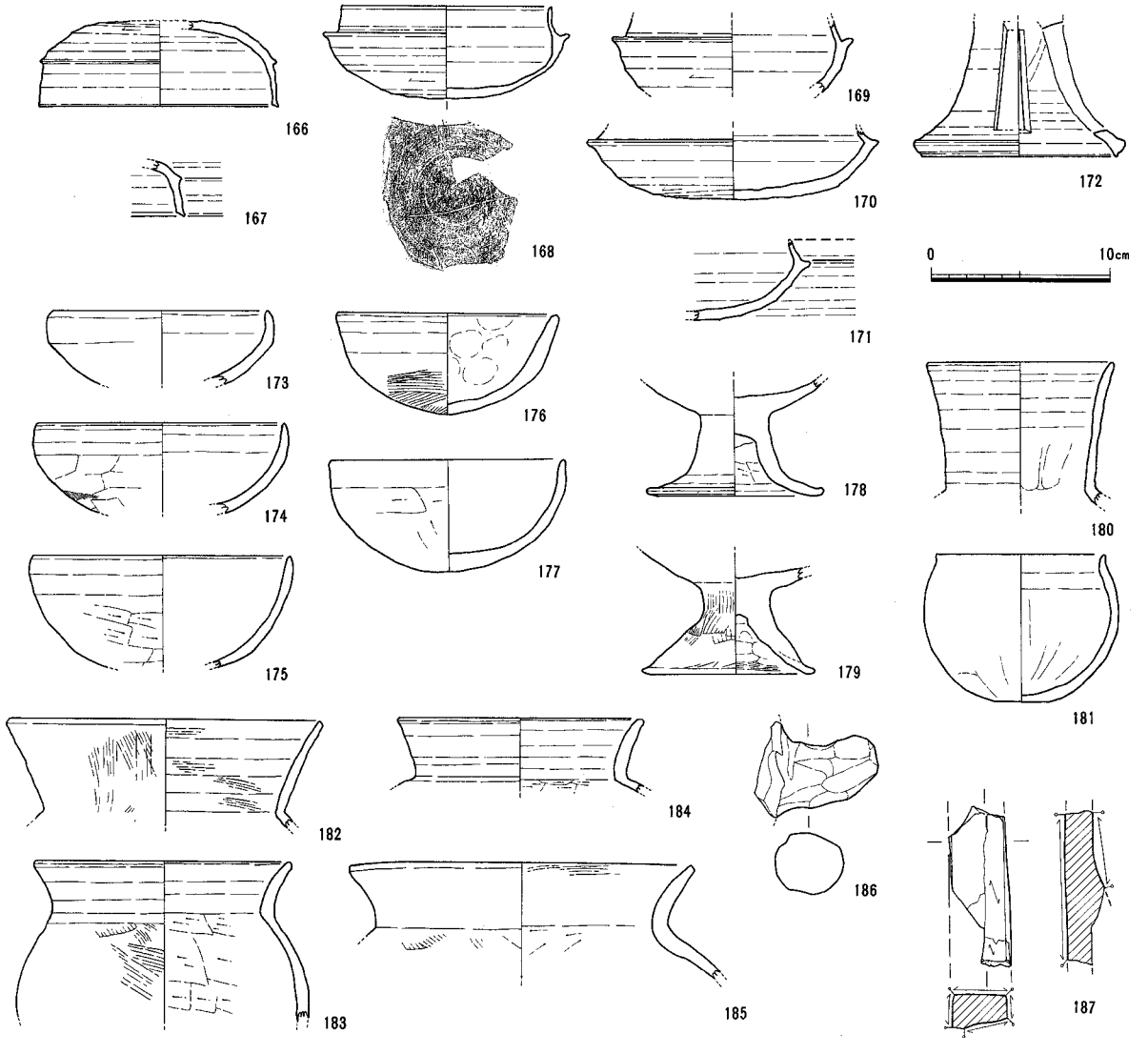


Fig.69　SC37出土遺物実測図（1／4）

Tab.21　SC37出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
166	須恵器・坏蓋	SC37	(13.3)	－	－	[4.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／暗灰	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
167	須恵器・坏蓋	SC37	－	－	－	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
168	須恵器・坏身	SC37	(11.8)	－	－	5.2	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／青灰	良好	ヘラ記号、Ⅱ－1
169	須恵器・坏身	SC37	－	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明灰	良好	
170	須恵器・坏身	SC37	－	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	
171	須恵器・坏身	SC37	－	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／暗灰	良好	
172	須恵器・高坏	SC37	－	－	(11.8)	[7.5]	回転ナデ／回転ナデ	青灰	良好	4方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
173	土師器・椀	SC37	(12.0)	－	－	[4.1]	ナデ／ケズリ	淡橙灰～橙灰	やや不良	
174	土師器・椀	SC37	(13.9)	－	－	[5.0]	ナデ／ケズリ	橙灰／淡灰褐	良好	
175	土師器・椀	SC37	(14.5)	－	－	[6.2]	ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
176	土師器・椀	SC37	(12.5)	－	－	5.7	ナデ／ハケ、ナデ	灰褐／橙灰～灰褐	良好	
177	土師器・椀	SC37	13.2	－	－	6. 2	摩滅／ケズリ？	淡橙灰～橙灰	やや不良	
178	土師器・高坏	SC37	－	－	(10.0)	[6.5]	坏部ナデ、脚部ケズリ・指押え／ナデ	橙灰	良好	
179	土師器・高坏	SC37	－	－	(8.8)	[6.8]	坏部摩滅、脚部ハケ・ナデ／坏部摩滅、脚部ハケ・ナデ	褐～暗褐	良好	
180	土師器・壺	SC37	(10.5)	－	－	[8.0]	ナデ／回転ナデ	淡橙灰／黄橙灰	良好	
181	土師器・鉢	SC37	(9.6)	－	－	8.2	板ナデ／ケズリ？	淡灰褐	良好	
182	土師器・壺	SC37	(17.6)	－	－	[6.0]	ハケ、ナデ／ハケ、ナデ	淡灰褐	良好	
183	土師器・甕	SC37	(14.4)	－	－	[8.9]	ケズリ／ハケ、ナデ	灰褐～茶褐／橙灰	やや不良	
184	土師器・甕	SC37	(13.7)	－	－	[4.1]	ケズリ／ナデ	橙灰	良好	
185	土師器・甕	SC37	19.2	－	－	[6.4]	ケズリ／ハケ、ナデ	褐～暗褐	不良	
186	土師器・甑把手	SC37	－	－	－	－	ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	

番号	種　類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
187	砥石	SC37	[19.9]	3.2	2.1	70	粘板岩、4面使用

Ph.53　SC38（南から）

SC38（Fig.70・71、Ph.53、Tab.22）

調査区南寄りで検出した方形竪穴住居である。柔らかい砂層～シルト層を掘り込んでいる。南側は2面で確認した河川SD13で削られ、東側は2面の遺構SD10に切られている。東西は北辺で2.5m、南北は西辺で2.9m残存する。残存壁高は30cmである。柱穴は北側の2ヶ所が確認された(SP381・384)。北東の柱穴（SP381）には柱材が残存していた。柱穴位置から東西規模は3.9mと想定できる。

出土遺物をFig.71とTab.22に示す。

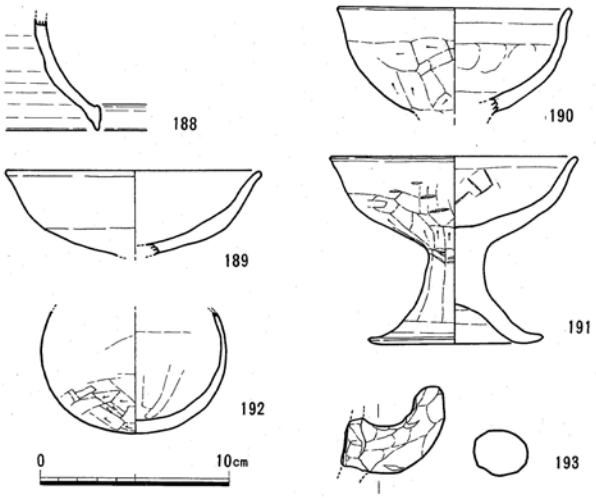


Fig.71　SC38出土遺物実測図（1／4）

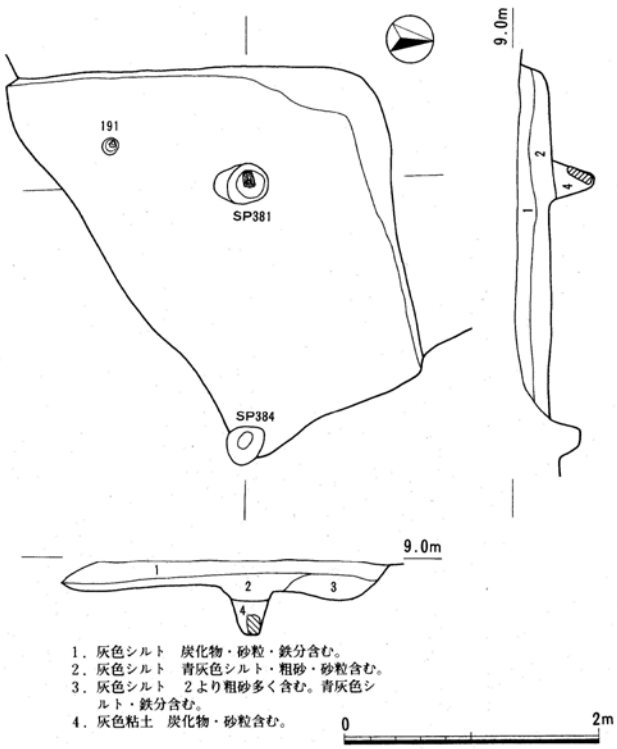


Fig.70　SC38実測図（1／60）

Tab.22　SC38出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
188	須恵器・高坏	SC38	－	－	－	[5.9]	回転ナデ／回転ナデ	灰／灰～黄褐	良好	
189	土師器・椀	SC38	(13.4)	－	－	[4.5]	摩滅／ケズリ	橙灰	不良	
190	土師器・高坏	SC38	12.5	－	－	[5.7]	ナデ、指押え／ケズリ	橙灰／橙灰～褐灰	やや不良	
191	土師器・高坏	SC38	13.2	－	9.4	10.2	坏部ナデ・板ナデ、脚部ナデ／ケズリ	橙灰／淡橙灰～茶褐	良好	
192	土師器・壺	SC38	－	－	－	[5.4]	ナデ／板ナデ	淡褐	やや不良	
193	土師器・甑把手	SC38	－	－	－	－	ナデ	灰褐～黒	良好	

SC39（Fig.72・73、Ph.54、Tab.23）

調査区東寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層とその下層の灰黒色粘土層を掘り込んでいる。東側は発掘区外に伸びる。規模は南北4.6m、東西は北辺で2.9m確認できる。残存壁高は20cmである。柱穴は西側の２ヶ所が確認された（SP392・393）。東側の調査区外に２ヶ所存在すると思われる。中央付近に炭化材が多くみられ、樹種同定を依頼した。（204ページ参照）

出土遺物をFig.73とTab.23に示す。

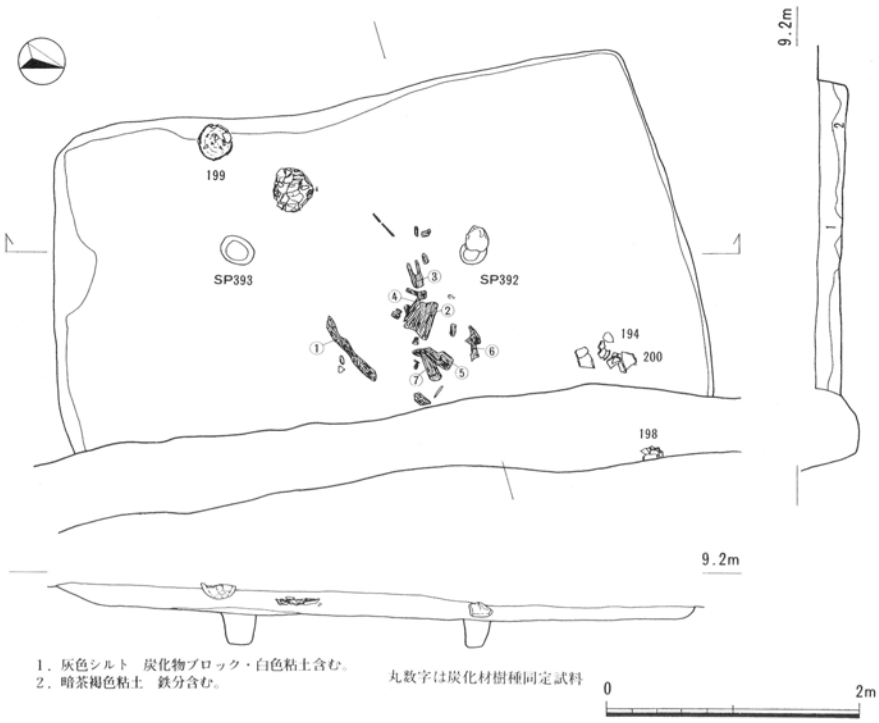


Fig.72　SC39実測図（１／60）

Ph.54　SC39（北東から）

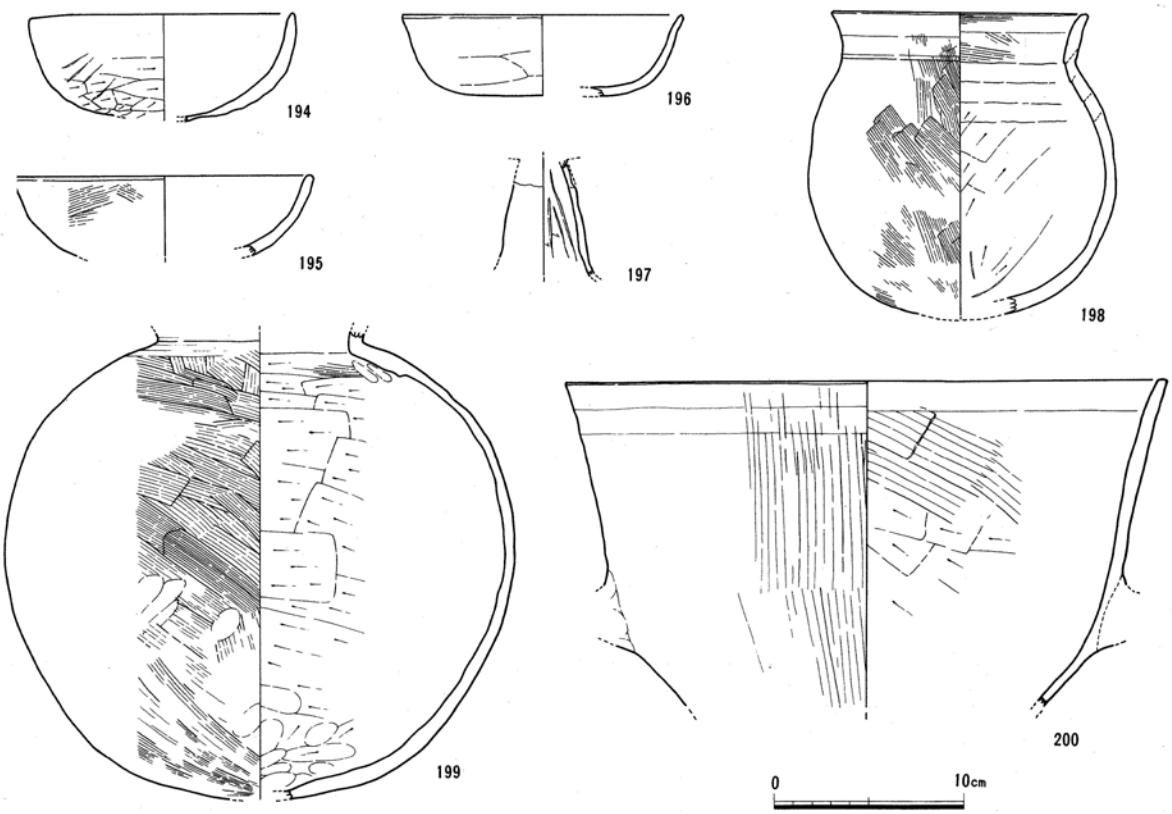


Fig.73　SC39出土遺物実測図（1／4）

Tab.23　SC39出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
194	土師器・椀	SC39	14.0	－	－	[5.7]	摩滅／ケズリ	褐	やや不良	
195	土師器・椀	SC39	(15.8)	－	－	[4.3]	ナデ／ハケ、ナデ	黒褐／暗灰	やや不良	
196	土師器・椀	SC39	(14.8)	－	－	[4.3]	摩滅／ケズリ	淡褐灰	やや不良	
197	土師器・高坏	SC39	－	－	－	[6.3]	ケズリ／摩滅	淡褐灰	やや不良	
198	土師器・甕	SC39	13.6	16.3	－	[11.1]	口縁部ハケ、頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	褐灰／橙灰～茶褐	やや不良	
199	土師器・甕	SC39	－	(26.8)	－	[24.8]	頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ、底部ナデ・指押え／ハケ、ナデ	淡褐灰	良好	
200	土師器・甑	SC39	31.7	－	－	[17.2]	上部ハケ、下部ケズリ／ハケ	橙灰～茶褐／橙灰～褐灰	良好	

SC40（Fig.74・75、Ph.55、Tab.24）

調査区中央西寄りで検出した。試掘トレンチと攪乱に挟まれた狭い部分に遺物の集中がみられ、周囲を精査したところ、西壁と東壁の一部を確認した。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。東西6.2mの方形竪穴住居と思われる。柱穴は確認されなかった。

出土遺物をFig.75とTab.24に示す。このほかにSC24で出土した須恵器坏身66と接合する破片が出土している。

Ph.55　SC40（北東から）

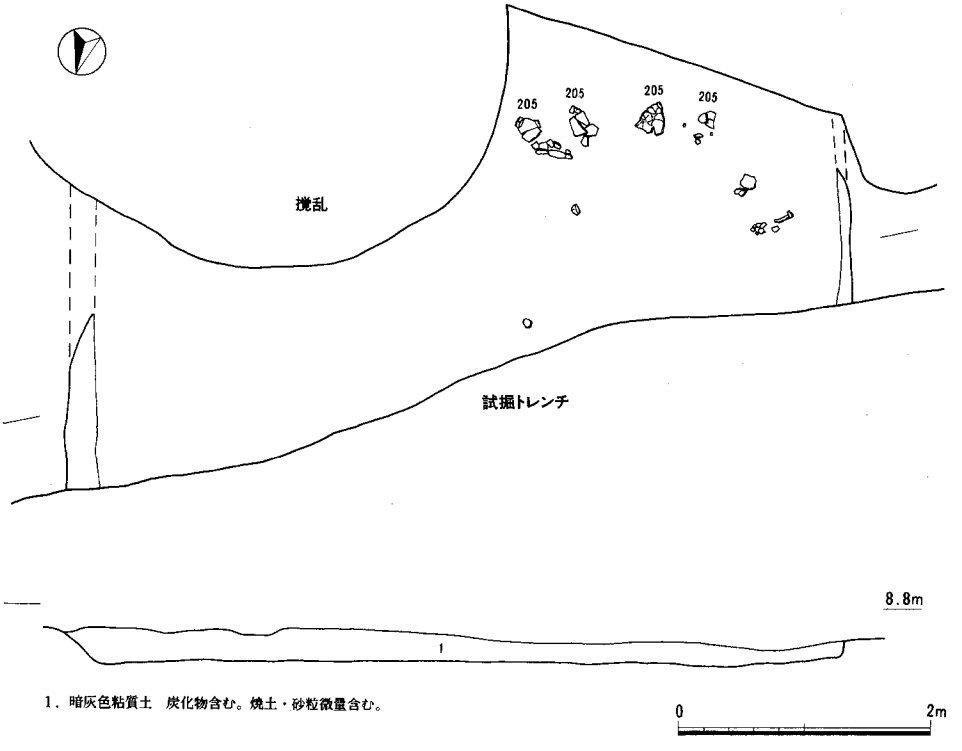


Fig.74　SC40実測図（1／60）

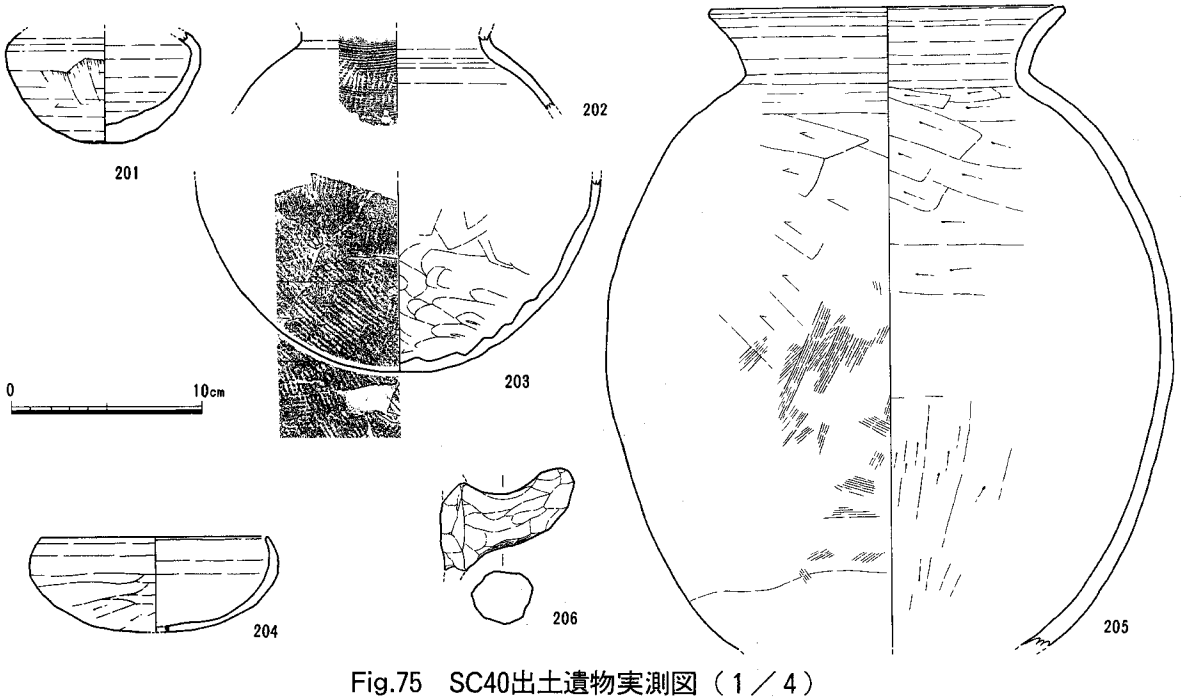


Fig.75　SC40出土遺物実測図（1／4）

Tab.24　SC40出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
201	須恵器・瓱	SC40		(10.2)	—	[5.9]	回転ナデ／上部回転ナデ、下部回転ヘラケズリ・板ナデ	青灰／暗灰	良好	
202	須恵器・壺	SC40	—	—	—	[4.2]	当て具痕、ナデ／頸部ナデ、肩部タタキ、カキ目	灰褐／淡青灰	良好	
203	須恵器・甕	SC40	—	—	—	[10.2]	ケズリ／タタキ	淡褐灰	良好	
204	土師器・椀	SC40	(10.0)	—	—	[5.1]	ナデ／ケズリ	淡灰褐～淡橙灰	良好	
205	土師器・甕	SC40	(18.9)	(30.0)	—	[34.2]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、板ナデ	淡褐灰	良好	
206	土師器・甑把手	SC40	—	—	—	—	ナデ	淡褐灰	良好	

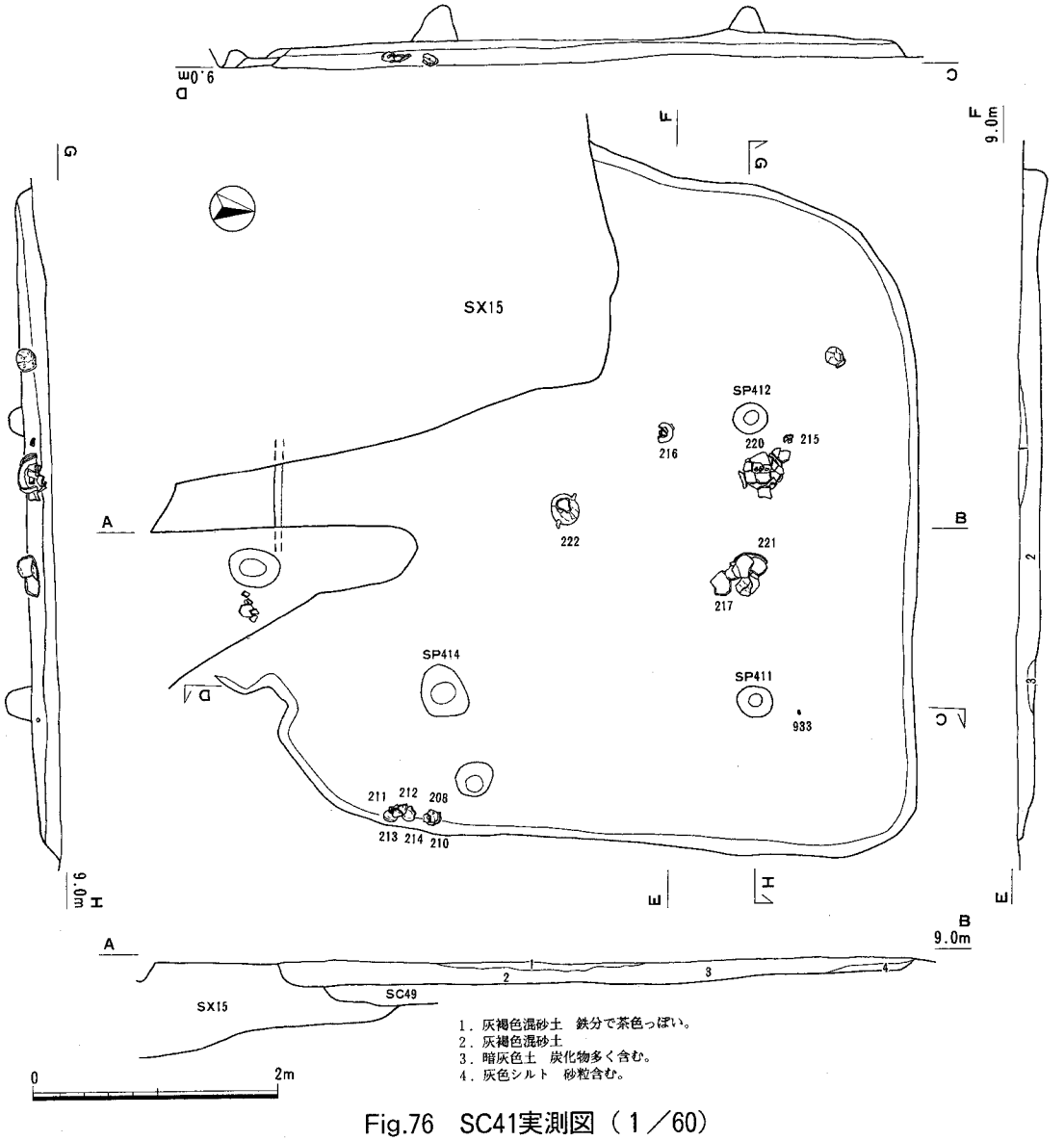


Fig.76　SC41実測図（1／60）

SC41（Fig.76・77、Ph.56～59、Tab.25）

調査区中央部で確認した方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層とSC49を掘り込んで構築している。当初SX15の一部として調査していたが、床面が検出されたため、住居として調査を始めた。トレンチを設定し土層観察をおこない、SX15との関係を調べたが、覆土が非常に似ており、分離することが難しかった。一応SX15を切り込んでいるように思え、この位置を南壁とした。規模は東西5.5m、南北5.3mとなる。残存壁高は15cmである。柱穴は3ヶ所確認した。南西の柱穴は確認しないままSX15とともに掘り下げてしまったと思われる。北側の柱穴の中間と南東隅に遺物の集中がみられる。住居中央では甑222が伏せた状態で出土した。

出土遺物をFig.77とTab.25に示す。このほかに滑石製紡錘車933と大形器台771の破片が出土している。

SC42（Fig.78・79、Ph.60～62、Tab.26）

調査区中央部西寄りで検出した方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。SC43・44・SD47を切る。東西5.4m、南北6.4mの長方形を呈する。残存壁高は25cmである。柱穴は南側で2ヶ所（SP423・424）、北側で4ヶ所（SP421・422・426・427）確認した。北側に拡張がおこな

Ph.56　SC41（西から）

Ph.57　SC41遺物出土状況（北西から）

Ph.58　SC41遺物出土状況（西から）

われたと考えられる。その他にもピットがいくつか確認されているがこの住居に伴うものかどうか不明である。西壁際中央部に遺物の集中と粘土がみられ、カマドがこの位置にあったと考えられる。壁際には幅50～150cm、深さ20cmの周溝が巡り、東壁北側で途切れている。また、北壁には接していない。拡張前の施設であろうか。

出土遺物をFig.79とTab.26に示す。このほかにミニチュア土器880と大形器台771の破片が出土している。

Ph.59　SC41遺物出土状況（西から）

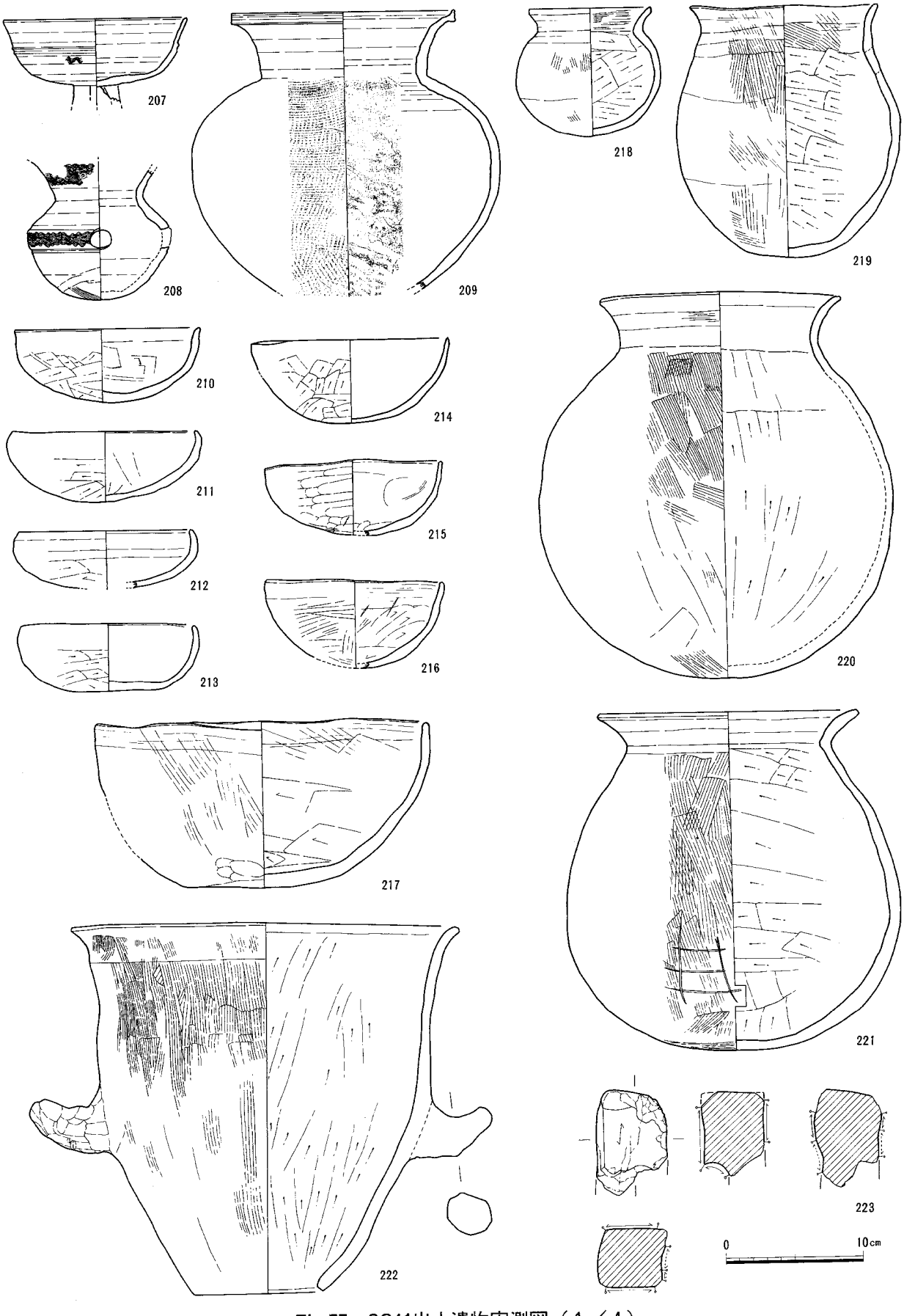


Fig.77　SC41出土遺物実測図（1／4）

Tab.25　SC41出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
207	須恵器・無蓋高坏	SC41	(13.3)	－	－	[6.3]	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ・波状文、脚部回転ナデ	淡青灰／暗灰	良好	3方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
208	須恵器・甕	SC41	－	10.4	－	[10.1]	回転ナデ／頸部波状文、体上部回転ナデ・波状文、下部回転ナデ・板ナデ	淡青灰／暗灰	良好	Ⅰ－4
209	須恵器・壺	SC41	(16.3)	(22.4)	－	[20.3]	当て具痕、ナデ／タタキ、カキ目	灰／暗青灰	良好	
210	土師器・椀	SC41	6.3～7.2	－	－	5.4	ナデ、板ナデ？／ケズリ？	褐	良好	
211	土師器・椀	SC41	13.0	－	－	5.2	摩滅／ケズリ	褐	不良	
212	土師器・椀	SC41	(12.6)	－	－	[4.2]	ナデ／ケズリ	淡橙灰～橙灰	やや不良	
213	土師器・椀	SC41	12.3	－	－	5.0	摩滅／ケズリ	淡橙褐～褐	やや不良	
214	土師器・椀	SC41	13.9～14.3	－	－	6.2	摩滅／ケズリ	淡橙褐～褐	良好	
215	土師器・椀	SC41	12.9	－	－	5.6	ハケ、ナデ／ハケ、ナデ	橙	良好	
216	土師器・椀	SC41	10.1	－	－	5.5	ハケ、ナデ／ハケ	灰白～灰褐	やや良好	
217	土師器・鉢	SC41	24.5	－	－	12.2	ハケ、板ナデ／ハケ、底部ナデ・指押え	灰白～橙	やや良好	
218	土師器・甕	SC41	8.8	10.3	－	9.4	口縁部ハケ、頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	橙～灰白	やや良好	
219	土師器・甕	SC41	13.6	16.2	－	18.5	口縁部ハケ、胴部ケズリ／ハケ	灰白～褐灰／橙	やや良好	
220	土師器・甕	SC41	17.5	25.8	－	28.2	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	淡褐灰	良好	
221	土師器・甕	SC41	(19.0)	(24.2)	－	24.8	ケズリ／ハケ、底部板ナデ	淡褐灰／淡橙灰	良好	
222	土師器・甑	SC41	28.0	－	9.3	27.0	ケズリ／ハケ	淡褐灰／淡橙灰	良好	単孔

番号	種　類	出土位置	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
223	砥石	SC41	[7.8]	5.2	4.2	239	砂岩、5面使用、敲石に転用？

Ph.60　SC42（東から）

Ph.61　SC42遺物出土状況（南東から）

Ph.62　SC42遺物出土状況（南東から）

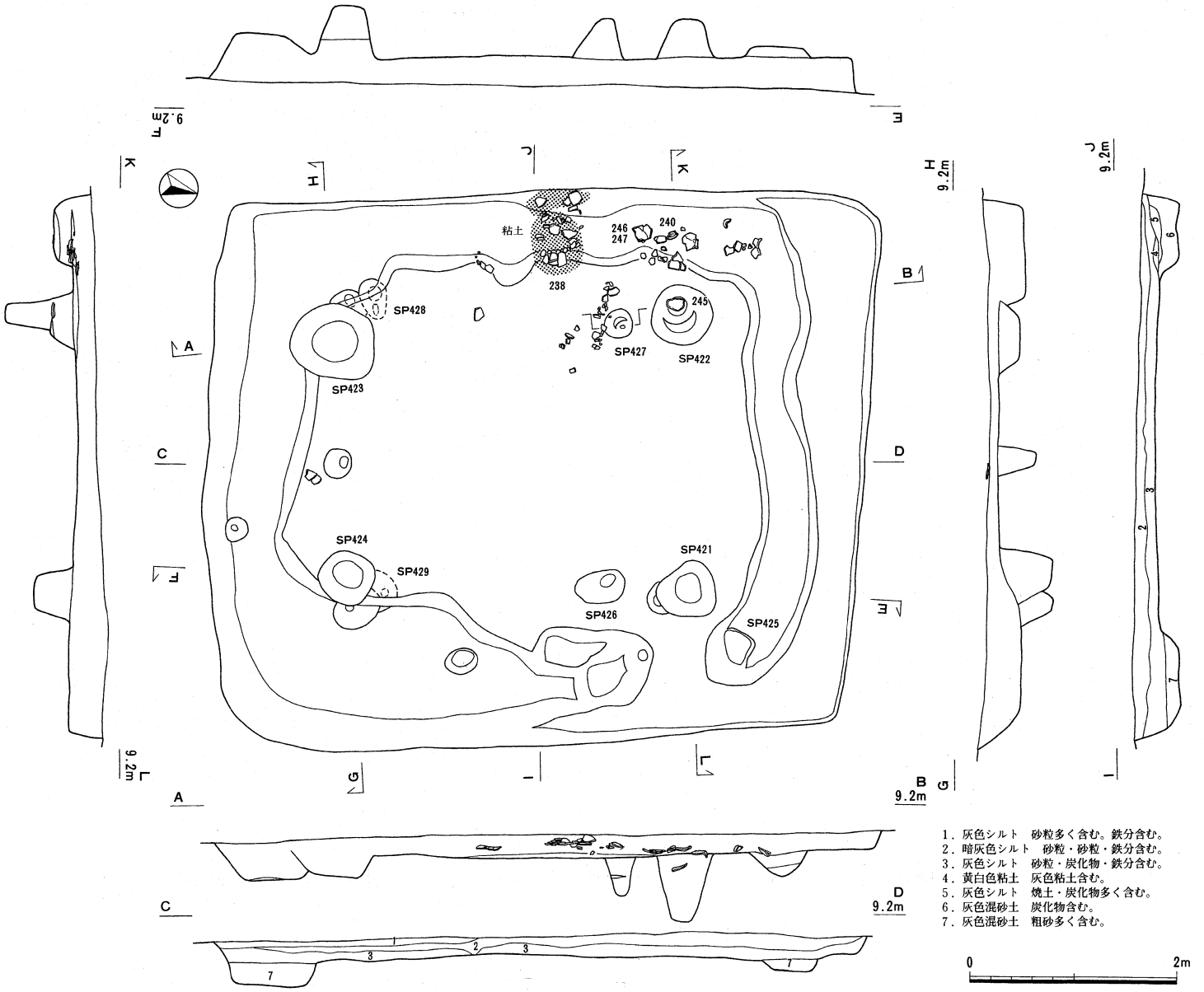


Fig.78　SC42実測図（1／60）

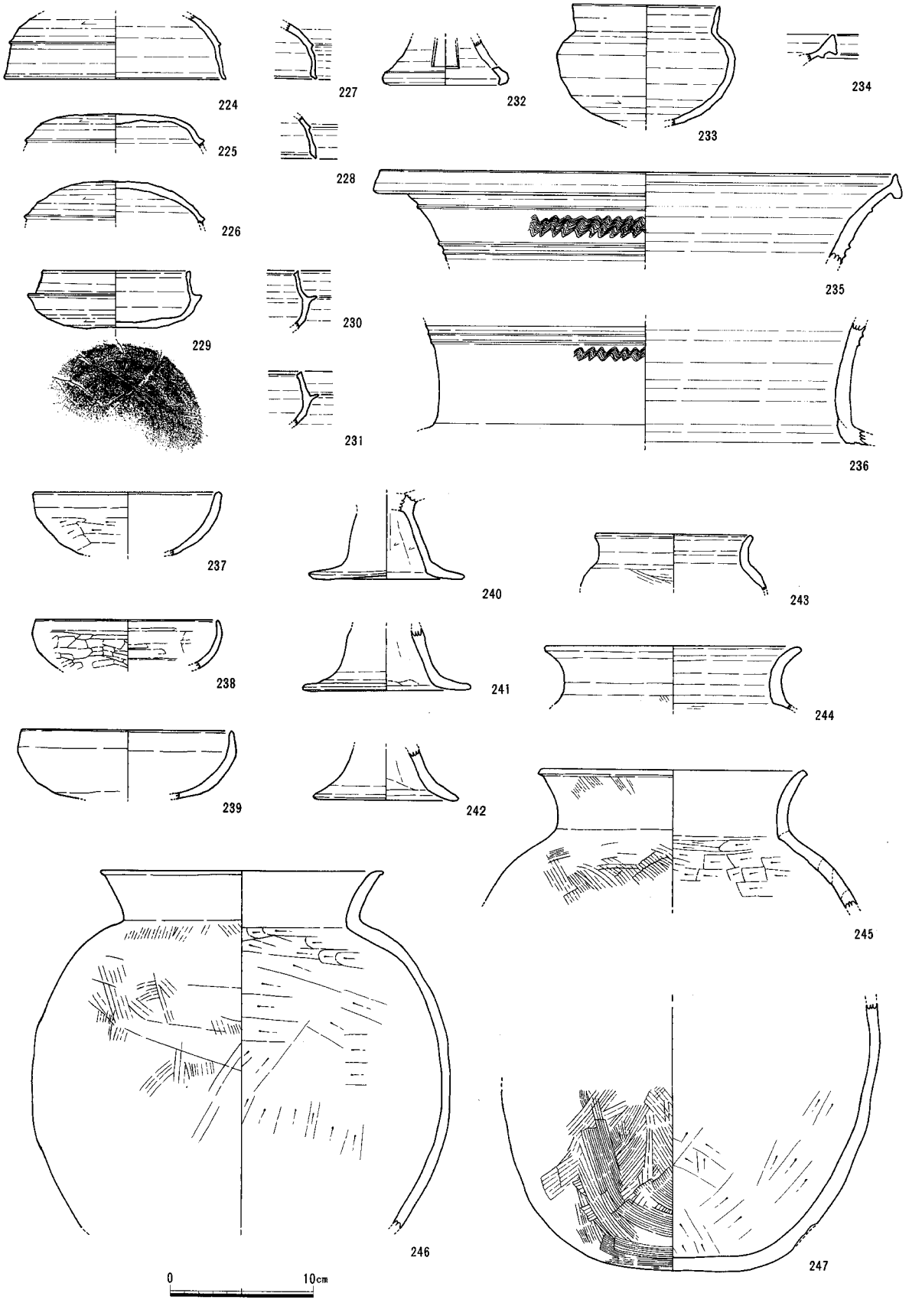


Fig.79　SC42出土遺物実測図（1／4）

Tab.26　SC42出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
224	須恵器・坏蓋	SC42	(15.3)	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明灰／青灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
225	須恵器・坏蓋	SC42	－	－	－	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	紫灰／青灰	良好	
226	須恵器・坏蓋	SC42	－	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	
227	須恵器・坏蓋	SC42	－	－	－	[3.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／淡灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
228	須恵器・坏蓋	SC42	－	－	－	[2.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
229	須恵器・坏身	SC42	10.3	－	－	4.2	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／暗灰	良好	ヘラ記号、Ⅰ－4
230	須恵器・坏身	SC42	－	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
231	須恵器・坏身	SC42	－	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／青灰	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
232	須恵器・高坏	SC42	－	－	(8.8)	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ	青灰／暗灰	良好	4方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
233	須恵器・壺	SC42	(10.3)	(12.5)	－	[8.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰／黒灰～暗灰	良好	陶邑
234	須恵器・甕	SC42	－	－	－	[1.9]	回転ナデ／回転ナデ	青灰	良好	
235	須恵器・甕	SC42	(35.9)	－	－	[6.4]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰白～黄灰／暗灰	良好	Ⅰ－4～Ⅱ－1
236	須恵器・甕	SC42	－	－	－	[8.5]	頸部回転ナデ、肩部当て具痕／頸部回転ナデ・カキ目・波状文、肩部回転ナデ	青灰／暗灰～青灰	良好	
237	土師器・椀	SC42	(13.1)	－	－	[4.4]	ナデ／ケズリ	橙灰	やや不良	
238	土師器・椀	SC42	(12.8)	－	－	[3.5]	ミガキ／ミガキ	橙灰	良好	
239	土師器・椀	SC42	(14.7)	－	－	[4.8]	ナデ／ケズリ	淡灰褐～淡橙灰	やや良好	
240	土師器・高坏	SC42	－	－	10.9	[6.0]	ケズリ／摩滅	淡灰褐～淡橙灰	やや不良	
241	土師器・高坏	SC42	－	－	(11.8)	[4.4]	ケズリ／ナデ	明橙灰	不良	
242	土師器・高坏	SC42	－	－	(10.2)	[3.7]	ケズリ／ナデ	淡橙灰	やや不良	
243	土師器・壺	SC42	(11.1)	－	－	[3.9]	ナデ／ハケ	淡灰褐～淡橙灰	やや不良	
244	土師器・甕	SC42	(18.0)	－	－	[4.4]	ナデ／ハケ	灰褐～灰／淡橙灰	良好	
245	土師器・甕	SC42	(18.6)	－	－	[9.5]	ケズリ／ハケ	淡灰褐～淡橙灰	やや不良	
246	土師器・甕	SC42	(19.8)	－	－	[25.0]	ケズリ／ハケ	淡褐灰～橙灰	やや不良	
247	土師器・甕	SC42	－	－	－	[18.4]	ケズリ／ハケ	淡褐～淡橙褐	やや不良	

SC43（Fig.80・81、Ph.63・64、Tab.27）

調査区中央部西寄りに位置する方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。SC42に切られ、SC44を切る。南北6.2m、東西は南辺で3.2m残存する。残存壁高20cmである。柱穴は西側2ヶ所を確認している（SP431・432）。また、南東の柱穴はSC42の床面で確認したSP428ではないかと思われる。これが正しいとすると住居の東西規模は4.7m程になる。その他にピットがいくつか確認されているが、切り合っているSC42・44のピットの可能性がある。北東の柱穴は確認できなかった。遺物は南壁際に遺存状態のいいものがみられた。

出土遺物をFig.81とTab.27に示す。

Ph.64　SC43遺物出土状況（東から）

Ph.63　SC43（南から）

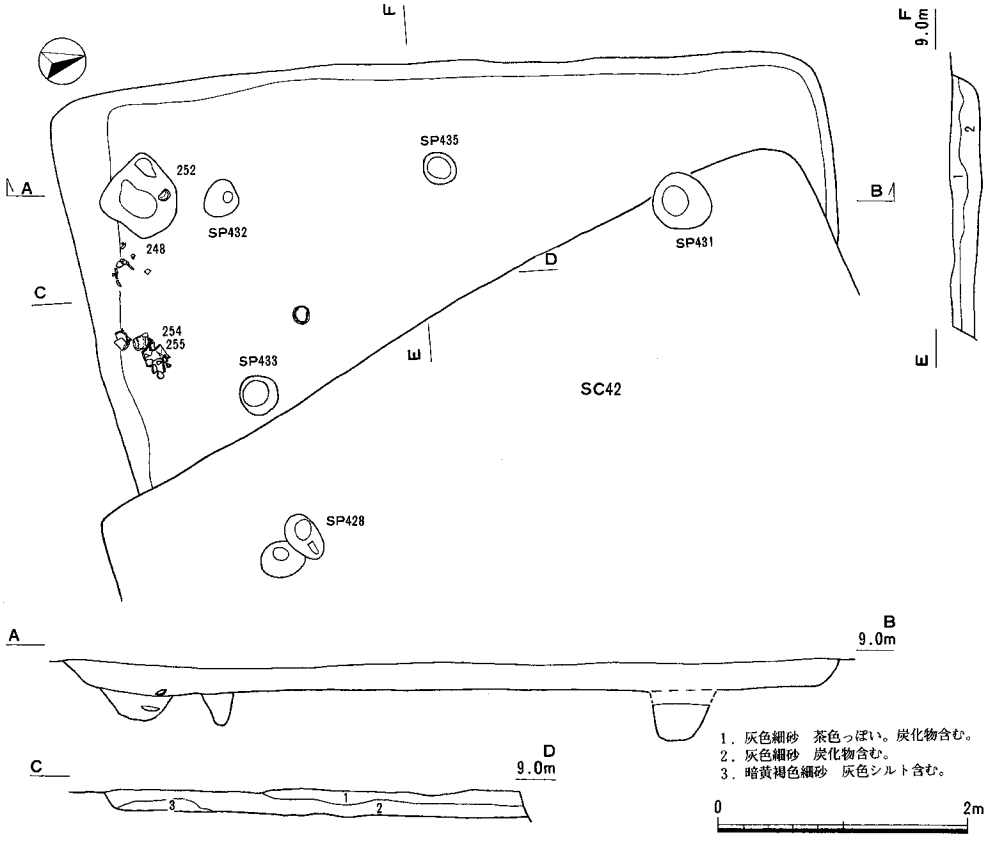


Fig.80　SC43実測図（1／60）

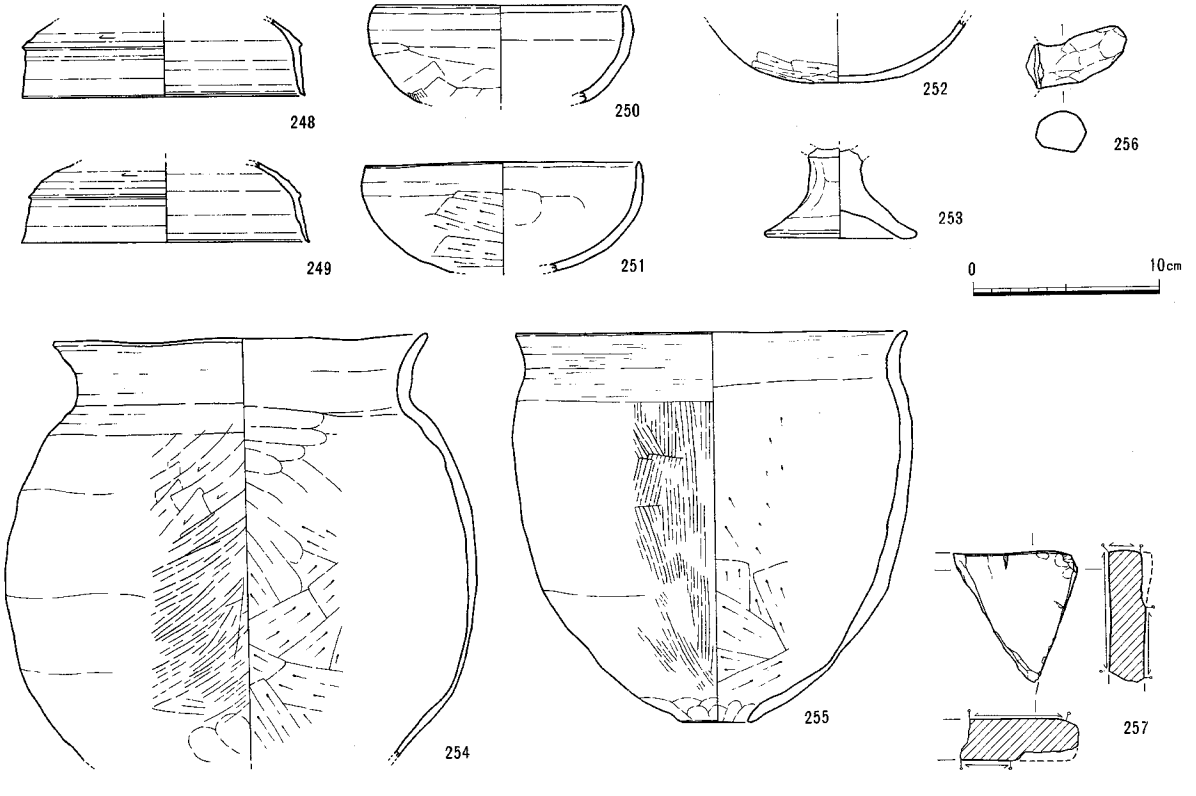


Fig.81　SC43出土遺物実測図（1／4）

Tab.27　SC43出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
248	須恵器・坏蓋	SC43	(15.0)	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	(Ⅰ－5)～Ⅱ－1
249	須恵器・坏蓋	SC43	(15.3)	－	－	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／青灰	良好	(Ⅰ－5)～Ⅱ－1
250	土師器・椀	SC43	(13.6)	－	－	[5.3]	ナデ／ケズリ	淡灰褐～淡橙灰	良好	
251	土師器・椀	SC43	14.8	－	－	[5.9]	ナデ／ケズリ	黄橙～灰白／黄橙～橙	良好	
252	土師器・椀	SC43	－	－	－	[3.4]	ナデ／ケズリ、ナデ	淡橙～橙	良好	
253	土師器・高坏	SC43	－	－	8.2	[4.9]	ナデ／ケズリ	灰褐～橙灰	良好	
254	土師器・甕	SC43	(19.0)	(25.1)	－	[22.6]	上部ナデ、下部ケズリ／肩部板ナデ、胴部ハケ、底部ナデ	黄橙～灰黄褐／黄橙～浅黄橙	やや良好	
255	土師器・甑	SC43	(20.9)	(21.3)	(3.6)	20.8	ケズリ、ナデ、底部ナデ・指押え／ハケ、底部ナデ・指押え	橙～黄橙	やや良好	単孔
256	土師器・甑把手	SC43	－	－	－	－	ナデ	淡褐灰～橙灰	良好	

番号	種　類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
257	砥石	SC43	[7.0]	[6.4]	2.4	114	砂岩、3面使用、敲石に転用？

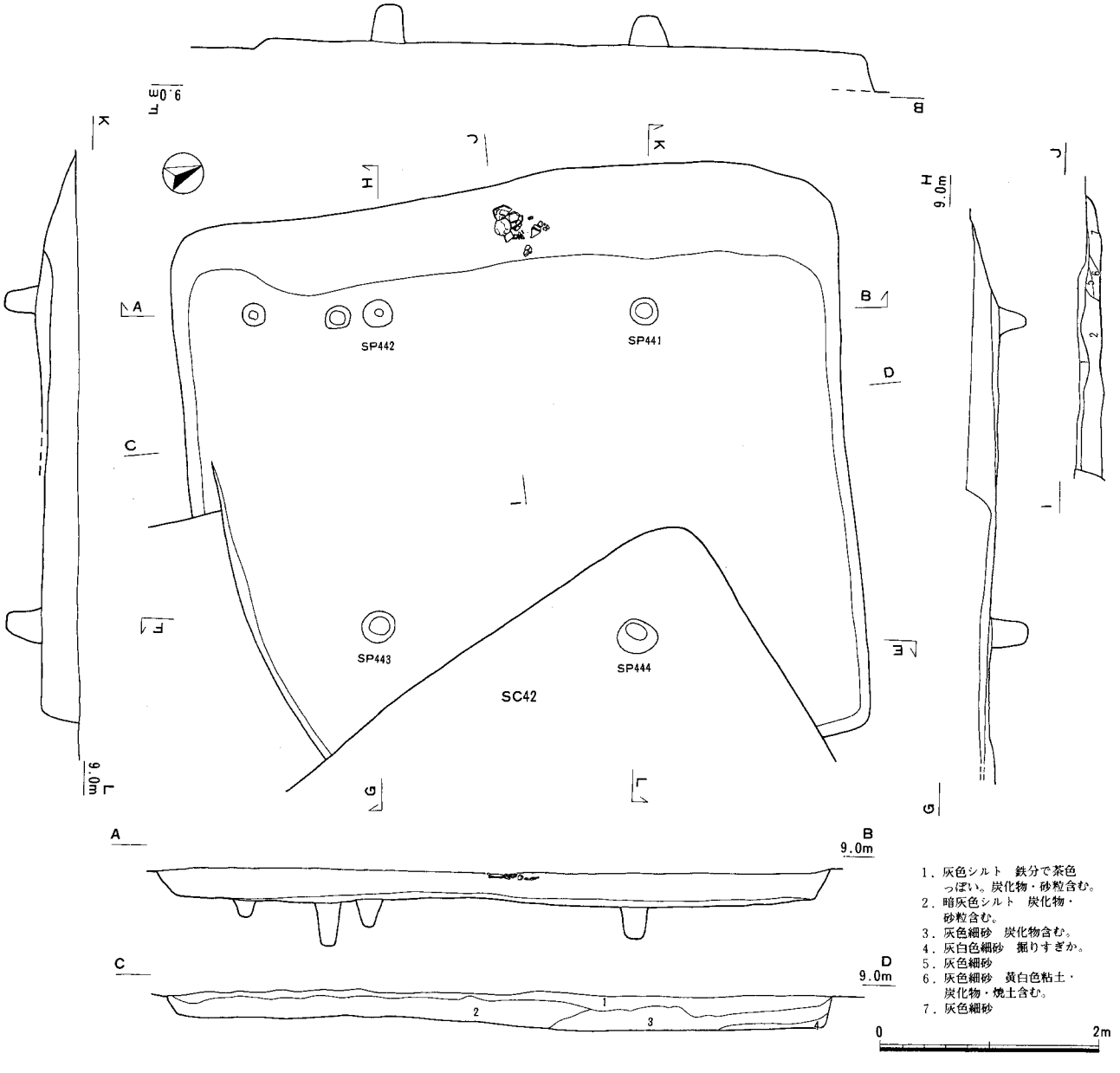


Fig.82　SC44実測図（1／60）

SC44（Fig.82・83、Ph.65・66、Tab.28）

調査区中央部西寄りに位置する方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。SC42・43に切られるが、SC43より掘り込みが深い。規模は東西5.3m、南北6.0mである。残存壁高は30cmである。西壁は緩やかに傾斜している。柱穴は4ヶ所で確認された（SP441～444）。西壁中央部に遺物の集中と土層に炭化物、焼土、黄白色粘土がみられ、この位置にカマドが存在した可能性がある。

出土遺物をFig.83とTab.28に示す。

Ph.65　SC44（北から）

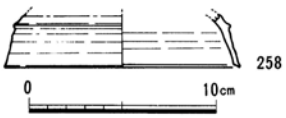


Fig.83　SC44出土遺物実測図（1／4）

Ph.66　SC44遺物出土状況（南から）

Tab.28　SC44出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
258	須恵器・坏蓋	SC44		(12.6)	－	[2.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	I－5

SC45（Fig.84・85、Ph.67、Tab.29）

調査区西寄りに位置する方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層と粗砂層を掘り込んでいる。南側はSX15に切られている。東西6.2m、南北は東辺残存部で5.9mである。残存壁高は20cmである。ピットが多数検出されたが、4本柱の住居であったと思われる。

出土遺物をFig.85とTab.29に示す。

Ph.67　SC45（南から）

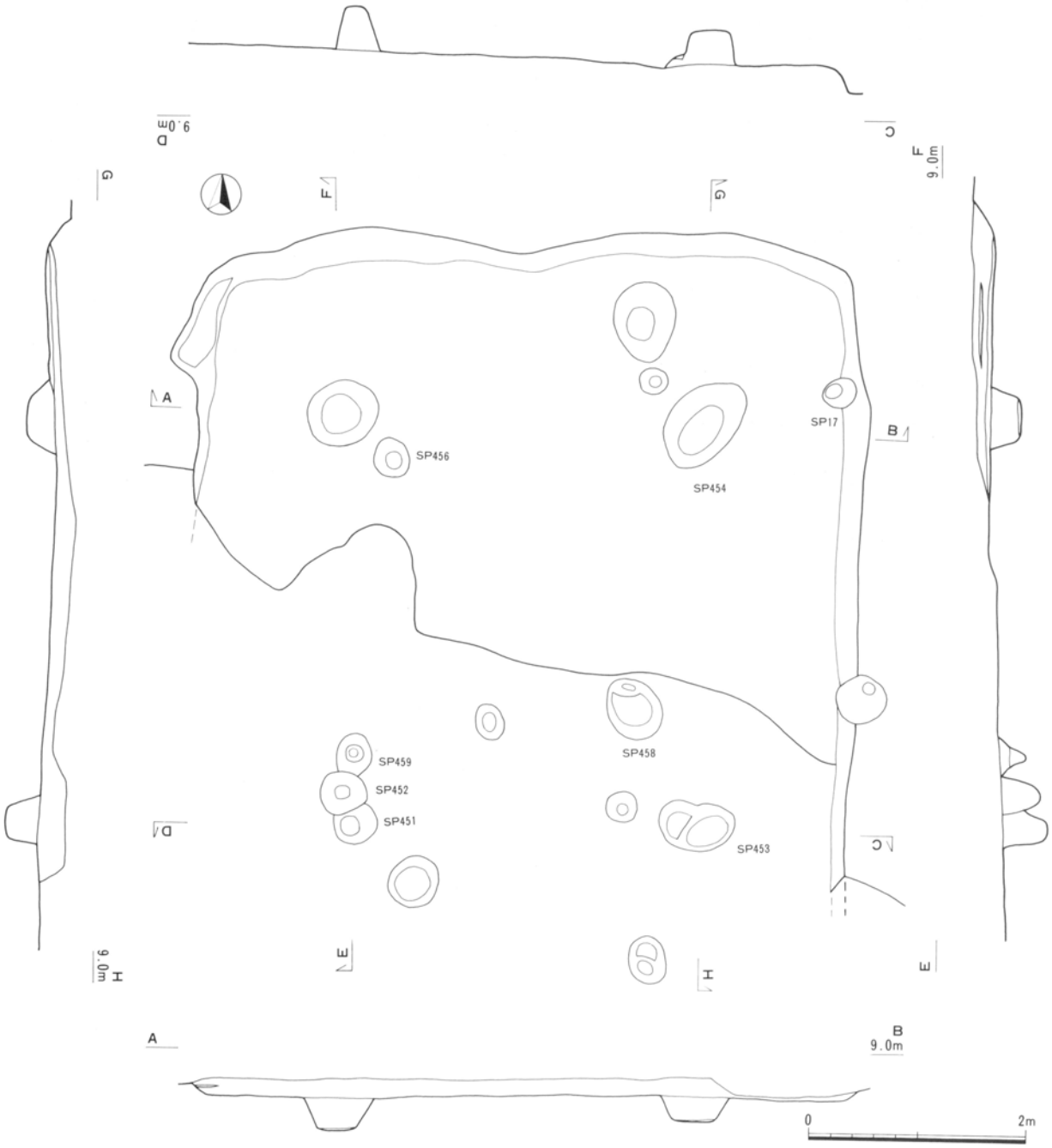


Fig.84　SC45実測図（1／60）

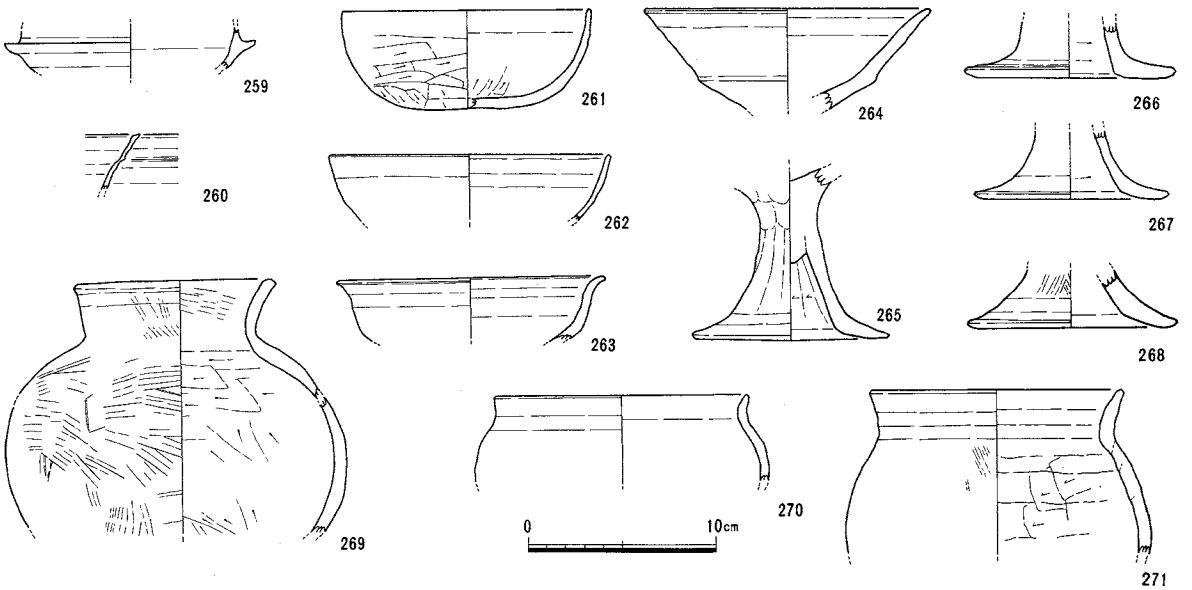


Fig.85　SC45出土遺物実測図（1／4）

Tab.29　SC45出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備　考
259	須恵器・坏身	SC45	－	－	－	[2.3]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰	良好	
260	須恵器・蓋	SC45	－	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰／暗灰	良好	
261	土師器・椀	SC45	(13.2)	－	－	[5.2]	上部ナデ、下部ケズリ／ケズリ	淡赤褐	良好	
262	土師器・椀	SC45	(15.0)	－	－	[3.5]	ナデ／ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
263	土師器・椀	SC45	(14.3)	－	－	[3.3]	ナデ／ナデ	灰褐～淡橙灰	良好	
264	土師器・高坏	SC45	(15.3)	－	－	[5.4]	ナデ／ナデ	黄橙灰	やや不良	
265	土師器・高坏	SC45	－	－	10.5	[9.1]	坏部ナデ、脚部板ナデ／ナデ、ケズリ	橙灰～淡褐灰	良好	
266	土師器・高坏	SC45	－	－	(11.2)	[3.0]	ケズリ／ナデ	橙灰／褐灰～橙灰	やや不良	
267	土師器・高坏	SC45	－	－	(10.3)	[3.6]	ケズリ／ナデ	橙灰	良好	
268	土師器・高坏	SC45	－	－	(11.1)	[3.1]	ケズリ／ハケ、ナデ	橙灰	良好	
269	土師器・壺	SC45	10.2～11.4	－	－	[13.5]	口縁部ハケ、胴部ケズリ／ハケ	橙灰～淡褐灰	良好	外面スス、或いは黒漆付着
270	土師器・鉢	SC45	(13.5)	－	－	[4.6]	ナデ／ナデ	淡橙灰	良好	
271	土師器・甕	SC45	(13.5)	(16.2)	－	[8.8]	頸部ナデ、胴部板ナデ／ハケ、ナデ	黄灰～茶褐／灰褐	やや不良	

SC46（Fig.86・87、Ph.68、Tab.30）

調査区西寄りに位置する。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。大半は発掘区外に伸びており、東辺を確認したのみであるが、方形竪穴住居であると思われる。確認された南北規模は4.2mである。残存壁高は30cmである。

出土遺物をFig.87とTab.30に示す。このほかに大形器台771の破片が出土している。

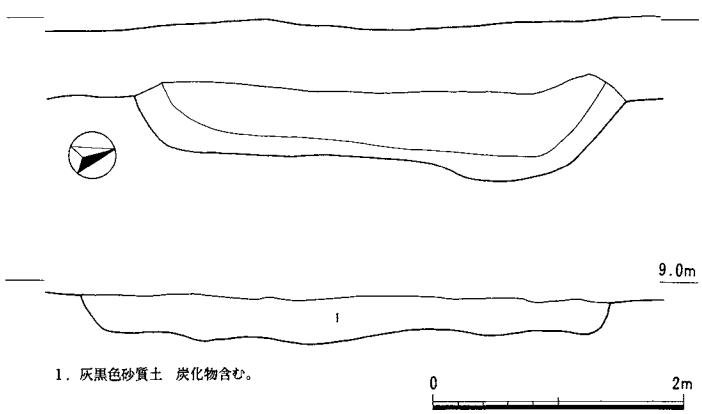


Fig.86　SC46実測図（1／60）

Ph.68　SC46（東から）

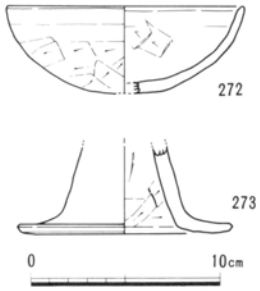


Fig.87　SC46出土遺物
実測図（1／4）

Tab.30　SC46出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
272	土師器・椀	SC46	(12.6)	－	－	[4.6]	板ナデ／ケズリ	黄橙灰	良好	
273	土師器・高坏	SC46	－	－	(11.4)	[4.6]	ケズリ／摩滅	橙灰	良好	

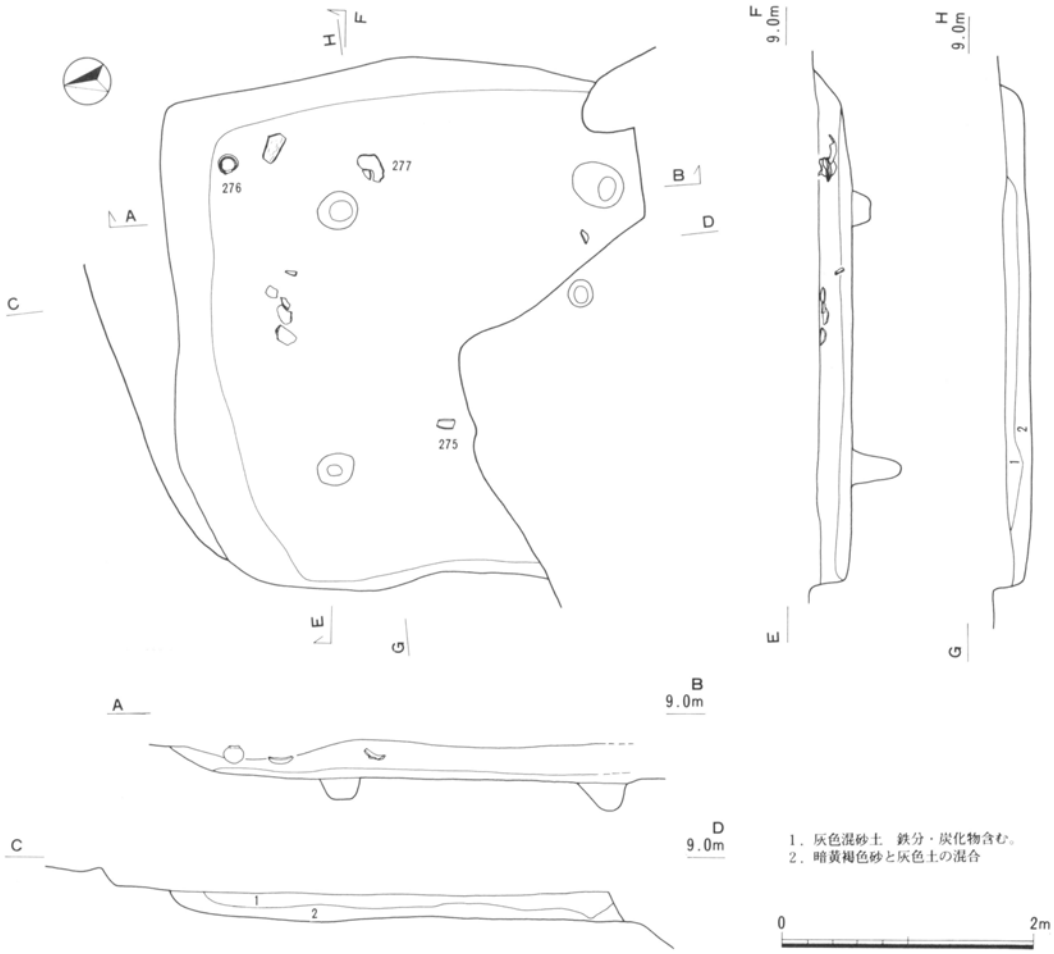
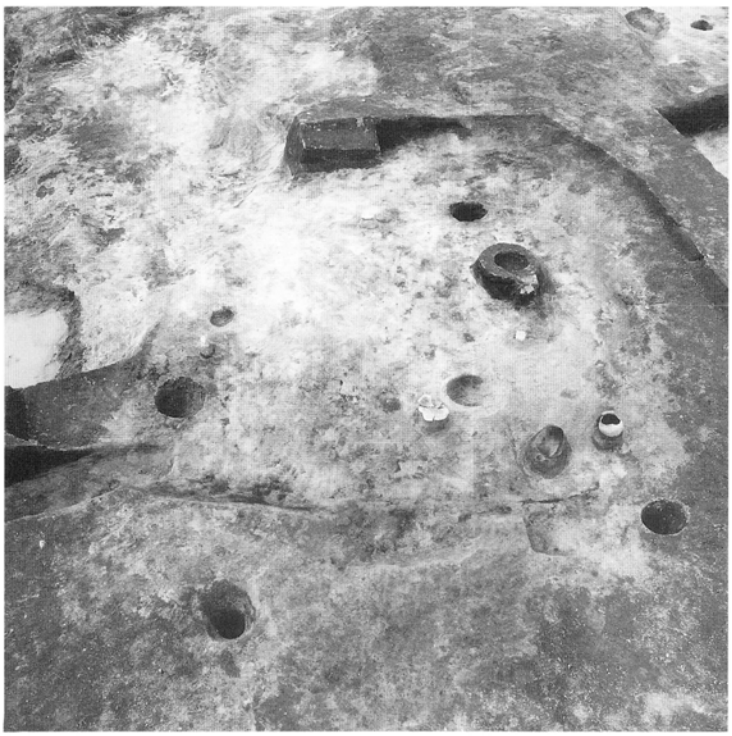


Fig.88　SC49実測図（1／60）

SC49（Fig .88・89、Ph .69・70、Tab .31）

調査区中央部、SC41の床面で検出した小形の方形竪穴住居である。SC41の土層確認でSC49もSX15を掘り込んでいるように観察された。東西4.0m、南北は東辺で3.6m残存している。残存壁高は20cmである。柱穴は３ヶ所確認された。南西の柱穴はSX15として先に掘削してしまった。柱穴位置から住居の南北規模は4.9m程であろう。

出土遺物をFig .89とTab .31に示す。



Ph.69　SC49（東から）

Ph.70　SC49遺物出土状況（北から）

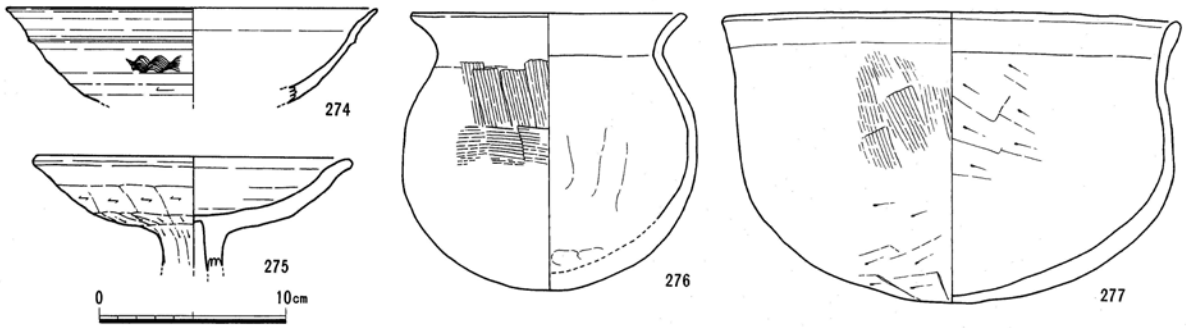


Fig.89　SC49出土遺物実測図（１／４）

Tab.31　SC49出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
274	須恵器・無蓋高坏	SC49	(19.7)	－	－	[5.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ、波状文	灰／青灰	良好	Ⅰ－３～Ⅰ－４？
275	土師器・高坏	SC49	(16.9)	－	－	[6.8]	ナデ／坏部ケズリ、脚部ナデ	橙灰	良好	
276	土師器・甕	SC49	(14.7)	15.6	－	14.8	ナデ、底部指押え／上部ハケ、下部ナデ	褐灰／橙灰～淡褐灰	やや不良	
277	土師器・鉢	SC49	24.5	－	－	15.6	ケズリ／上部ハケ・ナデ、下部ケズリ・ナデ	淡褐灰～茶褐／淡褐灰～橙灰	良好	

SC50（Fig.90・91、Ph.71、Tab.32）

調査区南寄りで確認した方形竪穴住居と思われる遺構である。柔らかい細砂～シルト層とSD52を掘り込んでいる。南側は2面で確認した河川SD13により削られており、北側はSC28に切られている。西壁と東壁の一部を確認しているのみである。南北の規模は4.1mである。残存壁高は20cmである。ピットを1基確認したが柱穴になるかどうか不明。

出土遺物をFig.91とTab.32に示す。このほかミニチュア土器881が出土している。

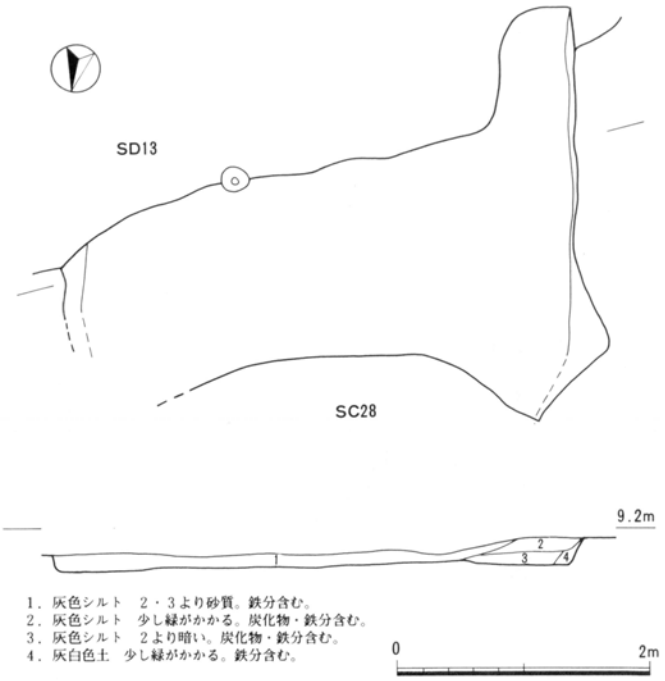


Fig.90　SC50実測図（1／60）

Ph.71　SC50（東から）

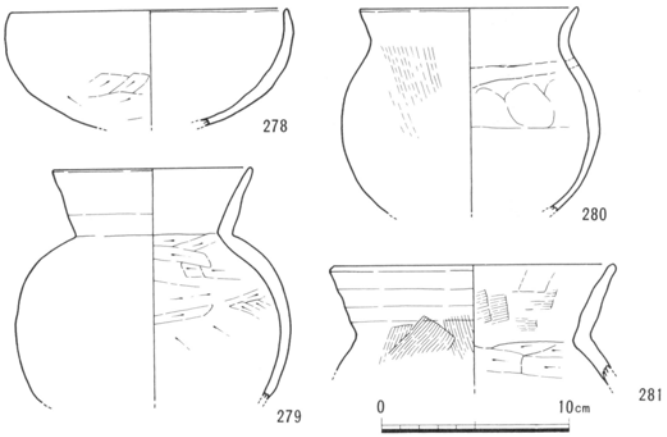


Fig.91　SC50出土遺物実測図（1／4）

Tab.32　SC50出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
278	土師器・椀	SC50	(14.7)	－	－	[6.2]	ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	黒灰／橙灰	良好	
279	土師器・壺	SC50	10.6	(14.6)	－	[12.5]	ケズリ／ナデ	赤褐／明赤褐～橙	良好	
280	土師器・甕	SC50	(11.6)	(13.1)	－	[11.0]	ナデ、指押え／ハケ、ナデ	灰白／灰白～黄橙	良好	
281	土師器・甕	SC50	(15.2)	－	－	[6.5]	口縁部ハケ、肩部ケズリ／ハケ、ナデ	淡灰褐	良好	

SD14（Fig .92～116、Ph .72～98、Tab .33）

調査区東寄りに位置する河川である。南から北へ流れる。北東岸は粘土層、西南岸はシルト～細砂層。西岸はどこまでをSD14にするか判断しづらいが、遺物を多く含む粘土層の6層くらいまでが集落の繁栄した時期と重なるか。古墳時代以前には調査区中央部西寄りまで西南岸は広かったことが、Lトレンチで確認できる。幅m、深さcm。長さmを検出した。南側から須恵器、土師器が多量に出土し、木製品・流木・滑石製品なども出土している。北側は遺物がほとんど出土しなかった。土層の堆積状況も南側と異なっていた。古墳時代の河川自体は調査区東壁中央あたりで調査区外へ続いていき、北側は別の河川を掘ったのではないかと考えられる。古墳時代のSD14はA－2区へ続くはずであるが、検出されなかったことから、後世に大規模に流失したものと思われる。

Ph.72　SD14調査状況（北から）

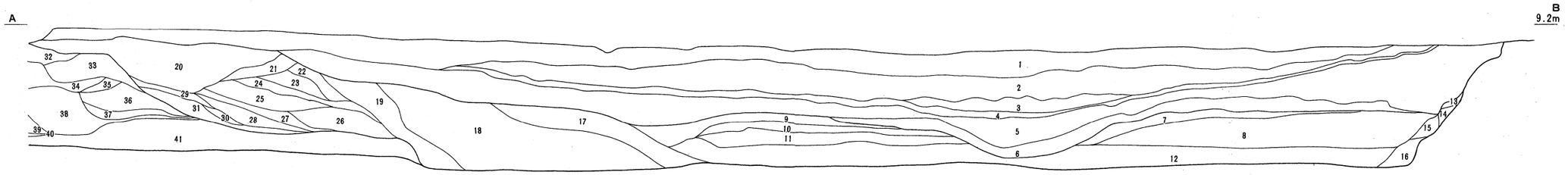
河川の覆土を掘削するとかなりの涌水があり、西南岸はかなり抉られてしまった。川底は3本ほど深い部分があり、時期を違えて流れていたものと思われる。

遺物は層位ごとに取り上げることができなかった。平面位置はブロックごとに取り上げた。中央土層ベルトを挟んで北西側を「西区（W）」、南東側を「東区（E）」と大きく分け、その中をそれぞれ9分割している。「東区」は川の流れる方向と直交方向には、「西（W）」、「中央（C）」、「東（E）」と3分割し、川の流れる方向には南西岸を「南岸（S）」、中央を「中央（C）」、北東岸を「北岸（N）」と3分割した。「西区」は北東側では遺物が出土しなかったので川の流れと直交方向については中央ベルトから3m程度までを「東（E）」、3m～6m程度を「中央（C）」、6～10m程度までを「西（W）」とした。川の流れる方向は「東区」と同様である。位置表示は区・川の流れと直交方向・川の流れる方向の順に示し、「西区中央南岸」、「東区中央中央」などと示し、「WCS」、「ECC」と略した。中央部と南東部に設けたベルトからの出土遺物については川の流れる方向に3分割とし、「中央ベルト南岸」、「東ベルト中央」と取り上げ、「CベルトS」、「EベルトC」と略した。ただし、各ブロックの境は厳密ではない。

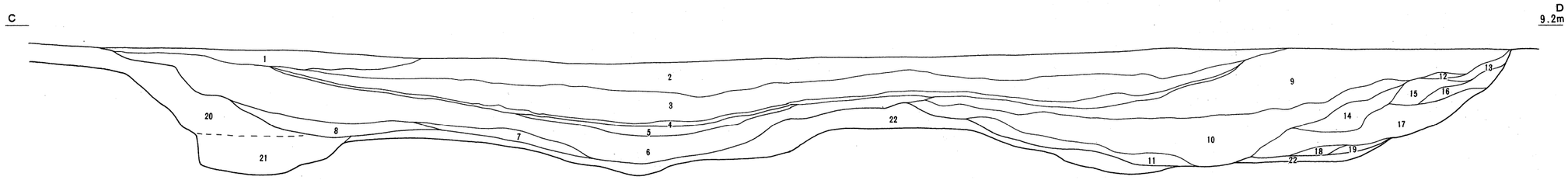
川の両岸には土器が多く出土し、中央部には木器、流木が多くみられる。「東区」では完形の土器や完形に復元できる土器が多く、「西区」では土器の破片が「南岸」に散乱している。「西区」の「北岸」からの遺物の出土は少なかった。「東区西中央」では須恵器坏身297・302・307、土師器椀497を並べたと思われる出土状況が見られる（Ph .83・84）。297と302は完形で、307も割れているがほぼ完形に復元できる。出土土器の中には陶質土器もみられた。SC41・42で出土した破片と同一個体と考えられるため、一括して掲載した（380～388）。「西区中央南岸」から手形土製品687が出土した（Ph .80）。中部地方の縄文時代にみられるものと同様に子供の手形を粘土につけて焼いたものである。また、「東区東北岸」から927、「東区中央南岸」から926（Ph .89・90）の2点の滑石製子持勾玉が出土している。「東区中央北岸」からは長さ55cmほどの鉄刀が出土したが錆がひどく図示できなかった（Ph .92）。「東区東北岸」の土師器甕656の中からはミニチュア土器882が出土している（Ph .98）。このほかにも有孔円盤、紡錘車、線刻のある扁平な滑石などの、滑石製品が出土している。また、「東ベルト北岸」の5層中より滑石の原石やチップ、臼玉未製品が集中して出土した。

Ph.73　SD14遺物出土状況①（南東から）

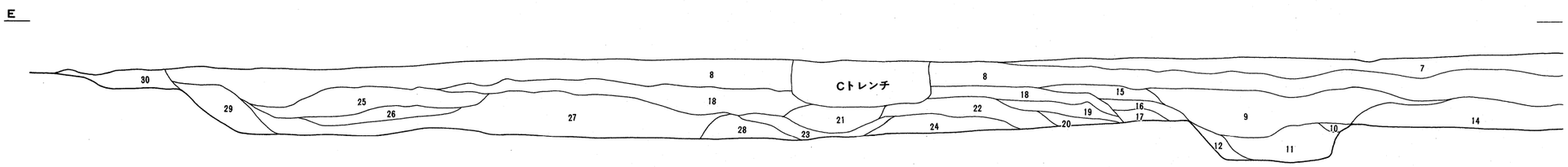
Ph.74　SD14遺物出土状況②（東から）



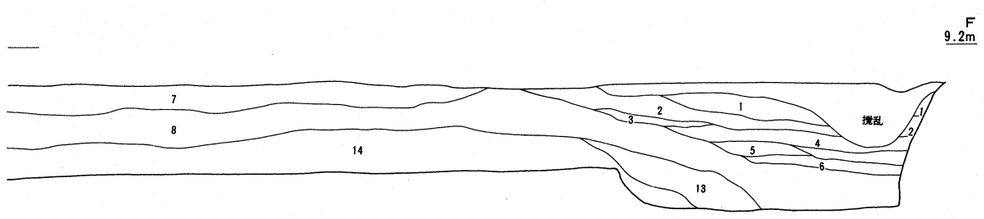
1．灰褐色シルト　炭化物、鉄分含む。
2．灰色粘土　炭化物、鉄分含む。
3．暗灰色粘土　炭化物多く含む。
4．暗灰色粘土　炭化物、緑色粘土含む。
5．暗灰色粘土　炭化物含む。
6．暗灰色粘土　砂粒含む。
7．暗茶褐色粗砂
8．暗茶褐色～灰白色粗砂
9．灰色細砂
10．暗茶褐色粗砂
11．黄灰白色粗砂
12．灰白色粗砂
13．暗灰色粘土
14．灰黒色粘土　黒色粘土含む。
15．暗灰色粗砂
16．灰色粗砂
17．青灰白色細砂　灰色味強い。
18．青灰白色細砂　白っぽい。
19．灰色シルト　炭化物含む。
20．青灰白色細砂
21．暗赤褐色細砂
22．暗赤褐色細砂
23．暗黄褐色砂
24．青灰色細砂
25．黄白色砂
26．灰白色粗砂
27．青灰色細砂
28．暗灰白色粗砂
29．青灰白色細砂
30．灰白色細砂
31．灰色細砂
32．青灰白色細砂
33．暗黄褐色細砂　灰色細砂含む。
34．灰色シルト
35．青灰白色細砂
36．灰白色砂
37．青白色細砂
38．青灰白色細砂
38．灰白色砂
39．青白色細砂
41．灰白色粗砂～黄白色砂



1．灰白色シルト　鉄分で黄色っぽい。
2．灰色シルト
3．暗灰色粘質土
4．青白色シルト
5．暗灰色粘質土　木質多く含み茶色っぽい。炭化物含む。
6．暗灰色粘質土　炭化物含む。
7．暗灰色粘質土　粗砂、炭化物含む。
8．暗灰色混砂粘質土　炭化物含む。
9．灰色シルト
10．暗灰色シルト　やや粘質。
11．暗灰色砂　暗灰色シルト含む。
12．黄褐色細砂　灰色シルト含む。
13．灰色シルト
14．暗灰色シルト　10より白っぽい。
15．黄褐色粗砂
16．灰色シルト
17．黄褐色粗砂
18．暗灰色細砂
19．暗灰色粘土　青灰色粘土含む。
20．青灰白色シルト
21．灰白色細砂
22．灰白色粗砂　掘りすぎ。



1．灰色シルト　白っぽい。
2．灰色シルト　灰色粗砂多く含む。
3．茶褐色砂　灰色細砂含む。
4．灰色シルト　灰色粗砂含む
5．灰色シルト　白っぽい。
6．灰色シルト
7．灰色粘土　鉄分で茶色っぽい。
8．暗灰色シルト～粘土　炭化物、砂粒含む。
9．灰色粘土　炭化物含む。
10．灰色細砂　灰色シルト含む。
11．暗灰白色砂
12．灰色シルト　灰色砂含む。
13．灰色シルト
14．灰色シルト
15．灰色シルト　灰色粘土含む。
16．灰色シルト　灰色細砂含む。
17．灰色砂
18．灰色シルト　炭化物含む。
19．灰色シルト　灰色細砂含む。
20．灰色砂
21．黄褐色砂　灰色シルト含む。
22．灰色細砂　黄褐色細砂多く含む。
23．灰色シルト
24．灰黄褐色砂
25．灰色シルト　黄褐色細砂含む。
26．黄褐色砂　灰色シルト含む。
27．灰白色シルト～細砂
28．灰色シルト　灰色粗砂多く含む。
29．灰色シルト　暗黄褐色粗砂多く含む。
30．灰色シルトと黄褐色砂の互層

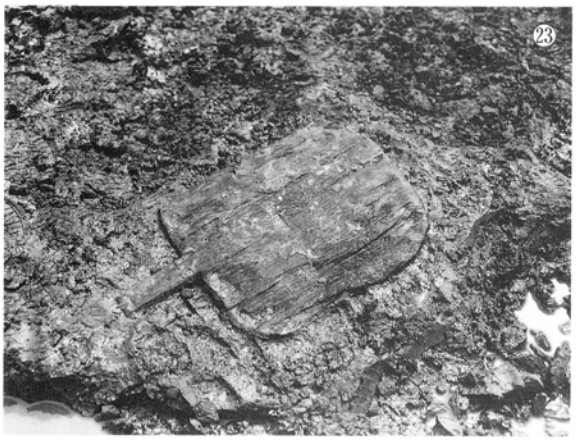


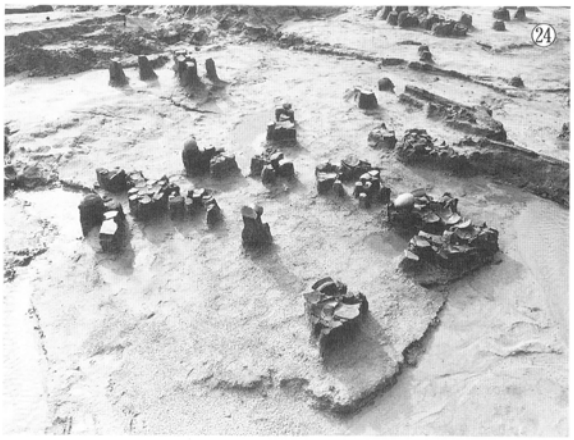
0　2m

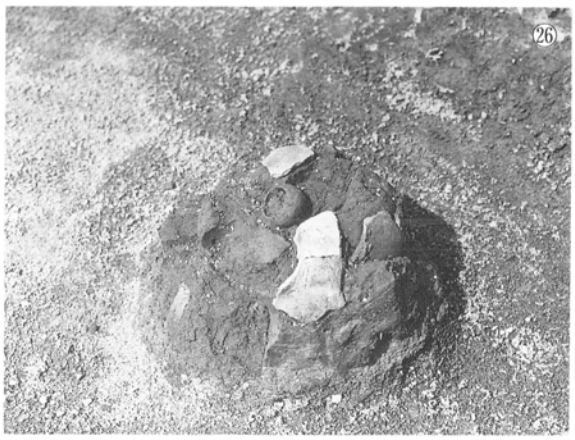
Fig.94　SD14土層図（1／50）

Ph.75～82　SD14遺物出土状況③～⑩

Ph.83～90　SD14遺物出土状況⑪～⑱







Ph.91～98　SD14遺物出土状況⑲～㉖

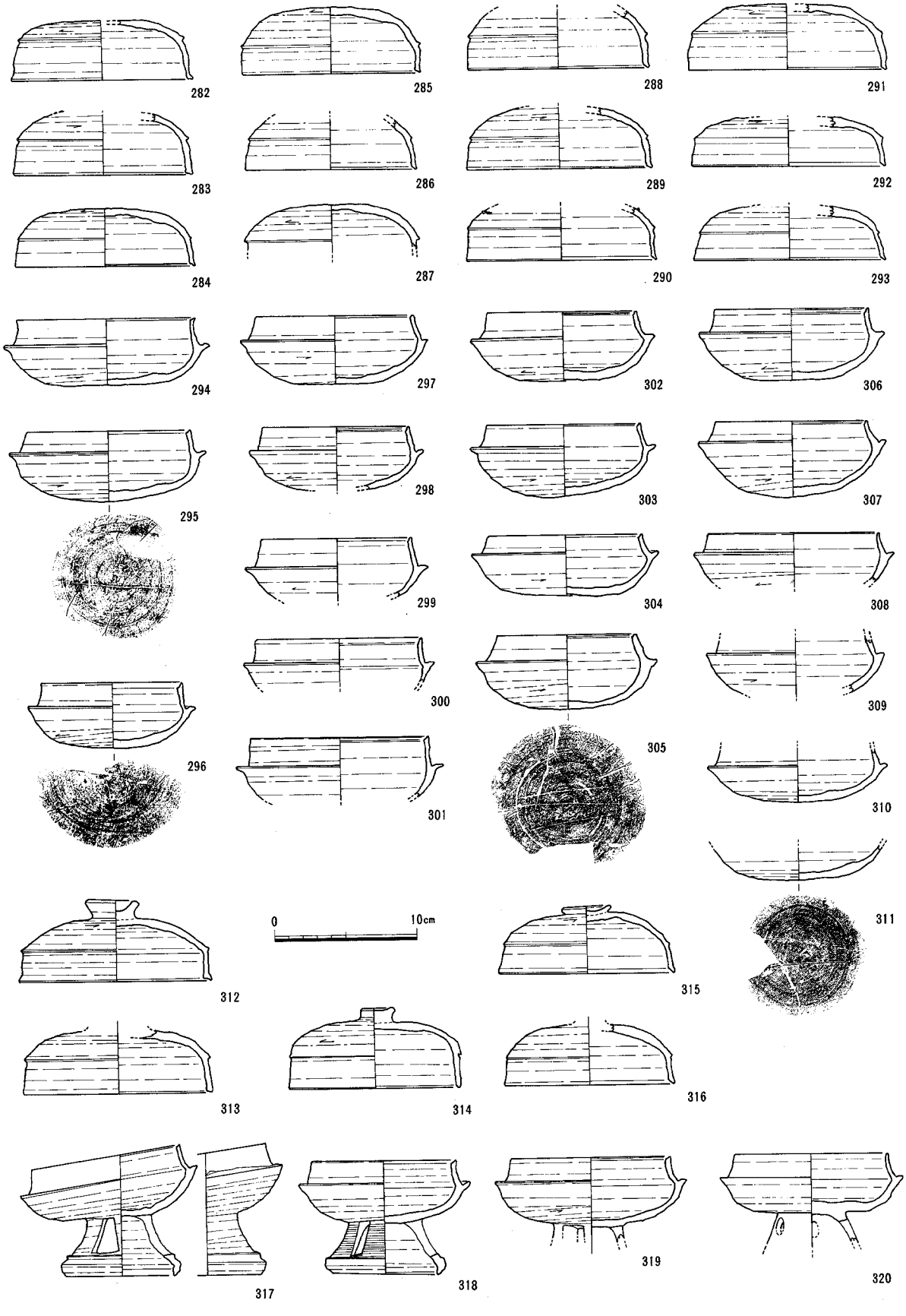


Fig.95　SD14出土遺物実測図　1（1／4）

Tab.33　SD14出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
282	須恵器・坏蓋	Eベルト－	(12.7)	－	－	4.2	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰／淡青灰	良好	Ⅰ－2～Ⅰ－3
283	須恵器・坏蓋	ECC	(12.5)	－	－	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅰ－3
284	須恵器・坏蓋	ECS	(12.6)	－	－	4.1	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰褐～黒灰／灰	やや良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
285	須恵器・坏蓋	WCS	(12.5)	－	－	4.7	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－4
286	須恵器・坏蓋	WCS	(12.0)	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰／青灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
287	須恵器・坏蓋	EベルトC	－	－	－	[3.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／暗灰	良好	
288	須恵器・坏蓋	WWC	(12.7)	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
289	須恵器・坏蓋	WCS	(13.0)	－	－	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
290	須恵器・坏蓋	WCS	(13.3)	－	－	[3.7]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰／灰～暗灰	良好	Ⅱ－1
291	須恵器・坏蓋	EベルトC	(13.9)	－	－	[4.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／灰～暗灰	良好	Ⅱ－1
292	須恵器・坏蓋	WCS	(13.6)	－	－	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／暗灰～黒灰	良好	Ⅱ－1
293	須恵器・坏蓋	WCS	(13.5)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
294	須恵器・坏身	EEN	(12.4)	－	－	4.7	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰／暗灰	良好	Ⅰ－3
295	須恵器・坏身	E－－	11.5	－	－	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	ヘラ記号、(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
296	須恵器・坏身	EWS	9.8	－	－	4.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰	良好	ヘラ記号、Ⅰ－5
297	須恵器・坏身	EWC	11.0	－	－	4.9	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
298	須恵器・坏身		10.3	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	(Ⅰ－5)～Ⅱ－5
299	須恵器・坏身	EベルトC	(10.5)	－	－	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
300	須恵器・坏身	WEC	(11.6)	－	－	[3.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／淡灰	良好	Ⅱ－2
301	須恵器・坏身	WCS	(12.5)	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
302	須恵器・坏身	EWC	10.5	－	－	4.9	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
303	須恵器・坏身	ECS	10.8	－	－	5.2	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰褐	良好	Ⅰ－4
304	須恵器・坏身	WEC	(10.8)	－	－	5.4	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／暗灰～灰	やや不良	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
305	須恵器・坏身	WCS	9.8	－	－	5.2	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	ヘラ記号、朝倉、Ⅰ－4～Ⅰ－5
306	須恵器・坏身	ECS	(10.8)	－	－	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰～暗灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
307	須恵器・坏身	EWC	10.7	－	－	5.5	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰～淡灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
308	須恵器・坏身	EベルトC	(12.0)	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰	良好	(Ⅰ－5)～Ⅱ－1
309	須恵器・坏身	WCS		－	－	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／青灰	良好	
310	須恵器・坏身	WCS		－	－	[3.7]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰／淡灰～灰	良好	
311	須恵器・坏身	EWC	－	－	－	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／灰褐～暗灰	良好	ヘラ記号
312	須恵器・高坏蓋	ECC	(13.4)	－	－	5.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰～暗灰	良好	陶邑、Ⅰ－3
313	須恵器・高坏蓋	ECC＋ECS	(13.2)	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰／淡灰～黒灰	良好	Ⅰ－3
314	須恵器・高坏蓋	ECC	12.1	－	－	5.7	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／紫灰～暗青灰	良好	陶邑、Ⅰ－3
315	須恵器・高坏蓋	WCS	12.3	－	－	4.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
316	須恵器・高坏蓋	WCS	(11.8)	－	－	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰／黒灰～灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
317	須恵器・有蓋高坏	ECS	10.5	－	7.6	10.5	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ	灰褐	良好	3方透かし、Ⅰ－4
318	須恵器・有蓋高坏	EWS	10.2	－	8.5	8.1	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ、カキ目	灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
319	須恵器・有蓋高坏	ECS	11.1	－	－	[5.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	陶邑？、Ⅰ－4
320	須恵器・有蓋高坏	WES	(12.8)	－	－	[5.2]	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ	青灰／灰	良好	3ヶ所円形透かしⅠ－5～Ⅱ－1
321	須恵器・無蓋高坏	EES	(16.0)	－	(9.2)	10.6	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ・波状文・カキ目、脚部回転ナデ	暗灰／暗灰～暗青灰	良好	陶邑、4方透かし、Ⅰ－3
322	須恵器・無蓋高坏	EWS	13.1～15.4	－	－	16.7～18.1	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ・波状文、脚部回転ナデ	暗灰／青灰	良好	新貝、3方透かし、Ⅰ－4
323	須恵器・無蓋高坏	WCS	(14.5)	－	－	[5.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ、波状文、カキ目	暗灰／灰～暗灰	良好	3方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
324	須恵器・無蓋高坏	WCS	(18.2)	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ、波状文	灰／黒灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
325	須恵器・無蓋高坏	EES	(13.9)	－	－	[3.1]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰～黒灰／灰	良好	Ⅰ－3？
326	須恵器・無蓋高坏	EEC	13.7	－	10.0	11.5～12.6	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ・波状文、脚部回転ナデ	青灰	良好	朝倉、3方透かし、Ⅰ－3
327	須恵器・無蓋高坏	WCS	(16.0)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ、波状文	暗灰	良好	Ⅰ－4
328	須恵器・無蓋高坏	WCS	(16.3)	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ、波状文	黄灰～淡灰／青灰	良好	(Ⅰ－3)～Ⅰ－4
329	須恵器・高坏	EベルトC	－	－	(9.6)	[1.9]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰	良好	Ⅰ－2
330	須恵器・高坏	W－S	－	－	(10.3)	[2.3]	回転ナデ／回転ナデ	灰～暗灰	良好	3方透かし
331	須恵器・高坏	ECC	－	－	(9.6)	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰～褐灰	良好	4方透かし、Ⅰ－3～Ⅰ－4
332	須恵器・高坏	WCS	－	－	(9.7)	[5.2]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰	良好	3方透かし、(Ⅰ－3)～Ⅰ－4
333	須恵器・高坏	EWC	－	－	(10.3)	[5.7]	回転ナデ／回転ナデ、カキ目	灰	良好	3方透かし？(Ⅰ－3)～Ⅰ－4
334	須恵器・高坏	EWS	－	－	(10.9)	[6.2]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰	良好	3方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
335	須恵器・高坏	WCS	－	－	(9.1)	[5.5]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰／淡青灰	良好	4方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
336	須恵器・高坏	WES	－	－	(11.0)	[6.4]	回転ナデ／回転ナデ	灰～暗灰	良好	3方透かし、Ⅰ－3、(朝倉)
337	須恵器・高坏	WCS	－	－	(9.5)	[7.2]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰	良好	4方透かし、(朝倉)、Ⅰ－4～Ⅰ－5
338	須恵器・高坏	WCS	－	－	(8.7)	[8.7]	回転ナデ／回転ナデ	灰／暗灰	良好	4方透かし、Ⅰ－5～Ⅱ－1
339	須恵器・甕	EEN	－	12.4	－	[9.3]	回転ナデ／頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・カキ目・刺突文、下部ケズリ	暗灰／淡青灰	良好	Ⅰ－5？
340	須恵器・甕	WCC	－	12.0	－	[10.1]	回転ナデ、底部指押え／頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・波状文、下部ケズリ	青灰～暗灰	良好	(陶邑)、Ⅰ－3
341	須恵器・甕	EWS	12.6	16.7	－	16.6	回転ナデ、板ナデ、底部指押え／口頸部回転ナデ・波状文、体部回転ナデ・波状文、底部指押え	黒灰／暗灰～明灰	良好	陶邑、Ⅰ－3～(Ⅰ－4)
342	須恵器・甕	ECC	－	10.4	－	[7.8]	回転ナデ、底部指押え／頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・刺突文、下部ケズリ	青灰～暗灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
343	須恵器・甕	WWC	11.1	10.1	－	11.2	回転ナデ／口頸部回転ナデ・波状文、体部回転ナデ・刺突文・カキ目、底部ケズリ	青灰～暗灰	良好	Ⅰ－5
344	須恵器・甕	WCS	－	10.8	－	[8.9]	回転ナデ／頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・刺突文、下部タタキ？・ナデ	暗青灰／暗青灰～黒灰	良好	Ⅰ－5

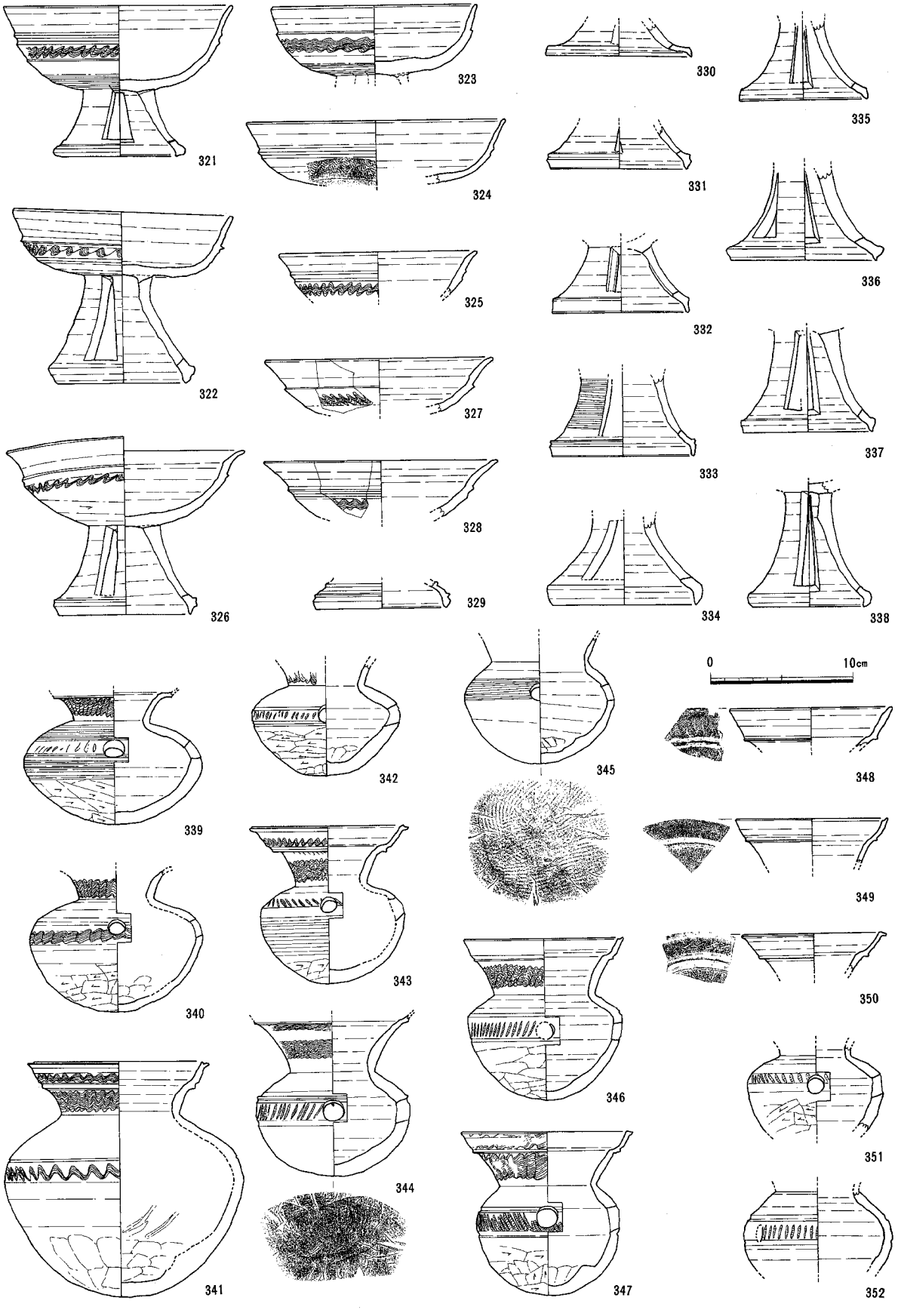


Fig.96　SD14出土遺物実測図　2（1／4）

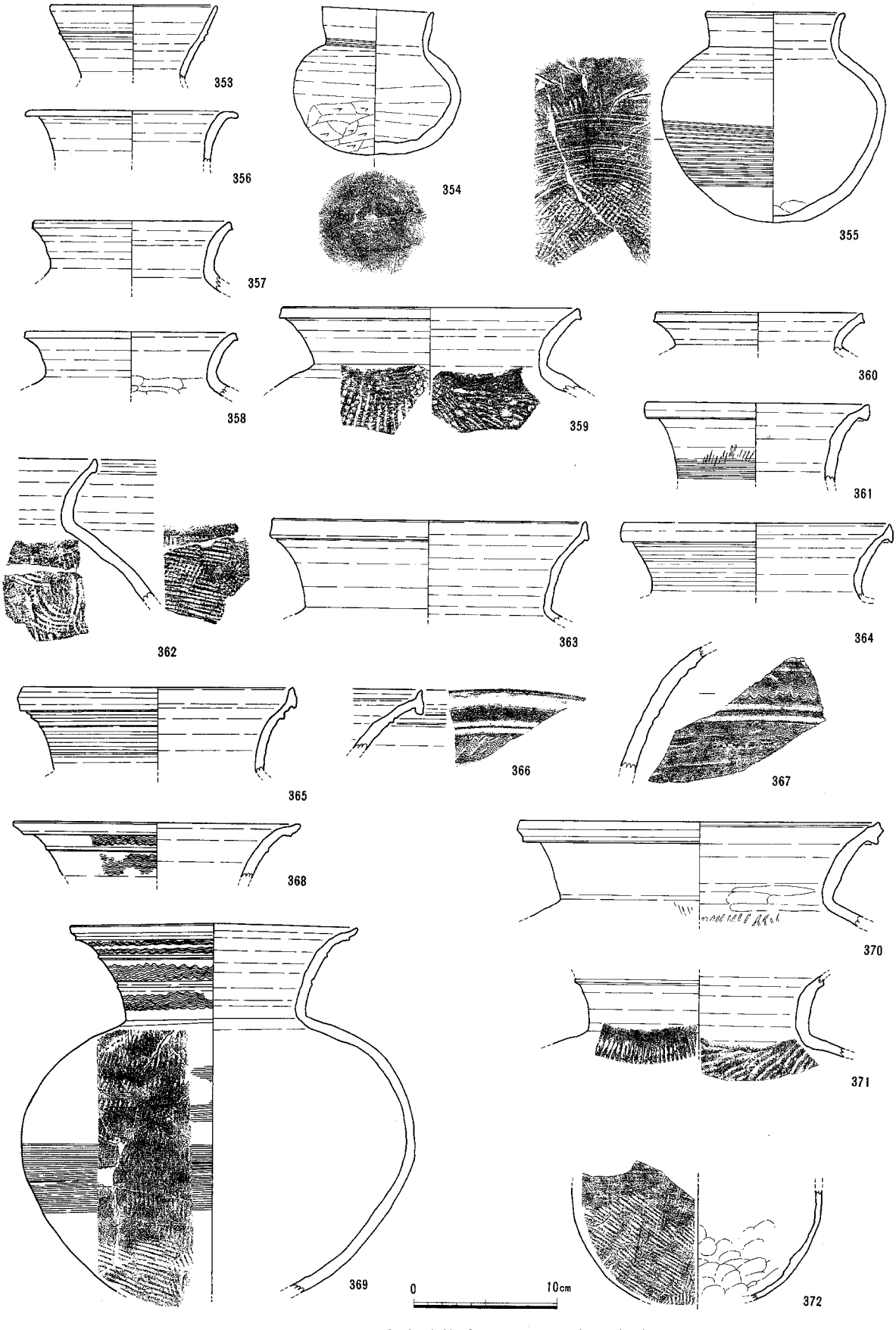


Fig.97　SD14出土遺物実測図　3（1／4）

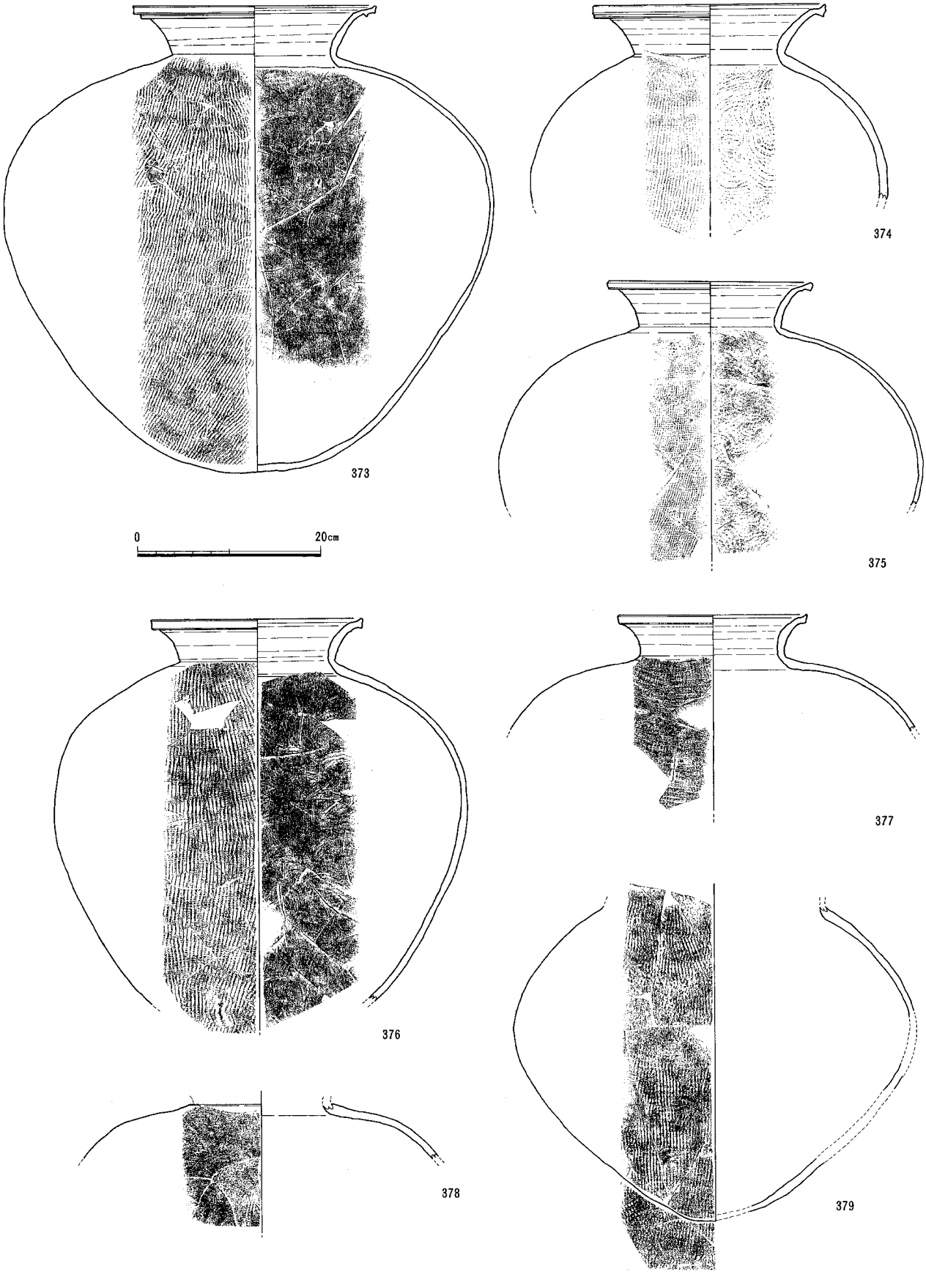


Fig.98　SD14出土遺物実測図　4（1／6）

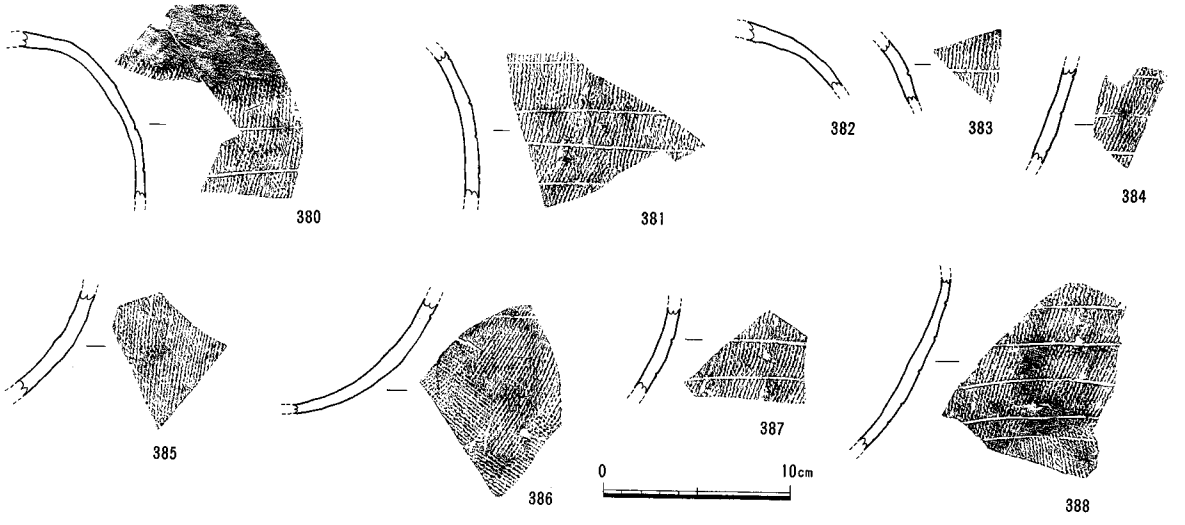


Fig.99　SD14出土遺物実測図　5（1／4）

番号	種類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
345	須恵器・甕	ECS	—	10.4	—	[8.9]	回転ナデ、底部ケズリ／頸部回転ナデ、体部回転ナデ・カキ目、底部タタキ	灰～暗灰	良好	Ⅱ－1～
346	須恵器・甕	ECC	(11.1)	(10.8)	—	11.4	回転ナデ／頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・刺突文、下部ケズリ	暗灰～灰／暗灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
347	須恵器・甕	EEC	(12.0)	—	10.1	11.5	回転ナデ、底部指押え／口頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・刺突文、下部ケズリ	暗灰／青灰	良好	(Ⅰ－5)～Ⅱ－1
348	須恵器・甕	WCS	(11.4)	—	—	[2.7]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	暗灰褐／暗灰	良好	
349	須恵器・甕	WCS	(10.6)	—	—	[3.3]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰	良好	
350	須恵器・甕	WCS	(10.1)	—	—	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	青灰／黒灰	良好	
351	須恵器・甕	WCS	—	(9.5)	—	[6.2]	回転ナデ／上部回転ナデ・刺突文、下部ケズリ	灰～暗灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
352	須恵器・甕	WCS	—	(10.3)	—	[5.8]	回転ナデ／回転ナデ、刺突文	青灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
353	須恵器・壺	W－－	(11.7)	—	—	[5.2]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰	良好	
354	須恵器・壺	ECS	(8.0)	10.2	11.6	[10.0]	回転ナデ／頸部カキ目、体上部回転ナデ・下部ケズリ	灰白	良好	ヘラ記号
355	須恵器・壺	WES	(9.9)	15.7	—	14.7	回転ナデ、底部指押え／回転ナデ、体下半部タタキ・カキ目	暗灰／青灰	良好	
356	須恵器・壺	CベルトS	(14.8)	—	—	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ	暗茶褐	良好	
357	須恵器・壺	E－S	14.0	—	—	[5.0]	ナデ、当て具痕／回転ナデ	褐灰	良好	
358	須恵器・壺	WCS	14.8	—	—	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ	褐灰	良好	
359	須恵器・壺	ECS	(21.1)	—	—	[5.9]	ナデ、当て具痕／タタキ	淡褐灰	不良	
360	須恵器・壺	WCS	(14.8)	—	—	[2.7]	回転ナデ／回転ナデ	灰／黒灰	良好	
361	須恵器・壺	EWS	(15.8)	—	—	[5.5]	回転ナデ／タタキ、回転ナデ、カキ目	灰白	やや不良	
362	須恵器・甕	EベルトC	—	—	—	[9.9]	ナデ、当て具痕／タタキ	淡橙灰	不良	生焼け
363	須恵器・甕	EES	(22.3)	—	—	[7.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰～褐灰	良好	
364	須恵器・甕	ECS	(19.1)	—	—	[5.4]	回転ナデ／カキ目	灰	良好	Ⅰ－4～Ⅱ－1
365	須恵器・甕	WEC	18.8	—	—		回転ナデ／回転ナデ、カキ目	灰	良好	Ⅰ－4～Ⅱ－1
366	須恵器・甕	CベルトS	—	—	—	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰褐／青灰～黒灰	良好	Ⅰ－4～Ⅱ－1
367	須恵器・甕	EEC＋ECN	—	—	—	[8.9]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	暗灰	良好	
368	須恵器・甕	ECC	(20.0)	—	—	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰	良好	
369	須恵器・甕	EES	20.3	27.5	—	[25.8]	当て具痕、ナデ／頸部回転ナデ・波状文、体部タタキ・ナデ、カキ目	暗灰／青灰～黒灰	良好	(陶邑)、Ⅰ－2
370	須恵器・甕	WEC	25.7	—	—	[7.3]	頸部回転ナデ、肩部当て具痕／タタキ	灰～褐灰	良好	Ⅰ－4～
371	須恵器・甕	ECS	—	—	—	[5.8]	頸部回転ナデ、肩部当て具痕／タタキ	暗灰／青灰	良好	陶邑
372	須恵器・甕	EWS	—	(17.6)	—	[7.8]	ナデ、指押え／上部カキ目、下部タタキ・ナデ	灰～黒褐	良好	
373	須恵器・甕	EWS	26.3	(52.8)	—	50.9	当て具痕、ナデ／タタキ	暗灰／暗黒灰	良好	Ⅰ－2
374	須恵器・甕	WCS	(25.2)	(38.7)	—	[21.4]	当て具痕／タタキ、カキ目	灰黄／淡灰	良好	
375	須恵器・甕	EWS+WES	22.2	(45.8)	—	[24.5]	当て具痕、ナデ／タタキ	青灰	良好	SC30と接合、Ⅰ－1～Ⅰ－2
376	須恵器・甕	WCS	(23.4)	(44.6)	—	[41.7]	当て具痕、ナデ／タタキ	灰／淡青灰～暗灰	良好	Ⅰ－1～Ⅰ－2
377	須恵器・甕	WCS＋→	(20.5)	—	—	[12.8]	頸部回転ナデ、肩部当て具痕・ナデ／タタキ、ナデ	暗灰～黒灰／灰白～暗灰	良好	WES＋EWS＋WベルトS、Ⅰ－1
378	須恵器・甕	EEC	—	—	—	[6.2]	当て具痕、ナデ／タタキ、ナデ	青灰～暗灰／淡黄灰	良好	
379	須恵器・甕	EWS＋→	—	(43.4)	—	[34.2]	当て具痕、ナデ／タタキ、ナデ	暗青灰／淡青灰～黒灰	良好	CベルトS
380	陶質土器・甕	CベルトS	—	—	—	[8.9]	タテ方向ナデ／タタキ	灰／灰～暗灰	良好	縄席文、沈線
381	陶質土器・甕	SC41＋SC42	—	—	—	[7.8]	タテ方向ナデ／タタキ	灰～灰褐／褐灰	良好	縄席文、沈線
382	陶質土器・甕	2面下	—	—	—	[3.5]	タテ方向ナデ／不定方向ナデ	紫灰／暗灰	良好	
383	陶質土器・甕		—	—	—	[3.4]	タテ方向ナデ／タタキ	紫灰／暗灰	良好	縄席文、沈線
384	陶質土器・甕	SC42	—	—	—	[5.3]	タテ方向ナデ／タタキ	灰／灰褐	良好	縄席文、沈線
385	陶質土器・甕	SC42	—	—	—	[5.7]	タテ方向ナデ／タタキ	灰	良好	縄席文
386	陶質土器・甕	WCS＋SC42	—	—	—	[6.3]	タテ方向ナデ／タタキ	紫灰	良好	縄席文
387	陶質土器・甕	WCS	—	—	—	[4.6]	タテ方向ナデ／タタキ	紫灰／暗灰	良好	縄席文、沈線
388	陶質土器・甕		—	—	—	9.3]	タテ方向ナデ／タタキ	紫灰／橙褐	良好	縄席文、沈線

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
389	土師器・椀	WCS	14.3	—	—	5.1	ナデ、底部板ナデ／ケズリ	淡橙灰	良好	
390	土師器・椀	EWS	(13.2)	—	—	5.9	ナデ／ケズリ、ナデ	褐灰／褐灰～橙灰	良好	
391	土師器・椀	ECS	(13.7)	—	—	[5.4]	ナデ／ケズリ、ナデ	黄橙～橙	良好	
392	土師器・椀	EEN	(13.6)	—	—	5.5	ナデ／ケズリ	淡橙灰	良好	
393	土師器・椀	ECS	(14.3)	—	—	[5.5]	摩滅／ハケ？	淡橙灰	良好	
394	土師器・椀	ECS	(13.7)	—	—	5.7	摩滅／摩滅	淡橙灰	不良	
395	土師器・椀	EWS	12.8		—	6.1	ハケ、ナデ、底部押え／ハケ、ナデ	橙	良好	
396	土師器・椀	EWC	(14.0)	—	—	[6.2]	ナデ／ケズリ、ナデ	褐灰	良好	
397	土師器・椀	EWS	(12.3)	—	—	5.7	ナデ／ナデ、底部ケズリ	橙褐	良好	
398	土師器・椀	WCS	(7.2)	—	—	5.3	摩滅／ケズリ	灰黄～橙	不良	
399	土師器・椀	WEC	(11.9)	—	—	6.0	上部板ナデ、下部ナデ／板ナデ、底部ケズリ	茶褐／淡褐灰	良好	ヘラ記号
400	土師器・椀	WCS	(13.8)		—	[5.4]	ナデ／ケズリ	橙灰／橙灰～灰	良好	
401	土師器・椀	EWS	(15.5)	—		5.3	ナデ、底部指押え／ナデ、底部ケズリ	橙灰	良好	
402	土師器・椀	WCS	(13.2)	—	—	[6.4]	摩滅／ケズリ	灰黄～橙	不良	
403	土師器・椀	EWS	(14.8)	—	—	6.0	ナデ、底部指押え／ナデ、底部ケズリ	淡橙灰／橙灰	良好	
404	土師器・椀	EWS	(15.0)	—	—	[5.8]	ナデ、底部指押え／ナデ、底部ケズリ	淡橙灰	良好	
405	土師器・椀	WCS	(13.0)	—	—	5.3	板ナデ／ケズリ	橙灰～褐灰	良好	
406	土師器・椀	ECS	13.3	—	—	5.4	摩滅／ケズリ	灰黄～橙	やや不良	
407	土師器・椀	WEC	(14.3)	—	—	7.1	ナデ、底部指押え／ナデ、指押え、底部ケズリ	淡褐灰	良好	
408	土師器・椀	EWS	13.8	—	—	6.5	ハケ、ナデ／上部ハケ・ナデ、下部ケズリ・ナデ	橙／橙～明赤褐	良好	
409	土師器・椀	Eベルト C	12.2	—	—	8.3	板ナデ／ケズリ、ナデ	灰黄～橙	良好	
410	土師器・椀	WCS	(11.0)	—		6.1	ナデ、底部板ナデ／指押え、板ナデ、ナデ	橙灰／淡橙灰～褐	良好	
411	土師器・椀	ECN	(11.6)	—		4.9	ナデ／ナデ	淡橙灰	良好	
412	土師器・椀	ECN	12.7	—		4.8	ナデ／ハケ、ナデ	淡橙灰	良好	
413	土師器・椀	Eベルト C	(12.9)	—	—	4.9	ナデ、底部板ナデ／ケズリ、ナデ	黄橙～橙～黄灰	やや良好	
414	土師器・椀	ECC	(12.5)		—	5.8	ナデ、指押え／ナデ、底部ケズリ	褐灰	良好	
415	土師器・椀	EWS	(13.8)	—	—	5.3	指押え、ナデ／ケズリ、上部ミガキ	橙灰	良好	
416	土師器・椀		(14.0)	—	—	[5.6]	ナデ／ケズリ	淡褐灰／橙灰～褐灰	良好	
417	土師器・椀	WCS	(13.8)	—	—	5.7	ナデ、底部板ナデ／摩滅	橙灰／橙灰～褐灰	良好	
418	土師器・椀	ECN	12.9	—	—	5.2	板ナデ、底部ナデ／ハケ、ナデ	明橙灰	良好	
419	土師器・椀	WCS	(16.0)	—	—	[5.1]	板ナデ／ケズリ	淡黄灰／淡橙灰	良好	
420	土師器・椀	EEN	14.0～14.6	—	—	7.7	摩滅／摩滅	淡褐灰～茶褐	不良	外底木葉圧痕
421	土師器・椀	W－－	13.1～13.8	—	—	5.8	摩滅／ケズリ	淡褐灰～茶褐	やや不良	
422	土師器・椀	E－－	(13.7)	—	—	6.1	ナデ／ハケ、ナデ	橙／浅橙～橙	良好	
423	土師器・椀	ECN	(13.5)	—	—	5.7	ハケ、板ナデ／ハケ、ナデ	褐灰／橙灰～褐灰	良好	
424	土師器・椀	ECN	(12.9)	—	—	6.1	ハケ、ナデ／ハケ	褐灰／橙灰～褐灰	良好	
425	土師器・椀	WCS	(12.8)	—	—	5.9	ナデ／ハケ	橙灰／橙灰～褐灰	良好	
426	土師器・椀	ECN	(13.8)	—	—	5.7	ナデ／ハケ	淡褐灰／橙灰～黒褐	良好	
427	土師器・椀	EEC	14.9	—	—	5.9	ナデ／ハケ、ナデ	褐灰	良好	
428	土師器・椀	ECN	13.4	—	—	5.1	ナデ／ナデ、ハケ	淡褐灰～茶褐	良好	
429	土師器・椀	ECN	14.4	—	—	5.1	ハケ、ナデ／ハケ、ナデ	淡橙灰	良好	
430	土師器・椀	WCS	(12.0)	—	—	[5.2]	摩滅／ナデ？底部ケズリ	橙灰／橙灰～茶褐	やや不良	
431	土師器・椀	WCS	(13.0)	—	—	6.0	ナデ／ケズリ	橙灰／橙灰～茶褐	やや不良	
432	土師器・椀	Eベルト C	(13.7)	—	—	[5.2]	板ナデ？、ナデ／ケズリ、ナデ	浅黄橙～橙	良好	
433	土師器・椀	WWC	12.6～13.2	—	—	5.6	摩滅／ケズリ	淡橙灰	不良	
434	土師器・椀	ECC	13.3	—	—	6.2	板ナデ？、ナデ／ケズリ	黄橙～黄褐／橙	良好	
435	土師器・椀	EEC	13.3	—	—	6.2	摩滅／ケズリ	暗橙～暗灰	良好	
436	土師器・椀	EEN	(13.5)	—	—	6.6	ナデ／ナデ、底部ハケ、ナデ	淡橙灰	やや不良	
437	土師器・椀	ECS	13.2	—	—	6.8	摩滅／ケズリ	淡橙灰	やや不良	
438	土師器・椀	WCS	(13.0)	—	—	6.1	ナデ／上部ハケ、下部ケズリ	橙灰／橙灰～茶褐	良好	ヘラ記号
439	土師器・椀	WCS	11.7～12.6	—	—	6.3	摩滅／ハケ	淡黄橙～橙	やや不良	
440	土師器・椀	WES	(13.4)	—	—	[6.0]	ナデ／ケズリ	淡褐灰／褐灰	良好	
441	土師器・椀	EWS	(14.5)	—	—	6.3	指押え、ナデ／ケズリ	淡橙灰	良好	
442	土師器・椀	WCS	12.8～13.6	—	—	6.6	ナデ／ケズリ	淡黄橙～橙	良好	
443	土師器・椀	EWS	13.3	—	—	6.0	板ナデ／ケズリ	橙灰～淡橙灰	良好	
444	土師器・椀	Eベルト C	(11.7)	—	—	5.8	板ナデ？、ナデ／ケズリ	灰黄～浅橙	良好	
445	土師器・椀	W－－	12.8	—	—	7.0	ハケ、ナデ／ナデ、底部ケズリ	浅黄橙～橙	良好	
446	土師器・椀	WCS	12.3	—	—	5.2	ナデ／ハケ、ナデ、底部ケズリ・ナデ	橙灰／褐灰～橙灰	良好	
447	土師器・椀	ECS	(13.5)	—	—	[6.4]	ナデ／ケズリ	黄橙～橙	良好	
448	土師器・椀	ECC	12.6	—	—	5.6	板ナデ／ケズリ	淡黄橙～橙	良好	
449	土師器・椀	EEC	13.4	—	—	6.0	指押え、ナデ／ケズリ	褐灰／橙灰～褐灰	良好	
450	土師器・椀	Cベルト S	(13.4)	—	—	[5.9]	摩滅、板ナデ？／ケズリ	淡橙灰	不良	
451	土師器・椀	WCS	13.0	—	—	6.1	摩滅／ケズリ	淡橙灰	不良	
452	土師器・椀	WCS	(12.2)	—	—	6.1	摩滅／ケズリ	浅黄橙～橙	良好	
453	土師器・椀	WCS	(12.5～13.6)	—	—	6.0	板ナデ？／ケズリ	淡褐灰／褐灰	不良	
454	土師器・椀	WEC	12.6	—	—	5.3	ハケ？、ナデ／ケズリ、ナデ	淡黄橙～橙	良好	
455	土師器・椀	WES	13.1	—	—	6.0	板ナデ／ケズリ	淡橙灰	良好	
456	土師器・椀	ECC	12.4	—	—	5.6	ミガキ／ケズリ	黒／淡褐灰	良好	
457	土師器・椀	WES	(14.9)	—	—	[5.8]	板ナデ／ケズリ	淡褐灰～暗茶褐	良好	
458	土師器・椀	WES	(13.5)	—	—	5.7	ナデ／ケズリ	橙灰／橙灰～赤褐	良好	
459	土師器・椀	WCS	12.1	—	—	6.1	摩滅／ミガキ	淡褐灰／褐灰	やや不良	
460	土師器・椀	EEN	12.6	—	—	6.1	ナデ／ハケ、ナデ	橙	良好	
461	土師器・椀	EWS	(12.2)	—	—	6.4	ナデ／ケズリ	黄橙～橙	良好	
462	土師器・椀	ECS	13.8	—	—	6.0	ハケ、ナデ、底部指押え／ハケ、ナデ	灰黄褐～橙	良好	

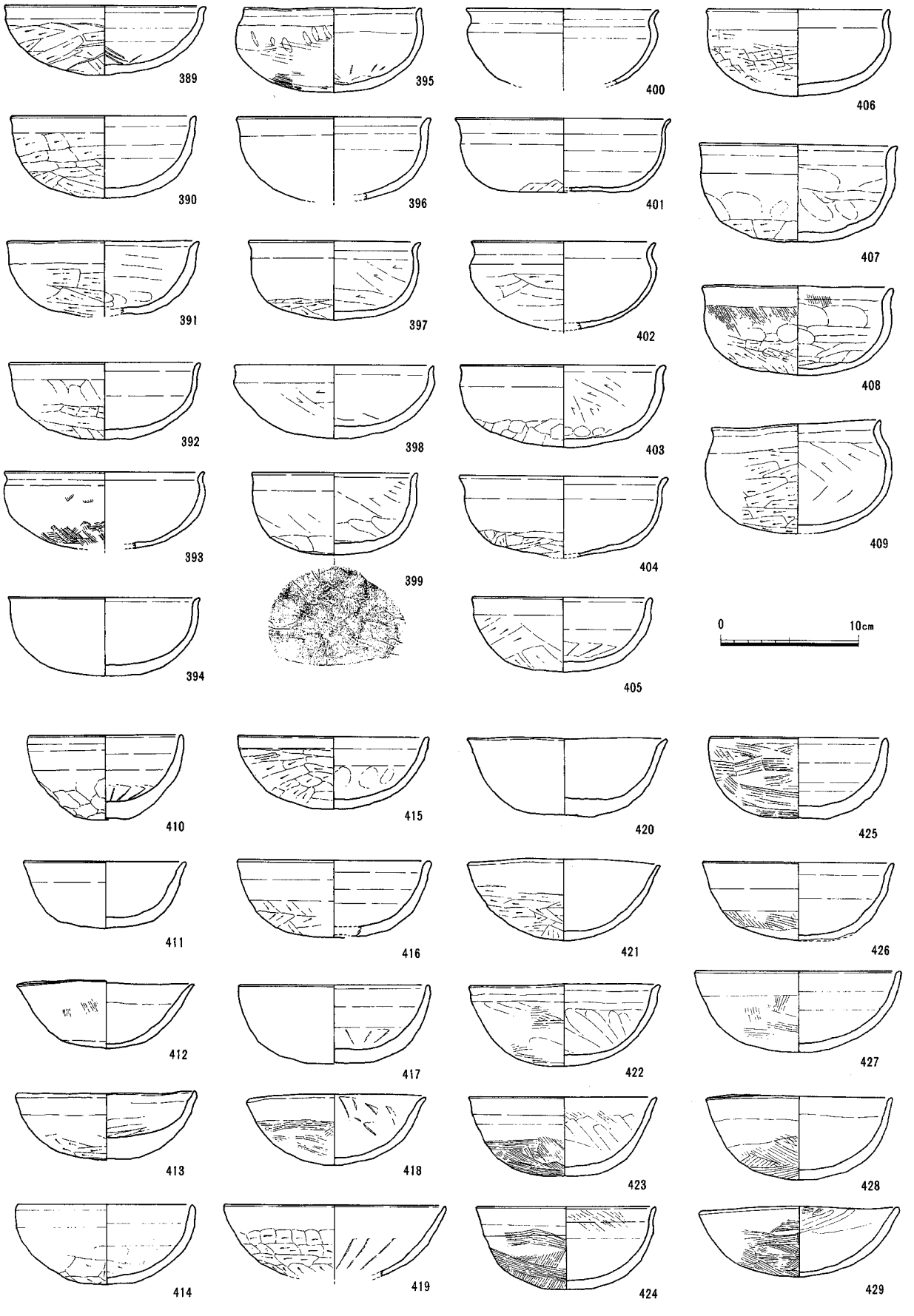


Fig.100　SD14出土遺物実測図　6（1／4）

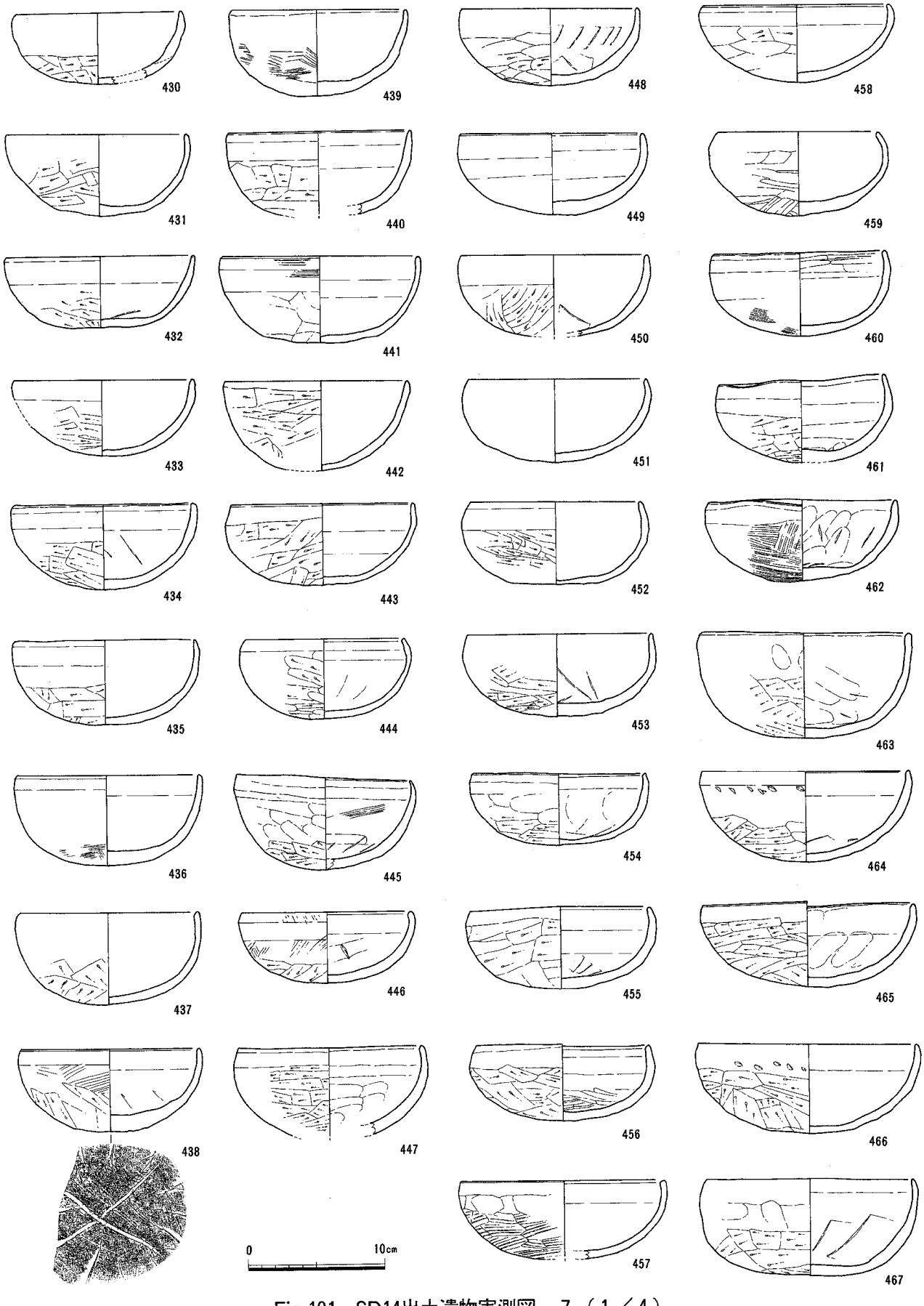


Fig.101　SD14出土遺物実測図　7（1／4）

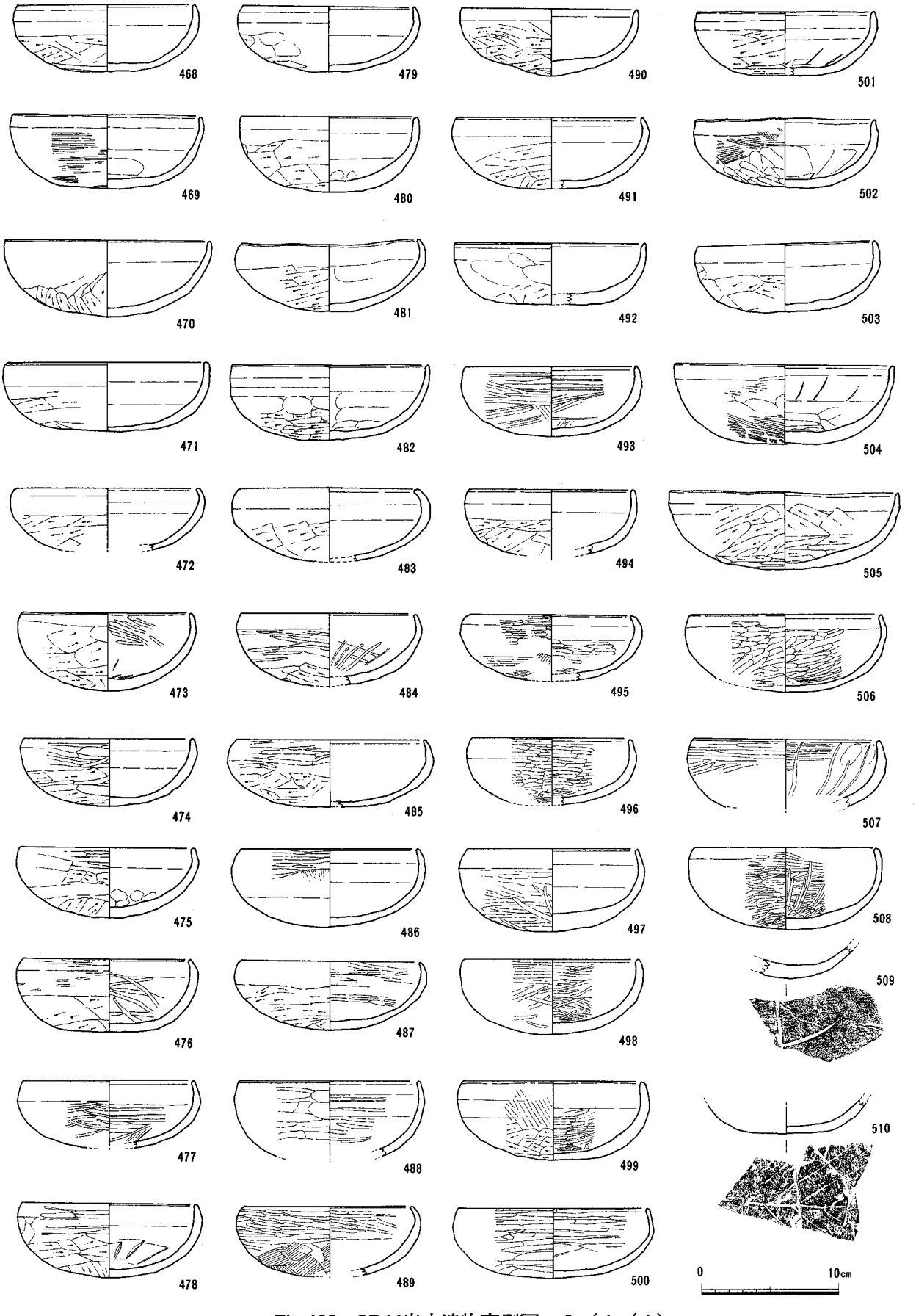


Fig.102　SD14出土遺物実測図　8（1／4）

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
463	土師器・椀	E－－	(15.4)	－	－	7.6	ハケ？、ナデ／ケズリ、ナデ	灰黄～褐灰／灰黄	良好	
464	土師器・椀	EES	(15.0)	－	－	6.6	板ナデ／板ナデ、指頭痕？、底部ケズリ	橙灰／淡橙灰	良好	
465	土師器・椀	EES	(15.5)	－	－	6.2	ナデ／ケズリ	褐灰～橙灰／橙灰	良好	
466	土師器・椀	EES	(7.8)	－	－	6.5	ナデ／上部ナデ・指頭痕？、下部ケズリ	橙	良好	
467	土師器・椀	EES	15.0	－	－	7.1	板ナデ／上部指押え・ナデ、下部ケズリ	暗橙～灰	良好	
468	土師器・椀	WCS	(12.6)	－	－	4.9	ナデ／ケズリ	橙灰／褐灰～橙灰	良好	
469	土師器・椀	EEN	(13.6)	－	－	5.3	ナデ／ハケ、ナデ	灰白～橙／橙	良好	
470	土師器・椀	EWS	(14.7)	－	－	5.5	ナデ／ナデ、底部ケズリ	淡橙灰／褐灰～茶褐	良好	
471	土師器・椀		(14.7)	－	－	5.0	ナデ／ケズリ	淡褐灰／褐灰	良好	
472	土師器・椀	EEC	(12.8)	－	－	[4.5]	摩滅／ケズリ	明橙灰	良好	
473	土師器・椀	WWC	(12.3)	－	－	5.6	板ナデ、上部ミガキ／ケズリ、ナデ	橙～浅橙	やや良好	
474	土師器・椀	EWS	12.2	－	－	5.0	ナデ／上部ミガキ、下部ケズリ	褐灰	良好	
475	土師器・椀	EWS	(12.6)	－	－	5.1	ナデ、底部指押え／上部ミガキ、下部ケズリ・ナデ	橙灰／橙灰～褐灰	良好	
476	土師器・椀	EWS	(11.9)	－	－	5.3	ミガキ／上部ミガキ、下部ケズリ	暗灰～黒／茶褐～黒	良好	
477	土師器・椀	WCS	(11.3)	－	－	[4.9]	ミガキ／ミガキ、底部ナデ	橙灰～茶褐／茶褐～黒灰	良好	
478	土師器・椀	WCS	12.5	－	－	5.4	ナデ、底部板ナデ／ケズリ、上部ミガキ	明橙灰	良好	
479	土師器・椀	WCS	(12.4)	－	－	5.8	摩滅／ケズリ	黒灰／茶褐～黒褐	良好	
480	土師器・椀	EWS	(12.8)	－	－	5.5	ナデ、底部指押え／ケズリ	明橙灰	良好	
481	土師器・椀	Eベルト C	(12.8)	－	－	5.2	ナデ／ケズリ	橙～浅橙	良好	
482	土師器・椀	ECN	14.3	－	－	5.5	ナデ／ケズリ、上部指押え	黄橙～橙	良好	
483	土師器・椀	WES	12.5	－	－	[5.2]	ナデ／ケズリ	淡褐灰～橙灰	良好	
484	土師器・椀	EWS	(12.6)	－	－	[5.2]	ミガキ／ミガキ、底部ケズリ	淡褐灰／褐灰	良好	
485	土師器・椀	EEC	(13.6)	－	－	[4.9]	ナデ／上部ミガキ、下部ケズリ	淡褐灰／褐灰	良好	
486	土師器・椀		12.9	－	－	5.6	上部ミガキ、下部ナデ／上部ミガキ、下部ケズリ・ナデ	褐灰	良好	
487	土師器・椀	WCS	12.8～13.0	－	－	5.0	ミガキ／ケズリ	橙～黄橙	不良	
488	土師器・椀	WCS	(13.1)	－	－	[5.4]	ミガキ／ミガキ	黒灰～黒褐／黒灰	良好	
489	土師器・椀	EEC	12.0	－	－	[5.0]	上部ミガキ、下部ナデ／上部ミガキ、下部ハケ	明赤褐	良好	
490	土師器・椀	WCS	(12.6)	－	－	4.9	摩滅／ケズリ	橙～黄橙	やや不良	
491	土師器・椀	WCS	(13.2)	－	－	[5.2]	ナデ／ケズリ	淡橙灰／淡褐灰	良好	
492	土師器・椀	Cベルト S	(13.8)	－	－	[4.4]	ナデ／ケズリ、ナデ	橙～黄橙	良好	
493	土師器・椀	WEC	12.3	－	－	5.1	ミガキ／ミガキ	褐灰～黒褐	良好	
494	土師器・椀	WCS	(11.8)	－	－	[5.6]	ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
495	土師器・椀	E－S	(11.7)	－	－	[4.7]	ミガキ／上部ミガキ、下部ハケ	橙～黄橙	良好	
496	土師器・椀	WEC	(11.3)	－	－	[4.9]	ミガキ／ミガキ	黒	良好	外面黒色顔料塗布？
497	土師器・椀	EWC	12.3	－	－	6.1	ナデ／ミガキ	淡橙灰～橙灰	良好	
498	土師器・椀	WEC	12.6	－	－	5.6	ミガキ／ミガキ	黒／黒灰～黒褐	良好	
499	土師器・椀	Eベルト N	13.3	－	－	5.7	ミガキ／上部ハケ、下部ケズリ	橙～赤褐／浅橙	良好	
500	土師器・椀	WEC	(11.6)	－	－	[5.1]	ミガキ／ミガキ	黒	良好	外面黒色顔料塗布？
501	土師器・椀	E－－	(12.8)	－	－	[4.6]	板ナデ、ナデ／ケズリ	黄橙	良好	
502	土師器・椀	ECC	13.0	－	－	5.0	板ナデ／ハケ、底部ナデ	赤橙／橙～黄橙	良好	
503	土師器・椀	WES	12.8	－	－	5.1	板ナデ？、ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
504	土師器・椀	Eベルト S	(16.0)	－	－	5.7	板ナデ、ナデ／ハケ、ナデ	橙～浅橙	良好	
505	土師器・椀	EWS	16.6	－	－	5.6	ナデ／ケズリ	浅黄～橙～明赤褐	良好	
506	土師器・椀	ECS	13.9	－	－	5.6	ミガキ／ミガキ	橙	良好	
507	土師器・椀	EEC	(13.7)	－	－	[4.9]	指ナデ、ナデ、ミガキ／ミガキ	暗黒褐	良好	
508	土師器・椀	Eベルト N	(13.5)	－	－	5.9	ミガキ／ミガキ	黒褐～橙／黒褐	良好	
509	土師器・椀	WES		－	－	[4.3]	ナデ／上部ナデ、下部板ナデ	淡黄灰～茶褐	良好	外底ヘラ記号
510	土師器・椀	EWS		－	－	[2.1]	ナデ、底部板ナデ／ナデ	淡橙灰	良好	外底木葉圧痕
511	土師器・高坏	ECN	18.8	－	(13.5)	13.7	坏部ナデ、脚上部指押え・下部ケズリ／ナデ	橙灰	良好	
512	土師器・高坏	ECN	18.3	－	12.7	14.4～15.0	坏部ナデ、脚部ケズリ／ナデ	橙灰～淡橙灰	良好	
513	土師器・高坏	ECN	(18.1)	－	12.7	13.0	坏部ナデ、脚上部指押え・下部ケズリ／ナデ	淡橙灰	良好	
514	土師器・高坏	WES	16.7	－	10.7	13.0	坏部ナデ、脚部ケズリ・ナデ／坏部ナデ、脚部ケズリ	淡橙灰～淡茶褐	良好	
515	土師器・高坏	EWS	(16.4)	－	(11.0)	11.5	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ハケ・ナデ	黄橙～明赤褐	良好	
516	土師器・高坏	ECN	21.5	－	15.4	14.4～14.9	坏部ハケ・ナデ、脚部ケズリ／ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
517	土師器・高坏	ECN	16.8～17.2	－	10.3～11.4	12.5	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部摩滅	明橙褐～橙灰	やや不良	
518	土師器・高坏	EWC	(16.0)	－	6.4	12.0	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ケズリ・ナデ	褐灰／褐灰～茶褐	良好	
519	土師器・高坏	WES	(16.1)	－	(11.2)	11.9	坏部ナデ、脚部ケズリ／ナデ	橙褐／褐灰	良好	
520	土師器・高坏		14.9	－	10.9	10.7	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ケズリ・ナデ	明橙灰～橙灰	良好	
521	土師器・高坏	WES	(16.2)	－	10.9	10.9	坏部ミガキ、脚部ケズリ／ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
522	土師器・高坏	WCS	15.7	－	11.2	6.3	坏部ミガキ、脚部ケズリ／ナデ	橙灰～褐灰／橙灰	良好	
523	土師器・高坏		16.3	－	10.7	11.3	坏部ナデ、脚部ケズリ／坏部ハケ・ナデ・坏底部ケズリ・ナデ、脚部板ナデ	橙灰／淡橙灰～橙灰	良好	
524	土師器・高坏	ECS	15.3	－	10.6	11.6	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏底部ハケ・ナデ、脚部摩滅	橙褐／褐灰	良好	
525	土師器・高坏	EEC	16.0	－	11.3～11.5	10.8	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ケズリ	橙褐／褐灰	やや不良	
526	土師器・高坏		15.7	－	10.9	10.5	坏部ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部板ケズリ	明橙褐～橙灰	良好	
527	土師器・高坏		15.6	－	(10.3)	6.4	坏部ナデ・ミガキ、脚部ケズリ／ナデ	褐灰～茶褐／橙灰～褐灰	良好	
528	土師器・高坏	EES	(14.4)	－	(10.7)	10.2	坏部ナデ、脚部ケズリ／ナデ	褐灰～茶褐／橙灰～褐灰	良好	
529	土師器・高坏	WCS	(15.7)	－	10.6	10.9	坏部ナデ・板ナデ、脚部ケズリ／ナデ	橙灰	良好	
530	土師器・高坏	WCS	15.9	－	(11.4)	10.9	坏部ナデ・板ナデ、脚部ケズリ／ナデ	橙灰	良好	

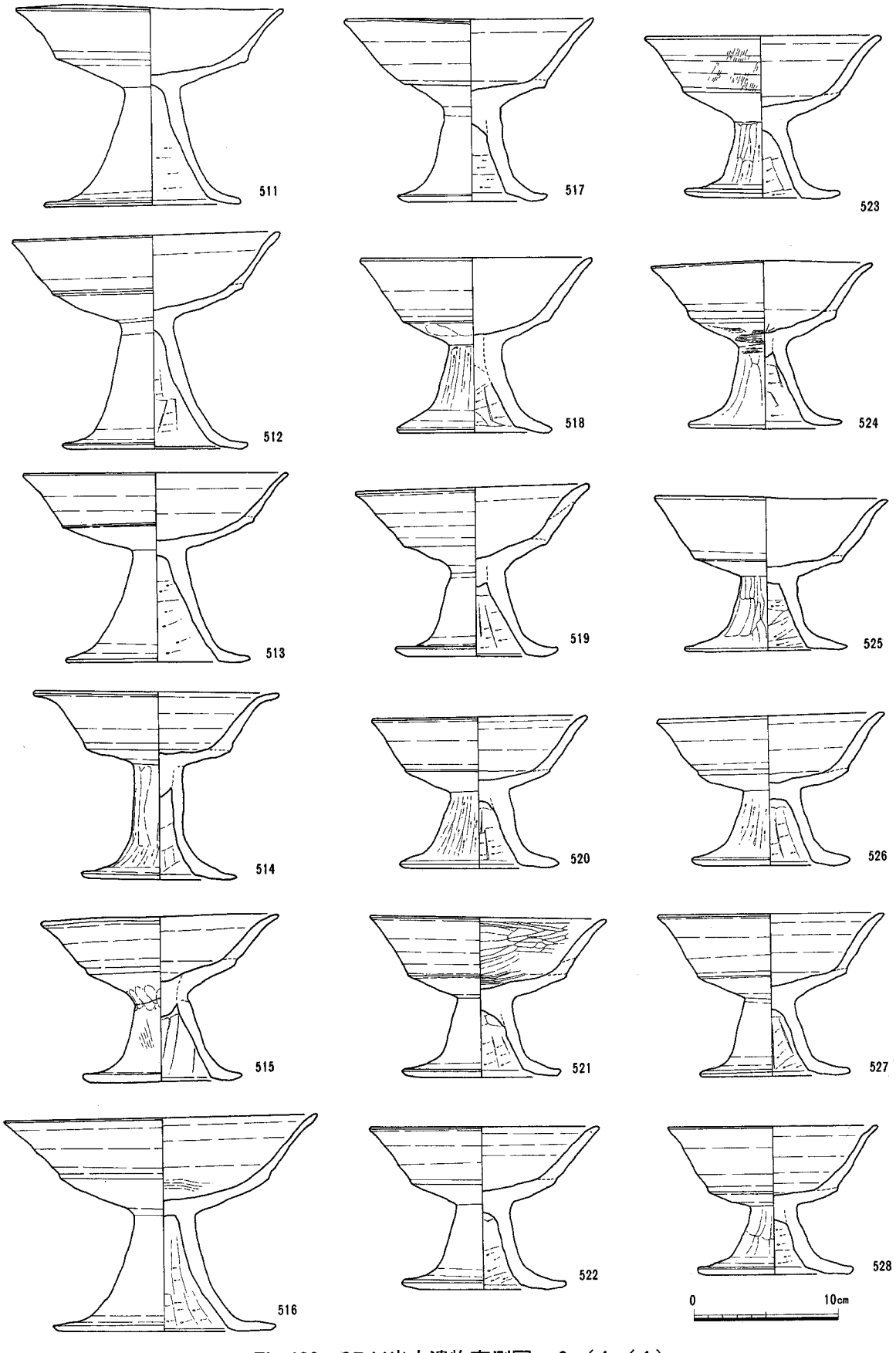


Fig.103　SD14出土遺物実測図　9（1／4）

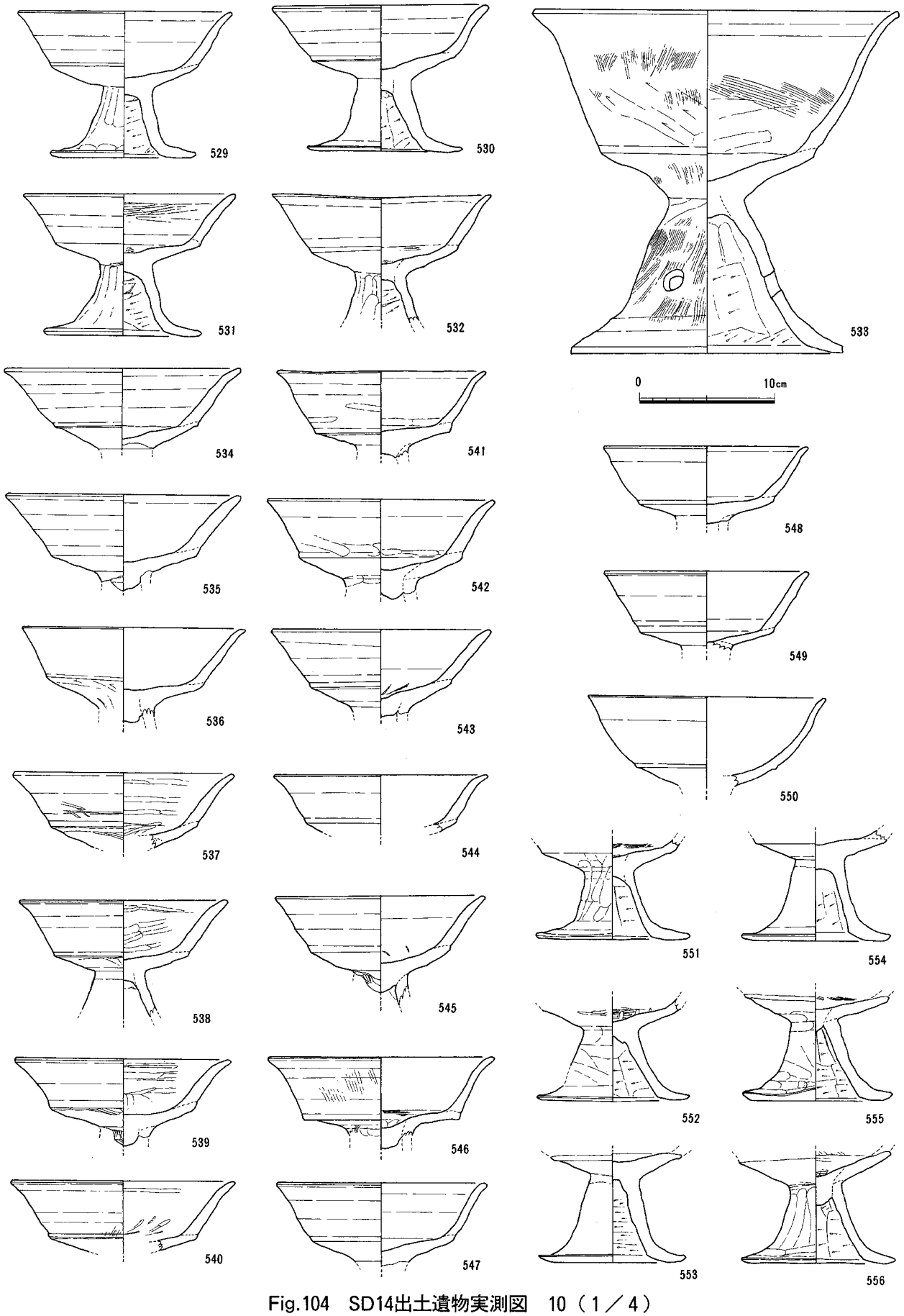


Fig.104　SD14出土遺物実測図　10（1／4）

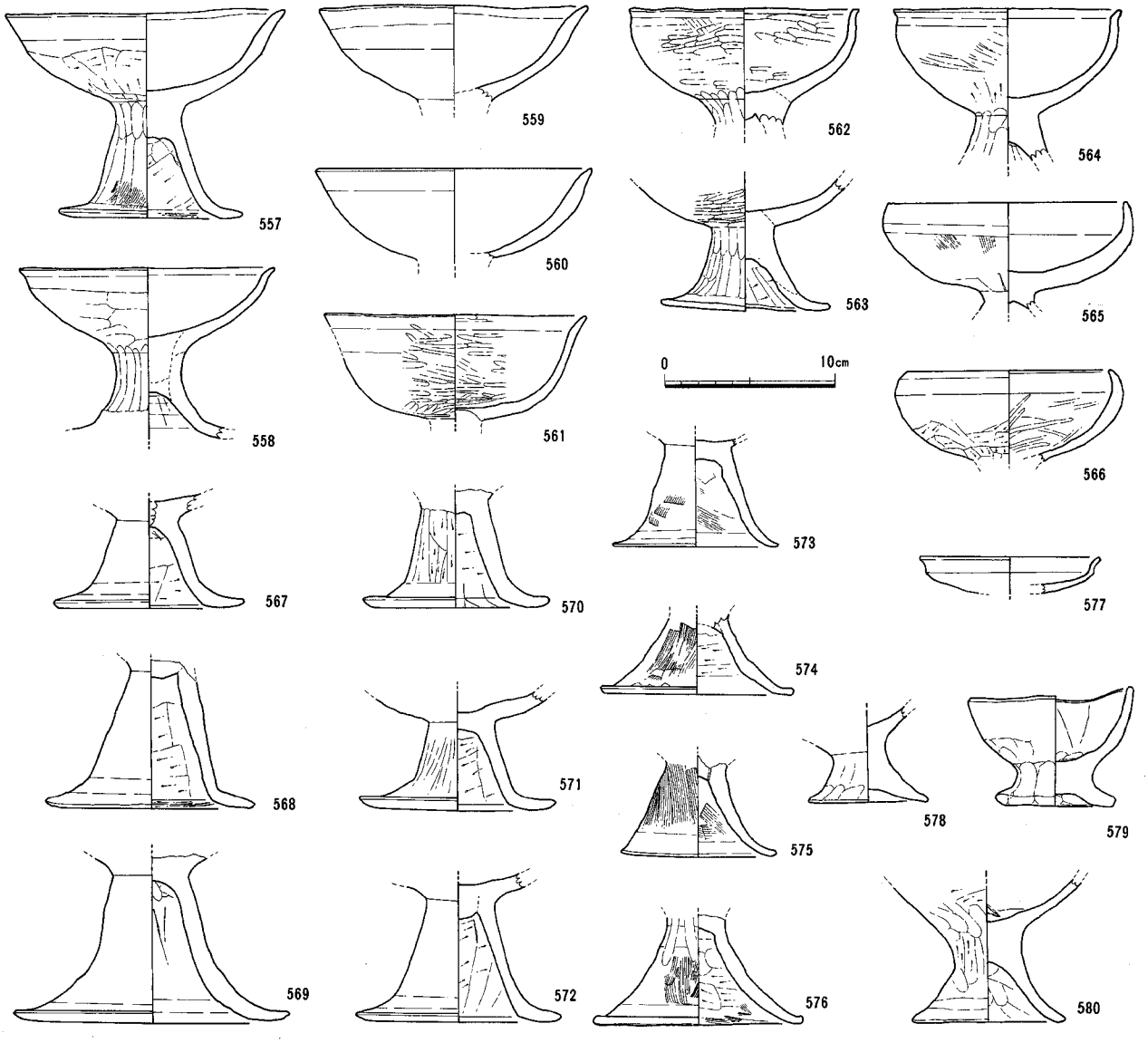


Fig.105　SD14出土遺物実測図　11（1／4）

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
531	土師器・高坏	EEC	15.5	－	(11.6)	10.6	坏上部ミガキ、下部ハケ・ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ナデ・板ナデ	明橙灰	良好	
532	土師器・高坏	Eベルト C	(16.1)	－	－	[9.5]	坏部ハケ・ナデ、脚部ケズリ／坏底部ケズリ・ナデ、脚部ケズリ	橙～浅黄橙	良好	
533	土師器・高坏	WCS	26.9	－	20.0	25.5	坏部ハケ・ナデ、坏底部指押え、脚上部ナデ・下部ケズリ／坏部ハケ・板ナデ、脚部ハケ・ナデ	橙灰	良好	3方透かし
534	土師器・高坏	WCS	17.3	－	－	[6.1]	ナデ／ナデ	橙灰	良好	
535	土師器・高坏	WCS	(17.2)	－	－	[7.1]	ナデ、底部板ナデ／ナデ	橙灰／橙灰～茶褐	良好	
536	土師器・高坏	ECS	14.8～18.0	－	－	[7.0]	摩滅／坏底部ケズリ、ナデ	橙灰	やや不良	
537	土師器・高坏	WCS	16.2～17.4	－	－	[5.5]	ミガキ／ミガキ	黄橙～橙	やや不良	
538	土師器・高坏	WCS	15.3	－	－	[8.7]	坏部ミガキ、脚部ケズリ／ナデ	淡橙灰／橙灰～淡橙灰	良好	
539	土師器・高坏	WEC	(15.8)	－	－	[6.5]	ミガキ／坏下部ミガキ	淡橙灰～橙灰	良好	
540	土師器・高坏	WCS	(16.6)	－	－	[5.2]	ミガキ／ハケ、ナデ	橙灰／淡橙灰	良好	
541	土師器・高坏	ECS	(15.4)	－	－	[6.4]	摩滅、底部ナデ／ハケ、ナデ、板ナデ？、底部ケズリ・ナデ	黄橙～橙	良好	
542	土師器・高坏	WWC	(16.8)	－	－	[7.3]	板ナデ？、ナデ／ナデ	橙～赤褐	良好	
543	土師器・高坏	WEC	16.2	－	－	[6.4]	板ナデ？、ナデ／ナデ	橙灰／橙灰～橙褐	良好	
544	土師器・高坏	WCS	(15.8)	－	－	[4.3]	ミガキ／ナデ	橙灰～淡橙灰	やや不良	
545	土師器・高坏	WCS	15.4	－	－	[8.1]	板ナデ／ナデ	明橙灰	良好	
546	土師器・高坏	EWS	(16.7)	－	－	[6.8]	ハケ、ナデ、底部指押え／ハケ、ナデ	黄橙	良好	
547	土師器・高坏	WCS	(15.5)	－	－	[6.1]	ナデ、底部板ナデ／ナデ	橙灰～淡橙灰	やや不良	
548	土師器・高坏	EWS	15.0	－	－	[5.7]	摩滅／摩滅	橙	良好	

番号	種類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
549	土師器・高坏	ECS	15.2	—	—	[5.8]	摩滅／摩滅	橙～浅黄橙	良好	
550	土師器・高坏	CベルトN	(17.5)	—	—	[6.7]	摩滅／摩滅	橙～浅黄橙	やや不良	
551	土師器・高坏	EベルトC	—	—	(11.4)	[7.4]	坏部ハケ・ナデ、脚部ケズリ／ケズリ	浅橙～橙	良好	
552	土師器・高坏	WEC	—	—	(11.2)	[7.6]	坏部ハケ・ミガキ、脚上部ナデ・下部ケズリ／坏部ミガキ、脚部ナデ	橙～浅黄橙	良好	
553	土師器・高坏	ECN	—	—	10.8	[8.1]	坏部摩滅、脚部ケズリ／ナデ	橙灰／淡橙灰	やや不良	
554	土師器・高坏	WEC	—	—	10.9	[8.2]	坏部ナデ、脚部ケズリ／ナデ	褐灰	良好	
555	土師器・高坏		—	—	(10.9)	[7.8]	坏部ハケ・ナデ、脚部ケズリ／ナデ	橙～浅黄橙	良好	
556	土師器・高坏	E－－	—	—	(11.2)	[8.4]	坏部ハケ、脚部ケズリ／ナデ	浅橙～橙	良好	
557	土師器・高坏	EWS	16.2	—	10.7	12.3	坏部摩滅、脚部ケズリ・脚裾部ハケ／坏部ケズリ・ナデ、脚部ハケ・ナデ	黄橙	良好	
558	土師器・高坏	EWS	(14.8)	—	—	[10.0]	坏部摩滅、脚部ケズリ・ナデ／坏部ケズリ・ナデ、脚部ケズリ、脚裾部ナデ	橙～明赤褐	良好	
559	土師器・高坏	ECS	(15.8)	—	—	[5.7]	摩滅／摩滅	黄橙～橙	良好	
560	土師器・高坏	EWS	16.2	—	—	[5.4]	ナデ？／ナデ？	橙灰／淡橙灰	良好	
561	土師器・高坏	ECS	(15.4)	—	—	[6.3]	ミガキ／ミガキ	褐～橙	良好	
562	土師器・高坏	ECC	13.5	—	—	[6.9]	ミガキ／坏部ハケ・ケズリ・ミガキ、脚部ミガキ	橙～赤褐／明赤褐	良好	
563	土師器・高坏	EWS	—	—	(9.9)	[4.9]	坏部ミガキ、脚部ケズリ／ミガキ	黄橙～橙	良好	
564	土師器・高坏	EWS	12.3	—	—	[8.9]	坏部摩滅、脚部ケズリ・ナデ？／坏部ケズリ・ナデ、脚部ナデ	橙	良好	
565	土師器・高坏	EWC	13.9	—	—	[6.4]	ナデ／ハケ、ナデ、底部板ナデ	淡褐灰／淡橙灰	良好	
566	土師器・高坏	ECC	11.9	—	—	[5.3]	ミガキ／上部板ナデ、下部ケズリ	橙灰～茶褐／橙灰	良好	
567	土師器・高坏	WCS	—	—	11.0	[6.7]	坏部板ナデ、脚部ケズリ／ナデ	橙灰	良好	
568	土師器・高坏	ECN	—	—	12.1	[8.6]	ケズリ／ナデ	褐灰～黒灰／褐灰	良好	
569	土師器・高坏	WCC	—	—	16.0	[9.7]	ケズリ／ナデ	褐灰	良好	
570	土師器・高坏	EEN	—	—	10.9	[7.0]	ケズリ／ケズリ	明橙灰	良好	脚内面板状工具痕
571	土師器・高坏	WCS	—	—	11.5	[7.1]	坏部板ナデ・ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ケズリ	橙灰～茶褐	良好	
572	土師器・高坏	WCS	—	—	12.0	[8.7]	ケズリ／ナデ	橙灰	良好	
573	土師器・高坏	CベルトC	—	—	(9.7)	[6.3]	坏部ナデ、脚部ハケ・ナデ／坏部ナデ、脚部ハケ・ナデ	明橙灰	良好	
574	土師器・高坏	ECS	—	—	11.3	[4.7]	ケズリ／ハケ	浅黄橙～橙	やや不良	
575	土師器・高坏	WCS	—	—	9.1	[6.1]	ハケ、ナデ／ハケ、ナデ	暗黒褐／淡橙灰	良好	
576	土師器・高坏	WWC	—	—	(12.2)	[6.3]	上部ナデ、下部ケズリ、脚裾部ハケ／上部ナデ、下部ハケ	浅橙	良好	
577	土師器・高坏	WCS	(10.5)	—	—	[2.2]	ナデ／ナデ	淡褐灰	良好	
578	土師器・高坏	CベルトS	—	—	7.0	[5.6]	摩滅／ナデ？	明橙灰～淡茶灰	不良	
579	土師器・高坏	ECN	9.8	—	7.0	6.2～7.0	坏部板ナデ・ナデ、坏底部指押え、脚部指押え／ナデ	褐灰～橙灰	良好	
580	土師器・高坏	Wベルト	—	—	(9.0)	[8.4]	坏部板ナデ？、脚部ナデ／坏部ケズリ・ナデ、脚部ナデ	浅黄橙～橙	良好	
581	土師器・壺	EWS	9.7	15.4	—	17.3	頸部指押え、胴部ナデ／上部ミガキ、下部板ナデ	橙灰／暗橙灰	良好	
582	土師器・壺	ECS	(9.1)	(14.2)	—	15.8	口縁ミガキ、頸部ナデ・指押え、下部ケズリ／ミガキ	暗黄橙～橙	良好	
583	土師器・壺	E－－	10.7	(16.2)	—	[9.3]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	浅黄橙～暗橙	良好	
584	土師器・壺	ECS	7.0～7.2		—	[8.7]	ナデ／ハケ、ミガキ	褐灰～橙灰	良好	
585	土師器・壺	ECC	8.7	13.2	—	14.2	口縁ミガキ、胴部板ナデ、底部指押え／ハケ、ミガキ	明橙灰～淡茶灰	良好	
586	土師器・壺	EEC	(10.1)	12.8	—	13.7	口縁ナデ、胴部ナデ、底部指押え／胴上部ナデ、胴下部ハケ・ナデ	暗黒褐／淡橙灰	良好	
587	土師器・壺	EEC	—	14.0	—	[9.8]	板ナデ／ミガキ	淡橙／淡橙灰	良好	
588	土師器・壺	ECC	—	13.8	—	[11.1]	板ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	暗橙灰／橙灰～淡茶灰	良好	
589	土師器・壺	E－－	(9.4)	(12.4)	—	12.2	胴上部ケズリ・ナデ・指押え、胴下部ナデ・指押え／ハケ、ナデ、指押え	暗黒褐／淡橙灰	良好	
590	土師器・壺	EEC	10.4～10.8	—	—	[7.8]	口縁ミガキ、胴部ケズリ・ナデ／ミガキ	褐灰～橙灰	良好	
591	土師器・壺	ECS	9.8	—	—	[7.8]	ナデ／板ナデ	褐～暗褐	良好	
592	土師器・壺	WCS	—	—	—	[6.6]	摩滅／ハケ	褐～暗褐	不良	
593	土師器・壺	WCS	8.3	10.6	—	11.4	頸部指押え、胴部ナデ、底部指押え／頸部ハケ、胴部ナデ	茶灰	良好	
594	土師器・壺	CベルトC	—	11.4	—	[8.1]	上部ナデ、下部板ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	橙灰～茶灰	良好	
595	土師器・小鉢	EWS	6.4	—	—	7.2	ナデ、底部指押え／ハケ、ナデ、指押え	灰黄褐	やや良好	
596	土師器・小鉢	EベルトC	(10.2)	—	4.4	[4.9]	ナデ、指押え／ハケ、ナデ、指押え	暗黄橙	やや良好	
597	土師器・鉢	WCS	(12.6)	—	—	[6.0]	口縁ミガキ、胴部ナデ／ミガキ	暗茶褐～暗黒褐	極て良好	
598	土師器・鉢	W－－	11.4～12.6	—	—	10.3	頸部ナデ、胴部ケズリ、底部ナデ／ハケ	褐～暗褐	やや不良	
599	土師器・鉢	WCS	12.6～13.0	—	—	5.5	頸部ハケ、胴部ナデ・指押え／ハケ	褐～暗褐	良好	
600	土師器・鉢	WEC	(12.7)	—	—	12.2	頸部板ナデ、胴部ナデ／ハケ	浅黄橙～淡橙	やや良好	
601	土師器・鉢	EEC	10.3～11.1	—	—	10.6	ナデ？／ハケ	褐～暗褐	やや不良	外底木葉圧痕
602	土師器・鉢	CベルトS	(12.4)	—	—	13.0	ケズリ・ナデ、底部指押え／ハケ	浅黄橙～黄灰	やや良好	
603	土師器・鉢	CベルトS	(16.0)	—	—	13.9	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	浅黄橙～淡褐	やや良好	
604	土師器・鉢	WCS	(17.8)	—	—	[15.0]	ケズリ／ハケ	浅黄橙～淡黄褐	やや良好	
605	土師器・鉢	WCS	14.1	—	—	9.1	口縁ハケ、胴部ハケ・ナデ・底部指押え／上部ハケ、下部ケズリ	灰黄～橙	やや良好	
606	土師器・鉢	EベルトC	17.1	—	—	10.2	ケズリ、ナデ／ハケ	灰黄～明赤褐	やや良好	
607	土師器・鉢	EベルトN	(29.7)	—	—	21.9	口縁ハケ・ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	黄橙～灰白	やや良好	
608	土師器・鉢	WCS	(18.4)	—	—	17.4	ナデ？／ハケ、底部ナデ？	淡黄橙～淡橙	やや良好	
609	土師器・鉢	WCS	16.0	—	—	6.5	板ナデ／板ナデ、底部ケズリ	茶灰～黒褐	良好	
610	土師器・鉢	WCS	(19.4)	—	6.6	12.2	口縁ハケ、胴部ナデ／ハケ、底部ナデ	橙～明赤褐／淡橙	やや良好	
611	土師器・鉢	EEN	20.8	—	—	14.1	上部ハケ／ハケ	褐～淡赤褐	不良	

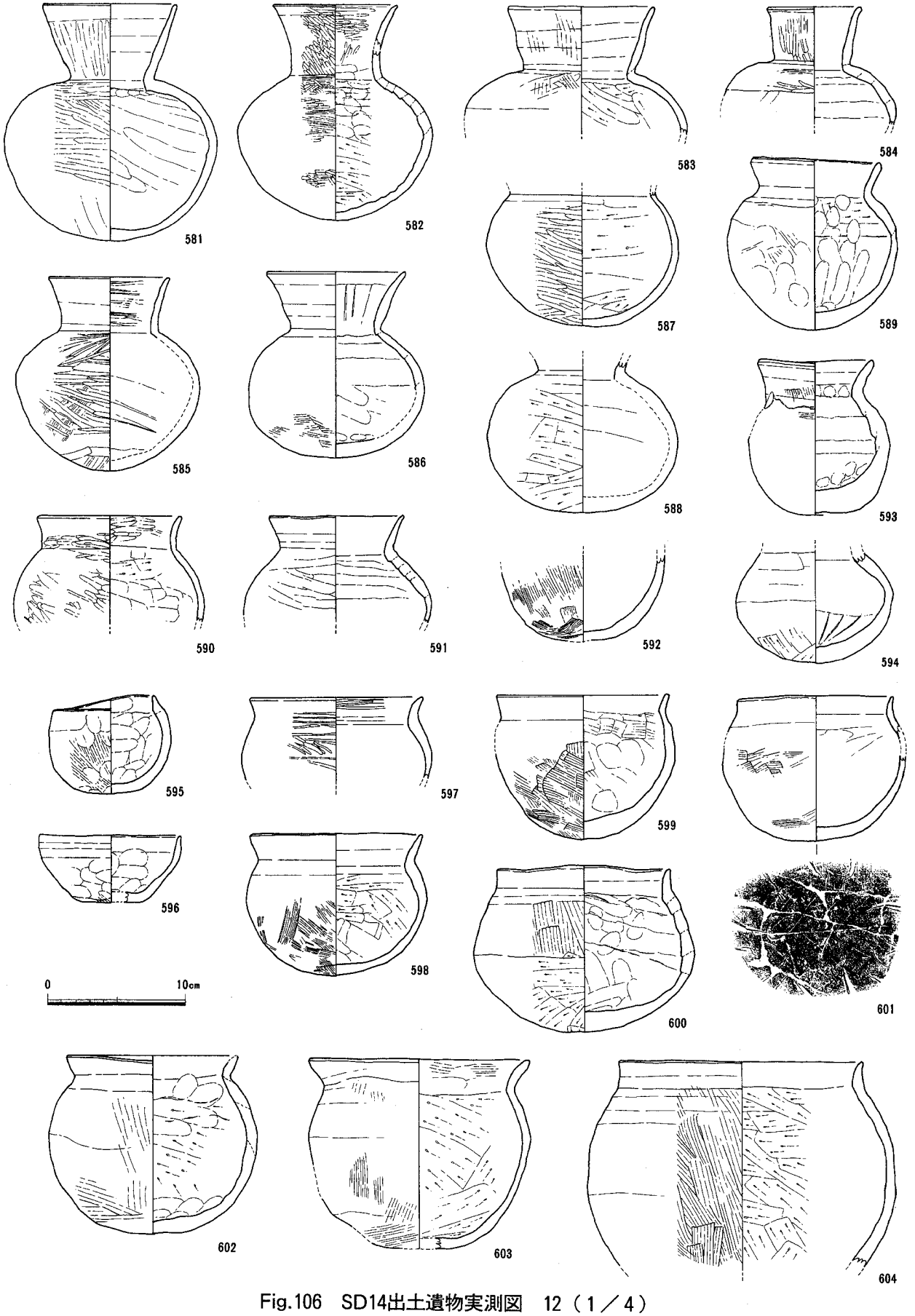


Fig.106　SD14出土遺物実測図　12（1／4）

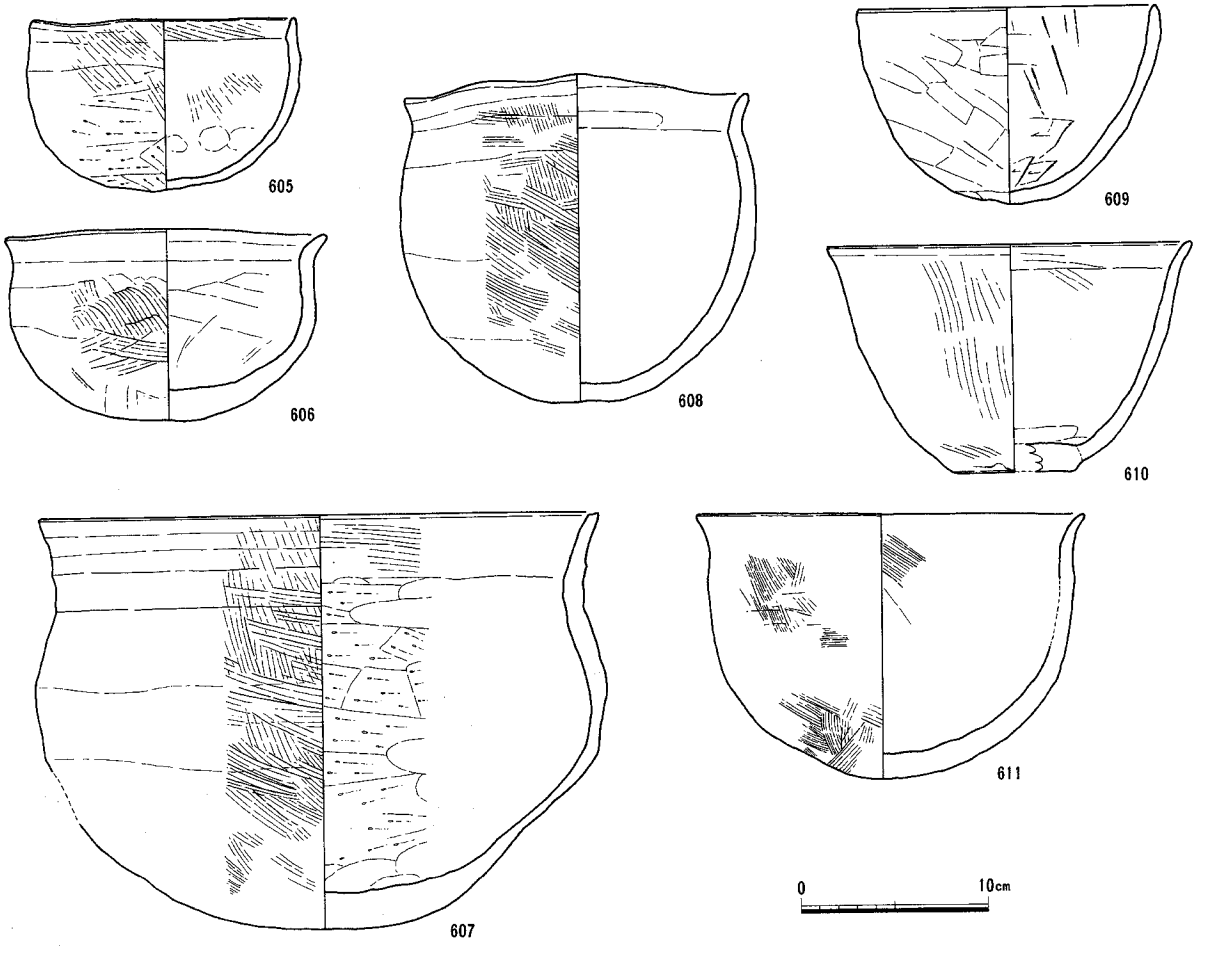


Fig.107　SD14出土遺物実測図　13（1／4）

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
612	土師器・甕	ECS	(15.5)	—	—	[8.6]	口縁ハケ・ナデ、胴部ケズリ・ナデ・指押え／ハケ、ナデ	橙～明赤褐／黄灰～橙	良好	
613	土師器・甕	EWC	(15.4)	(24.9)	—	[9.3]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	橙灰～暗茶褐／茶灰	良好	
614	土師器・甕	WCS	18.0	(27.2)	—	[13.0]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	茶灰	良好	
615	土師器・甕	WCS	(17.5)	(26.0)	—	[10.0]	ケズリ／ハケ、ナデ	赤淡茶灰	良好	
616	土師器・甕	Eベルト C	(14.7)	(18.3)	—	[16.4]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	淡黄橙～橙	やや良好	
617	土師器・甕	Eベルト N	(16.2)	(18.6)	—	19.2	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	淡黄橙～灰黄褐	良好	
618	土師器・甕	Eベルト N	16.8	(23.3)	—	[16.9]	ケズリ、ナデ／ハケ	黄橙～褐灰／淡橙	やや良好	
619	土師器・甕	EEN	(18.9)	(27.4)	—	27.8	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	黄橙～橙	やや良好	
620	土師器・甕	WCS	(14.2)	—	—	[5.4]	頸部指押え、胴部ケズリ／ハケ	黒／淡黄橙～橙	やや良好	
621	土師器・甕	Eベルト N	(17.4)	—	—	[8.8]	口縁ハケ、頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	淡黄橙～灰黄	やや良好	
622	土師器・甕	EWS	(15.6)	—	—	[7.5]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	淡黄橙	やや良好	
623	土師器・甕	ECS	(17.1)	—	—	[6.8]	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	淡黄橙～橙	やや良好	
624	土師器・甕	ECN	(20.8)	—	—	[23.7]	ケズリ／ハケ	淡黄橙～橙	不良	
625	土師器・甕	EWS	(16.6)	(28.5)	—	[24.5]	ケズリ／ハケ	淡茶灰／淡橙～暗橙	良好	
626	土師器・甕	EEC	(17.0)	(30.0)	—	[20.1]	頸部指押え・ナデ、胴上部ナデ、下部ケズリ／ハケ	暗茶灰／赤茶灰	良好	
627	土師器・甕	Eベルト S	(16.8)	(28.0)	—	[17.5]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	黄灰～暗黄橙	やや良好	
628	土師器・甕	WWC	16.8	(26.4)	—	[22.2]	ケズリ／ハケ	茶灰	良好	
629	土師器・甕	WCS	15.9	(21.1)	—	[8.7]	ケズリ／ハケ	淡橙灰／淡茶灰～茶褐	良好	
630	土師器・甕	WCS	16.3	(27.3)	—	[22.8]	ケズリ／ハケ	茶灰／茶褐	良好	
631	土師器・甕	WES	(19.5)	(30.2)	—	[28.9]	口縁ハケ、胴部ケズリ／胴上部板ナデ、下部ハケ	茶褐／赤茶褐～茶灰	良好	
632	土師器・甕	WCS	15.9	(29.2)	—	[24.6]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	茶灰／赤淡茶灰～暗茶褐	良好	
633	土師器・甕	Cベルト S	(19.3)	25.8	—	[29.8]	上部ナデ、下部ケズリ／ハケ	褐色～暗褐	不良	
634	土師器・甕	ECN	17.0～17.6	26.4	—	29.2	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	褐色～暗褐	良好	
635	土師器・甕	ECS	16.8～17.4	24.8	—	[30.1]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	褐色	やや不良	
636	土師器・甕	EEN	17.2	26.4	—	30.5	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	褐色	良好	
637	土師器・甕	ECS	18.5	(26.1)	—	30.1	上部ナデ、下部ケズリ／ハケ、ナデ	茶灰／橙灰	良好	
638	土師器・甕	W－－	(18.7)	25.4	—	25.0	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	浅黄橙～灰黄	良好	
639	土師器・甕	WEC	14.0	(17.9)	—	[16.6]	頸部指押え、胴部ケズリ／ハケ	茶灰	良好	

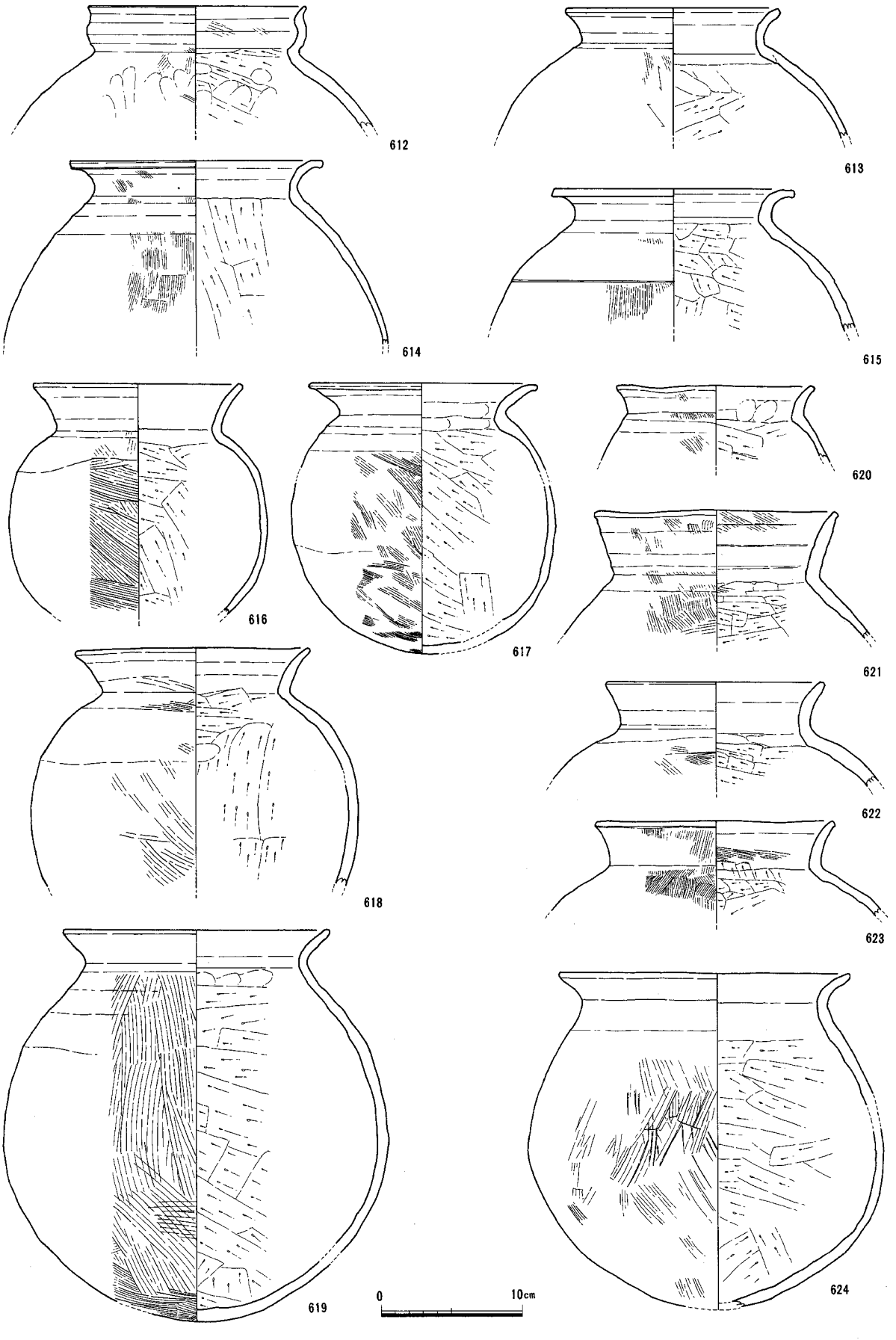


Fig.108　SD14出土遺物実測図　14（1／4）

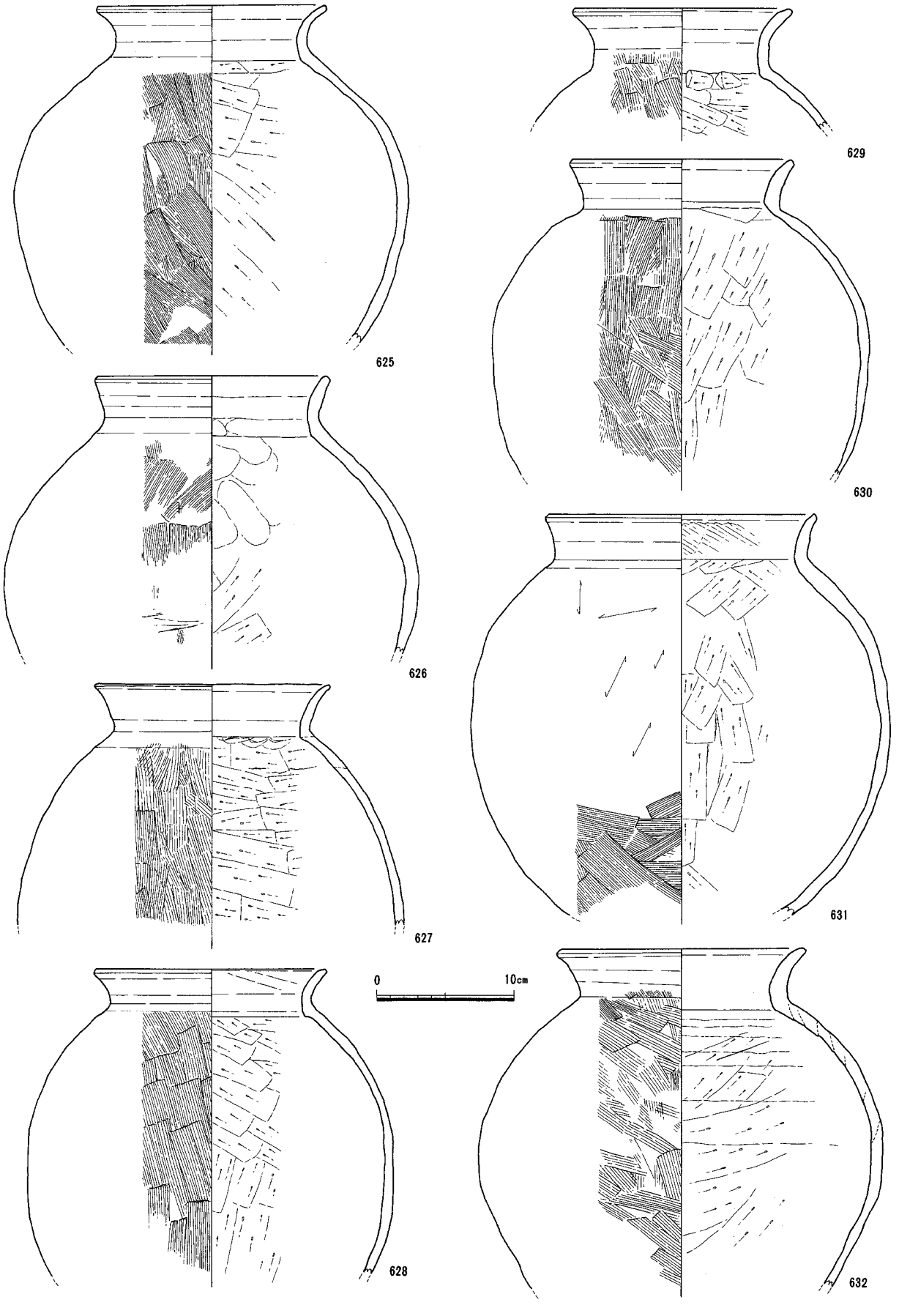


Fig.109　SD14出土遺物実測図　15（1／4）

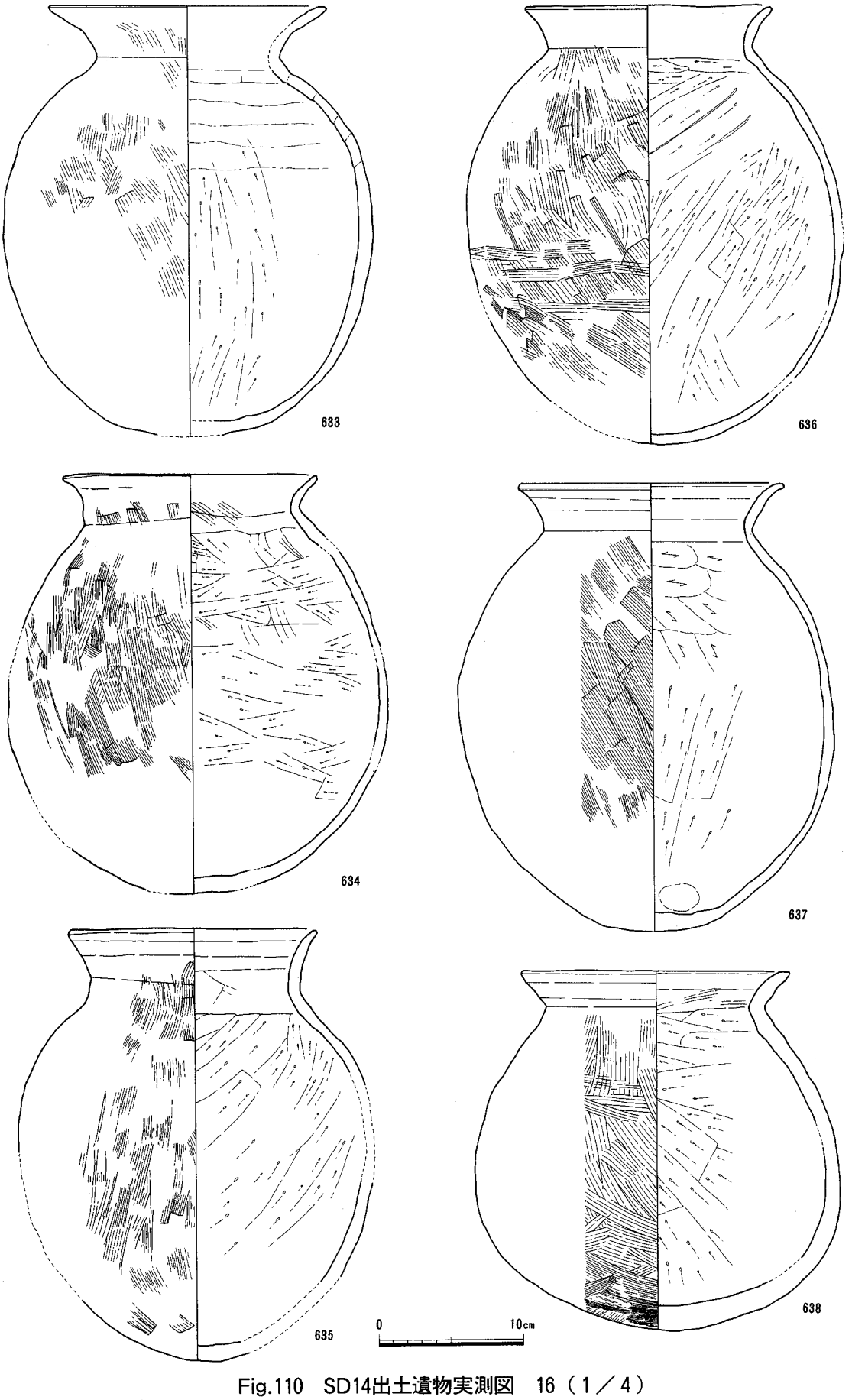


Fig.110　SD14出土遺物実測図　16（1／4）

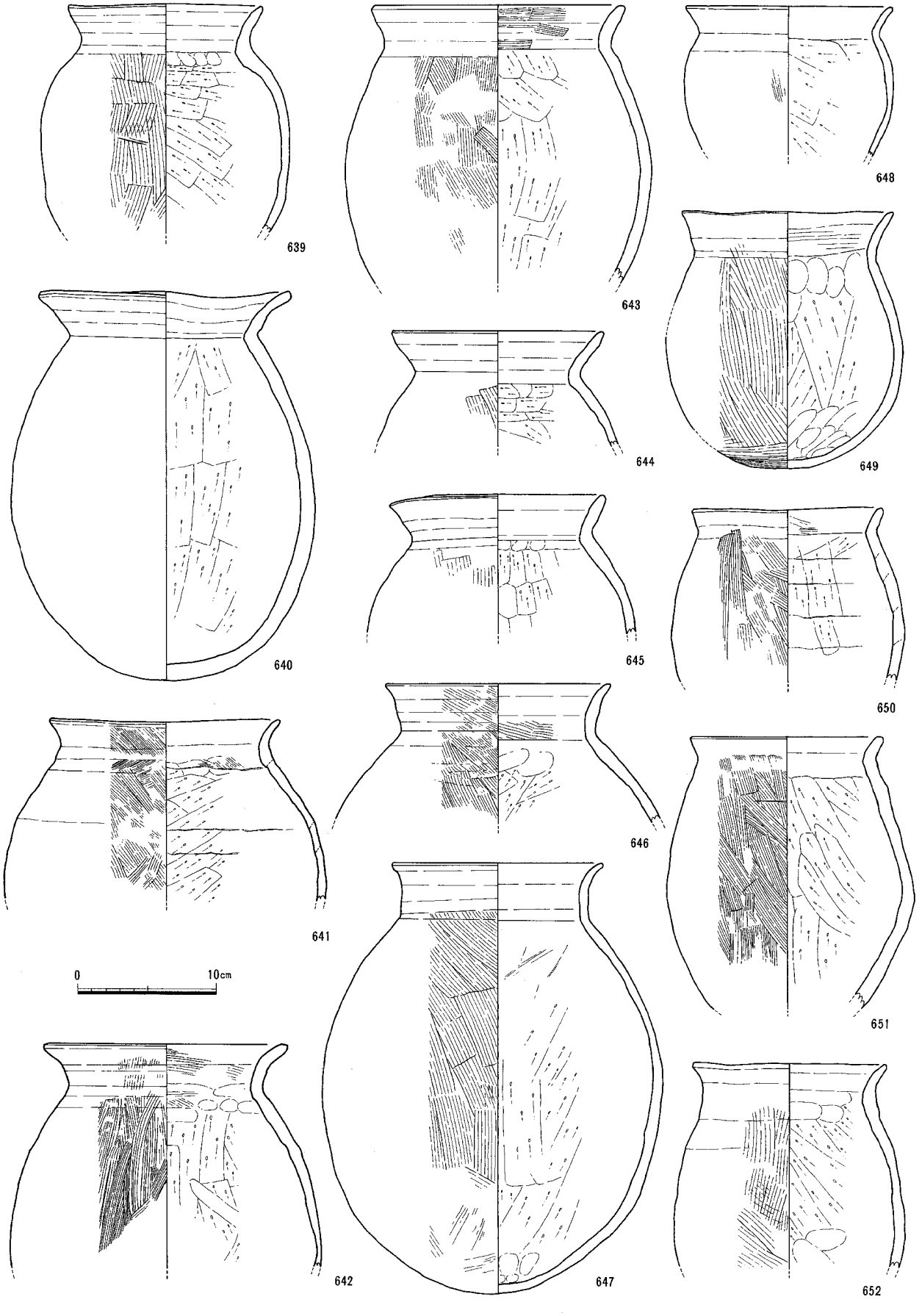


Fig.111　SD14出土遺物実測図　17（1／4）

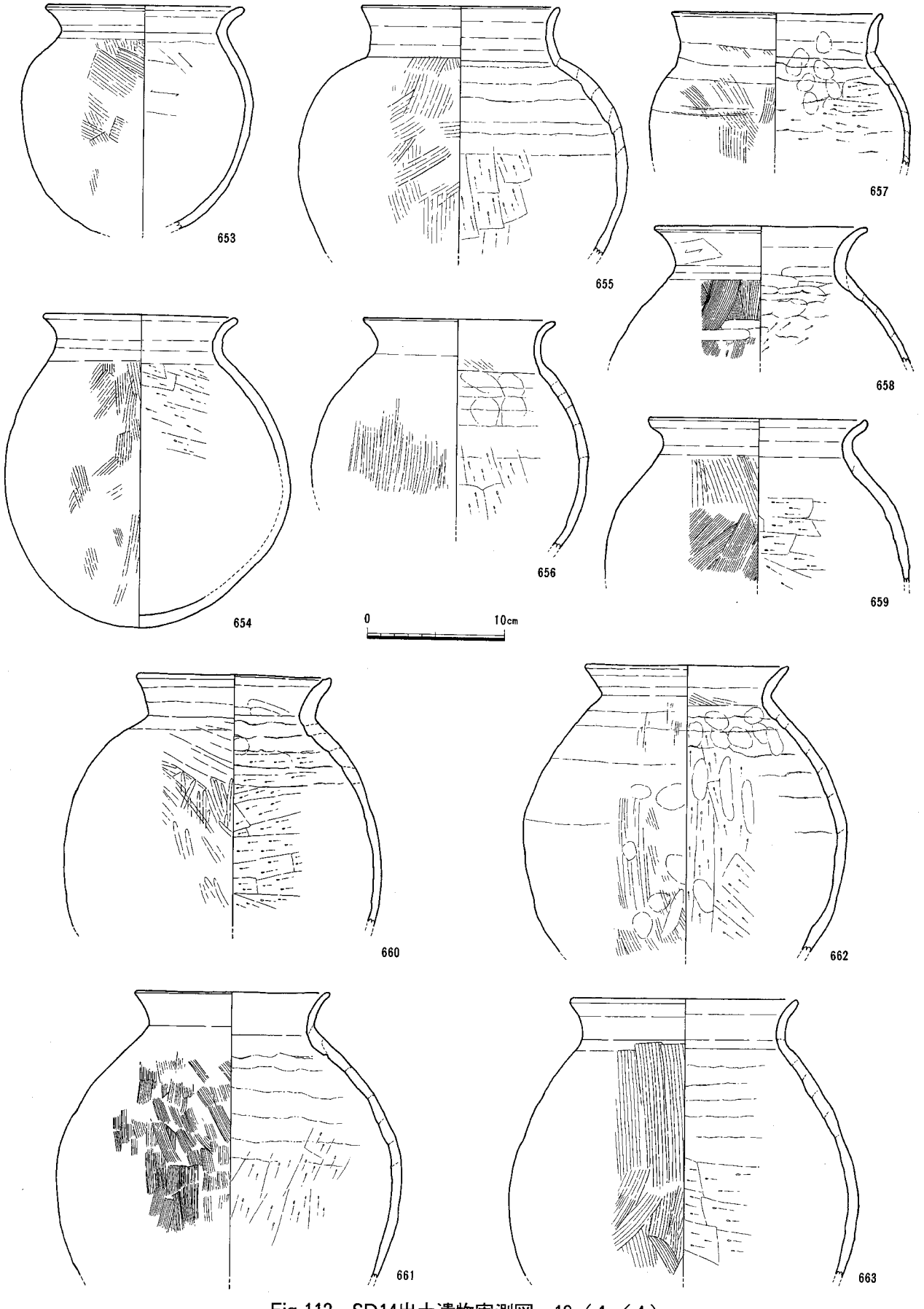


Fig.112　SD14出土遺物実測図　18（1／4）

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
640	土師器・甕	EWC	14.3	21.9	—	28.4	頸部ナデ、胴部ケズリ／ナデ	淡黄茶灰～暗黒褐／茶灰	良好	
641	土師器・甕	Eベルト N	(16.6)	(23.3)	—	[13.2]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	黄橙	良好	
642	土師器・甕	EWS	(17.7)	(22.5)	—	[16.4]	口縁ハケ、頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ／ハケ	淡黄橙	良好	
643	土師器・甕	EEC	18.3	(22.1)	—	[20.2]	口縁ハケ、胴上部ナデ、胴下部ケズリ／ハケ	橙灰～茶褐／淡橙灰	良好	
644	土師器・甕	WES	15.3	—	—	[8.4]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	淡橙灰	良好	
645	土師器・甕	WEC	15.7	19.4	—	[10.0]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	暗茶灰～暗黒褐	やや不良	
646	土師器・甕	ECS	(16.3)	—	—	[10.1]	口縁ハケ、胴部ケズリ・ナデ／ハケ	黄橙～灰黄褐	良好	
647	土師器・甕	ECS	15.2	(23.9)	—	31.4	頸部ナデ、胴部ケズリ、底部指押え／ハケ	淡橙灰	良好	
648	土師器・甕	Cベルト S	(14.9)	(15.1)	—	[10.9]	ケズリ／ハケ	橙～灰黄橙	良好	
649	土師器・甕	ECN	15.3	17.1	—	18.7	口縁ハケ、頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ・ナデ、底部指押え／ハケ	淡橙～橙	良好	
650	土師器・甕	WCS	(13.8)	(16.8)	—	[12.6]	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	赤淡橙灰～暗茶褐	良好	
651	土師器・甕	WCS	13.9	17.8	—	[19.9]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	茶灰～茶褐	良好	
652	土師器・甕	WCS	(14.0)	(16.7)	—	[14.9]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	淡橙～橙	良好	
653	土師器・甕	WES	14.2	16.7	—	[6.7]	板ナデ／ハケ	赤茶灰	やや不良	
654	土師器・甕	ECN	14.0	20.6	—	22.7	ケズリ／ハケ	淡茶褐	良好	
655	土師器・甕	ECN	(14.4)	25.9	—	[20.2]	胴上部ナデ、胴下部ケズリ／ハケ	茶灰	良好	
656	土師器・甕	EEN	11.4～14.0	20.2	—	[16.6]	胴上部ナデ・指押え、胴下部ケズリ／ハケ	褐	やや不良	
657	土師器・甕	ECC	15.4	(19.1)	—	[11.0]	ナデ、指押え／ハケ	灰黄褐～褐	良好	
658	土師器・甕	EWS	(15.5)	—	—	[9.9]	ナデ・指押え、下部ケズリ／ハケ	橙	良好	
659	土師器・甕	ECN	(16.1)	(22.2)	—	[16.8]	胴上部ナデ、胴下部ケズリ／ハケ	暗灰茶／淡橙灰	良好	
660	土師器・甕	E－－	14.2	(23.1)	—	[18.5]	胴上部指押え、下部ケズリ／板ナデ、ミガキ？	黄灰	良好	
661	土師器・甕	ECN	(14.3)	(25.2)	—	[20.7]	胴上部ナデ、胴下部ケズリ／ハケ	褐～暗褐	やや不良	
662	土師器・甕	Eベルト C	(14.9)	(23.7)	—	[20.9]	口縁ハケ、胴上部ナデ・指押え、下部ケズリ／ハケ、指押え	黄橙／黄橙～黄灰	良好	
663	土師器・甕	EEN	13.5	(25.4)	—	[20.2]	胴上部ナデ、胴下部ケズリ／ハケ	黄灰～淡茶褐／赤淡茶灰	良好	
664	土師器・甑	Eベルト C	—	—	(10.4)	[5.4]	ケズリ、ナデ／ハケ、底部ナデ	浅橙黄灰	良好	多孔
665	土師器・甑	EWS	—	—	—	[4.7]	ケズリ／ハケ、ナデ	灰白	良好	多孔
666	土師器・甑	Eベルト C	—	(33.6)	—	[16.5]	ケズリ、ナデ／ハケ、ナデ	淡黄橙～橙	良好	
667	土師器・甑	EWC	(19.5)		—	11.8	ナデ／ハケ、ナデ	茶灰／橙灰	良好	単孔
668	土師器・甑	EEC	(17.7)	(18.8)	—	14.2	胴上部ハケ・ナデ、胴下部ケズリ／ハケ、ナデ	橙灰	やや不良	単孔
669	土師器・甑	ECN	20.7	21.1	—	16.0	ケズリ、ナデ、底部指押え／ハケ	褐～橙／橙	良好	単孔
670	土師器・甑	WCS	(24.4)	—	(6.6)	[16.3]	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	橙～明赤褐	良好	単孔
671	土師器・甑	EWS	(21.5)	—	5.6～6.0	[17.4]	口縁ハケ、胴部ケズリ・ナデ／ハケ、底部ナデ	橙	良好	単孔
672	土師器・甑	EWS	(25.7)	—	(8.1)	[24.4]	ケズリ、ナデ／ハケ、下部ナデ	橙	良好	単孔
673	土師器・甑	ECS	18.9	—	4.8	16.8	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ、下部板ナデ	茶灰／淡茶灰～淡橙	良好	単孔
674	土師器・甑	ECC	(28.2)	—	(9.1)	27.5	ケズリ、底部指押え／ハケ	茶灰～淡茶褐／茶灰	良好	2孔
675	土師器・甑	WCS	26.8	—	11.6	27.4	ケズリ、底部指押え／ハケ、ナデ	茶灰～淡茶褐／淡茶灰	良好	単孔
676	土師器・甑	WCS	(23.7)	—	(5.7)	26.0	ケズリ、底部ナデ／ハケ、ナデ	茶灰／淡橙灰～暗灰	良好	単孔
677	土師器・甑	WCS	(20.3)	—	(8.7)	20.8	口縁ハケ、頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、下部ナデ	茶灰	良好	単孔
678	土師器・甑	WES	(18.6)		—	[21.7]	ケズリ、下部ナデ／ハケ	橙灰／淡橙灰～明橙灰	不良	
679	土師器・甑	WWC	(24.6)	—	10.0～10.9	24.3	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	褐～暗褐	やや不良	単孔
680	土師器・甑	EWS＋ECS	32.3	—	8.8	38.8	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	淡橙灰～茶灰	良好	単孔
681	土師器・甑	ECS	(31.2)	—		[22.8]	ケズリ／ハケ	褐～暗褐	良好	
682	土師器・甑	WEC	—	—	9.2	[23.0]	ケズリ／上部ハケ・ナデ、下部ハケ	淡茶灰～橙灰／淡茶灰	良好	単孔
683	土師器・甑	WWC	(19.0)	(20.0)	3.7～4.2	[24.9]	口縁ハケ、胴部ケズリ／上部ハケ、下部ケズリ	淡黄橙	良好	単孔
684	土師器・甑	EEC	—		2.9～3.2	[14.0]	ケズリ、板ナデ／ナデ	淡茶灰／淡橙灰～淡茶灰	良好	単孔
685	土師器・甑	Eベルト C	—		(6.4)	[17.5]	ナデ／ハケ、ナデ	黄橙～灰黄褐	良好	単孔
686	土製支脚	WCS	—	6.0	9.8	[16.3]	ナデ	茶灰	良好	
687	手形土製品	WCS	長12.6	幅14.9	厚1.4		—	灰～橙灰	良好	両面に掌圧痕

番号	種類	出土位置	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
688	石庖丁	Eベルト C	3.3	[5.3]	0.7	16	輝緑凝灰岩
689	砥石	EEN	[9.5]	[6.2]	4.2	387	砂岩、3面使用、敲石に転用？
690	砥石	Eベルト C	[6.0]	[4.2]	2.8	88	泥岩、3面使用
691	砥石	EEN	[5.0]	[7.5]	[2.1]	62	砂岩、3面使用
692	砥石	WCS	11.2	7.5	3.7	392	砂岩、3面使用
693	砥石		16.7	[8.7]	10.5	1412	砂岩、2面使用
694	凹石	WCS	8.8	7.2	5.3	553	花崗岩、1面使用
695	凹石	WCS	10.6	4.7	3.6	310	砂岩、両面使用
696	凹石	WCS	11.4	9.8	5.1	879	玄武岩、2面使用
697	凹石	Eベルト C	12.1	6.9	4.4	579	玄武岩、2面使用

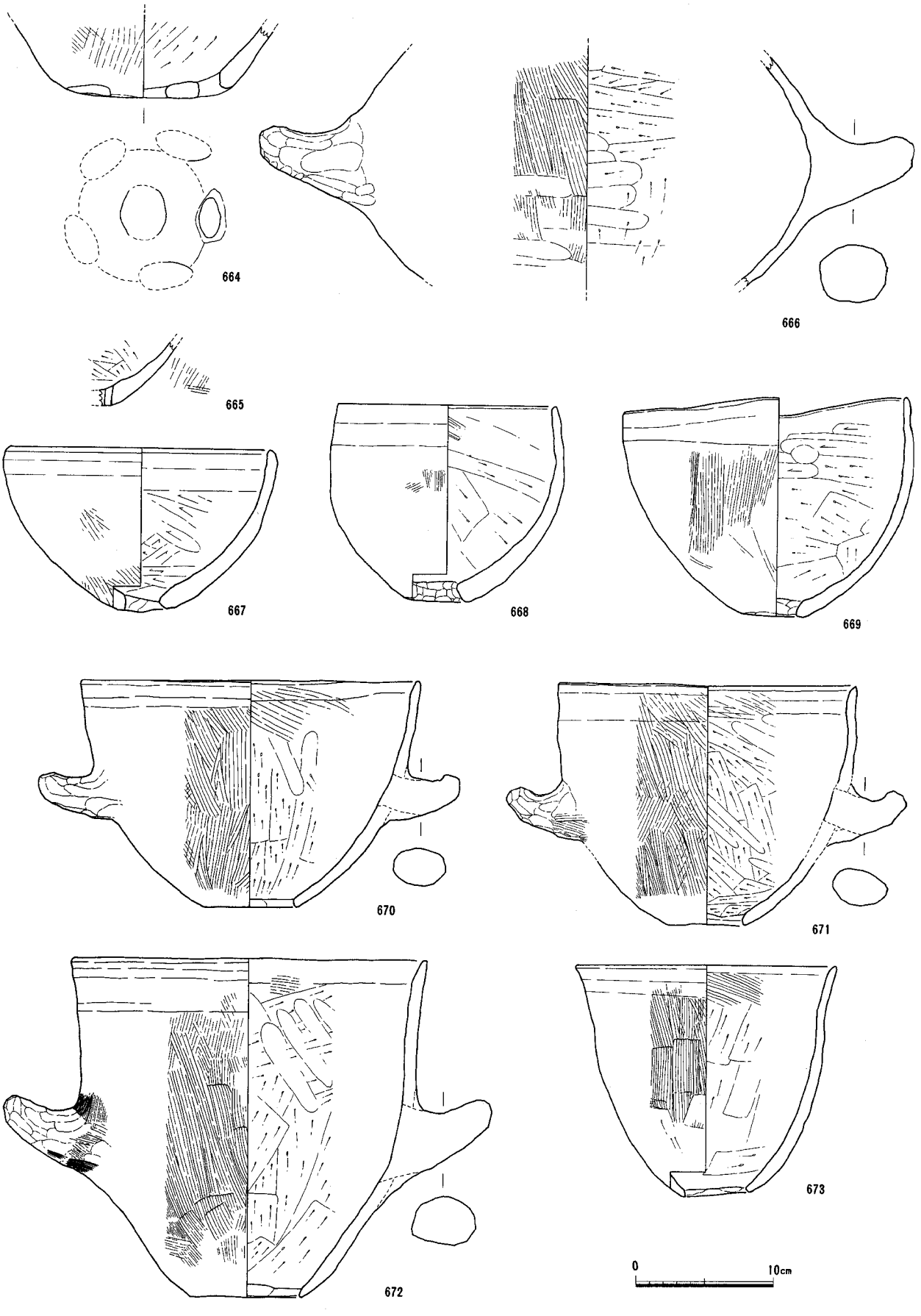


Fig.113　SD14出土遺物実測図　19（1／4）

Fig.114　SD14出土遺物実測図　20（1／4）

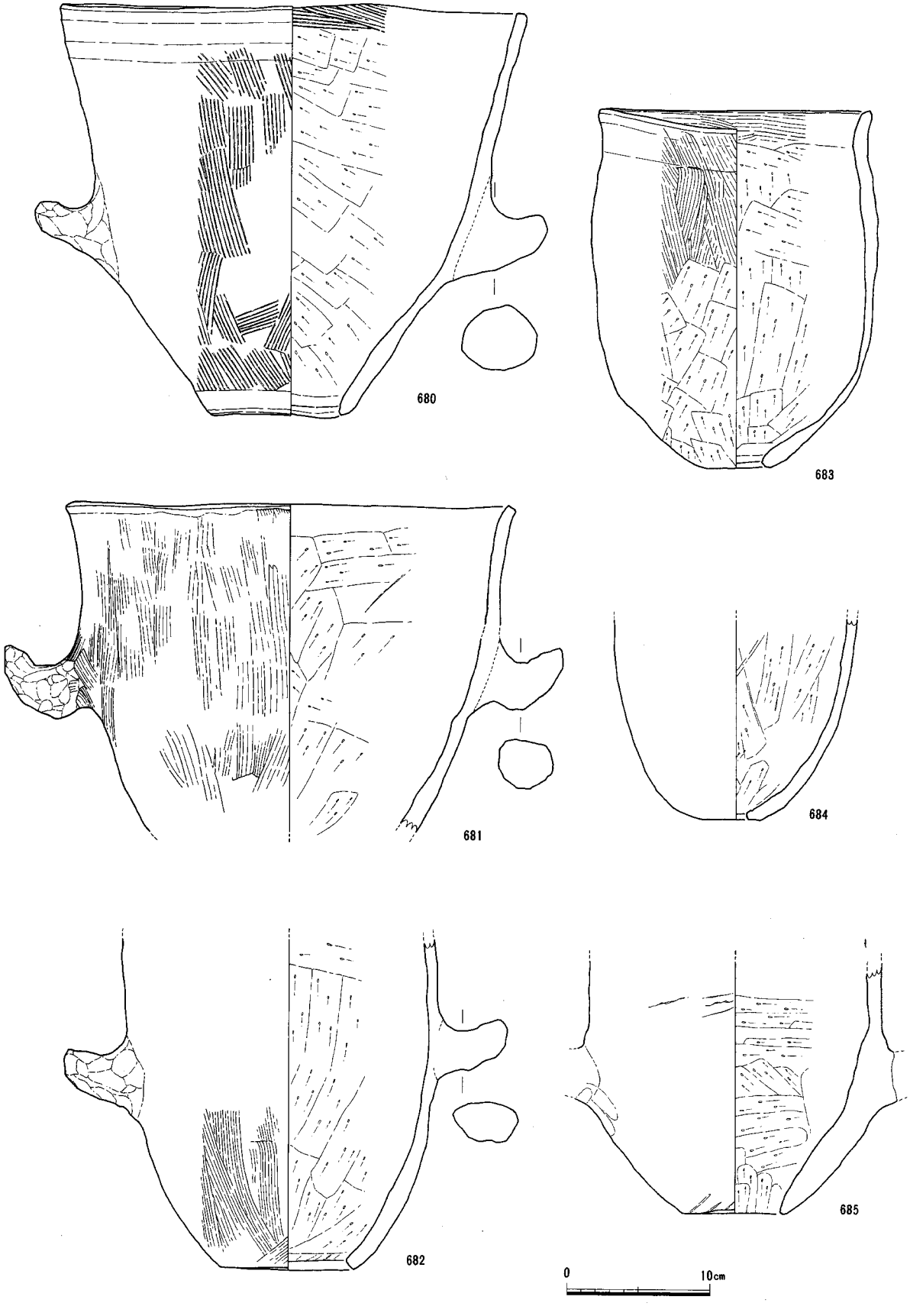


Fig.115　SD14出土遺物実測図　21（1／4）

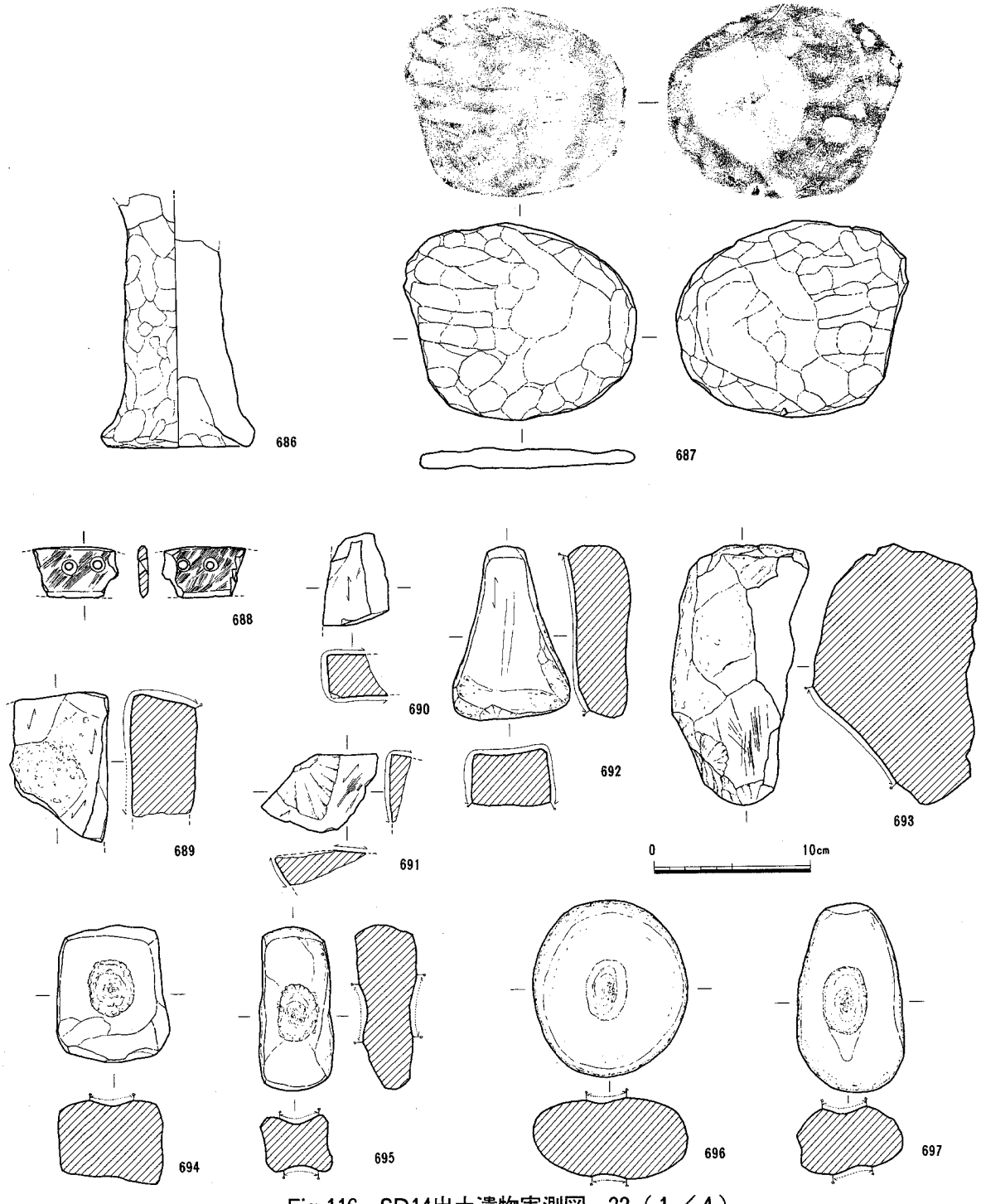


Fig.116　SD14出土遺物実測図　22（1／4）

SD29（Fig.117・118、Tab.34）

調査区南西寄りで検出した南北方向の溝で、両端は東に折れる。SC30・SC22に切られる。北側は攪乱を受ける。幅0.5～0.8m、深さ5cm、長さ12m。

出土遺物をFig.118とTab.34に示す。

SD47（Fig.117）

調査区中央部から西寄りにかけて位置する。幅1～2.5m、深さ20cm、20m分確認した。南側は確認面を下げすぎたため、消失してしまった。北側は屈曲する。SC42に切られる。

SD48（Fig.117）

調査区中央部東寄りに位置する。SD10・SX12に切られる。幅0.4～0.7m、深さ20cm、長さ8m分確認した。

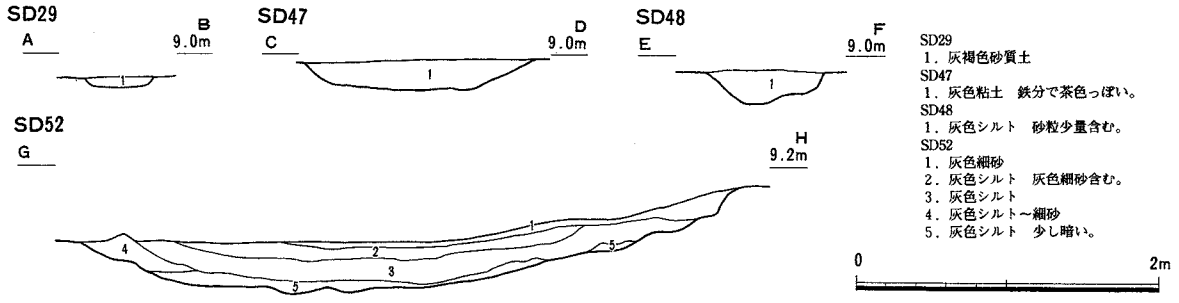


Fig.117　SD29・47・48・52土層図（1／50）

SD52（Fig.117・118、Tab.34）

調査区南寄りに位置する。シルト中より遺物が出土することから、Lトレンチで土層を確認し、溝として調査した。幅4.4m、深さ70cm。長さは＊mを確認した。花粉分析・珪藻分析をおこなっている（186ページ～）。

出土遺物をFig.118とTab.34に示す。古式土師器の甕が出土した。

3面の遺構としてはもっとも古い古墳時代前期にさかのぼる。

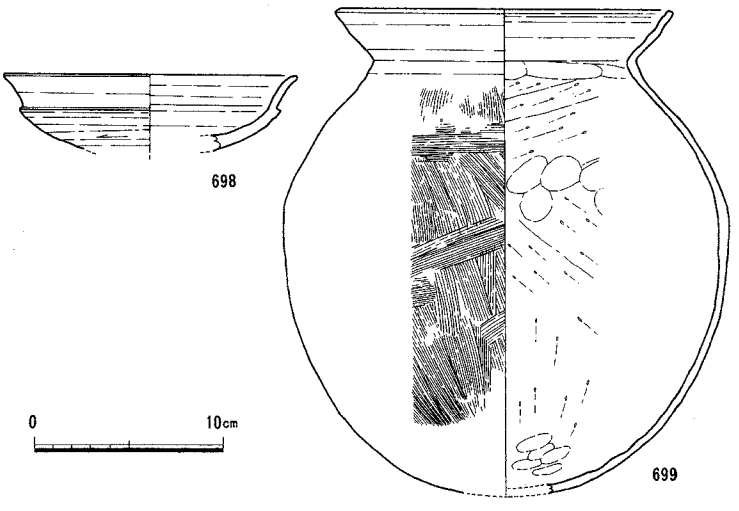


Fig.118　SD29・52出土遺物実測図（1／4）

Tab.34　SD29・52出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
698	須恵器・無蓋高坏	SD29	(15.6)	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰色	良好	
699	土師器・甕	SD52	(18.0)	(23.6)	－	[25.7]	頸部ナデ、胴部ケズリ・指押え、底部指押え／ハケ	黄橙～黄灰色	やや良好	

SK23（Fig.119・120、Tab.35）

調査区南西寄りに位置する浅い円形土坑である。底面は平坦。SC24・26を切り、SC20に切られる。径1.9m、深さ10cm。

出土遺物をFig.120とTab.35に示す。

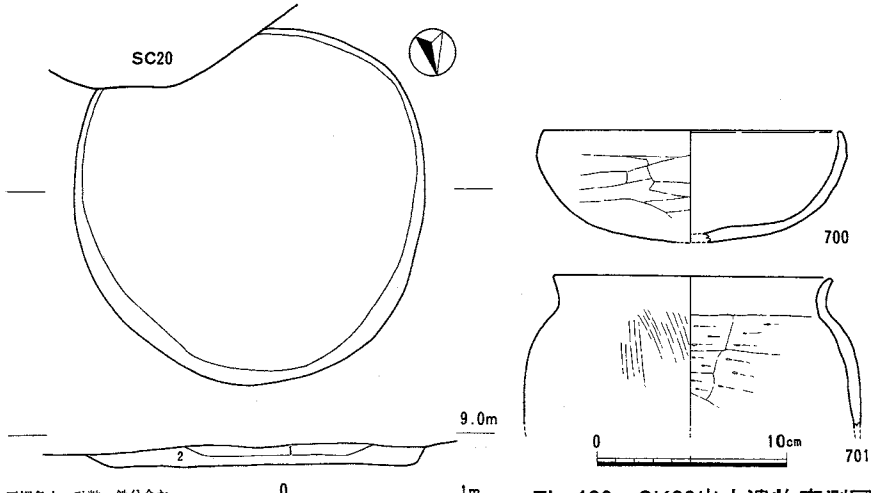


Fig.119　SK23実測図（1／40）

Fig.120　SK23出土遺物実測図（1／4）

Tab.35　SK23出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
700	土師器・椀	SK23	(15.8)	－	－	6.0	摩滅／ケズリ	淡橙色	やや不良	
701	土師器・甕	SK23	14.7	－	－	[8.0]	ケズリ／ハケ	赤褐～暗褐色	やや良好	

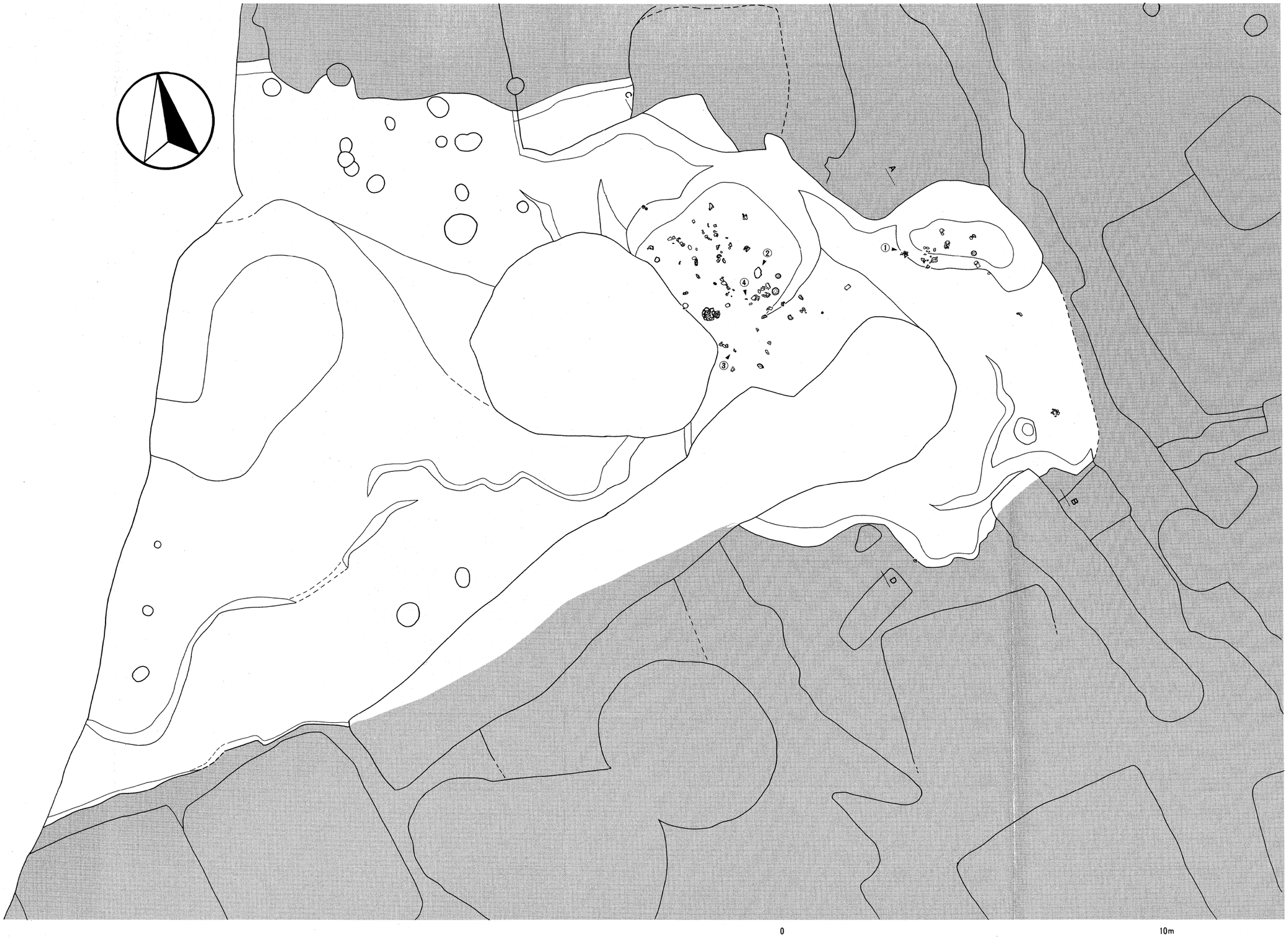
SX15（Fig .121～129、Ph .99～102、Tab .36）

調査区中央部から西へ調査区外へ伸びる窪地である。土層確認のためのBトレンチで遺物を確認し、3面の発見となったきっかけの遺構である。涌水があり、規模が大きいことから。西側へ開く谷頭になろうか。SC41・49を切っていると思い掘り下げたが、土層の観察から切り合いが逆であったようである。

出土遺物は多かったが、トレンチ調査のつもりで取り上げてしまい、出土位置を実測せずに取り上げたものが多い。実際はFig .121で示した以外に調査区西壁際から多くの土器が出土している。

出土遺物をFig .123～129とTab .36に示す。771の大形器台はSC33・41・42・46・SD14から出土の破片と接合している。821は大形の土師器の高坏である。脚部下部を欠損しており、器高は更に高い。坏部と脚部は直接には接合しなかった。SD14東ベルト出土破片と接合している。このほか滑石製子持勾玉3点、臼玉2点、有孔円盤2点、ミニチュア土器11点など祭祀品が多く出土している。子持勾玉は928と930の2点については出土状況が記録できた（Ph .101・102）。

Ph.99～102　SX15遺物出土状況①～④



丸数字は遺物出土状況写真（ph.99～102）撮影方向

Fig.121　SX15実測図　1（1／100）

Fig.122　SX15土層図・実測図　2（1／50）

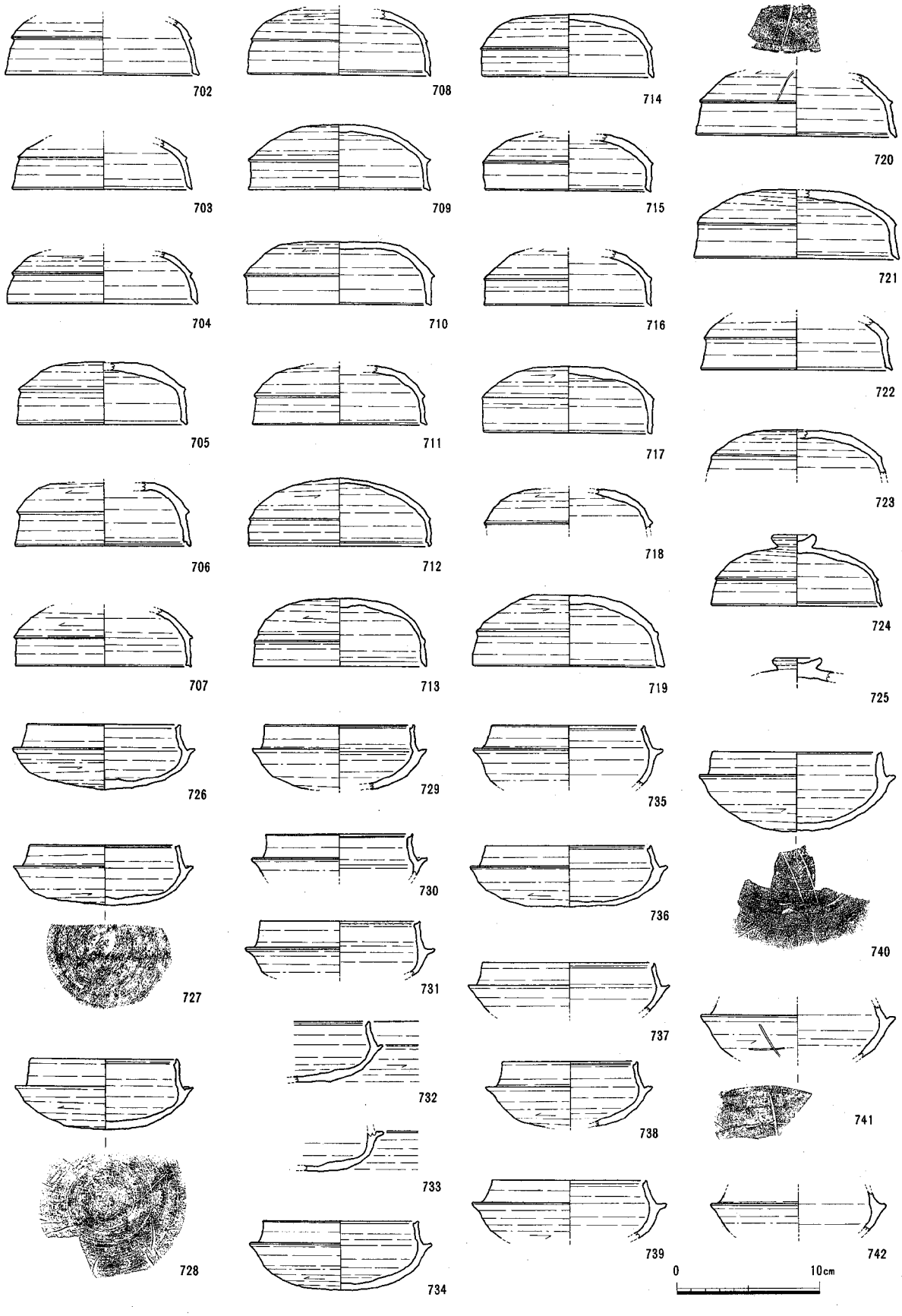


Fig.123　SX15出土遺物実測図　1（1／4）

Tab.36　SX15出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
702	須恵器・坏蓋	SX15	(13.4)	－	－	[3.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／黒灰	良好	Ⅰ－3
703	須恵器・坏蓋	SX15	(12.4)	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰	良好	Ⅰ－5
704	須恵器・坏蓋	SX15	(13.2)	－	－	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
705	須恵器・坏蓋	SX15	(11.8)	－	－	4.3	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／黒灰～黒	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
706	須恵器・坏蓋	SX15	(12.1)	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰～黒灰	良好	Ⅰ－5～(Ⅱ－5)
707	須恵器・坏蓋	SX15	(12.1)	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅰ－4
708	須恵器・坏蓋	SX15	(12.8)	－	－	[4.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／暗灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
709	須恵器・坏蓋	SX15	(12.7)	－	－	4.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／明灰	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
710	須恵器・坏蓋	SX15	(12.9)	－	－	4.4	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅰ－4
711	須恵器・坏蓋	SX15	(12.2)	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
712	須恵器・坏蓋	SX15	(12.8)	－	－	4.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰／黒灰～黒	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
713	須恵器・坏蓋	SX15	(12.1)	－	－	4.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／青灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
714	須恵器・坏蓋	SX15	12.0	－	－	4.4	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰～黒灰	良好	Ⅰ－5
715	須恵器・坏蓋	SX15	(11.6)	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／暗青灰	良好	Ⅰ－4
716	須恵器・坏蓋	SX15	(11.7)	－	－	[3.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
717	須恵器・坏蓋	SX15	(11.8)	－	－	4.7	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
718	須恵器・坏蓋	SX15		－	－	[2.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰～黒灰	良好	
719	須恵器・坏蓋	SX15	13.4	－	－	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰／灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
720	須恵器・坏蓋	SX15	(14.1)	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／明青灰	良好	ヘラ記号、Ⅱ－1～Ⅱ－2
721	須恵器・坏蓋	SX15	(14.4)	－	－	4.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／青灰～暗灰	良好	Ⅱ－1～(Ⅱ－2)
722	須恵器・坏蓋	SX15	(13.4)	－	－	[3.7]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
723	須恵器・坏蓋	SX15		－	－	[3.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰～黒灰	良好	
724	須恵器・高坏蓋	SX15	(12.0)	－	－	5.0	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰	良好	Ⅰ－4
725	須恵器・高坏蓋	SX15	－	－	－	[1.7]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	
726	須恵器・坏身	SX15	10.7	－	－	4.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
727	須恵器・坏身	SX15	10.4	－	－	4.3	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5、ヘラ記号
728	須恵器・坏身	SX15	(10.2)	－	－	4.9	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－5 ヘラ記号
729	須恵器・坏身	SX15	(10.5)	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／黒灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
730	須恵器・坏身	SX15	(10.3)	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
731	須恵器・坏身	SX15	(11.2)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	Ⅰ－3
732	須恵器・坏身	SX15	－	－	－	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／暗灰～灰	良好	(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
733	須恵器・坏身	SX15	－	－	－	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰／青灰	良好	
734	須恵器・坏身	SX15	(10.9)	－	－	4.8	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰／青灰～淡灰	良好	Ⅰ－4
735	須恵器・坏身	SX15	(10.7)	－	－	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
736	須恵器・坏身	SX15	(11.6)	－	－	4.3	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／暗灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
737	須恵器・坏身	SX15	(12.0)	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰／暗灰	良好	Ⅰ－5
738	須恵器・坏身	SX15	(9.5)	－	－	[4.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
739	須恵器・坏身	SX15	(10.8)	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
740	須恵器・坏身	SX15	(11.9)	－	－	5.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰	やや不良	Ⅰ－4～Ⅰ－5、ヘラ記号
741	須恵器・坏身	SX15		－	－	[3.7]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	ヘラ記号
742	須恵器・坏身	SX15		－	－	[2.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／暗灰	良好	
743	須恵器・無蓋高坏	SX15	(17.0)	－	－	[9.1]	回転ナデ／坏部回転ナデ・波状文・回転ヘラケズリ・カキ目、脚部回転ナデ	灰	良好	4方透かし、Ⅰ－3
744	須恵器・無蓋高坏	SX15	(14.5)	－	－	[4.9]	回転ナデ／回転ナデ、波状文、回転ヘラケズリ	灰	良好	Ⅰ－3
745	須恵器・無蓋高坏	SX15	(11.9)	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ、波状文、回転ヘラケズリ	灰白～灰／灰～褐灰	良好	Ⅰ－3
746	須恵器・無蓋高坏	SX15	(13.9)	－	－	[9.0]	回転ナデ／坏部回転ナデ・回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ	灰	良好	(Ⅰ－3)～Ⅰ－4
747	須恵器・無蓋高坏	SX15	(16.8)	－	－	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰／オリーブ～灰	良好	
748	須恵器・無蓋高坏	SX15	(18.0)	－	－	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	淡灰／暗灰	良好	Ⅰ－3
749	須恵器・無蓋高坏	SX15	－	－	－	[3.3]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰／黒灰	良好	
750	須恵器・高坏	SX15	－	－	(13.3)	[5.8]	回転ナデ／回転ナデ	灰～褐灰	良好	Ⅰ－3
751	須恵器・高坏	SX15	－	－	－	[3.3]	回転ナデ／回転ナデ	灰～褐灰	良好	3方透かし
752	須恵器・高坏	SX15	－	－	(8.8)	[2.7]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	Ⅰ－5
753	須恵器・高坏	SX15	－	－	(9.6)	[5.2]	回転ナデ／回転ナデ	灰～褐灰	良好	3方透かし？Ⅰ－4～Ⅰ－5
754	須恵器・高坏	SX15	－	－	(9.4)	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ	黄灰	良好	4方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
755	須恵器・高坏	SX15	－	－	(9.0)	[5.0]	回転ナデ／回転ナデ	黄灰～灰	良好	4方透かし、Ⅰ－4～Ⅰ－5
756	須恵器・高坏	SX15	－	－	(9.0)	[3.9]	回転ナデ／回転ナデ	灰～黄灰	良好	
757	須恵器・高坏	SX15	－	－	(9.9)	[5.3]	回転ナデ／回転ナデ	灰～黄灰	良好	4方透かし、(Ⅰ－4)～Ⅰ－5
758	須恵器・高坏	SX15	－	－	(10.2)	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	4方透かし？Ⅰ－5
759	須恵器・鼎	SX15	－	10.2	－	[10.6]	回転ナデ／頸部回転ナデ・波状文、体上部回転ナデ・下部板ナデ	青灰～暗灰	良好	Ⅰ－5
760	須恵器・鼎	SX15	(11.1)	－	－	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰白／灰	良好	SC42と接合、Ⅰ－5～Ⅱ－1
761	須恵器・鼎	SX15	(9.9)	－	－	[2.7]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰～灰白	良好	(Ⅰ－3)～Ⅰ－4
762	須恵器・鼎	SX15	(10.2)	－	－	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰～褐灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－2
763	須恵器・鼎	SX15	－	(10.3)	－	[6.0]	回転ナデ／上部回転ナデ・波状文、下部タタキ・ナデ	灰／灰～暗灰	良好	
764	須恵器・壺	SX15	(9.5)	(16.3)	－	[8.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰／暗灰	良好	
765	須恵器・甕	SX15	(19.8)	－	－	[4.8]	回転ナデ／回転ナデ	青灰／灰	良好	
766	須恵器・甕	SX15	－	－	－	[1.7]	回転ナデ／回転ナデ	灰／灰白～灰	良好	
767	須恵器・甕	SX15	(21.2)	－	－	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ	明灰	良好	
768	須恵器・甕	SX15	(16.6)	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ	黒灰	良好	
769	須恵器・甕	SX15	－	－	－	[5.6]	回転ナデ／回転ナデ	明灰	良好	
770	須恵器・甕	SX15	－	(25.0)	－	[21.7]	頸部回転ナデ、胴部当て具痕・ナデ／頸部回転ナデ、胴部タタキ	青灰～暗灰	良好	SD14と接合
771	須恵器・大形器台	SX15	(31.6)	－	(22.1)	(27.9)	坏部当て具痕・ナデ、脚部回転ナデ／坏上部回転ナデ・波状文、下部タタキ・ナデ、脚部回転ナデ・波状文	灰／暗青灰～灰	良好	3段4方透かし、SC33,41,42,46、SD14と接合・同一個体、(Ⅰ－3)～Ⅰ－4

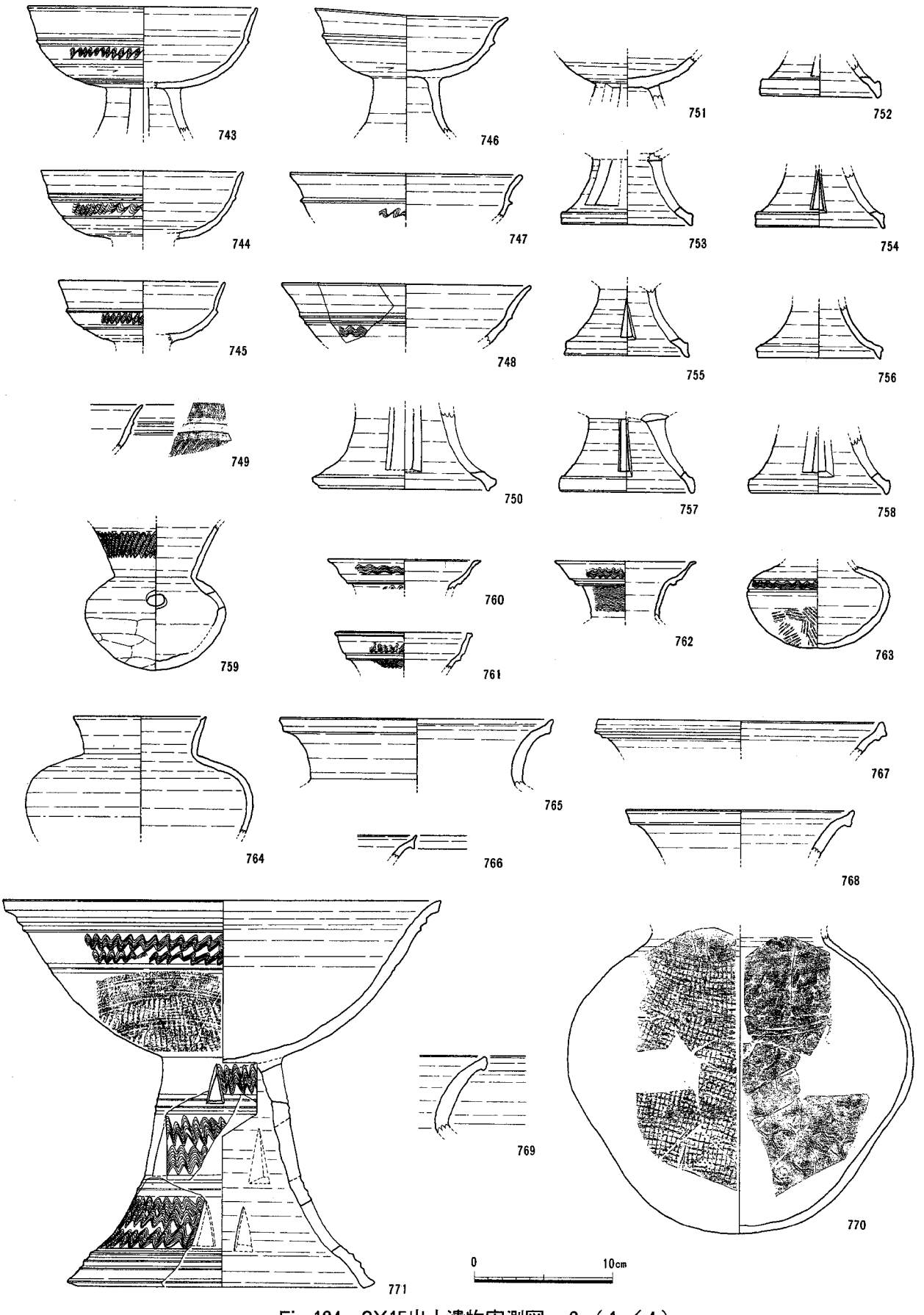


Fig.124　SX15出土遺物実測図　2（1／4）

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
772	土師器・椀	SX15	(10.2)	—	—	5.5	ナデ、指押え／上部ハケ・ナデ、下部ケズリ・ナデ	淡橙灰／淡橙灰～淡褐灰	良好	
773	土師器・椀	SX15	(11.2)	—	—	5.9	ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	黄褐灰	やや不良	
774	土師器・椀	SX15	12.6	—	—	6.4	ナデ／上部ハケ・ナデ、下部ケズリ	橙灰	良好	
775	土師器・椀	SX15	14.3	—	—	5.7	ナデ／ケズリ、ナデ	褐灰～明橙灰	良好	
776	土師器・椀	SX15	(14.2)	—	—	6.3	ナデ／ケズリ（ハケ？）、ナデ	橙	良好	
777	土師器・椀	SX15	(14.4)	—	—	[5.9]	ナデ／ハケ、ナデ	茶褐	良好	
778	土師器・椀	SX15	(12.8)	—	—	[5.0]	ナデ／上部ハケ、下部ケズリ・ナデ	橙灰	良好	
779	土師器・椀	SX15	(13.3)	—	—	[5.0]	ナデ／上部ハケ、下部ケズリ	橙	良好	
780	土師器・椀	SX15	(14.1)	—	—	[5.2]	ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
781	土師器・椀	SX15	(14.5)	—	—	4.8	ナデ／ケズリ、ナデ	橙灰	良好	
782	土師器・椀	SX15	(13.0)	—	—	[4.6]	ナデ／摩滅	褐灰	良好	
783	土師器・椀	SX15	13.5	—	—	[4.5]	ナデ／板ナデ	橙灰～黒褐／橙灰	良好	
784	土師器・椀	SX15	(13.1)	—	—	4.9	ナデ／上部ケズリ・ナデ、下部板ナデ	明橙灰	良好	
785	土師器・椀	SX15	(12.8)	—	—	[4.7]	ナデ／ハケ	灰褐～橙灰	良好	
786	土師器・椀	SX15	14.0	—	—	6.2	ナデ／ケズリ、ナデ	橙灰	良好	
787	土師器・椀	SX15	(15.3)	—	—	[4.4]	ミガキ／口縁部ミガキ、体部ケズリ	橙灰	良好	
788	土師器・椀	SX15	(14.0)	—	—	4.7	ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
789	土師器・椀	SX15	(13.2)	—	—	5.2	ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
790	土師器・椀	SX15	12.4	—	—	[4.8]	板ナデ／ケズリ	灰褐／橙灰～灰褐	やや不良	
791	土師器・椀	SX15	(13.8)	—	—	5.2	ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	橙灰～赤褐／橙灰	良好	
792	土師器・椀	SX15	(14.5)	—	—	[5.2]	ナデ／ハケ、ナデ	明橙灰	良好	
793	土師器・椀	SX15	13.5	—	—	5.8	ハケ、ナデ／ハケ	浅橙～浅黄橙	良好	
794	土師器・椀	SX15	(13.7)	—	—	5.5	ナデ／ナデ、ケズリ	淡黄灰／淡褐灰	良好	ヘラ記号
795	土師器・椀	SX15	12.6	—	—	6.5	ナデ／板ナデ、ケズリ	褐灰～暗黒灰／褐灰	良好	
796	土師器・椀	SX15	13.5	—	—	5.7	ナデ／板ナデ、ケズリ	褐灰／暗茶褐～褐灰	良好	
797	土師器・椀	SX15	13.5	—	—	7.3	ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
798	土師器・椀	SX15	(13.4)	—	—	6.2	ナデ／ケズリ、底部ハケ	橙灰	良好	
799	土師器・椀	SX15	(13.4)	—	—	6.4	板ナデ／ケズリ、ナデ	淡橙灰	良好	
800	土師器・椀	SX15	(14.4)	—	—	5.8	ナデ／ハケ、ナデ	橙灰／橙灰～灰	良好	
801	土師器・椀	SX15	14.2	—	—	5.9	ナデ／ケズリ、ナデ、底部ハケ	橙灰	良好	
802	土師器・椀	SX15	15.2	—	—	7.0	ナデ／ケズリ	淡橙灰	良好	
803	土師器・椀	SX15	(14.2)	—	—	6.1	板ナデ？／ケズリ、底部ナデ	浅橙～黄橙	良好	
804	土師器・椀	SX15	(14.3)	—	—	6.0	ナデ／摩滅	橙灰～褐灰／橙灰	やや不良	
805	土師器・椀	SX15	(14.4)	—	—	[5.7]	ナデ／ケズリ	黒褐～橙灰／茶褐	良好	
806	土師器・椀	SX15	(13.2)	—	—	6.7	ナデ／ケズリ、ナデ、底部ハケ	淡橙灰	良好	
807	土師器・椀	SX15	(14.6)	—	—	5.5	ナデ／ケズリ	褐灰／橙灰	良好	
808	土師器・椀	SX15	(13.2)	—	—	[4.7]	ナデ／ケズリ、ナデ	褐灰	良好	
809	土師器・椀	SX15	13.1	—	—	6.1	指押え、ナデ／ハケ、ナデ、底部板ナデ	淡橙灰～黄褐	良好	
810	土師器・椀	SX15	(14.4)	—	—	4.0	ナデ／ケズリ	黄橙～明赤褐	良好	
811	土師器・椀	SX15	14.6	—	—	5.2	ナデ、板ナデ／ナデ、指押え、底部ケズリ	褐灰／橙灰～茶褐	良好	
812	土師器・椀	SX15	(9.8)	—	—	[4.2]	ナデ、板ナデ／ケズリ	褐灰～明灰褐／褐灰	良好	
813	土師器・椀	SX15	(16.1)	—	—	[5.7]	ケズリ、板ナデ／ケズリ	橙灰	良好	
814	土師器・椀	SX15	(12.5)	—	—	5.2	ナデ／ハケ、ナデ、底部ケズリ	褐灰～茶褐	やや不良	外底木葉圧痕
815	土師器・高坏	SX15	—	—	11.4	[5.3]	上部ナデ、下部ケズリ／ナデ	橙～灰黄	良好	
816	土師器・高坏	SX15	—	—	(11.4)	[7.0]	ケズリ／ハケ、ナデ	橙～浅橙	良好	
817	土師器・高坏	SX15	—	—	8.6	[5.4]	坏部ナデ、脚部ケズリ／ナデ	浅橙灰／橙灰	やや不良	
818	土師器・高坏	SX15	—	—	8.9	[5.1]	坏部ナデ、脚上部ケズリ・下部ハケ／ナデ	橙～浅黄橙	良好	
819	土師器・高坏	SX15	—	—	10.6	[4.1]	ナデ、ケズリ／上部ナデ、下部ミガキ？	浅橙灰～橙灰／橙灰	良好	
820	土師器・高坏	SX15	16.2	—	—	[5.9]	ナデ／ナデ	橙灰	良好	
821	土師器・大形高坏	SX15	(29.9)	—	—	[25.8]	坏部ハケ・ナデ、脚上部ケズリ・下部ナデ／ハケ・ナデ	淡橙灰	良好	SD14E ベルト C+E ベルト S と接合
822	土師器・高坏	SX15	17.5	—	11.1	12.4～12.9	坏部ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ミガキ	橙灰～黄灰	良好	
823	土師器・高坏	SX15	(16.6)	—	11.1	12.7	坏部ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ナデ、板ナデ	明橙灰～淡褐灰	良好	
824	土師器・高坏	SX15	15.3	—	10.0	9.7～10.2	坏部ナデ・底部指押え、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ナデ・指押え	橙灰	やや不良	
825	土師器・高坏	SX15	(15.4)	—	10.7	10.2	坏部ナデ、脚部ケズリ／ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
826	土師器・高坏	SX15	(14.7)	—	—	[9.3]	坏部ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ハケ・ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
827	土師器・高坏	SX15	14.2	—	9.9	10.0～10.6	坏部ナデ・ミガキ、脚部ケズリ／坏上部ナデ・下部ハケ、脚部ハケ・ナデ	橙灰	良好	
828	土師器・高坏	SX15	15.1	—	(8.5)	9.6	坏部ナデ、脚部ケズリ／坏部ナデ、脚部ハケ・ナデ	明橙灰～茶褐／橙灰	やや不良	
829	土師器・高坏	SX15	(13.7)	—	10.2	[10.6]	ナデ／ハケ、ナデ	浅橙灰／明橙灰	やや不良	
830	土師器・高坏	SX15	(14.1)	—	(10.6)	[10.3]	坏部ミガキ、脚部ケズリ・ナデ／坏部ミガキ、脚部ハケ・ナデ	淡橙灰～橙灰	良好	
831	土師器・長頸壺	SX15	(7.8)	(13.0)	—	13.3	ナデ／肩ミガキ、胴～底部ケズリ	淡褐灰～黄褐	良好	
832	土師器・壺	SX15	—	(17.0)	—	[10.0]	ナデ／ナデ	淡橙灰～淡褐灰	良好	
833	土師器・壺	SX15	(11.9)	(13.3)	—	[10.3]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ナデ、底部ハケ	黄灰／黄灰～褐灰	良好	
834	土師器・壺	SX15	(11.5)	(12.8)	—	10.4	口縁部ハケ、胴上部ナデ・板ナデ、下部指押え／口縁～胴上部ハケ、下部ケズリ	浅黄橙／黄橙～灰黄	良好	
835	土師器・壺	SX15	(13.0)	(16.1)	—	[11.6]	口縁部ハケ、頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ・ナデ／ハケ	淡橙灰	良好	
836	土師器・壺	SX15	(16.1)	(19.4)	—	[12.6]	頸部ナデ、胴部ケズリ／摩滅	灰褐	不良	
837	土師器・小壺	SX15	(6.1)	(8.2)	—	[6.3]	口縁部ハケ・ナデ・指押え、胴部ナデ・指押え／口縁・底部ハケ・ナデ、胴部ナデ	灰～黒灰／淡褐灰～灰	良好	
838	土師器・小鉢	SX15	(8.9)	—	3.5	4.2	ナデ、指押え／タタキ、ナデ、底部指押え	褐灰～灰	良好	
839	土師器・甕	SX15	(15.1)	—	—	[8.4]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	橙灰～褐灰／黄褐	良好	沈線文、布留甕
840	土師器・甕	SX15	(18.4)	—	—	[10.7]	ケズリ／口縁部板ナデ、胴部ハケ	褐灰～橙灰／橙灰	良好	
841	土師器・甕	SX15	18.4	(27.8)	—	[23.5]	ケズリ／ハケ	褐灰／褐灰～黒褐	良好	

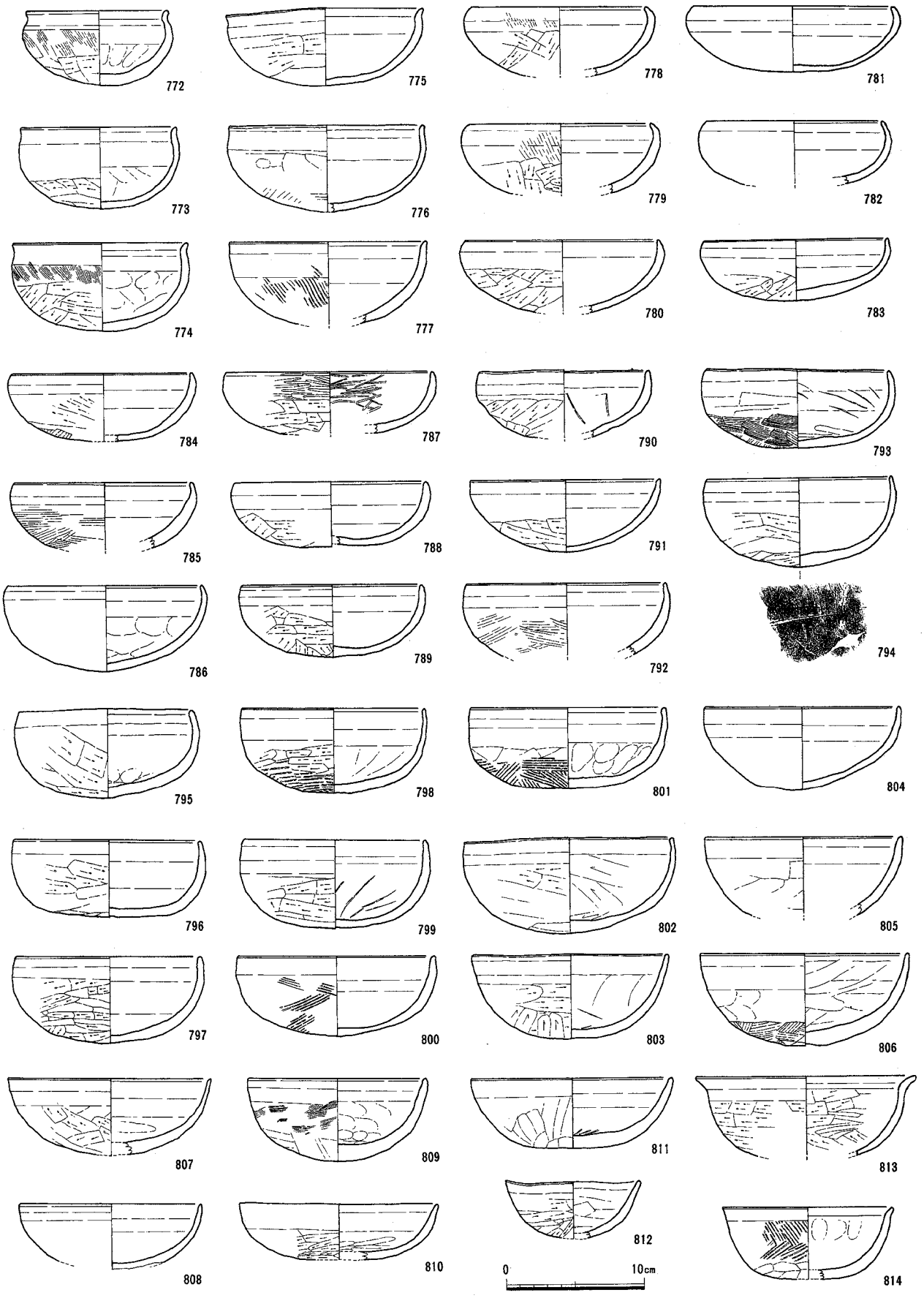


Fig.125　SX15出土遺物実測図　3（1／4）

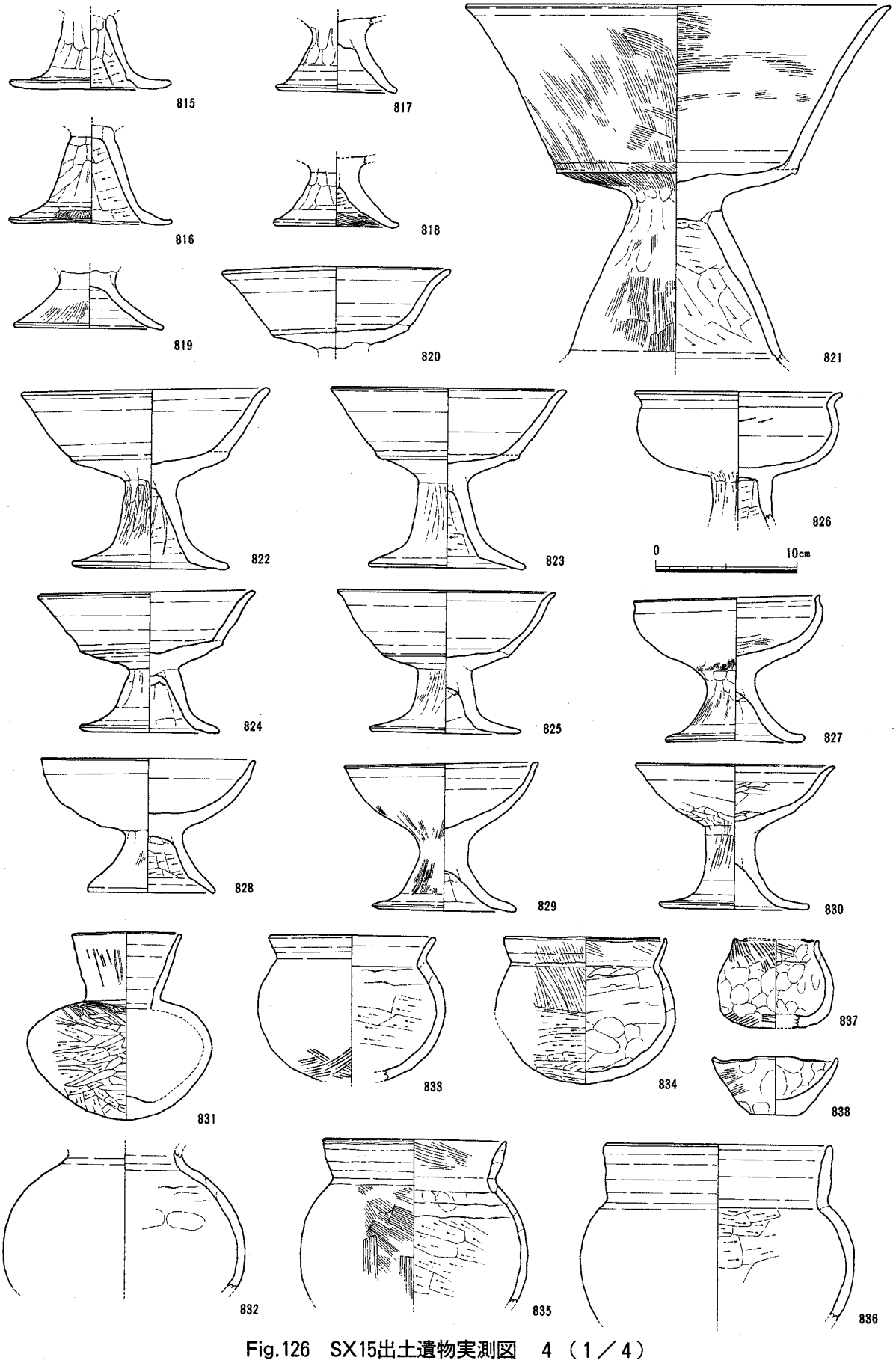


Fig.126　SX15出土遺物実測図　4（1／4）

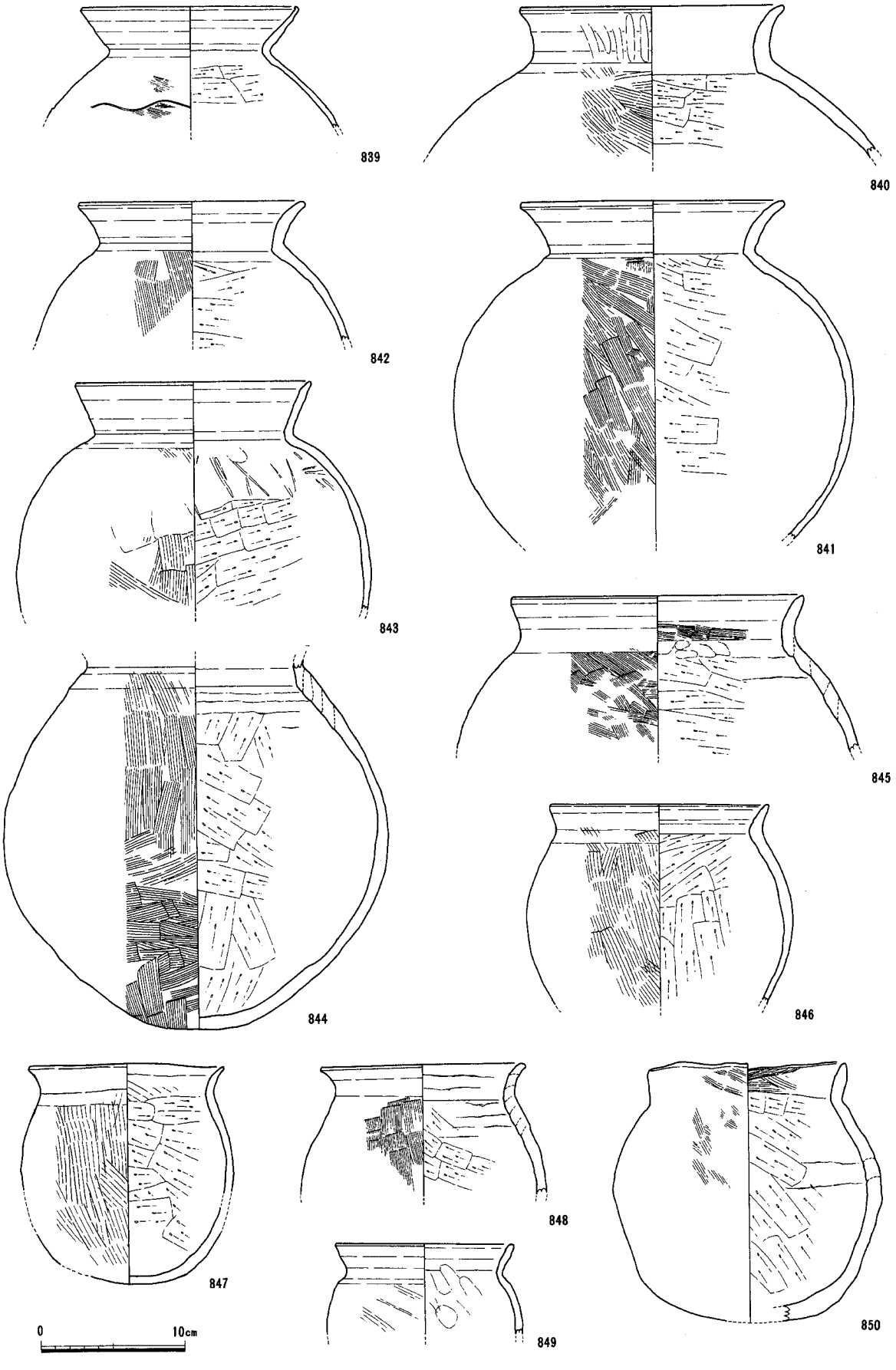


Fig.127　SX15出土遺物実測図　5（1／4）

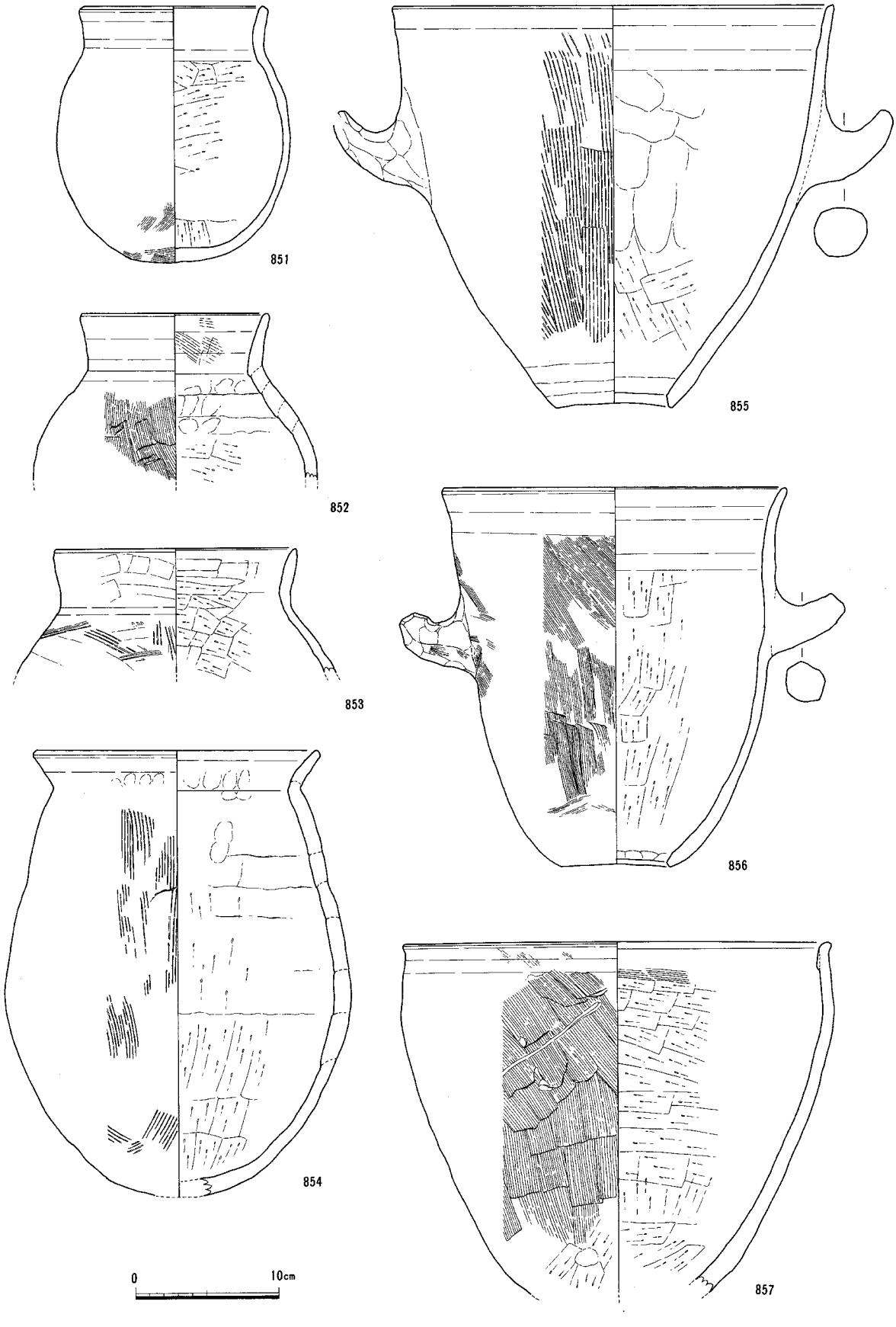


Fig.128　SX15出土遺物実測図　6（1／4）

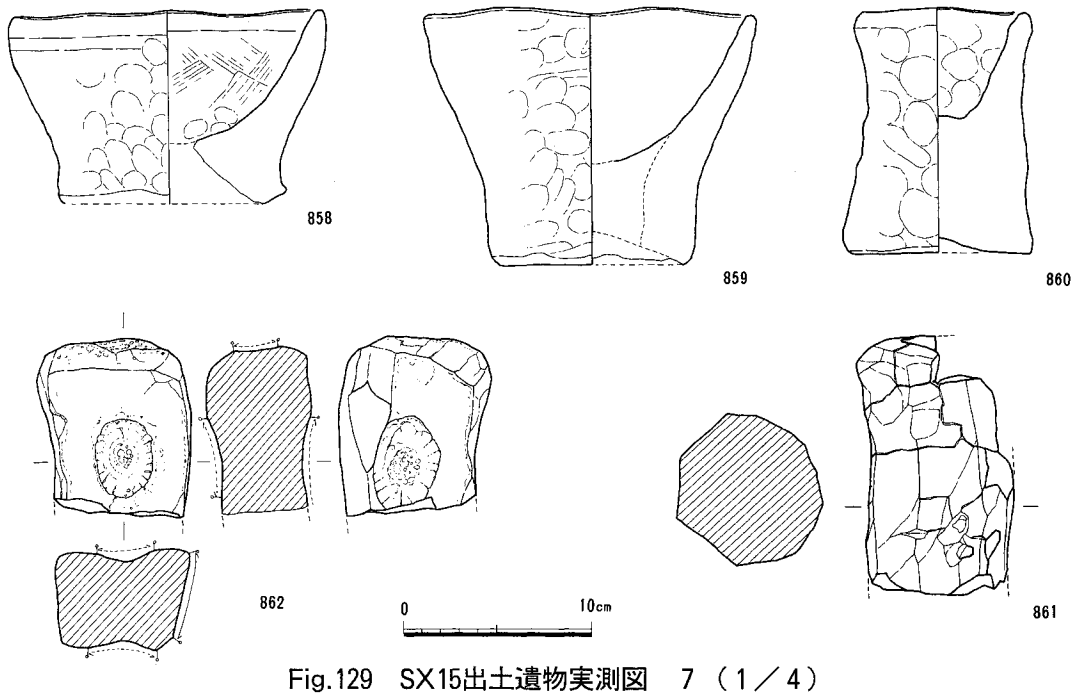


Fig.129　SX15出土遺物実測図　7（1／4）

番号	種　類	出土位置	法量（cm）口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
842	土師器・甕	SX15	15.8	－	－	[9.6]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	褐灰／褐灰～黒褐	良好	
843	土師器・甕	SX15	(16.4)	(24.5)	－	[15.8]	頸部ナデ、胴部板ナデ、ケズリ／ハケ、ナデ	橙灰	良好	
844	土師器・甕	SX15	－	(26.5)	－	[25.5]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ	橙灰～褐灰／褐灰～茶褐	良好	
845	土師器・甕	SX15	(20.3)	－	－	[11.0]	口縁部ハケ、頸部指押え、胴部ケズリ／ハケ	淡橙灰／橙灰	良好	
846	土師器・甕	SX15	(15.2)	(18.5)	－	[13.8]	ケズリ／ハケ	黄橙	やや良好	
847	土師器・甕	SX15	(13.5)	(14.6)	－	15.2	口縁部ハケ、頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、底部ナデ	黄橙～黄灰	良好	
848	土師器・甕	SX15	14.2	(17.0)	－	[9.1]	頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ／ハケ	淡茶褐～茶褐	良好	
849	土師器・甕	SX15	(12.3)	(13.6)	－	[6.3]	ナデ／ナデ、板ナデ	黒灰／橙灰	良好	
850	土師器・甕	SX15	13.8	18.7	－	[18.0]	口縁部ハケ、胴部ケズリ／ハケ	褐灰～黒褐／橙灰	良好	
851	土師器・甕	SX15	(13.1)	(16.2)	－	17.9	ケズリ／ハケ	灰褐～黒褐／茶褐～黒褐	良好	
852	土師器・甕	SX15	(13.2)	(19.8)	－	[12.7]	口縁部ハケ、頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ／ハケ	淡褐灰～黒褐	良好	
853	土師器・甕	SX15	16.8	－	－	[8.7]	口縁板ナデ、胴部ケズリ／口縁板ナデ、胴部ハケ・板ナデ	灰／淡褐灰～黒褐	良好	
854	土師器・甕	SX15	(19.9)	(24.0)	－	[31.0]	頸部ナデ・指押え、胴上ナデ、下部部ケズリ／頸部指押え・ナデ、胴部ハケ	淡灰褐～黒灰	良好	
855	土師器・甑	SX15	(30.6)	－	(8.0)	27.9	胴上部ナデ・下部ケズリ、底部ナデ／ハケ、底部ナデ	橙灰～褐灰／淡橙灰～橙灰	良好	単孔
856	土師器・甑	SX15	(24.0)	－	(7.5)	26.3	ケズリ、底部ナデ・指押え／ハケ、底部ナデ	淡橙灰～褐灰／明橙灰	良好	単孔
857	土師器・甑	SX15	(29.8)	－	－	[24.5]	頸部ハケ、胴部ケズリ／ハケ、底部ケズリ	黄褐灰	良好	
858	土製支脚？	SX15	16.6	－	(10.6)	10.3	板ナデ、底部指押え／ナデ、指押え	黄橙～灰黄	やや良好	
859	土製支脚？	SX15	(17.6)	－	(9.7)	[13.7]	ナデ／ナデ、指押え	黄橙～黒褐	やや良好	
860	土製支脚？	SX15	(8.5)	－	9.4	13.0	ナデ、指押え／ナデ、指押え	灰黄～黄橙	やや良好	
861	土製支脚	SX15		8.0		[13.8]	上部指押え、下部ケズリ	灰黄	やや不良	

番号	種　類	出土位置	法量（cm・g）長さ	幅	厚さ	重量	備考
862	凹石	SX15	[9.6]	8.3	5.4	622	砂岩、3面敲石として使用、砥石の転用か（1面砥面）？

SX53（Fig.130・131、Ph.103・104、Tab.37）

調査区北寄りに位置し、東側は調査区外へ伸びる。一部しか調査していないため詳しくはわからないが、SX15と同様な遺構になろうか。規模は確認した部分で幅9m、深さ1mである。 4層の青緑色粘土を含んだ薄い層はSD14でも観察されている。

出土遺物をFig.130とTab.37に示す。

Ph.103　SX53（南から）

Ph.104　SX53遺物出土状況（東から）

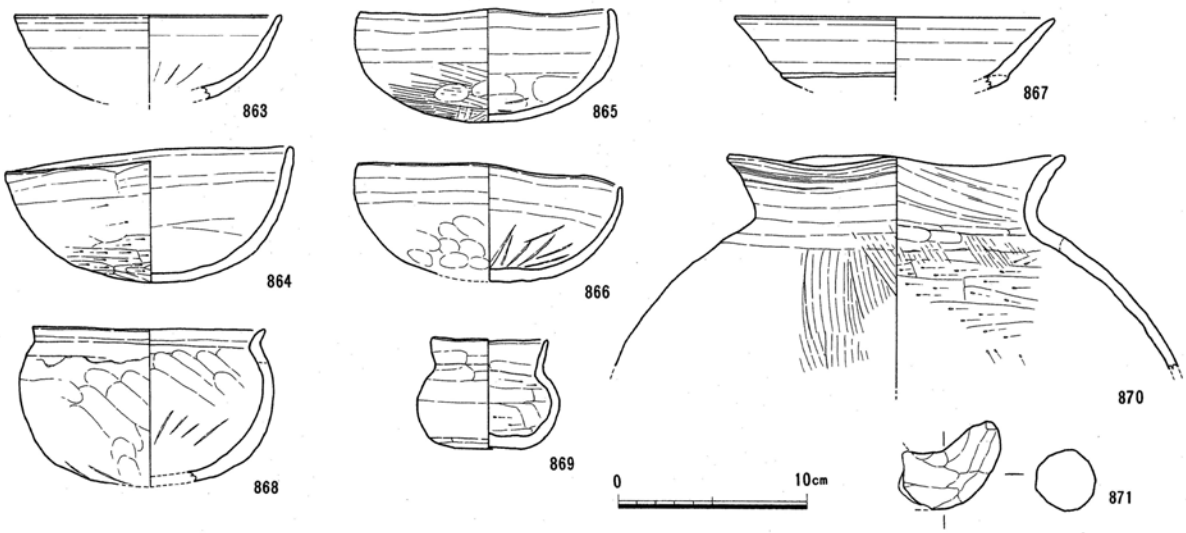
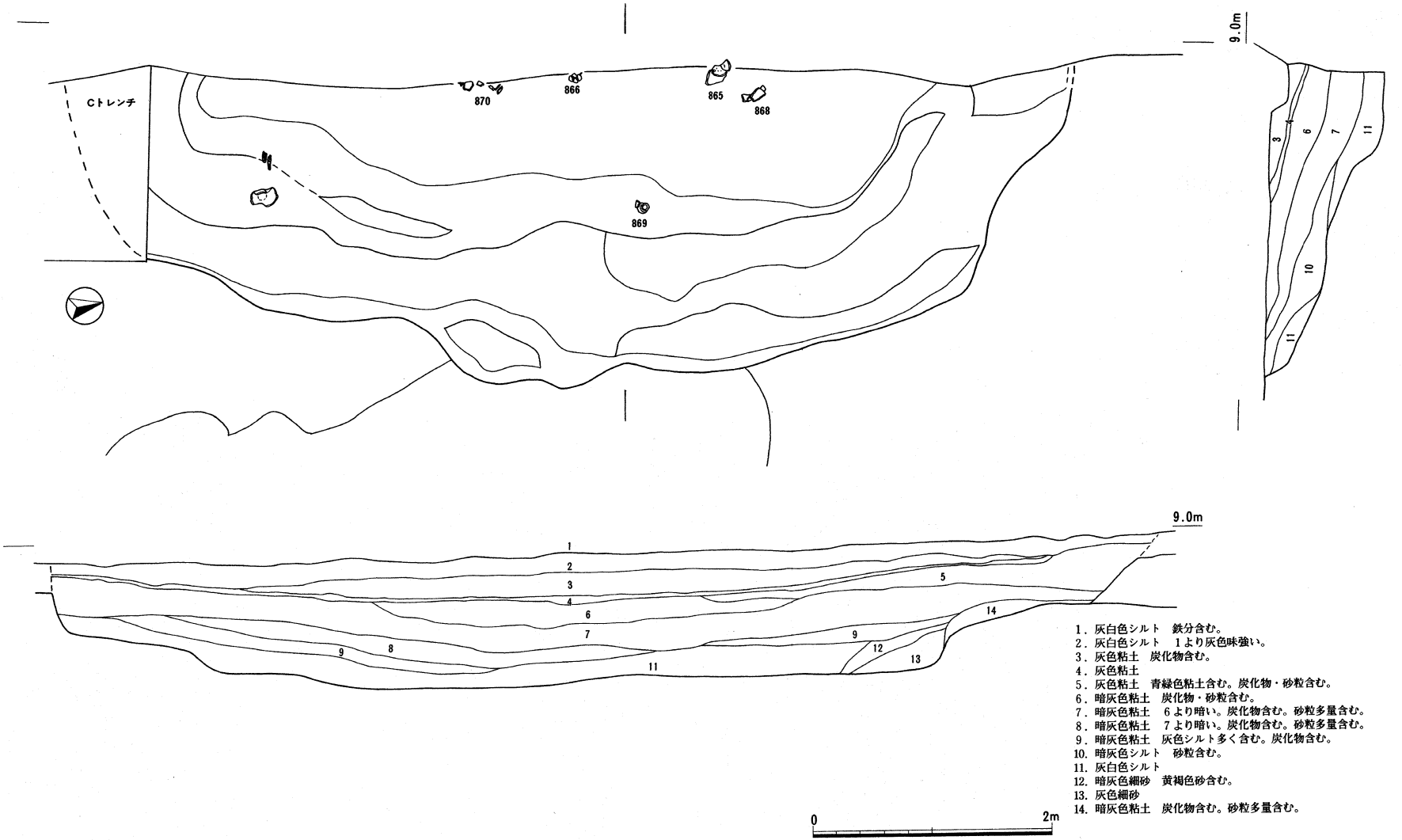


Fig.130　SX53出土遺物実測図（1／4）

Tab.37　SX53出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
863	土師器・椀	SX53	(14.0)	－	－	[4.6]	ナデ、底部板ナデ／ケズリ、ナデ	淡茶褐色／淡褐灰色	良好	
864	土師器・椀	SX53	15.1	－	－	7.3	ナデ、板ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	黄橙～黒褐色	やや良好	
865	土師器・椀	SX53	13.3	－	－	6.1	ナデ、板ナデ／ハケ、指押え	橙～黄橙色	良好	
866	土師器・椀	SX53	14.0	－	－	6.2	ナデ、板ナデ／ナデ、指押え	黄橙～灰黄色	やや良好	
867	土師器・高坏	SX53	(16.9)	－	－	[3.8]	ナデ／ナデ	明橙灰色	不良	
868	土師器・鉢	SX53	12.1	－	－	[8.4]	ナデ、板ナデ／ケズリ？、ナデ	橙～黄橙色	良好	
869	土師器・小壺	SX53	6.1	－	－	5.9	頸部ナデ、胴部ケズリ、底部ナデ／上部ナデ、下部ケズリ・ナデ	橙～赤橙色	良好	
870	土師器・甕	SX53	(17.8)	－	－	[11.3]	頸部ハケ・ナデ、胴部ケズリ／ハケ	黄橙～褐灰色	やや良好	
871	土師器・甑把手	SX53	－	－	－	－	ナデ	橙灰色	良好	



1．灰白色シルト　鉄分含む。
2．灰白色シルト　1より灰色味強い。
3．灰色粘土　炭化物含む。
4．灰色粘土
5．灰色粘土　青緑色粘土含む。炭化物・砂粒含む。
6．暗灰色粘土　炭化物・砂粒含む。
7．暗灰色粘土　6より暗い。炭化物含む。砂粒多量含む。
8．暗灰色粘土　7より暗い。炭化物含む。砂粒多量含む。
9．暗灰色粘土　灰色シルト多く含む。炭化物含む。
10．暗灰色シルト　砂粒含む。
11．灰白色シルト
12．暗灰色細砂　黄褐色砂含む。
13．灰色細砂
14．暗灰色粘土　炭化物含む。砂粒多量含む。

Fig.131　SX53実測図（1／50）

その他の出土遺物（Fig.132～136、Tab.38～41）

最後にA－ 1区３面で出土したミニチュア土器と滑石製品、木器とA－１区遺構外出土遺物をまとめて示す。

ミニチュア土器は住居から９点、SD14から 6点、SX15から11点、その他２点の合計28点が出土している。全体の土器の出土量からみると相対的にSX15からの出土が際だって多いことがわかる。器形はほとんどが椀形であるが、皿形（876）、壺形（885）、器台形（898）もみられる。

土製小玉はSC30より１点出土した。

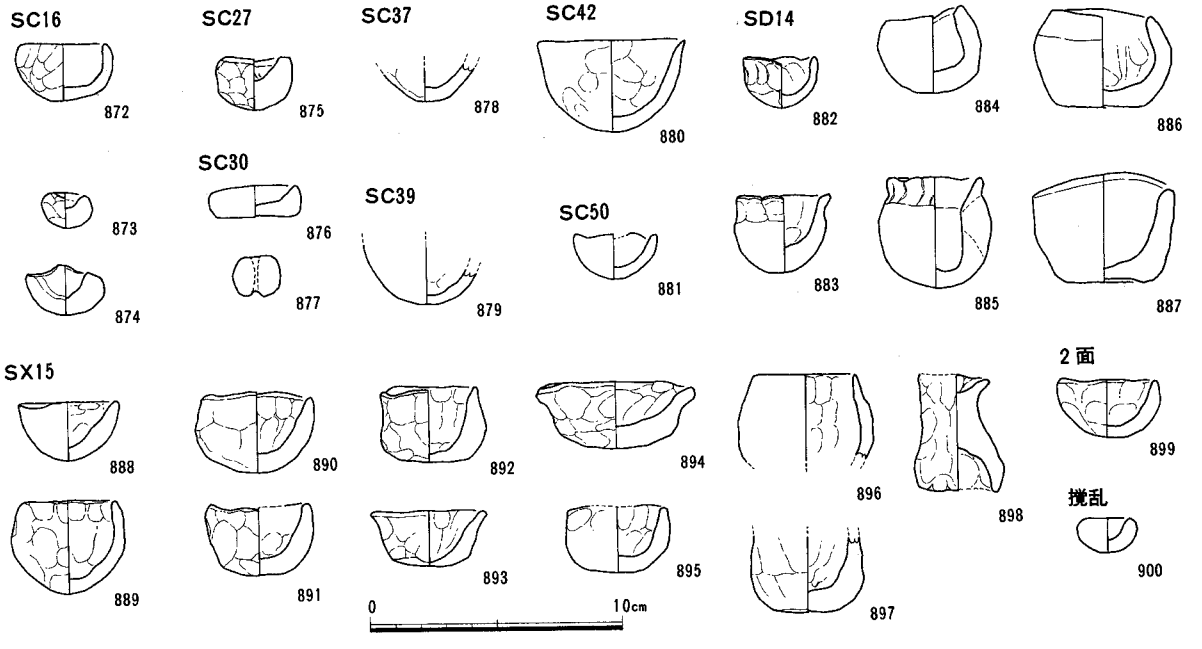


Fig.132　ミニチュア土器・土製小玉実測図（１／２）

Tab.38　ミニチュア土器・土製小玉遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
872	ミニチュア土器	SC16	3.2	－	－	2.2	手づくね	褐	良好	
873	ミニチュア土器	SC26	1.6	－	－	1.4	手づくね	黄橙～灰黄褐	やや良好	
874	ミニチュア土器	SC26	2.4	－	－	1.5～2.0	手づくね	淡灰褐	良好	
875	ミニチュア土器	SC27	2.2	－	－	2.2	手づくね	黄橙～橙	やや良好	
876	ミニチュア土器	SC30	3.3	－	－	1.3	手づくね	褐	不良	
877	土製小玉	SC30	長1.7	径1.9			手づくね	淡赤褐	やや不良	
878	ミニチュア土器	SC37	－	－	－	[1.5]	手づくね	褐	やや不良	
879	ミニチュア土器	SC39	－	－	－	[2.5]	手づくね	褐	不良	
880	ミニチュア土器	SC42	(5.8)	－	－	3.6	手づくね	褐～茶褐	やや不良	
881	ミニチュア土器	SC50	3.3	－	－	1.8	手づくね	橙	良好	
882	ミニチュア土器	SD14	2.9	－	－	2.1	手づくね	黄橙	やや良好	
883	ミニチュア土器	SD14	3.7	－	－	3.1	手づくね	褐灰	良好	
884	ミニチュア土器	SD14	2.8～3.1	－	－	3.4	手づくね	褐	やや不良	
885	ミニチュア土器	SD14	(3.6)	－	－	4.4	手づくね	茶褐	不良	
886	ミニチュア土器	SD14	3.8	－	－	3.9	ナデ、板ナデ、指押え	褐	良好	
887	ミニチュア土器	SD14	5.6	－	－	3.7～4.2	手づくね	灰褐	不良	
888	ミニチュア土器	SX15	(3.9)	－	－	[2.4]	手づくね	淡褐灰	良好	
889	ミニチュア土器	SX15	3.7	－	－	3.7	手づくね	褐灰	良好	
890	ミニチュア土器	SX15	4.4	－	－	3.2	手づくね	淡灰褐	やや不良	
891	ミニチュア土器	SX15	4.0	－	－	2.9	手づくね	橙灰／橙灰～黒褐	良好	
892	ミニチュア土器	SX15	3.8	－	－	3.0	手づくね	褐灰／褐灰～黒灰	良好	
893	ミニチュア土器	SX15	(4.6)	－	3.0	2.3	手づくね	褐灰／橙灰	良好	
894	ミニチュア土器	SX15	(6.3)	－	－	[2.7]	手づくね	褐灰	良好	
895	ミニチュア土器	SX15	(3.8)	－	－	2.7	手づくね	橙灰／橙灰～黒灰	良好	
896	ミニチュア土器	SX15	(4.0)	－	－	[3.4]	手づくね	灰	良好	
897	ミニチュア土器	SX15		－	(2.7)	[3.0]	ナデ、板ナデ、指押え	灰／灰褐	良好	
898	ミニチュア土器	SX15	2.8	－	3.2	4.7	手づくね	淡橙灰～淡褐灰	良好	
899	ミニチュア土器	2面南側	4.0	－	－	2.3	手づくね	褐灰／淡灰褐～橙灰	良好	
900	ミニチュア土器	撹乱	1.8	－	－	1.5	手づくね	淡褐	良好	

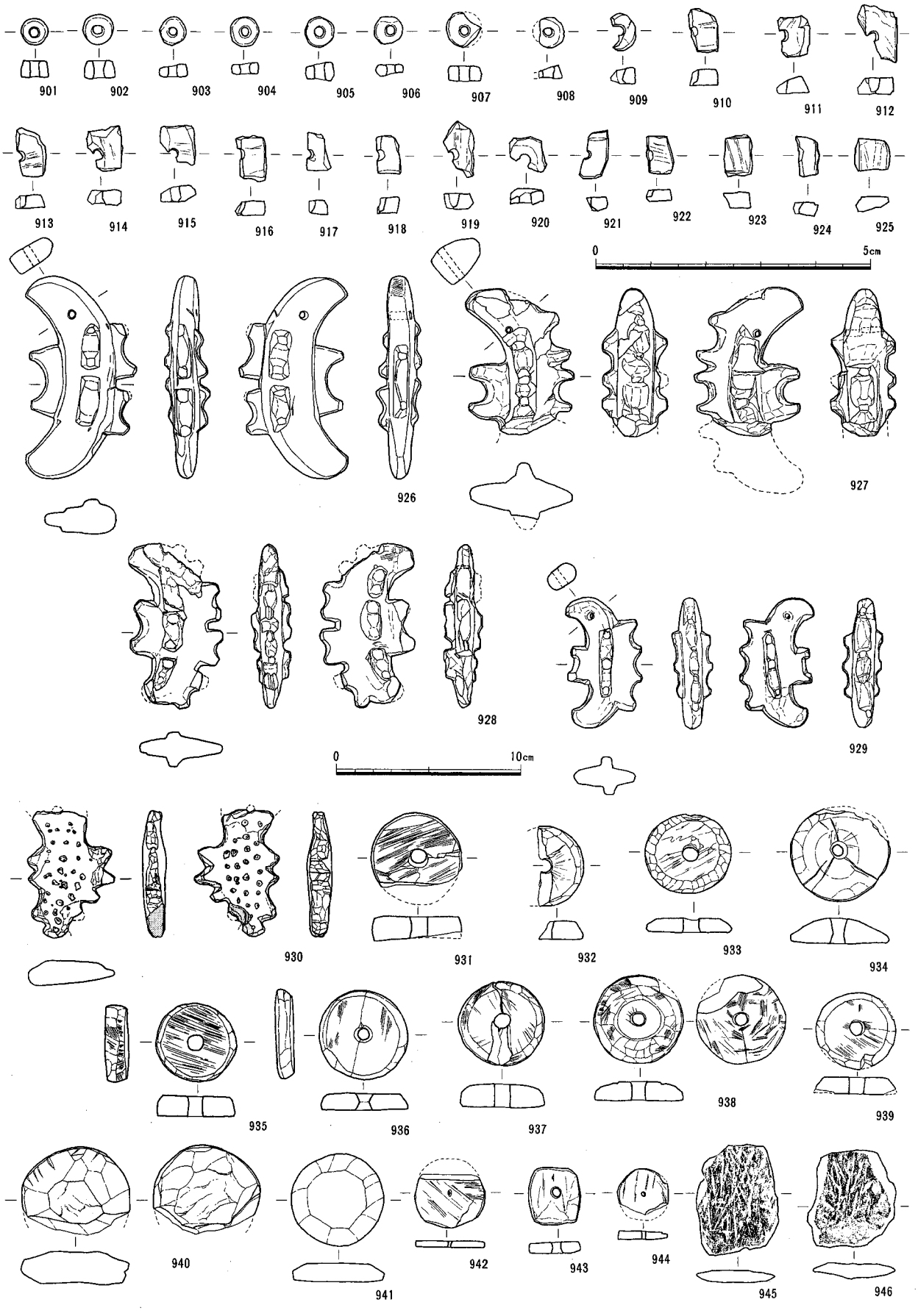


Fig.133　滑石製品遺物実測図（1／1・1／3）

Tab.39　滑石製品遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（mm）				備　考
			長さ	幅	厚さ	孔径	
901	臼玉	SC20	5.0	5.0	3.0～3.2	1.8	
902	臼玉	SC26	5.5	5.5	2.7～3.2	1.8～2.0	
903	臼玉	SC34	5.0	4.5	1.6～2.5	1.5～1.8	
904	臼玉	SC33・34	5.0	5.0	1.9～2.1	1.8～2.0	
905	臼玉	SD14	5.5	5.0	2.3～3.5	2.0	
906	臼玉	SD29	5.0	5.0	1.6～2.3	1.8～2.0	
907	臼玉	SX15	6.5	6.0	2.8～2.9	2.0	
908	臼玉	SX15	5.5	5.5	1.2～2.7	1.8～2.0	
909	臼玉未製品	SD14	6.5	6.5	2.4	1.8～2.0	側面研磨途中
910	臼玉未製品	SD14	[7.4]	[4.9]	2.6	2.0	側面研磨途中、片面のみ穿孔
911	臼玉未製品	SD14	[6.7]	[5.9]	2.8～2.9	1.7～2.0	未研磨
912	臼玉未製品	SD14	[10.5]	[7.0]	3.1	1.8～2.0	未研磨、片面のみ穿孔
913	臼玉未製品	SD14	[8.8]	[5.2]	2.1～2.2	1.8	未研磨、片面のみ穿孔
914	臼玉未製品	SD14	[8.2]	[6.2]	2.8～2.9	1.9～2.1	未研磨
915	臼玉未製品	SD14	[7.2]	[6.2]	2.9	1.8～1.9	研磨途中、片面のみ穿孔
916	臼玉未製品	SD14	[8.0]	[5.0]	2.4～2.5	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
917	臼玉未製品	SD14	[6.7～6.8]	[4.4]	2.5～2.6	1.8	未研磨、片面のみ穿孔
918	臼玉未製品	SD14	[6.6]	[4.3]	3.0～3.1	1.7～1.8	未研磨、片面のみ穿孔
919	臼玉未製品	SD14	[10.5]	[5.4]	2.6～2.7	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
920	臼玉未製品	SD14	[6.0]	[6.0]	2.5	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
921	臼玉未製品	SD14	[8.9]	[4.9]	2.5～2.6	1.7～1.8	未研磨、片面のみ穿孔？
922	臼玉未製品	SD14	[6.6]	[4.6]	2.1～2.2	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
923	臼玉未製品	SD14	[7.1]	[5.2]	2.7～2.8	－	未研磨、擦り切り線刻、穿孔なし
924	臼玉未製品	SD14	[7.0]	[3.6]	2.1～2.2	－	未研磨、擦り切り線刻、穿孔なし
925	臼玉未製品	SD14	[5.6]	[6.2]	2.5	－	未研磨、擦り切り線刻、穿孔なし

番号	種　類	出土位置	法量（cm・g）				備　考
			長さ	幅	厚さ	重量	
926	子持勾玉	SD14	11.1	5.9	2.4	115	孔径4mm
927	子持勾玉	SD14	[8.1]	5.7	3.6	127	孔径3mm
928	子持勾玉	SX15	9.0	5.1	2.1	75	孔径2mm
929	子持勾玉	SX15	7.1	4.1	2.1	49	孔径3mm
930	子持勾玉	SX15	7.0	4.6	1.4	43	
931	紡錘車	SC26	[4.2]	4.8	1.3	33	孔径10mm、表面に擦痕多
932	紡錘車	SC30	4.4	[2.4]	1.0	17	孔径8mm
933	紡錘車	SC41	4.3	4.7	0.8	25	孔径9mm
934	紡錘車	SD14	5.3	[4.9]	1.4	45	孔径6～8mm、3ヶ所に線刻あり
935	紡錘車	SD14	4.3	4.3	1.1	37	孔径8mm
936	紡錘車	SD14	4.9	4.7	0.9	37	孔径5～10mm
937	紡錘車	SD14	4.6	4.6	1.2	38	孔径8mm
938	紡錘車	SX15	4.8	4.8	1.0	35	孔径7～9mm、表裏面に擦痕多
939	紡錘車	1面下	4.3	4.3	1.0	27	孔径9mm、表面に擦痕多
940	紡錘車未製品	SD14	5.8	[4.8]	1.7	70	打割面残る
941	紡錘車未製品	SX15	5.1	5.0	1.0	39	
942	有孔円盤	SD14	4.8	[2.9]	0.35	9	孔径2mm
943	有孔円盤	SX15	3.2	2.7	0.5～0.6	10	孔径6～7mm
944	有孔円盤	SX15	2.8	[2.5]	0.5	5	孔径2mm
945	滑石製品	SD14	5.4	4.6	0.8	28	片面にキズ多
946	滑石製品	SD14	6.0	4.4	0.7	31	片面にキズ多

滑石製品は臼玉、子持勾玉、紡錘車、有孔円盤などが出土した。紡錘車を除き、ミニチュア土器とともに祭祀品と考えられるが、SD14、SX15からの出土が多く、両遺構が祭祀の場として位置づけられていたことは間違いなかろう。

臼玉は8点確認したが、その大きさから、それ以外に多数あったことは間違いない。臼玉の未製品は17点図示した。すべてFig.92・93で位置を示したSD14の「東ベルト北岸」の5層出土である。掘削時に滑石の原石や剥片が集中したので取り上げていたが、よく見ると微細な剥片も多数混じっていることがわかり、土ごと取り上げ、ふるいにかけて発見したものである。穿孔時に破損したものが多い。原石・剥片はここから8.5kg出土している。うち、最大のものは2.9kgを測る。隣接する「東区東北岸」では2.2kg、対岸の「東区西南岸」では1.3kgが出土しており、滑石製品の製作をおこなっていたことがわかる。しかし、まだ利用できる大きな原石・剥片を残したまま放棄しており謎が残る。

子持勾玉はSD14から2点、SX15から3点出土した。929以外は出土ポイントを押さえることができた（Fig.121・122、Ph.101・102）。926は最大のもので、扁平な親勾玉の体部に腹部1点、背部2点、両側面に各2点の子勾玉を削り出す。927は尾部を欠損するが厚みがあり、重量最大である。欠損する尾部は再加工が施されている。復元すると腹部に1点、背部に3点、両側面に各2点の子勾玉をもつ。928は扁平でやや小ぶりであるが、最大数の子勾玉をつける。復元すると腹部に1点、背部に4点、

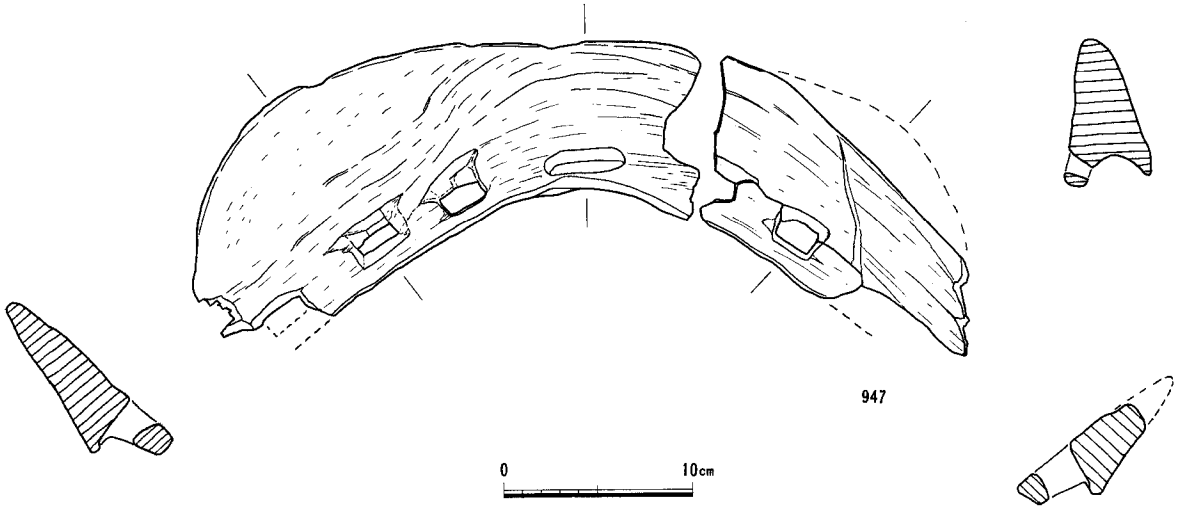


Fig.134　木製品遺物実測図（1／4）

Tab.40　木製品遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法　量　(cm) 長さ	幅	厚さ		備　考
947	鞍	SD14	(41.3)	(17.0)	4.6		

両側面に3点の合計11点になる。929は最小のもので、親勾玉の体部は扁平である。腹部に1点、背部に2点、両側面に各2点の子勾玉を削り出す。背部の2点の子勾玉は分化していない。930はほかの子持勾玉と異なり、側面に子勾玉を持たない板状の体部をもつ。頭部を欠損している。背部の子勾玉は勾玉というより、刻みを入れたような形である。側面には未貫通の小さな穿孔を多数おこなっている。

紡錘車は製品9点、未製品2点が出土した。断面台形のものが多いが、長方形のもの（931）、三角形のもの（934）もある。934は3方向に線刻がみられる。938は上部に段をつけ小円盤をつくりだす。

有孔円盤はSD14から1点、SX15から 2点出土した。いずれも単孔である。943は方形を呈する。他の2点にくらべ、孔径が大きい。

945・946は扁平な滑石の片面に線刻が多数みられるものである。用途不明。

木製品はSD14から少量出土している。その他の木はほとんどが流木であった。

947は鞍である。3片に割れて出土し、2点は接合した。残り1点も同一個体と考えられる。Fig.134に示すように幅42cm、高さ17cm程度に復元した。断面は二等辺三角形をなし、底部は抉りをを入れている。居木を固定するための方形の小孔が3ヶ所ずつ開けられている。一番外側の孔は貫通させているが、内側の孔は抉りの部分で止まっている。中央には楕円の穿孔がなされている。5世紀末の所産と考えられ、国内でも古い出土例となろう。

Ph.95で示した木器は作業台か。一木で、復元すると38cm四方の板に長さ12cm、幅5cmの取っ手？が付いている。板の厚さは2.8cmである。

A－1区遺構外出土の遺物をFig.135・136とTab.41に示す。このうちBトレンチ出土のものはSX15に帰属すると考えられる。968は土製の匙である。手づくねで成形している。987は黒曜石製の石鏃である。Lトレンチの黒色粘土層から出土した。小形の凹基式鏃である。つくりが雑で素材剥離面を大きく残す。縄文時代後・晩期の所産と考えられ、堆積層の形成時期を示すものとして重要である。

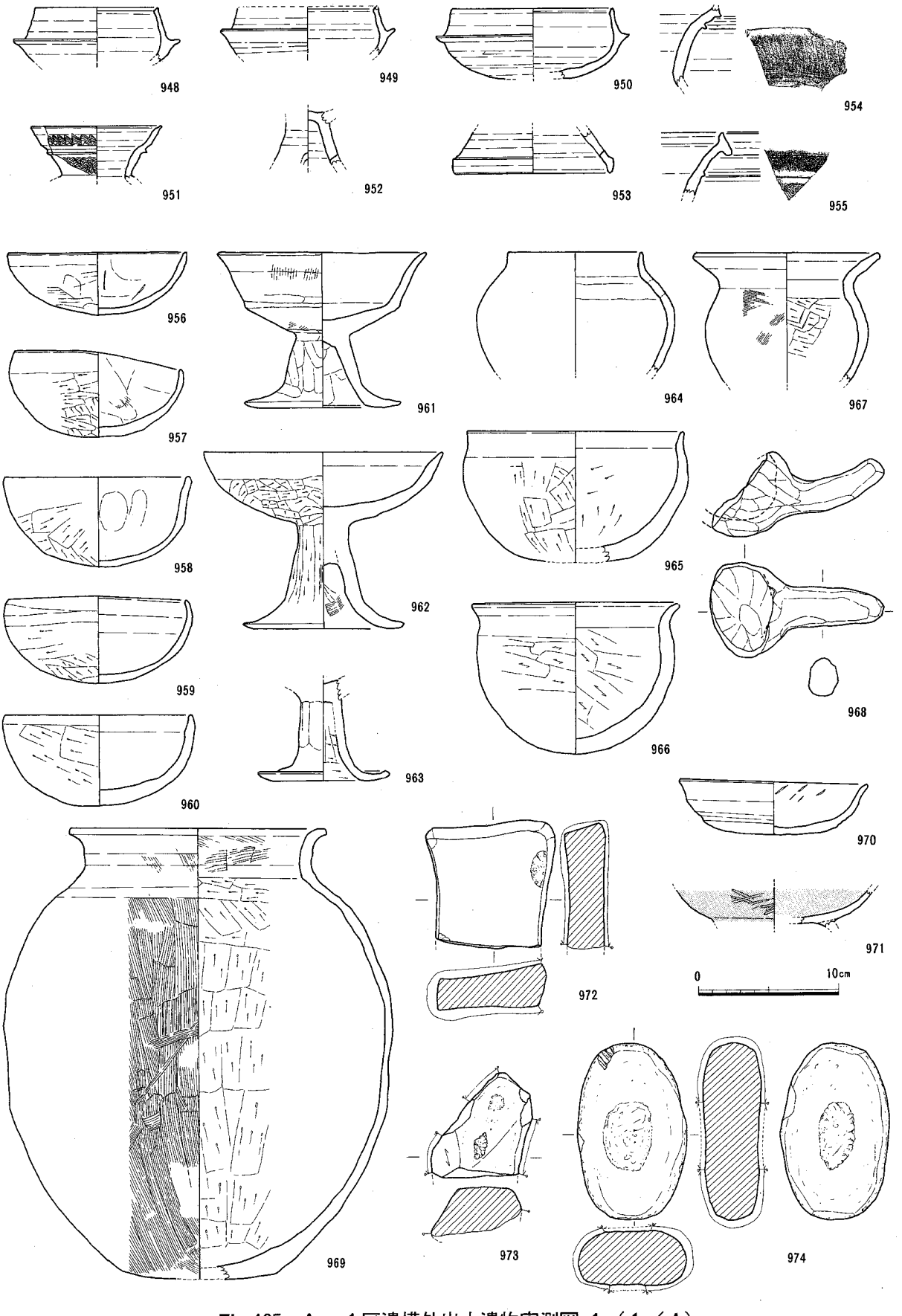


Fig.135　A－1区遺構外出土遺物実測図 1（1／4）

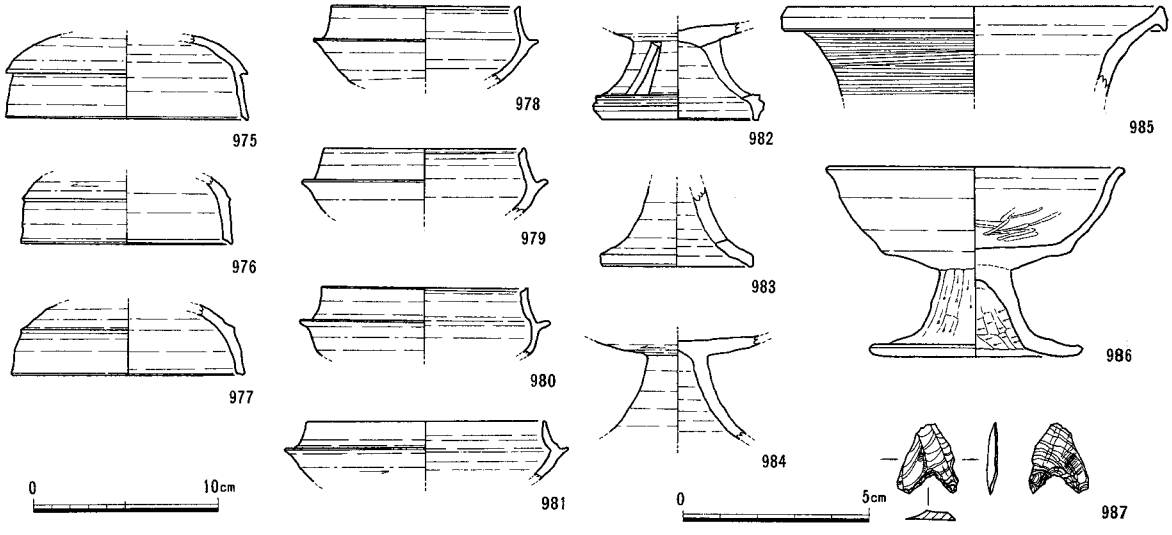


Fig.136　A－1区遺構外出土遺物実測図 2（1／2・1／4）

Tab.41　A－1区遺構外出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
948	須恵器・坏身	3面	(8.7)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰色	良好	
949	須恵器・坏身	2面南側	(10.0)	－	－	[3.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰色	良好	
950	須恵器・坏身	3面	11.5	－	－	[5.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰色	良好	Ⅰ－5？
951	須恵器・甕	3面	(9.3)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	青灰～暗灰色／暗灰色	良好	
952	須恵器・高坏	2面	－	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ	灰～暗灰色	良好	円形穿孔あり
953	須恵器・高坏	2面南側	－	－	(11.5)	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰色／灰～暗灰色	良好	
954	須恵器・甕	2面	－	－	－	[5.6]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	紫灰色	良好	
955	須恵器・甕	2面	－	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	暗灰～灰色／黒灰色	良好	
956	土師器・椀	2面下	(12.8)	－	－	4.4	ナデ、板ナデ／ハケ、ナデ	浅橙～橙色／橙色	やや良好	
957	土師器・椀	2面下	(12.1)	－	－	6.1	ナデ、ハケ？／ケズリ	浅橙～橙色	良好	
958	土師器・椀	3面	13.2	－	－	6.4	指押え／ケズリ	淡褐色	良好	
959	土師器・椀	3面北側	(12.6)	－	－	6.3	ナデ／ケズリ、ナデ	淡橙灰色	良好	
960	土師器・椀	3面	13.2	－	－	6.5	摩滅／ケズリ	淡赤褐色	良好	
961	土師器・高坏	2面下	(14.9)	－	(11.2)	11.1	坏部ナデ、脚部ケズリ・ナデ／坏部ハケ・ナデ、脚部ナデ	浅橙～橙色	良好	
962	土師器・高坏	3面	(17.0)	－	11.6	12.6	坏部摩滅、脚部ハケ／ケズリ	淡黄白色	不良	
963	土師器・高坏	3面	－	－	9.4	[7.2]	ケズリ／ケズリ	明橙色	不良	
964	土師器・壺	3面	(9.4)	－	－	[8.8]	摩滅／摩滅	淡橙褐色	やや良好	
965	土師器・鉢	2面下	(15.4)	－	－	[9.4]	ケズリ／ケズリ	赤褐色	良好	
966	土師器・鉢	2面	(14.8)	－	－	5.8	板ナデ／板ナデ	淡褐灰色／淡橙灰色	良好	
967	土師器・甕	3面東側	(13.3)	－	－	[9.2]	頸部ナデ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	淡茶褐色／淡褐灰色	良好	
968	土製匙	3面	－	－	－	－	ナデ	淡褐色	やや良好	
969	土師器・甕	2面	(18.2)	27.6	－	[32.2]	ケズリ／ハケ	淡黄灰～黄褐色／淡黄灰～淡茶褐色	良好	
970	土師器・坏	1面下	13.4	－	9.5	3.7	ミガキ／回転ナデ	黄白	良好	ヘラ切り、11C初前後？
971	黒色土器B・椀	2面	－	－	－	[2.8]	ミガキ／ミガキ	黒褐色	良好	板状圧痕
975	須恵器・坏蓋	撹乱	(13.0)	－	－	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰色／暗灰～黒灰色	良好	Ⅰ－3？
976	須恵器・坏蓋	排土	(11.4)	－	－	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰色／灰～暗灰色	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
977	須恵器・坏蓋	排土	(12.5)	－	－	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰褐色／灰色	良好	Ⅰ－3？
978	須恵器・坏身	Bトレンチ	(10.2)	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰色	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
979	須恵器・坏身	撹乱	(10.8)	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰色	良好	Ⅰ－4～Ⅰ－5
980	須恵器・坏身	撹乱	(11.1)	－	－	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰色	良好	Ⅰ－3～Ⅰ－4
981	須恵器・坏身	Bトレンチ	(12.9)	－	－	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	紫灰色／暗灰～紫灰色	良好	Ⅱ－2
982	須恵器・高坏	Bトレンチ	－	－	9.2	[5.1]	回転ナデ／坏部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ	紫灰色／灰色	良好	3方透かし、Ⅰ－3～Ⅰ－4
983	須恵器・高坏	排土	－	－	(9.2)	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ	黒灰／暗灰	良好	
984	須恵器・高坏	Bトレンチ	－	－	－	[5.5]	坏部回転ナデ、回転ナデ／坏部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ	淡灰	やや不良	
985	須恵器・甕	排土	(20.5)	－	－	[4.8]	回転ナデ／回転ナデ、カキ目	淡灰	良好	
986	土師器・高坏	Bトレンチ	(16.0)	－	(11.4)	10.1	坏部ミガキ、脚部ケズリ／坏部回転ナデ、脚部ケズリ	淡橙	良好	

番号	種類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
972	砥石	3面	[9.2]	9.2	3.3	408	砂岩、6面使用
973	砥石	1面下	[7.5]	7.1	[3.5]	175	砂岩、4面使用、敲打痕？
974	磨石	3面	12.6	7.8	4.1	704	玄武岩、磨石、6面使用
987	石鏃	Lトレンチ	1.9	1.7	0.25	0.6	黒曜石、凹基式、縄文後晩期

(3) A－2区

A－2区は2次調査地点に近く、試掘でも濃密な遺構分布と多くの出土遺物が確認されていた。遺構面は1面で、北側が白色のかたく締まった粗砂層、南側が黄褐色のシルト層で遺構を検出した。調査面積は遺構面で825㎡を測る。

掘立柱建物3棟、溝12条、土坑11基、ピット多数を検出した。時期は9～10世紀を中心に12世紀までの遺構群である。柱穴は北側の粗砂層の地域に多く、南側までは伸びない。SD115からはまとまった量の遺物が出土した。

Ph.105　A－2区全景（上が北東）

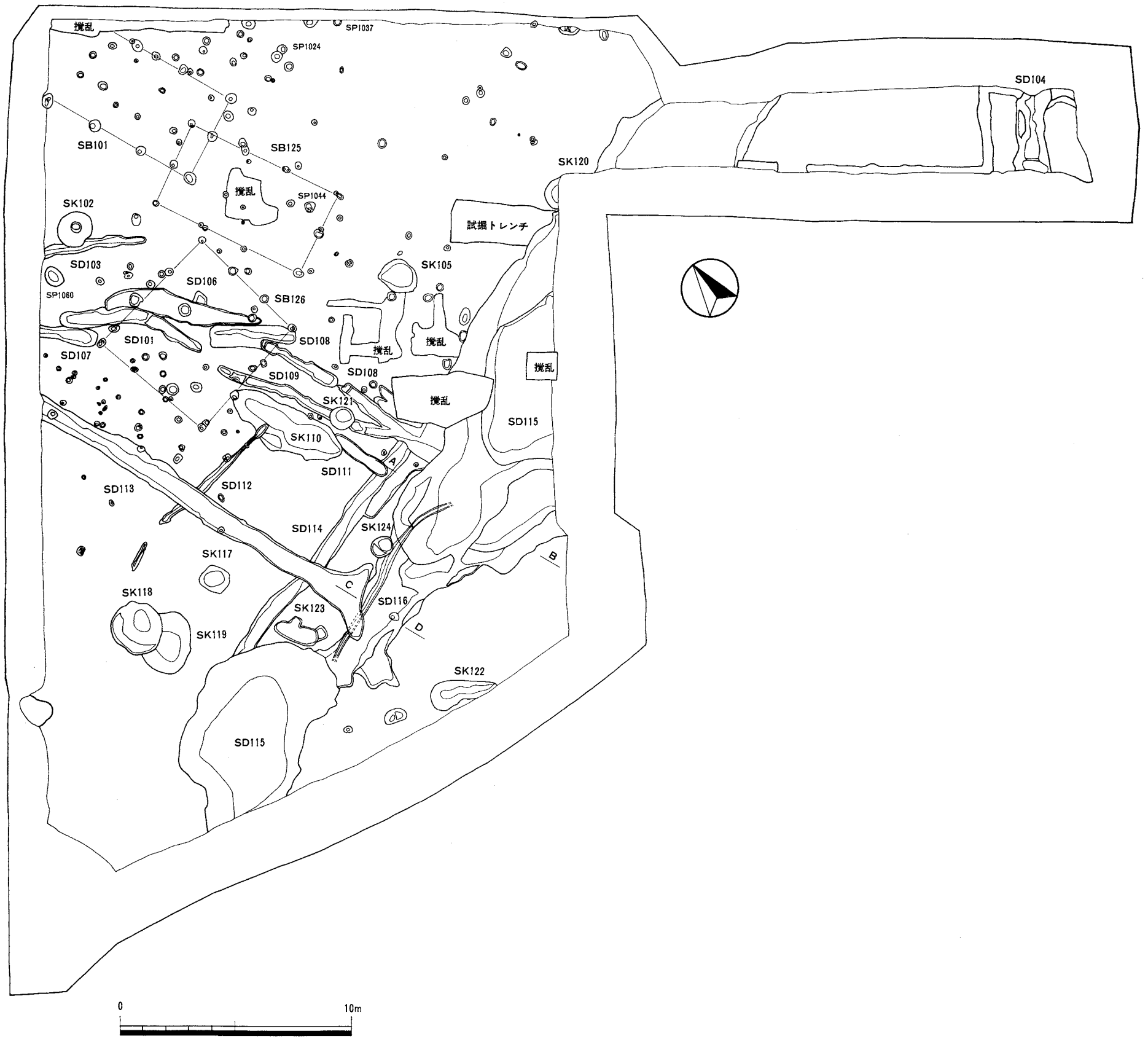


Fig.137　A－2区全体図（1／200）

SB101（Fig.138・139、Ph.106、Tab.42）

調査区北寄りで検出した掘立柱建物である。南北は西側で3間分、東西は南側で2間分確認された。北側は発掘区外に伸びると考えられる。SB125と重複している。建物規模は南北3間分で7.0m、東西は3.9mである。柱穴の堀方は径40～60cmの円形である。

土師器の甕988がSP1006より出土しており、古代の建物と考えられる。

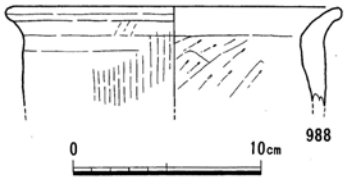
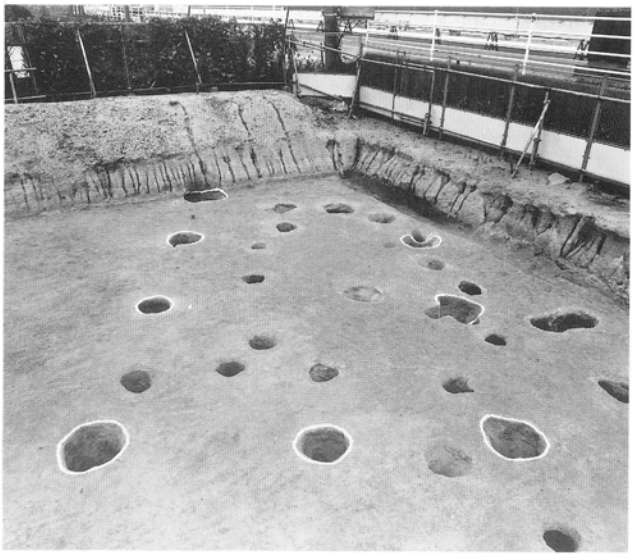


Fig.138　SB101出土遺物実測図（1／4）



Ph.106　SB101（南から）

Tab.42　SB101出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
988	土師器・甕	SP1006	(17.8)	－	－	[3.9]	ケズリ／ハケ	橙～黄橙	やや良好	

SB125（Fig.139、Ph.107）

調査区北寄りで検出した南北3間、東西2間の掘立柱建物である。SB101と重複している。建物規模は南北7.0m、東西は3.9mである。柱穴の堀方は径20～40cmの円形である。規模、柱間はSB101とほぼ同規模であるが、柱穴の堀方は小さい。時期のわかる遺物は出土しなかったが、SB101と同様古代の建物と考えられる。

SB126（Fig.140、Ph.108）

調査区中央部北寄りで検出した掘立柱建物である。南北3間、東西3間確認された。ややいびつである。建物規模は南北5.4～5.6m、東西は5.8～6.3mである。柱穴の堀方は径20～50cmの円形である。

Ph.107　SB125（南から）

Ph.108　SB126（西から）

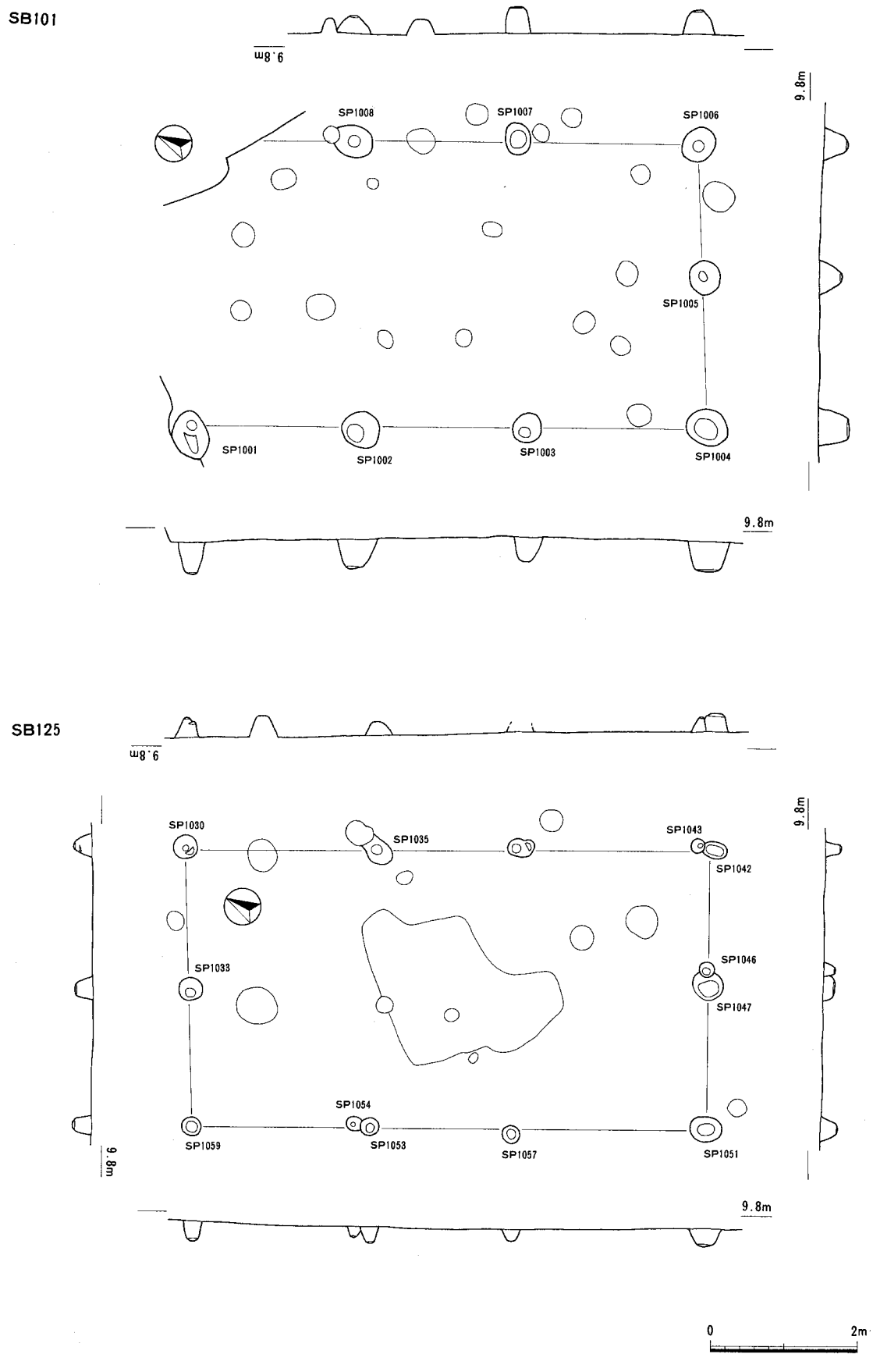


Fig.139　SB101・125実測図（1／80）

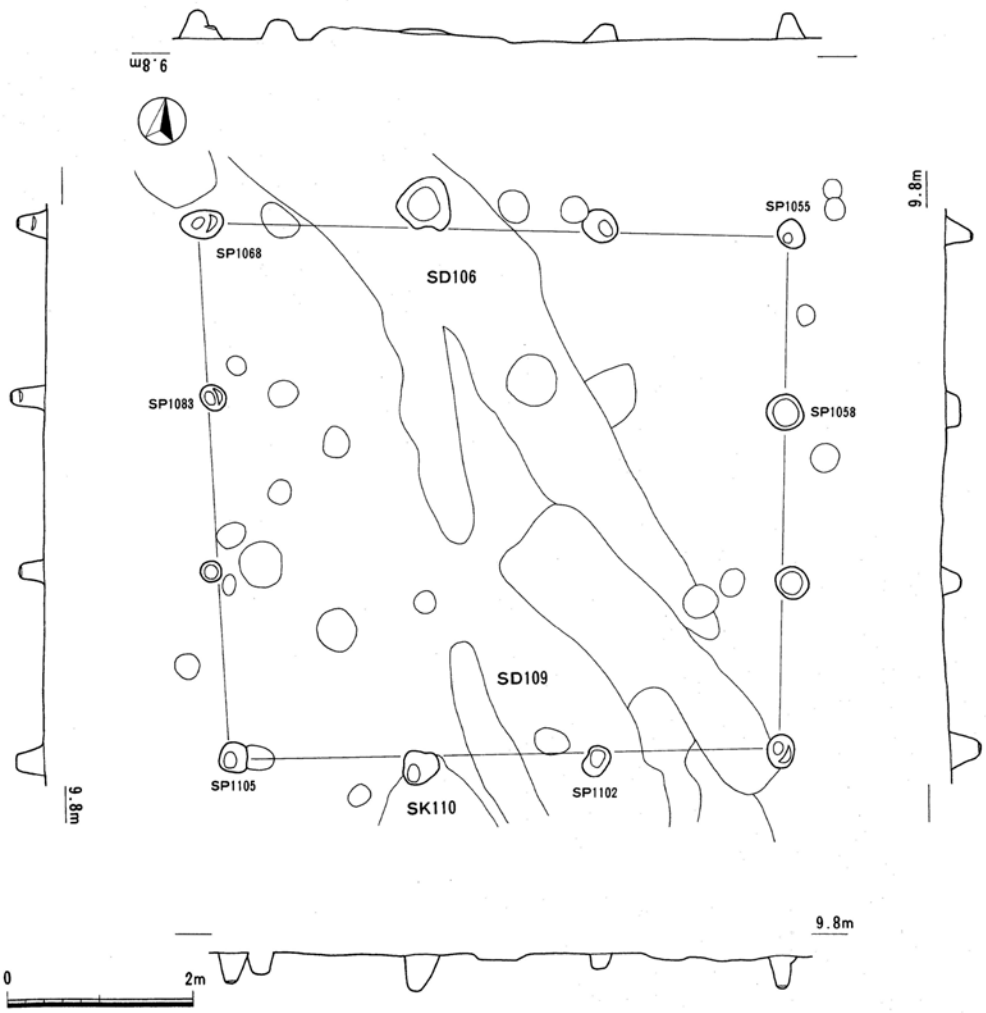


Fig.140　SB126実測図（1／80）

SD115（Fig.141～145、Ph.109・110、Tab.43）

調査区南寄りで検出した東西方向の溝である。幅は広くなったり狭くなったりで一定しない。広いところで6m、狭いところで1.5m、深さも一定せず、深いところは120cm、浅いところは20cmである。西側と中央あたりで深くなっている。東西とも発掘区外に伸びる。西側はA－1区では検出されてい

Ph.109　SD115（西から）

Ph.110　SD115Ⅳ区遺物出土状況（南から）

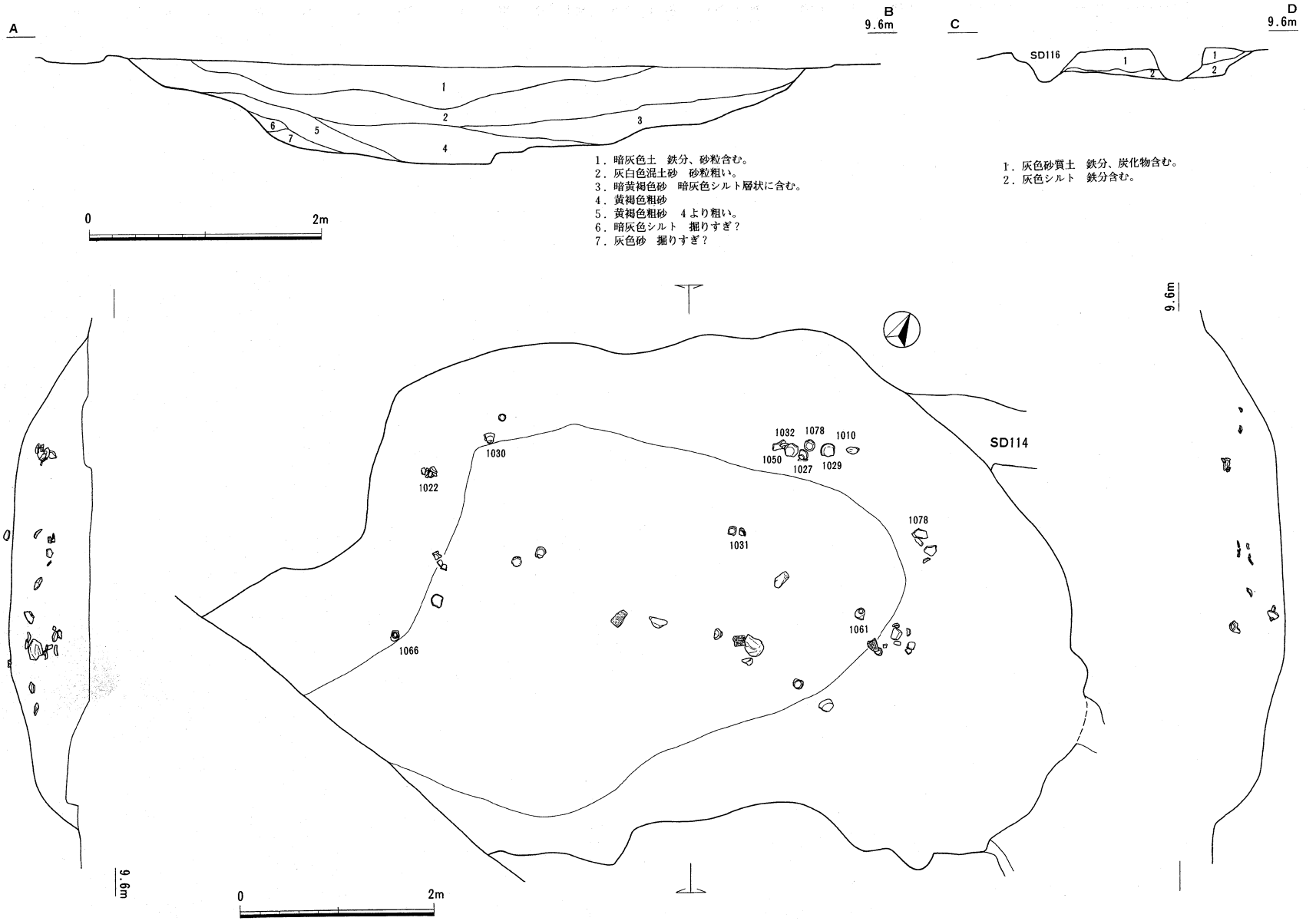


Fig.141　SD115土層図・実測図（1／50・ 1／60）

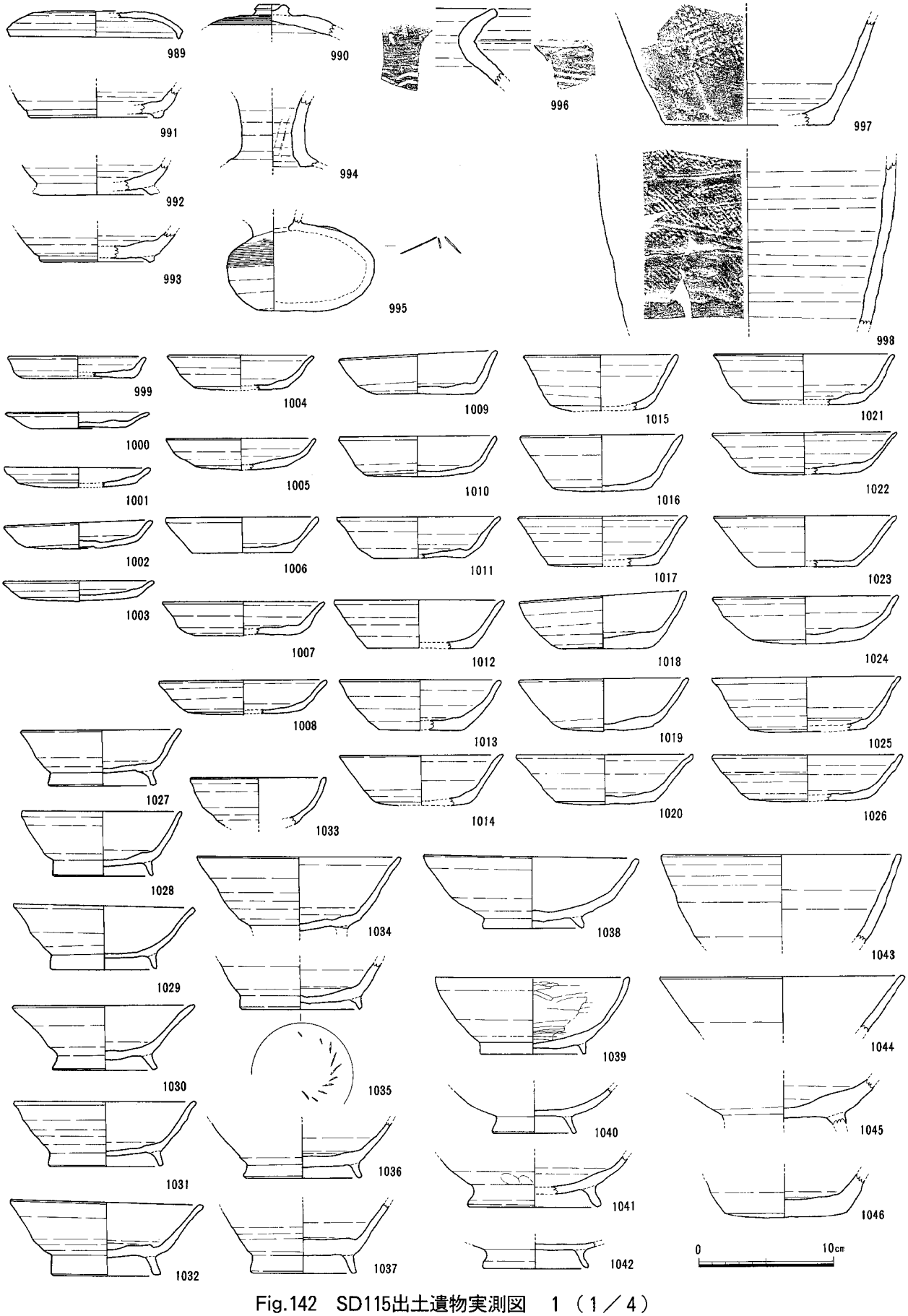


Fig.142　SD115出土遺物実測図　1（1／4）

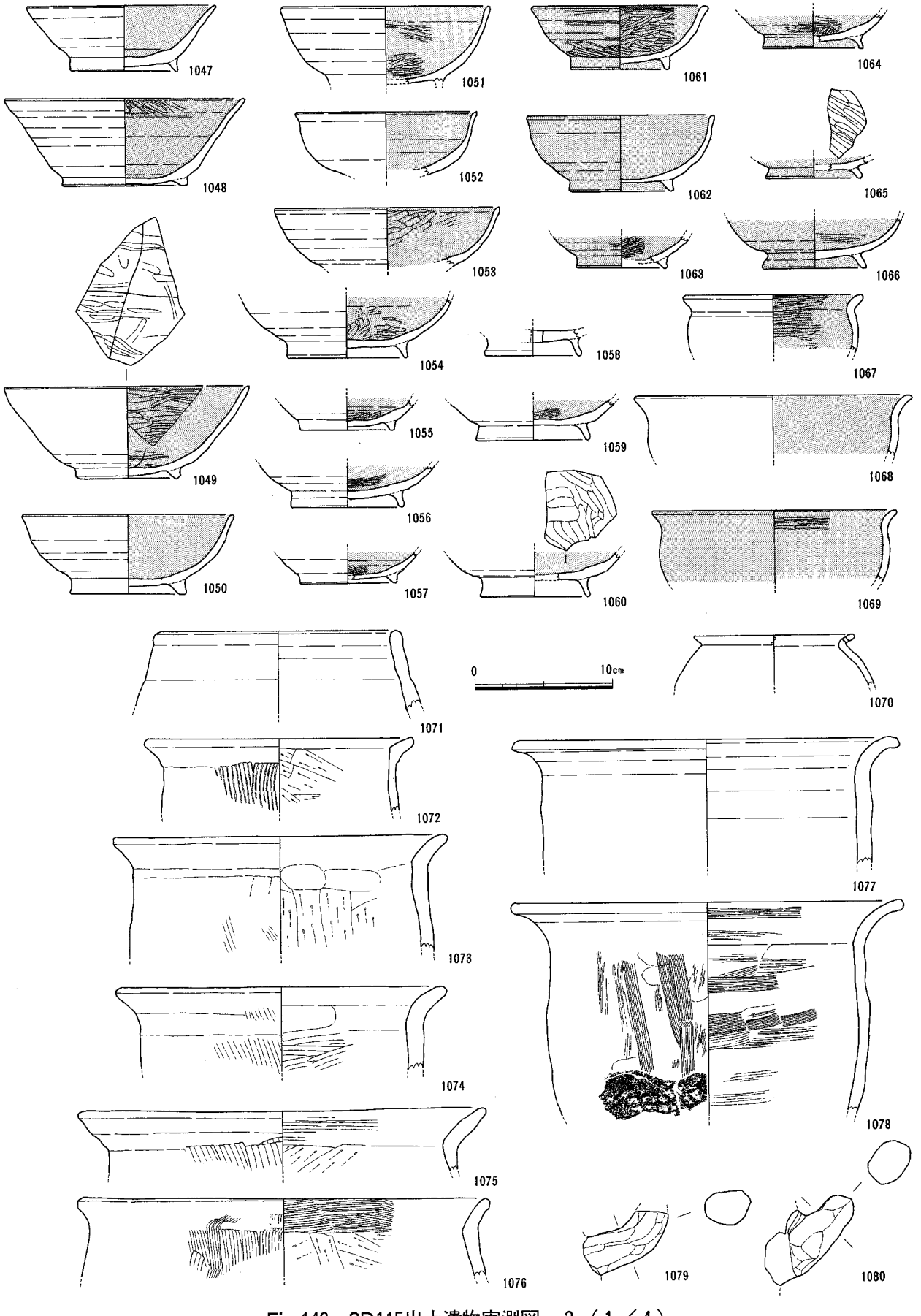


Fig.143　SD115出土遺物実測図　2（1／4）

Tab.43　SD115出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
989	須恵器・坏蓋		(12.4)	－	－	2.0	回転ナデ／回転ナデ	青灰	良好	ヘラ切り未調整
990	須恵器・蓋	Ⅰ区上層	－	－	－	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ、カキ目	淡青灰	良好	
991	須恵器・高台付坏	Ⅰ区上層	－	－	(9.8)	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	
992	須恵器・高台付坏	Ⅳ区上層	－	－	(8.5)	[2.3]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰	良好	
993	須恵器・高台付坏	Ⅲ区上層	－	－	(9.3)	[2.3]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰	良好	板状痕
994	須恵器・長頸壺	Ⅳ区上層	－	－	－	[5.1]	回転ナデ／回転ナデ	明褐灰	良好	
995	須恵器・平瓶	Ⅰ区	－	11.0	－	[7.0]	／回転ナデ、回転ヘラケズリ、肩部カキ目	淡黄白	不良	ヘラ切り、ヘラ記号(肩部)
996	須恵器・壺	Ⅰ区上層	－	－	－	[5.7]	当て具痕／タタキ	淡褐灰～暗灰	良好	
997	須恵器・鉢	Ⅱ区上層	－	－	(12.8)	[7.8]	回転ナデ／タタキ、ナデ、底部ケズリ	灰	やや不良	
998	須恵器・鉢	Ⅳ区上層	－	－	－	[12.1]	回転ナデ／タタキ、ナデ	灰	良好	
999	土師器・小皿	Ⅳ区上層	(10.0)	－	(8.5)	1.6	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り
1000	土師器・小皿	Ⅱ区上層	(10.4)	－	(6.6)	1.2	回転ナデ／回転ナデ	淡橙	良好	ヘラ切り
1001	土師器・小皿	Ⅱ区下層	(10.6)	－	(8.6)	1.4	回転ナデ／回転ナデ	灰褐	良好	ヘラ切り
1002	土師器・小皿	Ⅲ区上層	10.8	－	8.2	1.9	回転ナデ／回転ナデ	灰白	良好	ヘラ切り、板状痕
1003	土師器・小皿	Ⅳ区上層	(11.0)	－	(8.6)	1.4	回転ナデ／回転ナデ	黄白	良好	ヘラ切り
1004	土師器・坏	Ⅳ区上層	(11.0)	－	(6.8)	2.5	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	黄橙～橙	良好	ヘラ切り
1005	土師器・坏	Ⅳ区上層	(11.1)	－	(6.8)	2.3	回転ナデ／回転ナデ	橙灰	良好	ヘラ切り
1006	土師器・坏	Ⅲ区下層	(11.2)	－	(7.4)	2.6	回転ナデ／回転ナデ	淡橙	不良	ヘラ切り
1007	土師器・坏	Ⅳ区下層	(12.0)	－	(8.2)	2.5	回転ナデ／回転ナデ	黄灰～灰	良好	ヘラ切り
1008	土師器・坏	Ⅳ区下層	(12.4)	－	(8.2)	2.4	回転ナデ／回転ナデ	黄橙～黄灰／黄橙	良好	ヘラ切り
1009	土師器・坏	Ⅳ区下層	11.6	－	7.3	2.9	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	ヘラ切り、油煙付着
1010	土師器・坏	Ⅳ区	11.6	－	7.8	3.0	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り
1011	土師器・坏	Ⅱ区下層	(12.0)	－	(6.6)	3.0	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1012	土師器・坏	Ⅱ区下層	(12.4)	－	(7.8)	3.5	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	やや良好	ヘラ切り
1013	土師器・坏	Ⅱ区下層	(11.8)	－	(6.2)	3.6	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り
1014	土師器・坏	Ⅱ区下層	12.0	－	7.0	[3.8]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡橙	良好	ヘラ切り
1015	土師器・坏	Ⅱ区	11.4	－	(7.1)	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰白	やや不良	ヘラ切り
1016	土師器・坏	Ⅱ区下層	(12.0)	－	(7.4)	4.1	回転ナデ／回転ナデ	淡橙	やや良好	ヘラ切り
1017	土師器・坏	Ⅱ区下層	(12.6)	－	(8.2)	3.7	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	やや良好	ヘラ切り
1018	土師器・坏	Ⅱ区	12.4	－	7.0	3.8	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1019	土師器・坏	Ⅱ区下層	12.6	－	6.7	3.7	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り
1020	土師器・坏	Ⅱ区	(13.0)	－	(7.2)	3.7	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り
1021	土師器・坏	Ⅳ区下層	(13.4)	－	(9.0)	3.7	回転ナデ／回転ナデ	黄橙	良好	ヘラ切り
1022	土師器・坏	Ⅳ区	(13.7)	－	(7.9)	3.1	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1023	土師器・坏	Ⅲ区下層	(13.6)	－	(7.4)	3.7	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1024	土師器・坏	Ⅱ区下層	(13.8)	－	(7.9)	3.5	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り
1025	土師器・坏	Ⅱ区下層	(14.0)	－	(8.6)	4.0	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り
1026	土師器・坏	Ⅱ区下層	(14.2)	－	(8.6)	3.4	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り？
1027	土師器・椀	Ⅳ区	(11.6)	－	(7.8)	4.1	回転ナデ／回転ナデ	灰白	良好	
1028	土師器・椀	Ⅳ区下層	(11.6)	－	(7.4)	4.8	回転ナデ／回転ナデ	淡橙	やや不良	ヘラ切り
1029	土師器・椀	Ⅳ区	13.2	－	7.8	4.6	回転ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	ヘラ切り、板状痕
1030	土師器・椀	Ⅳ区	(13.2)	－	(7.6)	4.7	摩滅／摩滅	淡橙	良好	ヘラ切り、板状痕
1031	土師器・椀	Ⅳ区	(13.2)	－	(8.4)	4.8	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1032	土師器・椀	Ⅱ区	14.1	－	8.0	5.4	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1033	土師器・椀	Ⅱ区下層	(10.0)	－	－	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	
1034	土師器・椀	Ⅳ区下層	(15.0)	－	－	[5.3]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	褐	良好	
1035	土師器・椀	Ⅳ区下層	－	－	9.0	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、外底板ナデ	灰白	良好	ヘラ切り

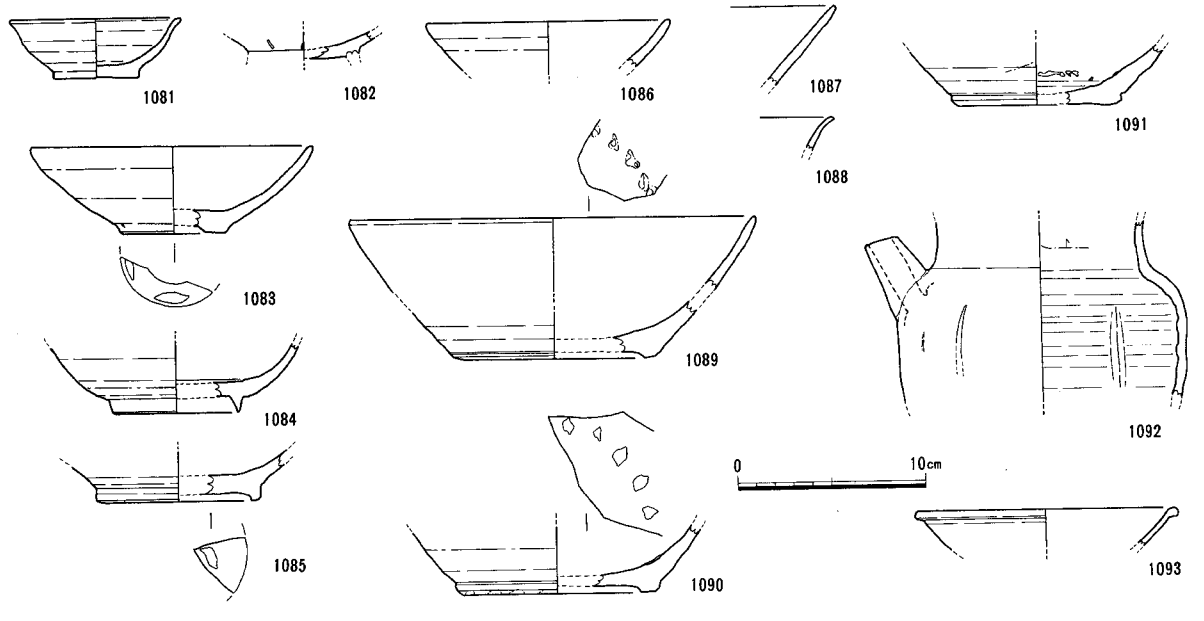


Fig.144　SD115出土遺物実測図　3（1／4）

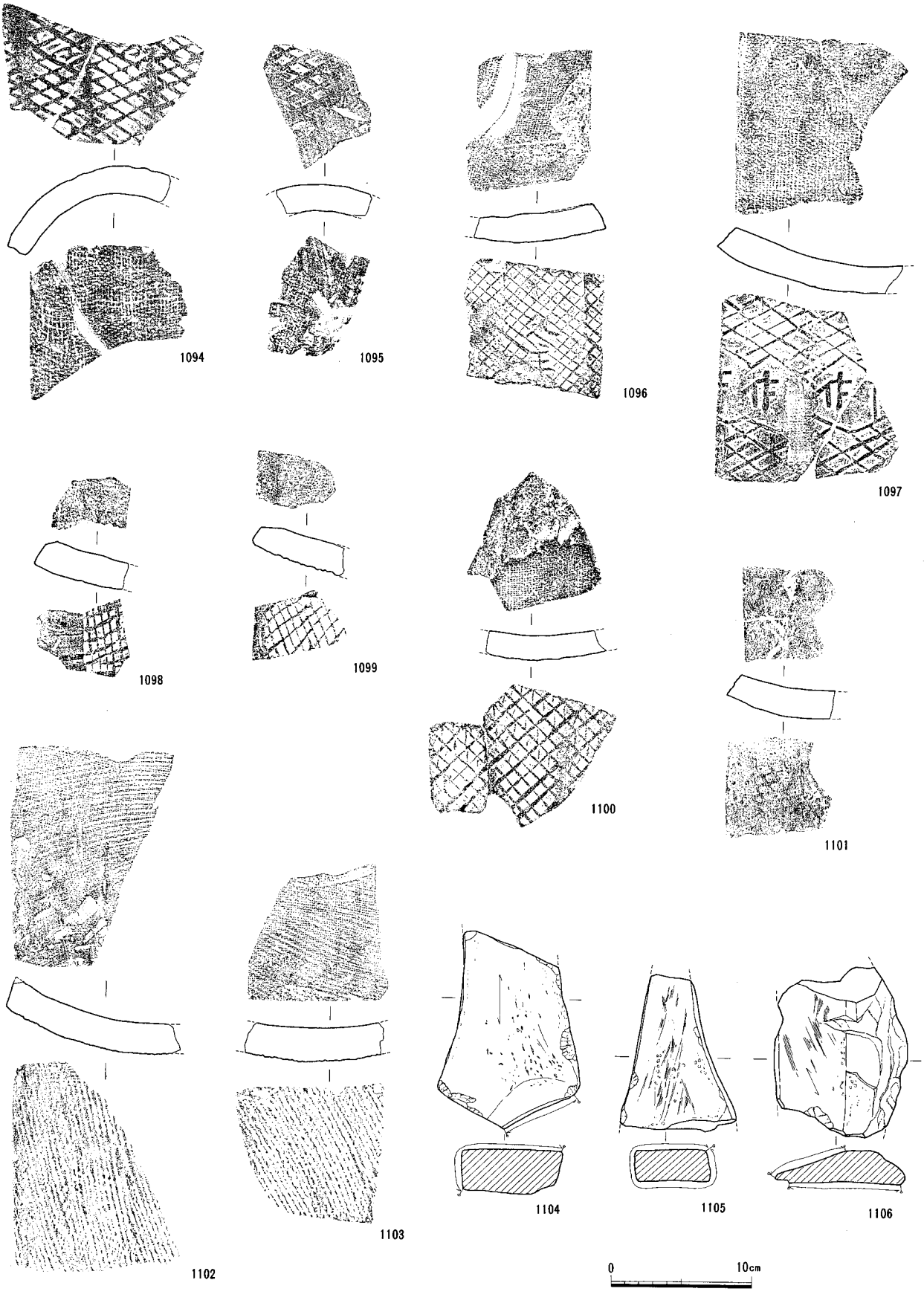


Fig.145　SD115出土遺物実測図　4（1／4）

番号	種類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1036	土師器・椀	Ⅲ区下層	—	—	(8.6)	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ	橙褐	良好	ヘラ切り
1037	土師器・椀	Ⅱ区	—	—	(7.8)	[5.2]	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1038	土師器・椀	Ⅳ区上層	15.8	—	7.5	5.3	回転ナデ／回転ナデ	淡赤褐	良好	ヘラ切り
1039	土師器・椀	Ⅳ区下層	(14.2)	—	(7.8)	5.6	ミガキ／回転ナデ	淡灰白	良好	
1040	土師器・椀	Ⅱ区上層	—	—	(6.2)	[3.2]	摩滅／摩滅	淡褐	やや良好	
1041	土師器・椀	Ⅳ区下層	—	—	(9.8)	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、指押え	黄灰	やや良好	
1042	土師器・椀	Ⅱ区下層	—	—	(7.8)	[2.0]	摩滅／摩滅	黄白	不良	
1043	土師器・椀	Ⅱ区下層	(19.8)	—	—	[6.6]	回転ナデ／回転ナデ	淡黄橙	良好	
1044	土師器・椀	Ⅲ区下層	(18.2)	—	—	[4.2]	摩滅／摩滅	明橙	やや不良	
1045	土師器・大椀	Ⅱ区下層	—	—	—	[3.4]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡褐	良好	ヘラ切り
1046	土師器・鉢	Ⅲ区下層	—	—	(9.0)	[3.2]	摩滅／摩滅、外底ナデ？	淡橙	やや不良	
1047	黒色土器A・椀	Ⅲ区下層	13.6	—	7.8	4.8	ミガキ／回転ナデ	黒／灰褐	良好	ヘラ切り
1048	黒色土器A・椀	Ⅱ区最下	(17.4)	—	(9.0)	6.3	ミガキ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒／褐	良好	
1049	黒色土器A・椀	Ⅱ区下層	(17.8)	—	(7.6)	6.7	ミガキ／回転ナデ	黒／淡赤褐	良好	ヘラ切り、板状痕、内底ヘラ記号？
1050	黒色土器A・椀	Ⅳ区	(15.2)	—	(8.2)	5.8	ミガキ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒／淡赤褐	良好	畳付に板状痕
1051	黒色土器A・椀	Ⅳ区上層	(15.2)	—	—	[5.5]	ミガキ／回転ナデ	黒／黄橙～灰黄	良好	
1052	黒色土器A・椀	Ⅳ区上層	(13.1)	—	—	[4.6]	ミガキ／回転ナデ	褐灰／灰白～黄橙	やや良好	
1053	黒色土器A・椀	Ⅳ区下層	(16.4)	—	—	[4.4]	ミガキ／回転ナデ	黒／黄橙	良好	
1054	黒色土器A・椀	Ⅳ区下層	—	—	8.8	[4.5]	ミガキ／回転ナデ	黒／黄橙	良好	
1055	黒色土器A・椀	Ⅳ区下層	—	—	6.9	[2.3]	ミガキ／回転ナデ	黒／黄橙	良好	
1056	黒色土器A・椀	Ⅳ区下層	—	—	8.3	[3.1]	ミガキ／回転ナデ	灰褐～黒／黄橙	良好	
1057	黒色土器A・椀	Ⅳ区上層	—	—	(7.0)	[2.3]	ミガキ／回転ナデ	黒～褐灰／黄橙	良好	
1058	黒色土器A・椀	Ⅱ区上層	—	—	(7.0)	[2.0]	摩滅	黒／淡橙	やや不良	底部穿孔
1059	黒色土器A・椀	Ⅳ区上層	—	—	(8.2)	[2.9]	ミガキ／回転ナデ	黒～褐灰／橙	良好	
1060	黒色土器A・椀	Ⅱ区下層	—	—	(8.0)	[3.2]	ミガキ／摩滅	黒／淡褐	やや良好	
1061	黒色土器B・椀	Ⅳ区	(12.8)	—	(7.2)	4.6	ミガキ／ミガキ	黒	良好	ヘラ切り
1062	黒色土器B・椀	Ⅳ区	(13.6)	—	(7.6)	5.5	摩滅／摩滅	黒	やや不良	
1063	黒色土器B・椀	Ⅳ区下層	—	—	(6.6)	[2.4]	ミガキ／ミガキ	黒／灰	良好	
1064	黒色土器B・椀	Ⅳ区下層	—	—	(7.3)	[2.6]	ミガキ／ミガキ	黒	良好	
1065	黒色土器B・椀	Ⅳ区	—	—	(7.0)	[1.8]	ミガキ／	黒	良好	
1066	黒色土器B・椀	Ⅳ区	—	—	(7.6)	[3.6]	ミガキ／摩滅	黒	良好	
1067	黒色土器A・鉢	Ⅳ区上層	(13.0)	—	—	[4.2]	ミガキ／回転ナデ	黒／橙～褐灰	良好	
1068	黒色土器A・鉢	Ⅱ区下層	(20.2)	—	—	[4.4]	ミガキ／回転ナデ	黒／淡赤褐	良好	
1069	黒色土器B・鉢	Ⅱ区下層	(17.8)	—	—	[5.4]	ミガキ／ミガキ	黒灰	良好	外面スス厚く付着
1070	土師器・壺	Ⅱ区最下	(11.6)	—	—	[3.6]	ナデ／摩滅	淡褐	良好	口縁部穿孔、古墳
1071	土師器・壺	Ⅳ区上層	(17.9)	—	—	[6.0]	回転ナデ／回転ナデ	黄橙～灰黄褐／黄橙	良好	
1072	土師器・甕	Ⅲ区下層	(19.6)	—	—	[5.4]	ケズリ／ハケ	淡橙	良好	
1073	土師器・甕	Ⅳ区上層	(24.3)	—	—	[8.6]	頸部ナデ・指押え、胴部ケズリ／ハケ	橙～浅橙／浅黄橙	良好	
1074	土師器・甕	Ⅳ区下層	(23.8)	—	—	[6.1]	頸部ナデ、胴部ハケ／ハケ	黄橙	良好	
1075	土師器・甕	Ⅳ区下層	(29.6)	—	—	[4.6]	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	黄橙～灰褐／黒	やや良好	
1076	土師器・甕	Ⅱ区最下	(29.8)	—	—	[6.0]	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ	暗褐	良好	
1077	土師器・甕	Ⅳ区上部	(28.2)	—	—	[9.2]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	
1078	土師器・甕	Ⅳ区	(28.6)	—	—	[15.6]	ハケ／ハケ、下部タタキ	赤褐	良好	外面スス付着
1079	土師器・把手	Ⅱ・Ⅲ区	—	—	—	—	ナデ	淡橙褐	良好	
1080	土師器・把手	Ⅱ区下層	—	—	—	—	ナデ	淡褐	良好	
1081	緑釉・小椀	Ⅳ区上層	(9.0)	—	(4.4)	3.2	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好、須恵質	糸切り、釉：淡緑不透明
1082	緑釉・皿	Ⅱ・Ⅲ区上部	—	—	—	[1.4]		灰	良好、須恵質	釉：淡緑不透明、タテ劃線
1083	越州窯系青磁・碗	Ⅱ区下層	(15.0)	—	(5.8)	4.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰褐	良好	釉：全釉、淡オリーブ透明、畳付目土
1084	越州窯系青磁・碗	Ⅱ区上層	—	—	(6.8)	[5.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	釉：全釉、オリーブ透明
1085	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区上層	—	—	(8.8)	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	釉：全釉、淡緑灰不透明、外底目土
1086	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区上層	(12.8)	—	—	[2.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰白	良好	釉：淡緑灰、半透明
1087	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区上層	—	—	—	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	釉：淡緑灰不透明
1088	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区上層	—	—	—	[1.8]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	釉：淡オリーブ透明
1089	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区下層	(21.6)	—	(10.8)	(7.6)	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	釉：全釉、淡青灰半透明、内底・畳付目土
1090	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区下層	—	—	(10.7)	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	釉：全釉、発色不良、内底・畳付目土
1091	越州窯系青磁・碗	Ⅳ区下層	—	—	(9.1)	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ、外底ナデ	淡紅灰	良好	釉：半釉、オリーブ透明、白化粧、内底目土
1092	褐釉陶器・水注	Ⅲ区上層	—	(15.4)	—	[10.0]	轆轤痕／回転ナデ	淡灰白、硬陶質	良好	釉：暗緑褐不透明、体部瓜割
1093	邢窯系白磁・碗	Ⅱ区上層	(14.0)	—	—	[2.0]	回転ナデ／回転ナデ	白、軟陶質	良好	釉：乳白半透明
1094	丸瓦	Ⅰ区上層	[11.1]	[12.0]	1.7		布目／格子目タタキ	淡灰黄	やや不良	
1095	丸瓦	Ⅱ区下層	[9.7]	[8.6]	1.9		布目／格子目タタキ	淡褐灰～淡灰	不良	
1096	平瓦	Ⅳ区	[10.4]	[10.2]	2.2		布目／格子目タタキ	灰褐～灰	やや不良	文字
1097	平瓦	Ⅳ区上層	[14.0]	[13.3]	2.05		布目／格子目タタキ	淡灰褐	やや不良	文字
1098	平瓦	Ⅰ区上層	[6.0]	[7.1]	2.2		布目／格子目タタキ	淡灰	良好	
1099	平瓦	Ⅱ区下層	[6.9]	[5.2]	2.2		布目／格子目タタキ	灰	良好	
1100	平瓦	Ⅱ区下層	[10.8]	[12.9]	1.8		布目／格子目タタキ	黒灰／淡褐灰	やや不良	
1101	平瓦	Ⅱ区下層	[7.5]	[7.8]	2.0		布目／格子目タタキ	青灰	良好	
1102	平瓦	Ⅱ区下層	[16.1]	[7.7]	2.2		布目／縄目タタキ	灰	良好	
1103	平瓦	Ⅳ区上層	[10.4]	[11.9]	2.45		布目／縄目タタキ	淡灰	良好	

番号	種類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
1104	砥石	Ⅱ区下層	[14.2]	10.0	3.2	526	砂岩、3面使用
1105	砥石	Ⅱ区下層	[11.2]	8.2	2.3	321	砂岩、4面使用、両側面と裏面に刺突痕あり？
1106	砥石	Ⅱ区最下	[12.2]	9.5	2.4	323	砂岩、2面使用

ない。あるいは2面の北隅で落ち込みがみられたが、これが南岸か。東寄りの発掘区壁に挟まれている部分をⅠ区、発掘区南東壁からセクションラインA－Bまでを Ⅱ区、セクションラインC－Dまでを Ⅲ区、発掘区南壁までをⅣ区とし、4分割して調査をおこなった。

Fig.141はⅣ区の土坑状の窪みの部分を示した。土師器椀や坏、黒色土器が集中して出土している。

出土遺物をFig.142～145、Tab.43に示す。須恵器、土師器、黒色土器、緑釉陶器、褐釉陶器の水注、越州窯系青磁、邢窯系白磁、瓦、砥石などが出土した。瓦には大宰府政庁などで出土する押打痕文字瓦がみられる（1096・1097）。時期は9世紀中頃～後半のものを中心に11世紀中頃のものまでみられる。Ⅳ区からは10世紀頃の遺物が多数出土した。

その他の遺構（Fig.146～148、Tab.44～47）

A－2区のその他の遺構の概要をTab.44に示し、出土遺物をFig.146～148とTab.45～47に示す。SD113は北へ延長するとC区2面のSD228へ接続し、何らかの区画を示す溝と考えられる。SK119からは緑釉陶器の破片が出土している。SP1060からは白磁碗のほか須恵器坏、土師器椀・坏、黒色土器椀が出土した。

Tab.44　その他のA－2区の遺構

遺構番号	種　類	遺　構　の　概　要	時　期
SK102	略円形土坑	調査区北寄りに位置する。長軸1.6m、短軸1.4m、中央部で径0.5mがピット状に深くなっている。SD103を切る。	
SD103	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.3～0.6m、深さ10～25cm。4.5m分確認した。西側は発掘区外に伸びる。SK102に切られる。	
SD104	東西溝	調査区東寄りに位置する。幅1.5m程掘ったが、掘りすぎている。発掘区北壁で確認した断面で幅0.8m、深さ25cm。3.5m分確認した。南北とも発掘区外に伸びる。	
SK105	楕円形土坑	調査区中央部に位置する。長軸1.7m、短軸1.3m、深さ0.3m。	
SD106	南北溝	調査区北寄りに位置する。2本の溝の重複と考えられるが、覆土の違いがなく、分離できなかった。東側の溝が幅0.5～1.0m、深さ5cm、長さ6.8m。西側の溝が幅0.5～0.8m、深さ5～15cm、長さ6.7m	
SD107	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.5～0.8m、深さ10～15cm。2.5m分確認した。西側は発掘区外に伸びる。	
SD108	南北溝	調査区中央部に位置する。途中で浅くなり、途切れる。幅0.4～1.0m、深さ0～20cm、長さ9.2m。SD109と南側で重複するが、切り合い関係不明。南側はSD115に切られる。	10C～11C初
SD109	南北溝	調査区中央部に位置する。幅0.4～0.5m、深さ5～20cm。10.3m分確認した。SD108と南側で重複するが、切り合い関係不明。途中SK121に、南側SD115に切られる。	10C～11C初
SK110	楕円形土坑	調査区中央部に位置する。長軸5.4m、短軸2.0m、深さ0.2m。SD112に切られ、SD111を切る。	
SD111	南北溝	調査区中央部に位置する。幅0.5m、深さ5cm、長さ2.8m、SK110に切られ、SD114を切る。	
SD112	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.1～0.3m、深さ5cm、長さ6.4m、SK110を切り、SD113に切られる。	
SD113	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.8～1.1m、深さ10～40cm。17.5m分確認した。北側は発掘区外に伸び、B区のSD228に接続する。SD112、SD114、SD116を切る。	11C後半～12C前半？
SD114	東西溝	調査区南寄りに位置する。幅0.6～0.9m、深さ5～20cm。11.8m分確認した。SD108、SD109、SD113、SD115に切られる。	11C後半～12C
SD116	東西溝	調査区南寄りに位置する。幅0.2～0.4m、深さ10～20cm。8.5m分確認した。SD115を切っていることを土層で確認し、残存部分のみ調査した。	
SK117	略円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.3m。	
SK118	円形土坑	調査区南寄りに位置する。径2.2m、深さ0.7m、西側にテラスがあり、東側が深くなっている。SK119を切る。	11C初～中頃？
SK119	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸2.7m、短軸2.0m＋αm、深さ0.5m。SK118に切られる。	古代
SK120	円形？土坑	調査区北寄り中央部に位置する。径1.3m、深さ0.4m、東側発掘区外に伸びる。	
SK121	略円形土坑	調査区中央部に位置する。長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.6m。	
SK122	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸2.9m、短軸0.8m、深さ0.2m。南側発掘区外に伸びる。	
SK123	不定形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸2.3m、短軸1.0m、深さ0.1m。	
SK124	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.1m。SD115を切る。	

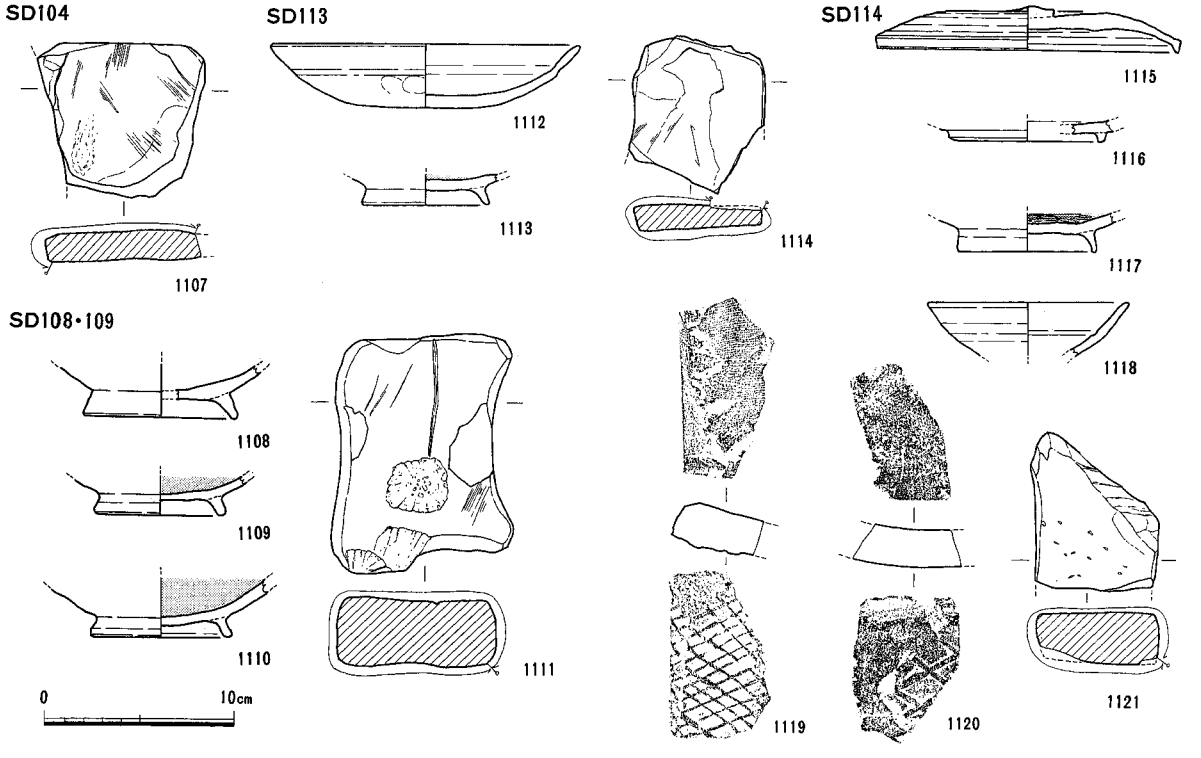


Fig.146　SD104・108・109・113・114出土遺物実測図　（1／4）

Tab.45　SD104・108・109・113・114出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1108	土師器・椀	SD108・109	—	—	(8.2)	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ	黄橙～灰黄	良好	
1109	黒色土器A・椀	SD108・109	—	—	7.0	[2.1]	ミガキ／回転ナデ	黒／黄橙～灰黄	良好	
1110	黒色土器A・椀	SD108・109	—	—	7.5	[3.1]	ミガキ／回転ナデ	黒～褐灰／灰白～黒	良好	板状痕
1112	土師器・丸坏	SD113	(16.4)	—	—	3.4	回転ナデ／回転ナデ、押出し	淡黄白	不良	ヘラ切り、押し出し
1113	黒色土器A・椀	SD113	—	—	6.7	[1.8]	ミガキ／回転ナデ	灰～黒／橙	良好	
1115	須恵器・蓋	SD114	(16.2)	—	—	2.4	回転ナデ／回転ナデ	青灰／暗灰	良好	ヘラ切り未調整
1116	須恵器・高台付坏	SD114	—	—	(8.3)	[1.2]	回転ナデ／回転ナデ	明青灰／灰～暗灰	良好	
1117	黒色土器A・椀	SD114	—	—	(7.4)	[2.1]	ミガキ／回転ナデ	黒／黄橙	良好	ヘラ切り
1118	白磁・高台付皿	SD114	(10.6)	—	—	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	白	良好	釉：青白透明、高台付皿Ⅱ類
1119	平瓦	SD114	[9.6]	[5.6]	1.9		布目／格子目タタキ	淡青灰／暗灰～灰	良好	
1120	平瓦	SD114	[8.1]	[6.15]	2.1		布目／格子目タタキ	淡灰褐	不良	

番号	種　類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
1107	砥石	SD104	[8.3]	[8.8]	1.8	198	砂岩、2面使用
1111	砥石	SD108	12.8	9.5	3.7	717	砂岩、4面使用、敲打痕
1114	砥石	SD113	[8.5]	7.0	0.9	111	砂岩、4面使用
1121	砥石	SD114	[8.6]	6.8	2.8	251	砂岩、4面使用、表面にキズ多

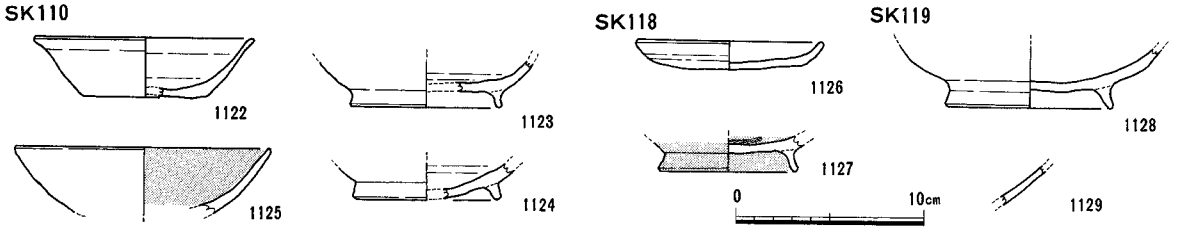


Fig.147　SK110・118・119出土遺物実測図　（1／4）

Tab.46　SK110・118・119出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1122	土師器・坏	SK110	(11.6)	－	(6.7)	3.2	回転ナデ／回転ナデ	浅黄橙～浅橙	良好	ヘラ切り
1123	土師器・椀	SK110	－	－	(8.0)	[2.5]	回転ナデ／回転ナデ	灰褐／灰黄	良好	ヘラ切り
1124	土師器・椀	SK110	－	－	(7.8)	[1.9]	回転ナデ／回転ナデ	黄橙～黄灰	良好	ヘラ切り
1125	黒色土器A・椀	SK110	(13.4)	－	－	[3.5]	ミガキ？／回転ナデ？	黒／橙	良好	
1126	土師器・小皿	SK118	10.0	－	8.5	1.5	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	ヘラ切り、板状痕
1127	黒色土器B・椀	SK118	－	－	7.3	[1.9]	ミガキ／回転ナデ	褐灰～灰	やや良好	
1128	土師器・椀	SK119	－	－	(8.9)	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ？	灰黄～黄橙	良好	
1129	緑釉・皿 or 椀	SK119	－	－	－	－		灰	良好、須恵質	釉：淡緑不透明

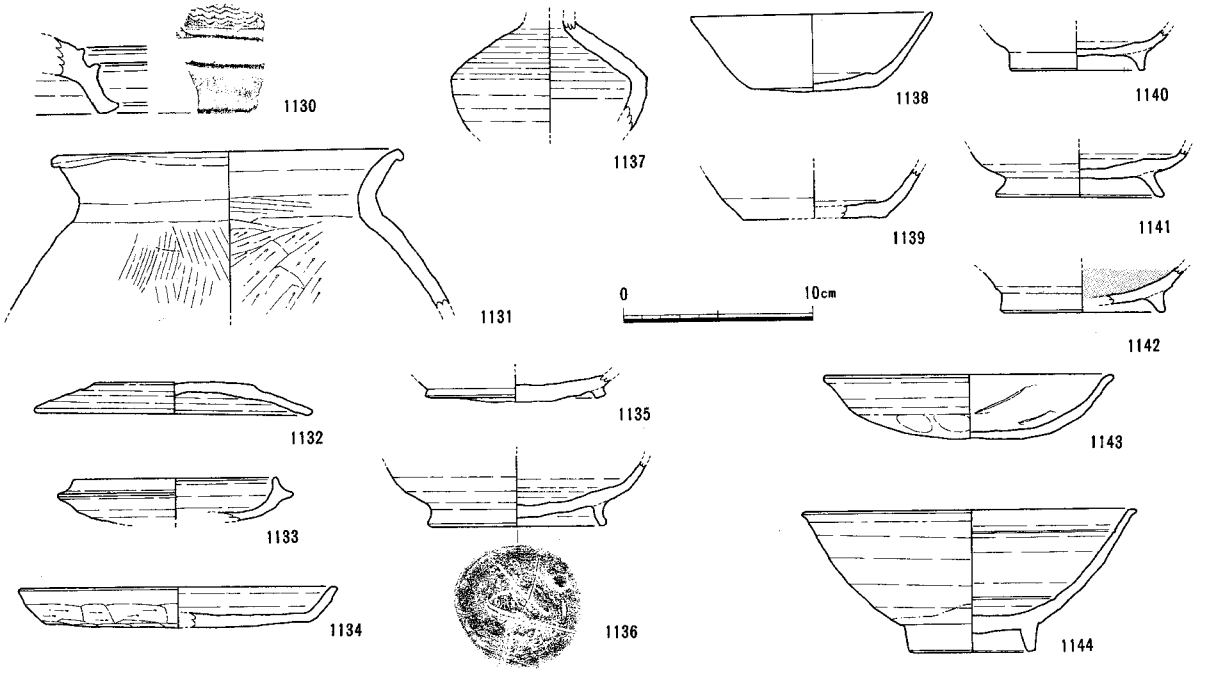


Fig.148　A－2区その他の遺構・遺構外出土遺物実測図（1／4）

Tab.47　A－2区その他の遺構・遺構外出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1130	須恵器・大形器台？	包含層	－	－	－	[4.1]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	明灰～灰	良好	
1131	土師器・甕	包含層	(18.6)	－	－	[8.6]	頸部ハケ・ナデ、胴部ケズリ／ハケ	浅黄橙～橙	良好	
1132	須恵器・蓋	SP1024	(14.6)	－	－	[1.7]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰／淡黄灰	良好	ヘラ切り、９Ｃ初？
1133	須恵器・坏身	SP1044	(10.7)	－	－	[2.3]	回転ナデ／回転ナデ	青灰／灰	良好	小田Ⅳb？
1134	須恵器・皿	包含層	(16.8)	－	(13.8)	2.2	回転ナデ／回転ナデ、体部～底部手持ちヘラケズリ	灰褐／灰～灰褐	良好	７Ｃ中～後半
1135	須恵器・高台付坏	SP1060	－	－	9.6	[1.4]	回転ナデ／回転ナデ	灰	やや不良	
1136	須恵器・高台付坏	包含層	－	－	9.5	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰	良好	ヘラ切り、ヘラ記号
1137	須恵器・壺？	攪乱	－	(10.4)	－	[6.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	
1138	土師器・坏	遺構確認	(12.8)	－	(6.6)	4.1	摩滅／摩滅	灰白	不良	ヘラ切り
1139	土師器・坏	SP1060	－	－	(7.6)	[2.5]	回転ナデ？／回転ナデ？	灰白～黄橙	やや良好	ヘラ切り
1140	土師器・椀	SP1060	－	－	7.2	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	浅黄橙	やや良好	
1141	土師器・椀	SP1037	－	－	8.9	[2.6]	回転ナデ／回転ナデ	黄橙	良好	
1142	黒色土器A・椀	SP1060	－	－	(8.6)	[2.4]	ミガキ？／回転ナデ	灰／橙	やや良好	
1143	土師器・丸坏	包含層	15.3	－	－	3.6	ミガキ／回転ナデ、押出し	淡橙灰	やや不良	ヘラ切り
1144	白磁・碗	SP1060	17.6	－	6.7	7.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡黄灰	不良	釉：淡黄灰不透明、白磁碗Ⅵ類

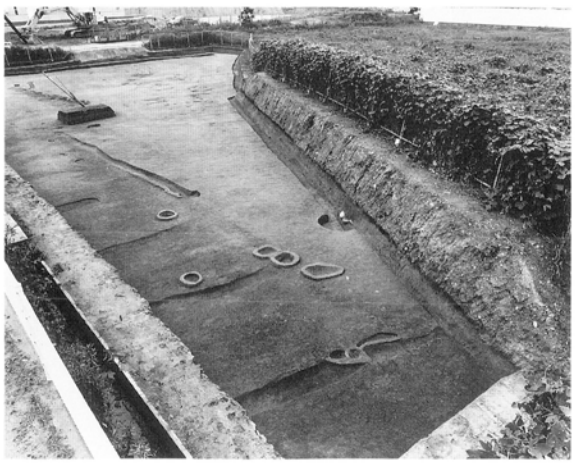
(4) B区１面

B区は今回の調査において最も北側に位置する。水田休耕地で盛り土はなされておらず、地表面の標高は10.2mである。検出面は50～60cm下げた暗灰褐色土である。検出面で744㎡を調査した。遺構の分布は薄く、調査区北東寄りしか存在しなかった。土坑２基と溝８条、ピットを検出した。

遺構の概要をTab.48に示し、出土遺物をFig.150・151、Tab.49・50に示す。溝は現在の地割りとほぼ同じ方向に伸びる。SD206～210は深さ５cmほどの浅い溝であるが、3.3m間隔で平行に分布する。２次調査A－Ⅱ調査区でも同様な平行溝群が検出されている。

遺構からの出土遺物は多くなかったが、B区１面は中世前半ごろの遺構群と考えられる。

Ph.111　B区１面全景（南から）



Ph.112　B区１面全景（北から）

Ph.113　B区１面全景（南東から）

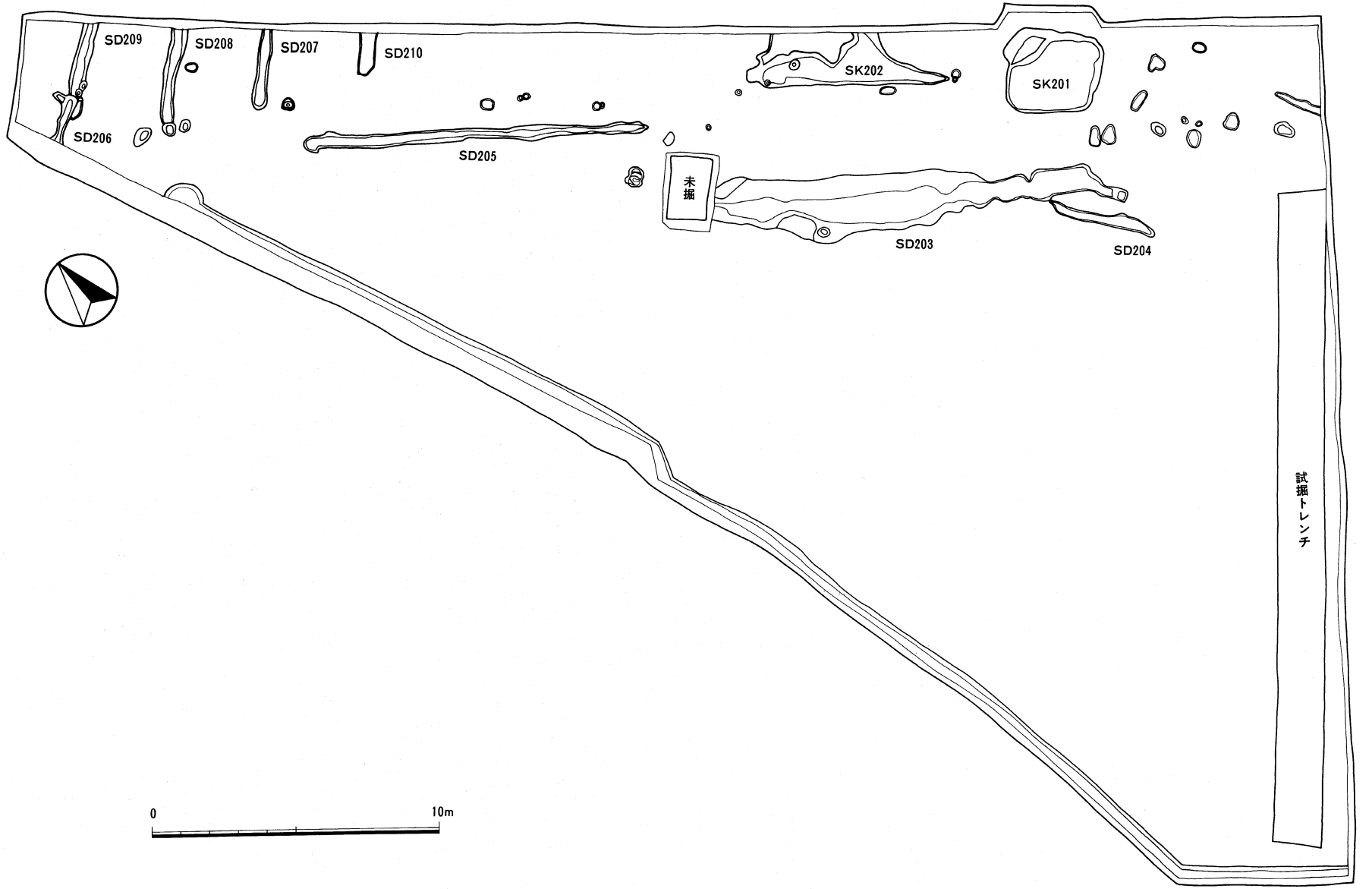


Fig.149　B区1面全体図（1／200）

Tab.48　B区１面の遺構

遺構番号	種　類	遺　構　の　概　要	時　期
SK201	隅丸長方形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸3.3m、短軸2.7m、深さ45cm。北側深さ30cmにテラスあり。	12C後半
SK202	不定形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸7.1m、短軸1.7m＋α、深さ10cm。北側は調査区外に伸びる。	
SD203	南北溝	調査区に東寄り位置する。幅0.6～2.3m、深さ5～20cm、長さ14.6m＋α。	13C前半
SD204	南北溝	調査区に東寄り位置する。幅0.3～0.5m、深さ5 cm、長さ3.9m。	
SD205	南北溝	調査区中央部から北寄りに位置する。幅0.2～0.5m、深さ5～15cm、長さ12.0m。	12C後半
SD206	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.2～0.4m、深さ5～10cm。1.7m分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD209を切る。	
SD207	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.3～0.5m、深さ5 cm。2.7m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD208・209・210と平行。	
SD208	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.4～0.5m、深さ5 cm。3.2m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD207・209・210と平行。	10C～11C初
SD209	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.5m、深さ10cm。2.5m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD206に切られる。SD207・208・210と平行。	
SD210	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.6m、深さ5 cm。1.5m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD207・208・209と平行。	

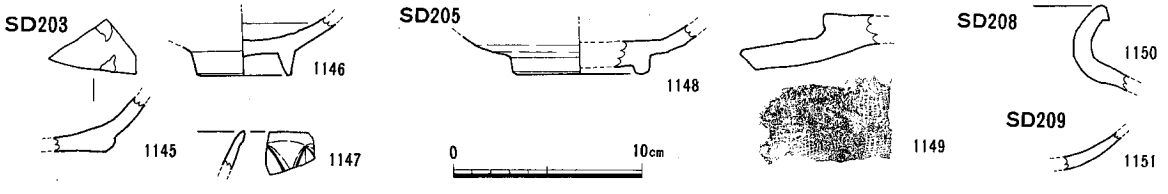


Fig.150　SD203・205・208・209出土遺物実測図　（１／４）

Tab.49　SD203・205・208・209出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1145	越州窯系青磁・碗	SD203	－	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰白	良好	釉：半釉、オリーブ透明、内底目土
1146	白磁・碗	SD203	－	－	5.0	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰白	良好	釉：半釉、白濁、白磁碗Ⅴ類
1147	龍泉窯系青磁・碗	SD203	－	－	－	[2.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	釉：黄オリーブ透明、龍碗Ⅱ類
1148	龍泉窯系青磁・碗	SD205	－	－	(7.2)	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰褐	良好	釉：外底露胎、黄オリーブ透明、龍碗Ⅰ類
1149	平瓦	SD205	[5.6]	[4.6]	2.0		布目／	灰	良好	
1150	須恵器・甕	SD208	－	－	－	[4.4]	あて具痕／タタキ	灰白色	良好	
1151	邢窯系白磁・皿	SD209	－	－	－	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ	白色、軟陶質	良好	釉：透明、厚い

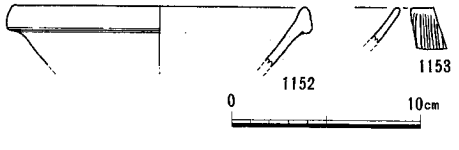


Fig.151　SK201出土遺物実測図（１／４）

Tab.50　SK201出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1152	白磁・碗	SK201	(15.2)	－	－	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰白	良好	釉：淡黄透明、白磁碗Ⅳ類
1153	越州窯系青磁・碗	SK201	－	－	－	[2.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	釉：黄オリーブ透明

(5) B区２面

B区の遺構検出が終了した時点で、試掘トレンチで検出していた遺構面と食い違いがみられ、更に下層にもう１面の遺構面があることを確認した。１面の調査終了後、これを２面として調査をおこなった。調査面は検出面で762㎡を測る。柵２条、建物１棟、溝16条、井戸５基、土坑11基を調査した。古代を中心とする遺構群である。

SB245（Fig.153）

調査区西寄りで検出された掘立柱建物である。南北２間、東西は１間分確認した。西側は調査区外に伸びると思われる。建物規模は南北４ｍである。柱穴は径40～80cmの円形の掘方であるが、雨の影響で上端が流れてしまい大きくなっている。本来はもう少し小さいと考えられる。深さは20～60cmである。

SE211（Fig.154、Ph.115）

調査区北端で検出した円形曲物組井戸である。SD212を切る。掘方径は1.5m、深さ60cmで井筒である円形の曲物を確認した。曲物は上下２段あり、いずれも底板を取り除いている。上段は径35cm、高さ10cm、下段は径28cm、高さ６cmである。

SE231（Fig.155、Ph.118）

調査区西寄りに位置し、発掘区外へ伸びる井戸である。SK230の下部で検出された。SE244を切る。

Ph.114　B区２面全景（上が北東）

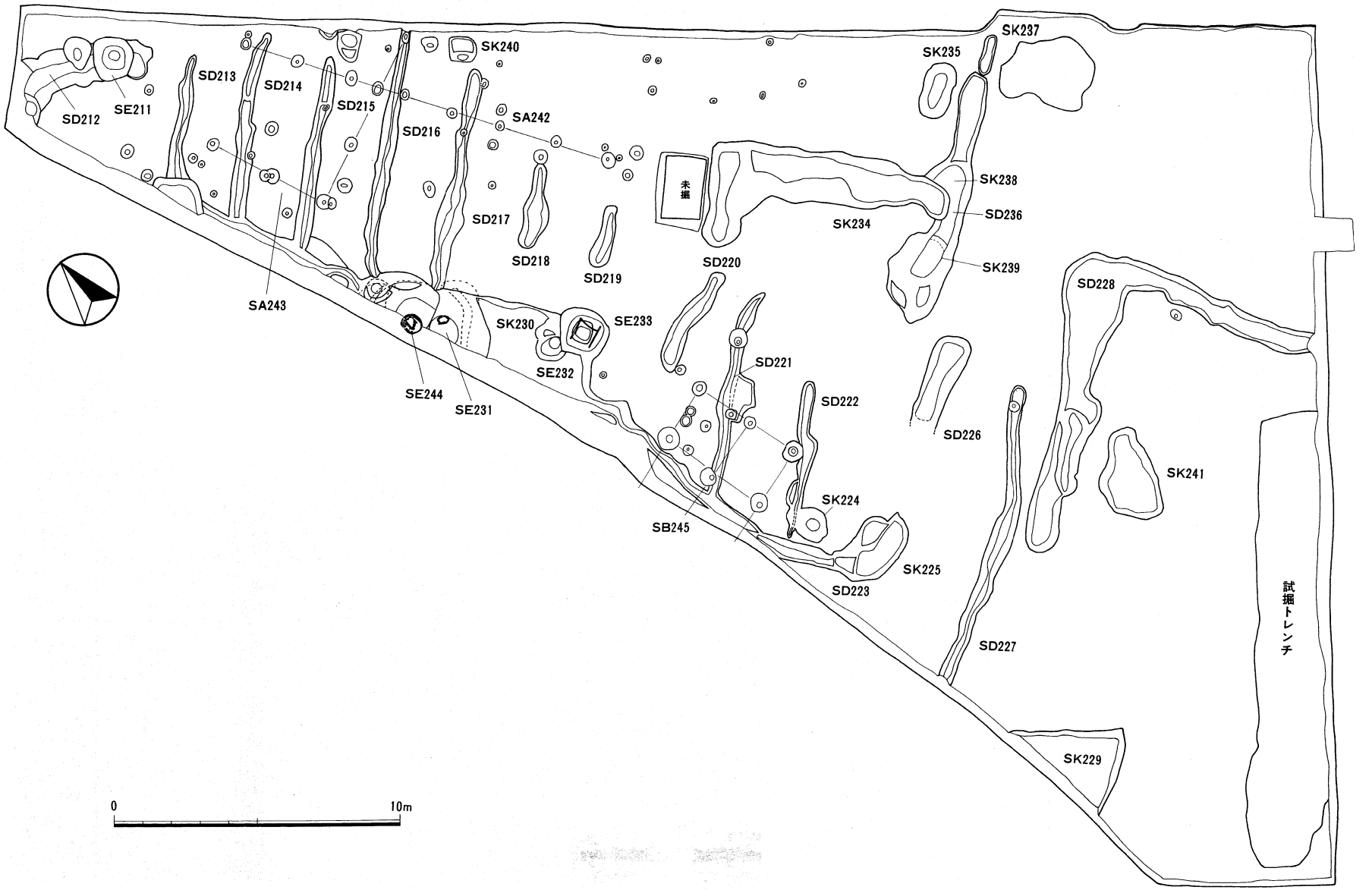


Fig.152　B区2面全体図　（1／200）

推定径３ｍの堀方で底部に径25cmの円形に板を並べた井筒を据える。桶であろうか。

SE232（Fig.155、Ph.116）

調査区西寄り、SK230の下部で検出された井戸である。SE233と重複するが、切り合い関係はわからなかった。径１ｍ程の円形の堀方で東寄りに井筒を据える。井筒は径45cmの円形の木質を確認した。曲物であったと思われる。

SE233（Fig.155、Ph.116・117）

調査区西寄り、SK230の下部で検出された方形の井戸である。SE232との切り合い関係不明。一辺1.7m程である。３辺に井側の痕跡と思われる木質を確認した。

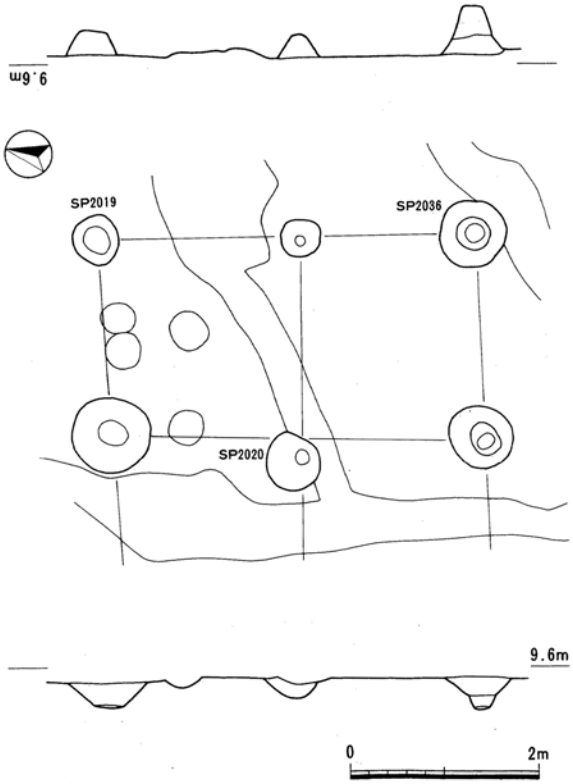


Fig.153　SB245実測図（１／80）

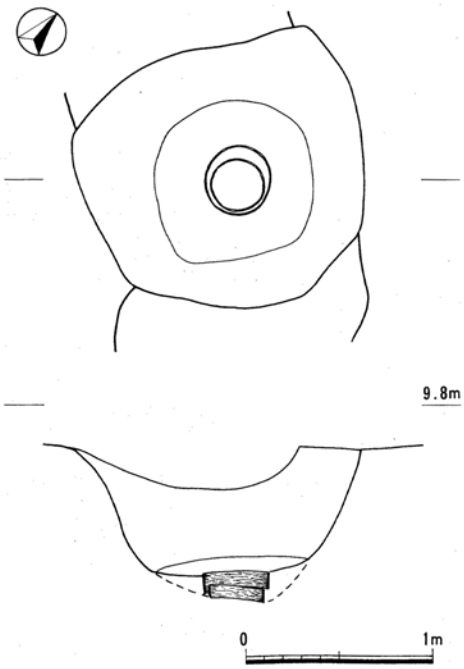
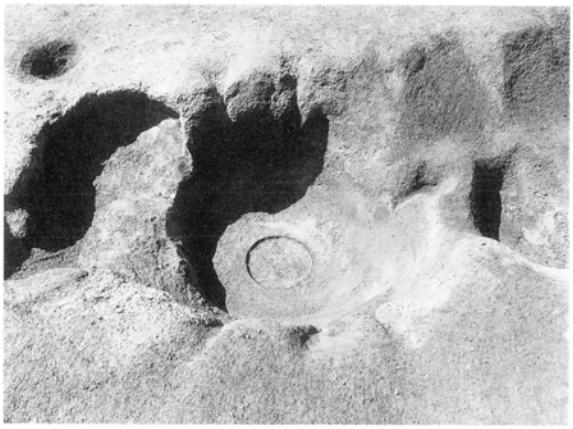


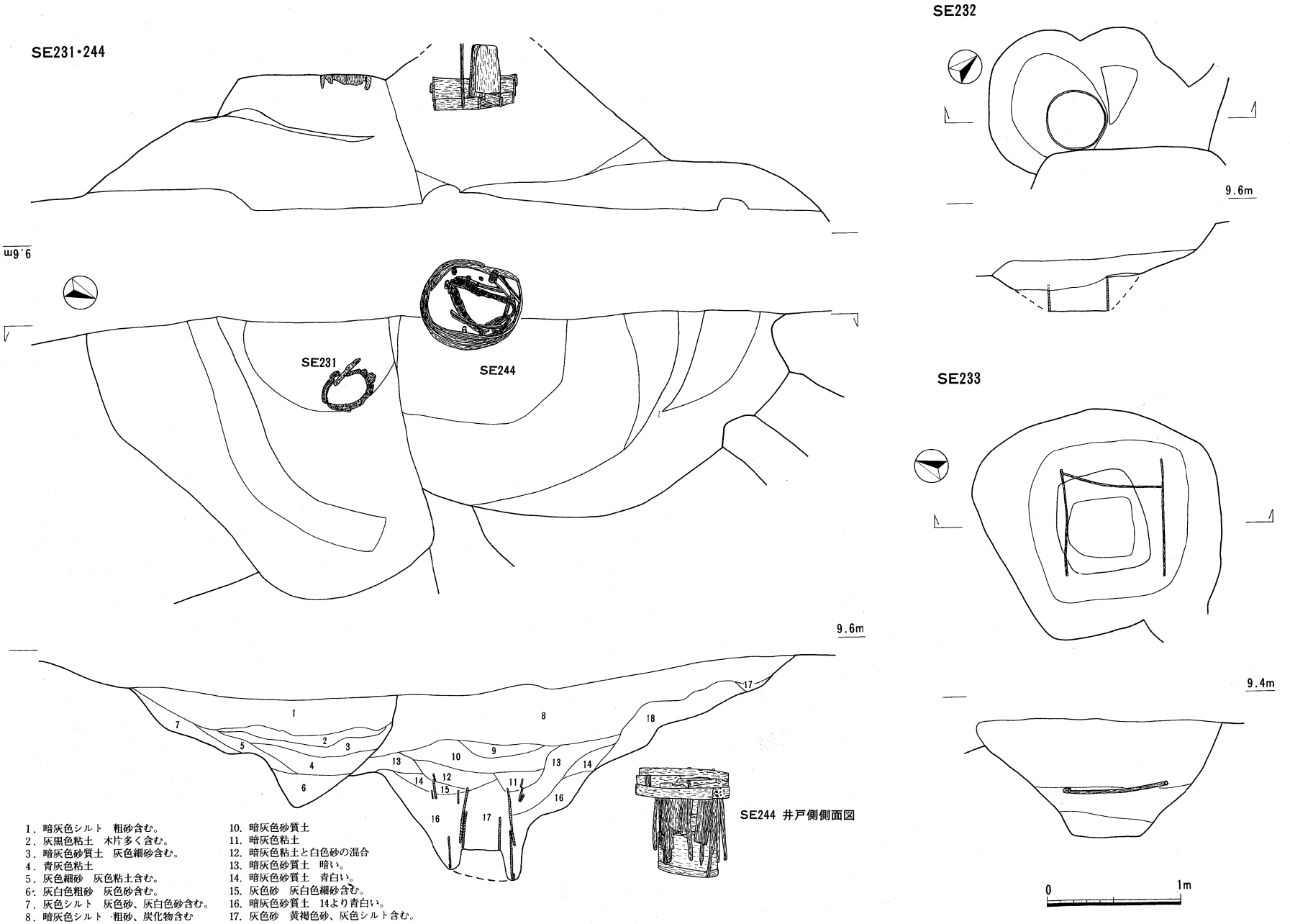
Fig.154　SE211実測図（１／40）



Ph.115　SE211（北から）

Ph.116　SE232・233（南から）

Ph.117　SE233（南から）



1．暗灰色シルト　粗砂含む。
2．灰黒色粘土　木片多く含む。
3．暗灰色砂質土　灰色細砂含む。
4．青灰色粘土
5．灰色細砂　灰色粘土含む。
6．灰白色粗砂　灰色砂含む。
7．灰色シルト　灰色砂、灰白色砂含む。
8．暗灰色シルト　粗砂、炭化物含む
9．暗黄白色砂　灰色砂質土含む。
10．暗灰色砂質土
11．暗灰色粘土
12．暗灰色粘土と白色砂の混合
13．暗灰色砂質土　暗い。
14．暗灰色砂質土　青白い。
15．灰色砂　灰白色細砂含む。
16．暗灰色砂質土　14より青白い。
17．灰色砂　黄褐色砂、灰色シルト含む。
1～6：ＳＥ231　7～17：ＳＥ244

Fig.155　SE231・232・233・244実測図（1／40）

SE244（Fig.155・156、Ph.118・119、Tab.51）

調査区西寄りに位置する井戸である。SK230の底部で確認した。SE231に切られる。堀方径は1.5～2.4mであるが、大半は調査区外に伸びる。井筒は3段の曲物である。径は上段が65cm、中段が27cm、下段が45cmである。曲物を固定するために、多量の板や杭が上段の曲物の内側を通し、中・下段の曲物の外側に打ち込まれている。

Ph.118　SE231・244（東から）

Ph.119　SE244井筒（東から）

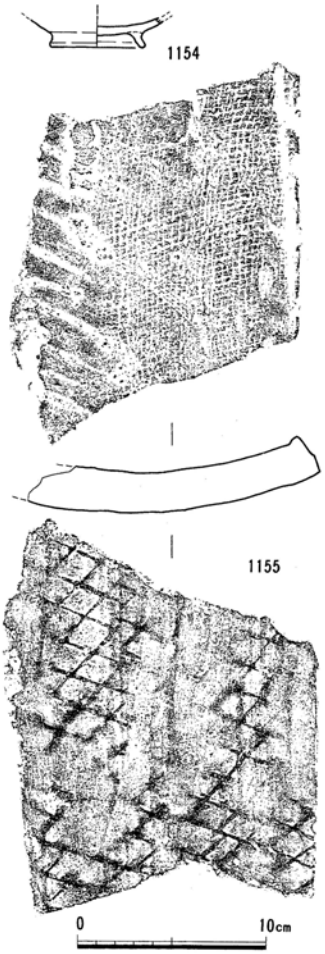


Fig.156　SE244出土遺物実測図（1／4）

Tab.51　SE244出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1154	黒色土器B・椀	SE244			5.0	[1.6]	摩滅／回転ナデ	黒褐	良好	ヘラ切り、板状痕
1155	平瓦	SE244	[21.0]	[16.8]	2.0		布目／格子目タタキ	灰	良好	

SK239（Fig.157、Ph.120、Tab.52）

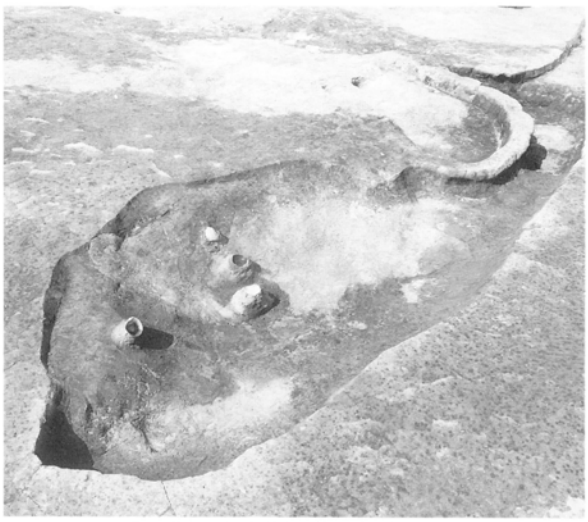
調査区東寄りに位置する長軸推定3.2m、短軸2.0m、深さ45cmの楕円形土坑である。SD236を切っていると考えられるが、調査で確認できなかった。

出土遺物をFig.157とTab.52に示す。規模が小さい割には多量の遺物が出土した。緑釉陶器、邢窯系白磁、越州窯系青磁が出土しているのが注目される。

9世紀中頃～後半の遺構である。

その他の遺構（Fig.158～160、Tab.53～56）

これまで説明しなかった遺構をTab.53にまとめ、出土遺物をFig.158～160、Tab.54～56



Ph.120　SK239（南から）

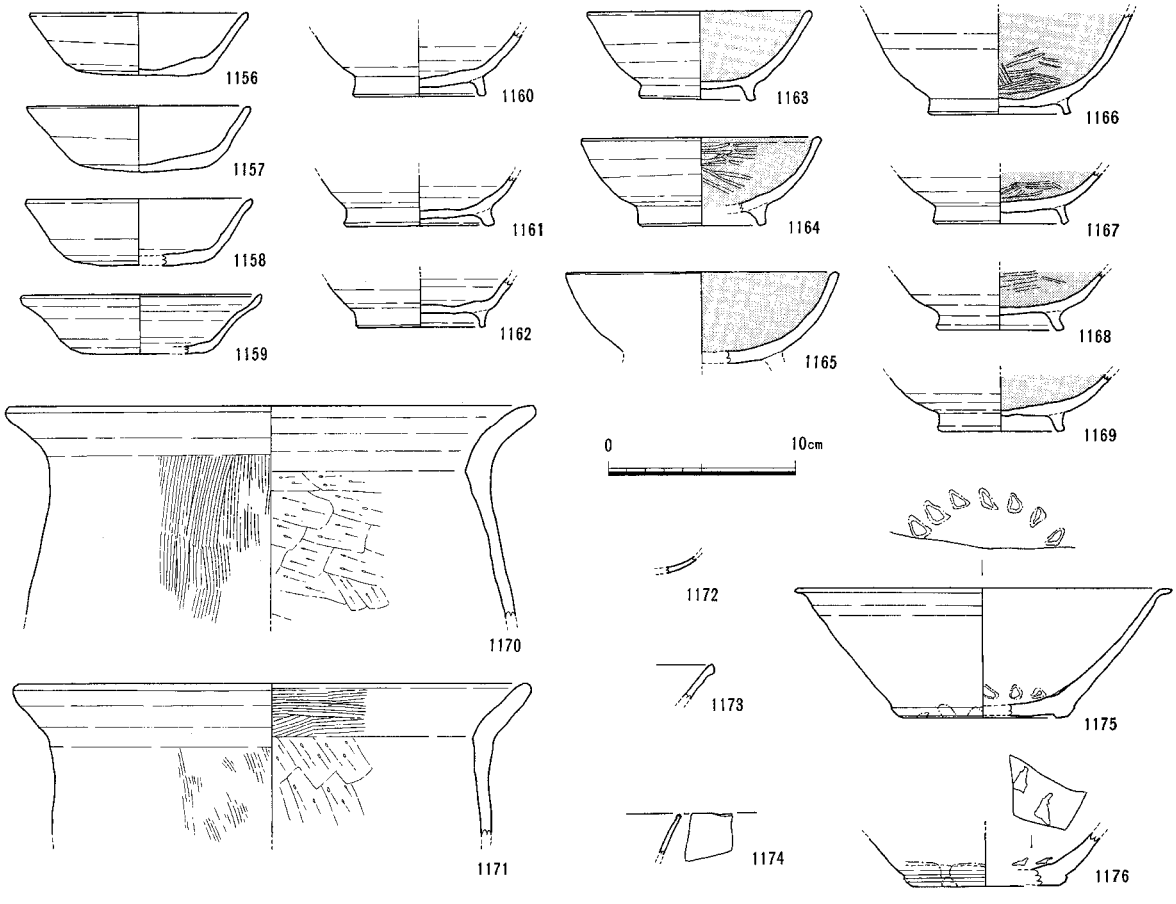


Fig.157　SK239出土遺物実測図（1／4）

Tab.52　SK239出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1156	土師器・坏	SK239	11.8	－	6.8	3.4	回転ナデ／回転ナデ	淡黄褐	良好	ヘラ切り、板状痕
1157	土師器・坏	SK239	12.0	－	7.0	3.5	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	やや良好	ヘラ切り、板状痕
1158	土師器・坏	SK239	(12.2)	－	(7.0)	3.5	摩滅	黒灰／淡茶灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1159	土師器・坏	SK239	(12.9)	－	(7.8)	3.1	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り
1160	土師器・椀	SK239	－	－	7.1	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ	茶灰～淡橙灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1161	土師器・椀	SK239	－	－	8.0	[2.7]	回転ナデ／回転ヘラケズリ	淡灰褐	良好	ヘラ切り、板状痕
1162	土師器・椀	SK239	－	－	(6.9)	[2.6]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	やや不良	ヘラ切り
1163	黒色土器A・椀	SK239	12.0	－	6.3	4.6	ミガキ／回転ナデ	黒灰／淡褐	やや良好	
1164	黒色土器A・椀	SK239	(12.8)	－	(6.8)	4.7	ミガキ／回転ヘラケズリ	黒灰～黒褐／淡橙灰	良好	
1165	黒色土器A・椀	SK239	(14.6)	－	－	[4.8]	ミガキ／摩滅	淡灰褐	不良	
1166	黒色土器A・椀	SK239	－	－	7.7	[5.3]	ミガキ／回転ナデ	黒灰／淡橙灰	良好	ヘラ切り
1167	黒色土器A・椀	SK239	－	－	7.3	[2.7]	ミガキ／回転ヘラケズリ	黒褐／淡橙灰	良好	ヘラ切り
1168	黒色土器A・椀	SK239	－	－	6.9	[3.1]	ミガキ／回転ナデ	暗灰～黒灰／淡橙灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1169	黒色土器A・椀	SK239	－	－	(6.7)	[3.0]	摩滅／回転ヘラケズリ	黒灰／茶灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1170	土師器・甕	SK239	(28.4)	－	－	[11.4]	ケズリ／ハケ	淡茶灰	良好	
1171	土師器・甕	SK239	(27.8)	－	－	[8.2]	口縁ハケ、胴部ケズリ／ハケ、ナデ	淡茶灰	良好	
1172	緑釉・皿	SK239	－	－	－	[1.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好、土師質	釉：淡緑不透明
1173	邢窯系白磁・碗	SK239	－	－	－	[1.8]	回転ナデ／回転ナデ	白、軟陶	良好	釉：透明
1174	越州窯系青磁・碗	SK239	－	－	－	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	釉：黄オリーブ透明、輪花
1175	越州窯系青磁・碗	SK239	(20.0)	－	(9.1)	6.9	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	釉：全釉、淡青灰白白濁、内底・畳付目痕
1176	越州窯系青磁・碗	SK239	－	－	(8.8)	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	釉：半釉、暗オリーブ透明、化粧土、内底目土

に示す。

SD213～217の溝は平行に分布しているが1面より間隔は狭い。SD228はA－2区SD113と接続すると考えられる。SA243はこの溝と同一方向に伸びている。包含層の出土遺物は1面から2面へ掘り下げるときに出土したものである。

Tab.53　その他のＢ区２面の遺構

遺構番号	種　類	遺　構　の　概　要	時　期
SD212	溝	調査区北寄りに位置する。幅1.4m、深さ30～35cm。5.0m 分確認した。屈曲している。西側は調査区外に伸びる。SE211に切られる。	12C 後半
SD213	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.2～0.5m、深さ10～15cm。4.3m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD214・215・216・217と平行。	
SD214	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.4～0.5m、深さ５～10cm。6.5m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD213・215・216・217と平行。	
SD215	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.3～0.6m、深さ10cm。6.8m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD213・214・216・217と平行。	
SD216	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅 m、深さ10～20cm。8.7m 分確認した。東側・西側とも調査区外に伸びる。SD213・214・215・217と平行。SK230・SE231・244に切られる。	
SD217	東西溝	調査区に北寄り位置する。幅0.4～1.0m、深さ５～15cm。7.8m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD213・214・215・216と平行。SK230・SE231・244に切られる。	
SD218	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.5～0.9m、深さ10cm、長さ3.0m。	
SD219	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.4～0.6m、深さ５～10cm、長さ2.2m。	
SD220	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.4～0.7m、深さ10cm、長さ3.8m。	
SD221	東西溝	調査区中央部から西寄りに位置する。幅0.4～0.5m、深さ５cm。7.3m 分確認した。西側は発掘区外に伸びる。	
SD222	東西溝	調査区中央部から西寄りに位置する。幅0.3～0.6m、深さ５～10cm、長さ5.5m。西側は発掘区外に伸びる。SK244と重複するが切り合い不明。	
SD223	南北溝	調査区西寄りに位置する。幅0.6～0.7m、深さ５～15cm。2.7m 分確認した。西側は発掘区外に伸びる。東側は SK225に接続する。SD222を切る。。	
SK224	略円形土坑	調査区西寄りに位置する。長軸1.3m、短軸1.1m、深さ50cm。SD222と重複するが切り合い不明。	
SK225	楕円形土坑	調査区西よりに位置する。長軸2.5m、短軸1.6m、深さ30cm。西側は SD223と接続する。南東側掘りすぎている。	古代
SD226	東西溝	調査区中央部に位置する。幅1.0～1.2m、深さ０～５cm、長さ3.5m。	
SD227	東西溝	調査区南寄りに位置する。幅0.4～0.8m、深さ５～20cm。10.7m 分確認した。西側は発掘区外に伸びる。	
SD228	区画溝	調査区南寄りに位置する。途中で直角に屈曲する。幅0.7～2.5m、深さ10～15cm。17.6m 分確認した。南北方向9.0m、東西方向10.6m。南側は発掘区外に伸び、Ａ－１区の SD113に接続する。SD113まで含めた東西方向の長さは40m になる。	
SK229	方形？土坑	調査区南寄りに位置する。長軸4.1m ＋α、短軸3.1m ＋α、深さ20cm。西側は調査区外に伸びる。	古代
SK230	方形？土坑	調査区西寄りに位置する。長軸6.3m ＋α、短軸2.7＋α m、深さ20cm。西側は調査区外に伸びる。床面より SE231・244・232・233が検出された。SD216・217を切る。	11C 後半～12C 前半
SK234	不定形土坑	調査区中央部に位置する。長軸8.5m、短軸4.0m、深さ10～35cm。SD236・SK238を切る。	古代
SK235	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸2.0m、短軸1.1m、深さ40cm。	10C 初～中頃
SD236	東西溝	調査区東寄りに位置する。幅0.7～1.0m、深さ10～30cm、長さ6.0m ＋α。SK234・237に切られる。はっきりと確認できなかったが、SK238・239にも切られていると考えられる。	９Ｃ中頃～後半
SK237	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.4m、短軸0.4m、深さ10cm。SD236を切る。	
SK238	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸推定２ m、短軸1.7m、深さ40cm。SK234に切られる。SD236を切っていると考えられる。	
SK240	方形土坑	調査区北寄りに位置する。長軸1.0m、短軸0.9m、深さ10cm。南西側深さ20cm。	
SK241	不定形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸3.3m、短軸2.0m、深さ15cm。	
SA242	柵	調査区北寄りに位置する。直角に折れる。東西方向に３間分6.6m、南北方向に２間分4.5m 確認した。東西方向は更に東へ伸びると考えられる。	
SA243	柵	調査区東寄りに位置する。南北方向に７間分13.4m 確認した。両端とも更に伸びる可能性がある。	

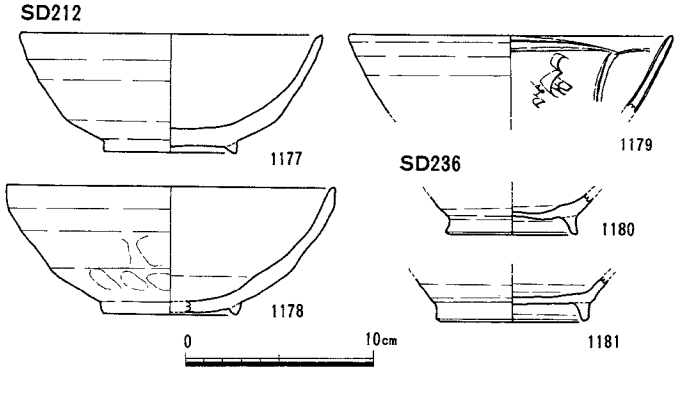


Fig.158　SD212・236出土遺物実測図（１／４）

Tab.54　SD212・236出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1177	土師器・椀	SD212	(16.0)	－	(7.0)	6.3	ミガキ？／摩滅	淡黄白	良好	
1178	土師器・椀	SD212	(17.4)	－	(7.0)	6.8	ミガキ？／回転ナデ、指押え	淡褐	やや良好	ヘラ切り、板状痕
1179	龍泉窯系青磁・碗	SD212	(17.0)	－	－	[4.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	釉：オリーブ透明、龍碗Ⅰ類
1180	土師器・椀	SD236	－	－	7.0	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰／淡茶灰	良好	ヘラ切り
1181	土師器・椀	SD236	－	－	8.0	[2.5]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰／淡黄灰	良好	ヘラ切り

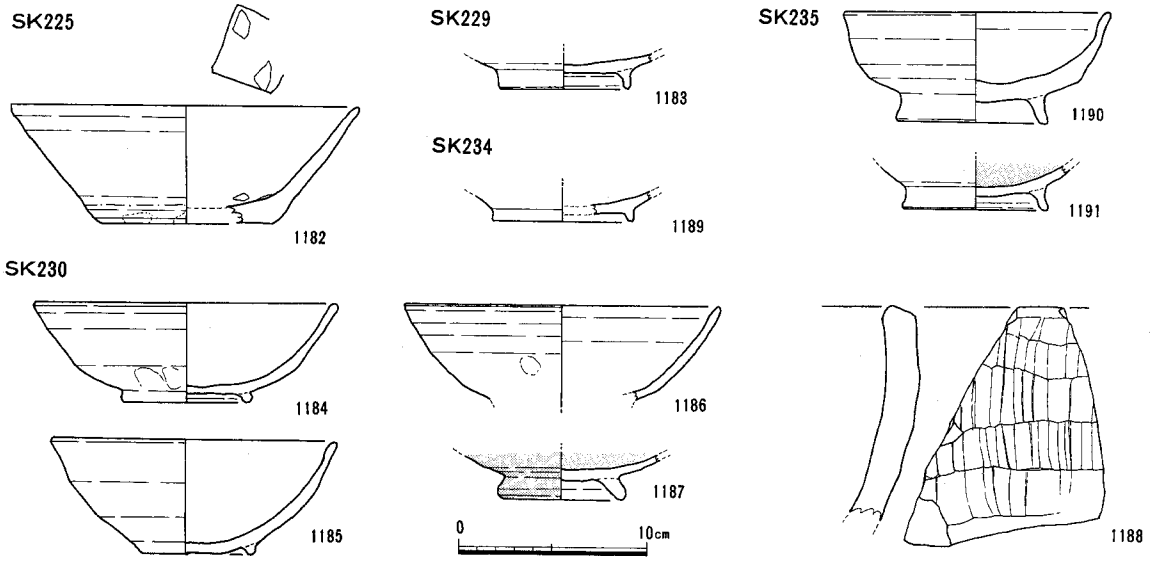


Fig.159　SK225・229・230・234・235出土遺物実測図（1／4）

Tab.55　SK225・229・230・234・235出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1182	越州窯系青磁・碗	SK225	(18.4)	－	(9.0)	6.4	回転ナデ／回転ナデ	淡褐～淡灰褐	良好	釉：白濁オリーブ、内底目土
1183	土師器・椀	SK229	－	－	6.9	[2.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰／茶灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1184	土師器・椀	SK230	(16.1)	－	(6.4)	5.3	摩滅／回転ナデ、指押え	淡橙白	やや不良	ヘラ切り、板状痕
1185	土師器・椀	SK230	15.2	－	5.7	6.0	摩滅／摩滅	褐～暗褐	不良	
1186	土師器・椀	SK230	(16.7)	－	－	[5.0]	回転ナデ／指押え	淡橙灰	良好	
1187	黒色土器B・椀	SK230	－	－	(6.7)	[2.5]	摩滅／回転ナデ	黒褐／暗灰	良好	
1188	石鍋	SK230	－	－	－	[11.0]	ヘラケズリ／ヘラケズリ	暗灰		内面コゲ、外面スス付着
1189	緑釉・皿	SK234	－	－	(7.4)	[1.6]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好、須恵質	釉：全釉、剥落顕著
1190	土師器・椀	SK235	14.1	－	8.1	5.9	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	やや良好	
1191	黒色土器A・椀	SK235	－	－	7.8	[2.4]	摩滅／回転ナデ	黒灰／淡茶灰	良好	

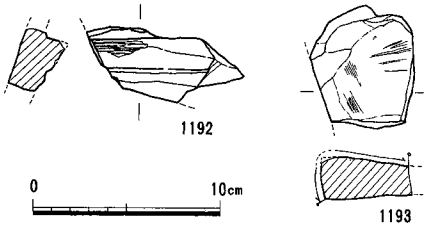


Fig.160　B区遺構外出土遺物実測図（1／4）

Tab.56　B区遺構外出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
1192	滑石製品	包含層	[3.2]	[8.4]	1.8	103	石鍋転用未製品？
1193	砥石	包含層	[6.6]	[5.6]	2.3	112	砂岩、2面使用

(6) C区１面

C区は６次調査の東端に位置する。更に東には２次調査のB区、C区が位置する。２次調査では中世前半期の建物、井戸、土坑などが密集して検出されている。

C区１面は緑灰色～灰色シルトに灰白色～黄灰色の細砂を含む標高10.0mで遺構を検出した。検出面は非常にやわらかく、人の体重で沈むような軟弱で水を含む層であり、当初遺構の存在を予想していなかった。遺構は調査区の南東側半分しか存在しなかった。調査面積は遺構検出面で513㎡を測る。溝３条、土坑５基と杭列、ピットを検出した。遺構密度は希薄で出土遺物もそれほど多くない。中世前半の遺構群と考えられる。

SD303（Fig.162・163、Tab.57）

調査区東寄りに位置する南北方向の溝である。幅2.0～3.1m、深さ20～40cmを測る。床面はほぼ平坦である。両端とも発掘区外へ伸び、調査区内で長さ26m確認した。Fig.162に中央付近の土層断面図を示す。１～５層、あるいは６層までがSD303の覆土と考えられる。下部で２面の遺構であるSD327と重複している。

出土遺物をFig.163とTab.57に示す。出土遺物から11世紀前半～中頃の遺構と考えられる。

SD304（Fig.162・163、Tab.57）

調査区東寄りに位置する南北方向の溝である。幅3.2～5.4m、深さ90～130cm。27m分確認した。両端は発掘区外へ伸びる。Fig.162に発掘区南壁での土層を示す。５～15層と18～23層の２時期が観察される。下層では３面の遺構であるSD333と重複しているため、掘りすぎてしまったところもある。東岸には杭が多数みられた。

出土遺物をFig.163とTab.57に示す。糸切りの土師器の坏・小皿、龍泉窯系青磁小碗Ⅲ類が出土しており、13世紀中頃から14世紀はじめ頃の遺構と考えられる。

SD305（Fig.163、Tab.57）

調査区東寄りに位置する溝である。幅1.0～1.7m、深さ30～35cm。7.3m分確認した。屈曲している。両端とも発掘区外に伸びる。

出土遺物をFig.163とTab.57に示す。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類が出土していることから12世紀後半の溝と考えられる。

Ph.121　C区１面全景（北から）

Ph.122　SD304（北から）

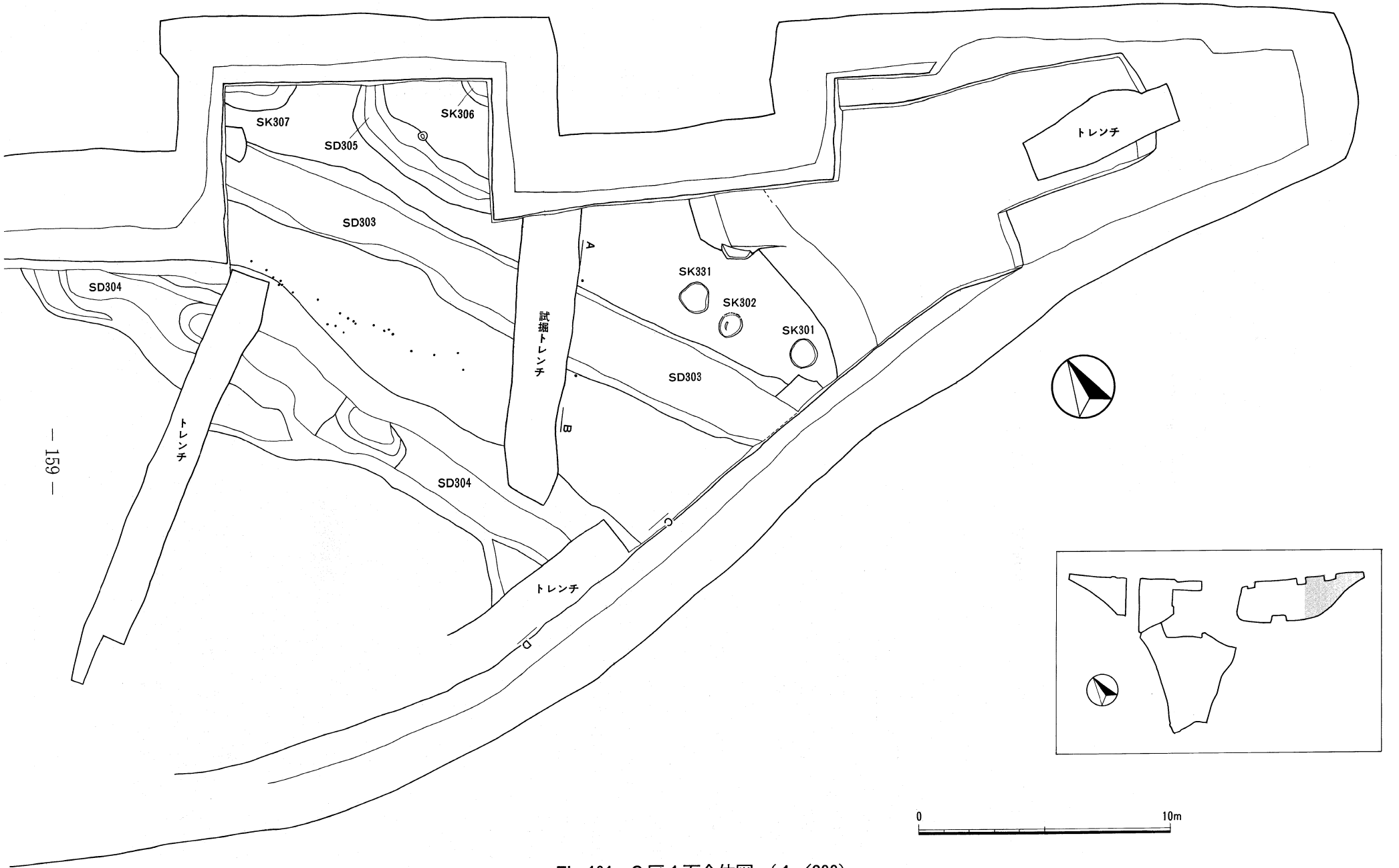
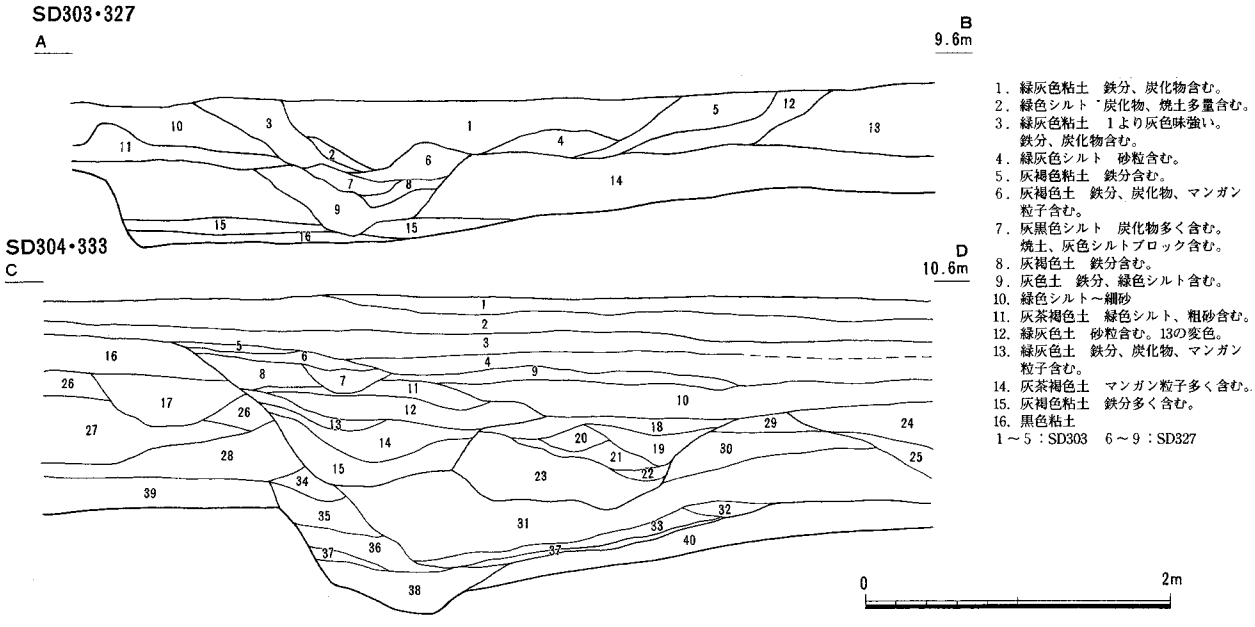


Fig.161　C区1面全体図（1／200）



1．緑灰色粘土　鉄分、炭化物含む。
2．緑色シルト　炭化物、焼土多量含む。
3．緑灰色粘土　1より灰色味強い。鉄分、炭化物含む。
4．緑灰色シルト　砂粒含む。
5．灰褐色粘土　鉄分含む。
6．灰褐色土　鉄分、炭化物、マンガン粒子含む。
7．灰黒色シルト　炭化物多く含む。焼土、灰色シルトブロック含む。
8．灰褐色土　鉄分含む。
9．灰色土　鉄分、緑色シルト含む。
10．緑色シルト～細砂
11．灰茶褐色土　緑色シルト、粗砂含む。
12．緑灰色土　砂粒含む。13の変色。
13．緑灰色土　鉄分、炭化物、マンガン粒子含む。
14．灰茶褐色土　マンガン粒子多く含む。
15．灰褐色粘土　鉄分多く含む。
16．黒色粘土
1～5：SD303　6～9：SD327

1．灰色砂質土
2．橙灰色粘質土　緑灰色シルトブロック含む。
3．灰色粘質土　粗砂含む。
4．灰色粘質土と緑灰色粘質土の混合
5．灰茶褐色粗砂
6．灰茶褐色砂
7．灰色粗砂
8．暗灰色砂質土
9．灰茶褐色細砂
10．灰色砂質土
11．暗灰色粘質土　鉄分含む。
12．暗灰色砂質土　炭化物含む。
13．暗灰色粘質土と灰色シルトの互層
14．暗灰色粘質土　木質、炭化物を含む。
15．暗灰色粘質土と暗灰色砂質土の混合粗砂含む。
16．灰色砂質土　鉄分沈着。
17．灰色粘質土　鉄分沈着。
18．暗灰色粘質土　炭化物含む。
19．灰色粘質土と灰色細砂の混合　暗緑灰色シルトブロック含む。
20．灰色粘質土と黄灰色細砂の互層
21．暗灰色粘質土と明緑灰色細砂の混合
22．灰色粘質土
23．灰黒色粘土
24．灰色砂質土　鉄分多く含む。
25．灰茶褐色粗砂
26．灰茶褐色砂質土　鉄分沈着。
27．灰褐色粘質土　鉄分沈着。
28．暗灰色粘質土
29．灰色細砂
30．灰茶褐色粘質土　鉄分沈着。
31．暗灰褐色粘質土
32．灰黒色粘土
33．灰白色細砂と灰色シルトの互層
木質を多く含む。
34．灰黒色粘土　木質を少量含む。
35．灰黒色砂質土と明灰色細砂の互層
36．暗灰黒色粘質土
37．黄茶褐色細砂　鉄分の沈着によりかたく締まる。
38．暗灰黒色粘土　青灰色シルトブロック含む。
39．暗黒褐色粘質土
40．明灰茶褐色粗砂
5～15・18～23：SD304
29～38：SD333

Fig.162　SD303・327・304・333土層図（1／50）

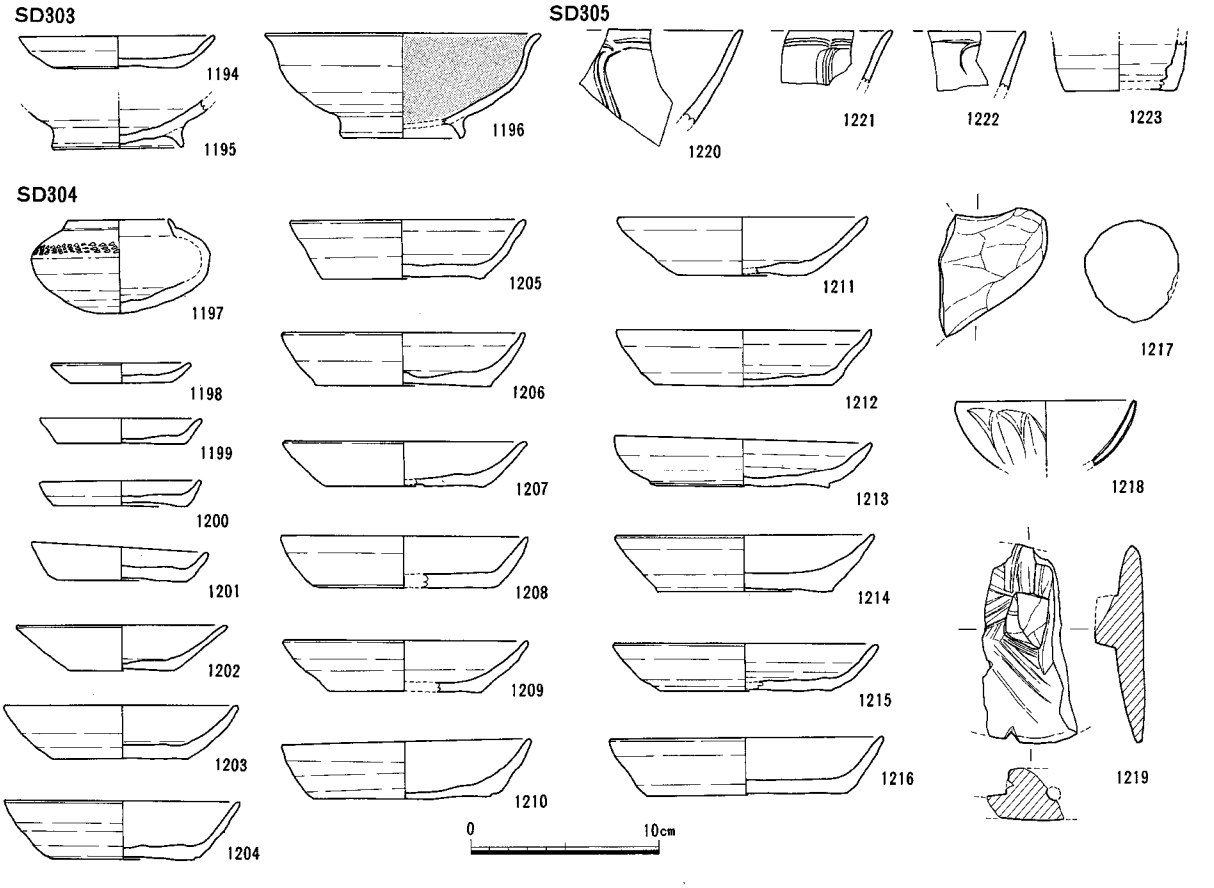


Fig.163　SD303・304・305出土遺物実測図（1／4）

Tab.57　SD303・304・305出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1194	土師器・小皿	SD303	(10.2)	－	(6.8)	1.6	摩滅	淡褐	やや不良	ヘラ切り、板状痕
1195	土師器・椀	SD303	－	－	(6.8)	[2.5]	回転ナデ／回転ナデ	暗茶灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1196	黒色土器A・椀	SD303	(14.6)	－	(6.6)	5.5	摩滅／回転ナデ	淡褐	不良	
1197	須恵器・小壺	SD304	5.4	－	－	5.5	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ、肩刺突文	灰	良好	
1198	土師器・小皿	SD304	(7.2)	－	(5.2)	1.0	摩滅	明褐	良好	糸切り、板状痕
1199	土師器・小皿	SD304	8.4	－	6.7	1.4	回転ナデ／回転ナデ	淡黄褐	良好	糸切り、板状痕
1200	土師器・小皿	SD304	8.4	－	7.0	1.3	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	糸切り、板状痕
1201	土師器・小皿	SD304	9.2	－	6.9	1.8	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	糸切り、板状痕
1202	土師器・坏	SD304	(11.0)	－	(5.4)	2.4	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	糸切り、板状痕
1203	土師器・坏	SD304	(12.2)	－	(7.0)	2.8	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	糸切り
1204	土師器・坏	SD304	(12.4)	－	(7.4)	3.1	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	糸切り、板状痕
1205	土師器・坏	SD304	12.5	－	8.6	3.1	回転ナデ／回転ナデ	赤褐	良好	糸切り
1206	土師器・坏	SD304	(12.8)	－	(9.4)	2.8	回転ナデ／回転ナデ	淡橙	良好	糸切り、板状痕
1207	土師器・坏	SD304	(12.8)	－	(8.4)	2.4	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄褐	やや不良	糸切り、板状痕
1208	土師器・坏	SD304	(13.0)	－	(9.8)	2.7	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	糸切り
1209	土師器・坏	SD304	(13.0)	－	(8.0)	2.7	回転ナデ／回転ナデ	褐	やや良好	糸切り
1210	土師器・坏	SD304	13.2	－	9.4	3.1	回転ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	糸切り
1211	土師器・坏	SD304	(13.2)	－	(6.8)	3.1	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	糸切り
1212	土師器・坏	SD304	13.4	－	9.5	3.0	回転ナデ／回転ナデ	淡白褐	良好	糸切り
1213	土師器・坏	SD304	13.6	－	9.5	2.5	回転ナデ／回転ナデ	淡白褐	良好	糸切り
1214	土師器・坏	SD304	(13.6)	－	(9.2)	3.0	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	やや良好	糸切り
1215	土師器・坏	SD304	(14.0)	－	(9.0)	2.5	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	やや良好	糸切り
1216	土師器・坏	SD304	(14.4)	－	(10.6)	3.1	回転ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	糸切り
1217	土師器・甑把手	SD304	－	－	－	－	ナデ	淡橙灰	良好	
1218	龍泉窯系青磁・小碗	SD304	(9.4)	－	－	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	釉：青灰透明、厚い、龍碗Ⅲ類
1220	龍泉窯系青磁・碗	SD305	－	－	－	[5.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰白	良好	釉：黄オリーブ透明、龍碗Ⅰ類
1221	龍泉窯系青磁・碗	SD305	－	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	淡黄白	不良	釉：淡オリーブ不透明、龍碗Ⅰ類
1222	龍泉窯系青磁・碗	SD305	－	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	釉：青緑透明、龍碗Ⅰ類
1223	無釉陶器・小口瓶	SD305	－	－	(6.0)	[2.6]	轆轤痕／回転ナデ	灰白	良好	陶器A群

番号	種　類	出土位置	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考
1219	滑石製品	SD304	10.6	[5.0]	2.7	112	石鍋転用品、表面に再加工時のケズリ痕、裏面にスス付着、つまみ部分に穿孔途中の痕跡

その他の遺構と遺物（Fig.164、Tab.58・59）

その他のC区 1面の遺構の概要をTab.58に、出土遺物をFig.164とTab.59に示す。SK301・302・331は円形の浅い土坑で、底面に炭化物層が薄く堆積していることが共通する。

Tab.58　その他のC区1面の遺構

遺構番号	種　類	遺構の概要	時期
SK301	円形土坑	調査区東寄りに位置する。径1.1m、深さ10cm。底部に炭化物が薄く堆積する。	
SK302	略円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.0m、短軸0.9m、深さ10cm。炭化物多く含む。	
SK306	土坑	調査区東寄りに位置する。径推定2 m、深さ15cm。大半が発掘区外に伸びる。	
SK307	土坑	調査区東寄りに位置する。長軸2.8m＋α、深さ50cm。大半が発掘区外に伸びる。	12C後半～13C
SK331	略円形土坑	調査区東寄りに位置する。径1.2m、深さ10cm。底部に炭化物が薄く堆積する。	

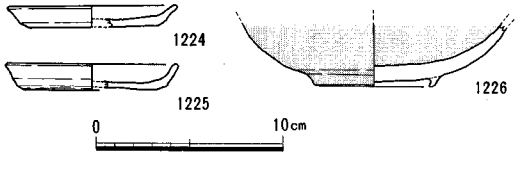


Fig.164　SK307出土遺物実測図（1／4）

Tab.59　SK307出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1224	土師器・小皿	SK307	(9.1)	－	(7.0)	1.1	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り
1225	土師器・小皿	SK307	(9.1)	－	(7.5)	1.4	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	糸切り
1226	瓦器・碗	SK307	－	－	6.4	[3.5]	ミガキ／回転ナデ	淡灰黄	良好	ヘラ切り、板状痕

(7) C区2面

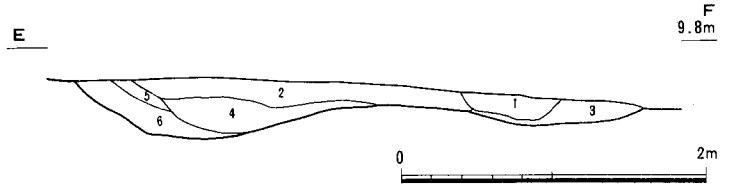
C区2面は標高9.6～9.8mの南側は緑灰色～灰褐色シルト、北側は灰白色粗砂の面で遺構検出をおこなった。溝15条、井戸1基、土坑6基を調査した。全域で遺構を確認したが、北側に分布が偏っている。SK323からは多量の遺物が出土し、その中に墨書土器がみられる。調査面積は検出面で1717㎡である。古代～中世前期の遺構群である。

Ph.123　C区2面全景（上が北西）

SD321（Fig.166・167、Tab.60）

調査区西側に位置する東西方向の溝である。北西寄りでは南岸は発掘区外に伸びる。土層断面図の部分で幅3.8m、深さ40cmである。両端とも発掘区外に伸び、調査区内で検出された長さは54mである。西側は屈曲し、A－1区2面で検出した河川SD13に接続するのではないかと考えられる。

出土遺物をFig.167とTab.60に示す。これらの出土遺物より8世紀後半から9世紀中頃の遺構と考えられる。



1．青灰色シルト　鉄分含む。
2．緑灰色シルト　鉄分含む。
3．灰茶褐色シルト　鉄分含む。
4．灰色粘土
5．灰色シルト　緑灰色シルト含む。
6．緑灰色細砂　鉄分含む。灰色粘土、緑灰色シルト、灰白色細砂を層状に含む。

Fig.166　SD321土層図（1／50）

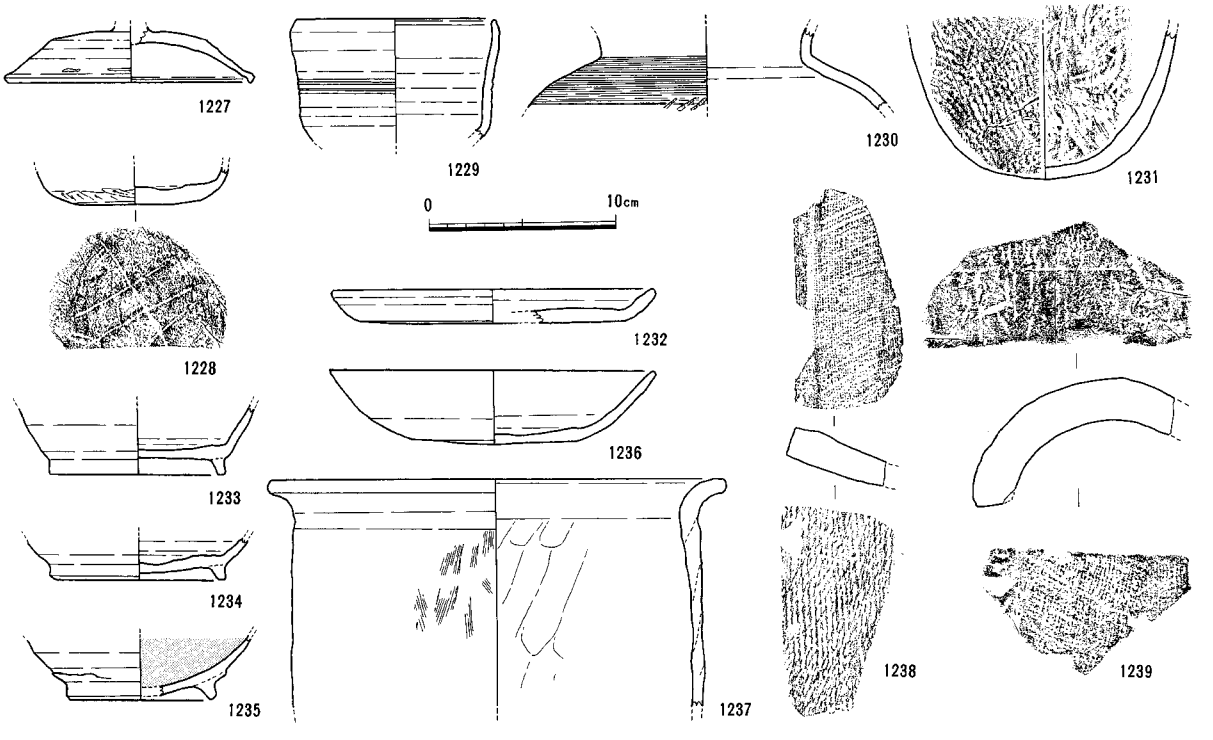


Fig.167　SD321出土遺物実測図（1／4）

Tab.60　SD321出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1227	須恵器・坏蓋	SD321	(13.2)	－	－	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	ヘラ切り未調整
1228	須恵器・壺	SD321	－	－	－	[2.0]	回転ナデ／回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ	灰	良好	ヘラ記号
1229	須恵器・高坏	SD321	(10.6)	－	－	[6.4]	回転ナデ／回転ナデ、中位に2条沈線	淡灰	良好	
1230	須恵器・壺	SD321	－	－	－	[4.2]	回転ナデ／カキ目	暗灰	良好	
1231	須恵器・壺	SD321	－	(14.2)	－	[7.8]	当て具痕／タタキ	暗灰	良好	
1232	土師器・皿	SD321	(17.2)	－	1.8	[14.2]	回転ナデ／回転ナデ、外底回転ヘラケズリ	橙灰	良好	
1233	土師器・椀	SD321	－	－	(9.2)	[3.4]	摩滅／摩滅	淡赤褐	不良	
1234	土師器・椀	SD321	－	－	(9.3)	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	明橙灰	やや不良	ヘラ切り
1235	黒色土器A・椀	SD321	－	－	(8.0)	[4.4]	摩滅／回転ナデ	黒灰／茶灰	良好	ヘラ切り
1236	土師器・坏	SD321	17.3	－	8.8	3.9	回転ナデ／回転ナデ、外底回転ヘラケズリ	赤褐	良好	
1237	土師器・甕	SD321	(24.3)	(21.9)	－	[12.1]	ナデ／ハケ	淡橙灰／暗茶褐～黒褐	良好	
1238	平瓦	SD321	[12.3]	[6.3]	[1.8]		布目／縄目タタキ	茶灰	良好	
1239	丸瓦	SD321	[7.2]	[10.9]	[2.1]		布目／縄目タタキ	茶灰～橙灰	不良	

SD327（Fig.162・168、Ph.124、Tab.61）

調査区東寄りに位置する南北溝である。幅1.0～1.3m、深さ35～40cmを測る。両端とも発掘区外に伸びる。検出された長さは26mである。土層断面図をFig.162に示す。6～9層、あるいは7～9層がSD327の覆土である。SD303の下部で検出される。

出土遺物をFig.168とTab.61に示す。底部ヘラ切りの土師器の坏・小皿や土師器の椀・壺・甕などが出土している。これらの遺物より11世紀初頭から中頃の遺構と考えられる。

Ph.124　SD327（北から）

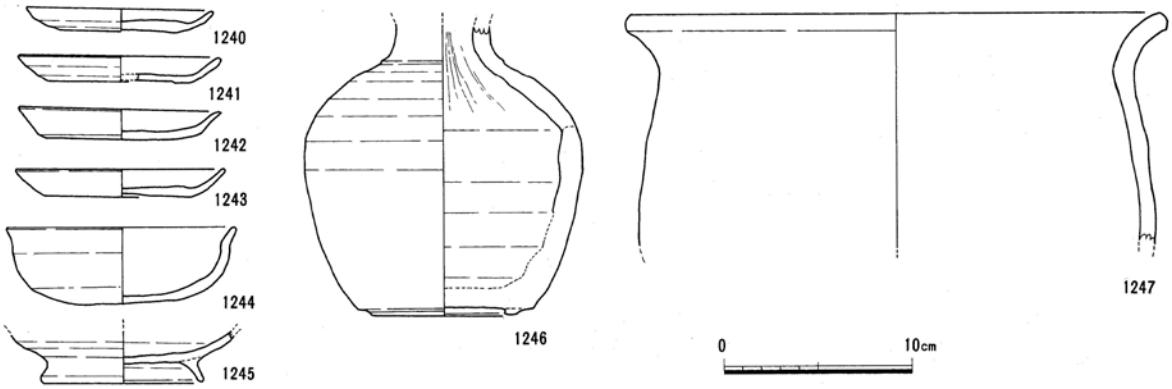


Fig.168　SD327出土遺物実測図（1／4）

Tab.61　SD327出土遺物観察表

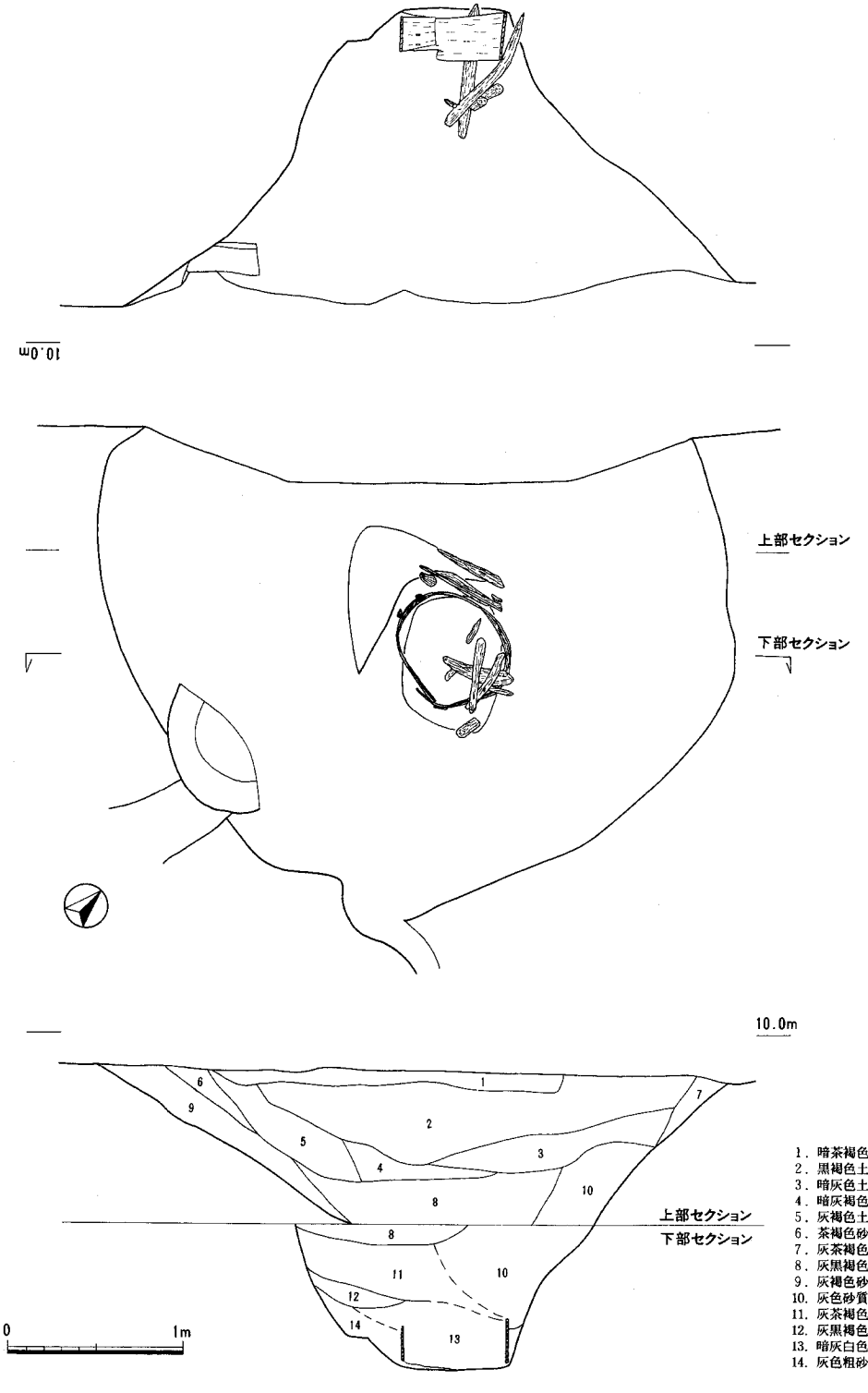
番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1240	土師器・小皿	SD327	(9.8)	－	(6.2)	1.1	回転ナデ／回転ナデ	褐	良好	ヘラ切り
1241	土師器・小皿	SD327	(10.6)	－	(7.8)	1.4	摩滅／摩滅	黄白	不良	ヘラ切り
1242	土師器・小皿	SD327	10.6	－	8.5	1.6	摩滅／摩滅	黄白	不良	ヘラ切り
1243	土師器・小皿	SD327	11.0	－	7.6	1.5	摩滅／摩滅	褐	良好	ヘラ切り
1244	土師器・坏	SD327	12.0	－	9.6	4.1	摩滅／摩滅	黄白	不良	ヘラ切り
1245	土師器・椀	SD327	－	－	8.5	[2.9]	回転ナデ／回転ナデ	淡茶灰	良好	ヘラ切り
1246	土師器・壺	SD327	－	(14.8)	(7.8)	[15.6]	回転ナデ／回転ヘラケズリ	黄白	不良	
1247	土師器・甕	SD327	(28.6)	－	－	[12.4]	摩滅／摩滅	黄褐	良好	外面スス付着

SE308（Fig.169・170、Ph.125、Tab.62）

調査区北寄りに位置する円形曲物組井戸である。北西側は発掘区外に伸びる。SD319を切る。堀方の径は3.6m、深さは1.7mを測る。底面に底板を外した径60cm、高さ26cmの曲物を井筒に据える。井筒固定と保護のためと思われる杭が打たれている。

出土遺物をFig.170とTab.62に示す。これらの遺物から11世紀中頃から12世紀初頭の井戸と考えられる。

Ph.125　SE308（南東から）



1．暗茶褐色土　鉄分、焼土粒、粗砂含む。
2．黒褐色土　鉄分、焼土粒、粗砂含む。
3．暗灰色土　鉄分、黒褐色土含む。粗砂多く含む。
4．暗灰褐色土　粗砂多く含む。
5．灰褐色土　鉄分、黒褐色土、粗砂含む。
6．茶褐色砂質土
7．灰茶褐色砂
8．灰黒褐色土　粗砂含む。
9．灰褐色砂質土
10．灰色砂質土　粗砂含む。
11．灰茶褐色粗砂　灰黒褐色土多く含む。
12．灰黒褐色粘土
13．暗灰白色粗砂　灰黒褐色土含む。
14．灰色粗砂

Fig.169　SE308実測図（1／40）

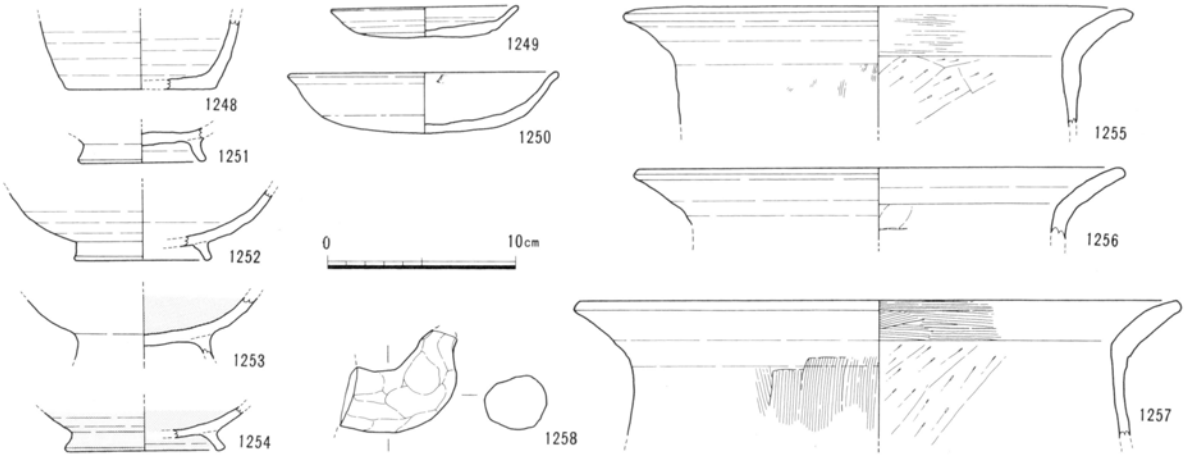


Fig.170　SE308出土遺物実測図（1／4）

Tab.62　SE308出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1248	須恵器・壺	SE308	－	－	(8.0)	[3.7]	回転ナデ／回転ヘラケズリ	灰～暗灰	良好	
1249	土師器・小皿	SE308	10.0	－	6.8	1.6	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り
1250	土師器・丸坏	SE308	(14.2)	－	－	3.2	ミガキ／回転ナデ	黄褐	良好	ヘラ切り
1251	土師器・椀	SE308	－	－	6.8	[1.8]	回転ナデ／回転ナデ	暗灰茶／淡橙灰	良好	ヘラ切り
1252	土師器・椀	SE308	－	－	(7.3)	[3.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	橙灰	良好	ヘラ切り
1253	黒色土器A・椀	SE308	－	－	－	[3.3]	ミガキ／回転ナデ	黒灰／淡茶灰	良好	
1254	黒色土器B・椀	SE308	－	－	(8.5)	[2.3]	ミガキ／回転ナデ	黒褐	良好	
1255	土師器・甕	SE308	(27.0)	－	－	[6.5]	口縁ハケ、ケズリ／ハケ、ナデ	淡橙灰／暗橙灰灰	良好	
1256	土師器・甕	SE308	(26.0)	－	－	[3.8]	頸部ナデ／	橙灰	良好	
1257	土師器・甕	SE308	(32.0)	－	－	[7.3]	口縁ハケ、ケズリ／ハケ	橙灰～茶褐	良好	
1258	土師器・甑把手	SE308	－	－	－	－	ナデ	明橙灰	良好	

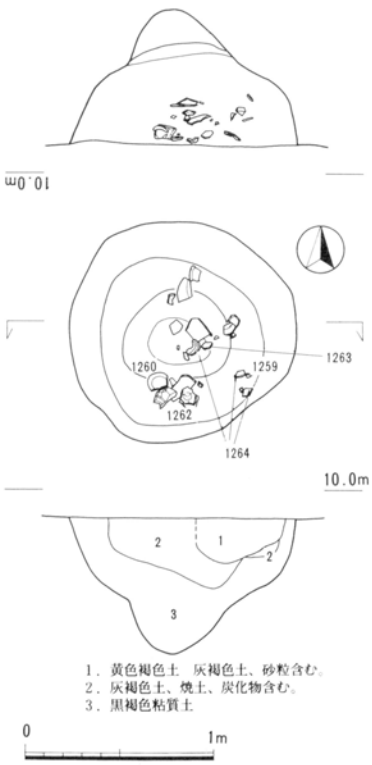


Fig.171　SK309実測図（1／40）

Ph.126　SK309（東から）

SK309（Fig.171・172、Ph.126、Tab.63）

調査区西端に位置する径1.2m、深さ70cmの円形土坑である。深さ50cmのところで径50cmの窪みがある。

1、2層中より遺物がまとまって出土した。出土遺物をFig.172とTab.63に示す。底部ヘラ切りの土師器の坏・皿・椀、黒色土器椀、滑石製石鍋などが出土している。出土遺物より10世紀の遺構と考えられる。

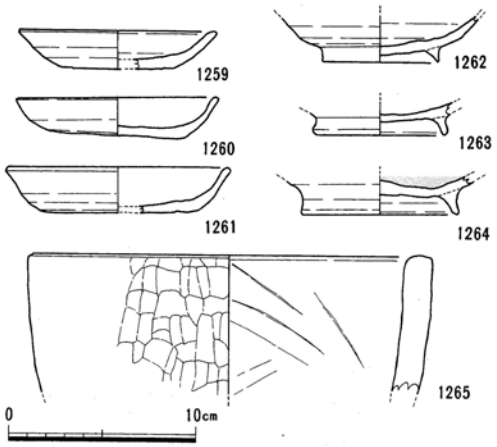


Fig.172　SK309出土遺物実測図（1／4）

Tab.63　SK309出土遺物観察表

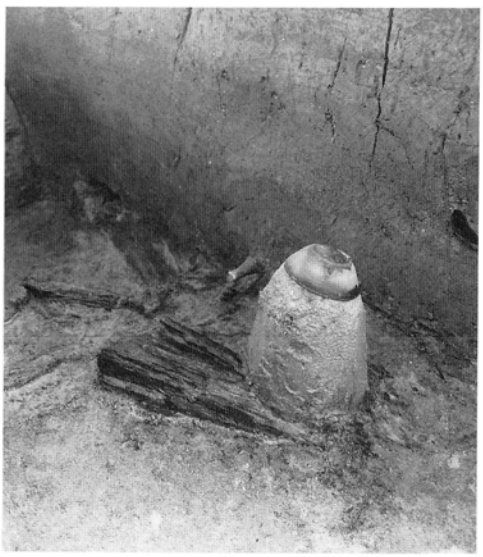
番号	種類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1259	土師器・皿	SK309	(10.6)	－	(6.0)	2.0	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	茶褐／橙灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1260	土師器・坏	SK309	10.8	－	7.3	2.0	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り、板状痕
1261	土師器・坏	SK309	(12.0)	－	(8.3)	2.4	回転ナデ／回転ナデ	淡褐～黄褐	良好	ヘラ切り
1262	土師器・椀	SK309	－	－	6.2	[2.5]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り
1263	土師器・椀	SK309	－	－	(7.2)	[1.8]	回転ナデ／回転ナデ	暗茶褐	良好	ヘラ切り
1264	黒色土器A・椀	SK309	－	－	(8.4)	[2.1]	回転ナデ、ミガキ／回転ナデ	黒灰／淡茶灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1265	石鍋	SK309	(21.5)	－	－	[7.4]	ケズリ／ケズリ	灰		外面スス付着

SK323（Fig.173～175、Ph.127・128、Tab.64）

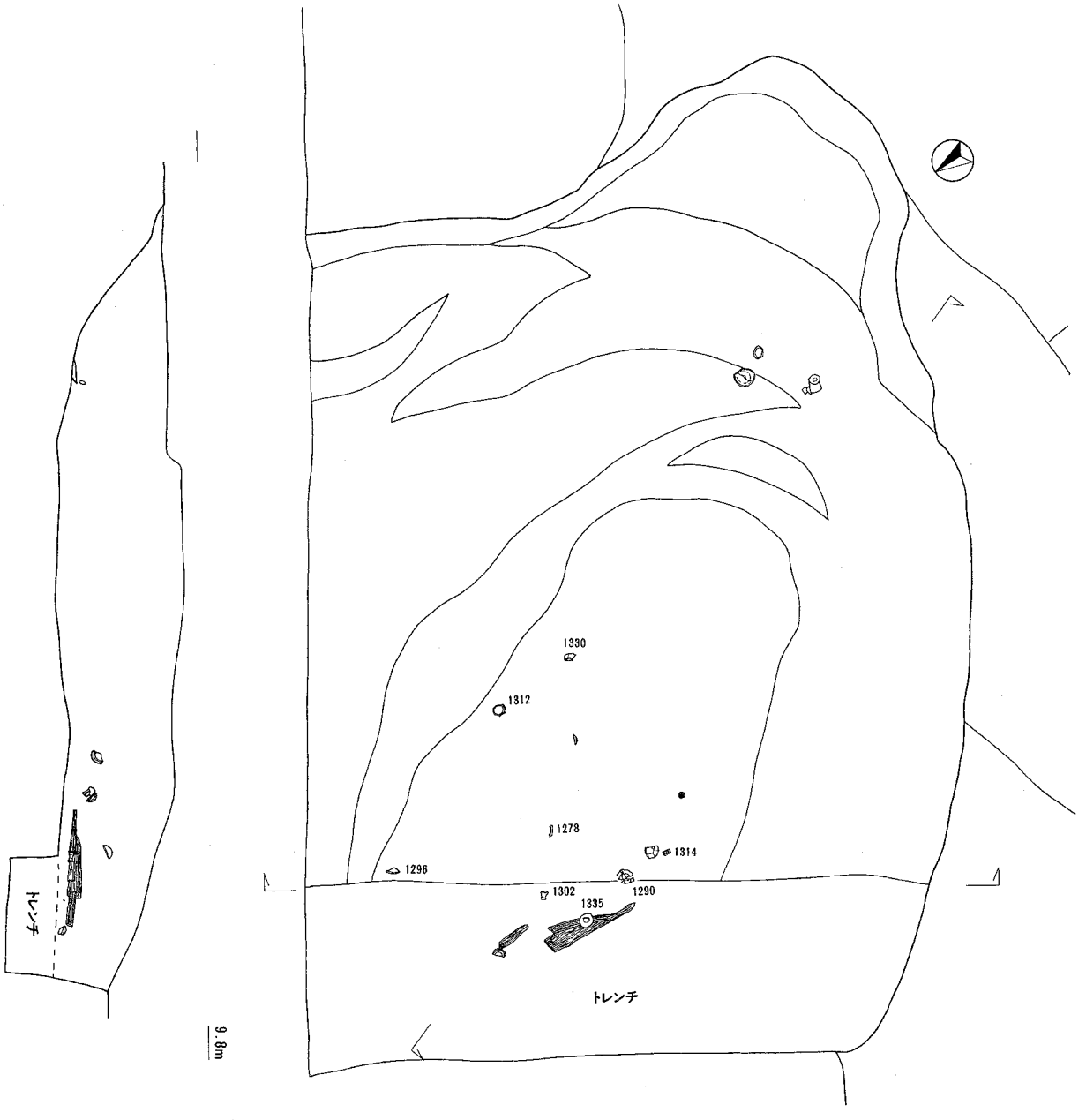
調査区北寄りに位置する大形の土坑である。大半が調査区外に伸びる。径は10m分確認している。深さは1.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。SK315に切られる。

出土遺物をFig.174・175とTab.64に示す。須恵器の坏、皿、甕、蓋、土師器の坏、椀、甕、黒色土器椀などが出土している。特筆されるものに墨書土器がある。須恵器1275・1276・1277・1278・1280・1283と土師器1309・1310・1311は同一記号が記されている。1275は「田」に見えるが、その他の墨書より記号「丸に十字」と考えられる。1266は坏蓋のつまみに「柔」、1281・1279にも墨書がみられる。その他特筆されるものとして、土師器の耳皿、邢窯系白磁碗がある。

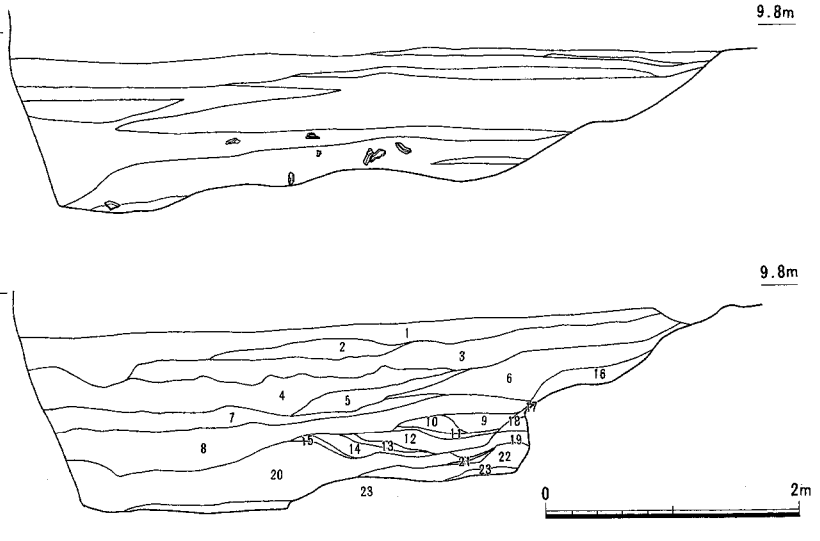
Ph.127　SK323（南西から）



Ph.128　SK323遺物出土状況（西から）



1．灰褐色土　3より暗い。砂粒多く含む。
　炭化物含む。
2．暗灰褐色土　炭化物多量含む。鉄分含む。
3．灰褐色土　1より明るい。砂粒、
　炭化物含む。
4．灰褐色粘土　砂粒含む。
5．灰褐色土　砂粒多く含む。
6．灰褐色シルト　砂粒多く含む。
7．灰褐色粘土
8．暗灰褐色粘土
9．暗茶褐色砂
10．灰色細砂～シルト
11．黒褐色土、木質含む。
12．灰白色細砂
13．黒褐色土、木質含む。
14．灰色細砂～シルト
15．黒褐色土、木質含む。
16．暗灰色粗砂
17．灰色細砂
18．灰色粘土～シルト　木質含む。
19．黄褐色粗砂
20．暗灰褐色シルト～細砂
21．黄褐色粗砂
22．灰色シルトと細砂の互層
23．黄褐色粗砂
1～3：SK323　上層
4～7：SK323　中層
8：SK323　下層
9～23：自然層



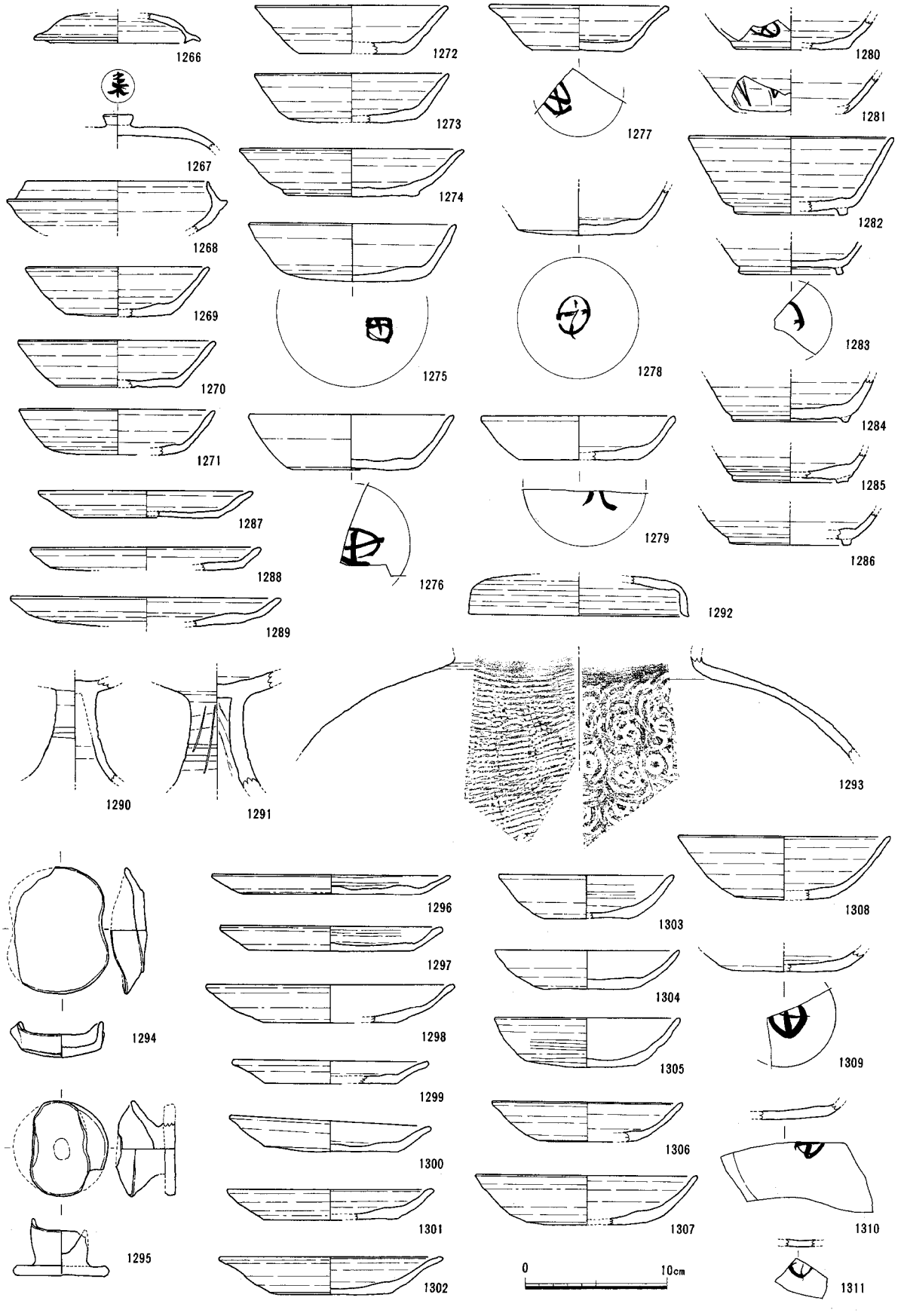


Fig.174　SK323出土遺物実測図　1（1／4）

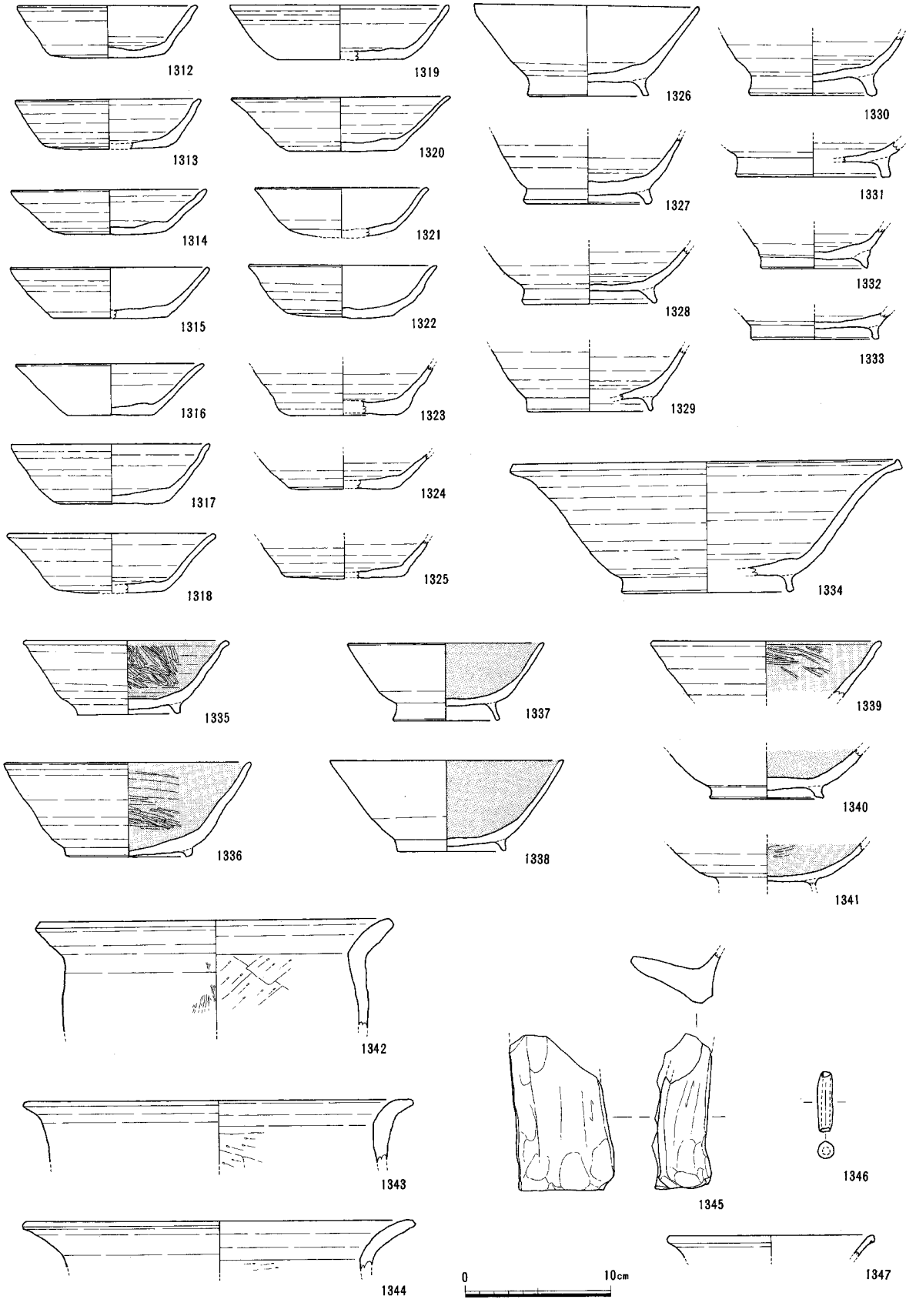


Fig.175　SK323出土遺物実測図　2（1／4）

Tab.64　SK323出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1266	須恵器・坏蓋	上層	(9.4)	—	—	[2.1]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰／黒褐	良好	
1267	須恵器・蓋	トレンチ	—	—	—	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	つまみに墨書
1268	須恵器・坏身	上層	(12.8)	—	—	[3.6]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	
1269	須恵器・坏	下層	(12.8)	—	(7.5)	3.5	回転ナデ／回転ナデ	淡灰	良好	ヘラ切り
1270	須恵器・坏	中層	(13.8)	—	(8.7)	3.3	回転ナデ／回転ナデ	灰	やや不良	ヘラ切り
1271	須恵器・坏	下層	(13.7)	—	(9.4)	3.2	回転ナデ／回転ナデ	淡青灰	良好	ヘラ切り
1272	須恵器・坏	トレンチ	(13.6)	—	(7.4)	3.4	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	灰白	良好	ヘラ切り
1273	須恵器・坏	下層	(13.7)	—	(8.9)	3.5	回転ナデ／回転ナデ	暗青灰	良好	ヘラ切り
1274	須恵器・坏	下層	(15.8)	—	(9.6)	3.3	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	やや良好	ヘラ切り
1275	須恵器・坏	下層	14.6	—	9.9	4.0	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り、外底に墨書
1276	須恵器・坏	下層	(14.4)	—	(8.2)	3.9	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り、外底に墨書
1277	須恵器・坏	下層	(12.7)	—	(6.2)	3.2	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	ヘラ切り、外底に墨書
1278	須恵器・坏		—	—	(8.5)	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	やや不良	ヘラ切り、外底に墨書
1279	須恵器・坏	下層	(13.6)	—	(8.6)	3.1	回転ナデ／回転ナデ	淡灰白	不良	ヘラ切り、外底に墨書
1280	須恵器・坏	中層	(8.3)	—	—	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ	灰／明灰	良好	ヘラ切り、体外面に墨書
1281	須恵器・坏	中層	—	—	(8.4)	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ	灰茶	良好	ヘラ切り、体外面に墨書
1282	須恵器・高台付坏	中層	(14.6)	—	(8.1)	5.5	回転ナデ／回転ナデ	淡青灰／淡灰	良好	ヘラ切り
1283	須恵器・高台付坏	下層	—	—	(7.5)	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ	灰／灰白	良好	ヘラ切り、外底に墨書
1284	須恵器・高台付坏	上層	—	—	8.3	[3.1]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	青灰	良好	ヘラ切り
1285	須恵器・高台付坏	中層	—	—	(8.2)	[2.3]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	青灰	良好	ヘラ切り
1286	須恵器・高台付坏	上層	—	—	(8.6)	[2.5]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	青灰	良好	
1287	須恵器・皿	中層	(15.0)	—	(10.1)	1.9	回転ナデ／回転ナデ	橙灰～暗灰	良好	ヘラ切り
1288	須恵器・皿	下層	(16.2)	—	(13.4)	1.7	回転ナデ／回転ナデ	黄灰	良好	ヘラ切り
1289	須恵器・皿	中層	(19.0)	—	(13.8)	[2.1]	回転ナデ／回転ナデ	青灰～灰／青灰	良好	ヘラ切り
1290	須恵器・高坏		—	—	—	[6.4]	回転ナデ／回転ナデ、脚部2条沈線	灰	良好	
1291	須恵器・高坏	中層	—	—	—	[8.3]	坏部回転ナデ、脚部シボリ痕／回転ナデ	青灰／黒灰	良好	脚にヘラ記号
1292	須恵器・広口壺蓋	トレンチ	(15.5)	—	—	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗黒灰～淡青灰	良好	
1293	須恵器・甕		—	—	—	[7.3]	当て具痕／タタキ	青灰／暗灰	良好	
1294	土師器・耳皿	中層	6.2～9.0	—	3.4～5.8	1.6～2.4	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り
1295	土師器・耳皿	中層	3.8～7.0	—	(6.6)	3.2～4.2	回転ナデ／回転ナデ	淡黄褐	良好	ヘラ切り
1296	土師器・皿		(17.0)	—	(13.3)	1.3	回転ミガキ／回転ナデ、外底回転ヘラケズリ	淡黄褐	良好	
1297	土師器・皿	下層	(15.8)	—	(11.4)	1.7	回転ミガキ／回転ミガキ、外底回転ヘラケズリ	淡赤褐	良好	ヘラ切り
1298	土師器・皿	下層	(17.6)	—	(9.4)	2.7	回転ミガキ／回転ナデ、体部下半～外底回転ヘラケズリ	褐	良好	
1299	土師器・皿	中層	(13.8)	—	(9.2)	1.6	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	やや不良	ヘラ切り
1300	土師器・皿	中層	14.2	—	9.3	2.2	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り
1301	土師器・皿	中層	(14.6)	—	(9.4)	2.2	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	やや不良	ヘラ切り
1302	土師器・皿		(15.8)	—	(8.8)	2.6	回転ナデ／回転ナデ	淡赤褐	良好	ヘラ切り
1303	土師器・坏	下層	(12.2)	—	(5.8)	3.1	回転ミガキ／回転ナデ、体部下半～外底回転ヘラケズリ	暗褐	良好	
1304	土師器・坏	下層	(13.0)	—	(6.2)	2.7	回転ミガキ／回転ミガキ、外底回転ヘラケズリ	淡赤褐	良好	
1305	土師器・坏	トレンチ	13.2	—	7.8	3.5	回転ミガキ／回転ミガキ、外底回転ヘラケズリ	淡褐	やや良好	
1306	土師器・坏	上層	(13.4)	—	(6.9)	2.8	回転ナデ／回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ	淡橙灰	良好	
1307	土師器・坏	下層	(15.6)	—	(10.8)	3.5	回転ナデ／回転ナデ、体上部～外底回転ヘラケズリ	淡茶褐	良好	
1308	土師器・坏	上層	(15.0)	—	(6.8)	4.5	回転ミガキ／回転ナデ、体部下半～外底回転ヘラケズリ	淡橙灰	良好	
1309	土師器・坏	トレンチ	—	—	(7.4)	[1.6]	回転ナデ／回転ヘラケズリ	淡赤褐	良好	外底に墨書
1310	土師器・皿	下層	—	—	—	—	回転ナデ／回転ヘラケズリ	淡赤褐	良好	外底に墨書
1311	土師器・坏	下層	—	—	—	—	回転ナデ／回転ヘラケズリ	淡赤褐	やや不良	外底に墨書
1312	土師器・坏		(12.4)	—	(7.8)	3.6	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄褐	やや良好	ヘラ切り、板状痕
1313	土師器・坏	中層	(12.8)	—	(8.3)	3.4	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り
1314	土師器・坏		(13.4)	—	(6.4)	3.1	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	ヘラ切り、板状痕
1315	土師器・坏	トレンチ	(13.6)	—	(7.8)	3.5	摩滅／回転ナデ	淡褐	不良	ヘラ切り
1316	土師器・坏	中層	(13.0)	—	(6.0)	3.5	摩滅	淡橙	不良	ヘラ切り
1317	土師器・坏	中層	(13.6)	—	(7.8)	4.1	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	不良	ヘラ切り
1318	土師器・坏	中層	(14.3)	—	(7.3)	4.2	回転ナデ／回転ナデ	灰褐	良好	ヘラ切り
1319	土師器・坏	中層	(15.0)	—	(12.6)	3.8	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	不良	ヘラ切り
1320	土師器・坏	中層	(15.1)	—	(8.0)	3.7	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰／淡灰褐～淡橙灰	良好	ヘラ切り
1321	土師器・坏		(12.0)	—	(7.4)	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ	褐	不良	ヘラ切り
1322	土師器・坏		13.0	—	7.5	3.6	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	不良	ヘラ切り
1323	土師器・坏	中層	—	—	(8.0)	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り、板状痕
1324	土師器・坏	中層	—	—	(7.7)	[2.4]	回転ナデ／回転ナデ	赤灰褐	やや不良	ヘラ切り
1325	土師器・坏	中層	—	—	(8.2)	[2.6]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り
1326	土師器・椀		15.5	—	8.4	6.3	摩滅	淡黄白	やや不良	ヘラ切り
1327	土師器・椀		—	—	8.8	[4.8]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	ヘラ切り
1328	土師器・椀	中層	—	—	9.3	[3.9]	回転ナデ／回転ナデ、外底回転ヘラケズリ	淡橙灰	やや不良	ヘラ切り
1329	土師器・椀	中層	—	—	8.7	[4.4]	回転ナデ／回転ナデ	橙灰	良好	ヘラ切り
1330	土師器・椀		—	—	(8.8)	[4.2]	回転ナデ／回転ナデ	淡橙灰	良好	

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1331	土師器・椀	中層	－	－	(10.7)	[2.5]	回転ナデ／回転ナデ	灰茶～暗茶褐／淡橙灰～橙灰	良好	ヘラ切り
1332	土師器・椀	上層	－	－	7.4	[2.7]	回転ナデ／回転ナデ	橙灰／茶灰	良好	ヘラ切り
1333	土師器・椀	中層	－	－	(8.9)	[1.8]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰茶～淡橙灰	不良	ヘラ切り
1334	土師器・大椀	トレンチ	(27.0)	－	(11.9)	9.0	回転ナデ／回転ナデ、体下部～外底回転ヘラケズリ	茶灰～暗茶褐／茶灰	良好	
1335	黒色土器A・椀		14.0	－	(7.1)	5.1	ミガキ／回転ナデ	暗灰／淡褐	良好	ヘラ切り
1336	黒色土器A・椀	中層	(16.8)	－	(8.6)	6.5	ミガキ／回転ナデ、体下部～外底回転ヘラケズリ	黒／褐	良好	ヘラ切り
1337	黒色土器A・椀	トレンチ	(13.4)	－	(7.4)	5.4	摩滅／ミガキ？	黒／淡褐	不良	ヘラ切り
1338	黒色土器A・椀	中層	8.0	－	7.4	6.3	ミガキ／回転ナデ、体下部回転ヘラケズリ	黒／褐	不良	ヘラ切り
1339	黒色土器A・椀	中層	(15.9)	－	－	[3.9]	ミガキ／回転ナデ	黒灰～黒褐／褐	良好	
1340	黒色土器A・椀	上層	－	－	(7.8)	[3.4]	ミガキ／摩滅	黒灰／橙灰	良好	ヘラ切り
1341	黒色土器A・椀		－	－	－	[3.0]	ミガキ／回転ナデ	黒灰／淡橙灰	良好	ヘラ切り
1342	土師器・甕	中層	(24.6)	－	－	[7.7]	ケズリ／ハケ	淡茶灰／淡橙灰	良好	
1343	土師器・甕	中層	(23.8)	－	－	[4.4]	ケズリ／ナデ	灰褐	やや不良	
1344	土師器・甕	中層	(27.0)	－	－	[3.6]	ケズリ／	淡橙灰／茶褐灰	良好	
1345	土師器・竈	下層	－	－	－	－	ナデ／ナデ	茶灰／橙灰	良好	
1346	土錘	上層	長4.2	径1.0	重			淡黄白	良好	
1347	邢窯系白磁・碗	上層	(14.3)	－	－	[1.5]	回転ナデ／回転ナデ	黄白	良好	釉：淡青白透明

出土遺物より8世紀後半から9世紀の遺構と考えられる。

その他の遺構と遺物（Fig.176・177　Tab.65～67）

その他のC区2面の遺構の概要をTab.65に示し、出土遺物をFig.176・177とTab.66・67に示す。調査区北寄りで溝が多数検出されたが出土遺物は少ない。SD310とSD318は接続して区画溝となるか。SK322は調査区壁の土層から上層からの掘り込みであると確認された。肥前系の陶器が出土しており、近世の遺構である。

Tab.65　その他のC区2面の遺構

遺構番号	種　類	遺構の概要	時期
SD310	区画溝？	調査区北寄りに位置する。幅0.9～1.3m、深さ10～20cm。5.5m分確認した。南側で直角に屈曲する。SD311を切る。北側は発掘区外に伸びる。SD318と接続するか。	古代
SD311	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.6～0.7m、深さ35cm。4.6m分確認した。SD310に切られる。北側は発掘区外に伸びる。	
SD312	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅1.2～2.0m、深さ10～20cm、長さ8.6m。SD317を切る。	
SD313	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.4～0.9m、深さ5～15cm、長さ9.1m。	古代
SD314	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.7～0.8m、深さ10cm、長さ4.4m。SD316を切る。	
SK315	楕円形土坑	調査区北寄りに位置する。長軸10.1m、短軸3.1m、深さ20cm。SK323を切る。	13C前半
SD316	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.8～0.9m、深さ20cm。3.0m分確認した。SD314に切られる。東側は調査区外に伸びる。	
SD317	南北溝	調査区北寄りに位置する。南側で分岐している。東側で幅0.7～2.1m、深さ15～30cm。15.8m分確認した。西側の溝は深さ5cmと浅く、別の溝の可能性が高い。SD312・321に切られる。南側は調査区外に伸びる。	
SD318	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅1.0～1.9m、深さ20～40cm、長さ6.7m。SD310に接続するか。	古代
SD319	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.4～1.1m、深さ15～35cm。5.7m分確認した。北側でSE308に切られる。	
SD320	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.7～0.9m、深さ10～25cm、長さ7.8m。	古代
SK322	土坑	調査区中央部に位置する。長軸8.3m＋α、短軸4.5m＋α、深さ1.7m。大半が発掘区外に伸びる。上層からの掘り込みである。	近世
SD324	東西溝	調査区東寄りに位置する。幅0.7～1.2m、深さ10～30cm。10.0m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD325を切る。	
SD325	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.2～0.6m、深さ20cm。12.2m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD324に切られる。	
SK326	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.3m、短軸1.0m、深さ50cm。	
SD328	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.4～0.7m、深さ15～30cm。1.5m分確認した。南側は調査区外に伸びる。	
SK329	略円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.2m、短軸1.0m、深さ15cm。	

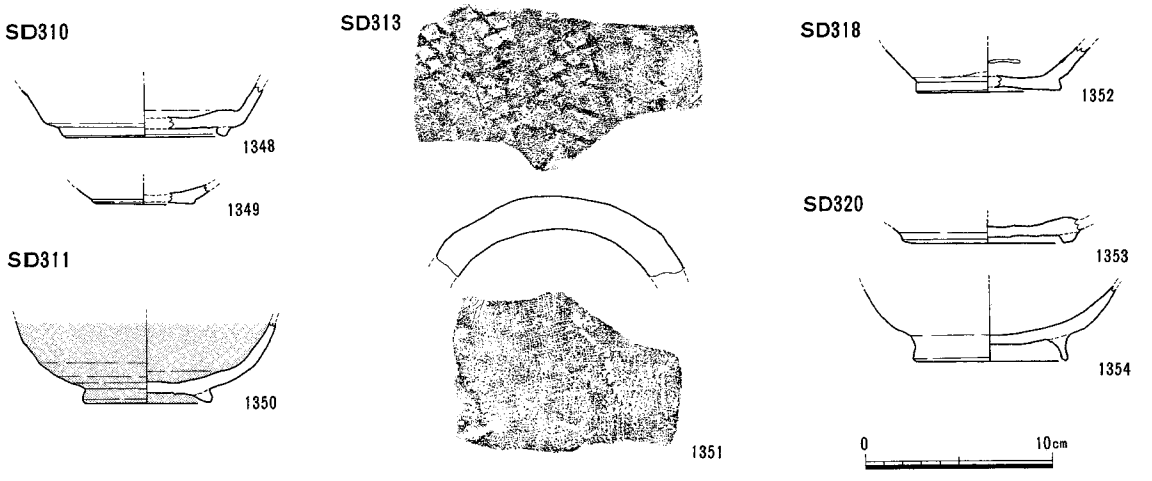


Fig.176　SD310・311・313・318・320出土遺物実測図（1／4）

Tab.66　SD310・311・313・318・320出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備　考
1348	須恵器・高台付坏	SD310	－	－	(8.8)	[3.0]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	ヘラ切り
1349	緑釉陶器・皿	SD310	－	－	(5.5)	[1.2]	ミガキ／回転ナデ	淡黄白	良好	釉：全釉、淡黄緑不透明
1350	黒色土器B・椀	SD311	－	－	(6.8)	[4.4]	摩滅／摩滅	明褐～灰黒	不良	土師質
1351	丸瓦	SD313	－	－	－	－	布目／格子目タタキ	淡灰黒	不良	
1352	越州窯青磁・碗	SD318	－	－	(7.8)	[2.2]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	釉：半釉、黄オリーブ不透明、化粧土、内底目土
1353	須恵器・高台付坏	SD320	－	－	(9.2)	[1.3]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡灰／淡茶灰	良好	ヘラ切り
1354	土師器・椀	SD320	－	－	(8.2)	[4.0]	摩滅／摩滅	淡褐	不良	

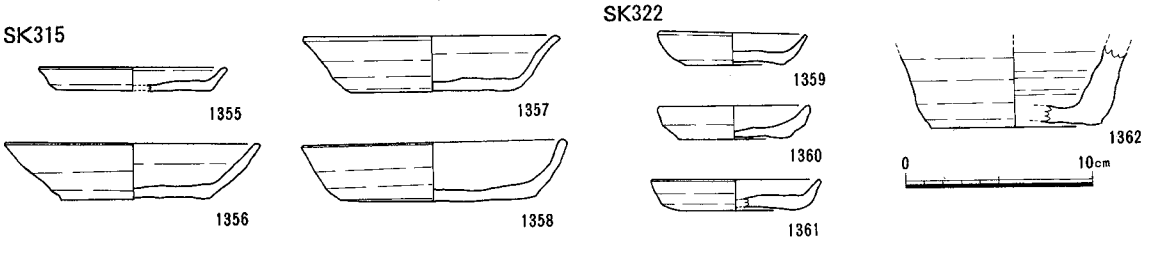


Fig.177　SK315・322出土遺物実測図（1／4）

Tab.67　SK315・322出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備　考
1355	土師器・小皿	SK315	(10.0)	－	(8.4)	1.2	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り、板状痕
1356	土師器・坏	SK315	13.4	－	8.0	3.0	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	糸切り、板状痕
1357	土師器・坏	SK315	(13.6)	－	(8.6)	2.9	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	赤黄白	良好	糸切り、板状痕
1358	土師器・坏	SK315	14.1	－	10.3	3.1	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	糸切り、板状痕
1359	土師器・小皿	SK322	8.0	－	5.4	1.7	回転ナデ／回転ナデ	淡黄褐	良好	糸切り
1360	土師器・小皿	SK322	(8.2)	－	(6.0)	1.7	回転ナデ／回転ナデ	淡黄白	良好	糸切り
1361	土師器・小皿	SK322	(9.0)	－	(5.7)	1.6	回転ナデ／回転ナデ	淡褐	良好	糸切り
1362	施釉陶器・壺	SK322	－	－	(9.2)	[4.3]	轆轤痕／回転ナデ	暗灰	良好	釉：淡灰黄不透明、陶器B群

(8) C区３面

調査区南東端に１面検出時に開けたトレンチにより、古墳時代の溝らしきものが見つかっており、遺構面の存在が予想されていた。標高9.3mの黒褐色粘土面で灰黒色～暗灰色粘質土を覆土にする遺構が検出されたが、更に10cm下の茶褐色粘土面まで下げた。茶褐色粘土の面まで下げると新たに黒褐色粘土の覆土をもつ遺構らしきものが増えたが、掘ってみると小さな自然の窪みであり、茶褐色粘土面には遺構は存在しなかった。黒褐色粘土面が存在するのは１面で検出したSD304より東側に限られた。よって遺構もC区東側３分の１程度までしか広がらなかった。掘立柱建物５棟、溝・河川６条、性格不明遺構１基を調査した。調査面積は遺構検出面で430㎡である。古墳時代中期～後期初頭の遺構群と考えられる。

Ph.129　C区３面全景（南東から）

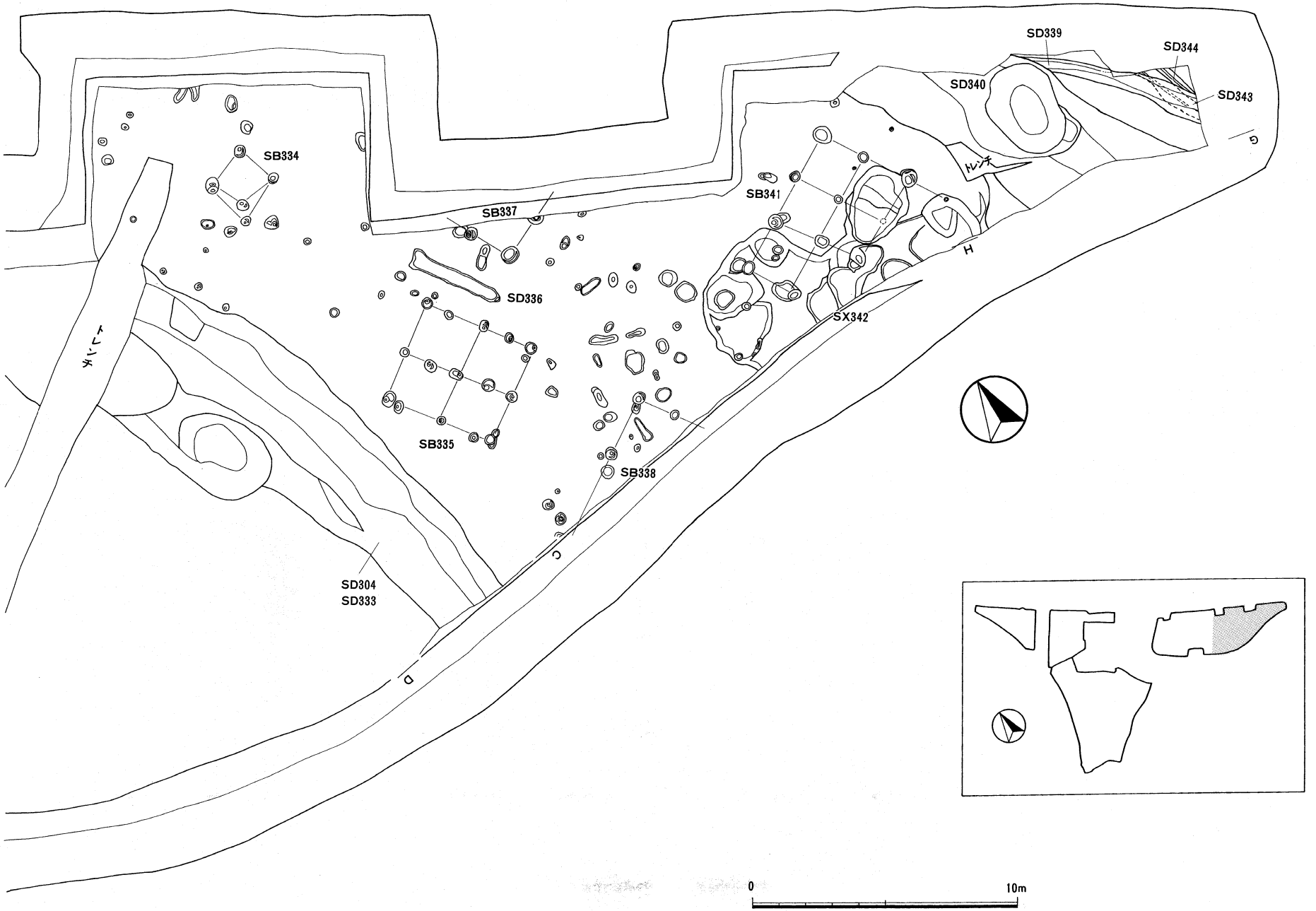
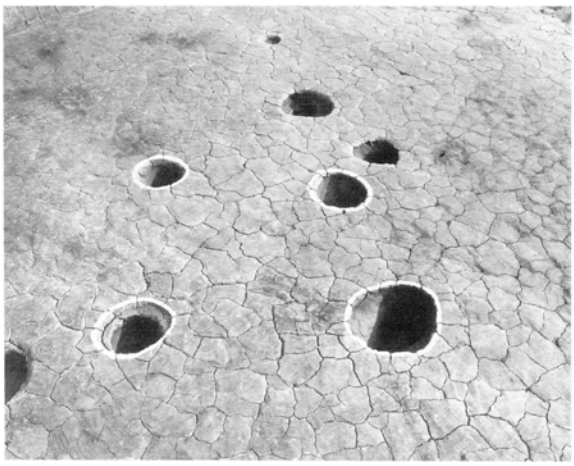


Fig.178　C区3面全体図（1／200）

SB334（Fig.179　Ph.131）

調査区東寄りで検出した１間×１間の建物である。周囲に組み合う柱穴がなく１間×１間で完結してしまった。南西の柱穴が２基あり、どちらが建物を構成する柱穴か判断できなかった。1.8m四方の規模である。柱穴の堀方は径40cmの円形である。深さは50cmである。

Ph.130　建物群（南東から）



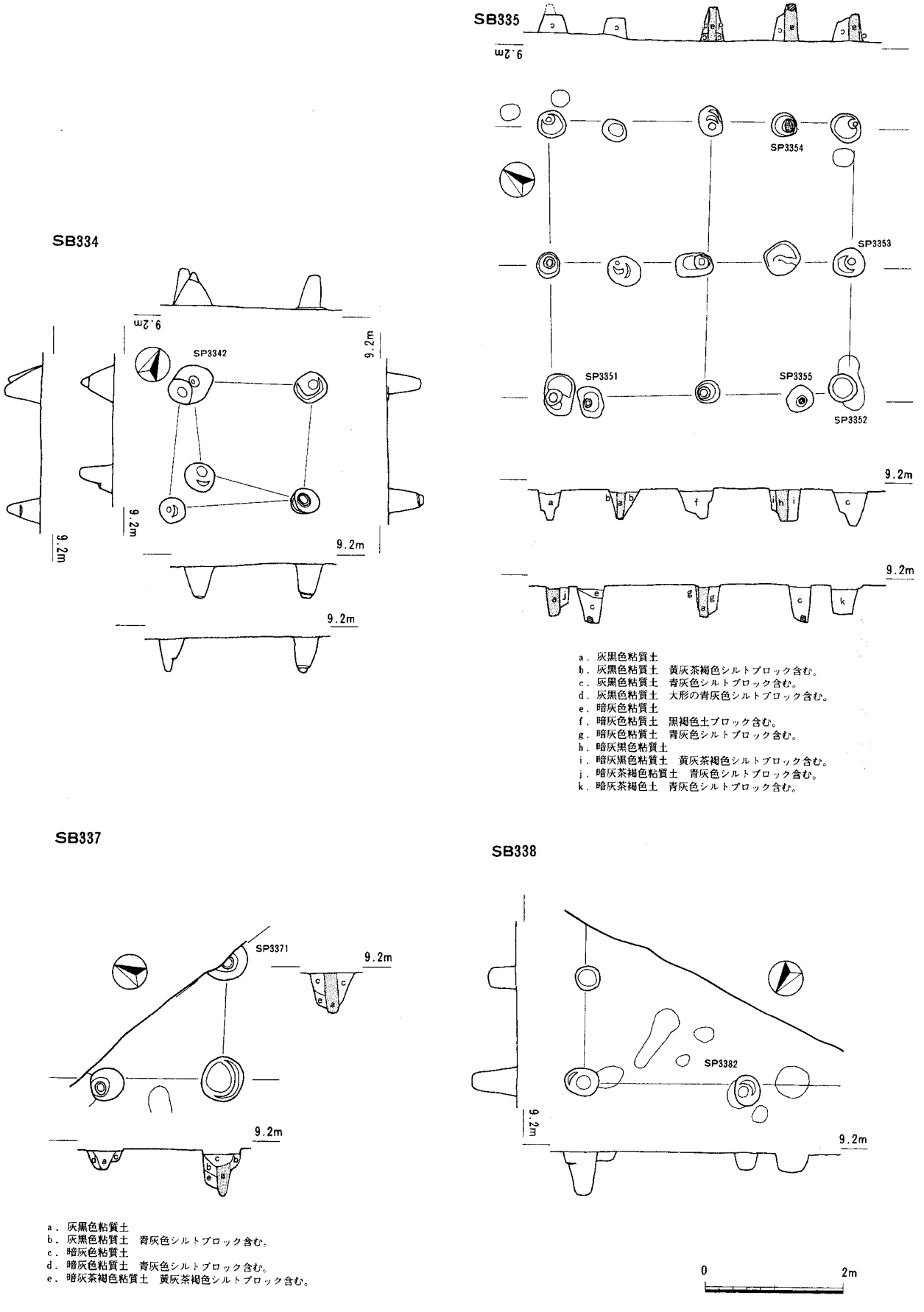
Ph.131　SB334（北から）

Ph.132　SB335（北東から）

Ph.133　SB337（南東から）

Ph.134　SB338（北東から）

Ph.135　SB341（北東から）



a．灰黒色粘質土
b．灰黒色粘質土　黄灰茶褐色シルトブロック含む。
c．灰黒色粘質土　青灰色シルトブロック含む。
d．灰黒色粘質土　大形の青灰色シルトブロック含む。
e．暗灰色粘質土
f．暗灰色粘質土　黒褐色土ブロック含む。
g．暗灰色粘質土　青灰色シルトブロック含む。
h．暗灰黒色粘質土
i．暗灰黒色粘質土　黄灰茶褐色シルトブロック含む。
j．暗灰茶褐色粘質土　青灰色シルトブロック含む。
k．暗灰茶褐色土　青灰色シルトブロック含む。

a．灰黒色粘質土
b．灰黒色粘質土　青灰色シルトブロック含む。
c．暗灰色粘質土
d．暗灰色粘質土　青灰色シルトブロック含む。
e．暗灰茶褐色粘質土　黄灰茶褐色シルトブロック含む。

Fig.179　SB334・335・337・338実測図（1／80）

SB335（Fig.179、Ph.132）

調査区東寄りで検出した2間×2間の掘立柱建物である。南北筋にはそれぞれ柱穴の間に補助柱の柱穴がある。建物規模は南北4.4m、東西4.0mである。柱穴の堀方は径40～50cmの円形で、深さは30～50cmである。柱根が残るものもある。東側に南北柱筋と平行する溝SD336があり建物の付属施設の可能性がある。

SB337（Fig.179、Ph.133）

調査区東寄りで検出した掘立柱建物で、東側は調査区外に伸びる。調査区内では1間×1間を確認した。柱間は1.7mを測る。柱穴堀方は50～60cmの円形で、深さ30～70cm。径18cmほどの柱痕跡を残す。

SB338（Fig.179、Ph.134）

調査区東寄りで検出した掘立柱建物で、南側は調査区外に伸びる。調査区内では1間×1間を確認した。南北の柱間は1.7m、東西の柱間は2.3mである。柱筋はSB335と同一である。柱穴の堀方は径40～50cmの円形、深さは25～60cm。

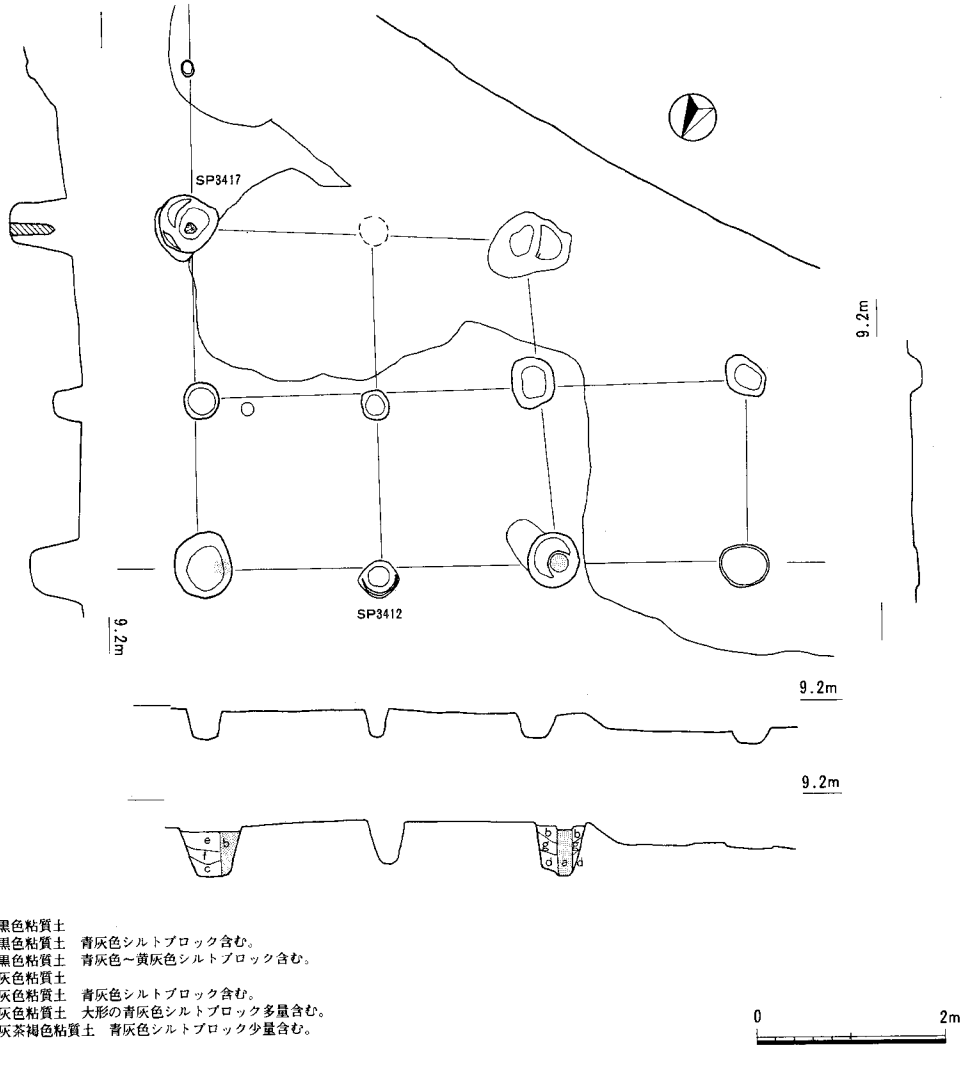


Fig.180　SB341実測図（1／80）

SB341（Fig.180、Ph.135）

調査区東寄りで検出した掘立柱建物である。Fig.180には3間×3間の規模を図示した。建物規模は南北5.4m、東西5.7mであり、南側は調査区外に伸びる。ただし、南側と西側はSX342に切られており、柱穴がはっきりしなかった。南側と西側の1分は伸びない可能性があり、確実に建物といえる規模は3.8m四方の2間×2間である。柱筋はSB335・338と同一である。柱穴の堀方は径30～60cmの円形で、深さは30～60cm、柱根が残るものもある。

SD340（Fig.181・182、Ph.136、Tab.68）

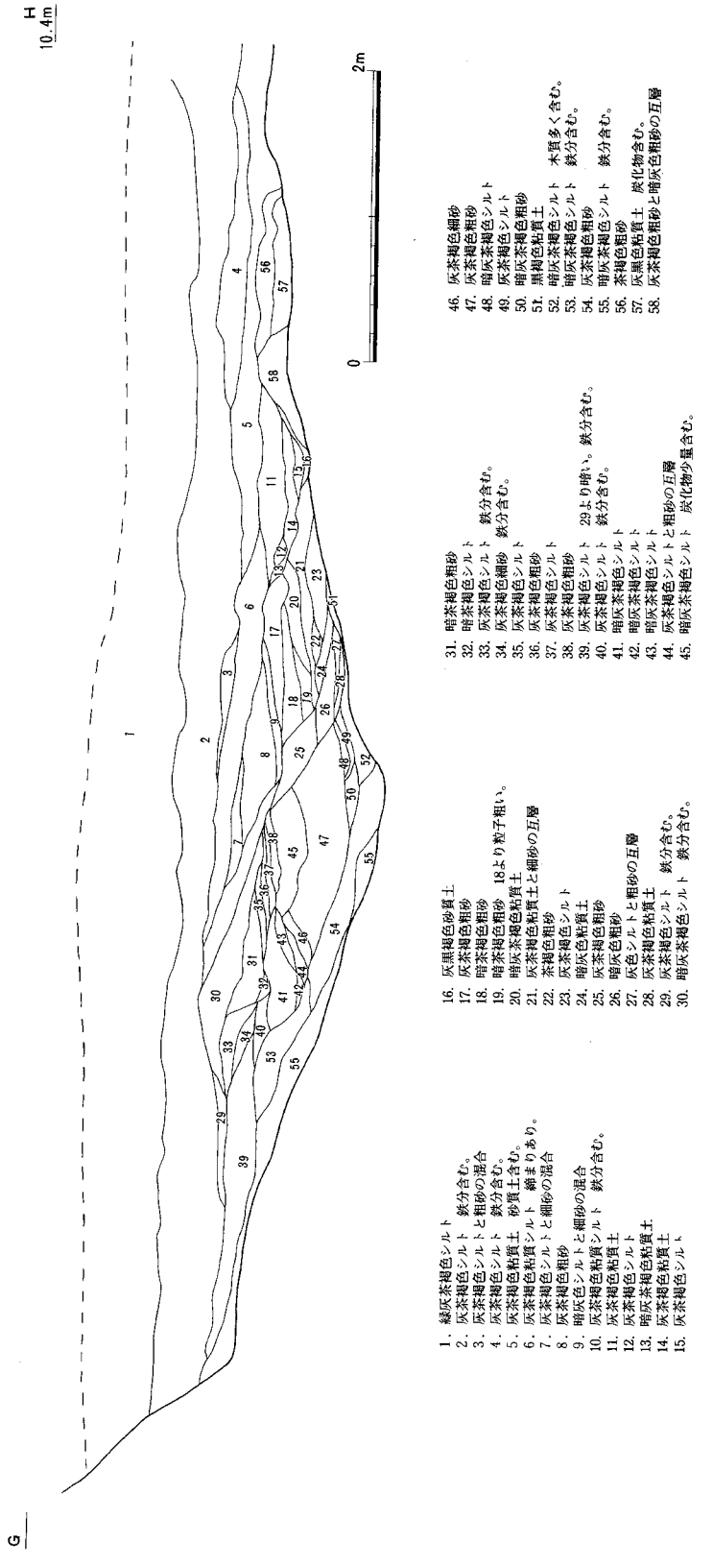
調査区東端で検出した南北方向に流れる河川である。幅は約4～5m、深さは80～110cmを測る。中央部が深く窪んでおり、この部分の深さは170cm程である。両端は発掘区外に伸び、長さは8m分しか確認できていない。Fig.181に調査区南壁での土層断面図を示す。細い小溝となって流路を変えながら埋没していく状況が観察できる。覆土はシルト～細砂で比較的強い流れがあったようである。

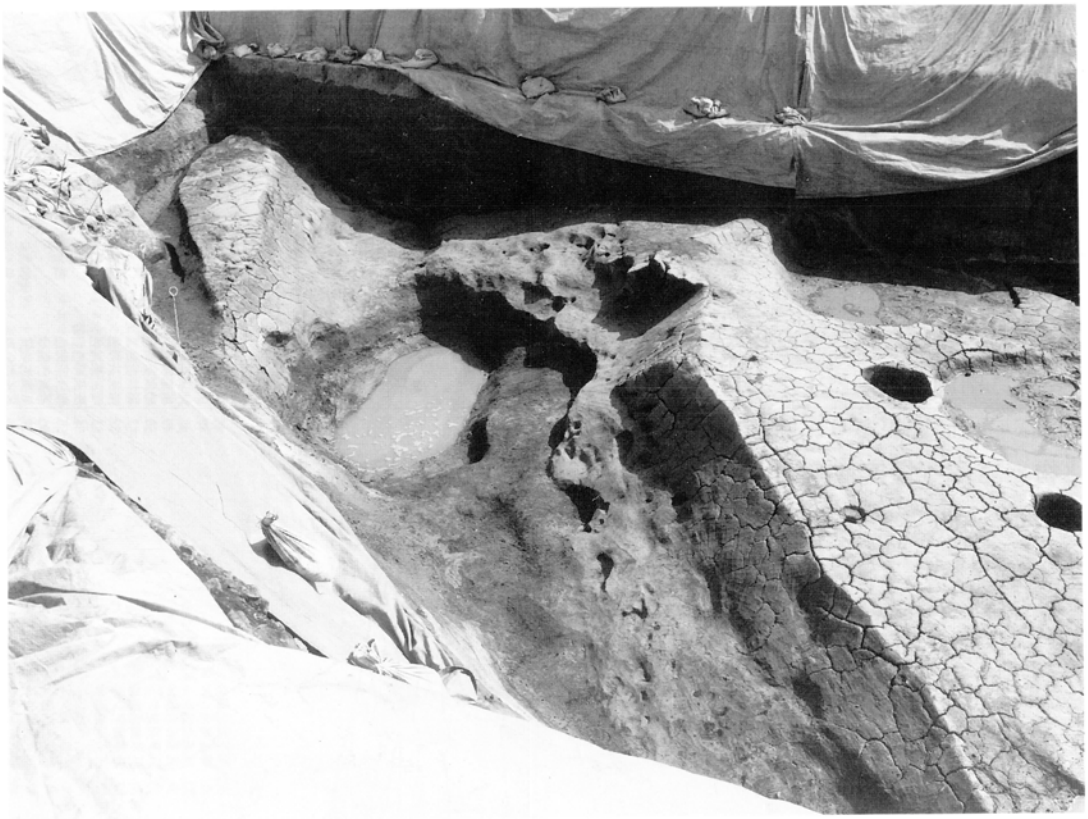
出土遺物をFig.182とTab.68に示す。A－1区で検出した河川SD14より若干新しい様相を示す。

その他の遺構と遺物

（Fig.183・184　Tab.69～71）

その他のC区3面の遺構の概要をTab.69に示し、出土遺物をFig.183・184とTab.70・71





Ph.136　SD340（北から）

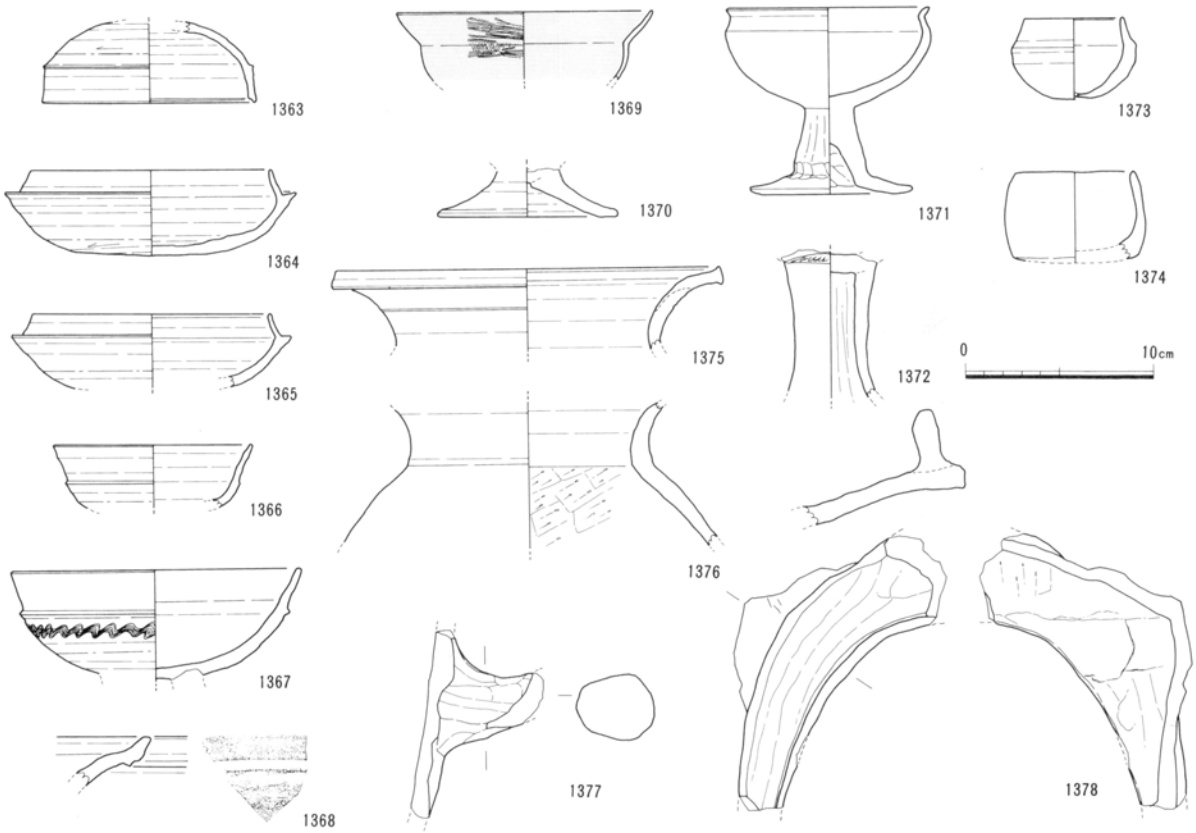


Fig.182　SD340出土遺物実測図（1／4）

Tab.68　SD340出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1363	須恵器・坏蓋	SD340	(11.4)	－	－	[4.3]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰～暗灰	良好	Ⅰ－5～Ⅱ－1
1364	須恵器・坏身	SD340	(12.8)	－	－	4.6	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰／灰	良好	Ⅱ－1
1365	須恵器・坏身	SD340	(12.7)	－	－	[3.9]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰／灰～暗灰	良好	Ⅱ－1～Ⅱ－2
1366	須恵器・無蓋高坏	SD340	(10.3)	－	－	[3.4]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	
1367	須恵器・無蓋高坏	SD340	(15.6)	－	－	[6.0]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	3方透かし、Ⅰ－3？
1368	須恵器・甕	SD340	－	－	－	[2.8]	回転ナデ／回転ナデ、波状文	灰／暗灰	良好	
1369	土師器・鉢	SD340	(13.6)	－	－	[4.0]	回転ナデ／頸部ハケ、ミガキ	黒／黒	良好	
1370	土師器・脚	SD340	－	－	(9.5)	[2.6]	回転ナデ／回転ナデ	茶灰～暗灰茶／暗灰茶	良好	
1371	土師器・高坏	SD340	(10.8)	－	(8.6)	9.9	坏部摩滅、脚部ケズリ／坏部摩滅、脚部ケズリ	赤褐	不良	
1372	土師器・高坏	SD340	－	－	－	[7.7]	ケズリ／ナデ	茶灰	良好	
1373	土師器・小形鉢	SD340	(5.2)	－	－	4.2	回転ナデ／ナデ	褐	良好	
1374	土師器・小形鉢	SD340	(6.2)	－	(6.6)	4.8	ナデ／ナデ	褐	良好	
1375	土師器・甕	SD340	20.6	－	－	[4.5]	回転ナデ／回転ナデ	茶灰	良好	
1376	土師器・甕	SD340	(12.9)	－	－	[7.7]	ケズリ／ナデ	明橙褐	良好	
1377	土師器・甑把手	SD340	－	－	－	－	ナデ／ナデ	黒灰／茶灰	良好	
1378	土師器・竈	SD340	－	－	－	－	ナデ／ナデ	茶褐／黄橙	良好	

に示す。SD333は 1面の溝SD304の下部で検出した溝で龍泉窯系青磁碗1380はSD304に属すものであろう。SX342はいくつかの円形の浅い窪みが重なったような状況であるが、切り合いが確認できず、一連のものとして掘り下げた。

また、C区のピット、遺構外の出土遺物をFig.185とTab.72に示す。須恵器坏蓋1384はOトレンチからの出土であり、周囲の基盤層の形成が古墳時代後期以降であることを示す遺物である。

Tab.69　その他のC区3面の遺構

遺構番号	種　類	遺構の概要	時期
SD333	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅3～4 m、深さ60～70cm。8.7m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD304の下部で検出。	古墳時代
SD336	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.5m、深さ15cm、長さ3.7m。SB335・337と軸がほぼ同じ。どちらかに付随する溝か。	古墳時代
SD339	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.5～0.9m、深さ15cm。7.6m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD340に切られSD343・344を切る。	古墳時代
SX342	不定形の窪み？	調査区東寄りに位置する。長軸11.0m、短軸4.2m＋α、深さ20～50cm。底面の凹凸激しい。	古墳時代
SD343	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.3m、深さ25cm。1.4m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD344に切られる。	古墳時代
SD344	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.2m、深さ30cm。1.0m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD343を切る。	古墳時代

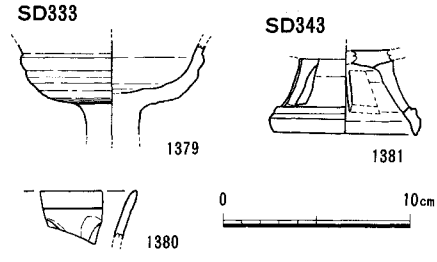


Fig.183　SD333・343出土遺物実測図（1／4）

Tab.70　SD333・343出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1379	須恵器・高坏	SD333	－	－	－	[5.4]	回転ナデ／回転ナデ、坏下部回転ヘラケズリ、カキ目、回転ナデ	暗紅灰	良好	
1380	龍泉窯系青磁・碗	SD333	－	－	－	[2.6]	回転ナデ／回転ナデ	灰	良好	釉：暗オリーブ透明、龍碗Ⅰ類
1381	須恵器・高坏	SD343	－	－	(7.6)	[4.6]	回転ナデ／回転ナデ	灰白	良好	3方透かし、Ⅰ－3～Ⅰ－4

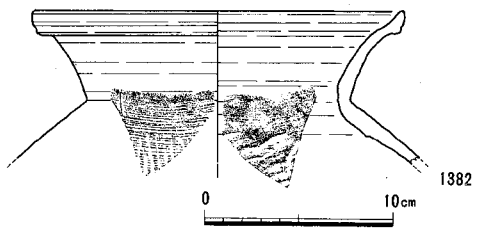


Fig.184　SX342出土遺物実測図（1／4）

Tab.71　SX342出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1382	須恵器・甕	SX342	(19.7)	－	－	[8.2]	当て具痕／タタキ、肩部カキ目	青灰	良好	

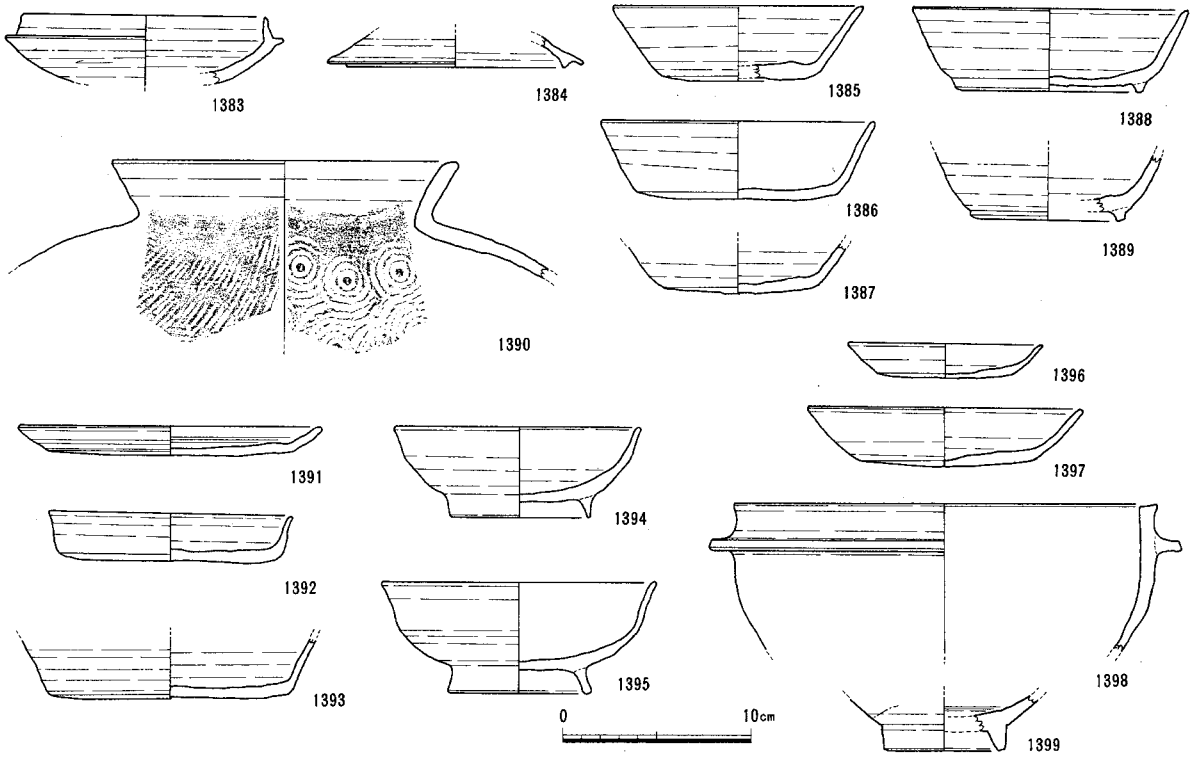


Fig.185　C区その他の遺構・遺構外出土遺物実測図（1／4）

Tab.72　C区その他の遺構・遺構外出土遺物観察表

番号	種　類	出土位置	法量（cm） 口径	胴径	底径	器高	調整 内面／外面	色調 内面／外面	焼成	備考
1383	須恵器・坏身	包含層	－	－	－	[3.5]	回転ナデ／回転ナデ、回転ヘラケズリ	茶灰／灰～茶灰	良好	
1384	須恵器・坏蓋	トレンチ	(11.6)	－	－	[1.7]	回転ナデ／回転ナデ	灰／明灰	良好	
1385	須恵器・坏	包含層	(13.2)	－	(8.9)	4.0	回転ナデ／回転ナデ	淡灰	良好	ヘラ切り
1386	須恵器・坏	包含層	(14.4)	－	10.8	4.2	回転ナデ、内底ナデ？／回転ナデ	灰白	良好	ヘラ切り
1387	須恵器・坏	2面北側	－	－	(7.9)	[2.8]	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	青淡灰／淡灰	良好	ヘラ切り
1388	須恵器・高台付坏	表土	(14.6)	－	(10.0)	4.4	回転ナデ／回転ナデ	青明灰／灰～黒灰	良好	ヘラ切り
1389	須恵器・高台付坏	表土	－	－	(8.2)	[3.7]	回転ナデ／回転ナデ	淡灰／灰	良好	
1390	須恵器・甕	表土	(18.4)	－	－	[6.2]	当て具痕／タタキ	灰褐	やや不良	
1391	土師器・皿	2面北側	(16.0)	－	(13.0)	1.6	回転ミガキ／回転ミガキ、外底回転ヘラケズリ	淡赤褐	良好	
1392	土師器・皿	2面下	(12.8)	－	11.7	2.6	回転ナデ／回転ナデ、外底回転ヘラケズリ	淡橙灰～暗灰	良好	
1393	土師器・皿	2面下	－	－	(13.0)	[3.2]	回転ナデ／回転ナデ	橙灰	良好	ヘラ切り
1394	土師器・椀	表土	13.1	－	7.5	4.8	回転ナデ／回転ナデ	茶灰	不良	ヘラ切り
1395	土師器・椀	2面	(14.6)	－	(7.6)	5.9	回転ナデ／回転ナデ	淡黄灰～淡灰褐	不良	ヘラ切り
1396	土師器・小皿	2面	(10.3)	－	7.5	1.9	回転ナデ／回転ナデ	淡灰褐	良好	ヘラ切り
1397	土師器・坏	表土	14.6	－	9.1	3.1	回転ナデ、内底ナデ／回転ナデ	淡茶灰	良好	糸切り、板状痕
1398	土師器・鍋	SP3008	(22.4)	－	－	[7.8]	回転ナデ／回転ナデ	暗黒灰／暗茶灰～黒褐	良好	外面スス付着
1399	白磁・碗	表土	－	－	(6.4)	[3.0]	回転ナデ／回転ヘラケズリ	淡黄灰	良好	釉：淡黄灰半透明、白磁碗V類

5．自然科学分析

(1) 立花寺B遺跡6次調査試料のプラント・オパール

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

イネ科植物は別名珪酸植物とも呼ばれ、根より吸収した珪酸分を葉や茎の細胞内に沈積させることが知られている。こうして形成された植物珪酸体（機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体など）が、植物が枯れるなどして土壌中に混入して土粒子となったものをプラント・オパールと言い、機動細胞珪酸体については藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壌中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無についての検討も行われている（藤原　1984)。こうしたことから立花寺B遺跡においてはトレンチ断面より採取された土壌試料についてプラント・オパール分析を行い遺跡周辺における稲作の有無について検討した。

①試料と分析方法

分析用試料はA－1区のCトレンチより採取された10試料（3層～12層）である。土相はおおむね砂が混入したシルト質の土壌で、一部（11層）粘土質となっており、これらの層は古墳時代以前の層（Lトレンチ）を削った後に堆積したものである。プラント・オパール分析はこれら10試料について下記の方法にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定)。別に試料約 1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約40μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。

②分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（Tab.73)、それらの分布をFig.186に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、全試料よりイネのプラント・オパールが検出された。最も多く得られたのは6層試料

Tab.73　試料1g当たりのプラント・オパール個数

試料番号	イネ（個／g）	イネ穎破片（個／g）	ネザサ節型（個／g）	クマザサ属型（個／g）	他のタケ亜科（個／g）	サヤヌカグサ属（個／g）	ヨシ属（個／g）	シバ属（個／g）	キビ族（個／g）	ウシクサ族（個／g）	不明（個／g）
3	15,500	0	17,400	2,700	0	0	1,800	1,800	3,700	4,600	6,400
4	29,400	2,800	17,500	2,800	2,800	0	3,700	1,800	3,700	11,000	12,900
5	43,300	3,000	24,600	5,900	1,000	0	5,900	0	4,900	3,900	20,700
6	81,800	6,100	24,200	7,100	1,000	0	3,000	0	8,100	17,200	22,200
7	22,300	5,800	26,100	5,800	2,900	0	3,900	0	2,900	17,400	21,300
8	10,400	900	28,400	10,400	1,900	0	8,500	0	0	15,100	20,800
9	7,200	0	17,200	5,400	0	0	3,600	0	1,800	3,600	14,500
10	21,700	0	22,600	4,300	900	0	8,700	0	0	7,000	19,100
11	22,000	1,000	31,000	12,000	0	1,000	10,000	0	4,000	26,000	12,000
12	7,200	0	27,900	8,300	2,100	1,000	24,800	0	1,000	20,700	18,600

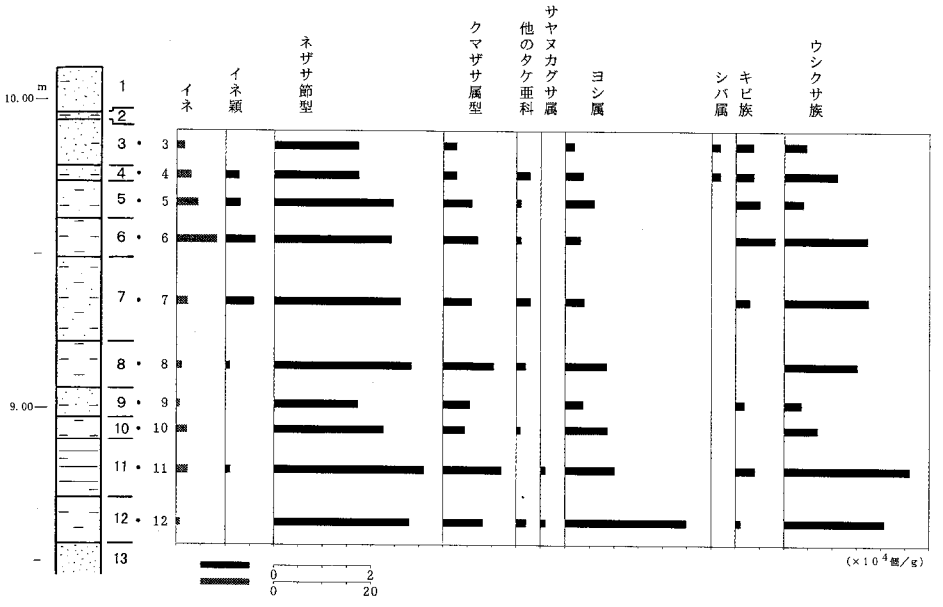


Fig.186　Cトレンチのプラント・オパール分布図

の約82,000個で、少ないのは9および12層試料の約7,000個である。また、イネの穎に形成される珪酸体の破片も少量ながら半数を越える試料において観察され、イネ型の単細胞珪酸体も5、6層試料において若干認められる（Ph.137参照)。

イネ以外ではネザサ節型が20,000個前後を示してイネに次いで多く、さらにウシクサ族が10,000個前後、クマザサ属型が6,000個前後でつづいている。ヨシ属も全試料より得られ、特に下部試料で多い傾向が認められ、最下部では約25,000個、その直上が10,000個とヨシ属としては非常に高い検出個数を示している。その他、キビ族も多くの試料より3,000個前後検出され、サヤヌカグサ属は下部試料より、シバ属は上部試料より若干得られている。

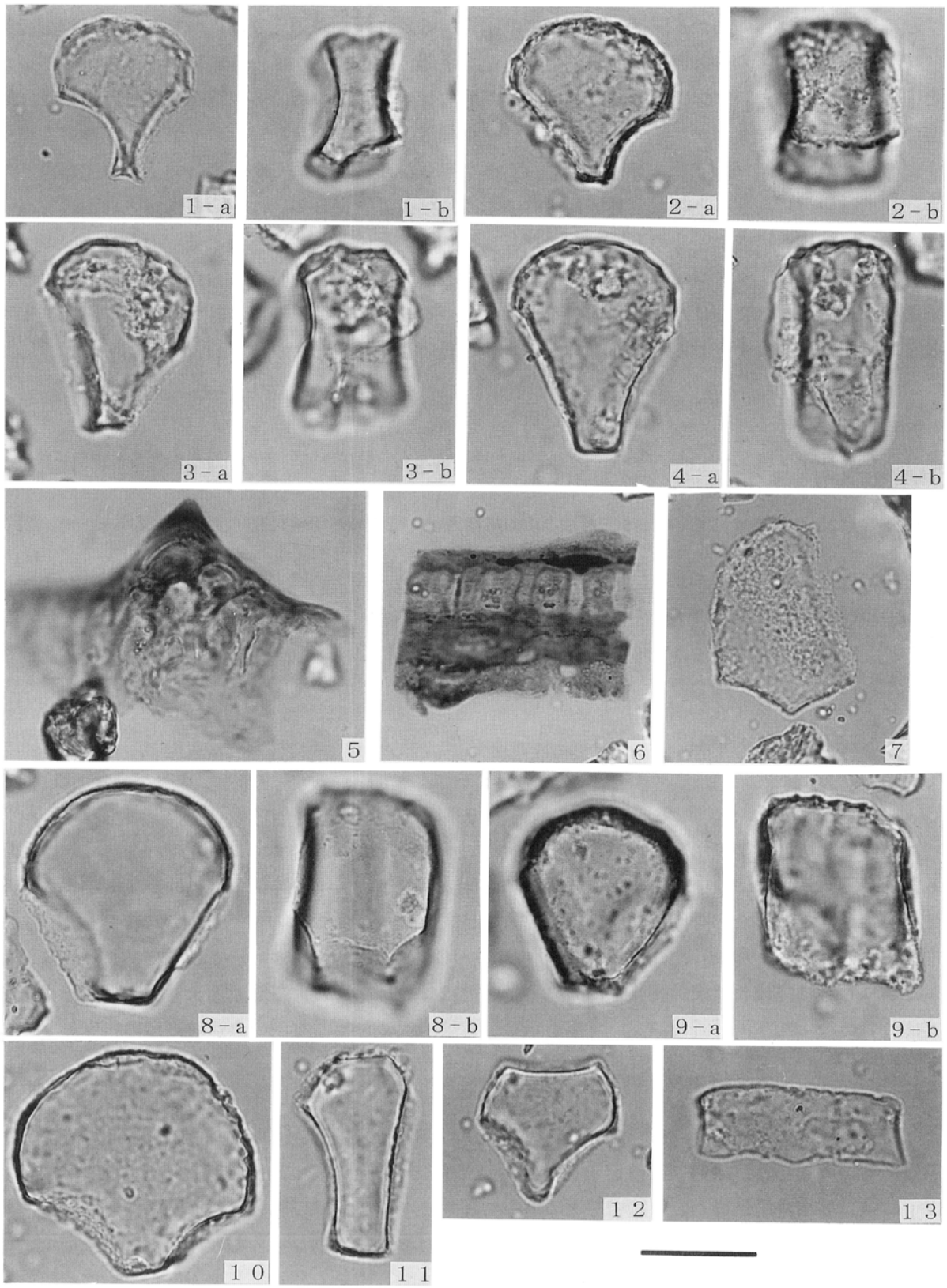
③稲作について

上記したように、全試料よりイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当り5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原　1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。今回の試料においては全試料この5,000個を越える個数が得られており、検出個数だけからみると稲作が行われていた可能性は高いと全層を通して判断される。また、同試料を用いて行われた花粉分析結果をみるとイネ科花粉が高い出現率を示し、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属やミズアオイ属、キカシグサ属なども観察されている。こうしたことからCトレンチの各層においては水田稲作が行われていた可能性は非常に高いとプラント・オパール分析からは判断される。

④遺跡周辺のイネ科植物

ヨシ属が下部試料で多産し上部に向かい減少する傾向が認められる。これはヨシやツルヨシなどのヨシ属やサヤヌカグサ属（アシカキなど）が生育していた低地部を切り開き水田稲作が行われるようになり、その後の水田の広がりや整備などでヨシ属は次第に縮小したものと思われる。また、ノシバなどのシバ属は水田の畔などに生育していたものとみられる。

ネザサ節型が多く検出されており、このネザサ節型のササ類（ゴキダケ、ケネザサ（ミヤコネザサ）



Ph.137　立花寺Ｂ遺跡のプラント・オパール（scale ber: 30μm）

1～4：イネ（a：断面、b：側面）　1：C-4，2：C-8，3：C-11，4：C-12
5：イネ穎部破片　C-7
6：イネ型単細胞珪酸体　C-6
7：クマザサ属型（断面）　C-6
8：ネザサ節型（a：断面、b：側面）　C-11
9：他のタケ亜科（a：断面、b：側面）　C-7
10：ヨシ属（a：断面、b：側面）　C-5
11：ウシクサ族（断面）　C-4
12：シバ属（断面）　C-3
13：キビ族（側面）　C-3

など）については日のあたる開けたところでの生育が考えられ、周辺丘陵部に成立していた照葉樹林（花粉分析の節参照）の林縁部や河川および溝の土手部、上記した水田稲作地の周辺に生育していたと推測される。また、ウシクサ族（ススキ、チガヤなど）も同様の所での生育が予想され、ネザサ節型のササ類とともにケネザサ－ススキ群集といった草地的景観をみせていたのであろう。一方クマザサ属型のササ類（チシマザサ、チマキザサ、ミヤコザサなど）については、主に林下での生育が予想され、遺跡周辺に一部みられた落葉広葉樹林の下草的存在で生育していたものと推測される。

なおキビ族については、その形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、タイヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明であるが、上記したように水田稲作地が予想されていることからここではエノコログサやタイヌビエなどの水田雑草類に由来するキビ族である可能性が高いと考える。

引用文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－、考古学と自然科学、 9、 p.15－29.

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－、考古学ジャーナル、 227、 p.2－7.

藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究（2）－イネ（Oryza）属植物における機動細胞珪酸体の形状－、 考古学と自然科学、 11、 p.9－20.

(2) 立花寺B遺跡の花粉化石

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

福岡平野南東部、御笠川東岸の微高地上（標高11～13m）に立地している立花寺Ｂ遺跡（福岡市博多区西月隈４丁目）においてこれまで５回の発掘調査が行われ、平安時代の官衙的施設や中世の集落などが検出されている。今回行われた６次調査では古代の溝や井戸、古墳時代中期の竪穴住居（Ａ－１区）、中世の溝や古墳時代と思われる掘立柱建物（C区）などが検出され、これまであまり知られていなかった古墳時代の遺構が発見されている。以下にはトレンチおよび溝断面より採取された土壌試料について行った花粉分析の結果・考察を示し、古墳時代における立花寺Ｂ遺跡周辺の植生について検討した。

①試料

試料はC，L，Pの各トレンチより採取された28試料とSD14、SD52、SD304・333、SD340の４つの溝遺構より採取された17試料（Fig.17・18・21・94A－Bライン・117・162・181）の計45試料である。以下に各試料（各層）について遺構ごとに簡単に記す。なお各遺構の層名に対応関係は無い。

Cトレンチ（Ａ－１区）：試料を採取した３層～12層はおおむね砂が混入したシルト質の土壌で、一部（11層）粘土質となっている。また上・下部は砂が卓越している。これらの層は古墳時代以前の層（Lトレンチ）を削った後に堆積したものである。

Lトレンチ（Ａ－ 1区）：１、２層はシルト、３、４層は有機質の粘土、５層は砂質粘土、６層はやや砂混じりの青白色の粘土、７、８層は粗砂である。このLトレンチ１層上面は古墳時代（５世紀後半）の遺構検出面である。

Pトレンチ（C区）：試料を採取した５層～14層はおおむね砂が混入したシルトで、中央部では粘土質となっている。また最上部１層は砂礫が、また最下部15層は砂が卓越している。このＰトレンチの下部はＬトレンチと対応すると考えられている。

SD14（Ａ－１区）：試料を採取した１～６層にはおおむね砂が混入しており、１層は炭化物を含むシルトである。２～５層は炭化物を含む粘土層で、最下部６層は砂礫を多く含む粘土層である。このSD14は古墳時代の河川で、多量の須恵器や土師器などが出土しており、水辺の祭祀が想定されている。

SD52（Ａ－１区）：試料を採取した２、３、５層はともに砂を多く含むシルト層で、このSD52は古墳時代前期の浅い溝である。

SD304・333（C区）：試料15層は植物遺体や礫を少し含む砂質粘土、23層は砂質粘土、31層は砂質粘土～シルト、38層は砂質有機質粘土である。このSD304・333は古墳時代～古代の溝である。

SD340（C区）：試料11層は砂質シルト質粘土、45層は炭化物を少し、砂を多く含むシルト、53、55層は砂混じりのシルトである。このSD340は古墳時代の河川である。

②分析方法

上記した45試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約４～６ｇ）を遠沈管にとり、10％の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46％のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え３分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

③分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉57、草本花粉38、形態分類を含むシダ植物胞子４、藻類１の総計100である。また寄生虫卵が２分類群観察された。これら花粉・シダ植物胞子・寄生虫卵の一覧をTab.74（トレンチ試料）、Tab.75（溝試料）に、分布をFig.187（Cトレンチ）、Fig.188（Lトレンチ）、Fig.189（Pトレンチ）、Fig.190（SD14）、Fig.191（SD52）、Fig.192（SD304・333）、Fig.193（SD340）に示した。なお、分布図について、樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子・寄生虫卵は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示したが、Fig.188、189、191においては樹木花粉の検出数が少なく樹木花粉を含め全花粉・胞子総数を基数として示した。また表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示している。

Cトレンチ（Fig.187）：分布図で示した試料５、６、８～11ではコナラ属アカガシ亜属とシイノキ属－マテバシイ属（以後シイ類と略す）の多産が特徴的であり、これら２分類群で樹木花粉の70～80％を示している。また分布図として示せなかった他の試料においてもこれら両分類群とも最も多く検出されている。その他ではコナラ属コナラ亜属が10％前後の出現率を示して次に多く得られているが、上部では少なくなっている。代わってマツ属複維管束亜属（アカマツ、クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）が上部でやや目立って検出されている。またイスノキ属が下部で連続して１％を越えて得られている。草本類ではイネ科が30～60％を示して最も多く、全体として上部に向かい増加している。次いで多いカヤツリグサ科の出現率は10％前後である。また低率ながら水生植物のオモダカ属（抽水植物）が多くの試料より得られており、同じ抽水植物のサジオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属なども若干検出されている。さらに上部試料ではソバ属も観察されている。

Lトレンチ（Fig.188）：全体に花粉化石の検出数は少なく、特に下部試料の５～８では胞子を含め

Tab.74　トレンチ試料の産出花粉化石一覧表

和名	学名	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	C-11	C-12	L-1	L-2	L-3	L-4	L-5	L-6	L-7	L-8	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12	P-13	P-14
樹木																													
マキ属	*Podocarpus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	*Abies*	1	-	1	1	1	1	1	1	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツガ属	*Tsuga*	-	-	2	2	-	3	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	2	3	8	1	1	5	6	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	1	1	1	-	1	3	1	2	4	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
スギ	*Cryptomeria japonica* D. Don	-	-	2	2	1	1	2	4	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤナギ属	*Salix*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマモモ属	*Myrica*	-	-	1	2	1	4	1	3	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
クルミ属	*Juglans*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus* - *Ostrya*	1	1	3	6	-	6	3	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	*Betula*	-	-	2	2	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	*Alnus*	-	-	4	1	5	5	4	2	3	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブナ	*Fagus crenata* Blume	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌブナ	*Fagus japonica* Maxim.	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	2	2	2	6	8	14	21	33	15	-	-	1	4	6	-	-	-	-	-	1	1	1	8	-	-	-	-	-
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	7	10	66	46	29	93	119	104	76	5	4	8	17	29	1	-	-	-	-	12	10	6	16	-	-	-	-	-
クリ属	*Castanea*	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シイノキ属－マテバシイ属	*Castanopsis* - *Pasania*	5	11	23	48	19	88	102	128	91	11	1	5	3	4	-	-	-	2	-	10	4	7	6	-	1	-	-	-
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus* - *Zelkova*	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤドリギ属	*Viscum*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カツラ属	*Cercidiphyllum*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シキミ属	*Illicium*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イスノキ属	*Distylium*	-	-	-	1	-	3	3	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウ属	*Zanthoxylum*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ属	*Phellodendron*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
センダン属	*Melia*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユズリハ属	*Daphniphyllum*	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカメガシワ属	*Mallotus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シラキ属	*Sapium*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	*Rhus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	*Ilex*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニシキギ科	Celastraceae	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	*Acer*	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムクロジ属	*Sapindus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	*Vitis*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノブドウ属	*Ampelopsis*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツタ属	*Parthenocissus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シナノキ属	*Tilia*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツバキ属	*Camellia*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サカキ属－ヒサカキ属近似種	cf. *Cleyera-Eurya*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グミ属	*Elaeagnus*	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	Araliaceae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アオキ属	*Aucuba*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ属	*Cornus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	Ericaceae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイノキ属	*Symplocos*	-	-	1	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エゴノキ属	*Styrax*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	*Ligustrum*	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	*Fraxinus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ティカカズラ属	*Trachelospermum*	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムラサキシキブ属	*Callicarpa*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ属	*Clerodendron*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ガマズミ属	*Viburnum*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	*Lonicera*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本																													
ガマ属	*Typha*	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒルムシロ属	*Potamogeton*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サジオモダカ属	*Alisma*	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オモダカ属	*Sagittaria*	-	-	-	2	-	2	7	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	147	134	459	341	128	389	546	368	172	15	5	32	34	35	1	-	1	5	2	22	21	30	21	4	-	1	-	-
カヤツリグサ科	Cyperaceae	2	4	11	18	16	94	75	57	37	4	-	13	3	4	-	-	-	-	-	11	1	5	2	1	-	-	-	-
ホシクサ属	*Eriocaulon*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツユクサ属	*Commelina*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボクサ属	*Aneilema*	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	*Monochoria*	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリ科	Liliaceae	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒガンバナ属近似種	cf. *Lycoris*	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	8	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ギシギシ属	*Rumex*	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イブキトラノオ節	*Polygonum* sect. Bistorta	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	-	-	1	1	4	3	1	2	1	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
ソバ属	*Fagopyrum*	1	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	4	2	10	6	68	3	2	2	7	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1	5	4	13	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	Caryophyllaceae	15	12	7	11	19	9	14	13	4	-	1	1	5	-	-	-	-	-	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属	*Thalictrum*	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	1	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	13	33	29	15	31	4	5	7	16	67	-	2	-	1	-	-	-	-	1	2	1	7	-	-	-	-	-	-
バラ科	Rosaceae	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	Leguminosae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フウロソウ属	*Geranium*	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ属	*Impatiens*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キカシグサ属	*Rotala*	1	3	2	5	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカバナ属	*Epilobium*	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズユキノシタ属	*Ludwigia*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	*Haloragis*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	1	-	3	9	8	23	9	5	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	*Plantago*	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘクソカズラ属	*Paederia*	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	*Patrinia*	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゴキヅル属－アマチャヅル属	*Actinostemma* - *Gynostemma*	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	*Artemisia*	7	1	8	8	25	9	13	11	17	3	1	2	46	86	5	-	3	2	-	6	11	3	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3	1	1	3	3	10	12	12	2	-	1	-	4	12	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
タンポポ亜科	Liguliflorae	3	5	8	13	15	7	11	11	4	2	-	2	2	3	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-
シダ植物																													
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	1	-	10	2	6	2	1	4	6	5	1	3	2	-	-	-	-	-	-	3	3	4	2	-	-	-	-	-
ミズワラビ属	*Ceratopteris*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
単条型胞子	Monolete spore	11	10	69	62	121	33	9	7	41	20	128	58	54	16	1	-	-	3	62	228	118	88	17	-	1	-	-	-
三条型胞子	Trilete spore	2	4	14	11	28	12	2	3	8	11	62	18	16	8	-	-	-	-	16	58	39	13	8	1	-	-	-	-
黄緑色藻類	*Botryococcus braunii* Kutzing	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸状虫	*Trichuris*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
毛頭虫	*Capillaria*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
樹木花粉	Arboreal pollen	19	29	125	122	68	229	271	295	214	18	8	19	29	52	1	0	0	2	0	25	15	21	30	0	1	0	0	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	204	200	545	431	324	546	715	504	271	93	10	56	103	158	7	0	4	7	5	55	41	61	23	5	0	1	0	0
シダ植物胞子	Spores	14	14	93	75	155	47	12	14	55	36	191	79	72	24	1	0	0	3	78	289	160	107	27	1	1	0	0	0
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	237	243	763	628	547	822	998	813	540	147	209	154	204	234	9	0	4	12	83	369	216	189	80	6	2	1	0	0
不明花粉	Unknown pollen	13	12	14	25	13	17	15	17	49	11	8	10	32	29	2	0	1	8	2	16	16	9	9	1	0	0	0	0

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

Tab.75　溝試料の産出花粉化石一覧表

和名	学名	SD14						SD52			SD304・333				SD340			
		-1	-2	-3	-4	-5	-6	-2	-3	-5	-15	-23	-31	-38	-11	-45	-53	-55
樹木																		
マキ属	*Podocarpus*	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
モミ属	*Abies*	2	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	1	1	2	1	4	2
ツガ属	*Tsuga*	4	2	-	1	1	1	-	-	-	1	2	3	-	1	-	1	2
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	8	3	4	3	2	2	-	1	-	13	-	2	1	3	4	7	4
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	2	2	3	1	3	1	-	-	1	9	-	3	2	2	2	1	4
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	2	1	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	-	-	1	-
スギ	*Cryptomeria japonica* D. Don	6	4	2	3	6	2	-	-	-	12	1	5	2	15	2	5	6
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	1	-	1	2	1	1	-	-	-	3	-	-	-	1	-	7	-
ヤナギ属	*Salix*	-	-	1	-	1	4	-	-	-	9	-	3	-	-	-	-	-
ヤマモモ属	*Myrica*	7	3	1	2	1	1	1	3	6	1	3	3	-	1	-	1	-
クルミ属	*Juglans*	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	3	1	1	1	1	1	-	-	-	3	-	2	1	1	4	1	2
カバノキ属	*Betula*	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	1	-
ハンノキ属	*Alnus* .	5	3	4	2	2	1	-	2	6	2	5	1	2	-	5	2	3
ブナ	*Fagus crenata* Blume	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌブナ	*Fagus japonica* Maxim.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	21	8	15	9	10	6	3	5	6	4	5	25	8	11	16	11	18
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	134	72	92	100	98	61	15	27	34	37	23	52	75	74	77	66	67
クリ属	*Castanea*	-	-	1	1	3	3	-	-	-	1	-	-	1	-	1	6	1
シイノキ属－マテバシイ属	*Castanopsis - Pasania*	47	139	128	132	86	109	26	13	19	47	15	139	58	93	112	126	194
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	2	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	-	-	3	-	-	-	-	-	-	57	-	-	-	-	-	-	-
ヤドリギ属	*Viscum*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
カツラ属	*Cercidiphyllum*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シキミ属	*Illicium*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
イスノキ属	*Distylium*	4	2	1	-	-	1	-	-	-	2	-	1	1	11	3	-	-
サンショウ属	*Zanthoxylum*	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
キハダ属	*Phellodendron*	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
センダン属	*Melia*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
ユズリハ属	*Daphniphyllum*	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカメガシワ属	*Mallotus*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シラキ属	*Sapium*	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ウルシ属	*Rhus*	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
モチノキ属	*Ilex*	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ニシキギ科	Celastraceae	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	*Acer*	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
ムクロジ属	*Sapindus*	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	*Vitis*	-	-	1	1	1	4	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	2
ノブドウ属	*Ampelopsis*	-	-	-	-	8	10	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ツタ属	*Parthenocissus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
シナノキ属	*Tilia*	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ツバキ属	*Camellia*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
サカキ属－ヒサカキ属近似種	cf. *Cleyera-Eurya*	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
グミ属	*Elaeagnus*	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
ウコギ科	Araliaceae	-	-	2	1	-	-	-	-	-	4	-	-	1	1	-	2	-
アオキ属	*Aucuba*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ミズキ属	*Cornus*	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ツツジ科	Ericaceae	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
ハイノキ属	*Symplocos*	1	-	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
エゴノキ属	*Styrax*	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	*Ligustrum*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-
トネリコ属	*Fraxinus*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
ティカカズラ属	*Trachelospermum*	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	1	-
ムラサキシキブ属	*Callicarpa*	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ属	*Clerodendron*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ガマズミ属	*Viburnum*	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	*Lonicera*	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本																		
ガマ属	*Typha*	-	7	1	6	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ヒルムシロ属	*Potamogeton*	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サジオモダカ属	*Alisma*	-	1	1	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
オモダカ属	*Sagittaria*	35	1	1	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-
イネ科	Gramineae	706	49	36	54	36	69	14	39	30	209	77	19	134	227	58	54	30
カヤツリグサ科	Cyperaceae	36	22	79	38	21	15	5	3	3	51	33	26	22	77	29	23	13
ホシクサ属	*Eriocaulon*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ツユクサ属	*Commelina*	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-
イボクサ属	*Aneilema*	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ミズアオイ属	*Monochoria*	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	1	-	1
ユリ科	Liliaceae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒガンバナ属近似種	cf. *Lycoris*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	-	2	1	2	72	52	1	-	-	17	1	-	-	11	4	2	-
ギシギシ属	*Rumex*	-	-	1	-	8	14	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	2
イブキトラノオ節	*Polygonum* sect. Bistorta	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	6	1	1	3	1	-	1	2	2	1	1	1	1	5	1	1	-
ソバ属	*Fagopyrum*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	3	3	1	1	3	19	3	-	3	27	8	3	1	8	5	3	5
ナデシコ科	Caryophyllaceae	24	1	1	-	1	1	-	1	1	7	7	1	2	4	1	1	-
カラマツソウ属	*Thalictrum*	1	-	1	-	-	1	-	-	2	1	1	-	-	-	1	1	-
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	1	-	-	1	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1
アブラナ科	Cruciferae	17	1	1	4	42	44	2	1	6	9	3	-	4	22	14	11	7
バラ科	Rosaceae	-	2	-	-	68	73	-	-	-	5	-	-	2	2	-	-	5
マメ科	Leguminosae	1	1	3	1	1	3	-	-	1	8	-	3	-	7	3	2	1
フウロソウ属	*Geranium*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ属	*Impatiens*	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
キカシグサ属	*Rotala*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
アカバナ属	*Epilobium*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズユキノシタ属	*Ludwigia*	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	*Haloragis*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	2	2	3	5	4	-	1	-	4	-	1	-	9	2	1	-
オオバコ属	*Plantago*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
ヘクソカズラ属	*Paederia*	-	-	-	-	4	46	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
オミナエシ属	*Patrinia*	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	1	-
ゴキヅル属－アマチャヅル属	*Actinostemma - Gynostemma*	-	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2
ヨモギ属	*Artemisia*	19	9	25	11	17	31	8	8	8	18	14	14	10	32	11	23	11
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3	1	1	2	1	2	-	-	-	2	2	3	9	4	1	2	-
タンポポ亜科	Liguliflorae	2	3	1	1	2	1	7	5	1	13	3	2	1	8	2	4	1
シダ植物																		
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	5	5	1	1	1	1	9	6	3	4	7	3	1	3	5	3	-
ミズワラビ属	*Ceratopteris*	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
単条型胞子	Monolete spore	21	19	13	13	8	6	131	124	91	49	199	53	10	24	44	25	9
三条型胞子	Trilete spore	13	8	3	5	1	2	39	41	27	9	82	15	8	9	19	7	-
黄緑色藻類	*Botryococcus braunii* Kutzing	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鞭虫	*Trichuris*	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
毛頭虫	*Capillaria*	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
樹木花粉	Arboreal pollen	258	248	269	269	231	217	46	55	76	210	61	247	158	222	231	250	313
草本花粉	Nonarboreal pollen	858	111	160	143	289	378	41	60	59	380	152	75	188	438	135	134	79
シダ植物胞子	Spores	39	32	17	19	11	9	179	171	121	62	289	71	20	36	68	35	9
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	1155	391	446	431	531	604	266	286	256	652	502	393	366	696	434	419	401
不明花粉	Unknown pollen	33	20	21	41	36	47	6	11	14	34	21	37	47	52	39	44	28

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

ても10個体前後であった。分布図として示した試料１～４について、上部に向かい減少するもののアカガシ亜属が少ないなか目立って検出されており、次いでシイ類、コナラ亜属となっている。草本類ではヨモギ属が試料４で40％近くを示すものの上部に向かい急減している。イネ科は20％前後を示し安定して検出されているが最上部では減少している。反対にシダ植物胞子が上部に向かい出現率を上げている。

Pトレンチ（Fig.189）：本地点も花粉化石の検出数が少なく、特に下部試料においては胞子を含め少なく分布図としては示せなかった。検鏡の結果、樹木類ではやはりコナラ亜属、アカガシ亜属、シイ類が目立ち、草本類ではイネ科が最も多く、上部に向かい急減している。その他アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などが検出されている。また本地点においてもシダ植物胞子が多く、上部に向かい出現率を上げている。

SD14（Fig.190）：アカガシ亜属とシイ類の優占で特徴づけられるが、シイ類は最上部で出現率を大きく下げている。次いでコナラ属となっているが最も高い出現率は約８％である。また下部２試料においてノブドウ属が目だって検出されており、ブドウ属も最下部では１％を越えている。草本類では最上部で60％を越える出現率を示してイネ科が最も多く得られているが、他試料では10％前後である。カヤツリグサ科は中央部でピークをつくるように増加・減少している。その他下部２試料においてクワ科、アブラナ科、バラ科が目立って検出され、ギシギシ属も同様であり、アカザ科－ヒユ科、ヘクソカズラ属は最下部試料においてやや多く検出されている。また寄生虫卵もわずかではあるがこの２試料より検出されている。

SD52（Fig.191）：本地点においては花粉化石の検出数が若干少なく、全出現率は花粉・胞子総数を基数として示した。樹木類ではやはりアカガシ亜属とシイ類が目立ち、次いでコナラ亜属となっている。草本類ではイネ科が最も多く得られているが出現率は10％前後とそれほど高くはない。その他カヤツリグサ科、ヨモギ属が全試料１％を越えている。

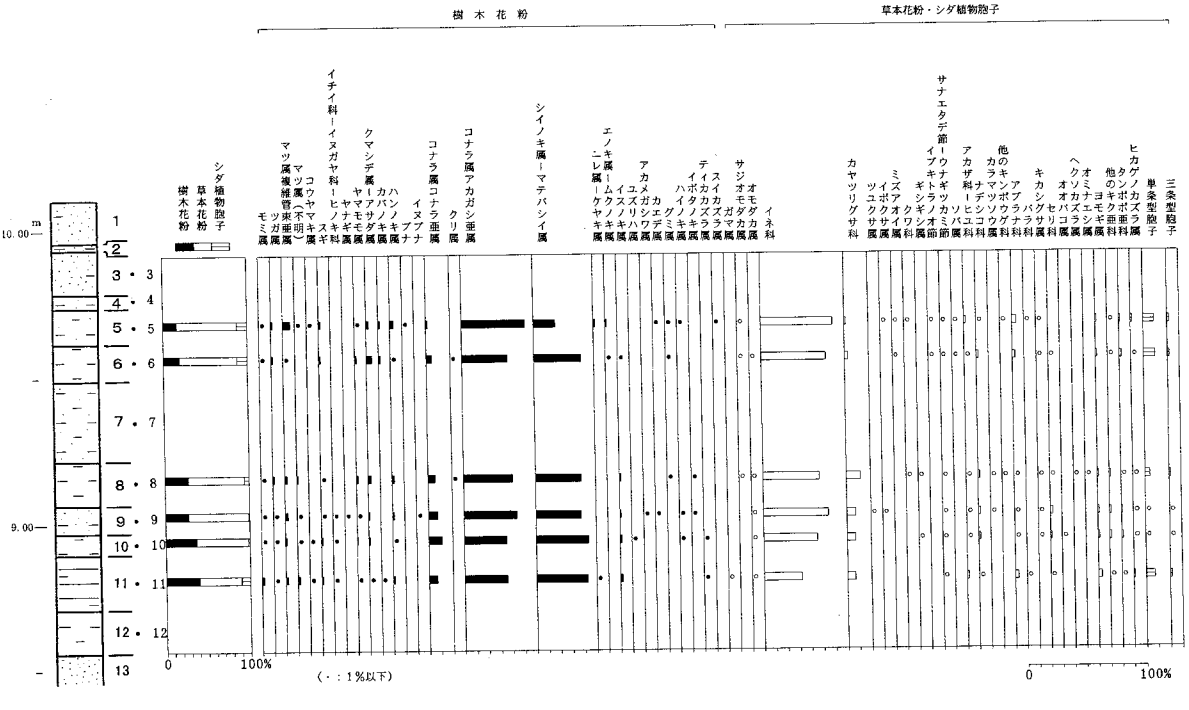


Fig.187 Ｃトレンチ試料の主要花粉化石分布図

SD304•333（Fig.192）：アカガシ亜属とシイ類の優占で特徴づけられるが、最上部の試料15ではやや減少し、エノキ属－ムクノキ属が突如として多産している。この試料15では他にニヨウマツ類やスギ、ヤナギ属が他試料に比べやや高い出現率を示している。草本類ではイネ科が最も多く、試料31では10％弱と少ないが15と38では30％を越えている。次いでカヤツリグサ科、ヨモギ属となっており、試料15においてはソバ属や寄生虫卵（鞭虫卵）が若干検出されている。なお、試料23においては樹木花粉の検出数がやや少なく分布図としては示せなかったが、他試料と同様にアカガシ亜属やシイ類、イネ科が目立って検出されている（Tab.75）。

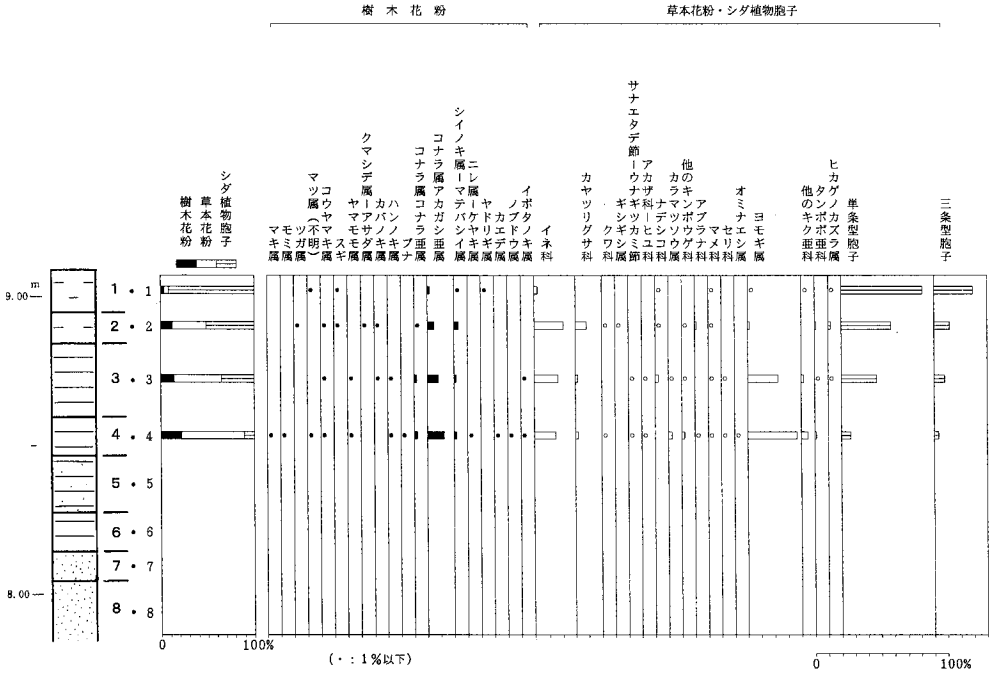


Fig.188　Ｌトレンチ試料の主要花粉化石分布図

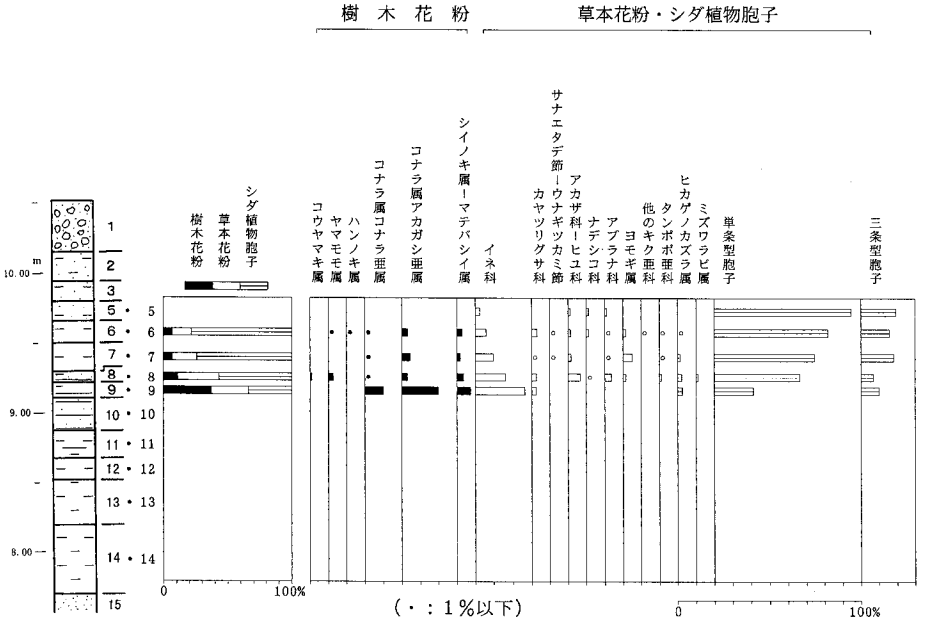


Fig.189　Ｐトレンチ試料の主要花粉化石分布図

SD340（Fig.193）：やはり本地点においてもアカガシ亜属とシイ類の多産が特徴であり、両分類群で70～80％を占めている。次いでコナラ亜属が多く、試料11ではスギやイスノキ属がやや目立って検出されている。草本類ではイネ科が最も多く検出されているが、試料11の約33％を除き他は10％前後である。次いで多く得られているのはカヤツリグサ科で、上部に向かいやや増加している。その他アブラナ科、ヨモギ属が全試料１％を越えており、試料11では寄生虫卵の鞭虫卵が１個体観察されている。

④遺跡周辺の古植生

SD304・333（古墳時代～古代）を除き多くは古墳時代と考えられており、この時期における立花寺B遺跡周辺の古植生について検討した。

上記したように各地点ともアカガシ亜属とシイ類の優占で特徴づけられており、古墳時代の遺跡周辺丘陵部には稜線部を主体にこれらの照葉樹林が広く分布していた。コナラ亜属やクマシデ属－アサ

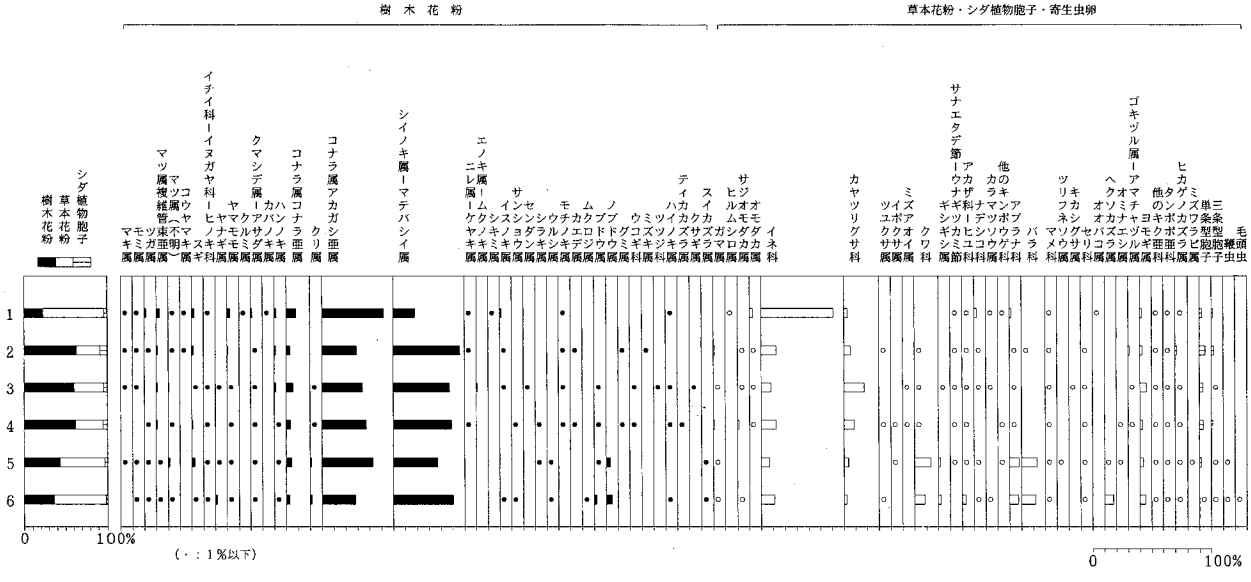


Fig.190　SD14試料の主要花粉化石分布図

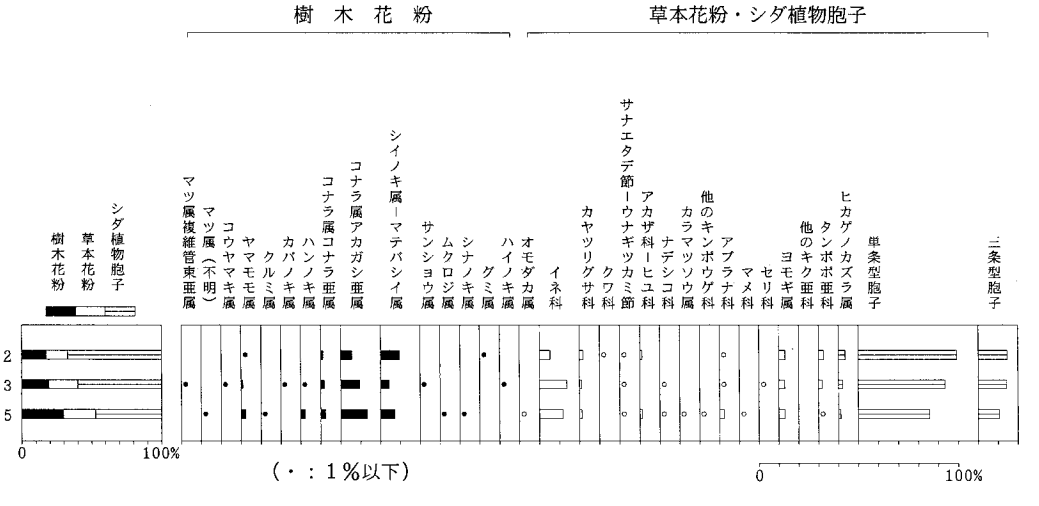


Fig.191　SD52試料の主要花粉化石分布図

ダ属などの落葉広葉樹類は丘陵斜面部を中心に生育していた。またこのコナラ亜属は河川周辺などの微高地上にもみられたであろう。Cトレンチ試料においてはプラント・オパール分析も同試料を用いて行われ、大量のイネのプラント・オパールが検出されて稲作の存在が推測されている。同試料の花粉分析においてはイネ科花粉の多産が示されており、現在の水田で普通にみられるいわゆる水田雑草類（サジオモダカ、オモダカ、コナギ、キカシグサなど）を含む分類群（サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属など）も検出されている。こうしたことからCトレンチ付近において稲作が行われていたかどうかについては発掘調査の状況など総合的に判断されることが望まれるが、今回の分析からは少なくともCトレンチ周辺低地部においてはこの時期水田稲作が行われていた可能性は高いと判断されよう。またこのCトレンチ上部試料からはほぼ連続的にソバ属が検出されており（Tab.74)、この時期ソバも栽培されていた可能性が推察される。

またSD14の下部試料においてノブドウ属やクワ科、アブラナ科、バラ科、ヘクソカズラ属などが目立って検出されている。このSD14においては出土遺物（子持勾玉など）から水辺の祭祀が想定されて

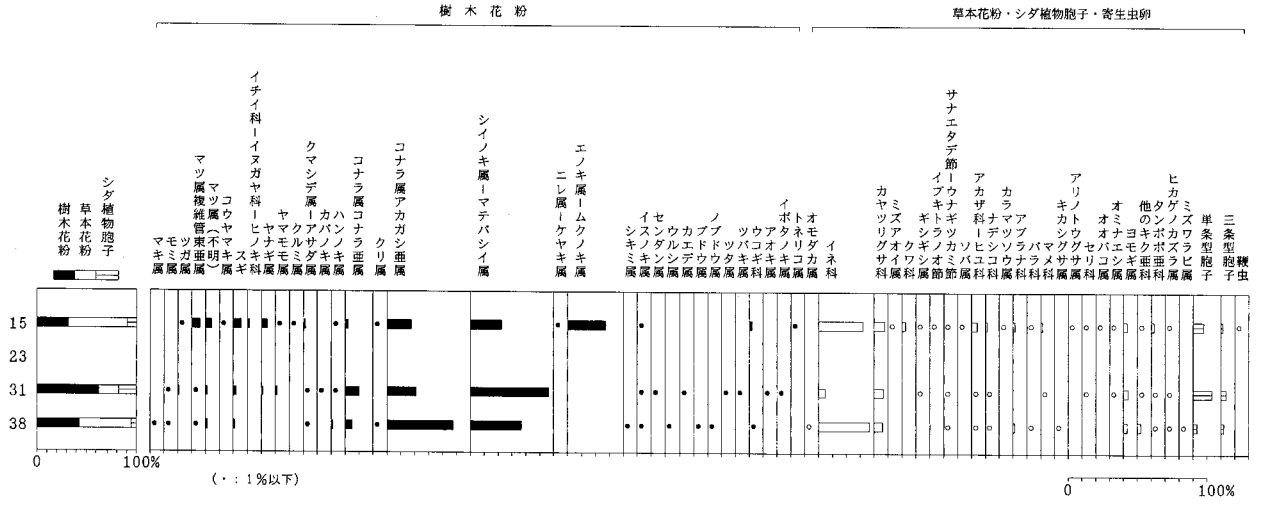


Fig.192　SD304・333試料の主要花粉化石分布図

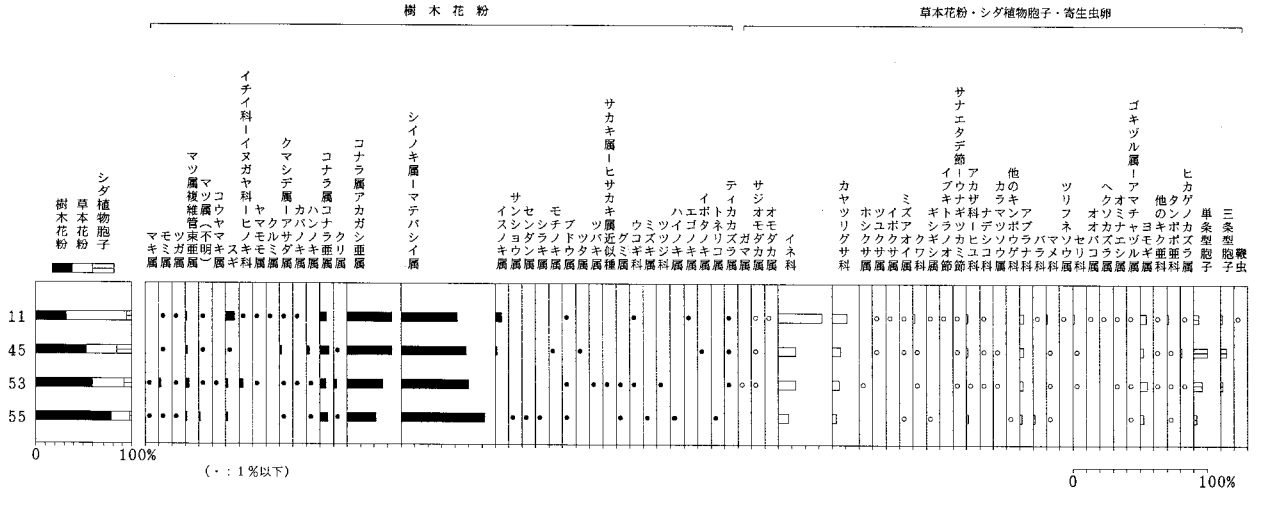
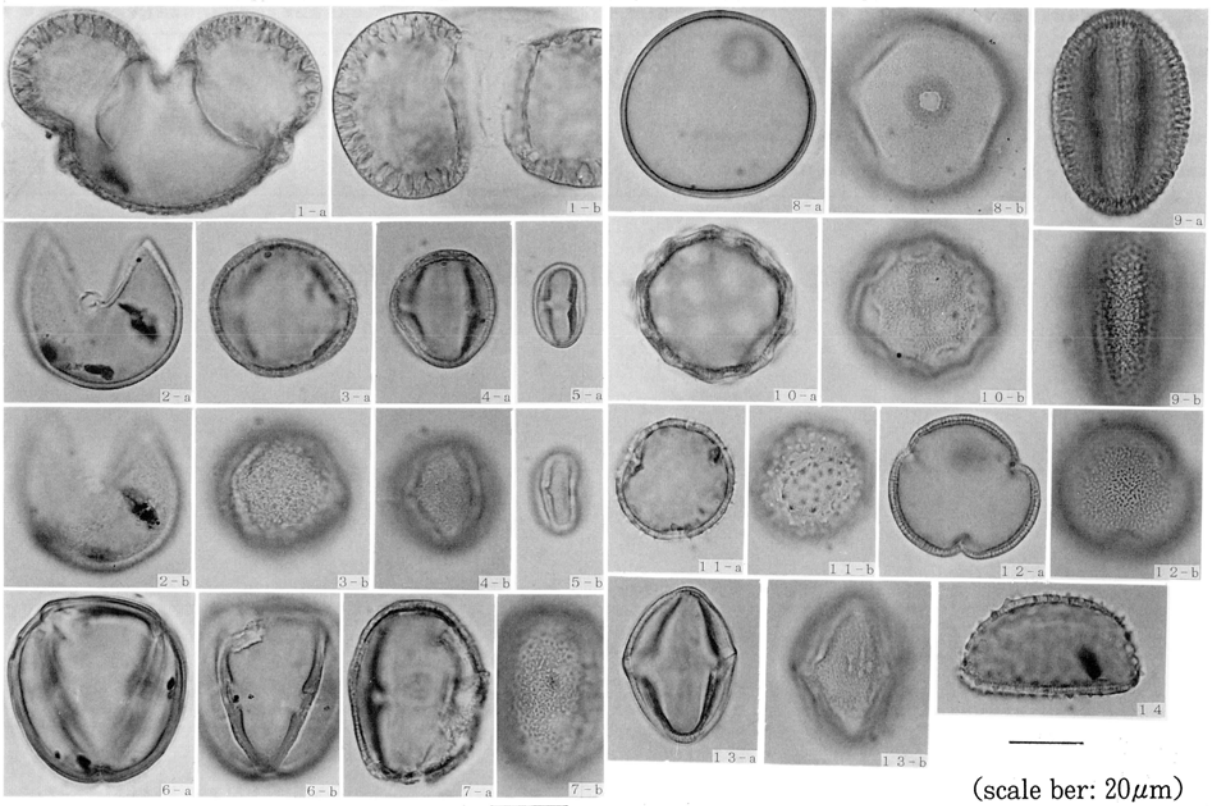


Fig.193　SD340試料の主要花粉化石分布図

おり、人間活動の活発さがうかがわれる。東京都板橋区の舟渡遺跡（平安期の館跡）における溝内堆積物の花粉組成は約80%を草本花粉が占め、ヨモギ属のほか、ヘクソカズラ属やノブドウ、ブドウ属などつる性植物が目立ち、土手や屋敷周辺の植生が雑草一色に変貌したかがうかがわれるのである（辻　1988)。SD14では加えてクワ科、アブラナ科、バラ科がやや多く検出されている。しかしながらこれらが雑草類に由来する花粉であるかについては現時点では分類できず不明である。このように下部試料において特徴的な産出を示す分類群すべてが雑草類であるかどうかは不明であるが、少なくとも人間の影響をうけた植生が土手などのSD14周辺に展開していたものと推察される。これは寄生虫卵の産出からもうかがわれよう。

その後これらの分類群は見られなくなり、SD14では抽水植物のオモダカ属が連続して検出されており、水辺にはこのオモダカ属をはじめガマ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属などの水生植物が生育していた。また土手にはイネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属、ゴキヅル属－アマチャヅル属などがみられ、同様の植生はSD340にも成立していた。

SD304・333の最上部試料15において突如としてエノキ属－ムクノキ属が多産している。SD304・333は古墳時代～古代の試料であり、他の古墳時代試料にはこのような特徴がみられないことから、おそらくは古代にはいってから溝周辺に急速に分布域を広げたものと推測される。また同試料においてはマツ属やスギも増加する傾向を示している。立花寺B遺跡においては先に平安時代の官衙的施設が検出されており、こうした建築材や農具などに堅いアカガシ亜属やシイ類は有用材として利用されたことが推察される。こうしたことから遺跡周辺の照葉樹林は一部破壊され、跡地にニヨウマツ類やス



1：マツ属複維管束亜属　PLC. SS 2991　14-4
2：スギ　PLC. SS 2992　14-4
3：コナラ属コナラ亜属　PLC. SS 2993　14-4
4：コナラ属アカガシ亜属　PLC. SS 2988　14-4
5：シイノキ属－マテバシイ属　PLC. SS 2990　14-4
6：センダン属　PLC. SS 3003　340-55
7：ノブドウ属　PLC. SS 3001　14-6
8：イネ科　PLC. SS 3002　C-9
9：ソバ属　PLC. SS 3004　304·333-15
10：サジオモダカ属　PLC. SS 2995　14-4
11：オモダカ属　PLC. SS 2994　14-4
12：ヘクソカズラ属　PLC. SS 3001　14-6
13：バラ科　PLC. SS 2996　14-6
14：ツユクサ属　PLC. SS 3000　14-6

Ph.138　立花寺B遺跡の花粉化石

ギが二次林として侵入したものと思われる。

なおトレンチ試料においては花粉化石の検出数が少なく、思うような結果は得られなかった。花粉は丈夫な外膜でおおわれているが、陸上に落下した花粉は紫外線や土壌バクテリアなどで酸化分解や食害をうけ容易に消失してしまう。一方、河川や溝など水域に落下した花粉は紫外線から保護され、土壌バクテリアもいないことなどから良好な状態で保存される場合が多い。今回のトレンチ試料がどのような環境のもと堆積したかについては不明であるが、おそらくは上記のようなことで多くの花粉化石は消失してしまったものと思われる。

⑤まとめ

古墳時代の立花寺B遺跡周辺丘陵部では稜線部を中心に照葉樹林が広く成立しており、丘陵斜面部には一部落葉広葉樹類が生育していた。一方低地部ではプラント・オパール分析から水田稲作が行われていた可能性が高いと判断され、水田雑草のオモダカ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などが水田雑草として生育していたとみられる。また一部ではソバの栽培も予想される。

祭祀が想定されているSD14の下部では特徴的につる性植物やクワ科、アブラナ科、バラ科の産出が目立ち、寄生虫卵も検出され、人間の干渉をうけた植生の展開が推測される。

河川や溝には水生植物のオモダカ属、ガマ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属などが、また土手部にはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ゴキヅル属－アマチャヅル属などが生育していた。

古代と推察される頃の河川や溝周辺にはエノキ属－ムクノキ属が急速に生育地を広げ、周辺丘陵部の照葉樹林は一部破壊され、ニヨウマツ類やスギの二次林が形成されるようになった。

引用文献

辻　誠一郎（1988）花粉分析に見る人間と自然.　週間朝日百科 日本の歴史・別冊 歴史の読み方 3 考古学への招待、朝日新聞社、p.51－52.

(3)　堆積物中の珪藻化石群集

藤根 久（パレオ・ラボ）

①はじめに

珪藻は、10～500μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉、1988；安藤、1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、立花寺B遺跡の古墳時代～古代の河川堆積物について、珪藻化石群集を調べ、堆積物の堆積環境について検討した。

②試料の処理方法

試料は、古墳時代の河川SD14の 6 試料、古墳時代前期の浅い溝SD52の 3 試料、古墳時代～古代の

溝SD304・333の４試料、古墳時代の河川SD340の４試料である。

古墳時代の河川SD14の試料は、１層が灰褐色の雲母混じり砂質シルト、２層が灰色粘土、３層が暗灰色の草本遺体混じり粘土、４層と５層が暗灰色の植物遺体・雲母混じり粘土、６層が暗灰色の砂混じり粘土である。

古墳時代前期の浅い溝SD52の試料は、２層が灰色の細砂混じりシルト、３層が灰色の粘土、５層が灰色の砂質粘土である。

古墳時代～古代の溝SD304・333の試料は、15層が暗灰色の礫混じり砂質粘土、23層が黒灰色の粘土、31層が暗灰褐色の粘土、38層が暗黒灰色の砂混じり粘土である。

古墳時代の河川SD340の試料は、11層が茶灰色の粘土、45層が暗灰茶色の細粒雲母・砂混じり粘土、53層が暗灰茶色の粘土質砂、55層が暗茶灰色の雲母・砂混じり粘土である。

これらの試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレパラートを作成した。

(1)湿潤重量約 1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2)反応終了後、水を加え１時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を７回ほど繰り返した。(3)残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥した。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作成した。

作成したプレパラートは顕微鏡下1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻化石が少ない試料は、プレパラート全面について精査した。

③珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水～汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。

以下に、小杉（1988）が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

［外洋指標種群（A)］：塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

［内湾指標種群（B)］：塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

［海水藻場指標種群（Ｃ１)］：塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。

［海水砂質干潟指標種群（Ｄ１)］：塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

［海水泥質干潟指標種群（Ｅ１)］：塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

［汽水藻場指標種群（Ｃ２)］：塩分濃度が４～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

［汽水砂質干潟指標種群（Ｄ２)］：塩分濃度が５～26パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。

［汽水泥質干潟指標種群（Ｅ２)］：塩分濃度が２～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

［上流性河川指標種群（J)］：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらには *Achnanthes* 属が多く含まれるが、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

［中～下流性河川指標種群（K)］：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

［最下流性河川指標種群（L)］：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

［湖沼浮遊生指標種群（M)］：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

［湖沼沼沢湿地指標種群（N)］：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地におれる付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

［沼沢湿地付着生指標種群（O)］：水深１m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

［高層湿原指標種群（P)］：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

［陸域指標種群（Q)］：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている)。

④珪藻化石の特徴とその堆積環境

全試料から検出された珪藻化石は、海水～汽水種が３分類群３属３種、淡水種が126分類群30属102種６亜種それぞれ検出された。これらの珪藻化石は、海水～汽水種が２環境指標種群、淡水種が６環境指標種群に分類された（Tab.76)。

これらの環境指標種群の出現傾向から、古墳時代の河川SD14が５珪藻帯、古墳時代前期の溝SD52が１珪藻帯、古墳時代～古代の溝SD304・333が３珪藻帯、古墳時代の河川SD340が２珪藻帯にそれぞれ分帯された。以下では、各河川跡あるいは溝遺構について、各珪藻帯に基づいて珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。

［古墳時代の河川SD14（Fig.194)］

ＤＩ帯（６層）

堆積物１g当りの殻数は約2.32×10^5個、完形殻の出現率は約50％である。珪藻化石は、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* など、沼沢湿地付着生指標種群の *Eunotia praerupta var.bidens* など、湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* などが特徴的に出現した。

こうしたことから、比較的ジメジメとした沼沢湿地環境が推定される。なお、このＩ帯のほか他の珪藻帯において汽水種の *Achnanthes brevipes* が出現するが、他の汽水種を伴わないことから、塩類濃度が高いなどの原因が考えられる。

ＤII帯（５層）

堆積物１g当りの殻数は約7.04×10^5個、完形殻の出現率は約54％である。珪藻化石は、湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* などが比較的多く出現し、中～下流性河川指標種群の *Achnanthes lanceolata* が特徴的に出現する。なお、沼沢湿地付着生指標種群の *Eunotia praerupta var. bidens* などや陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが含まれていた。

こうしたことから、河川の流れ込みのある沼沢湿地環境が推定される。

DIII帯（3・4層）

堆積物 1g当りの殻数は約2.09×10⁶および2.09×10⁶個、完形殻の出現率は約43および61%である。珪藻化石は、中〜下流性河川指標種群の *Melosira varians* や沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現する。

こうしたことから、河川の流れ込みのある沼沢湿地環境が推定される。なお、下位帯と比較した場合、環境指標種群の種類は異なっていることから、若干の環境変化あるいは時間間隙があることが予想される。

DIV帯（2層）

Tab.76　堆積物中の珪藻化石産出表その1（種群は、小杉(1988)および安藤(1990)による）

分類群	種群	SD14						SD52			SD304・333				SD340			
		1	2	3	4	5	6	2	3	5	15	23	31	38	11	45	53	55
Nitzschia marginulata	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Achnanthes brevipes	?	4	4	5	4	2	6	4	6	5	-	6	25	-	2	8	8	2
Nitzschia pandriformis	E2	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Achnanthes inflata	W	-	1	-	1	6	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
A. lanceolata	K	-	1	-	1	4	1	-	-	-	1	1	2	-	1	-	3	2
A. minutissima	W	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
A. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Actinella brasiliensis	O	-	1	1	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Amphora montana	Q	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
A. ovalis	W	16	10	6	3	6	5	8	4	11	2	2	9	-	5	12	7	15
A. spp.	?	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Amphipleura lindheimeri	W	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Bacillaria paradoxa	W	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1
Caloneis bacillum	W	-	1	-	1	2	-	1	-	-	2	-	2	-	1	1	-	-
C. lauta	W	-	1	1	2	1	2	-	1	5	-	-	2	-	-	2	-	-
C. schroederi	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
C. silicula	W	3	1	1	1	1	3	-	-	1	3	1	2	-	2	-	-	2
Cocconeis disculus	W	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
C. placentula	W	1	5	5	2	4	11	10	1	7	-	4	11	-	4	7	14	15
Cyclotella meneghiniana	L	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella aspera	O	1	2	7	1	-	-	2	3	2	-	1	3	-	-	1	1	5
C. cuspidata	W	1	1	-	1	-	1	1	2	2	-	1	2	-	-	-	-	1
C. ehrenbergii	O	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
C. gracilis	W	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
C. minuta	W	14	5	2	6	7	3	3	-	2	5	-	1	-	1	2	4	4
C. naviculiformis	O	-	5	2	1	2	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
C. sinuata	K	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
C. subaequalis	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
C. tumida	W	10	1	5	6	2	3	17	2	5	-	1	4	-	3	15	12	17
C. turgidula	K	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
C. spp.	?	1	-	1	1	2	2	6	6	3	5	5	3	-	1	2	5	4
Diatoma hiemale var.quadratum	K	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis finnica	W	-	1	-	-	-	-	-	1	3	-	-	1	-	3	-	1	2
D. ovalis	W	2	5	1	2	1	1	3	1	4	1	-	4	-	7	1	3	3
D. yatukaensis	W	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
D. spp.	?	1	1	-	-	1	1	4	3	2	1	2	-	-	1	3	5	2
Epithemia adnata	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	2
E. turgida	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
E. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia biareofera	W	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-
E. bilunaris	W	-	-	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E. formica	W	-	4	-	-	2	-	1	-	2	-	1	3	-	-	1	-	3
E. lunaris	W	-	-	3	4	1	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
E. monodon	W	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
E. pectinalis var.minor	O	2	4	-	9	-	4	1	-	1	1	-	1	-	-	-	1	1
E. pectinalis var.undulata	O	-	-	4	8	-	5	1	-	1	2	-	1	-	-	1	1	1
E. praerupta	W	-	1	5	7	2	8	5	1	1	1	-	-	-	-	-	2	1
E. praerupta var.bidens	O	-	-	2	1	8	6	1	-	1	-	-	3	-	-	2	2	2
E. spp.	?	14	10	4	13	10	3	7	2	7	1	3	9	1	5	3	10	10
Fragilaria brevistriata	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
F. construens	N	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F. pinnata	N	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Frustulia rhomboides var.saxonica	O	1	2	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-
F. vulgaris	W	-	-	1	2	1	-	-	-	-	4	-	-	-	2	-	1	1
F. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1
Gomphonema acuminatum	O	-	-	2	-	-	1	2	-	2	-	1	-	-	-	-	2	-
G. augur	W	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	3	-	1	2
G. constrictum	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
G. gracile	O	-	-	1	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	1	-	2
G. parvulum	W	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	4	-	4	4
G. sphaerophorum	W	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G. truncatum	W	-	-	-	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	6
G. spp.	?	2	3	1	1	2	2	4	2	9	5	3	5	-	5	1	6	8
Gyrosigma spp.	?	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	6	-	4	-	1	-

Tab.76　堆積物中の珪藻化石産出表その２（種群は、小杉(1988)および安藤(1990)による）

分類群	種群	SD14						SD52			SD304・333				SD340			
		1	2	3	4	5	6	2	3	5	15	23	31	38	11	45	53	55
Hantzschia amphioxys	Q	2	10	1	3	10	28	6	2	8	11	13	7	-	10	1	10	6
Melosira ambigua	N	1	3	2	5	11	4	1	3	2	1	3	-	-	-	-	3	1
M. distans	N	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M. granulata	M	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
M. pensacolae	N	-	-	4	2	25	6	10	3	17	-	-	4	-	2	2	4	3
M. roeseana	Q	-	-	-	-	3	-	1	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-
M. varians	K	-	2	8	8	3	1	-	-	-	3	-	1	-	24	-	-	2
M. spp.	?	2	-	1	3	11	8	8	2	5	2	-	5	1	1	2	3	3
Meridion circulae var.constrictum	K	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula americana	W	1	1	-	2	-	2	-	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-
N. bacillum	W	-	3	2	1	2	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	4
N. capitata	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
N. confervacea	W	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
N. contenta	Q	-	-	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
N. cuspidata	W	4	1	-	-	-	-	-	1	-	-	7	-	-	1	1	-	-
N. elginensis	O	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
N. goeppertiana	W	-	1	-	1	-	1	-	-	1	1	-	2	-	-	-	1	2
N. mutica	Q	1	6	1	-	2	1	2	1	2	2	-	4	-	2	1	3	3
N. placenta	W	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
N. pupula	W	-	-	-	2	1	-	-	-	-	3	-	1	-	1	-	-	-
N. pusilla	W	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
N. radiosa	W	-	-	-	2	1	-	1	-	1	-	-	2	-	7	1	3	-
N. reinhardtii	W	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
N. tokyoensis	W	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
N. viridula	W	1	5	2	1	-	1	-	-	-	7	1	1	-	7	-	5	12
N. spp.	?	1	2	3	4	-	6	2	2	1	2	-	2	-	5	-	1	1
Neidium affine	W	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
N. herchnisum	W	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8	17	-	-	1	-	-	-
N. hitchcokii	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
N. iridis	O	4	5	6	5	1	4	1	-	-	1	9	-	-	3	-	4	3
N. spp.	?	8	6	2	-	3	1	4	1	5	3	3	3	-	2	-	-	-
Nitzschia amphibia	W	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
N. parvula	W	-	-	-	-	-	1	2	-	-	7	1	3	-	3	-	1	-
N. tryblionella	W	-	1	-	2	1	1	-	-	1	1	-	-	-	6	-	-	-
N. spp.	?	1	1	1	2	1	2	4	1	-	10	5	1	-	6	-	1	-
Pinnularia acrosphaeria	O	9	4	1	7	3	1	1	1	1	5	3	-	-	5	1	-	1
P. borealis	Q	1	1	1	-	1	4	1	-	1	1	1	-	-	-	-	1	-
P. braunii	W	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
P. brandelii	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
P. cardinaliculus	W	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	1
P. divergens	W	2	3	6	-	3	6	5	-	3	-	-	2	-	1	-	-	-
P. gibba	O	4	3	3	3	-	5	1	-	1	8	1	1	-	2	-	2	1
P. hemiptera	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
P. interrupta	W	-	-	-	-	2	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
P. microstauron	W	11	11	1	3	5	1	-	-	1	6	-	1	-	6	1	3	2
P. nodosa	O	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P. subcapitata	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	2	1	-	1	1	-	-
P. viridis	O	4	5	2	6	1	1	-	-	2	1	6	1	-	5	-	1	2
P. spp.	?	48	17	29	19	17	21	43	33	47	19	53	30	4	25	19	28	19
Rhoicosphenia curvata	K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-
Rhopalodia gibba	W	-	1	9	3	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-
R. gibberula	W	1	2	-	7	4	4	3	-	2	1	5	4	-	2	1	4	2
R. quisumbirgiana	W	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis acuta	W	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
S. phoenicenteron	O	10	12	18	8	5	4	10	7	6	7	7	2	1	4	2	1	1
S. smithii	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Surirella angusta	W	-	-	-	-	-	-	1	-	-	7	-	-	-	1	-	-	-
S. tenera	W	2	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
S. spp.	?	-	3	5	2	-	2	2	-	1	-	3	2	-	5	-	2	6
Synedra arcus	K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
S. inaequalis	K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
S. rumpens	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
S. ulna	W	10	15	5	12	5	7	7	6	5	2	11	7	-	4	7	4	9
S. spp.	?	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
Tabellaria flocculosa	W	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Unknown	?	3	4	8	3	5	6	7	3	9	11	2	9	-	4	-	6	2
海水泥質干潟　(E1)		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
汽水泥質干潟　(E2)		-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
汽水不定・不明種（？）		4	4	5	4	2	6	4	6	5	-	6	25	-	2	8	8	2
中～下流性河川　(K)		-	3	9	11	8	2	-	1	-	4	2	7	1	25	2	4	5
最下流性河川　(L)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
湖沼浮遊生　(M)		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
湖沼沼沢湿地　(N)		1	5	7	8	37	13	11	6	19	2	3	4	-	3	2	7	4
沼沢湿地付着生　(O)		39	44	50	52	22	34	20	12	17	54	31	16	2	26	9	16	19
陸域　(Q)		4	17	3	3	16	35	12	3	11	17	14	11	-	12	3	17	9
広布　(W)		84	96	77	80	69	69	70	25	62	79	63	73	-	88	55	80	116
淡水不定・不明種（？）		81	48	57	49	53	54	91	55	89	62	80	76	6	65	30	69	56
珪藻殻数		213	217	208	209	207	214	208	109	204	222	200	213	9	221	109	201	211

堆積物１g当りの殻数は約1.25×10^6個、完形殻の出現率は約40%である。珪藻化石は、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などや沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現した。

こうしたことから、ジメジメとした沼沢湿地環境が推定される。

DV帯（１層）

堆積物１g当りの殻数は約5.38×10^5個、完形殻の出現率は約17%である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現する。

こうしたことから、沼沢湿地環境が推定される。

［古墳時代前期の浅い溝SD52（Fig.195）］

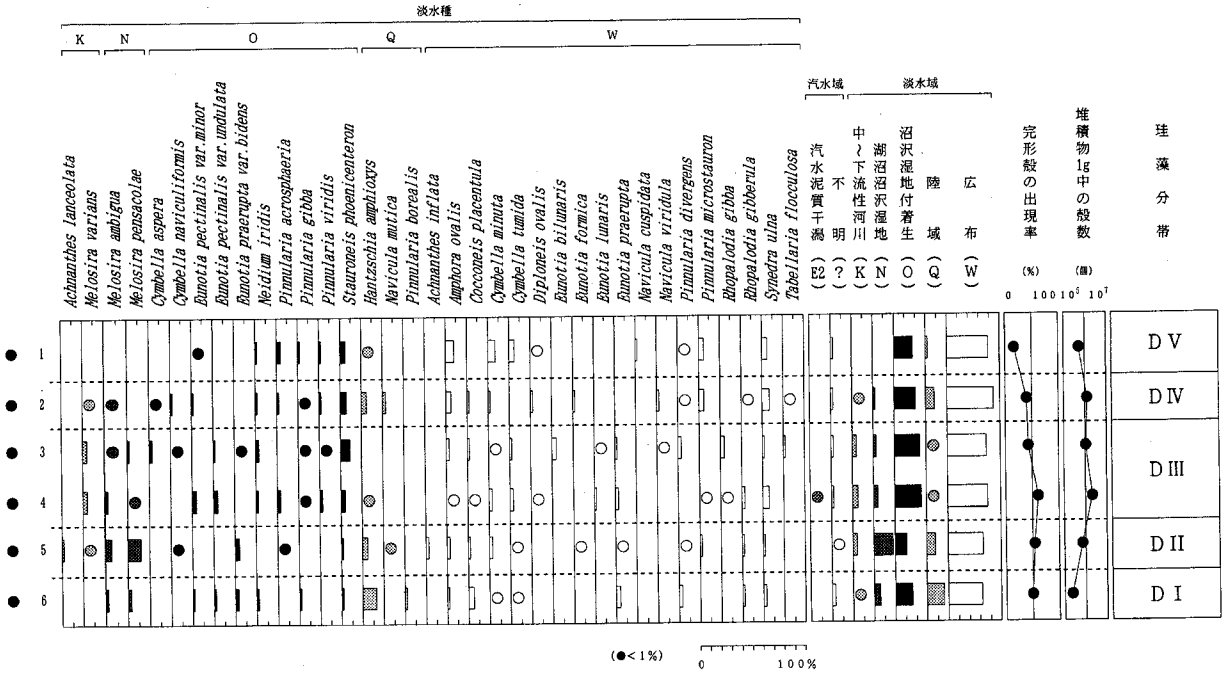


Fig.194　SD14堆積物中の珪藻化石分布図

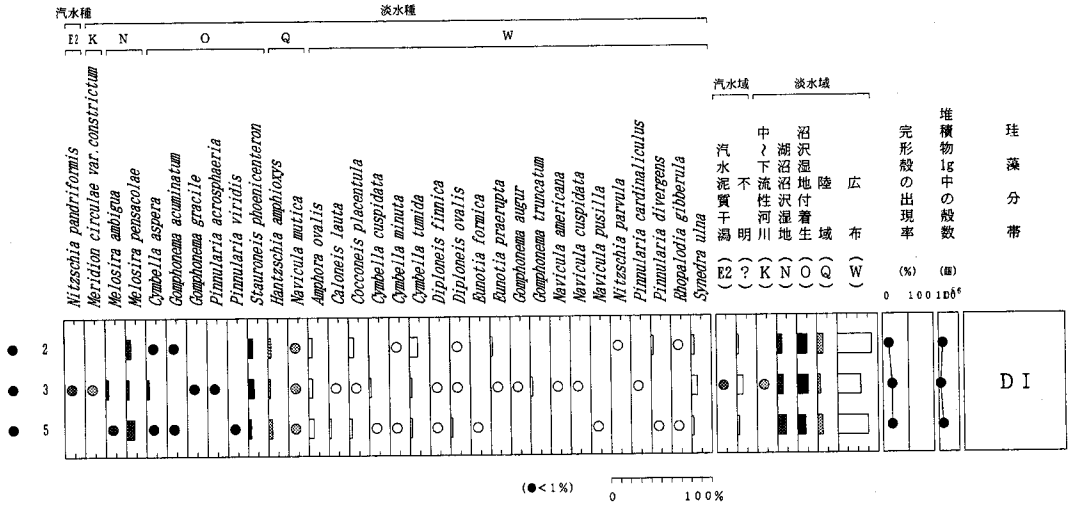


Fig.195　SD52堆積物中の珪藻化石分布図

D I 帯（2・3・5層）

堆積物１g当りの殻数は約1.28～1.67×10^5個、完形殻の出現率は約12～18%である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などや湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* など、また、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが特徴的に出現した。

こうしたことから、概ねジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

［古墳時代～古代の溝SD304・333（Fig.196）］

D I 帯（38層）

堆積物１g当りの殻数は約7.28×10^3個、完形殻の出現率は約11%である。珪藻化石は、非常に少ない。

こうしたことから、堆積初期の堆積物であり、埋積が早いなどの原因により珪藻が生育できなかっ

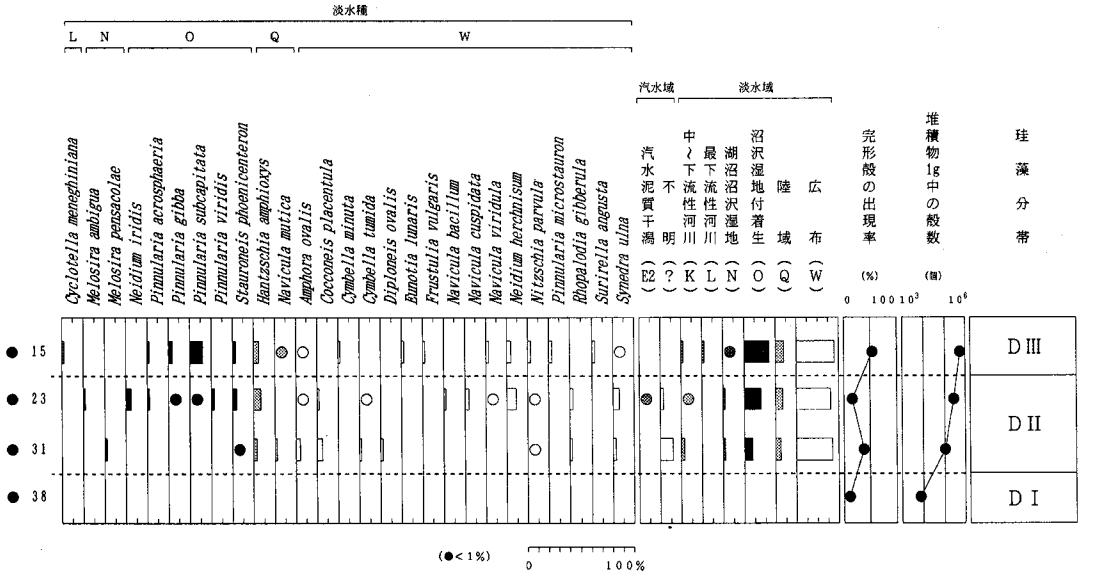


Fig.196　SD304・333堆積物中の珪藻化石分布図

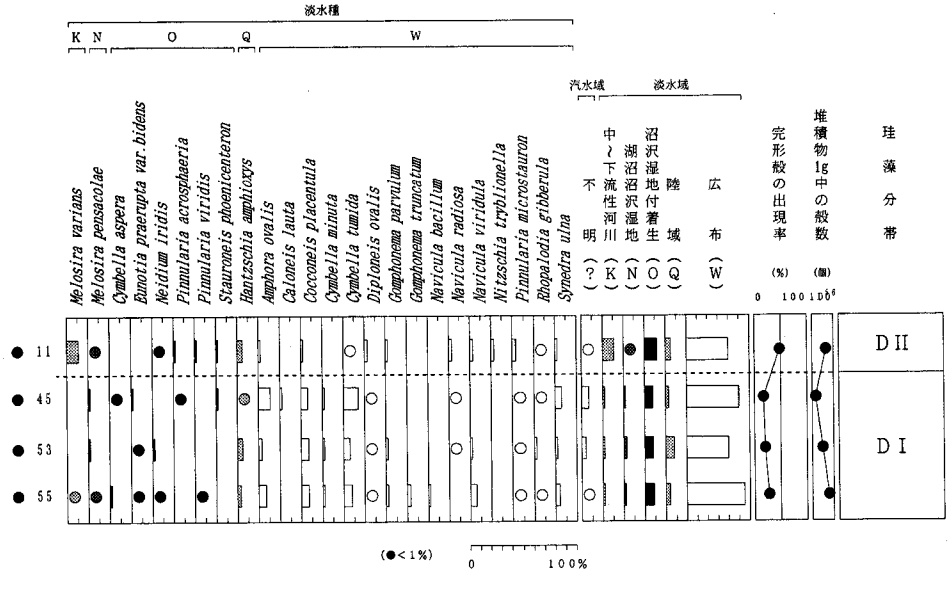
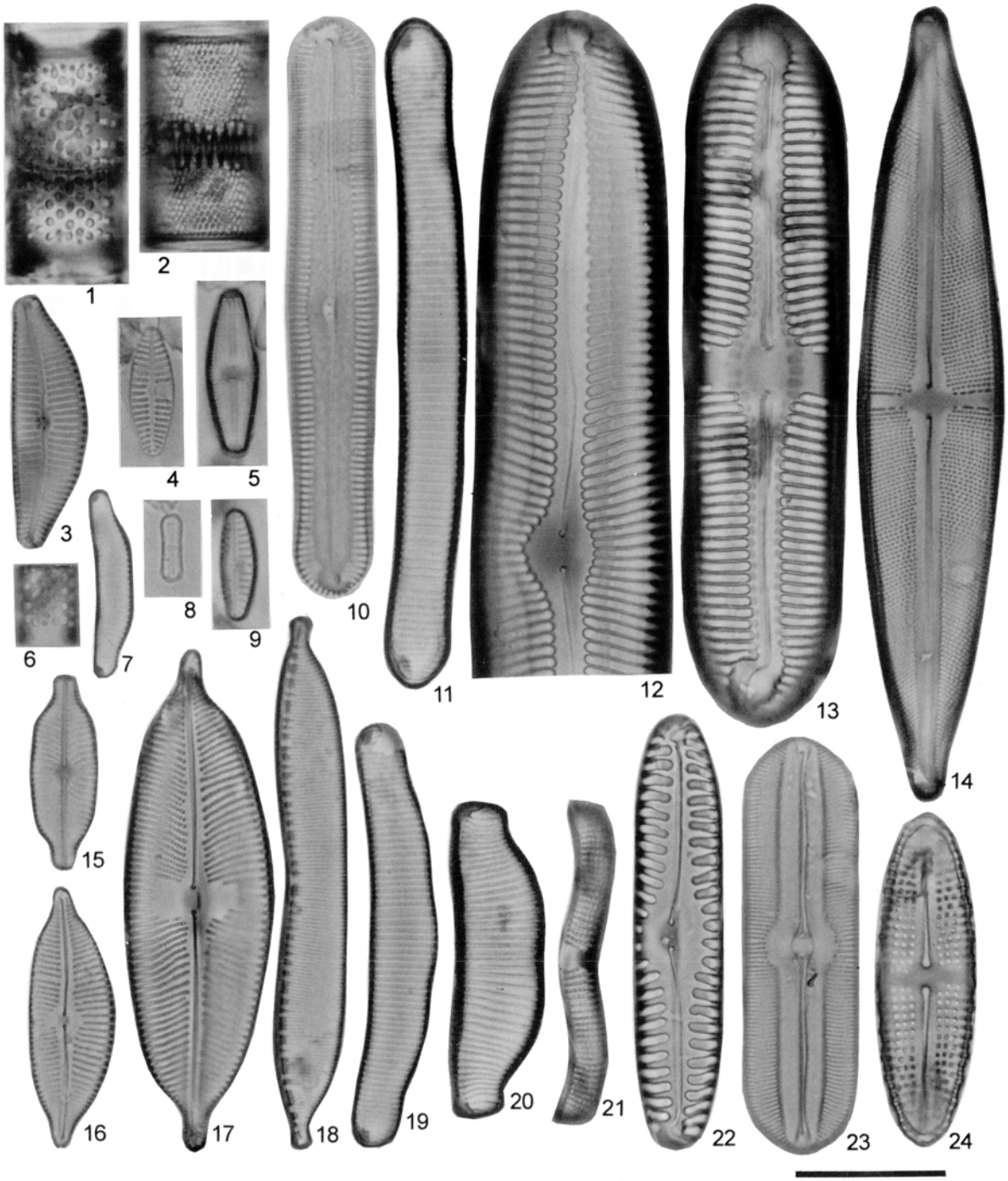


Fig.197　SD340堆積物中の珪藻化石分布図



Ph.139　堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真　(scale ber: 20μm)

1.*Melosira granulata*　SD14-6
2.*Melosira ambigua*　SD14-5
3.*Cymbella turgidula*　SD14-3
4.*Achnanthes lanceolata*　SD14-4
5.*Navicula mutica*　SD14-2
6.*Melosira pensacolae*　SD14-5
7.*Eunotia pectinalis* var.*minor*　SD14-4
8.*Navicula contenta*　SD14-6
9.*Cymbella sinuate*　SD14-4
10.*Pinnularia acrosphaeria*　SD14-3
11.*Eunotia formica*　SD14-5
12.*Pinnularia viridis*　SD14-4
13.*Pinnularia cardinaliculus*　SD14-2
14.*Stauroneis phoenicenteron*　SD14-4
15.*Navicula elginensis*　SD14-5
16.*Cymbella naviculiformis*　SD14-2
17.*Cymbella cuspidate*　SD14-2
18.*Hantzschia amphioxys*　SD14-2
19.*Eunotia pectinalis* var.*undulata*　SD14-4
20.*Eunotia praerupta* var.*bidens*　SD14-4
21.*Achnanthes brevipes*　SD14-1
22.*Pinnularia borealis*　SD14-6
23.*Navicula americana*　SD14-4
24.*Achnanthes inflata*　SD14-4

たものと推定される。

DⅡ帯（23・31層）

堆積物1g当りの殻数は約2.83×10^5および1.09×10^5個、完形殻の出現率は約16および38%である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などや陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが特徴的に出現する。また、湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* や *Melosira ambigua* なども含まれていた。

こうしたことから、ジメジメとした場所を伴う沼沢湿地環境が推定される。

DⅢ帯（15層）

堆積物1g当りの殻数は約5.67×10^5個、完形殻の出現率は約54%である。

珪藻化石は、最下流性河川指標種群の *Cyclotella meneghiniana*、中～下流性河川指標種群の *Melosira varians*、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現する。

こうしたことから、比較的流れの緩やかな河川の流れ込みのある沼沢湿地環境が推定される。

［古墳時代の河川SD340（Fig.197）］

DⅠ帯（45・53・55層）

堆積物 1g当りの殻数は約1.45×10^5～5.92×10^5個、完形殻の出現率は約17～27%である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Eunotia praerupta var.bidens* など、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが出現する。また、湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* なども随伴する。

こうしたことから、ジメジメとした沼沢湿地環境が推定される。

DⅡ帯（11層）

堆積物1g当りの殻数は約4.42×10^5個、完形殻の出現率は約48%である。珪藻化石は、中～下流性河川指標種群の *Melosira varians* が特徴的に出現した。沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* や陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* なども出現する。

こうしたことから、中～下流性河川が特徴的であり、ジメジメとした沼沢湿地を伴う環境と推定さ

Tab.77　立花寺B遺跡堆積物の堆積環境とその変遷

遺構	層位	堆積物の特徴		珪藻帯	堆積環境	その他
		色および構成物	その他			
SD14	1層	灰褐色の砂質シルト	雲母混じり	DⅤ	沼沢湿地	
	2層	灰色粘土		DⅣ	ジメジメとした沼沢湿地	
	3層	暗灰色の粘土	草本遺体混じり	DⅢ	河川の流入を伴う沼沢湿地	
	4層	暗灰色の粘土	植物遺体・雲母混じり			
	5層	暗灰色の粘土	植物遺体・雲母混じり	DⅡ	河川の流入を伴う沼沢湿地	ジメジメとした陸域を伴う
	6層	暗灰色の粘土	砂混じり	DⅠ	ジメジメとした沼沢湿地	
SD52	2層	灰色のシルト	細砂混じり	DⅠ	沼沢湿地	ジメジメとした陸域を伴う
	3層	灰色の粘土				
	5層	灰色の砂質粘土				
SD304 SD333	15層	暗灰色の砂質粘土	礫混じり	DⅢ	流れの緩やか河川を伴う沼沢湿地	ジメジメとした陸域を伴う
	23層	黒灰色の粘土		DⅡ	ジメジメとした沼沢湿地	
	31層	暗灰褐色の粘土				
	38層	暗黒灰色の粘土	砂混じり	DⅠ	堆積が早い	
SD340	11層	茶灰色の粘土		DⅡ	中～下流性河川	ジメジメとした沼沢湿地
	45層	暗灰茶色の粘土	細粒雲母・砂混じり	DⅠ	ジメジメとした沼沢湿地	河川の流れ込み
	51層	暗灰茶色の粘土質砂				
	55層	暗茶灰色の粘土	雲母・砂混じり			

れる。

⑤考察

Tab.77に、各遺構の堆積物の特徴とその堆積環境を示す。

古墳時代の河川SD14では、比較的ジメジメとした沼沢湿地から河川の流れ込みのある沼沢湿地へと変化し、河川の流れ込みのある沼沢湿地、比較的ジメジメとした沼沢湿地、沼沢湿地へと変化している。

古墳時代前期の浅い溝SD52では、概ねジメジメとした沼沢湿地が安定して継続していたものと推定される。

古墳時代～古代の溝SD304・333では、当初比較的早い埋積が起った後、ジメジメとした場所を伴う沼沢湿地から比較的流れの緩やかな河川の流れ込みのある沼沢湿地に変化したことが推定される。

古墳時代の河川SD340では、ジメジメとした沼沢湿地から中～下流性河川が卓越する環境に変したことが推定される。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理、42、73-88.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究、27、 1-20.

(4) 立花寺B遺跡6次調査の竪穴住居出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

①はじめに

当遺跡は、福岡市博多区に所在し、福岡平野の東南部を流れる御笠川の右岸に広がり、標高約12m前後の低地に立地している。当遺跡からは、当地周辺では今までにあまり知られていない古墳時代中期（5世紀後半）の集落が検出された。ここでは、そのうちの竪穴住居跡SC26（35試料）とSC39（7試料）から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。当時の住居建築材に利用されていた樹種を明らかにして、当地での樹種利用をより明らかにしてゆくための資料とするものである。

②炭化材樹種同定の方法

炭化材の3方向の断面を走査電子顕微鏡で拡大し材組織を観察して、その特徴をもとに樹種同定を行った。横断面（木口）は炭化材を手で割り新鮮な平滑面を出し、接線断面（板目）と放射断面（柾目）は片刃の剃刀を各方向に沿って軽くあて弾くように割り面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM－T100型）で観察と写真撮影を行った。横断面は、材の伸長方向に直交する面である。接線断面は、年輪に接する縦方向の断面である。放射断面は、年輪に直交し樹芯を通る縦方向の断面である。

③結果

樹種同定結果の一覧をTab.78に示した。使用当時の形状に近いと思われる試料については、断面の大きさや形状を記録した。

2件の竪穴住居跡からは、広葉樹材10分類群（アカガシ亜属・ツブラジイ・シイノキ属・クワ属？・クスノキ科・アワブキ・ツバキ属・モッコク・ヒサカキ・シャシャンボ）が検出された。クワ

属？・アワブキは落葉性で、クスノキ科は落葉性を含む可能性があるが、それ以外は常緑広葉樹であった。 2件ともにシイノキ属が多く出土した。炭化材の形状は直径２～５cmの丸木が多く、樹皮が付いている炭化材もあった（SC26の 6・13・24)。丸木で利用されていた樹種は、検出された分類群のすべてに及ぶ。割る・削るなどの加工をして使用していたと思われる炭化材は、アカガシ亜属とツブラジイを含むシイノキ属が多く、ほかにクワ属？とアワブキであった。

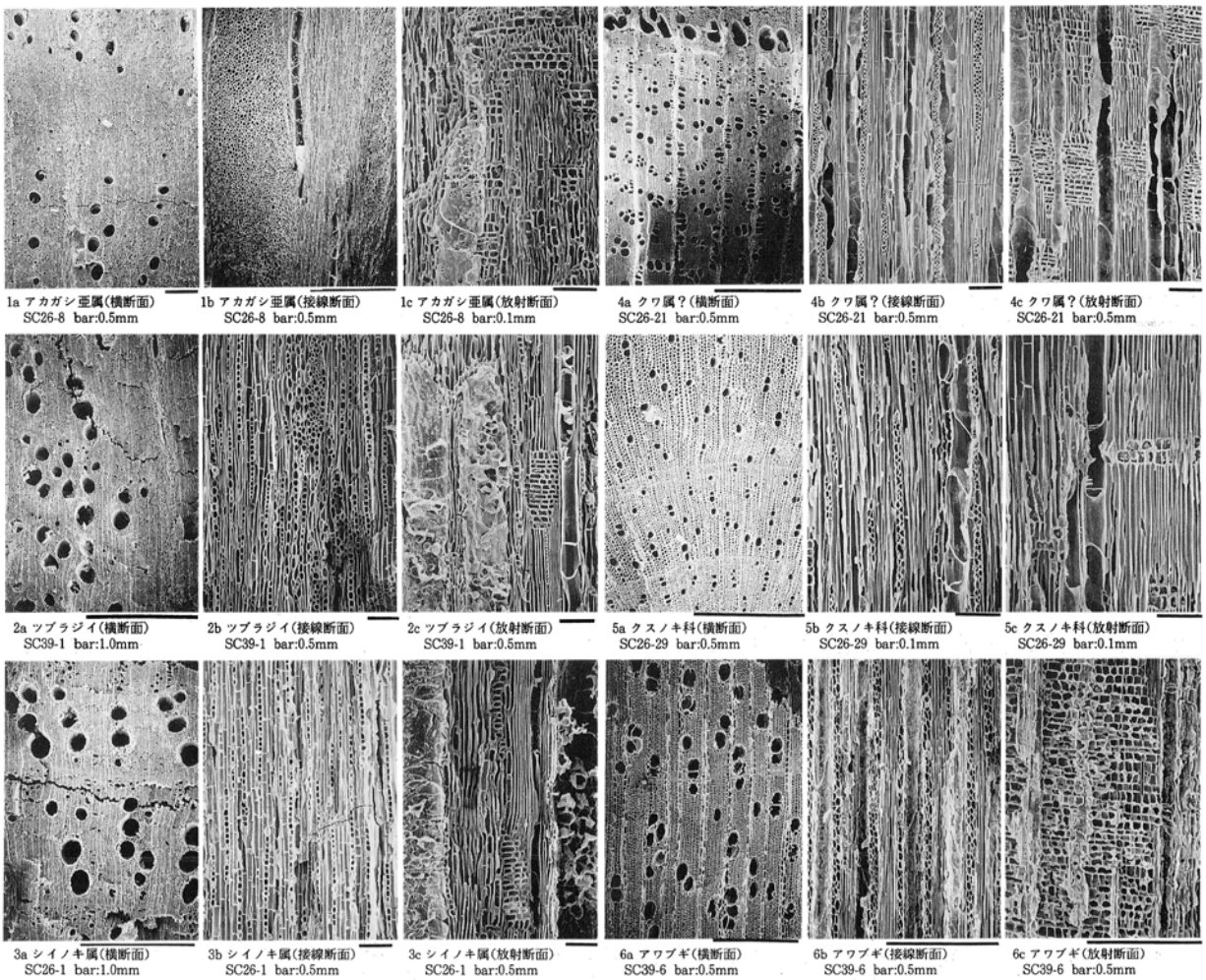
草本類が集積した塊は、主に単子葉類の細い茎（稈）であることが判りススキ属に類似したものも観察されたが、分類群を特定することは出来なかった。SC26-15では、同一方向に集積した層が約45度に向きを変えて重なっており、その中に直径５mmの当年枝の広葉樹材が散在していた。

以下に同定された分類群（樹種）の材組織を記載する。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* ブナ科 Ph.140 1a－1c（SC26－8）

集合放射組織を挟み中型～小型の管孔が単独で放射方向に配列し、接線状柔組織が顕著な放射孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性、単列のものと幅の広い集合射組織があり、道管との壁孔は柵状・交互状で孔口は大きく開いている。SC39の試料４は、集合放射組織の幅は狭く分布も少ないのでマテバシイの可能性も考えられるが、十分な識別は出来なかった。

アカガシ亜属は常緑広葉樹で、いわゆるドングリをつけるカシ類である。



Ph.140　立花寺Ｂ遺跡６次調査竪穴住居跡出土炭化材樹種

シイノキ属ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科　Ph.140　2a－2c（SC39－1）

やや楕円形で中型の管孔が間隔をあけて配置し3～4個が放射方向に分布し、その後は非常に小型の管孔が火炎状または散在している環孔材。年輪界は波状で、幅が狭く緩く集合した放射組織がある。道管の穿孔は単一である。

シイノキ属には、関東以西・四国・九州に分布するツブラジイ（コジイ）と、本州の福島県と新潟県佐渡以南・四国・九州に分布するスダジイがある。スダジイは樹芯部に限り集合放射組織が現れることがあり、ツブラジイは樹心以外でも現れる。当遺跡の試料は樹芯以外の部分で集合放射組織の存在が確認できたのでツブラジイと判断した。

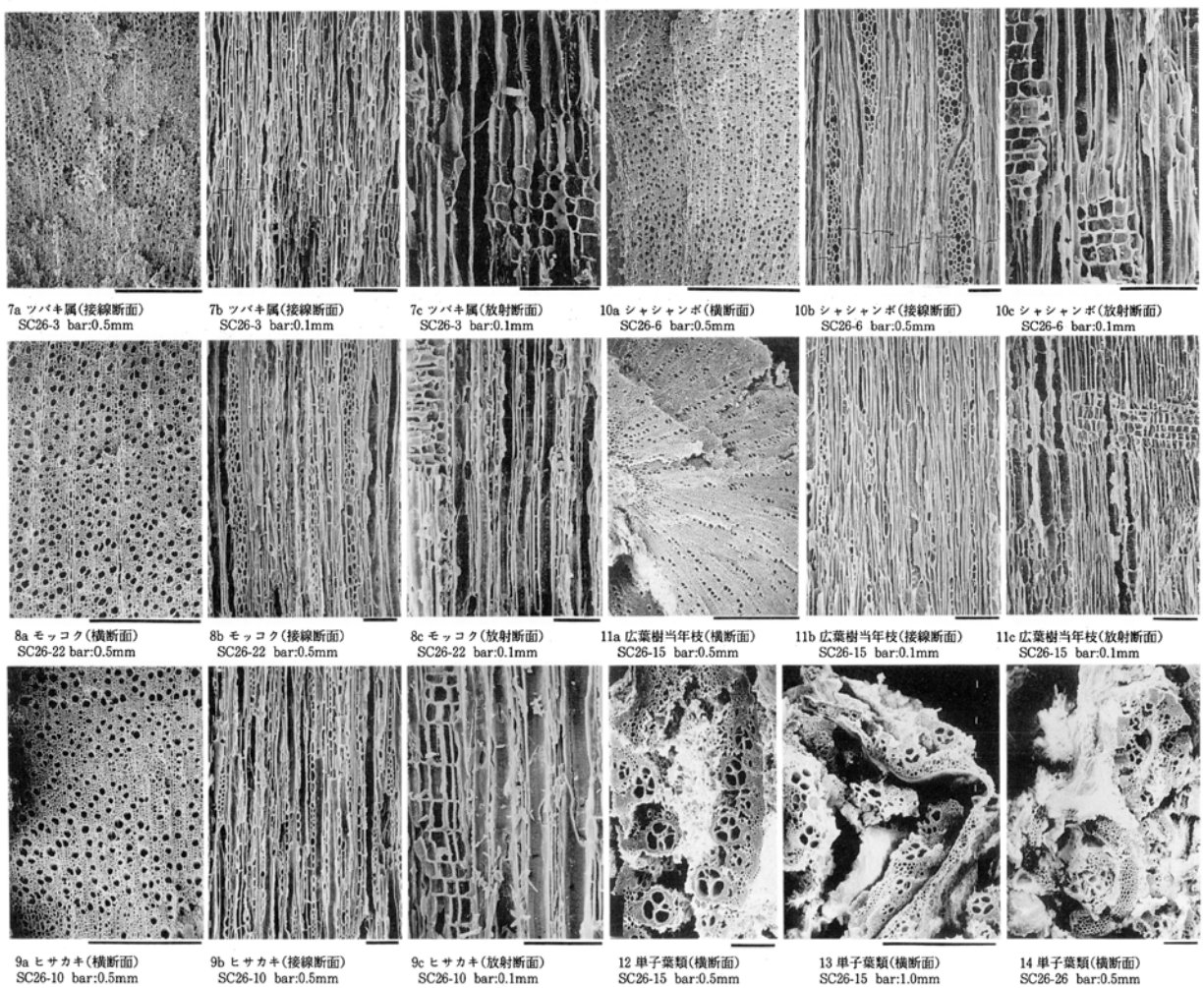
シイノキ属 *Castanopsis*　ブナ科　Ph.140　3a－3c（SC26－1）

上記のツブラジイと同様の組織形態であるが、集合放射組織が見られなかったものである。

クワ属？ *Morus* ？ クワ科　Ph.140　4a- 4c（SC26-21）

年輪の始めに中型の管孔が配列し除々に径を減じ、晩材部では非常に小型の管孔が斜状・放射状・塊状に集合して分布している環孔材。道管の壁孔は小さく交互状に配列、穿孔は単一、内腔には水平のチロースが多くみられる。放射組織は異性、主に平伏細胞から構成され、1～4細胞幅、細胞高が非常に高いものが多い。

温帯から亜熱帯の山中に広く分布するヤマグワの材組織と類似するが、小道管にらせん肥厚が見ら



Ph.141　立花寺B遺跡6次調査竪穴住居跡出土炭化材樹種

れなかった。また晩材部の年輪界付近では放射方向に複合する小道管が目立つなど、クワ属と断定するにはやや疑問が残る。

クスノキ科 Lauraceae Ph.140 5a－5c（SC26－29）

小型の管孔が単独または2～4個が放射方向に複合し散在している散孔材。道管の穿孔は、単一と階段数の少ない階段状がある。放射組織は異性、1～2細胞幅、上下端に大きく膨らんだ油細胞がある。

管孔が大きく、油細胞の出現頻度の高いクスノキやタブノキなど以外の樹種であるがこれ以上は区別できなかった。

アワブキ *Meliosma myriantha* Sieb. et Zucc. アワブキ科 Ph.140 6a－6c（SC39－6）

小型で厚壁の管孔が単独または2～3個が複合し、柔細胞を介して放射方向に複合するものが見られる散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一と階段数が1～3本ほどの階段穿孔がある。放射組織は異性、1～3細胞幅、細胞高は非常に高く、放射柔細胞は薄壁で大きいため放射組織の全体は粗雑な印象をうける。周囲状柔組織が顕著である。

ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 Ph.141 7a－7c（SC26－3）

非常に小型の管孔が散在し、年輪の始めの管孔はやや大きい。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が20本ほどの階段穿孔である。放射組織は上下端に方形・直立細胞がある異性、1～3細胞幅、膨らんだ油細胞を含み、道管との壁孔は交互状や階段状である。

モッコク *Ternstroemia gymnanthera*（Wright et Arn.）Bedd. ツバキ科 Ph.141 8a－8c（SC26－22）

多数の非常に小型の管孔が均一に分布する散孔材。道管の壁孔は雑然とした交互状から階段状、穿孔は横棒数が30本ほどの階段穿孔。道管と木繊維にらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～4細胞幅、単列は大きな直立細胞からなり、細胞高は高い。道管との壁孔は交互状である。

ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. ツバキ属 Ph.141 9a－9c（SC26－10）

非常に小型で多角形の管孔が均一に分布し、年輪界で径は減少する散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が30本以上の非常に多い階段穿孔、網状のらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～2細胞幅、道管との壁孔は主に交互状で一部階段状になる。

シャシャンボ Vaccinium bracteatum Thunb. ツツジ科 Ph.141 10a－10c（SC26－6）

極めて小型で多角形の管孔が均一に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状で疎ら、穿孔は単穿孔と階段数が少ない階段穿孔や網状穿孔があり、水平ならせん肥厚が見られる。放射組織は異性、主に5細胞幅、縁辺部に直立細胞が目立ち、放射柔細胞は大型、細胞高は高く放射組織は大型である。

広葉樹（当年枝） broad-leaved tree Ph.141 11a－11c（SC26－15）

屋根材または壁材と思われるイネ科草本の稈が多数集積した層の中に、直径約5mmの細い枝材が所々に挟まっていた。保存がよく比較的大きな材の1点を選び観察した。

中心部に髄があり、2～数個の非常に小型の管孔が放射方向に複合して分布し、穿孔は単一、放射組織は異性で1～2細胞幅、年輪界はない当年枝である。各分類群の特徴的な材形質は、少なくとも2年目以降でなければ発現されないので、種類は特定できなかった。

単子葉類 Mnocotyledoneae Ph.141 12－13（SC26－15） 14（SC26－26）

SC26の試料15・16・26に見られた草本の集積した層の断面を観察したが、分類群は不明である。比較的形状の保たれたものについて記載する。維管束は、単子葉類に特有の不整中心柱であるが、大型の竹類に見られる非常に発達した鞘細胞は維管束の周囲に見られない。茎の断面は円形または円形が

潰れた状態が観察された。従って茎の断面が三角形であるカヤツリクサ科ではないことが判る。茎（稈）は中空ではなく、柔細胞で埋まっていたようで（写真12)、表皮下に配列する維管束は小さく厚膜の細胞層が発達していた。写真13は、折れ曲がった表皮系の内側に沿って維管束が配列しているが、稈の表皮下のように厚細胞層は発達していないので葉の断面かも知れない。写真14では、異なる種類または異なる部位の茎断面が見られる。なお節のある部分は見つからなかった。

住居の屋根材・壁材にはススキ類の利用が考えられ、写真12の組織はススキの断面に似るが、多くは組織的にススキ属と断定できるような状況ではなかった。

④まとめ

古墳時代中期（5世紀後半）の2件（SC26とSC39）の竪穴住居から出土した炭化材からは、10分類群の広葉樹材が検出された。シイノキ属が最も多く、このほかにもアカガシ亜属・ツバキ属・モッコク・シャシャンボなどの常緑広葉樹材が圧倒的に多く使用されていたことが明らかになった。これらは、直径2～5cmの丸木の形状で出土したものが多く、樹皮が付着していたものもあった。このことから、用途にあった太さの材を選別し伐採して使用したと予想され、その事が複数の樹種が使われていた事とも関連していると思われる。もっと太い材から加工（板状や分割材）して利用したと思われる形状の炭化材樹種は、やはり常緑広葉樹のシイノキ属とアカガシ亜属が多く、このほかに落葉広葉樹のクワ属？とアワブキもあった。

屋根材や壁材あるいは敷き物であったのかもしない草本類の塊は、主に単子葉類の茎（稈）が一定方向に集積した層が向きを変えて重なる構造が見られた。層と層の間には、細い当年枝の広葉樹が散在していた。経験的なことであるが、今までにも屋根材もしくは壁材と推定される試料には、草本類のほかに細い広葉樹材がしばしば混じっている事がほかの遺跡調査でもあった。今回、細い広葉樹材が草本類の層と層の間に挟まれて入っているのが確認できた。細い広葉樹材は単に混入したのではなく、構造の上で必要な部材であったのではないかと思われた。

Tab.78　立花寺B遺跡6次調査の竪穴住居（5世紀後半）出土炭化材樹種同定結果

竪穴住居SC26			
試料	樹種	備考（大きさ・断面形状など）	
1	シイノキ属		
2	シイノキ属	φ3cm	丸木
3	ツバキ属	φ5cm	丸木
4	アカガシ亜属	幅8cm	分割材 マテバシイ属の可能性あり
5	アワブキ	推定φ6cm	4分割材
6	シャシャンボ	φ3.6cm	丸木　樹皮有り
7	シャシャンボ	φ1.5cm	丸木
8	アカガシ亜属	幅4cm	分割材
9	アカガシ亜属	幅8cm	板状
10	ヒサカキ	φ2cm	丸木
	単子葉類		集積
	シイノキ属	φ0.5cm	丸木
11	アワブキ	幅8cm	分割材
12	アワブキ	φ8cm	芯持ち　半截
13	ヒサカキ	φ5cm	芯持ち　半截　樹皮付き
14	不明		保存悪い
15	単子葉類	径1～2mm	多数が同一方向に集積 集積層は向きを変えて互層
	広葉樹	φ0.5cm	当年枝 集積した稈の中に散在
16	単子葉類		多数が同一方向に集積
17	アワブキ	φ3cm	丸木
18	モッコク	φ3.5cm	
19	シイノキ属	φ3.5cm	丸木
20	アワブキ	φ2.5cm	丸木
21	クワ属？	長径4.5cm	分割材か？
22	モッコク	φ3.5cm	半截
23	モッコク		
24	シイノキ属	φ4.0cm	丸木　樹皮付き
25	シイノキ属		丸木状
26	シイノキ属	φ3.5cm	丸木 単子葉類が重なり出土
	単子葉類		多数が同一方向に集積 集積層は向きを変えて互層
27	アワブキ	φ3.5cm	芯持ち　半截
28	アワブキ	φ2.5cm	丸木
29	クスノキ科	φ1.5cm	丸木
30	シイノキ属	φ2.5cm	丸木状
31	アワブキ	φ3.5cm	丸木
32	ツバキ属	φ4.5cm	丸木
33	シイノキ属	φ4.0cm	丸木
34	アカガシ亜属	φ3.5cm	
35	ツバキ属	φ2.0cm	丸木状
竪穴住居SC39			
試料	樹種	備考（大きさ・断面形状など）	
1	ツブラジイ		板状？
2	シイノキ属		分割材
3	シイノキ属		角形？分割材
4	アカガシ亜属	φ2.0cm	芯持ち　半截
5	アワブキ		分割材
6	アワブキ		分割材
7	シイノキ属		分割材

(5) 立花寺B遺跡出土初期須恵器の蛍光X線分析

三辻利一（大谷女子大学）

①はじめに

土器類には多数の元素が含有されていることは周知の事実である。仮に、これらの元素をすべて測定できたとしても、須恵器産地推定法は開発できるかどうかは疑わしい。その理由は須恵器窯が余りにも多過ぎるからである。多数の須恵器窯を窯群に整理できない限り、産地推定法は開発できないのである。分析元素の中から、少数の窯群に整理できるような特別な元素を探し出さなければならない。そのためには、実際に、全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析してみなければならない。こうした考え方で、20年を越える年月をかけて全国各地の窯跡出土須恵器が分析された。その結果、K、Ca、Rb、Srの4元素が有効な地域差を表す元素であることが見つけ出された。そうすると、須恵器産地推定とはこれら4元素を使って、指紋合わせの考え方で消費地遺跡出土須恵器を生産地である窯群に結びつけることである。そのため、これら4元素を指紋元素と呼ぶ。そして、消費地を生産地に結びつける方法として、2群間判別分析が適用されることになった。指紋元素と2群間判別分析が須恵器産地推定法の骨格をなす。上記4元素以外にも、特定地域の須恵器の特徴を表す元素はある。例えば、Na、Fe、Scなどである。しかし、これらの元素はK、Ca、Rb、Srほど普遍的な地域差を表さないので、現在、参考程度に使用されているに過ぎない。Si、Alも地域差を表すという報告もあるが、問題はこれら2元素が普遍的な地域差を表すかどうかである。もし、そうでないと、多数の窯を窯群に整理することは困難である。窯群に整理できずに、多数の窯をそのまま放りっぱなしにしておくと、その中から、生産地を選び出す作業は困難をきわめる。4元素が何故、指紋元素になりうるのかについては、例えば、日本列島の地質の基盤を構成する花崗岩類の広範囲にわたる分析化学的研究が必要である。このような視点から、筆者は全日本の花崗岩類も分析した。その結果、花崗岩類にも上記4元素によって、地域差があることがわかった。これに対応するようにして、窯跡出土須恵器にも地域差があることもわかった。その原因は花崗岩類中の主成分鉱物である長石類に起因するためであると考えられている。恐らく、カリ長石に富むアジア大陸の花崗岩類と、斜長石に富む太平洋底の玄武岩の狭間に介在する日本列島の位置がその背景にあるものと推察される。

開発された産地推定法を適用するうえに最も適用しやすい系が初期須恵器である。窯数が少ないからである。初期須恵器の窯の多くは和泉陶邑にあることは周知の事実である。地方窯は限られた地域に少数、見つけられているに過ぎない。須恵器生産の技法が朝鮮半島から伝えられたことを考えると、地方の初期須恵器の窯が朝鮮半島に近い福岡県内に多いことも理解できる。須恵器産地推定法はまず、福岡県内の初期須恵器の窯周辺にある古墳出土須恵器に適用された。その結果、地元、朝倉窯群の製品に混じって、多数の陶邑産の須恵器が出土することが判明した。それ以降、福岡県内の古墳出土須恵器の産地推定には地元産か、陶邑産かを問う2群間判別分析法が適用されることになった。その逆の、畿内の5世紀代の古墳出土須恵器の産地推定には陶邑産か、地方窯産かを問う2群間判別分析法が適用された。もちろん、母集団を入れ替えて、伽耶群や百済群を母集団として2群間判別分析をすることもできる。その結果、畿内の古墳から地方窯産の製品は全く検出されておらず、朝鮮半島産の陶質土器もほとんど検出されていない。他方、地方窯周辺の古墳には地元産の須恵器に混じって、陶邑産の須恵器が続々と検出されてきた。陶邑産の須恵器は北は岩手県から南は鹿児島県に至るまで全国各地の古墳へ一方的に供給されていた事実が明らかになってきた。こうした背景をもって、本報告では立花寺B遺跡から出土した初期須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。

②分析方法

土器片表面を研磨し、胎土を粉砕したのち、高圧をかけて粉末試料を錠剤に固めることは従来と同じである。分析には奈良教育大学に設置されている波長分散型の完全自動蛍光X線分析装置（理学電機製、3270型機）を使用した。分析値は同時に測定した岩石標準試料、JG－1による標準化値で表示した。

③分析結果

分析値はTab.79にまとめられている。全分析値はJG－1による標準化値である。分析値のままでは分析結果は理解し難いので、通常、まず、K－Ca、Rb－Srの両分布図を作成して、データ解析の糸口を掴む。Fig.198には両分布図を示す。ほぼ、3群に分かれて分布することがわかる。ここで、念のため、クラスター分析を試みた。その結果はFig.199に示されている。Fig.198からも予想されるように、3群に分類されている。こうしてまず、今回分析した試料は少なくとも、3ヶ所の生産地から供給されたものが混ざっていることが判明した。

つぎの問題はこれらの生産地は何処かという産地問題である。初期須恵器であるから、地元生産地としては朝倉窯群、新貝窯、神籠池窯、重留窯が選択された。また、外部生産地としては陶邑窯群が選択された。判別分析を行うために、これら母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値がK、Ca、Rb、Srの4元素の分析値を使って計算された。その結果はTab.80にまとめられている。さらに、ここ結果を分かりやすくするために、陶邑群と朝倉群間の2群間判別図を作成した。その結果をFig.200に示す。陶邑領域と朝倉領域はそれぞれ、陶邑群の任意に選択された145点の試料を、また、朝倉群の109点の試料を使って求められた両群への帰属条件から描かれたものである。そうすると、今回分析した試料の中に陶邑産の須恵器が含まれておれば、その須恵器は陶邑領域に、朝倉窯群の製品が含まれておれば、朝倉領域に分布するはずである。そして、両群以外の生産地の製品が含まれておれば、不明領域に分布することになる。No.1、4、9、16の4点はTab.79に示すように、クラスター分析ではA群に分類された試料であるが、Fig.200の判別図では朝倉領域に分布することがわかる。さらに、No.5、7、8、10、11、13、14、15の8点はクラスター分析ではB群に分類された試料であるが、これらは陶邑領域に分布することがわかる。そして、C群に分類されたNo.3、6、12の3点は不明領域に分布し、陶邑群の製品でもなく、朝倉群の製品でもないことがわかった。問題はNo.2の試料である。クラスター分析ではC群に分類されているが、他の3点とは類似度は低く、大枝でむすびついているに過ぎない。しかし、Fig.200の判別図では陶邑領域の端に分布する。D^2(陶邑）＜10の帰属条件を単純に受け入れると、陶邑群産と判断されるが、ここは要注意である。Fig.198の両分布図をみると、No.2は陶邑領域から明らかにずれて分布することがわかる。とくに、陶邑窯群の試料の中には、Kの分析値が0.60を越えるものはほとんどないので、この試料は陶邑産の可能性は低いとみられる。この両分布図からはNo.2は産地不明としておく。なお、不明領域に分布した3点の試料は統計計算の結果、D^2(新貝）＜10の帰属条件を満足したので、新貝窯産と推定した。神籠池窯、重留窯に帰属する試料は1点もなかった。

以上の結果、今回分析した試料のなかには、陶邑産が8点、朝倉群産が4点、新貝窯産が3点あることがわかった。

新貝窯、重留窯の試料は10点ほどしかなく、統計計算の母集団の試料数としては不足する。分析する機会があれば、試料数を増やしておきたい。

九州北部地域の初期須恵器の産地推定のデータは今後も、集積していくことは重要である。朝倉窯群も新貝窯、重留窯も操業期間はそれほど長くはなかったと推定される。陶邑産と推定される須恵器

との時期差の問題も次第に考察の対象として上がってくるであろう。また、陶邑から供給された須恵器の器種にも偏りがあるのだろうか、データが集積されるにつれて、次第に考古学の問題が浮上してくるものと予想される。

Tab.79　立花寺 B 遺跡出土初期須恵器の分析データ

試料No.	遺物No.	出土遺構	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類
1	86	SC26	杯身	0.388	0.388	2.31	0.301	0.320	0.222	A
2	126	SC32	杯蓋	0.676	0.232	2.36	0.703	0.604	0.392	C
3	135	SC33	杯蓋	0.596	0.375	2.09	0.696	0.897	0.637	C
4	140	SC34	瓹	0.332	0.453	2.32	0.311	0.330	0.244	A
5	139	SC34	杯蓋	0.498	0.092	2.07	0.460	0.341	0.216	B
6	157	SC36	杯蓋	0.547	0.426	2.14	0.598	0.726	0.454	C
7	233	SC42	壺	0.511	0.093	1.96	0.497	0.274	0.098	B
8	321	SD14	無蓋高杯	0.395	0.054	2.24	0.526	0.208	0.101	B
9	326	SD14	無蓋高杯	0.342	0.500	2.32	0.317	0.355	0.257	A
10	314	SD14	高杯蓋	0.458	0.034	2.11	0.499	0.214	0.166	B
11	371	SD14	甕	0.471	0.084	2.65	0.487	0.325	0.275	B
12	322	SD14	無蓋高杯	0.536	0.447	2.10	0.624	0.704	0.466	C
13	312	SD14	高杯蓋	0.428	0.110	1.79	0.710	0.276	0.097	B
14	341	SD14	瓹	0.529	0.159	1.87	0.581	0.374	0.431	B
15	319	SD14	有蓋高杯	0.533	0.019	2.08	0.571	0.241	0.211	B
16	305	SD14	杯身	0.345	0.443	2.28	0.307	0.345	0.282	A

Tab.80　各母集団からの D^2 値

試料No.	遺物No.	D^2（陶邑）	D^2（朝倉）	D^2（新貝）	D^2（神籠池）	D^2（重留）	推定産地
1	86	120	7.1	263	235	539	朝倉群
2	126	9.8	349	69.1	222	708	不明
3	135	40.0	936	50.5	181	388	新貝群
4	140	176	2.1	322	267	764	朝倉群
5	139	5.2	107	39.6	40.8	2500	陶邑群
6	157	42.9	441	1.0	61.3	624	新貝群
7	233	5.4	87.4	57.2	38.5	3690	陶邑群
8	321	1.5	197	139	123	7823	陶邑群
9	326	213	4.3	320	258	1357	朝倉群
10	314	4.5	121	81.2	67.1	6587	陶邑群
11	371	2.9	96.5	46.2	45.1	3517	陶邑群
12	322	54.1	369	4.8	102	440	新貝群
13	312	5.1	543	174	346	10000	陶邑群
14	341	2.4	133	35.4	58.1	2750	陶邑群
15	319	11.2	162	55.0	73.8	7529	陶邑群（？）
16	305	160	4.2	294	253	857	朝倉群

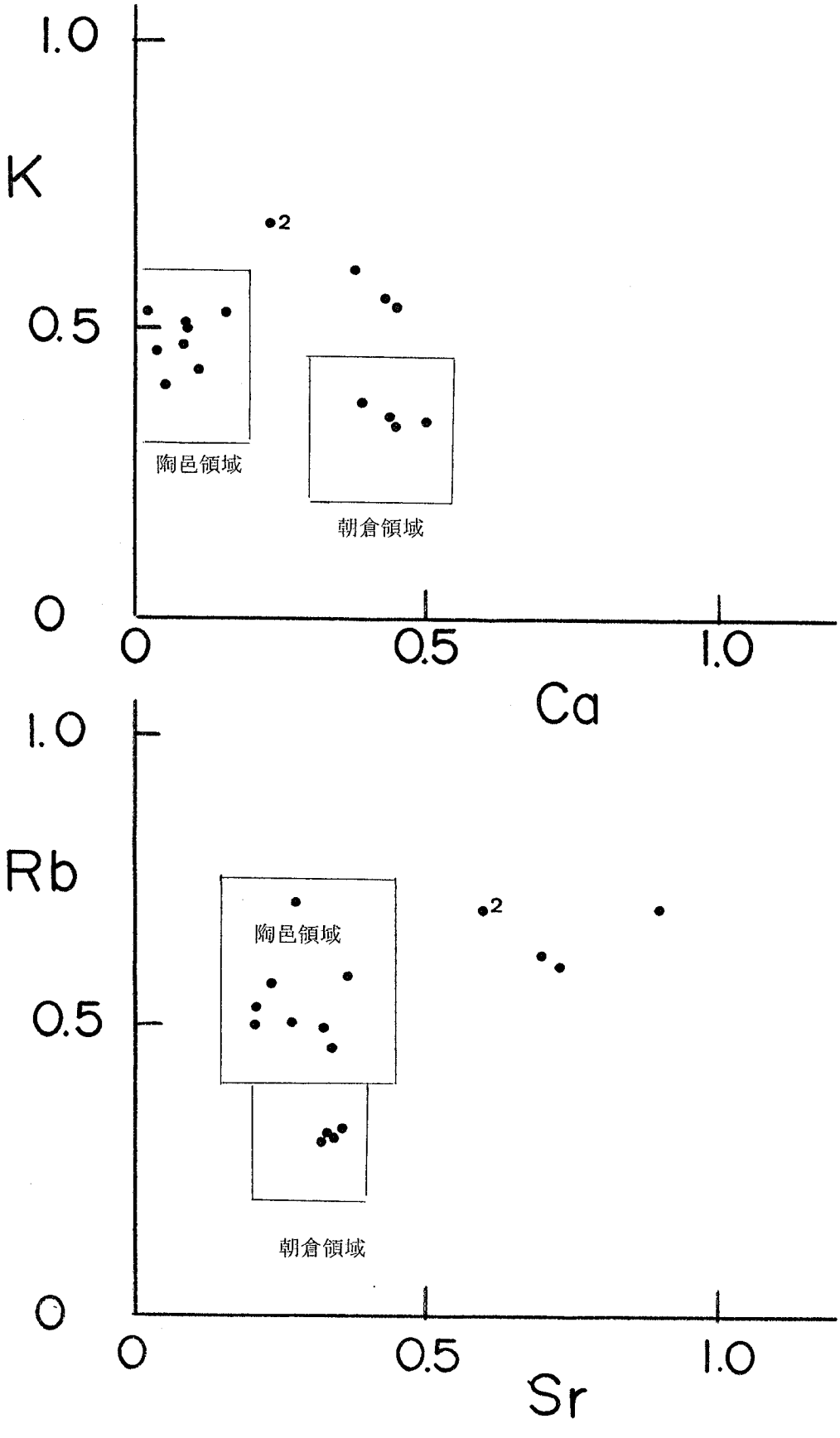


Fig.198　立花寺B遺跡出土初期須恵器の両分布図

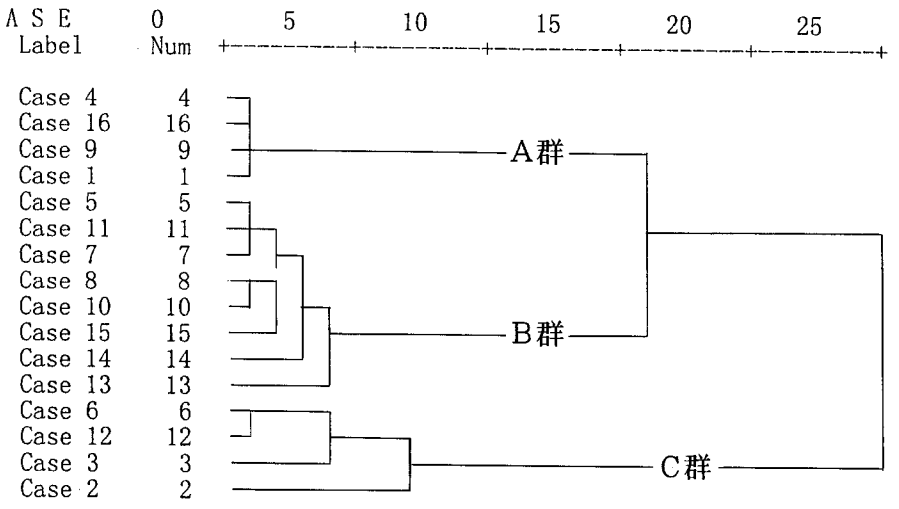


Fig.199　立花寺B遺跡出土初期須恵器のクラスター分析

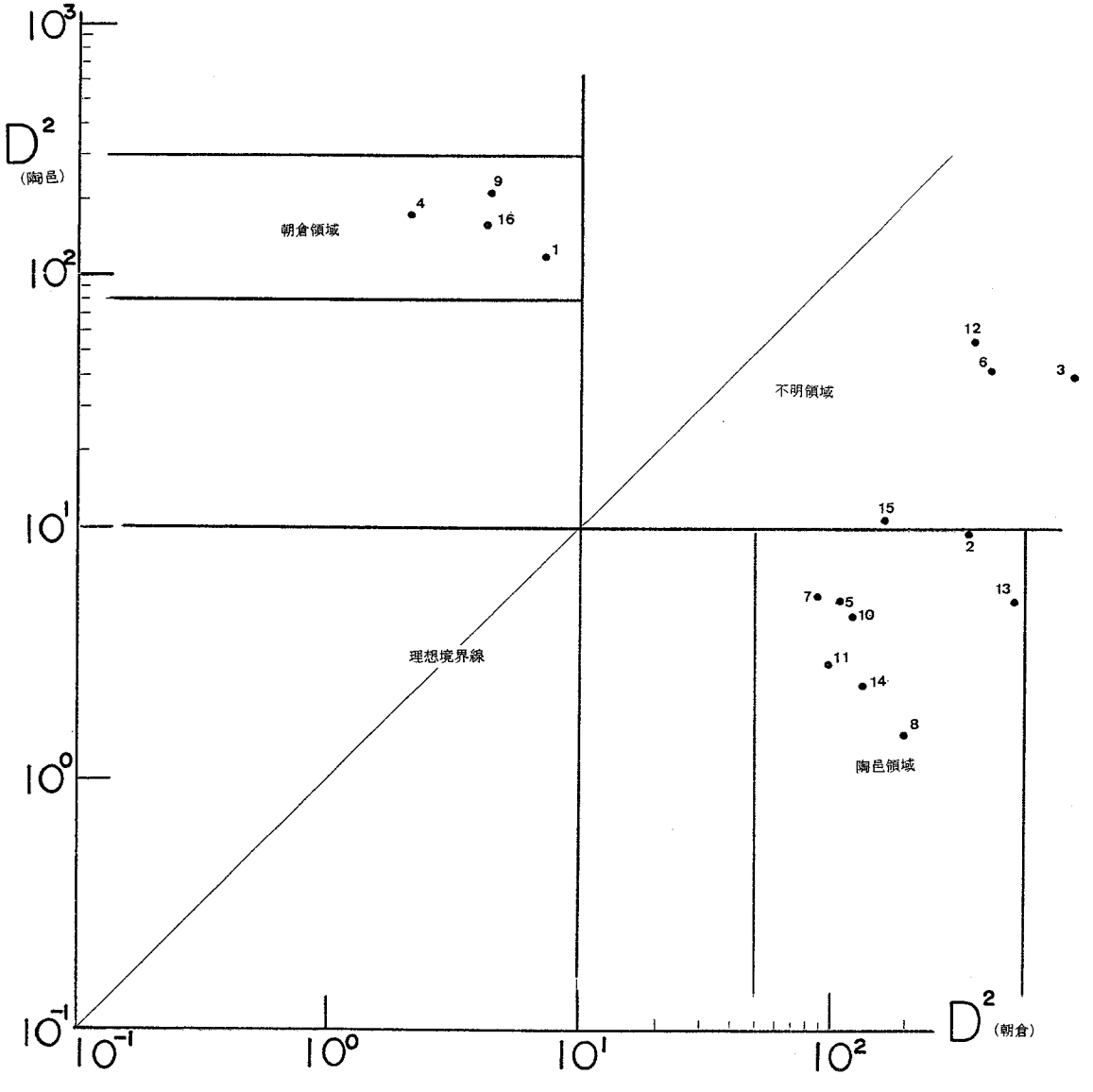


Fig.200　立花寺B遺跡出土初期須恵器の産地推定

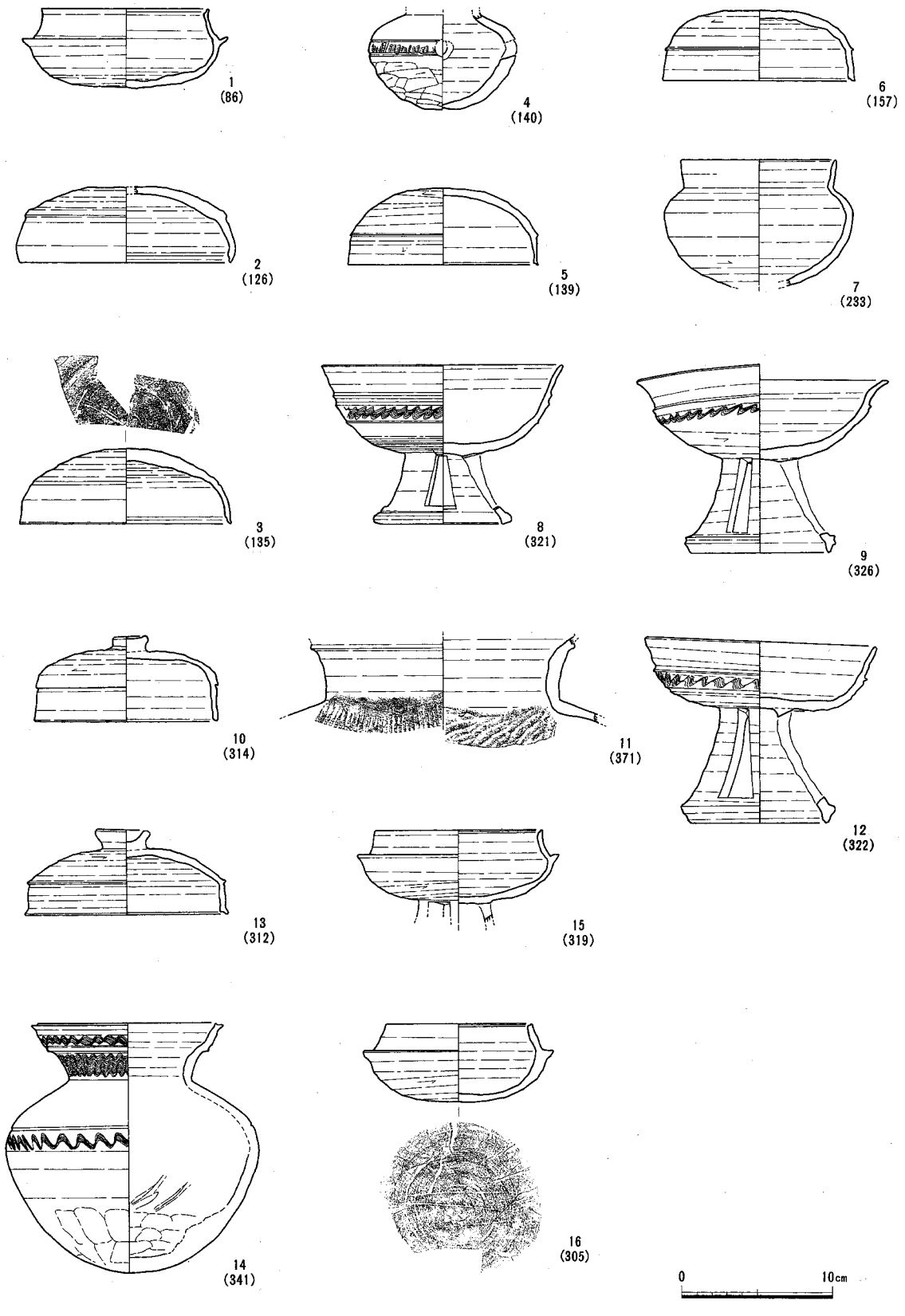


Fig.201　分析須恵器実測図（１／４）

V まとめ

最後に4次～6次調査のまとめを簡単におこないたい。今回の調査で立花寺B遺跡の南部の状況がかなりの部分わかってきた。

まず、最大の成果は古墳時代中期末から後期初頭の集落の発見である。6次調査A－1区とC区西端に明瞭な遺構がみられた。これまでこの時期の集落は福岡市内では吉武遺跡群で調査されたのみであった。早良区有田遺跡群や博多区那珂・比恵遺跡群など弥生時代から古墳時代にかけて大集落であった場所でもこの時期の遺構はほとんど発見されていない。西区飯氏遺跡や博多区上月隈遺跡、東区三苫遺跡などで竪穴住居が発見されているが、発見されるのは数軒のみであり、福岡市内から一斉に人がいなくなったかのような状況であった。

そのような中で立花寺B遺跡において30軒の竪穴住居、8棟の掘立柱建物が発見されたのは驚きを超え衝撃的ですらあった。A－1区の2,500㎡の中に河川があり、谷頭があり、30軒の住居があり、更に調査区外へ集落は続いている。

また、その規模の大きさとともに驚きなのがその立地であった。御笠川のほとんど川岸にあたり、現在でも水害の影響を受けやすい場所である。当時は自然堤防上と後背湿地にあたると思われるが、それまで暮らしていた台地からおりて、不安定な場所に移動するには何らかの原因があったと考えられる。それが自然的要因なのか、社会的要因なのか検討が必要であろう。この時期の集落が同様の立地をしているのが一般的であるとしたら、これまで発見されていない遺跡が、市内の低地部に眠っている可能性があり、今後注意を要する。

検出された住居は正方形～長方形のプランで、ほとんどが4本柱である。カマドを持つものもあるが、形をとどめるものがなく、痕跡を確認したのみであった。粘土で構築している。支脚は土製の専用のものを使用していたようである。

集落の存続期間は比較的短い。50年程度であろうか。調査時の切り合いの判断に間違いがあったとしても、同時存在が不可能な最大の重複は3軒（SC24・25・26とSC42・43・44）である。住居の覆土の堆積状況をみると焼失家屋のSC26以外は自然に埋没しており、洪水による一瞬の埋没はみられない。しかし、調査区の土層の形成から、かなりの部分が流失したと考えられ、洪水による廃絶の可能性もある。また、流失した部分で隔絶されたため、A－1区とC区西端との関係は不明だが、同時存在とするなら竪穴住居中心のA－1区と、掘立柱建物中心のC区というように集落内の建物構成が異なっており、興味を引く。しかしながら今回調査した範囲内は一般集落的様相を示し、支配者の存在を示すような遺構・遺物は見あたらなかった。

今後、周辺の調査では、流失していない部分が島状に残っている可能性を考えつつ、下層まで掘り下げる必要がある。

出土した須恵器はⅠ型式3段階からⅡ型式2段階の定型化した初期のものが中心である。そのうちの一部、16点の蛍光X線による産地推定の結果、陶邑窯8点、朝倉窯4点、新貝（新開）窯3点、不明1点となった。出土遺構、時期、器種等を考慮に入れないランダムなサンプリングであったが、半数を陶邑産の須恵器が占めることは、陶邑の生産量の多さと、大量の品物を運搬する技術、そして畿内勢力の影響が九州の一集落に及んでいることを示すものであろう。今後、更に分析数を増やし、出土遺構、時期、器種等を考慮に入れ、検討していきたい。

SD14、SX15からはミニチュア土器や滑石製品などの多数の祭祀品が出土した。どちらも涌水があ

り、水辺の祭祀がおこなわれていたことがわかる。祭祀品の中には滑石製子持勾玉が5点あり注目される。一地点でこれほど出土した例はあまり聞かない。なお、福岡市内の子持勾玉の発見は今回を含めて15点を数える（Tab.81）。

また、SD14から出土した木製鞍は国内最古級の一つである。我が国での初期の乗馬の形態がわかる重要な出土品であり、今後詳細な検討をおこなう必要がある。なお、福岡市内での木製鞍の出土はほかに3例ある。西区吉武遺跡群（未報告）からは5世紀中頃の前輪が、西区元岡・桑原遺跡群（未報告）からは7世紀中頃以前の居木が、東区香椎B遺跡（市報第673集）では14世紀末の井戸から前輪がそれぞれ出土している。

集落の生活基盤を支える生産地については、北側に接する下月隈C遺跡で検出されている水田をあてて良いであろう。現在大規模に調査が行われており、今後両遺跡を結びつける遺構や遺物が出土するのを期待したい。

古代については2次調査ほどの遺構・遺物がみられなかった。中心地から離れた縁辺部にあたると考えられる。しかし、6次調査A－1区の南側で井戸が掘削されているところをみると、遺構は残されていないが、広い範囲での活動が行われていたことが読みとれよう。また、6次調査C区SK323からの墨書土器の出土や、B・C区での越州窯系青磁、邢窯系白磁、緑釉陶器などの出土は、これまで考えられてきた通り、立花寺B遺跡が官衙的性格を持っているということを補強するものといえよう。

中世期の遺構・遺物は非常に少なかった。中心地は今回の調査地点の北から東にかけて存在するようである。当地は6次調査A－1区でのプラント・オパール分析より、水田として利用されていたと考えられる。

以上をもって立花寺B遺跡4次～6次調査の報告を終わる。しかしながら今回の報告は事実記載にとどまり、古墳時代の集落変遷や須恵器、土師器の編年といった部分にまで考察が及ばなかった。今後の課題としたい。

Tab.81　福岡市内出土子持勾玉一覧

	調査番号	遺跡名	所在地	出土状況	法量（cm）			報告書
					全長	最大	最大幅	
1	－		城南区梅林井の本	単独				
2	－		博多区比恵		[6.6]	[5.8]	2.2	
3	7701	久保園1次	博多区東平尾	住居	8.2	5.3	2.1	市報91集
4	8415	吉武5次	西区飯盛	土坑	6.4	2.6	1.0	市報194集
5	8535	吉武9次	西区吉武	河川				未報告
6	9011	拾六町平田2次	西区石丸	河川	7.3	4.5	2.4	市報349集
7	9677	香椎B3次	東区香椎台	山裾（単独）	[8.8]	5.5	3.0	市報621集
8	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	河川	11.1	5.9	2.4	本書
9	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	河川	[8.1]	5.7	3.6	本書
10	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	谷頭	9.0	5.1	2.1	本書
11	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	谷頭	7.1	4.1	2.1	本書
12	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	谷頭	7.0	4.6	1.4	本書
13	9906	那珂70次	博多区竹下	方形周溝墓溝上層	10.5	5.9	2.8	市報673集
14	0001	元岡・桑原20次	西区元岡	谷頭				未報告
15	0015	三苫5次	東区三苫	住居内ピット				未報告

立花寺B遺跡 2

－都市高速道路５号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第702集

2002年3月5日

発　　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目8-1
☎092－711－4667

印　　刷　株式会社タマキ印刷
福岡市中央区荒津１丁目4-27
☎092－771－1551

RYUGEJI B SITE 2

— Results of the excavation before construction of the Urban EXPWY R.5 —

Report of Archaeologicai Investigations of Fukuoka city, Vol.702

2002

THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY